

皆川 望・大島康臣・中園和年(編)
 「線虫学関連日本文献記事目録：明治12年(1879) - 昭和59年(1984)」
 九州農業試験場研究資料 第67号: xiv + 414 pp. (1986年3月20日発行)

Nozomu MINAGAWA, Yasuomi OHSHIMA and Kazutoshi NAKASONO (compiled)
 "Annotated Bibliography of Nematology in Japan: 1879-1984".
 Misceraneous Publication of the Kyushu National Agricultural Experiment Station, No. 67, xiv + 414 pp. (March, 1986)

【現在ご覧の電子ファイルについて】

- このファイルは、標記冊子の本文(文献目録部分)と一部の凡例(収録範囲)を電子化したものです。
- 印刷された冊子には、このファイルに掲載された本文等のほか、巻頭に序文、凡例等が、巻末に人名索引が掲載されています。
- このファイルに掲載されていない部分は、標記の冊子あるいは冊子体のpdfファイルを参照してください。
 * 冊子巻頭「序」(九州農業試験場長 熊野誠一)、「はじめに」、「目次」、「凡例(配列、目録(記述方法等)等)」、「主要雑誌略称一覧」(略称と正式誌名の対応一覧。当ファイルでは、両方を併記)

【収録範囲】

- 本資料は、植物寄生性線虫を主体に、線虫類の中で人畜寄生性線虫を除く、自活性土壌線虫、淡水線虫、海棲線虫、昆虫寄生性線虫、線形虫類(Nematomorpha またはGordicea)、人体から検出されたRhabditida目線虫に関する文献を含めた。
- 線虫に関する学術論文に限定せず、講演要旨・実用記事・普及記事、主に昭和35年以前に発行された試験研究機関の年報・業務報告類の記事のうち線虫に関するものおよび線虫に言及したもの、線虫以外の土壌害虫等を対象とした殺線虫剤の施用に関する論文、外国論文の抄録(明治期のみ)を収録した。謄写印刷のものは、重要と思われるもののみを載せた。
- 次にあげる文献を収録した。
 - 日本人または外国人による、日本産線虫に関する、国内および海外における発表論文類。
 - 日本人による、海外の線虫に関する、国内および海外における発表論文。
 - 外国人による、海外の線虫に関する、日本国内の刊行物に発表された論文。

年毎文献番号	著者名	発表年	論文タイトル	雑誌略称(雑誌名)、または、出版社(社、機関)および発行地	巻(号): ページ	摘要(参照されている文献番号は、この文献目録に収録された文献の発表年(西暦)の下二桁と発表年毎の文献番号を示す。また、線虫の分類学的位置付等の記述内容は、目録刊行時点(1986年)のものである)
0		1879	明治12年(1879)			
1	松永伍作	1879	蟲類名彙	内務省勸業局	3+109 pp	「アシマトヒ」(江戸時代の虫譜・辞書ではハリガネムシを指す)の見出し語の下に同義語として「サウメンムシ」、「モットヒムシ」を示し、また漢籍における同義語として「線蟲」を「閩小記」(4巻、榑下周亮工撰、康熙間(1662-1722)、頼古堂)から掲げる。見出し語は、平安時代の辞書「伊呂波字類抄」に見えると言う(日本国語大辞典第1巻、小学館、1972)。著者名・発行者名は長谷川(自然、32巻1号、p.18-19、1977)によった。
0		1882	明治15年(1882)			
1	水上実作	1882	大豆萎黄病治法實驗	大日本農會報告	15:20	本病名の初出。線虫記述なし。線虫水溶液を施用。
0		1883	明治16年(1883)			
1	安本徳寛	1883	[東京山林學校「植物病理學」講義録]			この頃、東京山林學校において行つた「植物病理學」の講義録(線虫を含む)は、日野 巖により昭和6年に刊行された。No.31-16を参照。
0		1884	明治17年(1884)			
1	岩川友太郎	1884	生物學語彙	集英堂、東京	2+269+3 pp	Nematoda, Nematodea, Gordius の訳語として、紐虫類、線虫類、線線虫属(ハリガネムシ属)を示す。
2	玉利喜造	1884	「小麦の害蟲豫防法質問」答	大日本農會報告	37: 20-23.	我が国最初の植物寄生性線虫観文。神奈川県武蔵国北多摩郡大田村(現在の東京都東村山市恩多町)の市川幸吉氏の山椒粒(コムギツブセンチュウ)に関する質問に対する回答。病原線虫を「アングイル・トリチイ」と同定。予防法: 種子の精選。No.77-24を参照。
0		1885	明治18年(1885)			
1	岩川友太郎・佐々木忠次郎	1885	動物通解。下冊。	文部省編輯局	7+282 pp.	糸虫類「アングイル」を解説 p.178。線虫類(Gordius, Mermis)の解説 p.179-181。
2	安本徳寛	1885	動物書。	製紙分社、東京	1+2+229+8+3+2 pp.	線虫科として線虫(ハリガネムシ, Gordius aquaticus Duj.)を解説 p.206。
3	佐々木忠次郎	1885	[この頃東京近傍で根線虫(Heterodera radicolica)の発生を確認。]			No.99-1を参照。
0		1886	明治19年(1886)			
1	Anon. (茨城県)	1886	小麦サンセウノ説	茨城縣勸業報告	p. 45-46	雑報(p.45-54)の一として、明治18年同県に発生した小麦不熟の原因の質問に関する農商務省の回答の要領を載せる。原因をAnguilla triticiと同定し、対策として種子の精選・被害粒の焼却・硫黄花の土壌施用等をあげる。No.1887-1が回答の全文と判断される。
0		1887	明治20年(1887)			
1	Anon. (農商務省)	1887	質問應答録。	農商工公報號外		明治19年(同20年の誤り?)茨城県下における山椒粒(コムギツブセンチュウ)発生例を含む。病原線虫を「アングイル・トリチイ」と同定。予防法として種子の精選、被害粒の焼却、硫黄華の土壌混入・収穫時の脱粒に関する注意をあげる(p.49-50)。No.1886-1, 77-24を参照。
0		1888	明治21年(1888)			
1	飯島 魁	1888	人體寄生動物編。	丸善商社、東京	7+11+490+6 pp., 6 pls.	我が国最初の寄生虫学教科書。Tylenchus putrifaciens (=Ditylenchus dipsaci, ナミクキセンチュウ)を解説(p.375)。線虫の概説 p.265-292。
2	高橋得太郎	1888	動物學 下巻。	[不明]	118 pp.	線虫類 Gordiaceaの中にMermisをあげる。発行者、発行地不明。著者名は長谷川 仁氏の教示による。
0		1889	明治22年(1889)			
1	飯島 魁	1889	動物學教科書。	敬業社、東京	11+158 pp.	中学校教科書。はりがねむし(Gordius) p.85-86。
0		1890	明治23年(1890)			
1	五島清太郎	1890	葡萄に寄生する線蟲。	動雑(動物學雑誌)	2(19) 228-229.	ネコブセンチュウ。Strubell, A. (1888) Bibl. Zool. 2: 1-51の抄録。
0		1891	明治24年(1891)			
1	岡田信利	1891	日本動物総目録。	金港堂、東京	17+164 pp.	円虫目は6種。人畜寄生種以外はGordius aquaticusのみ(東京産)。
2	小野孫三郎	1891	重要植物害蟲要説。	横浜貿易新聞社、横浜	5+132 pp.	サンショウムシ(黍線虫=コムギツブセンチュウ)の解説および予防法: 種子の塩水洗、被害株の抜取、被害種の焼却 p.69-71。
0		1892	明治25年(1892)			
1	八田三郎	1892	動物學新書。	富山房、東京	2+6+204 pp., 1 Pl.	[はりがねむし(Gordius)を解説 p.78-79。
0		1894	明治27年(1894)			
1	白井光太郎	1894	植物病理學。下編。	有隣堂、東京	2+3+286+2+5 pp.	線虫 p.283-286。Tylenchus tritici (= Anguina tritici, コムギツブセンチュウ), T. devastatrix, T. hyacinthi, Thavensteini(現在は3種ともDitylenchus dipsaci ナミクキセンチュウのシノニムとされている)、Heterodera radicolica(ネコブセンチュウ)、H.Schachtii (シストセンチュウ)を解説。内容は外国文献の翻訳と思われる。
2	安田 篤	1894	「つるれいし」ニ寄生スル線蟲ニ就テ。	動雑(動物學雑誌)	6(74) 448-451.	我が国における植物寄生性線虫に関する最初の研究論文。Heterodera radicolica(黍線虫=Rübenmattode)と同定。雌成虫・卵・幼虫の形態を報告。過マンガン酸カリ・捕獲植物利用による防除(Kühnからの引用)にふれる。報告されたのはネコブセンチュウであるが、本文中ではシストセンチュウとして生活史を解説している。
0		1895	明治28年(1895)			
1	Camerano, L.	1895	Gordiens nouveaux ou peu connus de Musee d'histoire naturelle de Leyde.	Not. Leyden Mus. (Notes from the Leyden Museum)	17: 1-14.	未見。日本(産地不明)からのハリガネムシの新種 Chordodes silvestri の記載を含む(No.55-13による)。同じ著者により栃木県日光からGordius fulgur Baird, 1861が記録されているが、この論文か？
2	小貫信太郎	1895	節根病。	大日本農會報告	161: 7-19.	Heterodera sp.と同定。研究史、病徴、寄生植物(18種)および生育ステージ別の形態を記載。防除試験(休閑、熱湯、石灰、草束、除虫菊、石油、食塩、松香油、硫酸銅、二硫化炭素の土壌施用)を試みる。寄生植物からサツマイモネコブセンチュウと判断される。
0		1897	明治30年(1897)			
1	Anon.	1897	[佐賀県においてウンカの寄生虫を発見]			No.03-5を参照。
0		1899	明治32年(1899)			
1	佐々木忠次郎	1899	日本作物害蟲編。	敬業社、東京	16+439 pp.	小麦ノ五倍子線虫(分類・形態・被害・予防防除法。山口県下の発生例を含む)p.184-185。甜菜線虫(同前。本邦未発生)p.420-422。根線虫(同前。「東京近傍ニ於テ明治十八九年ノ頃ヨリ発生」同地の寄生植物として20種をあげる)p.424-427。増訂版も線虫の項は異同小。

2	針塚長太郎	1899	「質問応答」答.	農事雑報	15:58	千葉県匝瑳郡野田村(現在の同郡野栄町)の小川市太郎氏からの油葉の黄縮に関する質問に対する回答。「或は子マトーダと称する微細なる寄生虫の害なるならんか、...」と記されているが、線虫以外の病害と思われる。
0		1900	明治33年(1900)			
1	堀 正太郎	1900	作物病害に関する希望及注意.	農業雑誌	25(36) 561-564.	病害の一つとして線虫をあげる。「北陸地方に於ける稲の葉尖稲熱病(方言「つみきれ」、「はぎれ」と称す)は、種線虫心枯病の事か、No.03-2も参照。
2	谷津直秀(抄)	1900	ペロデラ(Pelodera).	動雑(動物学雑誌)	12(142) 301.	Janet. C. Mem. Soc.Zool. Fr. 7: 45-62, 1894(未見)の抄録。
3	Anon.(滋賀農試)	1900	蠟蟲の寄生蟲.	害蟲試験成績	第2報: 69.	二化蠟虫寄生糸片虫を記録、図示(第17回9)。
4	Anon.	1900	「岡山県で小麦粒線虫を発見」			No.17-19を参照。
0		1901	明治34年(1901)			
1	出田 新	1901	實用植物病理學.	裳華房、東京	254+9 pp.	線虫 p.220-226. 小麦の胡麻病: Tylenchus devastatrix. 甜菜の線虫病: Heterodera radicolica の解説及び駆除法. 書評: 農業雑誌 26(21) 317-318.
0		1902	明治35年(1902)			
1	池田栄太郎	1902	桑樹栽培全書.	博文館、東京	5+16+748 pp.	線虫(=線虫): 防除(二硫化炭素他) p.647-648. 本書の記述の元となった報告があると思われるが未詳。
2	渡辺 弘(抄)	1902	海藻に於ける線蟲類のゴール.	動雑(動物学雑誌)	14(166) 302.	E. S. ハートンの論文の抄録. 原者未詳.
3	Anon.(岡山農試)	1902	小麦黍椒病(線蟲病)豫防試験.	岡山農試農事試験成績	2(明治34年度冬作): 84-	種子の希硫酸浸漬、篩選を行う。
0		1903	明治36年(1903)			
1	曾田龍雄	1903	新撰動物學 上巻(帝國百科全書 第97編).	博文館、東京	2+6+254 pp.	線虫類 p.209-214. 形態、分類(Tylenchus tritici, Heterodera Schachtii, Sphaerularia bombi, Gordiaceaの解説を含む)。
2	堀 正太郎	1903	農作物病理學.	成美堂、東京	297 pp.	心枯線虫病を記録 p.111-113. 検出された糸状菌と病原としてPhoma oryzae(新種)と命名・記載. 症状を指す方言として次の語をあげる。「ちよっきり」、「はぎれ」、「はざり」、「はたるじり」(以上新潟)、「はごづきよ」、「あゆのお」(佐渡)、「つみきりねつ」(福井)、「さきがれ」(神奈川)、「白いもち」(鳥根、岡山、香川)、「はたるもち」(岡山)、「さきじろ」(香川)。
3	出田 新	1903	農作物病理學(増訂三版).	裳華房、東京	4+8+236 pp., 3 pls.	小麦の胡麻病(Tylenchus scandens=Anguina tritici, コムギツブセンチュウ) p.196-198; 線虫の形態、予防駆除法(健全種子精選・種子硫酸浸漬・3年の輪作); 珠数病 p.198-201(No.95-2を引用). 輪作他による防除。
4	出田 新	1903	茎線蟲に就きて.	農事雑報	64: 12-14.	大阪府立農学校実習地試作畑のタマネギ腐敗球から検出した線虫(Tylenchus devastatrix = Ditylenchus dipsaci, ナミクセンチュウ)の解説. 内容は主にKühn(1857)からの引用。
5	黒木幾太郎	1903	浮塵子の寄生線蟲.	昆虫世界	7(10) 446.	トビイロウンカ、セジロウンカ等に寄生. 佐賀県産. 明治30年には既に発見されたと言ふ。
6	白井光太郎	1903	最近植物病理學.	嵩山房、東京	2+13+498 pp., 1 pl.	線虫 p.495-497.No.94-1とほぼ同内容. 捕獲植物利用によるHeterodera Schachtii防除法及び休閑、二硫化炭素による土壌燻蒸を追加。
7	Anon.(岡山農試)	1903	小麦黍椒病豫防試験.	岡山農試農事試験成績	4(明治35年冬作): 83-84.	種子の希硫酸浸漬、篩選、塩水選、水選を行う。
0		1904	明治37年(1904)			
1	Anon.(岡山農試)	1904	小麦黍椒病豫防試験.	岡山農試農事試験成績	6(明治36年冬作): 52.	比重1.12の塩水選を勧める。
0		1905	明治38年(1905)			
1	川上瀧彌(訳)	1905	柑橘病害論.	台湾総督府民政部殖産局、台北	3 + 41 pp., pls.	Swingle, W.T. & Webber, H.J. (1896) "Diseases of Citrus Fruites in Florida.", U.S.D.A.Vegetable Phys. and Path. Bull. 8 (原者未見)の翻訳. 萎黄病 Blight としてミカンネセンチュウの被害を紹介. 分布、病徴、柑橘の種類・土地と発病の関係、病原(不明)、予防法(被害株焼棄)を含む。
2	鈴木重礼(抄)	1905	甜菜ト碗豆ト害スル「子マトーダ」ハ一種ナリヤ.	農學會會報	65: 66-67.	シストセンチュウの分類の問題点. Thelen(1904) Deutsche Landw. Pres.Nr.77, p.659(未見)の抄録。
0		1906	明治39年(1906)			
1	石川千代松	1906	農業動物學.	成美堂、東京	3+20+240+16 pp.	硬化虫(Tylenchus), 異線虫(Heterodera) p.144-146.
2	吉野毅一	1906	「粟不稔病を発見」			No.14-6, 16-3, 4を参照。
0		1907	明治40年(1907)			
1	西田 藤次	1907	柑橘病害論.	日本柑橘會、静岡	4+86 pp.	萎黄病(Blight)として米国フロリダ州におけるミカンネセンチュウ被害(当時は原因未解明)の症状、品種との関係、発病しやすい場所等を解説 p.51-55.
0		1909	明治42年(1909)			
1	Cobb, N. A.	1909	「この年、東京市からフシントン市に贈られたサクラ苗木がCobb等の言によつて線虫寄生のため焼却処分された。」			No.60-229, 77-25を参照。
2	辻 暢太郎	1909	新編桑樹栽培法.	嵩山堂、東京	2+1+3+167+45 pp.	昆虫以外の害虫の項に線虫(=線虫)をあげる p.139. 石灰乳、二硫化炭素による駆除。
0		1911	明治44年(1911)			
1	桑名伊之吉・村田藤七	1911	害蟲防除便覧.	大日本農業奨励會、東京	10+148+18 pp.	線虫 p.60. 二硫化炭素による土壌消毒。
2	丹羽四郎	1911	桑の線蟲に就きて.	大日本蚕糸會報	20(237) 7-9.	井上英次郎の研究(未刊)を引用し、線虫(ヘテロデラ属=ネコフセンチュウの一種)の習性経過及び加害の状況を解説. 防除法: 被害苗・株の焼却、生石灰・二硫化炭素による土壌消毒。
0		1912	明治45年・大正元年(1912)			
1	松下禎二	1912	寄生物診断學.	福音舎書店、神戸	2+2+28+74+2+42 pp.	寄生虫学の教科書. 線虫 p.546-569. 科・属の検索表・線虫の図. 植物寄生性・自活性線虫を含む。
2	澤田兼吉	1912	「台湾においてミカンネセンチュウを発見」			No.13-3を参照。
3	吉田貞雄(抄)	1912	擬自由生活線蟲.	動雑(動物学雑誌)	26(305)124-125.	Oxyurus topsentiiについて. Lanc. G.R., Bull. Soc. Zool. Fr. 37, 1912(未見)の抄録。
4	Anon.(長野農試松本分場)	1912	桑樹ノ線蟲調査.	長野農試松本分場 桑樹試験成績	2:223-230, pl. 3-6.	形態、経過ト習性、名称、被害状態、駆除予防法(蔓延防止、農具の消毒、被害 株焼棄、石灰窒素・ホルマリン・石灰・木灰の土壌施用)。
5	Anon.(専売局)	1912	立枯病予防試験其一.	煙草試験成績	12(鹿兒島試験場之部第二報): 111-	「顕微鏡ニ於テハ雑草ノ種子、線虫、...ヲ検出セリ。」ホルマリン、二硫化炭素、石灰窒素、石灰、蒸気等による土壌消毒試験。
0		1913	大正2年(1913)			
1	堀 正太郎	1913	「小麦の虫食い病防除法質問並答」答.	大日本農會報	386: 46-47.	福岡県遠賀郡の藤 耕一氏の「草の実」(コムギツブセンチュウ)に関する質問への回答. 病原をTylenchus tritici と同定. 防除法として早刈り及び種子の塩水選を
2	星野仙之丞	1913	桑樹の害虫線虫に就て.	大日本蚕糸會報	22(263) 30-33.	研究史、分布、症状、発生源、寄主植物. No.14-21に続報。
3	澤田兼吉	1913	柑橘立枯病(予報).	台湾農事報	83: 15-26.	緒言(研究史)、病徴、各地被害状況、苗木養成所の状態及産出苗の移出先に於ける生育状態、柑橘の種類との関係、砒木との関係、土質及土性との関係、乾湿及地下水との関係、本病に関する農民の言(誘因・原因、駆除予防法)、病原の検索(線虫の形態、Heterodera属とは別とする)、結論(予防法を含む)。続報(No.16-10)において同年11月に病原線虫を仮に新属新種Heteroderopsis Citriと命名したとあるが、本報中には見当たらない。同年10月にCobbはアメリカの標本をもとに同一線虫を新属新種Tylenchulus semipenetransと命名・記載(J. Agr. Res. 3(10) 287-288)。現在は後者の学名を使用. 続報No.15-4, 16-10.
4	高橋 郁郎	1913	柑橘栽培.	成美堂書店、東京	2+4+8+452 pp., Pls.	生理的病害の項で萎黄病を解説(No.05-1 から引用) p.419-421.
5	高橋久四郎	1913	實用病虫害大観.	大正書院、東京	2+1+4+36+924 pp., 4 pls., 1口絵	線虫 p.883-884. 健全苗の使用、二硫化炭素による土壌消毒。
6	吉川 宏	1913	「ネマトーダ」に就きて.	日本園芸雑誌	25巻6: 29-32.	Heterodera radicolica(ネコフセンチュウ類)、Tylenchus devastatrix(ナミクセンチュウ)の解説及防除法(焼土法)。
7	吉川 宏	1913	「ネマトーダ」に就きて(其二).	日本園芸雑誌	25巻7: 32-36.	

8	Anon. (専売局)	1913	立枯病予防蒸気消毒試験.	煙草試験成績	14(鹿児島試験場之部 第三報):102-	30分間一回消毒土壌は(線虫を含む)「害虫類ハ全然斃死シ」
0		1914	大正3年(1914)			
1	深谷 徹	1914	実用園芸植物害虫駆除法.	日本園芸研究会、東京	3+569+374 7 pp	ねまとーだ(Heterodera radiculicola = ネコブセンチュウ) p.421-425. 形態、経過習性(生活史)、防除法(被害株除去、ホルマリン・二硫化炭素による土壌消毒、土壌の乾燥を図る).
2	星野仙之丞	1914	桑樹の害虫線虫に就て(承前).	大日本蚕糸会報	23(264) 73-78	No.13-2の続報. 被害の状態、線虫の伝染状態、動物学上の位置(Heterodera radiculicola = ネコブセンチュウ)、形態及び習性(No.95-2、12-4を転載)、駆除予防法.
3	木村重兵衛	1914	桑樹の線虫に就て.	病虫雑(病虫害雑誌)	1(2) 155- 159.	長野県諏訪郡. ネコブセンチュウの形態、生態、駆除予防法(硫黄華・ホルマリン・石灰窒素・木灰汁・石灰乳の土壌施用、農具の消毒、被害株の抜取焼棄等).
4	小林靖次郎(述)	1914	人体寄生線虫類ノ一新種(予報).	東京医事新報	1899: 2571-	Rhabditis hominis と命名. No.15-2 を参照. 命名規約上は本報告が本種の原因記載となる.
5	Mortensen, T.	1914	[この年6月17日に相模湾の深さ約720mから採集された線虫は後にLeptosomatum abyssale と命名された.]			No. 51-2を参照.
6	中野勝善	1914	粟不稔症.	朝鮮農會報(旧)	9巻6: 54.	同年4月発行の熊本県農會報記事(未見)の抄録. 原著はイネシシガレセンチュウの最初の記録. No.16-3, 4を参照.
7	中田覚五郎	1914	朝鮮ニ於ケル甜菜ノ病害.	朝鮮総督府勸業模範場調査報	1: 122- 145.	線虫病(Heterodera schachtii)を記録. 本文は褐斑病、蛇眼病、菌核病の解説.
8	西田藤次	1914	新編柑橘病害と予防法.	嵩山堂、東京	2+3+8+252 pp.	柑橘立枯病を主にNo.13-3を引用して紹介. p. 210-212.
9	野津六兵衛	1914	[桑の線虫害を確認]			No. 40-15. 62-144 を参照.
10	吉川 宏	1914	蒸土法.	日本園芸雑誌	26巻8:1-3.	蒸気消毒法の紹介. Gardners' Chronicle 誌記事(原著未詳)の抄録.
11	中野勝善	1914	粟不稔症.	熊本県農會報	不明	未見. イネシシガレセンチュウの日本最初の記録. No.14-6を参照.
0		1915	大正4年(1915)			
1	堀 正太郎	1915	病害録.	病虫雑(病虫害雑誌)	2(1)927- 932.	本シリーズ第4報. 「線虫の寄生より起こる大豆嫌地病(虫食い病)」を福島県白河より報告. 病原線虫をHeterodera schachtii と同定(内田清之助). 防除法(石灰窒素、二硫化炭素、チリ硝石、窒素肥料の施用)に触れる. ダイズシシガレセンチュウの最初の記録. 朝鮮農會報(旧) 10 巻12: 55-56, 1916 に抄録.
2	小林靖治郎	1915	人臍中に見出さる「ラブリヂチス」に就て.	動雑(動物学雑誌)	27(317) 117-124., pl. 5.	新種Rhabditis hominis を記載. 虫体の構造、寄生虫の分布(茨城県)と其寄主の意味. 此種に関する従来の報告、概括. 本種はその後、Leptodera inermis Schneider, 1866のシノニムとされた(Osche, G. Zool. Jahrb., Jena, abt. Syst. 81,190-280, 1952). 現在はRhitis inermis (Schneider, 1866) Andrassy, 1983のシノニムとされている(Andrassy, I. A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentia). ORSTOM, Paris, p. 141, 1983). No.14-4, 15-3, 20-2 も参照.
3	小林靖治郎	1915	人臍中に見出サル「ラブリヂチス」ニ就テ.	細菌学雑誌	232: 107- 116.	No.15-2と類似の内容.
4	澤田兼吉	1915	北米合衆国に於ける柑橘立枯病々原説.	台湾農事報	98:9-15.	Hodges(1913), Thormas(1913), Cobb(1914) の研究を紹介. 台湾の病原線虫と同じとする. No.13-3, 16-10 を参照.
5	角田藤次郎	1915	稲の黒糊病に就て.	病虫雑(病虫害雑誌)	2(3)214- 218.	病状、病原線虫、予防法(種子の塩水選). イネセンチュウシシガレ病及び病原線虫の最初の報告.
6	Anon. (京都農試)	1915	ゴールデンメロン新病害予防二開スル試験.	京都農試業務功程	大3: 46- 47.	線虫記述無し. 土壌消毒、種子消毒試験.
0		1916	大正5年(1916)			
1	原 拱祐	1916	果樹病害論.	日本柑橘会、静岡	28+506+32 pp.	根線虫病(Heterodera radiculicola) p.494-496; 被害植物(梨、葡萄)、病徴、病原虫、駆除予防法(被害株抜取焼却、被害株のまわりに溝、石灰窒素・ホルマリンによる土壌消毒、麦との輪作).
2	石川滝太郎	1916	大正四年中県下に発生せる主要病虫害.	病虫雑(病虫害雑誌)	3(3) 196- 200.	新潟県. 大豆月夜病を含む. 石灰、石灰窒素、木灰等は効果なし.
3	中野勝善	1916	粟不稔病(一名紫穂病)に就いて(1).	病虫雑(病虫害雑誌)	3(1)33-36.	熊本に発生. 明治39年発見(吉野毅一). 病徴、病原(Tylenchus 属線虫と同定)及びその形態.
4	中野勝善	1916	粟不稔病(一名紫穂病)に就いて(2).	病虫雑(病虫害雑誌)	3(2)109- 115.	発病粟の生育調査(含被害)、接種試験、薬剤防除試験(ナフタリン、青酸加里、温湯、二硫化炭素、硫酸、硫酸加里、硫酸鉄、硫酸銅、冷水温湯への種子浸漬又は種子蒸)、予防法等.
5	名和梅吉	1916	桑「スキ」虫の駆除予防法に就て.	蚕業新報	24(277) 30-36.	「一種の線虫寄生の爲め甚だ多く斃死するものあるを見たり」
6	新渡戸福雄	1916	柑橘害虫調査報告.	台湾総督府農試出版	89: 2+210+75 pp., pls.	みかんせんちゆ(Tylenchulus semipenetrans) p.200-202. 分布に日本を含める. 台湾は「全島至ル所ニ産ス」
7	丹羽四郎	1916	実用桑樹病虫害駆除法.	大日本蚕糸会、東京	3+8+142 pp.	根・線虫(Heterodera radiculicola) p.137-139. 被害、予防法、駆除法:被害根の除去焼却、捕獲植物の利用.
8	奥沢留三郎	1916	農作物害敵防除法.	前橋印刷所、前橋	4+23+300+ 27 pp., Pls. (29 図).	根線虫 P.209-210. 生活史、防除(被害株除去、石灰窒素、二硫化炭素、ホルマリン、硫黄華、連作を避ける).
9	向坂幾三郎	1916	小麦の胡椒病.	朝鮮総督府勸業模範場報告	10:143- 146, 1 Pl	Tylenchus scandens と同定. 病徴、線虫の移動能力、種子の塩水選・篩選、生活史.
10	澤田兼吉	1916	柑橘立枯病の病原虫及其予防法の一部.	台湾農事報	114:10-32.	病徴、病原虫(Tylenchulus semipenetrans と同定、ミカンノセンチュウの和名を提唱)の形態、生活史、寄主植物、分布(台湾以外に静岡・熱海・長崎・鹿児島県喜界島・岡山からも記録)、接種試験、伝播方法(苗木、水、農具、人畜等)、誘因及び素因(柑橘の種類、土性及地質、肥料及管理、暴風雨)、駆除予防法(乾燥、冷却、木灰・生石灰・炭酸加里・「バリスグリーン」、青酸加里水溶液、石灰炭酸石灰合剤施用). 線虫の寄生状態および各发育ステージの図を含む. No.13-3, 15-4を参照.
11	島口金之助	1916	大豆月夜病発生.	大日本農會報	423: 29.	新潟県中魚沼郡正面ヶ原一帯. 原因不明.
12	鈴木誠一	1916	硫黄の殺菌駆虫剤録(其二).	病虫雑(病虫害雑誌)	3(3) 188- 192.	「ねまとうだ」(Heterodera radiculicola) に対する施用法を含む.
13	高橋 奨	1916	普通作物の害虫.	裳華房、東京	1+2+5+246 +8 pp.	根瘤虫 Heterodera sp., p. 246. 「大豆其他の作物に寄生して、弥地病の如く黄褐色に枯死せしめるもの」、石灰窒素、硫黄華による防除.
14	滝元清透	1916	朝鮮に発生する主なる病害.	病虫雑(病虫害雑誌)	3(1)28-30.	「小麦の胡椒病は黄海道地方に発生せり」
15	Anon.	1916	麦類黄変と織虫.	大日本農會報	420: 82.	岐阜県揖斐郡池田村において名和梅吉氏が発見. 病虫害雑誌 3(5)420, 1916に大阪朝日新聞を引用した同種記載.
16	Anon. (京都農試)	1916	ゴールデンメロン新病害予防試験.	京都農試業務功程	大4: 48-49.	大麦の葉鞘中に線虫を発見. 土壌消毒試験(石灰、石灰窒素、二硫化炭素、ホルマリン、硫黄、煨き土、木灰、ニ斗式ボルドウ、蒸気消毒)及び肥料多用試験を行う. 病虫害雑誌 4(10) 789-790, 1917に再録.
17	Anon. (新潟農試)	1916	大豆月夜病二開スル試験.	新潟農試事業報告	大4: 150- 151.	根部に「ネマトーダ」の寄生を認めた.
18	Anon. (京都農試)	1916	小麦線虫病予防試験.	京都農試業務功程	大4: 146- 149.	病原線虫を「チレンクス・スカンデンス」(コムギツブセンチュウのシノニム)と同定. 土壌消毒及び播種期の移動による防除を試験. 病虫害雑誌 3(10) 812-814, (11) 892-894, 1916に再録.
19	Anon. (専売局)	1916	蒸気応用立枯病予防試験.	煙草試験成績	21:153- 156.	薬野試験場成績. 消毒時間と線虫寄生程度を含む.
0		1917	大正6年(1917)			
1	Cobb, N. A.	1917	The mononchs (Mononchus Bastian, 1866). A genus of free-living predatory nematodes (Contribution to a science of nematology VI).	Soil Sci. (Soil Science)	3(5)431- 486.	Contribution to a science of nematology, p. 129-187 に相当. Mononchus japonicus を新種として記載. 模式産地は横浜. 本種は後にMononchus (Mylonchulus) obliquus, var. microdentulatus f. typicus sf. japonicus とされ(Micoletzky, H. Arch. Naturg., Berlin Abt.A 87(8/9) 1921-1922). さらにMononchus (Mylonchulus) obliquus Cobb, 1917 のシノニムとされた(Andrassy, I. Ann. Hist. Natr. Mus. Nat. Hungar. 50(n.s. 9) 151-171, 1958). 最近ではspecies inquirenda として扱われている(Jairajpuri, M. S., Nematologica 16(3) 434-456, 1970).

2	堀江 浩	1917	麦酒用大麦病原の原因発見.	関西農報	41: 11.	ゴールデンメロン種「テイレンクス スカンデンス」(コムギツセンチュウの異名)と同定. 防除法に言及. 京都農試の成績を紹介.
3	河原 高	1917	線虫に就いて.	病虫雑(病虫害雑誌)	4(4)254-259	研究史、形態、作物への害、駆除、天敵(糸状菌)、分類の概説.
4	西田藤次	1917	線虫による作物病害.	園芸の友	13(4)354-357	線虫の分類、植物寄生性線虫の解説(小麦線虫、萎縮病、根線虫、ミカンノセンチュウ).
5	西田藤次	1917	作物を害する線虫.	園芸の友	13(12)1063-1068.	外国の研究の紹介. 防除法(輪作、土壌消毒:ホルマリン、トルオール、二硫化炭素、ナフタリン; 球根の温湯処理).
6	西川 砂	1917	桑根線虫に就て.	養蚕新報	25(297)28-35.	根線虫研究の沿革. 桑根線虫発見又は研究の沿革. 動物学上の位置、形態. 加害状況. 駆除予防法(試験結果でなく各種の方法の紹介). 雄成虫として図示・解説されたのはXiphinema 属線虫(X. bakeri?)の雌成虫及び幼虫.
7	西川 砂	1917	桑根線虫に就て.	大日本蚕糸会報	26(31)27-32.	No.17-6と同内容.
8	島根SM生	1917	大豆の病害に就て.	病虫雑(病虫害雑誌)	4(3)240.	北海道の三保正三氏の質問に対する回答. 石灰窒素による線虫防除を含む.
9	高橋勝太郎	1917	農作物病害検査表(2).	病虫雑(病虫害雑誌)	4(5)357-362.	麦類: 萎縮病、胡麻病を含む.
10	武田藤吉	1917	麦の萎縮の種類及其の防除法に就て.	病虫雑(病虫害雑誌)	4(1)852-854.	萎縮病: 京都のゴールデンメロン大麦にも発生(No.17-2を参照). 石灰窒素により防除.
11	立山山人(抄)	1917	柑橘類の線虫.	日本園芸雑誌	29巻10: 65.	ミカンノセンチュウ. Cobb, N.A., J. Agr. Res. 11:217-239, 1914の抄録.
12	Anon.	1917	線虫の蔓延.	病虫雑(病虫害雑誌)	4(5)406.	石川・島根県の桑.
13	Anon.	1917	田虫研究の前途無限大.	大日本農會報	428, 90.	万朝報掲載記事からCobbの研究を紹介.
14	Anon.	1917	質疑応答.	病虫雑(病虫害雑誌)	4(11) 909.	栃木の内田太造氏の質問への回答. 麦の萎縮の原因及其の防除法: 線虫の被害であるなら、石灰窒素施用3週間位後に播種.
15	Anon. (農商務省農事試)	1917	稲黒初病(新称)に関する調査.	農商務省農事試事務功程	大2-4: 64-65	熊本地方の稲の病初中より線虫を発見. 被害大. 防除法未発見. 病虫害雑誌 4(11)863, 1917に再録.
16	Anon. (農商務省農事試)	1917	粟不稔病(新称)に関する調査.	農商務省農事試事務功程	大2-4: 66-68.	小麦の虫とは別. 稲黒初病虫により発病. 種子の硫酸銅溶液浸漬が有効. 病虫害雑誌4(10)790-791, 1917に再録.
17	Anon. (京都農試)	1917	ゴールデンメロン線虫予防試験.	京都農試業務功程	大5: 55-56.	土壌消毒(二硫化炭素、石灰窒素他)、種子消毒、施肥試験.
18	Anon. (新潟農試)	1917	大豆病害ニ関スル試験.	新潟農試事業報告	大5: 220-222.	「『ヘテロデラ・ラヂシコラ』ニ非ラザルガ如シ」
19	Anon. (岡山農試)	1917	小麦線虫病予防試験.	岡山農試業務功程	大5: 188.	石灰、石灰窒素による土壌消毒. 播種期を遅らせる事による予防効果の試験. 同県では明治33年には本病の発生が知られていたと云う. 病虫害雑誌4(11)875, 1917に再録.
0		1918	大正7年(1918)			
1	甘利 進一	1918	桑の害虫. In: 桑に関する講習筆記.	鶴田定平・川崎昌隆刊. 東京.	p.225-254.	桑の線虫(Heterodera radicola)の解説(分類、形態、被害症状、駆除予防法)を含む.
2	ト蔵梅之丞	1918	四月の病害防除.	病虫雑(病虫害雑誌)	5(4) 324-329.	豆類: 木灰を十分に施して栽培すれば弥地病を防ぐ. 線虫記述なし.
3	ト蔵梅之丞	1918	九月の病害防除.	病虫雑(病虫害雑誌)	5(9) 768-772.	エンドウ、蚕豆の弥地病の予防: 石灰或は木灰を土壌施用.
4	飯島 魁	1918	動物学提要.	大日本図書、東京.	18+950+30 pp.	線虫, p. 382-390. 自活性および植物寄生性線虫4種、昆虫寄生性線虫1種.
5	村田寿太郎	1918	大正六年長野県下に発生せる主な病害虫(2).	病虫雑(病虫害雑誌)	5(3) 201-204.	「大豆の弥地病南北佐久郡に多し」
6	長倉快一郎	1918	植物寄生線虫類の一種ヘテロデラ・ラヂシコラの生活史に就て.	病虫雑(病虫害雑誌)	5(3)187-189. 口絵.	線虫の发育経過図解.
7	長倉快一郎	1918	「ヘテロデラ・ラヂシコラ」の解剖及生活史に就て(1).	動雑(動物学雑誌)	30 (355)199-244.	緒言、材料及び実験法、雌の構造.
8	長倉快一郎	1918	「ヘテロデラ・ラヂシコラ」の解剖及生活史に就て(2).	動雑(動物学雑誌)	30 (356)253-255.	雌の構造: 表皮、頭冠、泌尿器、筋肉、神経系、体腔.
9	長倉快一郎	1918	「ヘテロデラ・ラヂシコラ」の解剖及生活史に就て(3).	動雑(動物学雑誌)	30 (357)296-300.	雌の構造: 口刺、消化器、生殖器、卵囊.
10	長倉快一郎	1918	「ヘテロデラ・ラヂシコラ」の解剖及生活史に就て(4).	動雑(動物学雑誌)	30 (358)331-339.	雄の構造: 外形、表皮、頭冠、泌尿器、筋肉、神経、体腔、口刺、消化器、生殖器、精虫の形成.
11	長倉快一郎	1918	「ヘテロデラ・ラヂシコラ」の解剖及生活史に就て(5).	動雑(動物学雑誌)	30 (360)413-421.	卵中発生、孵化後の生活史.
12	野津六兵衛	1918	桑の線虫駆除に就いて.	病虫雑(病虫害雑誌)	5(1)15-19.	桑苗、成木、圃場処理. 島根県農試77年記念報 No.5, p.24, 1953に抄録.
13	Anon.	1918	質疑応答.	病虫雑(病虫害雑誌)	5(9)773.	メイチュウ及びウツカノ天敵について(福島県の橋本周輔氏の質問): ウツカノ成虫の寄生虫(ネマトーダ)を含む.
14	Anon.	1918	線虫の駆除法.	病虫雑(病虫害雑誌)	5(8)690.	桑苗の温湯処理(60°C1分間). 静岡新報より転載.
15	Anon.	1918	小麦胡椒病予防法.	朝鮮農會報(旧)	13巻8:58-59.	大正7年6月22日官通第百四号(農商工部長官より各道長官宛). 無被害種子の使用及び種子選別. 植物属線虫の一種が原因とする.
16	Anon. (農商務省農事試)	1918	粟不稔病試験.	農商務省農事試事務功程	大5: 67-68.	土壌消毒(ホルマリン、石灰窒素、二硫化炭素、焼土)、施肥改善. 病虫害雑誌 6(1)75, 1919に再録.
17	Anon. (京都農試)	1918	大麦ゴールデンメロン線虫病予防試験.	京都農試業務功程	大6: 57.	土壌消毒(ホルマリン、石灰窒素、二硫化炭素、焼土)、施肥改善. 病虫害雑誌 6(1)75, 1919に再録.
18	Anon. (島根農試)	1918	桑線虫駆除試験.	病虫雑(病虫害雑誌)	5(7) 561.	大正6年度業務功程(未見)より転載. 蒸気消毒、焼土、日乾(土壌). 堆肥多用は効果あり. 石灰窒素、二硫化炭素、生石灰、木灰は効果なし.
0		1919	大正8年(1919)			
1	金野敬三	1919	菊の病虫に就て.	日本園芸雑誌	31巻 10:11-16.	根線虫を含む
2	勝藤孝一	1919	"Yellow dwarf", a new nematode disease of soy bean.	日植病報(日本植物病理学会報)	1(2)12-16	北海道における研究. 病徴(萎縮病と命名. No.1882-1も参照). 病原(Heterodera schachtii)、大豆寄生線虫(含ネコブセンチュウ)の国内・国外における研究史、分布(北海道内)、寄主(大豆、小豆、菜豆).
3	長倉快一郎	1919	線虫の解剖及生活史に就て(1).	病虫雑(病虫害雑誌)	6(2)105-111.	以下の6報はNo.18-7, 8, 9, 10, 11の再録. 緒言、材料及び実験法、雌の構造: 表皮、頭冠.
4	長倉快一郎	1919	線虫の解剖及生活史に就て(2).	病虫雑(病虫害雑誌)	6(3)193-197.	雌の構造: 泌尿器、筋肉、神経系、体腔、口刺、消化器.
5	長倉快一郎	1919	線虫の解剖及生活史に就て(3).	病虫雑(病虫害雑誌)	6(4)263-269.	雌の構造: 生殖器、卵の形成、卵囊. 雄の構造: 外見、表皮、頭冠、泌尿器、筋肉.
6	長倉快一郎	1919	線虫の解剖及生活史に就て(4).	病虫雑(病虫害雑誌)	6(5)347-351.	雄の構造: 神経系、体腔、口刺、消化器、生殖器、精虫の形成.
7	長倉快一郎	1919	線虫の解剖及生活史に就て(5).	病虫雑(病虫害雑誌)	6(6)433-437.	卵、第一期幼虫(第二期幼虫のこと)の形態.
8	長倉快一郎	1919	線虫の解剖及生活史に就て(6).	病虫雑(病虫害雑誌)	6(7)511-514.	中間の幼虫(第二期幼虫のこと)、雌虫の第二期幼虫及成虫、雄虫の第二期幼虫及成虫.
9	西川 砂	1919	家畜の害虫に関する研究(前々号の続き).	養蚕新報	27(392) 244-251.	糸状虫の記録(沿革、分類学上の位置、形態、経過習性、加害状況)を含む.]
10	田中長三郎	1919	米国の植病行政.	病虫雑(病虫害雑誌)	6(1)6-9.	Cobbに言及.
11	Anon. (農商務省農事試)	1919	粟不稔病原線虫ノ移動試験.	農商務省農事試事務功程	大6: 59.	休眠、移動観察.
12	Anon. (朝鮮総督府水原勸業模範場)	1919	害虫に関する調査.	朝鮮総督府水原勸業模範場研究報告	3: 57-62.	小麦粒線虫を発見.
13	Anon. (新潟農試)	1919	大豆病害試験.	新潟農試事業報告	大6: 258-259.	「ネマトウダ」ニ就テハ目下研究中.
14	Anon. (新潟農試)	1919	大豆病害試験.	新潟農試事業報告	大7: 155-158.	「大豆根部ニ寄生スル線虫ハ白菜ニ寄生セズ」
15	Anon. (新潟農試)	1919	大豆病害試験.	新潟農試事業報告	大7: 210-215.	大豆月夜病! 本病ハ根部ヲ侵スネマトウダ及地際部ヲ侵ス豆潜蝨及立枯病(下枯病)白紋羽病等ノ発生ニヨリ増大ス.
16	Anon. (岡山農試)	1919	小麦線虫病予防試験.	岡山農試業務功程	大7: 138-139.	石灰施用、遅播による予防. 病虫害雑誌 7(10) 582, 1920に再録.
17	Anon. (島根農試)	1919	線虫駆除試験.	島根農試業務功程	大7: 10-11.	青酸方、二硫化炭素の被害株・蒸は効果なし. 60°C 30-60秒の温湯冷水浸は効果あり. 病虫害雑誌 6(8)722, 1919に再録.
0		1920	大正9年(1920)			

1	原 正三郎	1920	桑の線虫 (Heterodera radiculicola Greeff) 駆除に関する試験。	愛知県原蚕種製造所報告	7: 181-189.	根のホルマリン、石灰水、煙草煎汁浸漬、肉眼による根・除去、植付時の消石灰施用は効果なし。苗の温湯浸漬は効果あり。愛知畜試要報 1: 4-5, 1927 に抄録。
2	小林晴治郎	1920	On a new species of rhabditoid worms found in the human intestine.	J. Parasit. (Journal of Parasitology)	6, 148-151, pl.13.	Rhabditis hominis を新種として記載。命名規約上は No.14-4 が原記載となる。No. 15-2, 3 にも同様に記事があるが、これらも原記載ではない。
3	渡辺 弘	1920	虫卵培養試験中の患者糞便に現はれたるラブリチスの一様種に就て。	動雑 (動物学雑誌)	32(386) 388-395.	新種 Rhabditis faecalis を記載。本種は R. hominis Kobayashi, 1915 のシノニムとされた (Skryabin, K. I. et al. In: Opredelitel' Paraziticheski h Nematod 4. Izdatel. Akad. Nauk SSSR, Moskva, 1954)。現在は Rhitis inermis (Schneider, 1866) Andrassy, 1983 のシノニムとされている (Andrassy, I. A taxonomi c review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentia). ORSTOM, Paris, p. 141, 1983)
4	Anon. (千葉農試)	1920	促成用胡瓜ネマトーダ防除試験 (安房郡滝田村)。	千葉農試業務報告	大7 :17.	焼土、石灰窒素は有効、硫黄華は効果なし。
5	Anon. (新潟農試)	1920	大豆日夜病予防試験。	新潟農試事業報告	大8 :162-164.	窒素、石灰の施用により、ある程度まで改善。
6	Anon. (新潟農試)	1920	大豆病害防除試験。	新潟農試事業報告	大8 :233-238.	肥料の種類及び施用量、深耕、乾燥、薬剤施用 (石灰硫黄合剤、ナフタリン、硫黄華等) と大豆日夜病発生との関係。
7	Anon. (島根農試)	1920	桑線虫駆除試験。	島根農試業務報告	大8 :21-22.	苗木の温湯処理 (60°C に30-60 秒)。病虫害雑誌 7(9)532, 1920 に再録。
0		1921	大正10年 (1921)			
1	ト 威梅之丞	1921	種苗に因て伝播する病害及び本邦種苗産地に於ける病害の蔓延の現状。	病虫雑 (病虫害雑誌)	8(11)551-561.	麦線虫:九州地方及び茨城県に多し。同誌 9(9)477-486, 1922 にも同様に記事。
2	伊藤誠哉	1921	大豆萎黄病に関する調査。	北海道農試報 (北海道農業試験場報告)	11:47-59.	名称、分布、線虫の形態、研究史、被害植物及び品種、誘因、防除法。病虫害雑誌 9(2)101-105, (3)147-153, 1922 に再録。
3	三浦道哉	1921	満州主要農作物の病害。	南満鉄農試彙報	11:1-56.	大豆の萎黄病 (Heterodera schachtii) p. 27-28
4	末松直次	1921	麦の萎縮病に就て。	農学会報	224: 315-319.	病原線虫を Cephalobus 属と断定。線虫の計測値を示す。
5	田中友右衛門	1921	大豆線虫 (仮称) に就て。	病虫雑 (病虫害雑誌)	8(11)551-553.	茨城県。形態及び防除法。
6	Anon. (千葉農試)	1921	促成用胡瓜ネマトーダ防除試験。	千葉農試業務報告	大9 :24.	硫黄華、石灰窒素は大量に施用すれば効果あり。病虫害雑誌 9(1) 48, 1922 に再録。
7	Anon. (熊本農試)	1921	粟・品種ト白髮病不稔病ノ関係試験。	熊本農試業務功報	大8 :32-34.	25品種を比較。
8	Anon. (新潟農試)	1921	大豆病害試験。	新潟農試事業報告	大9 :49-51.	窒素質肥料、堆肥施用と日夜病との関係。
9	Anon. (新潟農試)	1921	大豆病害防除試験。	新潟農試事業報告	大9 :60.	前年と同様試験。No.20-6を参照。
10	Anon. (島根農試)	1921	桑線虫駆除試験。	島根農試業務報告	大9 :126-129.	土壌への石灰窒素、二酸化炭素、堆肥施用。苗木の温湯浸漬。病虫害雑誌 9(5)266-269, 1922 に再録。
0		1922	大正11年 (1922)			
1	山内為寿	1922	桑蚕・桑葉 虫類線虫病の記。	佐久良会雑誌	11:35-47.	発見の経緯 (カイク、クワノメイガ、スカシノメイガ)、分布、寄生割合、寄生の時期、桑の品種、寄生虫の宿主を離るゝ時、宿主一頭に付寄生虫数、寄生虫の形及び大きさ、体色、宿主に於ける位置、宿主から出る場所、宿主から離れた後の行動。
2	Anon. (新潟農試)	1922	大豆日夜病試験。	新潟農試事業報告	大10 :47-48.	石灰硫黄合剤、ナフタリン、硫黄華の土壌施用。肥料の種類と発病の関係。
3	Anon. (島根農試)	1922	種苗の病害虫。	島根農試臨時要報 (島根県農業試験場臨時要報)	25:1-156, 4 pls.	桑の線虫: p.41-44, pl.3, fig.7.
4	Anon. (島根農試)	1922	桑線虫駆除試験。	島根農試業務報告	大10 :153-160.	圃場処理 (石灰窒素、二酸化炭素)、被害苗木処理 (石灰硫黄合剤、温湯浸漬)、抵抗性品種。病虫害雑誌 10(5)285-289, 1923 に再録。
5	渡辺 弘	1922	(On two cases of Rhabditis infection)	日本消化器病学会雑誌	17: 75-84.	未見 (冊子体目録に未収録の文献)
0		1923	大正12年 (1923)			
1	堀 正太郎	1923	主要農作物及農産物の病害虫の統計。	病虫雑 (病虫害雑誌)	10(11)479-492.	桑線虫は局所的。
2	西田順一郎	1923	農作物病虫防除要覧。	今泉書店、弘前	1+9, 203 (汎論)+200 (各論) pp., 5 pls.	大豆根線虫 Heterodera schachtii p.96-97 (各論)。
3	山内為寿	1923	線形虫病の記補遺	佐久良会雑誌	13:94-97.	発生の時期、宿主一頭に付寄生虫数、宿主昆虫の大きさ・種類、宿主からの離脱。
4	Anon. (福岡農試)	1923	麦ノ萎縮病ニ関スル試験。	福岡農試業務年報	大11 :116.	「病小麦ノ葉鞘中ニ線虫ノ一種ヲ発見セリ」
5	Anon. (宮崎農試)	1923	葱萎縮病ニ関スル試験。	宮崎農試業務功報	大11 :67-68.	「Tylenchus devastatrix 二種似ノ線虫組織内に蠢動スルヲ認メタリ」
6	Anon. (島根農試)	1923	桑線虫駆除試験。	島根農試業務報告	大11 :144.	タイトルのみ。
0		1924	大正13年 (1924)			
1	石川滝太郎	1924	実験害虫駆除防除総説。	覚長堂書店、長岡	3+6+161 pp., 29 pls.	円虫類、p.21 葱菜(とうさ)線虫 (Heterodera radiculicola=ネコブセンチュウ)、小麦線虫 (Tylenchus tritici=コムギツブセンチュウ)。
2	三箇 功	1924	大豆の栽培。	南満鉄農試農務課産業資料	其の20, 2+20+510 pp., 14 pls.	大豆萎黄病 p.414-415.
3	山内為寿	1924	桑蛾類線形虫病の記。	佐久良会雑誌	15:69-81.	緒言、溯源 (研究史:最初の発見は明治35年静岡県磐田郡光明村)、分布 (18府県)、各地の寄生割合、寄生割合、線虫の嚙型、土壌での生存。
4	Anon.	1924	[質疑応答]	日本園芸雑誌	36巻 :164	「ベコニア栽培と焼き土に関する東京府村上華谷氏からの質問への回答。『我邦の如き小虫ネマトウダ虫の存在することの多き土壌……』とある。
5	Anon. (福岡農試)	1924	麦ノ萎縮病予防試験。	福岡農試業務年報	大12 :203-207.	土壌、種子消毒。
6	Anon. (岩手農試)	1924	連作耐抗性品種比較試験。	岩手農試業務功報	大11 :47-48.	大豆。線虫記述なし。7品種を供試。
7	Anon. (宮崎農試)	1924	葱萎縮病ニ関スル試験。	宮崎農試業務功報	大12 :85-86.	線虫駆除のため石灰、二酸化炭素、ホルマリン、石灰硫黄合剤、石灰窒素を用いて土壌消毒。
0		1925	大正14年 (1925)			
1	青山哲四郎	1925	朝鮮輸移出入植物に就て。	大日本農会報	531:41-44.	移出桑苗 1,800万本中20万8千本はネマトーダ (Heterodera radiculicola=ネコブセンチュウ) 被害のため門司植物検査所で焼却。
2	原 撰祐	1925	実用植物病学。	養賢堂、東京	6+16+594+11 pp.	福黒粉病 p.52-53, 小麦線虫病 p.92-95, 粟不稔病 p.105-106, 大豆萎黄病 p.108-111.
3	石川滝太郎	1925	昆虫以外の害虫虫に就て。	病虫雑 (病虫害雑誌)	12(9)497-508.	植物寄生線虫3種、昆虫寄生針金虫を含む。
4	金野敬三	1925	「クロールピクリン」の土壌消毒効果に就て	病虫雑 (病虫害雑誌)	12(1)40-43.	線虫記述なし。ショウガ立枯病に対する効果。
5	桑山 寛・栗林数衛・大島喜四郎	1925	甜菜の病害虫と其の防除法。	北海道農試彙報 (北海道農業試験場彙報)	36: 61-65.	線虫を含む。
6	野津六兵衛	1925	桑線虫問題の対策。	島根農試業務報告 (島根県農業試験場彙報)	183: 8-9.	当面の対策 (有機物施用、永久の対策 (抵抗性砧木の選抜)。
7	清水三郎・原 撰祐	1925	静岡県に於ける蒔蒔。	静岡県園芸会、静岡	2+108 pp., 6 pls.	根線虫 p.81-82: 病徴、病原、防除法 (無被害の種薯使用、石灰窒素・二酸化炭素による土壌・蒸等)。
8	横山桐郎	1925	桑ノ野蠶蛾ノ研究(1)。	蚕試報 (蚕糸試験場彙報)	7(1)1-63, 3 pls.	自然敵の内に次の記録。「一種ノ線虫ハ本種ノ幼虫ニ寄生シテ之ヲ斃ス事ヲ知リ。」 p. 56.
9	Anon. (青森農試)	1925	病虫害ノ駆除試験及調査。	青森農試業務報告	大11 :18-19.	「大豆ノ子ネマトーダ」駆除ニ関スル成績……」
10	Anon. (青森農試)	1925	病虫害ノ駆除試験及調査。	青森農試業務年報	大12 :20-21.	「大豆ノ線虫駆除予防ニ関スル試験……ヲ施行セリ」
11	Anon. (青森農試)	1925	病虫害ノ駆除試験及調査。	青森農試業務年報	大13 :37-38.	「大豆線 虫駆除予防試験……ヲ施行セリ」
12	Anon. (千葉農試)	1925	西瓜ネマトーダ防除試験。	千葉農試業務功報	大13 :21.	「焼土区最モ優リクロール石灰区、ホルマリン区稍良好、ウズブルン区モ劣レルノ成績ヲ示シタル。」
13	Anon. (千葉農試)	1925	麥ネマトーダ予防ニ関スル試験。	千葉農試業務功報	大13 :80.	「無機質肥料ヲ使用スルカ速効性窒素質肥料ヲ追肥トシテ十二月月中旬ニ施用セルモノノ結果 良好」
14	Anon. (茨城農試)	1925	茄子連作試験 (三年目)。	茨城農試業務功報	大12 :100-102.	「根ヲ検スルニ何レモネマトーダ (線虫) ノ寄生シ殊ニ生育不良ノモノニシテ甚キヲ発見セリ」と記す。

15	Anon. (宮崎農試)	1925	葱萎縮病二回スル防除試験.	宮崎農試業務功程	大13:129.	軟白部に線虫を認める.
16	Anon. (記者)	1925	[質疑応答].	日本園芸雑誌	37巻7:25-26.	東京府佐藤氏からのグラジオラスのネマトーダに関する質問への回答. 標本のネマトーダは「死物寄生(?)」であるため球根腐敗の原因は他にあるとする.
0		1926	大正15年・昭和元年(1926)			
1	江口 貴	1926	甜菜害虫シロオビノメイガに関する研究.	朝鮮総督府勸業模範場彙報	特2: 1-23, 4 pls.	天敵として線虫の一種をあげる.
2	古市末雄	1926	蔬菜栽培要義.	東京農業大学出版部, 東京	11+310 pp	害虫の項に線虫を記した作物は次の通り. ナス p.7, トマト p.12, カボチャ p.35, コボウ p.199, ニンジン p.208, ナガイモ類 p.222. 防除法に関する記述なし.
3	栗原清文	1926	毒の栽培と母ジャムの作り方.	農及園(農業及園芸)	1巻6:49-55.	「苗を求めるとき注意してネマトーダの侵入しない様にならねばならない」.
4	桑山 覚	1926	大豆の害虫と其の防除法、付録、大豆の線虫.	北海道農試彙報(北海道農業試験場彙報)	39:89-94.	Heterodera schachtii Schmidtを含む.
5	清水三郎	1926	蕃茄の抑制栽培.	農及園(農業及園芸)	1巻3:38-42.	病害虫の一つとして根線虫病をあげる. ホルマリンによる土壌消毒.
6	Steiner, G. & Hoeppli, R.	1926	Studies on the exoskeleton of some Japanese marine nemas.	Arch. Schiffs- und Tropenhyg. (Archiv für Schiffs- und Tropenhygiene, Pathologie und Therapie exotischer Krankheiten)	30(9) 547-576, 2 pls.	神戸近くのJoshi Island(未詳)において Gordon Smith氏の採集した海棲線虫4種の記載および表皮の形態の研究. 記載されたのは次の種類. Acanthopharynx japonicus (新種, 現在 A. japonica), Croconema mammillatum (新種, 同Desmodora (Croconema) mammillata (Steiner & Hoeppli, 1926) Gerlach, 1963), Euechmadoria archaica (新種, 同Steineridoria archaica (Steiner & Hoeppli, 1926) Inglis, 1969), Dicroconema tenuis(新属新種, 同D. tenue).
7	田畑清光	1926	煙草栽培に関する二三の重要事項.	大日本農会報	545: 1-11.	線虫記述なし. 苗床の蒸気消毒施設を紹介.
8	植原外三	1926	芍薬栽培法.	農及園(農業及園芸)	1巻 5:30-38.	病害の一つとして線虫によるルートゴールをあげる.
9	吉田和吉	1926	桑樹の根腐線虫に就ての私見.	大日本蚕糸会報	35(418)1440-1442.	長野県下伊那郡の荒廃桑園の調査. 線虫の種類、被害、駆除予防法(乾燥、温湯浸漬、石灰水の冷却後に浸漬、被害部を剪去、二硫化炭素・青酸ガスの燻蒸、植付を深く、焼土、生石灰の土壌混入).
10	吉田和吉	1926	桑樹の根腐線虫に就て.	蚕業新報	34(401)1301-	記述に多少の違いはあるが、No. 26-9と同内容.
11	Anon. (広島農試)	1926	ネマトウダ駆除試験.	広島農試業務功程	大14:184.	オクラ、セルリーにホルマリン、消石灰、木灰、硫黄華、二硫化炭素施用.
12	Anon. (茨城農試)	1926	茄子連作試験(四年目). 附 線虫駆除法試験.	茨城農試業務功程	大13:96-99.	石灰窒素、晒粉、クロルピクリン、二硫化炭素.
13	澤田謙吉	1926	黄麻立枯病(予報)	臺灣總督府農事試験場出版	第105号	未見.(冊子体に未収録の文献) 根線虫(Heterodera marioni)の記録を含む
0		1927	昭和2年(1927)			
1	赤木勝雄	1927	北海道「アイヌ」に見られた「ラブリヂス」ノ新種ニ就いて.	中外医報(中外医事新報)	1126: 151-156.	検出した雄成虫の形態を記載. 新種としての命名なし.
2	深田亮平	1927	桑の線虫に就て.	大日本蚕糸会報	36(429)1271-	線虫寄生の有無と桑の生育. 線虫寄生の影響は僅か.
3	鎌方末彦	1927	実験果樹病害論.	養賢堂, 東京	6+17+385 pp.	柑橘の「内地に存否不明の病害」の項に立枯病(Tylenchulus semipenetrans)の病徴、病原、予防法を解説.
4	岩根 謙	1927	桑樹根腐線虫(Heterodera radicicola Greeff)駆除に関する試験.	群馬畜試報(群馬県畜業試験場報告)	3:21-35.	クロルピクリン、二硫化炭素による土壌消毒、苗の温湯浸漬(55°C 10分処理)は線虫駆除効果があるが、桑の生育悪化. その他各種試験. 蚕業新報 418: 500-501, 1928 に抄録.
5	宮崎勝雄	1927	禾穀類の線虫病に関する研究.	農及園(農業及園芸)	2(3) 302-303.	コムギツブセンチュウ. 欧米における発生、症状、病原線虫、線虫の生存状態、福岡県の発生状況、種子消毒法.
6	岡部康之	1927	根腐線虫の寄生と桑苗の硬度.	栽養学会報	2(1) 18-24.	[未見]
7	清水昌保	1927	輸移入植物の検査概要と主なる植物の種類及び之に附着せる病菌害虫に就て.	朝鮮農会報	9巻 12:29-38.	線虫を含む.
8	渡辺 弘	1927	Ueber eine neue Species Rhabditis, welche im Menschen vorkommt.	日病理誌(日本病理学会会誌)	17(1) 215-216.	新種Rhabditis usuiを記載. 本種はPelodera axei Cobbold, 1884のシノニムとされた(Dougherty, E.M., J. Helminth. 29, 105-152). 現在はRhabditella pseudoelongata (Micoletzky, 1933) Andrassy, 1983のシノニムとされている(Andrassy, I. A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentea). ORSTOM Paris p. 136).
9	Anon. (千葉農試)	1927	蒔蒔ネマトーダ防除二回スル試験.	千葉農試業務報告	大14:135.	種塊伝染を認める.
10	Anon. (千葉農試)	1927	麦「ネマトーダ」予防二回スル試験.	千葉農試業務報告	大14:139.	石灰窒素施用で発病減少.
11	Anon. (千葉農試)	1927	蒔蒔ネマトーダ予防二回スル試験.	千葉農試業務報告	昭元業.169.	二硫化炭素が有効.
12	Anon. (広島農試)	1927	ネマトウダ駆除試験.	広島農試業務功程	大15:昭元.291.	「ホルマリン、木灰、二硫化炭素ノ順ニ効果アリ」.
13	Anon. (茨城農試)	1927	茄子連作試験(四年目). 附 線虫駆除法試験.	茨城農試業務功程	大14:125-127.	石灰窒素、クロルピクリン、二硫化炭素が有効.
14	Anon. (宮崎農試)	1927	葱萎縮病二回スル試験.	宮崎農試業務功程	大15:昭元.201-202.	二硫化炭素、ホルマリン、石灰、石灰窒素、石灰硫黄合剤は効果なし.
15	Anon. (愛知蚕試)	1927	桑ノ線虫駆除二回スル試験	愛知蚕試要報	1: 4-5	(冊子体に未収録の文献) ホルマリン、石灰水、温湯浸漬、煙草煎汁等を試験. 華氏130度の温湯に10分以上浸漬すれば効果
0		1928	昭和3年(1928)			
1	堀 正太郎	1928	線虫の寄生から起る2種の新病害に就て.	農及園(農業及園芸)	3(3)292-296.	花ベゴニアの葉線虫病、ニンジン及びコボウの指根病.
2	加藤亮太郎	1928	根線虫駆除に対するクロール・ピクリンの効果.	大日本農会報	570:28-31.	従来防除法と比較.
3	町田貞一・青山哲四郎	1928	朝鮮害虫編 前編.	三宅球造本店出版部, 釜山	7+6+303+4 pp., 1 pl.	小麦線虫 p.122-125, 桑線虫 p.277-281.
4	三宅市郎・加藤亮太郎	1928	土中殺虫剤としてのクロールピクリン.	病虫雑(病虫書雑誌)	15(8) 423-426.	デジャのネコブセンチュウ防除を含む.
5	中田覚五郎・滝元清透	1928	朝鮮作物病害目録.	朝鮮総督府勸業模範場切報	15:1-146.	小麦胡麻病 p. 8
6	鈴木孝太	1928	セルリーの栽培(其二).	農及園(農業及園芸)	3(2)173-175.	「ネマトーダの予防には反当十五貫位の硫黄華を栽植前土壌に施用せば効果がある」.
7	高橋 契	1928	蔬菜害虫各論.	明文堂, 東京	11+451+30(附録)+30 pp.	線虫 p.14. 附録 p.1-3. Heterodera radicicola の解説. No.18-6~10を引用.
8	Anon. (茨城農試)	1928	茄子連作試験(五年目). 附 線虫駆除試験.	茨城農試業務功程	大15:昭元.56-57.	3~4年の休園. 薬剤(石灰窒素、クロルピクリン、二硫化炭素)が効果あり.
9	Anon. (関東庁蚕試)	1928	根腐線虫寄生桑苗栽植試験.	関東庁蚕試十年報	p. 65-67.	温湯浸漬(60°C1分)により線虫ほぼ死滅.
0		1929	昭和4年(1929)			
1	遠藤保太郎・樋口珠雄	1929	日本桑樹栽培論.	明文堂, 東京	6+9+840 pp., 18 pls.	線虫防除(温湯浸漬) p.212.
2	今村重元	1929	作物に寄生する線虫.	応動(応用動物学雑誌)	1(3)4/211-216.	ソバ、大豆、燕麦に寄生する線虫を解説.
3	石渡繁胤	1929	柿蜜に寄生する線虫に就て(予報).	動雑(動物学雑誌)	41(490/491)368-369.	講要. No.37-7を参照.、寄生数、生態等.
4	中田覚五郎	1929	蔬菜病害講習録.	福岡県内務局農務課, 福岡	5+80 pp.	西瓜の線虫病(Heterodera radicicola) p.30-32.ホルマリン、二硫化炭素、青酸石灰、輪作、夏期休園、灌水による防除.
5	岡部直己	1929	人類ノ糞便中ニ現ハレタル「ラブリヂス」ノ新種ニ就テ.	慶応医学	9(2) 2039-2050, 1 pl.	Rhabditis fecalis 近似線虫の形態を報告.
6	進藤文二	1929	土壤中に於ける小貧毛類と線虫の季節的及び垂直的分布に就て.	応動(応用動物学雑誌)	1(1)18-26.	耕地・草地の比較等.
7	進藤文二	1929	On the seasonal and depth distribution of some worms in the soil.	J. Coll. Agric., Imp. Univ. Tokyo (Journal of College of Agriculture, Imperial University of Tokyo)	10(2)159-171.	No.29-6を参照.
8	山内為寿	1929	桑蠅虫ネマ病雑感(四).	佐久良会雑誌	26: 23-34.	寄生割合、一宿主内寄生虫数、線虫の大きさ、尾角(後端の形態)、宿主昆虫の種類(10種)、分布(4県を追加).
9	横山桐郎	1929	最新日本蚕業害虫全書.	明文堂, 東京	3+12+569+13 pp.	こんせんちゅう p.555-562.

10	Anon. (農林省農務局)	1929	道府農事試験場に於ける病害虫に関する調査研究 事項 乙. 害虫に関する事項	病虫雑(病虫害雑誌)	16(12)770-776	小麦の線虫(愛知)、蔬菜のネマトーダ(鹿児島県).
11	Anon. (農林省農務局)	1929	病害虫分布調査 第二篇.	農林省農務局、東京	1+ 8+431 pp.	謄写. 昭和元年における日本内地の病害虫の分布、方言、被害農作物、発生の沿革、防除法を記述. 小麦穀実線虫 p.228-229. ネコブセンチュウ p.309-312. No. 30-22 に抄録.
12	Anon. (広島農試)	1929	ネマトウダ駆除試験.	広島農試業務功程	昭2:231-232	「木灰、消石灰、二硫化炭素、ホルマリン、青酸石灰ノ順ニテ効果アリ」
13	Anon. (島根農試)	1929	桑線虫防除試験.	島根農試病虫害業務報告	昭3:137-140	被害苗薬剤浸漬、定植後の処理.
0		1930	昭和5年(1930)			
1	江崎佛三・橋本士郎	1930	農林省委託浮塵子駆除予防試験報告(1).	九州帝大昆虫学教室出版、福岡	No.1, 30 pp.	福岡から線虫を発見. 形態を記載. p.27.
2	福士貞吉・斉藤栄策	1930	The angular leaf spot of <i>Zinnia elegans</i> Jacq. caused by eelworms.	鳥取農学会報	2:45-56.	ヒヤクニソウの葉の角斑の病原線虫として <i>Aphelenchoides ritzemabosi</i> を本邦最初に報告.
3	外村亀吉(担当者)	1930	温床茄子ネマトーダ駆除予防試験.	鹿児島農試業務功程	昭4:209-211.	「『クロルピクリン』ハ多少効果」
4	今村重元	1930	腐敗物中に生活する線虫.	応動(応用動物学雑誌)	2(1)77-79.	自由生活線虫を紹介.
5	今村重元	1930	捕食性 <i>Mononchus</i> 属.	応動(応用動物学雑誌)	2(2)127.	解説記事.
6	今村重元	1930	水田に自由生活を営む線虫の灌漑後に於ける差異に就いて.	応動(応用動物学雑誌)	2(2) 132-134.	講要. No.31-5を参照.
7	今村重元	1930	土壤線虫と肥料成分との関係.	応動(応用動物学雑誌)	2(3)207-210.	大麦・陸稲圃場の三要素全区、無窒素区、無燐酸区、無カリ区、無肥料区で27種の線虫の密度を比較. 直接の関係無し.
8	今村重元	1930	植物寄生線虫の防除に関する一考察.	応動(応用動物学雑誌)	2(4)291-294.	今後の研究課題を論ずる.
9	岩里間佐一	1930	小麦萎縮病について.	長崎農試時報(長崎県農事試験場時報)	3巻11:2-5.	本病の防除、品種の抵抗力.
10	森下 薫	1930	円虫類(岩波講座生物学).	岩波書店、東京	50 pp.	植物寄生線虫 p.16-18
11	長倉快一郎	1930	Ueber den Bau und die Lebensgeschichte der <i>Heterodera radicola</i> (Greef) Muller.	Jap. J. Zool (Japanese Journal of Zoology = 日本動物学)	3(3) 95-160.	No.18-7~11の集大成. 85図を含む.
12	野津六兵衛	1930	線虫問題(1).	島根農試業務報告	393:32-36.	土壌の薬剤処理(石灰窒素、二硫化炭素)、被害苗木の処理(石灰イオウ合剤、温湯浸漬)、線虫抵抗力台木(61品種中に皆無).
13	野津六兵衛	1930	線虫問題(2).	島根農試業務報告	394:22-25.	防除法等に関するアンケート調査の結果. 回答者は蚕試、鎌木、京都高蚕、鹿児島高農、愛知蚕試、台北帝大農理学部.
14	野津六兵衛	1930	線虫問題(3).	島根農試業務報告	395:27-30.	前報の続き. 山口農試の回答. その他として、中田覚五郎の講演・横山桐郎の著書中の線虫に関する記述を紹介. 寄主植物、県内の被害面積をあげる.
15	杉山栄之丞	1930	菊の害虫「線虫」の防除法.	農業世界	25巻 50:77-80.	病徴、生活状態、感染経路、駆除法(45℃2分又は50℃1分30秒の苗の温湯浸漬).
16	滝元清透	1930	微生物及植物病理学実験法.	養賢堂、東京	3+10+370 pp.	「線虫の分離法」p.301, 「線虫の接種法」p.311-312. Byars, L.P. (1914) <i>Phytopathology</i> 18 : 507-514 を主に引用.
17	津曲彦寿	1930	煙草赤星病に関する補遺調査(3). 赤星病菌の寄生性に就て.	病虫雑(病虫害雑誌)	17(6)371-378.	<i>Colletotrichum</i> sp. (炭疽病菌) は線虫被害たばこ葉に夥しく発生.
18	津曲彦寿	1930	煙草斑点病に関する研究(完).	病虫雑(病虫害雑誌)	17(8) 516-528.	線虫病被害煙草に本病の発生を見受ける.
19	山内為寿	1930	桑葉蛾ネマ病の観察.	日蚕誌(日本蚕糸学会雑誌)	1(2) 103-122.	研究史、病徴、寄生虫の形態、採集時期・1宿主内寄生数と線虫の大きさ、線虫の生態(寄生割合、1宿主内寄生虫数、在宿と離脱、自在生活、分類学上の所属、分布、宿主昆虫の種類).
20	横山桐郎	1930	桑樹虫害論. In: 桑樹虫害論(末松直次・横山桐郎共述).	弘道館、東京	187 pp.	こんせんちゆう p.184-186 (虫害論). 病害論は巻頭の87 pp.
21	Anon.	1930	島根県に於ける桑線虫の被害.	病虫雑(病虫害雑誌)	17(12)851.	「千町歩内五百 町歩は被害激甚」
22	Anon. (農林省農務局)	1930	被害大なる地方的病害虫調(2) 害虫之部.	病虫雑(病虫害雑誌)	17(2)122-149.	ネマトーダ検出地及び作物: 東京(穀類類、蔬菜、鑑賞植物、雑草)、埼玉(仏掌芋)、鹿児島(温泉熱利用の苗床温床)、福井(麦). No.29-11が原著か.
23	Anon. (愛知農試)	1930	小麦ノ殺実線虫ニ関スル試験.	愛知農試業務功程	昭3:181-182.	クロルピクリン、二硫化炭素、石灰窒素、石灰、石灰硫黄合剤、ホルマリン、硫化加里、昇汞水、昇汞粉末を土壌施用. 病虫害雑誌 18(2)745-746, 1931 に再録.
24	Anon. (千葉農試)	1930	弱弱ノ病害ニ関スル試験.	千葉農試業務報告	昭3:259-260.	クロルピクリン施用.
25	Anon. (岐阜農試)	1930	小麦ノ莖線虫ニ対スル抵抗力品種調査.	岐阜農試業務功程	昭4:98.	12品種を比較.
26	Anon. (岐阜農試)	1930	小麦莖線虫駆除試験.	岐阜農試業務功程	昭4:98.	昇汞水、石灰窒素、サイアノガス、二硫化炭素、クロルピクリン施用.
27	Anon. (広島農試)	1930	ネマトウダ駆除試験.	広島農試業務功程	昭3:200-201.	「コクソール(クロルピクリン)、青酸石灰、木灰、二硫化炭素、ホルマリン、消石灰ノ順ニテ効果アリ」
28	Anon. (島根農試)	1930	桑線虫防除試験.	島根農試病虫害業務報告	昭4:153-157.	苗の燻蒸(ホドソール、コクソール、二硫化炭素、青酸ガス、サイアノガス)、薬液浸漬、土壌燻蒸(ホドソール).
0		1931	昭和6年(1931)			
1	江崎佛三・橋本士郎	1931	農林省委託浮塵子駆除予防試験報告(2).	九州帝大昆虫学教室出版、福岡	No.2, 59 pp., 5 pls.	寄生線虫(Mermis属): 生活史、寄主にあたえる形態的影響、寄生率 p.54-57.
2	原 撰祐	1931	茶樹の病害.	日本園芸学会、静岡	10+271 pp.	根線虫病 p.174-175: <i>Heterodera radicola</i> の解説、防除法(被害株採取焼却、灌水2ヵ月、石灰窒素・ホルマリン施用、密土).
3	外村亀吉(担当者)	1931	温床茄子ノネマトーダ駆除予防試験.	鹿児島農試業務功程	昭5: 218-219.	デリス粉末、晒粉は効果なし.
4	堀 正太郎	1931	蔬菜及び花卉の病害. In: 園芸害虫(石井勇義編)	誠文堂、東京	p.267-403.	バラの根線虫病 p.374-375. クロルピクリンによる駆除.
5	今村重元	1931	Nematodes in the paddy field, with notes on their population before and after irrigation.	J. Coll. Agr., Imp. Univ. Tokyo (Journal of College of Agriculture, Imperial University of Tokyo)	11(2) 193-240.	新種を含む48種の記載. 新種として記載されたのは次の13種(括弧内は現在の分類学上の扱い). <i>Plectus multibifidus</i> (<i>Paraplectus multibifidus</i>), <i>Pseudoaulaimus anchilocaudatus</i> (新属新種), <i>Tylenchus apapillatus</i> (= <i>Hirschmaniella oryzae</i>), <i>Aphelenchus bicaudatus</i> (= <i>Aphelenchoides bicaudatus</i>), <i>Criconea komabaensis</i> , <i>Tylencholaimus longicaudatus</i> (= <i>Discomyctus longicaudatus</i>), <i>T. bryophilus</i> (= <i>Didoryllium bryophilum</i>), <i>Dorylaimus elegans</i> var. <i>longicaudatus</i> (= <i>Dorylaimoides longicaudatus</i>), <i>D. filiformis</i> var. <i>papillatus</i> (= <i>D. pseudostagnalis</i>), <i>D. filiformis</i> var. <i>protumidus</i> (= <i>D. protumidus</i>), <i>D. tambo</i> (<i>Oxydirus tambo</i>), <i>D. denticaudatus</i> (= <i>Oxylyis denticaudatus</i>), <i>Nygalaimus kaburakii</i> . その他に記載されたのは次の35種: <i>Alaimus primitivus</i> , <i>A. lemani</i> , <i>Bastina exilis</i> , <i>Tripyla papillata</i> , <i>Cyatholaimus ruricola</i> , <i>Monhystera filiformis</i> , <i>M. paludicola</i> , <i>M. agilis</i> , <i>Prismatolaimus dolichulus</i> , <i>Triobus gracilis</i> , <i>Cephalobus elongatus</i> , <i>C. emarginatus</i> , <i>C. persegis</i> , <i>Chronogaster gracilis</i> , <i>Chriptonchus nudus</i> , <i>Plectus cirratus</i> , <i>Rhabdolaimus aquaticus</i> , <i>Walcherenia typica</i> , <i>Ironus ignavus</i> , <i>Mono nchus macrostoma</i> , <i>M. tunbridgensis</i> , <i>Oncholaimus punctatus</i> , <i>Chromadora fluviatilis</i> , <i>Tylenchus gracilis</i> , <i>T. intermedius</i> , <i>T. filiformis</i> , <i>T. leptosoma</i> , <i>Tylencholaimus mirabilis</i> , <i>Dorylaimus brigdammensis</i> , <i>D. carteri</i> , <i>D. limnophilis</i> , <i>D. micoletzkyi</i> , <i>D. stagnalis</i> , <i>D. crassus</i> , <i>Actinolaimus macrolaimus</i> . 各線虫の灌漑前後の個体数変化の調査結果を示す.
6	今村重元	1931	土壌線虫5種.	応動(応用動物学雑誌)	3(1)35-38.	<i>Tylencholaimus americanus</i> (= <i>Xiphinema incognitum</i>), <i>Cyatholaimus intermedius</i> , <i>Cylindrolaimus communis</i> , <i>Discolaim us texanus</i> , <i>Hoplolaimus (Criconea) informis</i> (= <i>Criconea mella informis</i>) を記録.
7	今村重元	1931	蛭類に寄生する <i>Nectonema munidae</i> .	応動(応用動物学雑誌)	3(2)142-143.	Brinkmann, 1930の抄録.
8	今村重元	1931	水田の線虫.	応動(応用動物学雑誌)	3(3)157-165.	48種をあげる. No.31-5を参照. 灌漑前後の個体数、線虫相の変化を調査.
9	今村重元	1931	線虫の培養法.	応動(応用動物学雑誌)	3(3)204-206.	講要. in vitroの培養法.
10	駒村作太郎	1931	庭園植物の根線虫駆除とクロルピクリンの利用法.	実用園芸	11: 182-183.	圃場施用法を解説.

11	大沢幸雄	1931	シクラメンの栽培(2)。	農及園(農業及園芸)	6(11)1807-1816	播土の蒸気及び薬剤(コクゾール、ホルマリン)消毒によるネマトダ防除にふれる。
12	柄内吉彦	1931	植物の病害予防 In: 園芸害虫害(石井勇義編)	誠文堂、東京	p.1- 198	線虫 p.44. 土壤蒸気消毒装置 P.138-139.
13	植原外三	1931	マスクロン培養土の土壤消毒法。	農及園(農業及園芸)	6(8)1563-1565.	ホルマリン、クロルピクリンによるネマトダ防除。
14	山内為寿	1931	クハノメイガ其の他に寄生するHexameris属糸片虫の研究	日蚕誌(日本蚕糸学会雑誌)	2(2)196-197.	講要
15	山内為寿	1931	Hexameris属糸片虫の桑 虫及家蚕に於ける実験的感染	日蚕誌(日本蚕糸学会雑誌)	2(4)418-434.	経皮的に寄主に侵入、線虫の発育に季節的差異。
16	安本徳寛(講述)	1931	植物病理学。附 植物綱目学(芝桐)。	日野 蔵刊、宮崎市	48 pp.	小麦にAnguillula tritici(コムギツブセンチュウ)、A. devastatrix(ナミクセンチュウ)が寄生 p.13. 明治16年頃の東京山林学校(東京大学農学部の前身)における講義録。
17	Anon. (広島農試)	1931	ネマトダ駆除試験。	広島農試業務功程	昭4:283.	「コクゾール最モ効果アリ」。コクゾールはクロルピクリンの商品名
18	Anon. (東京農試)	1931	ネマトダニ対スル土壤消毒試験。	東京農試業務功程	昭4:237-238.	石灰窒素、晒粉、ホルマリン、二硫化炭素使用。
19	Anon. (島根農試)	1931	桑線虫防除試験。	島根農試業務報告	昭5:病理昆虫部 p.129.	試験項目のみ。
20	宮地伝三郎	1931	Studies on the bottom fauna of Japanese lakes-Five lakes at the North foot of Mt. Hudi and Lake Ashi.	Jpn. J. Zool (動物学雑誌)	43:81-125.	[未見](冊子体に未収録の文献) 1929年に年数回にわたって、数十カ所の諏訪湖湖底から捕獲された線虫類について総個体数を記載。
0		1932	昭和7年(1932)			
1	ト蔵梅之丞	1932	萎縮病害論。	病虫雑(病虫害雑誌)	19(10)744-753.	萎縮病:線虫原因説あり。
2	江崎佛三・橋本士郎	1932	農林省委託浮塵子駆除予防試験報告(3)。	九州帝大昆虫学教室出版、福岡	No.3, 42 pp.	線虫寄生率34.6-40.8%(福岡) p.41-42
3	江崎佛三	1932	浮塵子の敵虫に就いて。	応動(応用動物学雑誌)	4(3)128-130.	Agameris unkaを含む。
4	外園亀吉(担当者)	1932	温床茄子ネマトダ駆除試験。	鹿児島農試業務功程	昭6:258-259.	晒粉、クロルピクリン、二硫化炭素施用。
5	堀 正太郎	1932	キクの線虫性葉枯病。	実際園芸	13巻 4:137-139	研究史、被害、病徴、環境と発病の関係、病原(Aphelenchus Ritzemabosiと同定)、予防法(病葉の焼却、土壌の火熱消毒、苗の水洗、硫酸ニコチン散布又は塗布)。
6	堀 正太郎	1932	ペゴニヤの線虫性葉枯病。	実際園芸	13巻4: 140-142	発病植物、研究史、被害、病徴、病原(Aphelenchus olesistis)、予防法(病葉の焼却、土壌の火熱消毒、苗の水洗)。
7	堀 正太郎	1932	グロキシニヤの線虫性葉枯病。	実際園芸	13巻 4: 143-144.	発病植物、研究史、被害、病徴、環境との関係、病原と予防法(アフェレンクス・オレシストスとする。病葉の焼却、苗・鉢の熱湯消毒、鉢根の温湯浸漬、被害株の水洗)。
8	堀 正太郎	1932	ヒヤクニテサウの線虫性角斑病。	実際園芸	13巻 4: 145.	発病植物、研究史、被害、病徴、病原(アフェレンクス・リソエマボンシとする)、予防法(病葉の焼却、苗床の熱湯消毒、クロルピクリン・二硫化炭素処理、硫酸ニコチン散布)。
9	今村重元	1932	二化螟虫及びウシカに寄生する糸片虫(1)。	応動(応用動物学雑誌)	4(2)73-78.	Amphimeris zuimushiの形態、生活史、寄生習性。No.32-13を参照。
10	今村重元	1932	二化螟虫及びウシカに寄生する糸片虫(2)。	応動(応用動物学雑誌)	4(2)176-180.	Agameris unkaの形態、生活史、寄生習性。No.32-14を参照。
11	鎌木外岐雄	1932	作物に寄生する線虫。	教育農芸	1(6)653-656.	土壤線虫類の解説
12	鎌木外岐雄	1932	園芸植物の線虫類と防除法。	実際園芸	15巻 4: 302-308.	線虫の種類と症状、駆除の方策。
13	鎌木外岐雄・今村重元	1932	A new mermithid-worm parasitic in the rice borer, with notes on its life history and habits.	Proc. Imp. Acad., Tokyo (Proceedings of the Imperial Academy of Japan)	8(3)109-112	Amphimeris zuimushi(新属新種)を二化螟虫から記載。
14	鎌木外岐雄・今村重元	1932	Mermithid-worm parasitic in leaf-hoppers, with notes on its life history and habits.	Proc. Imp. Acad., Tokyo (Proceedings of the Imperial Academy of Japan)	8(4)139-141.	Agameris unka(新種)をイネマダラヨコバイとセジロウシカから記載。
15	中台昭之助	1932	クロールピクリンの燻蒸に依る温床土の消毒に関する研究	病虫雑(病虫害雑誌)	19(12) 894-904.	線虫も100%死滅。
16	中村寿夫	1932	本邦産煙草病害概説(3)。	病虫雑(病虫害雑誌)	19(9)656-669.	線虫病:静岡県に多発。他に鹿児島、広島、岡山、神奈川県。
17	小山田一雄	1932	メロンの病害虫と予防。	実際園芸	14巻 4: 125-129.	ネマトダ対策(多肥栽培、熱気・ホルマリン消毒)を含む。
18	酒井久馬	1932	ウシカシヘンチュウ愛媛県にも産す。	応動(応用動物学雑誌)	4(5)268.	短報
19	酒井久馬	1932	大分地方浮塵子類の天敵と之が年内に於ける消長に就いて(予報)。	応動(応用動物学雑誌)	4(9)124-127.	糸片虫を含む。
20	田杉平司	1932	茄子・番茄の病害と防除法。	実際園芸	13巻 4: 91-103.	根線虫病を含む。ホルマリン、クロールピクリン、漂白粉、輪作による防除。
21	山田 済	1932	土壌の消毒法。	実際園芸	14巻4:42-45.	理学的的方法(蒸気、熱湯、火熱、日光、湛水、深耕)、化学的方法(ホルマリン、二硫化炭素、クロルピクリン、石灰硫黄合剤、昇水水、石灰窒素、クロール石灰、石灰、木灰、硫黄末)、生物学的方法、器械的方法(遮断法、客土、輪作)。
22	山口捨雄	1932	あかえぞまつ及びビクろまつ苗樹ニ寄生スル線虫ニ就いて。	北海道大演習林研報(北海道帝國大学演習林研究報告)	7:209-215,1pl	Tylenchus pratensisの形態とその被害。キタネグサレセンチュウと思われる。
23	山内為寿	1932	桑螟虫寄生糸片虫の所屬考。	日蚕誌(日本蚕糸学会雑誌)	3(2)143-147.	Hexameris sukumishiと命名。スキムシノヘンチュウの和名を提案。
24	Anon.	1932	桑園の線虫の被害。	病虫雑(病虫害雑誌)	19(9)720	島根県下1500町歩。
25	Anon. (青森県内務部)	1932	病害害虫駆除予防要覧。	青森県、青森	70 pp., 1表.	大豆萎黄病(大豆線虫、月夜病) p.25-26.59
26	Anon. (青森農試)	1932	病害虫防除ニ関スル事項	青森農試業務年報	昭4:205.	五戸分場成績。「大豆線虫防除ニ関スル調査」(タイトルのみ)。
27	Anon. (鹿児島農試)	1932	茄子ネマトダ駆除試験。	鹿児島農試業務功程	昭6:249-253.	クロルピクリン、蒸気による土壤消毒。
28	Anon. (高知農試)	1932	根線虫駆除に関する調査。	高知農試業務功程	昭6:70.	クロルピクリン、二硫化炭素、漂白粉、石灰窒素等をナスに施用。
29	Anon. (山口農試)	1932	ネマトダ防除試験。	山口農試業務年報	昭5:97-98.	クロルピクリン、サイアノガス、蒸熱、ホルマリン、二硫化炭素、石灰窒素、湛水による防除。
30	Anon. (山口農試)	1932	ネマトダ防除試験。	山口農試業務年報	昭6:71-72.	生石灰、ホルマリン、クロルピクリン、湛水等を試験。
0		1933	昭和8年(1933)			
1	Cartwright, W. B.	1933	Observation on the European corn borer and its major parasites in the Orient.	USDA Circular	No.289, 13 pp.	Hexameris meridionalis Steineを本州・九州から記録。病虫害雑誌 21(3) 214-215, 1934に抄録。
2	江崎佛三・橋本士郎	1933	農林省委託浮塵子駆除予防試験報告(4)。	九州帝大昆虫学教室出版、福岡	No.4, 32 pp., 4 pls.	本年(昭7)は福岡付近では線虫の寄生を認めず。
3	外村亀吉(担当者)	1933	温床茄子ネマトダ駆除試験。	鹿児島農試業務功程	昭7:189-191.	クロルピクリン、蒸気消毒が効果あり。
4	池田(米男)	1933	茄子のネマトダ。	鹿児島県農会農報	98:37-39.	所屬、分類、線虫病の解説、ヘテロデララディシコラの寄生植物、経過習性(生活史)。
5	池田(米男)	1933	茄子のネマトダ(2)。	鹿児島県農会農報	106:19-21.	防除。蒸気消毒(80℃半時間以上)、クロルピクリン(2週間置きに3回施用)は効果あり。ホルマリン、硫黄、デリス、石灰窒素等は効果なし。
6	猪股修二郎・石井輝士・横山 匠	1933	カマキリに寄生するハリガネムシGordius aquaticusの寄生歩合に就いて。	応動(応用動物学雑誌)	5(3)102.	講要
7	鎌木外岐雄・今村重元	1933	Descriptions of two new soil nemas in the Nikko district.	Proc. Imp. Acad., Tokyo (Proceedings of the Imperial Academy of Japan)	9(3)134-136.	Tylencholaimus nikkoensis, T. kirifuriの2新種を含む35種を記載。現在、両種ともspecies inquirendaeとされている(Jairajpuri, M.S., Nematologica 10(4) 512-518, 1965). No.36-10を参照。
8	鎌木外岐雄・弥富喜三	1933	Notes on sex in Amphimeris zuimushi Kab. et Im.	Proc. Imp. Acad., Tokyo (Proceedings of Imperial Adacemy of)	9(7)333-336.	寄生密度が高くなるにつれ雄出現率が増加。
9	木庭康喜	1933	瓜根線虫に対する土壤消毒試験成績。	病虫雑(病虫害雑誌)	20(1)口絵写真	消石灰、石灰窒素、クロルピクリンの効果を比較。熊本農試の成績を紹介。No.33-31を参照。
10	中村寿夫・津曲彦彦	1933	線虫病予防試験成績。	専売局年報	(昭8)	未見
11	丹羽 彌	1933	ハリガネムシ類(Gordiacea)の蜘蛛に寄生する例。	名古屋生物学会記録	1(3)120-121.	未見。ウツキドクゴモ、ナカムラハエトリグモより3例を記録。
12	野津六兵衛	1933	桑線虫の防除に関する知見(1)。	島根農試業務報(島根県農事試験場業務報)	276:13-14	二硫化炭素、ホルマリン、クロルピクリン他の効果。No.30-12, 13, 14も参照。

13	野津六兵衛	1933	桑線虫の防除に関する知見(2).	島根農試彙報(島根農試試験場彙報)	277:14-15	京都高等蚕業学校、鹿児島高等農林学校の成績を引用。
14	野津六兵衛	1933	桑線虫の防除に関する知見(3).	島根農試彙報(島根農試試験場彙報)	280:10-11.	山口農試他の成績を引用。
15	酒井久馬	1933	大分地方産浮塵子類の天敵とその季節的消長(第2報)特にコノヒヒ類天敵に関する知見補遺。	応動(応用動物学雑誌)	5(3)125-128.	糸片虫を含む。
16	高橋久四郎	1933	収益本位蔬菜栽培法(農業実行叢書)。	養賢堂、東京	2+6+363 pp., 1 pl.	病害虫程恐るべきものではなく、「第一が『ネマトーダ』にして、栽培の二年目に発生し、.....」p.78. ネマトーダ(根線虫)が害虫の項で掲げられた作物:ナス p.78.キュウリ p.158. トマト p.167-168. カボチャ p.182. スイカ p.194. トウガラシ p.201. インゲン p.206. フジメ p.215. ニンジン p.238. キャベツ p.263.
17	谷口良碩	1933	Notes on chemotactile of <i>Rhabditis filiformis</i> Butschli.	Proc. Imp. Acad. Jap. (Proceedings of the Imperial Academy of Japan)	9(8)432-435.	酸、アルカリ、塩類に対する反応。No.33-18を参照。
18	谷口良碩	1933	土壤線虫 <i>Rhabditis filiformis</i> Butschliの趨化性に就きて。	応動(応用動物学雑誌)	5(5)232-236.	酸、アルカリ、塩類に対する反応。
19	津曲彦寿	1933	煙草痘瘡病に関する研究(1)。	病虫雑(病虫害雑誌)	20(4)305-310.	抜星病は線虫の寄生が誘因。
20	津曲彦寿	1933	煙草痘瘡病に関する研究(2)。	病虫雑(病虫害雑誌)	20(5)378-389.	線虫との関係 p.384.
21	渡邊龍雄	1933	扁蒲ノ主要病害予防除法。	宇都宮高等農林農研会誌(宇都宮高等農林学校農学研究会々誌)	8:25-42.	フクベ(カンビウ)の病害。根線虫を含む。
22	山口捨雄	1933	根瘤線虫 <i>Heterodera radiculicola</i> (Greeff) Muller に就て。	農及園(農業及園芸)	8(5)1186-1190.	研究史、形態、生活史、被害(ハクサイ、テンサイ)、寄主植物(大和薯、ニンジン、ゴボウ、カブ、ショウガ、ミョウガ)、防除(輪作・厩肥多用)。
23	山口捨雄	1933	線虫の畸形。	種及動(植物及動物)	1(7)1054.	<i>Cephalobus elegans</i> の体に嵌込んだようになった輪形物を報告。捕食菌のリングか?
24	山内為寿	1933	桑螟虫に寄生する糸片虫の雌雄性。	応動(応用動物学雑誌)	5(2)45-63.	寄生数と線虫の性比の関係。
25	横山桐郎	1933	実用蚕業害虫論。	弘道館、東京	2+4+337+3 pp., 1 pl.	コノヒルやせんちゆう p.329-333.
26	Anon.	1933	[質疑応答]答。	日本園芸雑誌	45巻4:53-54.	ネマトーダの防除法に関する東京府佐田氏の質問への回答。クロロピクリンより硫酸重華の使用を勧める。
27	Anon. (青森農試)	1933	病害虫防除二關スル事項。	青森農試業務年報	昭5:301.	五戸分場成績。「大豆線虫防除二關スル調査」(タイトルのみ)。
28	Anon. (青森農試)	1933	病害虫防除二關スル事項。	青森農試業務年報	昭6:217.	五戸分場成績。「大豆線虫防除二關スル調査」(タイトルのみ)。
29	Anon. (千葉農試)	1933	病菌害虫道府県連絡調査。	千葉農試業務報告	昭6:262-268.	蔬菜のネマトーダ:千葉県全域に分布。
30	Anon. (鹿児島農試)	1933	茄子「ネマトーダ」駆除試験。	鹿児島農試業務功程	昭7:177-179.	クロロピクリン施用が最良。
31	Anon. (熊本農試)	1933	胡瓜根線虫/駆除シテ土壤消毒試験。	熊本農試業務功程	昭7:266.	クロロピクリンは効果あり。無処理の倍の蔓の伸長。石灰窒素は効果なし。
32	Anon. (千葉農試)	1933	小麦胡麻病接種試験。	千葉農試業務功程	昭6:280-281.	被害、線虫の生活史。
33	Anon. (山口農試)	1933	ネマトーダ防除試験。	山口農試業務年報	昭7:151-152.	生石灰、石灰窒素、ホルマリン、クロロピクリン、二硫化炭素、灌水の効果を試験。
0		1934	昭和9年(1934)			
1	藤田勝正	1934	線虫病と其の防除法。	北農	1(5)149-154.	大豆萎黄病、線虫根瘤病(小豆、甜菜、除虫菊、ゴボウ)他。
2	藤田勝正・三浦 脩	1934	On the parasitism of <i>Heterodera schachtii</i> Schmidt on beans.	札幌博物学会報	13(3)359-364.	大豆萎黄病。研究史、寄主植物等。
3	福井玉夫	1934	ネマの簡単な固定保存法。	種及動(植物及動物)	2(4)772.	熱殺法を紹介。
4	弥富喜三・横尾多美男	1934	小麦の萎縮病と土壤線虫(予報)。	応動(応用動物学雑誌)	6(4)188-207.	コムギツブセンチュウ、クキセンチュウの形態、生活史、病徴、上記病害との関係。
5	弥富喜三・横尾多美男	1934	<i>Anguillulina dipsacoi</i> の寄主植物。	応動(応用動物学雑誌)	6(5/6)314-319.	217種を記録。文献からのまとめ。
6	鎌木外岐雄	1934	土壤線虫類に関する研究。	服部報公会研究抄録	1:142-144.	1929-1932年に発表した業績の紹介およびそれ以外の未発表の研究の進捗状況。
7	鎌木外岐雄	1934	線虫糸片虫の習性と間性。	種及動(植物及動物)	2(3)501-506.	生活史と性決定。
8	上遠 章	1934	農産病虫害。In: 病虫害の防除法(農家副業全書 第四巻)。	成美堂、東京	p.1-40.	線虫に対しては輪作するか土壤消毒(二硫化炭素)することが大切。
9	兼子常一郎	1934	西洋野菜の栽培(2)。	賤機農報	2巻4:15-18.	セルリウ:ネマトーダの被害を受けている苗等は定植の際注意して選別する。石灰窒素による苗床の消毒を含む。
10	松岡喜惣治	1934	蔬菜の病虫害駆除。	明文堂、東京	1+4+57 pp.	トマトの根線虫病 p.26-27. 灌水30-60日、ホルマリン、青酸石灰による駆除。
11	宮嶋正孝	1934	虫えいの腫脹。	昆虫世界	38(440)120-121.	小麦の胡麻病を含む。
12	森島 功	1934	虫えい雑録(4)。虫えい研究の跡-E-1。	昆虫世界	38(444)290-292.	線虫の虫糞を含む。
13	内藤 晋	1934	温床茄子の「ネマトーダ」駆除予防研究。	農業	647:43-58.	鹿児島県におけるネコブセンチュウ。寄主植物調査、防除試験(薬剤・温熱)。
14	中村寿夫	1934	本邦煙草病害論。	専売局、東京	2+1+15+136 pp., 67 pls.	線虫(<i>Heterodera radiculicola</i>)の形態、寄主植物、防除(輪作・早植・肥培・被害株焼却・灌水・寒中耕鋤)。
15	Steiner, G. & Bührer, E. M.	1934	Diseases symptoms produced by <i>Anguillulina pratensis</i> in yams.	Phytopathology	24(2)164-165.	日本、ジャマイカ、プエルトリコ、西アフリカのヤマモのネグサレセンチュウによる病徴を記載・図示。
16	山内為寿	1934	桑螟虫に寄生する糸片虫線虫の研究。	蚕試報(蚕糸試験場彙報)	8(8)383-424.	<i>Hexameris microamphidis</i> (= <i>Agameris paradecantata</i>)の形態及び生活史。
17	山内為寿	1934	桑スキムシ糸片虫の雌雄性。	日蚕誌(日本蚕糸学会雑誌)	5(1)56.	講要。寄生数と糸片虫の性比の関係を種々の寄主で観察。
18	Anon.	1934	花卉栽培行事四月の巻。	農及園(農業及園芸)	9(4)1014-1020.	ペゴニア、クロキシニア、百日草、菊の線虫性葉枯病防除:土壤消毒(ホルマリン、クロロピクリン、熱湯)。
19	Anon.	1934	大豆の月夜病予防法を発見。	病虫雑(病虫害雑誌)	21(5)403.	「畑一反に対し食塩なら五升を一石位の水に溶解して追肥と同様の形式にて施す」。以上全文。
20	Anon.	1934	病害虫駆除予防に関する協議会概要。	農産実報	22:43-53.	昭和9年10月18日から25日に開催。「調査すべき病害虫」の中に萎縮虫、蔬菜線虫を含む。
21	Anon. (千葉農試)	1934	「クロロピクリン」/燻蒸ニ依ル温床土ノ消毒ニ關スル試験。	千葉農試業務報告	昭7:246-253.	ネマトーダ死滅。
22	Anon. (鹿児島農試)	1934	茄子「ネマトーダ」ニ關スル試験。	鹿児島農試業務功程	昭8:192.	土壤の温熱・乾熱処理。
23	Anon. (熊本農試)	1934	茄子科の青枯病並根線虫防除試験。	熊本農試業務功程	昭8:231-232.	ナス、トマトにクロロピクリン施用。防除効果はあるが高価なため実施や困難。
24	Anon. (京都農試)	1934	シクラメンの線虫駆除試験。	京都農試業務功程	昭7:109-110.	二硫化炭素、ホルマリン、硫酸ニコチン、煙草粉の鉢試験。
25	Anon. (京都農試)	1934	シクラメン下鉢の土壤消毒に関する試験。	京都農試業務功程	昭7:110-111.	ホルマリン2%液、焼土処理。前者に効果あり。
26	Anon. (長崎農試)	1934	小麦胡麻病接種試験。	長崎農試業務功程	昭7:320-322.	被害、幼虫孵化時期調査。
27	Anon. (沖縄農試)	1934	「ネマトーダ」防除剤効力比較試験。	沖縄農試業務報告	昭7:381-383.	二硫化炭素、クロロピクリンは効果あり(キュウリ)。
28	Anon. (埼玉農試)	1934	根線虫駆除に関する調査。	埼玉農試業務功程	昭7:49.	クロロピクリン、二硫化炭素、漂白粉、石灰窒素等を白薬に施用。
29	Anon. (山口農試)	1934	ネマトーダ病防除試験。	山口農試業務年報	昭8:135.	石灰窒素、ホルマリン、二硫化炭素、クロロピクリンをキュウリに施用。
30	渋谷常紀	1934	台湾の黄麻	臺灣總督府中央研究所農業部彙報	No.98, 103 pp.	(冊子目録に未収録の文献) 根線虫病の記録を含む(<i>Heterodera marioni</i>)。
31	Steiner, G.	1934	Observations on nematodes parasitic in tubers of the cinnamon-vine (<i>Disoscorea batataea</i>).	Proceedings of the Helminthological Society of Washington	1(1)15-17.	(冊子目録に未収録の文献) 日本から輸出したナイゲモから <i>Paraphelenchus amblyurus</i> (新種)を記載。 <i>Aphelenchoides fragariae</i> , <i>A</i> (<i>Seinura</i>) <i>tenuicaudatus</i> (de Man), <i>Diplogaster longicauda</i> Claus, <i>Rhabditis</i> sp.も記録。
0		1935	昭和10年(1935)			
1	安藤安孝	1935	胡蘿蔔の栽培(実用園芸講座 主要蔬菜の栽培 17)。	農業	659:82-91.	ネマトーダ等が多いときは三年休載。
2	古川隼男	1935	土壤消毒水溶性クロロピクリン。	実用園芸	19(4)515-517.	灌水による利用法を紹介。線虫に関しては埼玉農試の大和芋の成績を引用。
3	Heinze, K.	1935	Weitere neue Parachordodes-Arten aus Asien (Nachtrag zu meiner Arbeit über das Genus Parachordodes Cameron).	Zool. Anz. (Zoologischer Anzeiger)	112(5/8)155-158.	ハリガネムシの新種 <i>P. lestici</i> を日本のオオゴミムシから記載。
4	樋口 誠	1935	有害物を混入する鶏糞と飼料取締問題。	農業	661:61-65.	鶏糞への小麦粒線虫混入を論ずる。

5	樋口 誠	1935	鶏糞に因る作物病害の伝播: 養鶏飼料の取締問題.	農業と経済	9(2)1674-1677	小麦粒線虫混入を論ずる.
6	弥富喜三	1935	園芸植物寄生線虫類と防除法.	実際園芸	19巻1: 36-37.	各種線虫の解説及び防除法(クロロピクリン、二硫化炭素施用、輪作、土壌の蒸気消毒).
7	鎌木外岐雄	1935	二・三の有用及び有害土壌線虫に就て.	動雑(動物学雑誌)	47(557)213-215.	講要
8	鎌塚喜久治	1935	農民叢書第9篇 病虫篇.	武蔵産業書房、名古屋	6+8+236 pp.	小麦粒線虫 p.144. 粟の不稔病(紫穂・線虫病) p.149. 大豆の萎黄病(月夜病、立枯線虫病) p.152.
9	沢 良三	1935	水戸市付近畑地土壤中に於ける動物相、特に金魚子虫科幼虫その他の季節的移動.	応動(応用動物学雑誌)	7(3)99-102.	講要. 線虫を含む.
10	沢 良三	1935	水戸市付近冬季水田畦畔土壤中の動物相.	応動(応用動物学雑誌)	7(3)102-104.	講要. 線虫を含む.
11	清水昌保	1935	輸入植物の検査概要と主なる植物の種類及び之に付着する病原害虫に就て.	朝鮮農会報	9 巻12:29-40.	ネマトーダ:ダリア、桑、桔.
12	田中栄次郎	1935	菊科植物の害虫.	日本園芸雑誌	47巻11: 27-32.	根線虫を含む.
13	谷口良碩	1935	Notes on the movement of the soil nematode <i>Rhabditis filiformis</i> Butschli.	Proc. Imp. Acad. Jap. (Proceedings of the Imperial Academy of Japan)	11(2): 77-79.	運動速度にあたる温度の影響.
14	山本岩三郎・眞壁秀典・牧野恒雄・小林逸作	1935	石灰窒素施用に依る桑苗の線虫撲滅 に関する調査.	東京府蚕業取締所立川支所	32 pp.	繕写. 石灰窒素の桑苗の生育に及ぼす影響、線虫撲滅の効果に関する調査. 施用効果を認める.
15	横尾多美男	1935	<i>Anguillulina dipsaci</i> の宿主植物の追加.	応動(応用動物学雑誌)	7(2)88.	3種を記録. No.34-5の続報.
16	Anon.	1935	全国病害虫発生状況.	農産業報	29: 71-74.	小麦の粒線虫が愛知県に発生.
17	Anon.	1935	全国病害虫発生状況.	農産業報	30: 44-45.	愛知県における小麦の粒線虫発生面積、伝播経路の報告を含む.
18	Anon.	1935	黄蜀黍根結菌病 鹿児島県.	農産業報	31: 99-	病害虫の項にネマトーダをあげる.
19	Anon.	1935	小麦の粒線虫病.	安城農報	139: 168-174.	被害、病原線虫の特性、防除法.
20	Anon. (農林省農務局)	1935	種苗と共に伝播せる病害虫の種類及び其の病害虫に依って蒙れる損害の概要.	病虫雑(病虫害雑誌)	22(2) 162-166.	桑線虫を含む.
21	Anon. (北海道農試)	1935	線虫病分布調査成績.	試験及調査の成績に鑑み指導奨励上注意すべき事項	5: 171-177.	線虫根腐病、大豆萎黄病の発生地及び被害植物、被害植物の生育状況.
22	Anon. (青森農試)	1935	牛蒡及び胡蘿蔔ノ線虫防除試験.	青森農試業務年報	昭8: 151.	三戸郡向村で土壌消毒を指導.
23	Anon. (鹿児島農試)	1935	茄子「ネマトーダ」ニ関スル試験.	鹿児島農試業務功程	昭8: 192.	熱気消毒.
24	Anon. (熊本農試)	1935	胡瓜根線虫駆除としての土壌消毒試験(昭和7年).	熊本農試農事試験成績	p. 359-360.	1933年のデータ(昭7業務功程)に要約と摘要を付けた.
25	Anon. (沖縄農試)	1935	「ネマトーダ」に関する調査.	沖縄農試業務功程	昭8: 455-456.	ナス、トマト等に二硫化炭素を施用.
26	Anon. (沖縄農試)	1935	「ナスネマトーダ」ニ関スル調査.	沖縄農試業務功程報	昭9: 433-435.	石灰窒素、ホルマリン、クロロピクリン、二硫化炭素、クロロ石灰施用. 病虫害雑誌 23(4) 288-289. 1936 に再録.
27	Anon. (埼玉農試)	1935	大和薯ネマトーダ防除試験.	埼玉農試業務功程	昭8: 51.	クロロピクリン施用.
28	Anon. (山形農試)	1935	大豆線虫防除法試験.	山形農試業務功程	昭8: 193-194.	最上分場成績. 輪作、生石灰、石灰窒素、晒粉、食塩、粉末燐素施用.
29	Anon. (山形農試)	1935	大豆線虫防除法試験.	山形農試業務功程	昭9: 206-207.	最上分場成績. 輪作、生石灰、石灰窒素等施用.
30	Anon. (山口農試)	1935	ネマトーダ防除試験.	山口農試業務年報	昭9: 189-190.	石灰窒素、ホルマリン、クロロピクリン、二硫化炭素をキュウリに施用.
31	Goodey, T.	1935	<i>Breviucca saprophaga</i> n. gen. et sp. nov., a nematode from a rotting lily bulb-sacle.	Journal of Helminthology	13(4) 223-228.	(冊子目録に未収録の文献) <i>Rhabditida</i> 目の新属新種の記載. 日本から輸出されたユリで発見されたが、イギリスで植え付けた後なので産地は特定せず.
32	Steiner, G.	1935	<i>Opuscula miscellanea nematologica</i> II.	Proceedings of the Helminthological Society of Washington	2(2) 104-11.	(冊子目録に未収録の文献) 日本のオニユリから <i>Aphelenchoides huntii</i> (新種) を記載.
0		1936	昭和11年(1936)			
1	浅野逸郎	1936	<i>Hexameris</i> , ヒシノツタより出ず.	種及動(植物及動物)	4(1)1970.	埼玉県所沢産.
2	卜蔵梅之丞	1936	麦類の病害と其の防除.	西ケ園刊行会、東京	4+7+236 pp., Pls.	小麦粒線虫病 p.231-233. 防除法(種子精選、石灰窒素、輪作).
3	Cobb, N. A.	1936	[東京のサクラ根切土壤中からの標本をもとに <i>Dorylaimus</i> 属の新種が記載された]			No.36-22を参照.
4	江崎梯三	1936	稲の浮塵子(2).	農及園(農業及園芸)	11(10)2415-2423	天敵としてウンカシベンチュウを含む.
5	藤根吉雄	1936	大豆.	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	59:1-101.	休耕年限は7年 p.37. 大豆萎黄病 p.71-72. 線虫根腐病 p.72-74.
6	古川隼男	1936	水溶性クロロピクリンと土壌消毒(1).	日本園芸雑誌	48 巻5:14-17.	既往の研究の紹介.
7	古川隼男	1936	水溶性クロロピクリンと土壌消毒(2).	日本園芸雑誌	48 巻6: 5-11.	シクラメン培養土・大和芋のネマトーダに関する成績を含む.
8	岩槻信治(編)	1936	十月の耕種解説.	農及園(農業及園芸)	11(10)2517-2525.	小麦粒線虫病により半作以下となることのある. 防除法: 種子の厳選、石灰窒素施用.
9	弥富喜三	1936	ズキムシシベンチュウ(天敵)に就いて.	賤機農報	4巻11:5-7.	形態、生活史、性決定.
10	鎌木外岐雄・今村重元	1936	日光の土壌線虫. In: 日光の植物と動物(東照宮編).	養賢堂、東京	p.516-533.	東照宮境内より男性、白根山頂にわたる線虫調査. 次の37種の形態・計測値を記載. <i>Alaimus primitivus</i> , <i>A. lemani</i> , <i>Bastiana exilis</i> , <i>Tripyla satifera</i> , <i>Monhystera filiformis</i> , <i>Prismatolaimus dolichulus</i> , <i>Triolobus gracilis</i> , <i>Cephalobus elongatus</i> , <i>C. persegnis</i> , <i>Cylindrolaimus communis</i> , <i>Plectus cirratus</i> , <i>P. communis</i> , <i>P. geophilus</i> , <i>P. otophorus</i> , <i>Teratoccephalus crassidens</i> , <i>Achromadoraminima</i> , <i>Mononchus papillatus</i> , <i>Tylenchus intermedius</i> , <i>T. lamelliferus</i> , <i>T. leptosoma</i> , <i>T. pratensis</i> , <i>Aphelenchus avenae</i> , <i>Criconea informe</i> , <i>C. komabaensis</i> , <i>Tylencholaimus minimus</i> , <i>T. nikkoensis</i> , <i>T. kirifuri</i> , <i>T. americanus</i> , <i>Dorylaimus carteri</i> , <i>D. centrocercus</i> , <i>C. brigdammensis</i> , <i>D. filiformis</i> , <i>D. monhystera</i> , <i>D. similis</i> , <i>D. superbus</i> , <i>Actinolaimus surinamensis</i> .
11	近藤頼己	1936	土壌の電氣的消毒法.	農及園(農業及園芸)	11(11)2705-2712.	キュウリのネコブセンチュウに関するデータを含む.
12	古宇田清平	1936	東北地方に於ける畑作の特異性に就て(1).	農及園(農業及園芸)	11(1)59-65.	ネマトーダの被害は東北大豆作への一大打撃と述べる.
13	古宇田清平	1936	東北地方に於ける畑作の特異性に就て(2).	農及園(農業及園芸)	11(2)557-562.	大豆・小豆の線虫の被害大なること、及びその対策を強調.
14	鎌塚喜久治	1936	愛知県に於ける飼料及び肥料による小麦病害の伝播事例に就て.	病虫雑(病虫害雑誌)	23(3)194-201.	小麦粒線虫病を含む.
15	三輪勇四郎	1936	珈琲及珈琲樹害虫調査報告(1) 珈琲及珈琲樹の害虫と其防除法.	台湾総督府中央研究所農業部年報	126:1-33.	<i>Tylenchus coffeae</i> (=ミナミネグサレセンチュウ), <i>T. acutocaudatus</i> (<i>Radopholus similis</i>), <i>Heterodera radicolica</i> (=ネコブセンチュウ) p.30 輪作、二硫化炭素による防除.
16	野津六兵衛	1936	故岡田十蔵君を偲ぶ.	日植病報(日本植物病理学会報)	4(3)195-198.	岡田:「ネマトーダ防除法に就て」を第9回中国四国病虫害研究会(1932)において講演.
17	小此木栄治	1936	牛蒡の間引当時に於ける发育の良否と根ととの関係並に根腐病の原因に就て.	農及園(農業及園芸)	11(2)563-570.	コボウの忌地. 原因はネマトーダとする.
18	尾崎重夫	1936	農作物害虫精説.	朝倉書店、東京	5+18+534+64+18 pp., Pls.	線虫類 p.275-283. <i>Heterodera marioni</i> (ネコブセンチュウ), <i>Anguillulina dipsaci</i> (ナミキセンチュウ), <i>A. tritici</i> (コムギツブセンチュウ). 防除法: 土壌消毒(ホルマリン、二硫化炭素、クロロピクリン、石灰窒素)、種苗の選択、輪作.
19	佐々木三男	1936	豆類病害の検索と防除法.	北農	3巻1:13-20.	線虫根腐病、萎黄病を含む. 防除法(輪作、早播、抵抗性品種(大谷地)、多肥、中耕等).
20	高橋太郎兵衛・津曲彦壽	1936	煙草害虫と益虫益菌調査.	専売鹿児島農試報(専売局鹿児島試験場報)	1:1-138, 58 pls.	線虫(ネコブセンチュウ) p.99-101, pl.44.
21	高木信一	1936	一線虫の被染色性.	応動(応用動物学雑誌)	8(6)336-339.	染色剤の比較検討.

22	Thorne, G. & Swanger, H. H.	1936	A monograph of the nematode genera Dorylaimus Dujardin, Aporcelaimus n.g. and Pungentus n.g.	Capita Zool. (Capita Zoologica).	6(4) 1-123	この論文でDorylaimus japonicus Cobb, in Thorne et Swangerを東京のサクラ根辺土壤中からの標本をもとに新種として記載 p.39-40. No.09-11に關連した サンプルか? 本種は後にAndrassyによりOxydirus属に移された(Acta Zool. Sci. Hung. 6(1/2)1-28, 1960). 現在は species inquirendae とされている(Siddiqi, M. R., Proc. helm. Soc. Wash. 33(2) 139-149, 1966).
23	横尾多美男	1936	23. 横尾多美男: 土壤線虫Anguillulina dipsaciのnew host及びbiological race.	応動(応用動物学雑誌)	8(2) 106-109	外国文献の紹介.
24	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(1).	朝鮮農会報	10巻 1:69-72.	概説. 生息場所等による分類.
25	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(2).	朝鮮農会報	10巻 2:29-30.	土壤中からの線虫の分離法、形態.
26	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(3).	朝鮮農会報	10巻 3:9-16.	昆虫寄生性線虫の解説.
27	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(4).	朝鮮農会報	10巻 4:17-24.	植物寄生性線虫の解説.
28	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(5).	朝鮮農会報	10巻 5:13-23.	茎線虫を解説.
29	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(6).	朝鮮農会報	10巻 6:11-20.	地上部寄生性線虫を解説.
30	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(7).	朝鮮農会報	10巻 7:41-50.	根に寄生する線虫(主にHeterodera属)の解説及び防除法.
31	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(8).	朝鮮農会報	10巻 9:22-29.	Anguillulina radicola(ネコブセンチュウ類), Heterodera schachtii(シストセンチュウ類)の解説及びネグサレセンチュウ、ミカンセンチュウを解説.
32	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(9).	朝鮮農会報	10巻 11:26-35.	「植物任意寄生種」を解説.
33	横尾多美男	1936	土壤線虫の話(10).	朝鮮農会報	10巻 12:25-31.	宿主のリストおよび輪作の重要性を述べる.
34	横尾多美男	1936	土壤線虫Heterodera schachtii Schmidtの宿主植物と栽培上注意すべき一、二の問題に就て.	朝鮮総督府農試彙報(朝鮮総督府農業試験場彙報)	8(2/3)167-174.	
35	吉原 操	1936	十字花植物の根腐病と根線虫の駆除予防方法.	園芸之友	32巻6:74-75.	未見
36	吉川徹雄	1936	今村重元君を追悼す.	応動(応用動物学雑誌)	8(4)235-236.	明治37年 2月11日一昭和11年 5月26日.
37	Anon.	1936	全国病害虫発生状況.	農産彙報	36, 47.	宮崎県東臼杵郡富高町の甘藷・蔬菜に線虫発生(10町歩).
38	Anon.	1936	新害虫の蔓延.	病虫雑(病虫害雑誌)	23(2)171.	ネコブセンチュウ北海道に発生
39	Anon.	1936	五月の蔬菜園芸作業.	農及園(農業及園芸)	11(5)1366-1374.	ナスの線虫について注意を促す.
40	Anon.(農林省農務局農産課)	1936	昭和十年度中に於ける全国病害虫発生状況.	病虫雑(病虫害雑誌)	23(7)541-546.	線虫: 宮崎県, 小妻穀実線虫: 愛知県.
41	Anon.(青森農試)	1936	大豆萎黄病予防試験.	青森農試業務年報	昭9:163-164.	ホルマリ、クロルピクリン、昇水水施用.
42	Anon.(青森農試)	1936	牛蒡及び胡蘿蔔ノ線虫防除試験.	青森農試業務年報	昭9:166.	Heterodera marioni.
43	Anon.(千葉農試)	1936	ネマトーダ駆除試験.	千葉農試業務年報	昭9:251-253.	クロルピクリン、二硫化炭素が効果あり.
44	Anon.(福岡農試)	1936	小麦縞萎縮病防除試験.	福岡農試業務年報	昭10:127-132.	線虫による媒介の可能性を指摘. 病虫害雑誌 24(11)868-869, 1937に再録.
45	Anon.(神奈川農試)	1936	床土の消毒試験.	神奈川農試農事試験成績	63(前編):440-442.	騰写. マスクロンのネマトーダをホルマリ、クロルピクリンを用いて防除.
46	Anon.(東京農試)	1936	小麦品種対胡麻病関係試験.	東京農試業務年報	昭9:293-294.	4品種の被害程度を調査.
47	Anon.(岡山農試)	1936	縞萎縮病ノ伝播方法ニ關スル試験.	岡山農試業務年報	昭9:後・27.	小麦. 線虫による伝播を認めず.
48	Anon.(埼玉農試)	1936	根線虫駆除に関する調査.	埼玉農試業務年報	昭9:53.	ナス、ニンジンにクロルピクリン、石灰窒素等を施用.
49	Anon.(埼玉農試)	1936	大和薯ネマトーダ防除試験.	埼玉農試業務年報	昭9:56.	クロルピクリン施用.
50	Anon.(青森農試)	1936	ズクムシシエンチュウ(線虫糸片虫)の寄生調査.	青森農試業務報告	昭9:148.	寄生率23%. 病虫害雑誌 22(6) 462, 1935に再録.
0		1937	昭和12年(1937)			
1	ト蔵梅之丞	1937	現時日本に於ける農作物病害に關係ある重要な問題に就て.	病虫雑(病虫害雑誌)	24(11)933-936.	弥地の原因究明にもふれる.
2	藤根吉雄	1937	北海道に於ける大豆の栽培.	農及園(農業及園芸)	12(1)523-527.	十勝地方において萎黄病、線虫根腐病の被害甚. 長期輪作が必要.
3	原 棋祐	1937	花卉類の病害と其予防法.	中央園芸	42:361-365.	菊の線虫性葉枯病を含む.
4	逸見武雄	1937	土壤温度及び土壌湿度と伝染性植物疾病との關係[IV].	農及園(農業及園芸)	12(10) 2594-2601.	トマトの根腐線虫における土壤湿度とゴール数の關係をふくむ. Godfrey, G.H., J.Agr.Res. 33, 223-254, 1926の紹介.
5	鏑方末彦	1937	病虫防除相談.	賢文館、東京	3+2+10+318 pp.	小麦の殺実線虫 p.88. 蔬菜類の根腐線虫病 p.165-166. クロルピクリン、石灰窒素による土壤消毒、2年輪作を行う.
6	石橋律雄	1937	道府県に於ける植物検査事業.	農及園(農業及園芸)	12(3) 892-900.	埼玉(昭和8年度県令第80号植物検査規則): ネマトーダを含む.
7	石渡繁胤	1937	柞虫に寄生する糸片虫に就て.	南滿鉄農試研究時報(南滿州鉄道株式会社農事試験場研究時報)	19:73-85, 11 pl.	形態、寄生時期、寄生歩合.
8	中台昭之助	1937	ネマトーダの駆除法に就て.	愛土	29:14-15.	西洋ジャコウ. 温湯消毒(110F60分)が効果あり.
9	中台昭之助	1937	「クロルピクリン」瓦斯に依る温床土の消毒法に就て.	愛土	29:2-9-11.	線虫記述なし. 使用方法を解説.
10	高橋	1937	ネマトーダの駆除法に就て.	三重農試彙報(三重県農業試験場彙報)	12:125-27.	石灰窒素、晒粉、ホルマリ、二硫化炭素.
11	高木信一	1937	金亀子虫に宿る1線虫の幼虫の2型.	応動(応用動物学雑誌)	9(3/4)135-136.	講要. Rhabditidaeの耐久型幼虫.
12	高野秀三	1937	甘藷に対する昆虫以外の有害動物. In: 台湾農作物病害虫防除要覧 第三編 特用作物の害虫(殖産局出版第787号).	台湾総督府殖産局、台北	p.183-191, pl. 21, fig. 1-4.	根腐線虫 p.183-185. 形態、生態、加害植物、分布、天敵(Monochus bradyuris, Microcera(菌)、駆除予防法(田畑輪換、落花生等抵抗性植物の輪作、土の乾燥、有機質肥料多用).
13	武智	1937	これから多い蕃茄の病害と防除法に就て(一).	愛媛農時報	804: 4-5.	萎黄病、根腐線虫病(ホルマリ、イネ科作物との輪作)、黒腐病の解説. 茎線虫を含む.
14	田中榮次郎	1937	甘藷の害虫.	日本園芸雑誌	49巻4:26-27.	
15	田中顯三	1937	モザイク病小麦の根.	応動(応用動物学雑誌)	9(1)53.	検出線虫を図示.
16	植原外三	1937	夏菊の品種と促成栽培法.	農及園(農業及園芸)	12(1)179-183.	根に寄生する線虫対策: 線虫の棲息しない床土を用いる.
17	横尾多美男	1937	根腐線虫Heterodera marioniの新寄主植物と朝鮮半島土壤中に於ける土壌線虫(特に根・線虫)の垂直分布及び消長に関する2、3の知見.	応動(応用動物学雑誌)	9(3/4)107-134.	地表下40cm以深には少ない. 季節的消長、自活性線虫の生態にも言及.
18	横尾多美男	1937	小麦殺実線虫(胡麻病)の防除法.	朝鮮農会報	11巻 10:37-49.	朝鮮における発生状況、線虫の生活史、防除法(休耕、肥料・灌水による被害粒の除去).
19	横尾多美男	1937	桑苗根腐線虫Heterodera marioniの温湯浸漬に依る防除法に就いて(予報).	朝鮮総督府農試彙報(朝鮮総督府農業試験場彙報)	9(3)425-430, 2 pls.	50°C 20-30分が最も良い. 農業研究 8巻3:43, 1938に抄録.
20	Anon.	1937	昭和12年度病害虫発生被害状況.	農産彙報	54:55-76.	小麦穀実被害面積23.4町歩.
21	Anon.	1937	東海近畿農事試験場長並病虫主任官会議.	農産彙報	55:66-67.	協議題目として静岡県から「根腐線虫の適切な防除法を承りたし」を提出.
22	Anon.	1937	セルリーの根腐線虫防除法.	賤機農報	5巻8:26.	質問応答. ホルマリによる土壤燻蒸.
23	Anon.(愛知農試)	1937	各種小麦品種ノ小麦殺実線虫ニ対スル抵抗性比較試験.	愛知農試業務年報	昭11:1:65.	147 品種の中では発病差を認めず.
24	Anon.(愛知農試)	1937	小麦殺実線虫ノ寄生伝播ニ關スル試験.	愛知農試業務年報	昭11:1:65-66.	鶏糞による伝播、灌水防除. 病虫害雑誌 25(1) 66, 1938に再録.
25	Anon.(愛知農試)	1937	小麦殺実線虫ト分蘗ノ關係試験.	愛知農試業務年報	昭11:1:66.	小麦の生育ステージと被害の關係. 病虫害雑誌 25(4)306, 1938に再録.
26	Anon.(愛知農試)	1937	小麦稈稈種病同種黒穂病並小麦殺実線虫ノ生活調査.	愛知農試業務年報	昭11:1:66.	昭和元年産の線虫により発病. 病虫害雑誌 25(1)306, 1938に再録.
27	Anon.(青森農試)	1937	大豆萎黄病予防試験.	青森農試業務年報	昭10: 131-132.	ホルマリ、クロルピクリン、昇水.
28	Anon.(千葉農試)	1937	ネマトーダ駆除試験.	千葉農試業務報告	昭10: 325-326.	西洋苜蓿種の温湯又は昇水浸漬処理. クロルピクリンによる土壤消毒. 病虫害雑誌 24(11)833, 19 37に再録.

29	Anon. (高知農試)	1937	大螟虫ノ糸片虫寄生率調査.	高知農試業務過程	昭10:63.	22頭中18頭に寄生、9頭は既に死亡.
30	Anon. (長崎農試)	1937	小麦品種対胡麻病関係試験.	長崎農試業務過程	昭10:307-308.	4品種の被害調査.
31	Anon. (沖縄農試)	1937	ネマトーダに関する試験研究.	沖縄農試業務過程	昭10:59-60.	二硫化炭素を試験.
32	Anon. (埼玉農試)	1937	根線虫駆除に関する調査.	埼玉農試業務過程	昭10:56.	黄蘗葉にクロロピクリン、同乳剤、パーミサイド、二硫化炭素、石灰窒素、硫黄華、ハルク、硫酸ニコチン、テリゲンを試験.
33	Anon. (埼玉農試)	1937	大和薯線虫病駆除試験.	埼玉農試業務過程	昭10:59-60.	試験方法のみ.
34	Anon. (東京府桑苗同業組合)	1937	土壤消毒と原苗処理に依る桑苗の線虫駆除に関する試験報告.	東京府桑苗同業組合	22 pp. 2 tab.	謄写、石灰窒素・二硫化炭素・有機質肥料 多量施与試験、二硫化炭素処理が最も効果あり.
0		1938	昭和13年(1938)			
1	藤井健雄	1938	長州風呂屋を利用したネマトーダ防除の土壤消毒法.	實際園芸	24巻 4:131-	鹿児島農試の成績を紹介。ナスの生育、収量を薬剤防除と比較.
2	原 堪祐	1938	花卉類の病害と其予防法(2).	中央園芸	426:38-	ペコニアの線虫性萎枯病を含む.
3	平田栄吉	1938	朝鮮に於ける小麦の胡椒病と其の防除法.	朝鮮農會報	12巻1:73-89.1 pl	腥黒穂病に次いで被害甚大、病名、被害状況、病状、病原(Tylenchus tritici)、病原線虫の生存力(室内、家畜の飼料・敷葉・堆肥混入時、圃場、病粒の圃場に於ける期間と発病成績)、寄主植物、伝染経路、誘因、品種との関係、防除法(品種、輪作、無病種子選別:篩選、水洗、塩水洗、種子消毒:硫酸鉛、硫酸石灰、亜硫酸鉛、ラウアサイト塗布)。農業研究 8巻4:42-43.1938に抄録.
4	岩垂 悟	1938	北滿移民地病虫調査.	滿鉄調査部	66 pp.	大豆線虫を含む.
5	岩田健一	1938	線虫根腐病と輪作.	北農	5(11) 553-556.	病徴、伝播法、輪作(被害のない作物、被害の少ない作物、加害されやすい作物をリストアップ).
6	弥富三三・山田 稔一郎	1938	ズクムシシベンチュウに関する知見補遺.	応動(応用動物学雑誌)	10(3/4)136-138.	研究史及び天敵としての利用価値を論ずる。教育農芸7(19)84-85.1938に抄録.
7	鐘木外敏雄	1938	農業上注意を要する土壤線虫病と其の防除法.	農業	697:11-22.	線虫類の解説。糸片虫、根に寄生する線虫、茎葉に寄生する線虫、偶然寄生の線虫、防除.
8	三宅 勉	1938	台湾農作物病害虫防除要覧 第5編 綿の病害.	台湾総督府殖産局出版	812号 2+3+41 pp., 14 pls.	線虫 Anguillulina pratensis, Heterodera marioni p.22-23.
9	小此木栄治	1938	葉菜類栽培の実際(経済農業叢書 13).	養賢堂、東京	2+2+5+384 pp	ホウレンソウ(p.241)、セルリー(p.320, 340)のネマトーダ、石灰窒素の使用法.
10	齋海文彦	1938	繊維作物精説.	朝倉書店、東京	2+12+277+10 pp.	線虫(Heterodera radicolica=ネコブセンチュウ)、アマ p.92、黄麻 p.136.
11	Rahm, P. G.	1938	Freilebende und saprophytische Nematoden der Insel Hainan (Mit besonderen Berücksichtigung der bekannt geworden Nematoden Nord-Chinas und Japans).	Annot. Zool. Japon. (Annotaciones Zoologie Japonenses)	17(3/4)646-667.	中国海南島の土壤線虫相の研究。6新種を含む35種を記載。このうちTriopyla asiatica(新種)は兵庫県六甲山からも記録。本種は現在species inquirenadaとされている(Brzesky, M.W., Ann. Zool. Polska Acad. Nauk 22: 157-178, 1964).
12	高橋太郎兵衛・津曲彦寿	1938	日本煙草害虫篇.	専売協会、東京	3+5+131 pp., 51 pl	線虫 p.99-101, pl. 44.
13	滝元清透	1938	胡瓜及びメロンの病害と防除法.	實際園芸	24(4)554-557.	線虫病を含む.
14	田杉平造	1938	播種期及び冬期迄に防除すべき小麦の病	農業	695:38-49.	粒線虫病:病徴、伝染経路、防除法.
15	植原外三(編)	1938	四月の花卉栽培行事.	農及園(農業及園芸)	13(4) 1107-	シクラメン、金魚草、プリムラ類、芍薬等の線虫と防除法.
16	横尾多美男	1938	朝鮮に於ける小麦粒実線虫病に関する2、3の知見.	応動(応用動物学雑誌)	10(3/4) 158-165.	症状、生活史、防除法(休閑、種子篩選、塩水洗、抵抗性品種利用).
17	横尾多美男	1938	朝鮮水原に於ける土壤線虫の垂直分布及び季節的消長に就いて.	朝鮮総督府農試集報(朝鮮総督府農業試験場集報)	9(4) 493-502.	龍舌菜畑の根腐線虫。垂直分布は地温より土壌含水量の影響が大.
18	Anon. (愛知農試)	1938	小麦品種ノ小麦粒実線虫ニ対スル抵抗力比較試験.	愛知農試業務過程	昭12:68.	261品種中7品種はやや抵抗力.
19	Anon. (愛知農試)	1938	小麦粒実線虫ノ寄主体侵入ノ時期並温度ニ関スル試験.	愛知農試業務過程	昭12:69.	播種時に線虫接種は発病、発芽時接種はほとんど発病なし.
20	Anon. (愛知農試)	1938	小麦粒実線虫防除ニ関スル試験.	愛知農試業務過程	昭12:69.	線虫汚染鶏糞の発酵処理.
21	Anon. (愛知農試)	1938	小麦腥黒穂病、同腥黒穂病及び小麦粒実線虫ノ生活調査.	愛知農試業務過程	昭12:69.	昭和3年産の被害粒では発病せず。本線虫関係の成績は病虫害雑誌 26(4) 286, 1939に再録.
22	Anon. (青森農試)	1938	大豆萎黄病予防試験.	青森農試業務年報	昭11:110-111.	ホルマリン、クロールピクリン、昇水水施用.
23	Anon. (福岡農試)	1938	ネマトーダ防除試験.	福岡農試業務報告	昭11:307.	西洋芍薬温湯処理。土壤のクロールピクリン処理.
24	Anon. (神奈川農試)	1938	線虫防除試験.	神奈川農試農事試験成績	72:76-77.	クロールピクリン、二硫化炭素、生石灰等による殺虫試験.
25	Anon. (長崎農試)	1938	胡麻病ト品種ノ関係試験.	長崎農試業務過程	昭11:196-197.	5品種の被害調査.
26	Anon. (埼玉農試)	1938	根線虫駆除に関する試験.	埼玉農試業務過程	昭11:54.	クロールピクリン.
27	Anon. (埼玉農試)	1938	大和薯ネマトーダ防除試験.	埼玉農試業務過程	昭11:56.	概要のみ。結果を含まず.
28	Anon. (静岡農試)	1938	ズクムシシベンチュウに関する調査.	静岡農試業務過程	昭11:120.	寄生率0-4.7%.
0		1939	昭和14年(1939)			
1	鐘谷大節	1939	青森県に於ける馬鈴薯線虫病の一觀察.	病虫雑誌(病虫害雑誌)	26(1) 64-67.	Heterodera marioniに最も近似.
2	福井玉夫・井上 巖	1939	日本産線形類の研究 I. 研究の歴史.	植及動(植物及動物)	7(1) 44-46.	主に外国における研究史.
3	日野 巖	1939	忌地病原論.	教育農芸と作業	6(11) 1270-	Heterodera属線虫による甜菜、馬鈴薯の忌地に言及.
4	平田栄吉	1939	朝鮮に於ける小麦の胡椒病と其の防除法(1).	病虫雑誌(病虫害雑誌)	26(9) 636-644.	被害、病状、病原、線虫の生存力.
5	平田栄吉	1939	朝鮮に於ける小麦の胡椒病と其の防除法(2).	病虫雑誌(病虫害雑誌)	26(10)709-718.	寄主植物、伝染経路、誘因、小麦品種の比較、防除法.
6	穂坂八郎	1939	花卉園芸.	西ヶ原刊行会、東京	8+435 pp.	線虫 p.320-322.
7	石川正示	1939	「線虫」に免疫なる大豆品種の育成.	病虫害時報	1巻5:10.	未見.
8	弥富三三	1939	寄生虫と寄生率との類型的関係.	応動(応用動物学雑誌)	11(3/4) 102-105.	ズイムシアカタマゴバチ、ズイムシベンチュウ、Tricogramma dendroliniについて論ずる.
9	古宇田清平	1939	主要畑作物の栽培[7].	農及園(農業及園芸)	14(7) 1819-	大豆萎黄病の病原線虫の解説。当時知られていた防除法を記す.
10	鎌塚喜久治	1939	小麦粒線虫の伝播経路と鶏糞の処理法.	農業	707:5-14.	鶏糞の発酵処理等.
11	鎌塚喜久治	1939	小麦粒線虫と輸入飼料及鶏糞の処理法.	農芸(安城農芸研究会)	190:17-21.	被害、伝播経路、溝芝方面よりの飼料用屑小麦輸入状況に其の混淆物、防除に関する試験(混入鶏糞の処理法、鶏糞の堆肥発酵).
12	前田	1939	県下に於ける作物の病害に就て(二).	三重農試集報(三重県農業試験場集報)	145:15-18.	麦の線虫病。志摩郡波切町付近に被害が多い.
13	武笠耕三	1939	甜菜受入所集積土壌による線虫の伝播.	北農	6(10) 462-463.	各地の受入所の土壌中の根腐線虫密度を推定.
14	村田寿太郎	1939	菊の病虫害防除.	新農業	4:70-74.	線虫性萎枯病の病徴、防除法(被害葉焼却、焼土)。農業研究10巻1:52. 1940に抄録.
15	中田覚五郎・明日山秀文	1939	満州国主要作物病害調査報告.	満州国産産部資料	32:166 pp.	小麦粒線虫 p.21-22. 大豆萎黄病 p.62-63.
16	野々村増男	1939	胡瓜の促成栽培と其の経済的研究[2].	農及園(農業及園芸)	14(9) 2165-	「灌漑以外に完全なる線虫駆除法は無いように思われる」.
17	野津六兵衛	1939	線虫生活史の概要並に有機物との関係.	研習	346:2-15.	生活史、有機物と幼虫の生存期間・寄生・繁殖について試験。島根農試77年記念報 No.5, 25-26 1953に抄録.
18	龍江省立農事試験場長	1939	龍江省立農事試験場病害虫発生状況調査報告.	病虫害時報	1巻 4:12-13.	大豆のネマトーダ被害大.
19	高野秀三・柳原政之	1939	甘蔗の害虫並に有害動物に関する調査研究.	台湾総督府糖業試験(台湾総督府糖業試験所報告)	2, 2+2+13+31+20 pp., 18 pls.	線虫 p.281-283, pl. 6, fig.6 A-B. 形態、分布、経過習性、天敵、防除法(2-4月の灌水、輪作、早期収穫、有機質多用).
20	竹内 鼎	1939	五月の蔬菜園芸作業.	農及園(農業及園芸)	14(5) 1357-	ナスのネマトーダ対策:輪作年限の休閑を多くする.
21	滝元清透	1939	花卉及温室作物の病害.	養賢堂、東京	1+7+166 pp., 2 tabs.	菊の葉枯線虫病 p.51-52. ケイトウの根線虫 p. 57. グロキシニアの葉枯線虫病 p. 62.
22	富樫浩吾	1939	旅で会ふた学者の横顔(3).	日植病報(日本植物病理学会報)	9(4) 236-242.	H.W.Wollenweber(ジャガイモシストセンチュウの命名者)の紹介を含む.
23	植原外三	1939	菊の切り花促成栽培.	農及園(農業及園芸)	14(6) 1557-	床土として線虫の棲息しない土を用いる.

24	山田惣一郎	1939	主要農業薬剤に就いて.	賤機農報	7巻 2: 12-14.	本シリーズ第7報 燻蒸剤(二硫化炭素、クロロピクリン)を解説.
25	横尾多美男	1939	朝鮮に於ける秋播小麦の穀実線虫病(胡椒病)に関する研究(1).	朝鮮総督府農試彙報(朝鮮総督府農業試験場彙報)	10(4) 275-296.	出穂期の違いと線虫の関係.
26	横尾多美男	1939	朝鮮に於ける小麦の穀実線虫病に関する知見 II. 被害粒の穂に於ける着生部位と被害率算定法に就いて.	応動(応用動物学雑誌)	11(5) 177-188.	線虫の生活史、被害小麦の概要. 穂の中央部及び下部に多く着生. 小穂花の分化の順序と一致.
27	Anon.	1939	全国病害虫発生状況.	農産彙報	69. 45.	愛知県小麦穀実線虫病発生面積 600町歩.
28	Anon.	1939	昭和14年度病害虫発生被害状況.	農産彙報	70: 73-88.	小麦穀実線虫病の被害面積、減損率(0.8%).
29	Anon.	1939	発生報告.	病虫害時報	1巻 1: 11-14.	満州国内に於ける病害虫発生状況: タバコのネマトダ(恙虫).
30	Anon. (朝鮮黄海道農試)	1939	小麦播種期対胡椒病発生関係試験.	朝鮮黄海道農試事業報	昭13: 183-184.	謄写. 10月5日播種が最も多く発病.
31	Anon. (朝鮮黄海道農試)	1939	小麦胡椒病二対スル薬剤処理試験.	朝鮮黄海道農試事業報	昭13: 183-184.	謄写. 亜硫酸鉛、砒酸鉛種子粉衣(葉害あり). デリス石鹼、カンコウ、硫酸ニコチン等は効果なし.
32	Anon. (満州国産業部)	1939	満州病害虫防除要覧.	産業部資料	44: 1+9+440 pp. 22 pls.	大豆萎病 p.170-171(防除法 5~6年休養、早期播種、多肥、農機具等の 清掃、クロロピクリン).
33	Anon. (奈良県経済部)	1939	主要農用薬剤便覧.	病虫害(病虫害雑誌)	26(10) 758-769.	クロロピクリン、二硫化炭素の土壌用法を含む.
34	Anon. (大分農試)	1939	浮塵子の天敵に関する調査.	病虫害(病虫害雑誌)	26(12) 900-903.	ヒメビウカにつくウカンシヘンチュウを含む.
35	Anon. (埼玉農試)	1939	根線虫駆除に関する試験.	埼玉農試業務功程	昭12: 52.	クロロピクリン他.
36	Anon. (埼玉農試)	1939	大和著ネマトダ防除試験.	埼玉農試業務功程	昭12: 54-55.	概要のみ.
37	Anon. (静岡農試)	1939	ズキムシヘンチュウに関する試験.	青森農試業務報告	昭12: 137-138.	ニカメイチュウ幼虫に対する寄生率: 1化期 0%、2化期 24.8-79.1%.
0		1940	昭和15年(1940)			
1	遠藤 茂	1940	庭木と草花の病害.	明文堂、東京	3+12+386 pp.	菊の線虫葉枯病 p.196-198. 百日草の角斑病 p.213-215. ベゴニアの線虫葉枯病 p. 247-249.
2	遠藤 卓	1940	嚙による土壌内線虫の捕殺.	科学	10(7) 256-259.	線虫捕食菌の捕食器官を解説.
3	福井五夫・井上 巖	1940	Ueber eine neue Parachordodes-Art aus der Mandschurei.	Annot. Zool. Japon. (Annotationes Zoologie Japonenses)	19(2) 89-91.	満州からP. orientalis (新種)を記載.
4	福井五夫・井上 巖	1940	日本産「ハリガネムシ」類ノ研究(概報).	日本寄生虫学会記事	12. 37.	講要. 生活史、行動.
5	春川忠吉・徳永 雅明	1940	黄條蚕葉虫の寄生虫に就いて.	応動(応用動物学雑誌)	12(3/4) 157-158.	蜘蛛科糸片虫を含む.
6	井上 巖	1940	ハマキリより得たるハリガネムシChordodes sp.に関する生態的研究(予報).	植及動(植物及動物)	8(9) 1445-1454.	行動、生活史、卵の発生.
7	石山哲爾・土山 哲夫	1940				[No.41-3を参照.]
8	岩崎安忠・筒井 茂泰	1940	北滿に於ける蔬菜栽培法(開拓農業叢書).	満州事情案内所、新京	1+3+9+233 pp. 2 pls.	線虫 p. 106(トマト), p. 160 (ナガイモ).
9	弥富喜三	1940	麦の害虫.	賤機農報	8巻 11: 65-68.	茎線虫を含む. 農業研究11巻1: 54. 1941に抄録.
10	牧 高治	1940	甘蔗を害する線虫類の防除に就いて. In: 蔗作改良座談会講演集		p. 79.	未見
11	武笠耕三	1940	温室及び温床の線虫根腐病防除法.	北農	7(5) 183-189.	症状、被害植物、防除法(土壌: 熱・薬剤(クロロピクリン)・陽光処理、被害株の除去.
12	武笠耕三	1940	線虫根腐病の防除法について.	園芸(北海道)	32巻 5: 7-17.	病徴、寄主植物、輪作、土壌消毒.
13	武笠耕三・岩田 健一	1940	根腐線虫Heterodera marioni及び大豆萎黄病線虫H. schachtiiの熱処理に関する調査.	札幌農林学会報	31(153) 375-376.	講要
14	野津六兵衛	1940	土壌粒子と線虫との関係.	研習	358: 2-17.	線虫の垂直・水平移動距離、寄生、繁殖. 島根農試77年記念報 No.5. 26. 1953に抄録.
15	野津六兵衛	1940	桑線虫防除に関する試験.	島根農試特報(島根県蚕糸試験場特別報告)	5+95 pp., 19 pls., 6+3 tabs.	桑線虫の形態(卵、幼虫、成虫)、卵(卵期間、孵化)、幼虫(生存期間、寄生状況、土壌粒子と移動・寄生)、土壌有機物と桑線虫との関係(土壌有機物の生存・寄生・繁殖・被害)、虫えいの形成、成虫(産卵、生存期間)、生活史(発生回数、各態の期間、越冬状況)、桑の生育に及ぼす影響、防除試験(土壌消毒、土地整調、栽培法、抵抗性桑品種). 一部の図表を除き病虫害雑誌の次の号に再録. 27(7) 529-536(8) 601-608, (9) 671-678, (10) 739-748, (11) 801-807, (12) 904-906, 28(1) 78-81, (2) 149-155, (3) 219-226, (4) 294-303, (5) 382-387, (7) 546-549. 1940, 1941. 島根農試77年記念報 No.5. 26-27. 1953に抄録(水戸野). 試験地付近の桑園からはアレナリアネコブセンチュウが検出されると云々(No. 78-177. 特に p. 378).
16	小此木栄治	1940	埼玉県に於ける胡蘿蔔の栽培[1].	農及園(農業及園芸)	15(1) 115-121.	「ネマトダの害を受け易き土地はなるべく之を避くる」
17	横尾多美男	1940	根腐線虫Heterodera marioniの新寄主植物朝鮮人參と従来報告された主要寄主植物とについて.	朝鮮総督府農試彙報(朝鮮総督府農業試験場彙報)	11(4) 255-268. 2 pls.	文献のまとめ.
18	横尾多美男	1940	朝鮮に於ける小麦穀実線虫病に関する知見(III) 收穫時脱落虫い内の幼虫の寄生能力に対する環境抵抗と土壤中に於ける幼虫の垂直の上昇能力に就いて.	応動(応用動物学雑誌)	11(6) 207-217.	罹病率と降水量は無関係. 地表下40cmに埋めた被害穀実からも線虫遊出、健全小麦に寄生. 農業研究 10(5) 527, 1940に抄録.
19	横尾多美男	1940	朝鮮に於ける小麦穀実線虫病に関する知見(IV) 播種期の移動による罹病性の変異に就いて.	応動(応用動物学雑誌)	12(1) 1-12.	播種期が遅くなるほど被害は大. 農業研究 10(6) 639, 1940に抄録.
20	横尾多美男	1940	東亜に於ける小麦穀実線虫病の分布と発生防止に関する知見(1).	農及園(農業及園芸)	15(7) 1468-	病原線虫、症状、生態、分布.
21	横尾多美男	1940	東亜に於ける小麦穀実線虫病の分布と発生防止に関する知見(2).	農及園(農業及園芸)	15(8) 1670-	伝播経路と対策、抵抗性品種.
22	Anon.	1940	恐るべき線虫病-病の甚大な被害.	病虫害(病虫害雑誌)	27(1) 90.	北海道の甜菜に大発生.
23	Anon. (愛知農試)	1940	小麦粒線虫病二対スル小麦品種ノ抵抗性比較試験.	愛知農試業務功程	昭13: 61.	170品種を試験 若干が抵抗性. 病虫害雑誌 27(9) 646. 1940に再録.
24	Anon. (愛知農試)	1940	小麦粒線虫病防除法二關スル試験.	愛知農試業務功程	昭13: 61.	堆肥発酵7日間で殆ど完全. ホルマリン処理も相当の効果. 病虫害雑誌 27(7) 493-497. 1940に再録.
25	Anon. (三重農試)	1940	温床の害虫.	三重農試彙報(三重県農業試験場彙報)	15. 10.	ネマトダ(ネコブセンチュウ)を解説.
26	Anon. (宮城農試)	1940	重要害虫ノ分布調査.	宮城農試業務功程	昭11: 185.	土壌線虫 Heterodera schachtii: 全県下の畑作物に多.
27	Anon. (埼玉農試)	1940	根線虫駆除に関する試験.	埼玉農試業務功程	昭13: 62-63.	クロロピクリン.
28	Anon. (埼玉農試)	1940	大和著ネマトダ防除試験.	埼玉農試業務功程	昭13: 64-68.	種々の温湯浸漬、クロロピクリンによる土壌消毒.
29	Anon. (静岡農試)	1940	「ズキムシヘンチュウ」の分布調査.	青森農試業務報告	昭13: 224.	沼津市(寄生率66.1%)、蒲原町(5.9%)、神奈川(0.9%)、その他(秋田~長崎0%).
30	Anon. (静岡農試)	1940	一寄主に対する糸片虫の寄生頭数と性別.	青森農試業務報告	昭13: 225-226.	多寄生を行う事もある. その場合は糸片虫の大部分は雄.
31	Anon. (静岡農試)	1940	「ズキムシヘンチュウ」の放飼試験.	青森農試業務報告	昭13: 226.	ポットでは寄生、本田では寄生せず.
32	Anon. (名古屋税関)	1940	養鶏飼料として輸入せらるる屑小麦の病菌害虫に関する調査(昭和14年10月).	病虫害(病虫害雑誌)	27(6) 460-464.	中華民国産小麦の小麦粒線虫 罹病率調査: 重量比で10%内外.
0		1941	昭和16年(1941)			
1	平根誠一・東 元樹	1941	煙草の線虫病に就て.	台湾専売局煙草研究資料	No. 6.	未見
2	堀 正太郎	1941	萎黄性の病害予防並に堆肥の卓効(承前).	病虫害(病虫害雑誌)	28(10) 704-711.	桑の線虫(No.40-15を引用)、大豆の線虫病に対する効果の解説を含む.
3	石山哲爾・土山 哲夫	1941	北滿農作物病害虫図説(農事指導資料一冊).	満州国立哈爾濱農試、哈爾濱	3+4+190 pp., 30 pls.	大豆萎黄病 p. 86-88. pl. 12. 発行年は奥付 による. 表紙では康徳6年2月(1940).
4	岩垂 悟	1941	青年満州国理想を持て.	病虫害時報	3巻 3: 2-3.	小麦粒線虫病は国外から来ると述べる.
5	岩田健一	1941	輪作による大豆萎黄病防除の基礎調査.	農及園(農業及園芸)	16(3) 429-435.	大豆・小豆・菜豆・花豆以外の作物による5-6年の輪作で根絶.
6	岩槻信治(編)	1941	四月の耕種作業.	農及園(農業及園芸)	16(4) 749-755.	小麦穀実線虫病の鑑別を含む.
7	武笠耕三	1941	輪作による線虫根腐病防除.	北農	8(5) 185-190.	鉢及び桶試験結果. No. 41-18を参照.
8	村越信夫	1941	満州大豆増産のために線虫研究所設立の急務.	病虫害時報	3巻 2: 2.	北滿の大豆に線虫の被害の著しいことから、研究所の設立を提唱. 著者は克山農試場長.
9	野津六兵衛	1941				[No.40-15を参照.]

10	高木信一	1941	Studies on a nematode parasitic of the common beetle, <i>Anomala testaceipes</i> .	J. Coll. Agr., Tokyo Imp. Univ. (Journal of College of Agriculture, Imperial University of Tokyo)	15(1) 1-11	新属新種 <i>Pseudodiplogaster nasuensis</i> を記載。卵発生及び生態を含む。現在は <i>genus inquirenda</i> とされている (Andrassy, I. Evolution as a basis for the systematization of nematode s. Pitmann, London, 1976, p. 231).
11	田中一郎・内田重義	1941	水稲異常生育に就て。	病虫雑 (病虫害雑誌)	28(3) 193-200.	沿革と分布 (北海道内)、異常生育と被害初・栽培法・土壌肥料との関係、原因 (<i>Anguillulina</i> 属を差・初内側・玄米表面に発見。横尾多美男が同定)。
12	田中 稔	1941	作物並に品種の選択。	農及園 (農業及園芸)	16(6) 1067-	十勝地方の大豆の線虫害甚だしい。
13	山口満太郎	1941	土壌消毒に就て。	新農業	10: 70-71.	線虫叙述なし。物理的方法、化学的方法を概説。
14	Anon.	1941	[根瘤線虫につき寄生の範囲、伝播・防除等御教示を乞ふ] 答	教育農芸	10(1) 111.	
15	Anon.	1941	千葉県に於ける甘藷ネマトーダの被害。	病虫雑 (病虫害雑誌)	28(5) 387.	減収率 別園面積。
16	Anon.	1941	線虫根瘤病の新駆除法。	病虫雑 (病虫害雑誌)	28(7) 550.	No.41-18を紹介。
17	Anon.	1941	立ん穂の正体は線虫	病虫雑 (病虫害雑誌)	28(10) 774.	No.41-11を紹介。
18	Anon. (北海道農試)	1941	輪作による根線虫根瘤病防除。	北海道農試時報 (北海道農業試験場時報)	147: 10-15.	3~5年輪作試験結果。No.41-7に紹介記事。
0		1942	昭和17年 (1942)			
1	浅見興七他	1942	座談会「作物品種の耐虫性に就て」。	農及園 (農業及園芸)	17(9) 1200-	甘藷のネマトーダ抵抗性の品種間差異につき発言 (小野田正利・後藤 勉)。
2	深井勝海	1942	養鶏飼料として輸入せらるる肩小麦中に混在する殺菌線虫の消毒並に之が生死鑑別	農林省農事改良資料	158(下) 117.	未見
3	後藤和夫	1942	甘藷線虫病。	日植病報 (日本植物病理学会報)	11(4) 204-207.	分布、病徴、病原 (<i>Heterodera radicolica</i>)、抵抗性品種、土質、防除。農業研究 12(8) 781, 1942に抄録
4	印東弘玄	1942	東京ニテ発見シタル <i>Arthrotylus oligospora</i> <i>Fresenius</i> 二就テ	植雑 (植物研究雑誌)	19(11) 645-652.	線虫を捕捉した園を图示。
5	石川正示	1942	市県別大豆根瘤着生状況及大豆線虫寄生状況調査成績 (第1報)。	満洲公主嶺農試研究時報 (満洲国立公主嶺農事試験場研究時報)	39: 77-84.	調査した13省の内7省で検出。
6	田杉平司	1942	石山信一先生 (明治21年-昭和16年)。	日植病報 (日本植物病理学会報)	11(4) 159-161.	大正6年頃葉の線虫病を研究 (未発表?)。
7	堀内吉彦	1942	改訂増補植物病理学通論。	誠文堂新光社、東京	7+23+480+14 pp.	線虫病 (<i>Heterodera marioni</i> , <i>H. Schachtii</i> , <i>Tylenchus tritici</i> , <i>T. dipsaci</i> , <i>Aphelenchus fragariae</i> , <i>A. Ritzema-Bosi</i> , <i>A. oleosistis</i> , <i>A. cocophilus</i>) p. 120-134, 378. 土壌病予防法 p. 424-434.
8	Anon.	1942	黄麻の研究 附. 仏領印度支那に於ける黄麻	南洋資料 (南洋経済研究所、東京)	No.9, 45 pp.	黄麻根腐病 (<i>Heterodera radicolica</i>) p. 13-14.
9	Anon. (満洲農試)	1942	満洲病虫害要覧。	満洲事情案内所、新京	2+9+442 pp., 27 pls.	1939年版の増補。大豆萎黄病 p. 175-176.
10	Anon. (北海道農試)	1942	線虫根瘤病と輪作との関係試験成績。	北海道農業試験場業務概要	昭15: 215-218.	No.41-18を参照。
11	Anon. (静岡農試)	1942	天敵放飼に依る環境抵抗の人為的増強 (2) <i>Zキムシシヘンチュウ</i> 放飼試験。	青森農試業務報告	昭15: 41-42.	ポットでは高寄生率、圃場では僅少。
12	Anon. (静岡農試)	1942	<i>スキムシシヘンチュウ</i> の経過寄生性。	青森農試業務報告	昭15: 42-43.	寄生時期、寄生率、寄生頭数、性比。
0		1943	昭和18年 (1943)			
1	後藤和夫	1943	甘藷の黒斑、根腐、萎割及び線虫病。	農業	749: 48-59	線虫病: 病徴、病原 (<i>Heterodera marioni</i>)、防除 (抵抗性品種、輪作等)。満洲の農業 15巻4 に抄録あるいは再録 (未見)。
2	池内真吾	1943	柞蚕に寄生する糸片虫に関する研究。	満洲農学会誌	4(3/4) 495-511.	満洲内の分布、病徴、寄生時期、寄主に及ぼす影響、寄生経過。
3	石川正示	1943	市県別大豆根瘤着生状況及大豆線虫寄生状況調査成績 (第2報)。	満洲公主嶺農試研究時報 (満洲国立公主嶺農事試験場研究時報)	42: 163-169.	検出地を地図で示す。「龍江省は最もその蔓延が著しい」
4	石川正示・末延武留・高原光隆	1943	作物学的見地よる大豆線虫に関する研究 第1報 連輪作と線虫被害並に線虫抵抗性の品種間差異に関する知見	満洲公主嶺農試研究時報 (満洲国立公主嶺農事試験場研究時報)	40: 91-100.	38品種の連輪作による収量の推移と被害状況。3年輪作では被害なし。3年連作で全滅あるいはそれに近い被害。農業研究 14(3) 169, 1944に抄録
5	岩垂 悟	1943	満洲国に於ける農作物病害試験研究の概要。	札幌農林学会報	36(1)52-83.	線虫を含む。
6	岩垂 悟・佐々木三男・内藤仲人	1943	満洲国農作物病害目録 (予報)。	満洲農学会誌	5(1) 119-151.	小麦粒線虫病、大豆萎黄病を含む。
7	岩垂 悟・佐々木三男・内藤仲人	1943	満洲国農作物病害目録。	満洲国立農試報 (満洲国立農事試験場報告)	40: 233pp.	大豆萎黄病 p. 47-49.
8	河村栄吉	1943	病害防除の理論と実際。	中央農業会、東京	3+281 pp.	小麦の粒線虫病 p.180-185、甘藷の線虫病 p.220-222.
9	松本 鏡	1943	植物病理学に於ける最近の進歩 [8]。	農及園 (農業及園芸)	18(8) 827-830.	苗圃の消毒: クロロピクリン、二硫化炭素、二塩化エチレン。
10	松下真幸	1943	森林害虫学。	富山房、東京	2+2+11+410+10 pp., 1 pl.	線虫類 p.407-410. 主にNo.32-22を引用。
11	森下 薫	1943	線形動物。In: 系統動物学 第1巻 (大島・岡田編)。	養賢堂、東京	p. 817-872.	形態、生態等を分類群毎に解説。植物寄生性線虫を含む。
12	中村寿夫	1943	大東亜に於ける煙草病害。	農及園 (農業及園芸)	18(11) 1153-1157.	線虫病 <i>Caconemadradicolica</i> (ネコブセンチュウ): 内地では、九州の一部、静岡県伊付付近を除き著しい被害なし。
13	滝元清透	1943	水田葉先の枯死する病害について。	病虫雑 (病虫害雑誌)	30(4) 113-117.	White tip に似るが、水分不足による生理障害と結論。
14	田中彰一	1943	糸瓜の病害 (1)。	病虫雑 (病虫害雑誌)	30(6) 194-198.	根線虫病 <i>Heterodera radicolica</i> (ネコブセンチュウ類) をあげる。
15	田中彰一	1943	糸瓜の病害 (2)。	病虫雑 (病虫害雑誌)	30(7) 217-221.	ネコブセンチュウの寄生を受けやすいが、被害は少ない。
16	富根浩吉・川村正三・八木三郎	1943	岩手県に於ける栽培植物病害の基礎調査 第2報昭和17年度	岩手農試業務報告 (岩手県農業試験場報告)	10: 5+47 pp.	小麦の線虫病 (コムギツブセンチュウ): 気仙郡猪川村 80-100%感染が5反。p.5.
17	山口 左仲	1943	Saitenwürmer in Japan. I. <i>Paragordionus kawamurai</i> n. sp.	日本生物地理学会会報	13(10) 65-68.	Ontake (御岳?) から新種のハリガネムシを記載。
18	[満洲国] 興農部 (編)	1943	満洲営農改善指導要領。	満洲事情案内所、新京	1+9+ 258 pp., 3 tabs, 1 map.	大豆線虫 p. 83-84, 98. 防除法5年輪作、多肥、抵抗性品種 (黒大豆) 利用。
19	Anon. (愛知農試)	1943	小麦粒線虫病原ノ熱処理ニ関スル試験・調査。	愛知農試業務報告	昭16: 39	乾熱65°C30分処理、乾熱95°C30分以上で発病を認めず。病虫害雑誌 30(8) 262, (9) 285-286, 1943に再録。
20	Anon. (愛知農試)	1943	輸入肩小麦ノ病原性ニ関スル調査 (二年目)。	愛知農試業務報告	昭16: 39.	昭和14, 15年度輸入小麦の発病を調査。病虫害雑誌 30(9) 286, 1943に再録。
21	Anon. (愛知農試)	1943	小麦線虫病予防鶏糞処理及萎黄病防除ニ関スル試験	愛知農試業務報告	昭17: 38.	鶏糞・線虫に対しては石灰窒素の効果は劣り、加水発酵区は発病を認めず。
22	Anon. (愛知農試)	1943	小麦線虫病及罹黒穂病ノ生活力調査。	愛知農試業務報告	昭17: 38.	鶏糞。昭和13・14年度以前は発病せず。
23	Anon. (専売局鹿児島試験場)	1943	線虫病調査。	専売局鹿児島試験場業務概要	自昭9至昭16: 63-64.	早稲、早取、土寄回数増加、ホルマリンの土壌処理が線虫被害軽減。
24	Anon. (専売局水戸試験場)	1943	病虫害の駆除予防に関する試験。	専売局水戸試験場業務概要	自昭5至昭16: 13-17.	土壌消毒、根線虫: 病徴、生活史、到死温度、土壌中の分布、pHとの関係。
0		1944	昭和19年 (1944)			
1	後藤和夫	1944	甘藷線虫病。	日本語類訳株式会社	11:	未見。No.42-3 の抄録か?
2	帆足準之助	1944	北支に於ける土壌線虫に因る甘藷の新病害。	農及園 (農業及園芸)	19(6) 607-608.	No.44-4を参照。
3	池内真吾	1944	柞蚕に寄生する糸片虫に関する観察 (主として寄主体内に於ける発育状況に就いて)。	応動 (応用動物学雑誌)	15(1-4) 156-159.	講要
4	石谷福信・帆足準之助	1944	土壌線虫 (<i>Aphelenchoides</i> n.sp.) による甘藷新病害に就て。	華北農業	6: 95-104.	分布及び被害状況、病原線虫、病徴、伝染経路と防除対策、生活史、生態、寄主植物。新種としての記載は含まず。
5	野島友雄	1944	北支に於ける小麦の黒穂病及殺実線虫病に就て。	華北農業	6: 81-87.	殺実線虫病: 河北省・江蘇省に発生。
6	織田富士夫・滝元清透	1944	蔬菜病虫害。	明文堂、東京	312 pp.	根線虫病: ニンジン p. 79-8, 瓜類 p. 106.
7	大石俊雄	1944	蔬菜の害虫防除法。	泰文堂、東京	11+176 pp., 1 pl.	根線虫 p. 112-116. 被害植物、無感染植物、被害徴候、形態、経過修正、駆除予防法。
8	田中一郎・成田武四	1944	北方の農作物病害。	北方文化出版社、東京・札幌	2+2+163 pp.	大豆萎黄病 p.10, 13, 56, 90-93. 大豆線虫根・病 p. 93, 小麦根線虫 p. 95, 甜菜線虫根瘤病 p.134-135, 除虫菊線虫根瘤病 p. 139. ルーサン線虫根瘤病 p. 143.
9	内田重義	1944	北方農作物の栽培。	北方文化出版社、東京・札幌	2+1+14+40 3 pp.	豆類病害総合防除法例 (十勝地方標準) の中大豆・小豆・菜豆萎黄病、根線虫 (同前及び豌豆)、をあげる p. 225-230. 甜菜・除虫菊の項でも線虫を害虫として解説。

10	横尾多美男	1944	小麦穀実線虫に関する調査研究.	朝鮮総督府農試研報 (朝鮮総督府農業試験場研究報告)	21: 1-96, 9 pls.	研究史、形態、分布、加害状況(小麦の生育、虫えいの形成、被害率、性比)、寄主植物、生態(生存年数、致死温度、移動距離、土壌における生存、幼虫の虫えいからの脱出、産卵、性の分化)、小麦の罹病性(小麦の播種期、播種法、品種の比較)、伝播経路と防除対策(種子の篩別、比重選、薬剤粉衣等)。
11	吉井 甫	1944	稲の線虫心枯病(予報).	農及園(農業及園芸)	19(11) 981-982.	発生時期、病徴、原因(Aphelenchoides属線虫。横尾多美男が同定)、防除(種粉の更新、種苗の温湯冷水浸、苗代の管理)。
12	湯浅啓温	1944	甘藷根腐線虫.	農及園(農業及園芸)	19(12) 表紙写真	病徴
0	1945	昭和20年(1945)				
1	逸見武雄	1945	ビルマの植物病害及び菌類とその研究[1].	農及園(農業及園芸)	20(1) 29-32.	稲のUfraの病原としてTylenchus angustus(=Ditylenchus angustus)を紹介。
2	飯塚喜久治	1945	食糧作物の病害防除	富民協会、東京	86 pp.	小麦の粒線虫病 p.56-57.
0	1946	昭和21年(1946)				
1	河合一郎	1946	東北地方に於ける病害防除技術の回顧と展望.	農業技術	1巻4: 15-21.	大豆萎黄病を含む。
2	河合一郎	1946	6月の農作物病害防除作業.	農及園(農業および園芸)	21(6) 272-274.	甘藷の耐線虫性品種にふれる。
3	松本 崑	1946	Tabacco disease in Formosa.	台北大農研報	1(1) 1-26, 11 pls.	未見。線虫を含む。
4	村田寿太郎	1946	ネマトーダの駆除.	農及園(農業および園芸)	21(3) 122.	ネコブセンチュウ。輪作及びクロルピクリンによる土壌消毒。
5	小野田正利	1946	甘藷新品種の特性[1].	農及園(農業および園芸)	21(6) 235-238.	線虫抵抗性程度: 農林1、2、3、4号。
6	小野田正利	1946	甘藷新品種の特性[2].	農及園(農業および園芸)	21(7) 285-287.	線虫抵抗性程度: 農林4、5、6号。
7	小野田正利	1946	甘藷の現代主要品種解説[1].	農及園(農業および園芸)	21(9) 453-456.	線虫抵抗性程度: 農林7号、沖繩100号、護国語、兼六、岩手2号。
8	小野田正利	1946	甘藷の現代主要品種解説[2].	農及園(農業および園芸)	21(10) 501-504.	線虫抵抗性程度: 茨城1号、源氏、紅赤、七福、花魁、太白。
9	渋谷正健	1946	甘藷の根腐線虫及び塩素酸カリに対する品種間差異.	甘藷研究会記録(第1回全九州地区)		於鹿児島高農。昭和21年1月。未見。
10	吉井 甫	1946	稲線虫心枯病に関する報告。九大農林省委託研究試験成績概要(昭和20年度)	九州大学農学部	11 pp.	研究史、線虫の存在部位、線虫の分類学的考察、防除試験(温湯浸)、苗代・本田に於ける伝播。
11	富樫浩吉	1946	(未詳)	岩手農試彙報(岩手県農業試験場彙報)	11, 8	未見(冊子体目録に未収録の文献)
0	1947	昭和22年(1947)				
1	深野 弘・横山佐太正	1947	稲心枯線虫病の穂に於ける線虫寄生並に本病の灌漑水伝染と種粒伝播に関する考察	九州各県聯合病害虫研究会講演要旨	14回: 6	講要。謄写。未見。
2	井上義孝	1947	稲心枯線虫病に関する二、三の知見.	九州各県聯合病害虫研究会講演要旨	14回	講要。謄写。未見。
3	上遠 章	1947	主要食糧作物病害防除法(農事振興叢書4).	農村協会中央連合会、東京	4+134 pp.	甘藷の線虫 p.124-125: 形態、経過習性、加害、加害植物(甘藷、芋類、果樹類、桑)、分布、防除法(抵抗性品種、輪作(除種、落花生、輪)、堆肥多用)。
4	児玉敏夫	1947	さつまいもの品種.	農業	785: 18-	線虫抵抗性程度の記載を含む。
5	近藤鶴彦	1947	甘藷根腐線虫。In: 甘藷馬鈴薯の病害虫第一輯.	日本甘藷馬鈴薯株式会社、東京	p. 153-159.	被害状況(症状)、伝播経路、寄生植物の範囲、分布と土質、防除法(種の選択、輪作、品種、土壌消毒: クロルピクリン)。
6	溝上渾爾	1947	甘藷根腐線虫の抵抗力に関する解剖学的研究.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	1: 19-20.	講要
7	西沢正洋	1947	新病害稲心枯線虫病について.	長崎農試時報(長崎県農事試験場時報)	15(8) 55.	発生地、発生期、品種、病徴、防除法(健全種粒の確保、冷水温湯浸)。
8	鈴木美代七	1947	本県の畑作経営と大豆作の将来.	秋田農試時報(秋田県農業試験場時報)	150: 16-20.	虫害(線虫を含む)、連作による減収防止策として麦の間作を勧める。
9	鈴木美代七	1947	本県の畑作経営と大豆作の将来(2).	秋田農試時報(秋田県農業試験場時報)	151: 15-18.	輪作の成績をまとめる。
10	渡邊龍雄	1947	繊維作物病理学(植物病理学叢書 第3冊).	朝倉書店、東京	3+10+255 pp.	線虫 p.24-28. Tylenchus penetrans(ワタ) p.111、大麻根線虫病 p.123、黄麻根線虫病 p.143-144. (Heterodera marioni) 防除: 未本科を2-3年栽培、2月間灌水、耕起、ケナフ根線虫病 p.160、糊麻根線虫病 p.161、糸瓜根線虫病 p.233.
11	渡邊龍雄	1947	馬鈴薯の病害と其防除法[2].	農及園(農業および園芸)	22(5) 263-265.	根腐病の防除法(健全な種薯を選ぶ)。
12	吉井 甫・河村栄吉	1947	解剖植物病理学(植物病理学叢書 第2冊).	朝倉書店、東京	281 pp.	線虫寄生の病害 p.253-261.
13	酒井久馬	1947	(未詳)	新茶業	不明	未見(冊子体目録に未収録の文献) 茶の線虫を含む。
0	1948	昭和23年(1948)				
1	深野 弘・横山佐太正	1948	稲心枯線虫病病原線虫の収穫時における寄生部位について.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	2, 20.	講要
2	日高 醇	1948	病害虫防除の為に土壌消毒法.	農業	2巻2: 9-	クロルピクリンの使用法と効果。
3	上遠 章	1948	新農業と農業の将来.	農学	2(9) 452-459.	D-Dを含む。
4	上遠 章	1948	土壌害虫の新殺虫剤D-D.	農業	2巻7/8: 25-26.	対象害虫と使用法
5	桐生知次郎	1948	九州に於ける主要農作物病害分布.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	2, 22.	講要。甘藷の根腐線虫: 宮崎県、鹿児島県。稲心枯線虫病。
6	近藤鶴彦	1948	甘藷の根腐線虫(ネマトーダ)に就て.	農業干葉	2巻2: 4-5.	昭和13年香取郡橋村で発見。症状、土質と被害、伝播源(種藷)、寄主植物、対策(抵抗性品種、輪作)。
7	近藤鶴彦	1948	サツマイモ(甘藷)の害虫(2)センチュウ類。In: 予察・防除農作物害虫新説・改定版(湯浅・河田編)。	朝倉書店、東京	p. 184-192.	症状、寄主作物、対策等。
8	桑山 覚・田中一郎	1948	豆類の病害虫(北農叢書 23).	柏葉書房、札幌	129 pp.	大豆萎黄病 p.14-17. 大豆根線虫根腐病 p.18-21.
9	溝上渾爾	1948	甘藷根腐線虫病(仮称)について.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	2, 3.	講要。病徴、分布、発生消長等。
10	元村 勲	1948	線虫Rhabditis ikedai Tadanoの性について.	生態学研究	11(3/4) 113-116.	系統により性比が異なる。本種の新種としての記載はNo.50-32を参照。
11	村田寿太郎	1948	土壌消毒による線虫病退治.	農業	2巻2: 16-18.	クロルピクリン、晒粉。
12	村田寿太郎	1948	線虫病防除法に就いて.	日植病報(日本植物病理学会報)	13(1/2) 69-70.	講要。キュウリのネコブセンチュウにクロルピクリン。
13	中村寿夫	1948	煙草植物病理学.	朝倉書店、東京	252+22 pp.	線虫病: 分布、病原、病徴、寄主植物、防除 p.89-91.
14	中野善雄	1948	大麻の品種育成方法.	広島農試特報(広島県農業試験場特別報告)	1: 62-68.	白木型: 線虫に対する抵抗性に弱い傾向。
15	大岩俊彦	1948	1,2-dichloropropene, 2,2-dichloropropane並に其等の混合物の殺虫力に就て.	防虫科学	10: 38-41.	コクゾウムシを用いてD-DとクロルピクリンのLD50等を比較。
16	尾崎重夫	1948	改定農作物害虫精説.	朝倉書店、東京	4+14+532 pp.	センチュウ類 p.286-293.
17	佐藤庄太郎	1948	新農業の研究動向.	農業技術	3巻4: 30-33.	殺線虫剤を含む。
18	高木信一	1948	新潟県の大豆日夜病研究史.	新潟農業	2巻5: 17-24.	病原とその研究の概要、土壌肥料的、病害虫的、耕種的観点から行われた試験研究。線虫の寄生が原因の中で重要とする。輪作および捕獲植物利用の試験結果を含む。
19	滝元清透	1948	蔬菜苗床の衛生.	農業	2巻2: 23-27.	クロルピクリンによる根線虫防除を含む。
20	滝元清透	1948	秋作蔬菜の病害解説.	農業	2巻7/8: 17-14.	病徴による分類。根線虫病: コボウ、ニンジン。
21	田中彰一	1948	蔬菜病害防除論.	朝倉書店、東京	2+4+317 pp., 2 pls.	イチゴのAphelenchoides fragariae p.254. 防除: 被害株摘除焼却, 48°C20分温湯浸漬。
22	田中彰一・北島博	1948	水稻の線虫心枯病.	農業技術研究	2巻7: 9.	病徴、病原線虫、防除(温湯浸漬)。
23	横尾多美男	1948	稲の心枯線虫(Aphelenchoides oryzae n.sp.)に就いて.	日植病報(日本植物病理学会報)	13(1/2) 40-43.	イネシナガレセンチュウを上記学名の新種として記載。病徴、生態(生活史及び寄生部位)にも言及。現在はA. besseyi Christie, 1942のシノニムとされている(Allen, M. W., Proc. helminth. Soc. Wash. 19(2) 108-120, 1952)。
24	Anon.	1948	昭和23年度新農業試験成績速報.	農業	2巻10/11: 100-104.	カンショ、ニンジン、ハクサイ、キュウリのネコブセンチュウ・針金虫に対するD-D剤の試験結果を含む。
0	1949	昭和24年(1949)				

1	深野 弘	1949	稲心枯病の防ぎ方	農試春秋	2巻5-2-6.	未見	
2	深野 弘・香月繁孝(保)	1949	病害虫防除の方策 第1輯 食糧作物 増補改定版.	福岡県購読農協連、福岡	6+114 pp.	稲心枯病 p.21-23; 病徴、病原伝染経路、防除法(無病種子の使用、冷水温湯消毒); 小麦粒線虫病 p.78-79; 大豆萎黄病 p.98-99. 初版(1947)は未見.	
3	深野 弘・香月繁孝(保)・瀧口政教	1949	病害虫防除の方策 第2集 蔬菜、甘藷、馬鈴薯.	福岡県購読農協連、福岡	6+114 pp.	ナス根腐線虫病 p.6; 甘藷根腐線虫病 p.96-97.	
4	深野 弘・横山佐太正	1949	稲心枯病に関する2、3の成績.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	4: 5-7.	講要: 寄生部位、被害他.	
5	日高 醇	1949	クロールピクリンによる土壌消毒.	農及園(農業および園芸)	24(9) 631-635.	施用法、効果. タバコでは経済性あり.	
6	鑄方 末彦	1949	食料作物病理学 上巻 稲及び豆類(植物病理学叢書 第6冊).	朝倉書店、東京	3+12+320 pp.	稲: 線虫心枯病 p.102-105; 北海道線虫病 p.105-106; 黒刺病 p.106-107. 大豆: 萎黄病 p.187-190; 根腐線虫病 p.190-192.	
7	河合一郎	1949	実験防除農作物病害篇.	養賢堂、東京	4+11+353 pp., 16 pls.	稲心枯病 p.111-112. 小麦穀実線虫病 p.163-164. 大豆萎黄病 p.209-210. 甘藷線虫病 p.230-231. 馬鈴薯根腐病 p.241. 瓜類の根腐病 p.267. トマト根腐病 p.275. にんじん線虫病 p.335-336. こぼろ線虫病 p.339-340. 土壌消毒剤 p.18-20.	
8	河合一郎	1949	果樹病害要説.	惇信堂、東京	7+146 pp., 1 pl.	いちじく根線虫(こんせんちゅう)病 p.117. 病徴、病原、伝染経路、誘因、防除法(健全苗木の確保、1年の水田化、多肥).	
9	近藤鶴彦	1949	根腐線虫に対する抵抗性の甘藷品種間に於ける差異について(予報).	応昆(応用昆虫)	5(3) 123.	講要	
10	古宇田清平	1949	大豆の増収栽培[1].	農及園(農業および園芸)	24(11) 825-828.	萎黄病: 最も恐ろしい病害. 抵抗性品種にふれる. 続報 No.50-16, 17.	
11	高坂淳爾	1949	甘藷根腐線虫の病原線虫について.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	5: 5-6.	講要. <i>Pratylenchus pratensis</i> とする.	
12	三坂和英	1949	新殺虫剤DDの効果.	農耕と園芸	4巻1: 41-42.	キュウリ、ハクサイに対する効果と使用方法(図示).	
13	三宅利雄	1949	土壌害虫の新殺虫剤DD.	広島農業	2巻5:27.	効果、使用方法の紹介.	
14	溝上淳爾	1949	甘藷わぐされ線虫の品種間差異.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	4: 45-49.	講要: 病徴、病変部の組織変化.	
15	中田覚五郎・滝元清透	1949	煙草の病害とその防除法.	明文堂、東京	2+4+133 pp.	根線虫病(節根病) p.98-100. 防除: 輪作、多肥、抵抗性品種(土耳古藎).	
16	中村寿夫・津曲彦寿	1949	煙草の栽培と病虫害防除.	日本専売出版協会、東京	2+9+258 pp.	線虫病 p.119-121. クロールピクリン・輪作、寒中耕鋤による防除.	
17	西沢正洋	1949	稲線虫心枯病の伝染に関する一観察.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	4: 66-67.	講要. 本田における被害株の分布.	
18	野村作蔵	1949	キクの脱葉と線虫.	農業朝日	4巻4: 30.	病徴、線虫の生態、対策(苗のDDT処理、抵抗性品種の利用、敷薬他).	
19	滝元清透	1949	水稲の線虫心枯病.	農及園(農業および園芸)	24(6) 430.	問答: 病原線虫の解説及び防除法(種粒温湯浸漬).	
20	田中一郎	1949	病害から見た輪作.	農学	3(7) 351-356.	線虫関係はNo.41-7を中心にまとめた.	
21	田中 勇	1949	クロールピクリンに依る煙草線虫の予防効果(速報).	煙草耕作参考資料	4: 25-26.	線虫による被害を著しく軽減.	
22	田中 勇	1949	たばこ線虫病に関する研究 第1報 クロールピクリンによる本圃土壌消毒について.	鹿児島たばこ試験場(鹿児島たばこ試験場報)	6: 1-5.	タバコの生育、発病、収量を調査. 実用の可能性が高いと結論.	
23	時岡 隆	1949	Record of a Chaetosoma specimen found near Seto.	Publ. Seto Mar. Biol. Lab. (Publications of Seto Marine Biological Laboratory)	1, 2.	未見	
24	山田 済・塩見正保	1949	稲の線虫心枯病(俗称ホタルイモチ)について.	広島農試特報(広島県農業試験場特別報告)	2(中国四国農学大会講演集): 81.	講要	
25	山本重雄・吉井甫	1949	粟不稔病特にその病原線虫について.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	4: 29-30.	<i>Aphelenchoides oryzae</i> (= <i>A. besseyi</i>)の寄生による.	
26	山本和太郎	1949	甘藷の根腐線虫病について(1).	大阪農業普及だより	4.	未見	
27	山本和太郎	1949	甘藷の根腐線虫病について(2).	大阪農業普及だより	5.	未見	
28	吉井 甫	1949	イネ線虫心枯病とその防除.	農業	3巻10: 13-19.	被害、病徴、伝染経路、防除法(温湯浸).	
29	吉井 甫	1949	稲心枯病について.	九州農研会講要(九州農事試験研究発表会講演要旨)	5: 73-80.	研究史、病徴、病原、越冬方法、伝播経路、防除(薬剤散布、種子消毒).	
30	湯浅啓温・川崎倫一	1949	大豆害虫の諸問題.	農学	3巻3: 19-24.	線虫を含む.	
31	Anon. (農林省千葉農事改良実験所)	1949	新農業委託試験成績 土壌消毒の部 甘藷根・線虫.	農業	3巻5/6: 117-120.	甘藷のネコフセンチュウに対するD-D剤の効果とクロルピクリンと比較.	
32	Anon. (福岡農試)	1949	稲線虫心枯病に関する研究.	福岡農試業務年報	昭17-21: 174-176.	種子消毒、本田における伝播.	
33	Anon. (鹿児島農試)	1949	線虫病防除試験 1. 発病と品種との関係.	鹿児島農試業務報告	昭17: 77-78.	甘藷の31品種を比較.	
34	Anon. (鹿児島農試)	1949	甘藷根腐線虫防除試験.	鹿児島農試業務報告	昭18・19: 74-76.	抵抗性比較、堆肥の施用量と被害.	
35	Anon. (鹿児島農試)	1949	水稲線虫心枯病防除試験.	鹿児島農試業務報告	昭20・21: 78-80.	生育調査.	
36	Anon. (鹿児島農試)	1949	線虫病防除試験.	鹿児島農試業務報告	昭20・21: 102-103.	抵抗性甘藷品種、堆肥施用.	
37	Anon. (鹿児島農試)	1949	線虫病防除試験.	鹿児島農試業務報告	昭20・21: 108-110.	抵抗性甘藷品種、堆肥施用、輪作、混作. 種藪による線虫の伝播.	
38	Anon. (宮崎農試)	1949	甘藷根腐線虫.	農業	3巻5/6: 120-122.	ネグサレ、ネコフセンチュウにD-D剤.	
39	Anon. (宮崎農試)	1949	新農業委託試験成績 土壌消毒の部 針金虫.	農業	3巻5/6: 126-128.	D-D, クロールピクリン剤.	
40	Anon. (岡山農試)	1949	ホタルイモチ(線虫心枯病)の被害程度調査.	岡山農試業務功報	昭20・21: 22, 60.	昭和22年度成績.	
41	Anon. (静岡農試)	1949	根腐線虫甘藷品種間差異試験(昭和17年-昭和21年).	青森農試業務報告	自昭17至22: 85.	20-30品種を供試.	
42	Anon. (東京農試)	1949	新農業委託試験成績 土壌消毒の部 蔬菜根腐線虫.	農業	3巻5/6: 124-126.	ニンジンにD-D剤.	
43	Anon. (農業協会農業研究所)	1949	新農業委託試験成績 土壌消毒の部 蔬菜根腐線虫.	農業	3巻5/6: 122-124.	ニンジン、キュウリにD-D剤.	
0	昭和25年(1950)						
1	秋保盛男	1950	桑苗根腐線虫駆除試験.	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東北支部研究発表会講演要旨)	3: 36-37.	講要	
2	後藤和夫	1950	農作物病害の物理的消毒法(II).	農業と病虫	4(10) 320-322.	大豆萎黄病対策の雪水灌水にふれる.	
3	後藤和夫・深津暲栄	1950	稲線虫心枯病の被害解析.	日植病報(日本植物病理学会報)	14(3/4) 98.	講要. 精粒重で17%減収.	
4	後藤重喜	1950	甘藷根腐線虫の寄主植物について.	九州農業研究	7:71-72.	29種を記録.	
5	堀 浩	1950	粟の不稔病とその防除.	研農復刊	2(6) 169-170.	BHC, DDTは効果なし. 冷水温湯浸漬は効果あり.	
6	飯島 鼎	1950	蔬菜ネマトーダに対するDDの効果.	新園芸	3巻10: 54.	昭25園芸学会講要	
7	今泉吉郎	1950	石灰窒素の施用法.	農及園(農業および園芸)	25(1) 75-78.	線虫に対しては反当10貫.	
8	井上 巖	1950	カマキリから得られたハリガネムシについて.	動雑(動物学雑誌)	59(2/3) 37.	講要	
9	上遠 章	1950	新農業とその使い方.	農業	806: 43-	D-Dを含む.	
10	加藤陸奥雄	1950	東北地方における大豆の害虫.	新しい農業	5巻4: 37-42.	山下善平氏の成績を引用. D-Dによる線虫防除効果.	
11	川田 十	1950	温泉熱の利用と蔬菜促成栽培. In: 蔬菜の促成栽培(新園芸別冊).	朝倉書店、東京	P. 36-46.	線虫防除: 焼土、蒸土、ホルマリン、クロールピクリン、漂白粉. 高熱泉の土壌灌漑. D-D.	
12	桐生知次郎・藤川 隆	1950	水稲畦立栽培に於ける病害調査成績.	九州農業研究	7:59-60.	<i>Aphelenchoides besseyi</i> は畦立より少ない(熊本).	
13	桐生知次郎・西沢正洋・山本 滋	1950	稲線虫心枯病に対する抵抗性品種の研究 第1報.	九州農業研究	6: 33-34.	抵抗性(発病率、生育、収量)に品種間差異.	
14	近藤鶴彦	1950	甘藷根腐線虫. In: いも類病害虫と防除(堀正侃編).	朝倉書店、東京	p. 248-258.	甘藷根・線虫: 被害状況、伝播経路、寄主植物の範囲、対策(抵抗性品種、輪作、堆肥施用、土壌消毒: クロールピクリン、D-D).	

15	近藤鶴彦	1950	根瘤線虫の生態。	農業と病虫	4(8) 234-239	寄主植物、天敵、季節的消長、垂直分布等。
16	古宇田清平	1950	大豆の増収栽培[5].	農及園(農業および園芸)	25(1) 143-146	忌地予防のための輪作様式を含む。
17	古宇田清平	1950	大豆の増収栽培[14].	農及園(農業および園芸)	25(10) 970-972	萎黄病の防除法を含む。
18	高坂渾爾	1950	甘藷ねぐされ線虫病。	防疫時報	17: 43-56	分布、病徴、発生消長、被害、防除等。
19	高坂渾爾	1950	甘藷ねぐされ線虫病の抵抗力について(1)解剖学的考察。	九州農業研究	7: 65-66	「抵抗性品種に於ては、防衛木栓層の形成が早く……」
20	蔵納久男	1950	柑橘ネマトーダの被害。	柑橘	2巻10: 27	アメリカでの線虫害の紹介。
21	桑山 寛	1950	北海道地方農業技術の課題。	農業技術	5巻9:1-9	線虫研究にふれる。
22	元村 勲	1950	線虫Rhabditis ikedaiの性について。	動雑(動物学雑誌)	59(2/3) 38	講要。
23	武笠耕三	1950	畑をあらす線虫。	農家の友(北海道)	2巻11: 6-11	線虫根腐病: 症状、被害作物、土質との関係、病原線虫、防除法
24	駒松市郎兵衛	1950	人蔘根線虫に対するDDの駆除効果。	農及園(農業および園芸)	25(9) 795-796	反当6貫で十分、9貫では一層の効果。
25	二宮慎治	1950	切花用菊の促成栽培。	農業	804: 58-	ネマトーダ防除: 用土中に硫酸銨を混入。
26	佐川美穂	1950	トマトの抑制栽培。	農及園(農業および園芸)	25(5) 446-448	線虫の多い畑では青枯れ病多発。
27	佐藤一夫	1950	鹿児島県指宿地方の温泉熱利用促成栽培。In: 蔬菜の促成栽培(新園芸別冊)。	朝倉書店、東京	p. 222-226	ネマトーダは熱消毒により駆除。土壤消毒設備を図示。
28	関谷一郎・早川広美・呉羽好三	1950	大豆の害虫とその防除に関する研究 昭和21-24(1946-1949)。	害虫防除に関する試験研究報告(長野農)	p. 110-136	未見
29	進藤要五郎・戸田和男(担当者)	1950	大豆ネマトーダ駆除クロルピクリン滴注試験。	昭24試験研究概報(山形農試普及資料一)	p. 51	効果なし。
30	杉山章平	1950	北陸地方の病虫害発生状況。	農業と病虫	4(2) 409-410	福線虫心枯病: 福井県で1380町歩に発生。
31	鈴木康三	1950	静岡県温室蔬菜。In: 蔬菜の促成栽培(新園芸別冊)。	朝倉書店、東京	p. 178-184, 口絵	ネマトーダ対策としてD-Dの使用を試みる。
32	只野正志	1950	ナメクジIncillaria confusa Cockarelliに寄生する線虫の一新種Rhabditis ikedai n.sp.について。	動雑(動物学雑誌)	59(12) 289-291	幼虫期にナメクジ体内に寄生する線虫の一新種の記載。現在はPhasmarhabditis papillosa (Schneider, 1866) Andrassy 1976のシノニムとされている(Andrassy, I. A taxonomic review of the suborder Rhabditina. ORSTOM, Paris, 1983, p. 92)。
33	只野正志	1950	線虫の卵割における原形質流動。	動雑(動物学雑誌)	59(2/3) 40-41	講要。Rhabditis 属線虫卵。
34	田中 勇	1950	クロルピクリン処理による煙草線虫病防除について。	九州農業研究	6, 66	60%の増収。
35	山田 濟	1950	種籾の消毒法。	富民	22巻4: 13-16	「籾のセンチュウシンガレ病について」として症状及び冷水温湯浸。風呂温湯法を紹介。講要。No.50-37, 38を参照。
36	山田 濟・塩見正保	1950	福線虫心枯病に関する研究。特に硝酸銀による線虫成虫の消毒に就て。	日植病報(日本植物病理学会報)	15(1) 31-32	研究史、伝染源。線虫の移動についても記載。
37	山田 濟・塩見正保	1950	福線虫心枯病。俗稱「ホルライモチ」に関する研究 第一報分布・症状及び病原について。	岡山農試臨時報(岡山県農業試験場臨時報告)	46: 15-28, 1 pl.	
38	山田 濟・塩見正保	1950	福線虫心枯病。俗稱「ホルライモチ」に関する研究 第二報防除法。特に保虫粉消毒について。	岡山農試臨時報(岡山県農業試験場臨時報告)	47: 1-8	昇汞、青酸カリ、石炭酸、硝酸銀、DDT、BHC、硫酸ニコチン、ホルマリン、二硫化炭素、クロルピクリンを試験。
39	山本重雄・吉井甫	1950	粟不稔病特とその病原線虫について。	日植病報(日本植物病理学会報)	14(3/4) 81-83	Aphelenchoides oryzae と同定。熊本県では明治39年に発見。
40	山下善平・柴辻鉄太郎・菅野登・熊沢忠雄	1950	新殺虫剤の効果に関する試験。	東北病虫研講要(東北病虫研究会講演要旨)	1, 79	講要。未見。
41	吉井 甫・山本重雄	1950	A rice nematode disease "Senchu-Shingare Byo". I. Symptom and pathogenic nematode.	J. Fac. Agr., Kyushu Univ. (Journal of Faculty of Agriculture, Kyushu University)	9(3) 209-222	研究史、病徴、病原線虫の形態。
42	吉井 甫・山本重雄	1950	A rice nematode disease "Senchu-Shingare Byo". II. Hibernation of Aphelenchoides oryzae.	J. Fac. Agr., Kyushu Univ. (Journal of Faculty of Agriculture, Kyushu University)	9(3) 223-234	寄生部位、越冬。
43	吉井 甫・山本重雄	1950	A rice nematode disease "Senchu-Shingare Byo". III. Infection course of the present disease.	J. Fac. Agr., Kyushu Univ. (Journal of Faculty of Agriculture, Kyushu University)	9(4) 287-292	土壌、種子、苗床、本圃における伝播。
44	吉井 甫・山本重雄	1950	A rice nematode disease "Senchu-Shingare Byo". IV. Prevention of the present disease.	J. Fac. Agr., Kyushu Univ. (Journal of Faculty of Agriculture, Kyushu University)	9(4) 293-310	出穂期における硫酸ニコチン散布。種子のクロルピクリン、ホルマリン、温湯処理の効果。温湯処理の条件を検討。
45	Anon. (福岡農試)	1950	福線虫心枯病に関する研究。	福岡農試業務年報	昭22-24: 108-	寄生部位、伝染経路、越冬、防除等。
46	Anon. (熊本農試)	1950	福線虫心枯病防除試験。	熊本農試業務功程	昭21: 74-75	冷水温湯処理。苗代の古稲株より発生を認める。
47	Anon. (熊本農試)	1950	甘藷根線虫分布調査。	熊本農試業務功程	昭21: 79-80	昭和20年松合町で罹病露を発見。
48	Anon. (熊本農試)	1950	甘藷根線虫の分布調査。	熊本農試業務功程	昭22: 82	新発見地なし。
49	Anon. (長崎農試)	1950	水稲線虫心枯病防除試験。	長崎農試業務功程	昭22: 88-89	種子消毒: 方法記述なし。結果のみ。
50	Anon. (山形農試)	1950	大豆線虫防除法試験。	山形農試業務功程	昭9: 206-207	最上分場成績。輪作、生石灰、石灰窒素等を施用。
51	Anon. (専売局鹿児島たばこ試験場業務概要)	1950	病虫害に関する事項。	専売局鹿児島たばこ試験場業務概要	2: 15-21	クロルピクリンによる土壌消毒。
52	南川仁博	1950	(未詳)	茶	3巻11: 18-19	未見。ネコブセンチュウの経過習性(発生消長)を含む。
0		1951	昭和26年(1951)			
1	安孫子孝一	1951		農業技術	6巻8:4-8	線虫根腐病抵抗性育種を含む育種体制を解説。
2	Allgen, C. A.	1951	Papers from Dr. Th. Mortensen's Pacific expedition LXXVI. Pacific free-living marine nematodes.	Vidensk. Medd. fra Dansk naturh. Foren. (Videnskabelige Meddelelser fra Dansk naturhistorisk Forening i Kjobenhavn)	113: 263-411	相模湾の深さ約720mから採集されたLeptosomatum abyssale(新種)を記載 p.331-332. 本論文に扱われたのは本種以外はハワイ、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド、南太平洋、北アメリカ(カルフォルニア)、中央アメリカ(パナマ)の線虫。
3	新船幸重郎	1951	埼玉県苗木検査について。	農業と病虫	5(2) 52-55, 82	ネマトーダ発見: 梨、桃、苹果、無花果、桜桃、栗、葡萄、桜
4	深野 弘・横山佐太正	1951	福線虫心枯病に関する研究 特に差別被害状況並に品種抵抗力について。	九州農業研究	8: 89-90	線虫寄生時にも病徴の現れない品種がある。
5	深野 弘・横山佐太正	1951	福線虫心枯病種粉消毒法の研究 第一報冷水温湯消毒の液のpHと殺虫効果との関係について。	日植病報(日本植物病理学会報)	15(3/4) 164	講要。予浸は酸性あるいは塩基性液が井水にまさる。
6	福田仁郎	1951	予防駆除果樹害虫。	朝倉書店、東京	357 pp., 2 tabs.	イチジクのネマトーダ p. 308-310. 形態、生活史、防除(D-D、石灰窒素、輪作、種苗の選抜、クロルピクリン)
7	五味美知男	1951	水稲線虫心枯病防除試験成績。	農業と病虫	5(4) 161-162	種子、苗代、本田の防除。
8	後藤和夫	1951	福線虫心枯病に関する研究 第2報 稲体上の線虫数と分布。	日植病報(日本植物病理学会報)	15(3/4) 159	講要。No.52-7を参照。
9	後藤重喜・蓮子栄吉	1951	甘藷根腐線虫病のクロルピクリンによる土壌消毒について 第一報 発病状況に及ぼす影響。	九州農業研究	8: 95-96	発病率70%低下。
10	日高 醇・桐山清	1951	クロルピクリンによる土壌消毒の効果範囲。	秦野たばこ試報(秦野たばこ試験場報告)	37: 33-41, 3 pls.	雑草及び菌類を供試。
11	日高 醇・中井武文	1951	クロルピクリンによる土壌消毒の肥料効果の原因。	秦野たばこ試報(秦野たばこ試験場報告)	37: 83-96, 3 pls.	土壌中のアンモニウム態窒素、硝酸態窒素の量の変化を調査。
12	日高 醇・清水志夫	1951	クロルピクリンによる土壌消毒の病害防除の効果。	秦野たばこ試報(秦野たばこ試験場報告)	37: 1-23, 3 pls.	線虫及び病原菌に対する効果。
13	日高 醇・清水志夫・古田興三郎	1951	クロルピクリンによる土壌消毒が収量及び品質に及ぼす影響。	秦野たばこ試報(秦野たばこ試験場報告)	37: 57-82, 8 pls.	生育、収量が増大。
14	樋口	1951	防疫情報 10月 輸出植物検査 横浜。	植物防疫	5(12) 519	アメリカ向けぼたん、しゃくやくの苗木にネマトーダ。
15	飯島 鼎	1951	大豆の害虫とその防除法。	農及園(農業および園芸)	26(1) 159-162	D-D、クロルピクリンによる線虫防除を含む。
16	井上 巖	1951	カマキリ寄生ハリガネムシ追加一新種並びにChordodes 属の国内国外分布について。	動雑(動物学雑誌)	60(1/2) 32	講要。C. fukuii(新種)の記載を含む。
17	井上元則	1951	林業害虫防除論 上巻。	地球出版、東京	2+5+200 pp., 1 pl.	生物的防除: 線虫類の利用 p. 178-179. Mermis nigrescens, Agamermis decaudata(以上コオロギ)、Neoeplectana glaseri(マモコガネ)。

18	弥富喜三	1951	線虫の正体と防除.	農業技術研究	5巻1: 34-35, 37.	主に甘藷の線虫.
19	弥富喜三	1951	根腐線虫Heterodera marionilに対するFolidol-E-605の防除効果(予備試験).	植物防疫	5(11) 448-449.	効果あり.
20	弥富喜三	1951	草莓の線虫.	農業技術研究	5巻5: 54-55.	Aphelenchoides fragariaeの病徴、防除法.
21	弥富喜三・西沢務(担当者)	1951	甘藷線虫防除試験.	静岡県農業報告(静岡県農業試験場業務報告)	昭25: 219-224.	D-D. クロルピクリン施用. 寄主植物、甘藷耐虫性品種、堆肥増施、輪作.
22	弥富喜三・西沢務	1951	草の線虫に就いて.	静岡県農試研報(静岡県農業試験場研究報告)	1: 106-117.	Aphelenchoides fragariae. 病徴、病原線虫、形態、生態(経過習性)、伝播、防除(ランナーの温湯浸漬).
23	桐生知次郎・西沢正洋・山本滋	1951	稲線虫心枯病に対する抵抗性品種の研究(第1報).	日植病報(日本植物病理学会報)	15(2) 96.	講要. No.52-31を参照.
24	北沢喜太郎・中島啓二・伊藤治延(担当者)	1951	大豆の害虫とその防除に関する研究.	害虫防除に関する試験成績報告(長野農試)	昭25: 66-81.	施肥と被害・薬剤(DDT, BHC, クロルピクリン, D-D, トクサフィン)の土壌施用の試験の中で線虫を扱う.
25	近藤鶴彦	1951	甘藷線虫類の被害と防除.	農及園(農業および園芸)	26(1) 181-185.	ネコフ・ネグサレセンチュウの被害、生態、防除、被害激甚化の原因.
26	近藤鶴彦	1951	蔬菜、サツマイモのネマトーダ. In: 園芸害虫の防ぎ方(堀正伝・飯島 鼎編).	誠文堂新光社、東京	p. 235-243.	見分け方)症状、線虫の形態)、性質及び防ぎ方(土性と被害、寄主植物、生活史、発生消長、土壌の消毒: クロルピクリン・D-D剤、堆肥の増施).
27	森 常也	1951	麦の害虫と防ぎ方. In: 麦作改善のねらい(農業改良普及資料第19号).	長崎県経済部農業改良課	p. 39-41.	長崎県に発生する害虫のなかでコムギノコクジラセンチュウ、ケイセンチュウをあげ、防除法を示す.
28	森下	1951	検疫情報 5月 輸入植物検疫 横浜.	植物防疫	5(7) 257.	アメリカから輸入したバラ苗全部にネマトーダ.
29	向 秀夫	1951	トマト青枯病とその防除法.	農及園(農業および園芸)	26(1) 95-98.	線虫も関与.
30	向 秀夫・水沢芳名	1951	麦種子の消毒.	植物防疫	5(10) 389-392, 371.	小麦穀実線虫病防除のための温湯浸漬を含む.
31	村田寿太郎	1951	苗床の土壌消毒.	農及園(農業および園芸)	26(2) 228.	焼土、クロルピクリン.
32	西沢正洋・山本滋	1951	稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究 第2報 九州地方に於ける水稲の主要品種並びに育成系統の一部に対する.	九州農業研究	8: 91-92.	18品種の比較.
33	西沢正洋・山本滋	1951	稲線虫心枯病に対する品種の抵抗性に関する研究 第3報 本病による被害の検定.	九州農試業報(九州農業試験場業報)	1(1) 65-66.	稲の生育、収量を品種間で比較.
34	西沢正洋・山本滋・水田隼人	1951	稲線虫心枯病に対する品種の抵抗性に関する研究第4報 陸稲品種に於ける検定.	九州農試業報(九州農業試験場業報)	1(1) 67.	発病程度による品種の階級分.
35	岡田富信	1951	根腐線虫に於ける生態的系統について.	応昆(応用昆虫)	7(2) 83.	講要. サツマイモに対する寄生性に差異.
36	佐川美穂	1951	ネマトーダの特効薬、D-Dの経済的な使い方.	農耕と園芸	6巻7: 62-63.	特性、施用法、効果、価格(10ポンド当たり1,100円).
37	佐川美穂	1951	根腐線虫防除に対するD-Dの経済的使用法に関する試験(第2報).	園芸学会大会要旨(園芸学会大会講演要旨)	昭26春季, p. 17.	講要. ニンジシ、ホウレンソウ.
38	佐川美穂・坂本石蔵	1951	蔬菜の根腐線虫に対するD-Dの駆除効果(第1報).	農及園(農業および園芸)	26(10) 1099-1100.	ダイコン、キュウリに効果はあるが、経済的に難点(1反歩当6-700円). 植物防疫 8(7) 316, 1954に抄録.
39	佐川美穂・坂本石蔵	1951	ネマトーダ退治のD-D.	農業千葉	3巻1: 9-12.	キュウリ、ダイコンに施用. クロルピクリンと比較.
40	飯島徳造・湯池好登	1951	D-D及びクローロピクリンの土壌消毒後の日数と甘藷苗の被害に関する試験.	日植病報(日本植物病理学会報)	15(3/4) 168.	講要. D-Dは処理1日後より被害消失の傾向.
41	末永一・松尾寛一・酒井久夫・山元四郎	1951	九州地方における大豆害虫の種類.	九州農試業報(九州農業試験場業報)	1(1) 78-79.	Heterodera schachtiiを含む.
42	只野 柳	1951	Studies of cleavage in the eggs of nematodea. I.	Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser. 4. (Science Reports of Tohoku University)	19(1) 100-113.	受精前から第一卵割までの原形質流動を観察.
43	田中一郎・成田武四	1951	北海道に発生した主要病害虫と防除の概況.	植物防疫	5(12)482-484.	大豆萎黄病: 十勝地方で急激に分布を拡大.
44	田中 勇	1951	D-D処理によるタバコ線虫病防除について.	煙草耕作参考資料	6:56-57.	麦の立毛中に処理. ゴール指数、拡散を調査. 効果はあるが経済上問題が残る.
45	田中 勇	1951	タバコ線虫病防除について.	鹿兒島たばこ試運報(鹿兒島たばこ試験場)	3: 16-17.	D-Dとクロルピクリンは同程度の効果.
46	徳永芳雄	1951	東北地方に於ける病害虫の発生状況と防除状況.	植物防疫	5(12) 484-486.	「青森では大豆萎黄病の激甚地に対してDDの施用が実施された」
47	横尾多美男	1951	Golden Nematode とはどんな線虫か.	日植病報(日本植物病理学会報)	15(3/4) 166-167.	講要. 当該線虫の解説.
48	吉井 甫	1951	稲線虫心枯病の生態と防除.	農及園(農業および園芸)	26(1) 23-26.	病徴、病原線虫、防除法(種子消毒).
49	吉井 甫	1951	稲線虫心枯病.	農及園(農業および園芸)	26(7)口絵.	病徴、防除法(種子の温湯浸漬).
50	吉井 甫	1951	稲線虫心枯病の防除について.	日植病報(日本植物病理学会報)	15(2) 101.	講要. No.51-53を参照.
51	吉井 甫	1951	稲線虫心枯病被害稲の草型並びに収量について.	九大農学誌(九州大学農学部学芸雑誌)	12(2) 133-141.	異常分蘗、稈長、千粒重等減少.
52	吉井 甫・山本重雄	1951	稲線虫心枯病の防除について.	九大農学誌(九州大学農学部学芸雑誌)	12(2)123-131.	冷水温湯浸漬法及び温湯浸漬法.
53	湯浅啓温・田中一太郎	1951	虫害防除の技術と実際.	農民社、東京	2+12+266 pp., 44 figs.	サツマイモセンチュウ p. 129-134. D-D p. 262-263.
54	Anon. (農林省農業改良局研究部)	1951	病害虫名鑑.	拓文社、東京	2+6+205 pp	線虫心枯病: イネ. 粒線虫病: コムギ. 根腐線虫病: ダイズ、ナス、ニンジン、サトウダイコン、ワタ、アサ、サツマイモ.
55	Anon.	1951	農作物の病害. In: 北海道農業技術50年.	北海道農試・北海道立農試	p. 166-188.	水稲心枯線虫病、大豆萎黄病(減収率他)、線虫根腐病(小豆、菜豆、甜菜).
56	Anon. (福岡農試)	1951	稲線虫心枯病に関する研究.	福岡農試業務年報	昭25: 51-60.	被害解析、防除等.
57	Anon. (宮崎農試)	1951	甘藷線虫病二關スル試験.	宮崎農試業務年報	自昭21至昭23: 56.	抵抗性品種検定(昭22, 23)、薬剤防除(昭23): DDT、フェノチアチン、BHC、硫黄剤、クロルピクリン、D-D.
58	Anon. (長崎農試)	1951	病虫の早期発見並びに発生予防に関する事業.	長崎農試業務年報	昭24: 103-108.	線虫心枯病: 「北松浦郡に可成り甚し」
59	Anon. (岡山農試)	1951	稲の線虫心枯病「ホタルイモチ」に関する試験研究.	岡山農試業務年報	昭23・24: 14.	昭23成績. 概要のみ.
60	Anon. (岡山農試)	1951	稲の線虫心枯病「ホタルイモチ」に関する試験研究.	岡山農試業務年報	昭23・24: 38.	昭24成績. 調査項目のみ.
61	Anon. (埼玉農試)	1951	大和薯線虫に対するDDの使用法.	植物防疫	5(9) 343.	「種付時株間に種付溝の其処より5寸の深さに穴を穿ち1穴にDDを4ccを注ぎ注した後覆土」
62	Anon. (東京農試)	1951	ネマトーダ防除に関する試験.	東京農試業務年報	昭24: 65-66.	D-D, クロルピクリン.
63	Anon. (山形農試)	1951	クローロピクリン滴注による大豆ネマトーダ駆除試験.	山形農試業務年報	昭24: 323-324.	最上分場成績. 根腐菌減少、実用性なし.
0		1952	昭和27年(1952)			
1	安孫子孝一	1952	いも類について: 昭和27年度試験研究打合せ報告.	農業技術	7(6) 183-184.	カンショの根腐線虫抵抗性にふれる.
2	明日山秀文	1952	米国に於ける耐病性品種育成の現状.	育種(育種学雑誌)	1(4) 23.	第一回講演会特別講演要旨. イネの線虫心枯病にふれる.
3	深野 弘・横山佐太郎	1952	冷水温湯と水銀剤による二重消毒が種粒の発芽に及ぼす影響について.	福岡農試研時報(福岡県農業試験場研究報告)	2: 5-8.	稲心枯線虫と稲熱病・胡麻葉枯病の同時防除. ウスルン、温湯浸漬、冷水浸漬の処理順序および処理時間の発芽率にあたる影響を検討.
4	深野 弘・横山佐太郎	1952	稲線虫心枯病予防種消毒法の研究. 第2報 風呂湯浸漬法の消毒効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(3/4) 141-143.	温度、浸漬時間と死亡率.
5	福田信蔵・尾島至崇	1952	土壌・蒸剤D-Dの害に及ぼす影響と桑線虫駆除試験.	蚕糸局技術改良課技術資料	33: 72-73.	講要
6	福井重郎	1952	日本に於ける大豆の品種と品種改良. 総合作物学 食用作物篇(いもの部、菽穀の部). (佐々木 喬監修)	地球出版、東京	p.159-182.	ネマトーダ抵抗性品種にふれる.
7	後藤和夫・深津量栄	1952	稲線虫心枯病に関する研究 第2報 種体上の線虫数と分布.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(2) 57-60.	主釋に多い.
8	後藤和夫・深津量栄	1952	稲線虫心枯病抵抗性の品種間差異とその機構.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(2)86-87.	講要
9	後藤和夫・深津量栄	1952	稲線虫心枯病抵抗性を異にする稲品種上の線虫の増殖について.	日植病報(日本植物病理学会報)	17(1) 41-42.	講要. 増殖率の違い.
10	後藤重喜・蓮子栄吉	1952	甘藷根腐線虫のクローロピクリンによる土壌消毒について第2報 生育並びに2, 3の生理作用に及ぼす影響.	九州農業研究	10: 149-150.	同化・呼吸量とも増大.
11	原田重雄	1952	畑作改善について: 27年度試験研究打合せ報告.	農業技術	7(6)184-186.	北海道のネマトーダ問題にふれる.

12	日高 醇	1952	タバコの病害の見分け方とその防除法(1).	葉たばこ研究	1: 45-47.	線虫病をふくむ。
13	日高 醇	1952	タバコの病害と土壌消毒.	植物防疫	6(2) 74-76. 72.	D-D: 線虫には効果があり、立枯病には効果なし。
14	一戸 稔	1952	On the soy bean nematode, <i>Heterodera glycyines</i> n.sp., from Japan.	応動(応用動物学雑誌)	17(1/2) 1-4.	ダイズシストセンチュウを新種として命名・記載。模式産地は北海道十勝。No.81-138に同地標本による再記載。
15	一戸 稔	1952	大豆萎黄病線虫知見.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(3/4) 177-178.	講要。近似種との形態比較。No.52-14を参照。
16	飯塚塚児	1952	札幌管林局管内苗畑に於ける害虫防除について.	日林北海道支講(日本林学会北海道支部講演集)	1: 43-45.	ネキリムシに対するD-Dの効果を含む。
17	飯塚塚久	1952	作物病害研究の現状と課題.	農業技術	7巻6: 12-15.	稲心枯線虫防除にふれる。
18	井上 巖	1952	On a new species of Chordodes (Gordiacea) from Japan.	Annot. Zool. Japon. (Annotations Zoologie Japonenses)	25(3) 400-402.	<i>C. japonensis</i> (新種)をカマキリから記載。
19	井上 巖	1952	カマキリ(Tenodera)に寄生するハリガネムシ(Gordiacea)の分類.	動雑(動物学雑誌)	61(2) 27-32.	日本産の種の分布、寄主一覧表(文献のまとめ)、三種(<i>C. silvestrii</i> , <i>C. japonicum</i> , <i>C. fukuii</i>)の記載。No.52-18を参照。
20	石倉秀次	1952	食糧作物害虫防除法(朝倉農業選書).	朝倉書店、東京	370 pp.	イネシシガレセンチュウの伝播 p. 39; 甘藷のネコブセンチュウ p. 44, 47, 359-361; イネシシガレセンチュウ p. 39, 59, 241-244.
21	弥富喜三	1952	甘藷の線虫と今後の研究.	農業技術研究	6巻2: 42-43.	防除の困難性及び対策(抵抗性品種、薬剤防除)。
22	弥富喜三・西沢務(担当者)	1952	甘藷線虫防除試験.	静岡農試業務報告(静岡県農業試験場業務報告)	昭26: 193-198.	植付・掘取時期移動、抵抗性品種選択、薬剤防除(ホリドール、ベストックス)。
23	弥富喜三・西沢務(担当者)	1952	草毒の病害に関する研究.	静岡農試業務報告(静岡県農業試験場業務報告)	昭26: 198.	イチゴセンチュウ。苗の温湯処理。
24	河田 党	1952	1月の普通作物害虫防除.	農及園(農業および園芸)	27(1) 110-114.	甘藷線虫類を含む。
25	河田 党	1952	3月の普通作物害虫防除.	農及園(農業および園芸)	27(3) 424-428.	輪作による根腐線虫防除を含む。
26	河田 党	1952	4月の普通作物害虫防除.	農及園(農業および園芸)	27(1) 529-533.	稲心枯線虫防除のための種子消毒(温湯、薬剤浸漬)を含む。
27	河田 党	1952	線虫.	農及園(農業および園芸)	27(4) 590, 口絵.	キュウリ、甘藷、ニンジンの被害。
28	河村貞之助	1952	菊の線虫葉枯病と防ぎ方.	農耕と園芸	7巻10: 68-69.	症状、対策。
29	河村貞之助・石井賢二・北島克	1952	Folidolによる2, 3の臨床例について 1. キク葉枯線虫についての知見.	日植病報(日本植物病理学会報)	17(1) 44.	講要。散布効果。
30	木本氏幹・宮崎吉之助	1952	人参根腐線虫病に対するD-Dの効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	3: 140-142.	岐根及び根の割れは減少。
31	桐生知次郎・西沢正洋・山本 滋	1952	稲線虫心枯病に対する品種の抵抗性に関する研究 第1報 品種の抵抗性検定に関する研究.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(1) 6-9.	苗代期における被害初級接種法を採用。9品種の発病率の違いを調査。
32	北沢喜太郎(担当者)	1952	大豆不稔地の土壌処理並薬剤散布試験.	害虫防除に関する試験成績報告	昭26: 46-49.	線虫(<i>Heterodera schachtii</i>)にBHC, DDT, クロールテン、D-D施用。
33	小林次郎	1952	最近注目されている新病害虫.	農試時報(秋田)	19巻11: 18-19.	稲線虫心枯病を含む。病徴と冷水温湯浸法による防除を解説。
34	近藤鶴彦	1952	根腐線虫と防除.	植物防疫	6(9/10) 352-355.	病徴、防除法(抵抗性品種、輪作、薬剤)。
35	近藤鶴彦	1952	根腐線虫の棲息密度の消長に関する研究(1) 甘藷畑における棲息密度の季節的消長.	応動応昆合同大会講要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭27: 6-7.	講要
36	古山 党・田村多利	1952	粟不稔病に関する研究(第1報)粟品種の抵抗性について.	九州農業研究	10: 180-181.	5品種を比較。雨水による線虫伝播にふれる。
37	倉田 浩	1952	大豆の病害防除に関する諸問題.	農業技術	7巻7: 27-30.	萎黄病にふれる。
38	三井栄三・福岡弁四郎	1952	蒟蒻芋。綜合作物学 工芸作物篇(油料、糖料及糊料の部)。(佐々木 喬監修)	地球出版、東京	p.229-259.	ネマトダ防除:D-D、石灰窒素、輪作。
39	武笠耕三・一戸 稔	1952	水稲線虫の分布について.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(1) 28.	講要。分布、防除、罹病性品種。
40	武笠耕三・一戸 稔	1952	十勝地方の大豆萎黄病に就いて.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(3/4) 178.	講要。86-100%減収。線虫密度と被害の関係は不明。
41	武笠耕三・一戸 稔	1952	大豆萎黄病線虫による被害調査.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	3: 73-74.	減収率21%。
42	武笠耕三・一戸 稔	1952	Relative index systemによる線虫 <i>Heterodera schachtii</i> Schmidtの寄生に対する大豆の品種間差異について.	北海道農試集報(北海道農業試験場集報)	63: 117-120.	指数利用の有効性を認める。
43	中川 恭二	1952	甜菜(さとういごん)。綜合作物学 工芸作物篇(油料、糖料及糊料の部)。(佐々木 喬監修)	地球出版、東京	p. 253-277.	<i>Heterodera schachtii</i> を誘引作物(菜種、エンバク、カラシナ)により防除。
44	西沢正洋・山本 滋	1952	稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(第5報)7品種に対する検定.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(3/4) 165.	講要
45	西沢正洋・山本 滋	1952	稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(第5報)7品種に対する検定.	九州農業研究	9: 11-12.	東山38号、同58号、南海3号は全く病徴を示さず。
46	西沢 務・弥富喜三	1952	4根腐線虫に対する甘藷の抵抗性について.	応動応昆合同大会講要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭27: 6.	講要
47	日塔正俊・立花 親二	1952	ネキリムシ被害とD-Dに就て.	植物防疫	6(1) 40-43.	スギ、ヒノキに施用。効果及び被害。
48	小此木栄治	1952	大和芋の肥料及び管理.	農及園(農業および園芸)	27(6) 712-713.	D-D灌注による線虫防除を含む。
49	太田安澄	1952	桑苗根腐線虫に対するD-Dの効果について.	蚕糸界報	61(720)21-23.	クロルピクリンより高い効果。
50	太田安澄	1952	桑苗根腐線虫のD-Dによる殺虫効果.	日蚕誌(日本蚕糸学会雑誌)	21(2/3) 140.	講要
51	斉藤 清	1952	金魚草一代交配種の栽培と普及.	農及園(農業および園芸)	27(9) 1017-	ネマトダの防除にふれる。
52	斉藤 公一	1952	果樹の忌地.	農業技術研究	6巻1: 27-28, 32.	線虫によるイチヂクの忌地にふれる。
53	佐野利男	1952	蚕の糸片虫病に関する研究(1).	日蚕誌(日本蚕糸学会雑誌)	21(5/6) 298-301.	発生時期、病徴、寄生虫数、寄生時期、寄生脱出、形態、生態。
54	佐藤 隆・齊藤昭四郎(担当者)	1952	大豆不作物地(萎黄病発生地)改善に関する試験.	昭26試験研究報(山形農試普及資料三)	p. 109-110.	No.52-55を参照。
55	佐藤 隆・戸田和男・齊藤昭四郎	1952	大豆不作物地と2, 3の萎黄病防除試験(予報).	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	3: 74-75.	D-D、クロルピクリン施用等。
56	渋谷正徳	1952	Studies on the varietal resistance of sweet potato to the root-knot nematode injury.	鹿児島大農紀要(鹿児島大学農学部紀要)	1(1) 1-22.	抵抗性品種の根への線虫の誘引、寄生侵入後の線虫、巨大細胞の成長を調査。
57	清水 茂	1952	蔬菜研究の現状と課題.	農業技術	7巻3: 5-9.	線虫のD-Dによる防除を含む。
58	只野正志	1952	線虫Rhabditis ikedaの初期発生について.	動雑(動物学雑誌)	61(3/4) 80.	講要
59	只野 柳	1952	位相差顕微鏡による線虫卵の観察.	動雑(動物学雑誌)	61(3/4) 80.	講要。Rhabditis sp.
60	滝元清透	1952	花卉病害防除の年中行事(1).	植物防疫	6(1) 37-39.	カーネーションの根腐線虫にD-Dが有効。
61	滝元清透	1952	花卉病害防除の年中行事(2).	植物防疫	6(2) 79-81.	ヒヤシンスの球根線虫を含む。
62	滝元清透	1952	花卉病害防除の年中行事(4).	植物防疫	6(4) 182-184.	菊の葉線虫病: 病徴、病原、防除法(無線虫苗の使用、ホリドール散布、抵抗性品種)。
63	滝元清透	1952	花卉病害防除の年中行事(5).	植物防疫	6(5) 226-228.	金魚草の根腐線虫を含む。
64	滝元清透	1952	花卉病害防除の年中行事(7・8).	植物防疫	6(7/8) 332-333.	ペゴニアの葉枯線虫病を含む。
65	滝元清透	1952	花卉病害防除の年中行事(9・10).	植物防疫	6(9/10) 381-382.	ケートの根腐線虫病。
66	田村市太郎	1952	大豆の害虫に関する生態学的研究.	関東東山農試、鴻巣	8+287 pp. 12 pls.	ダイズセンチュウ p. 258
67	田中伊之助	1952	病害。In: 本県の稲作改良技術(農業改良普及資料21号).	長崎県経済部農業改良課	p. 86-97.	稲線虫心枯病対策を含む。
68	田中 勇	1952	タバコ線虫病抵抗性について.	日植病報(日本植物病理学会報)	16(3/4) 161-162.	講要。抵抗性品種(RK70)への線虫の侵入、その後の發育。
69	田中 勇	1952	タバコ線虫病抵抗性について.	九州農業研究	9: 118.	RK70について。
70	田中 勇	1952	線虫病予防のための2, 3土壌消毒剤の効果範囲について.	九州農業研究	10: 147-148.	D-D、クロルピクリン。
71	津軽承捷	1952	大豆線虫の季節的消長と垂直分布について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	3: 72-73.	季節では8月上旬、深さでは5-10cmの間に多い。

72	津軽承捷	1952	D-D及びChlorpicrinが大豆の生育収量に及ぼす影響。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	3: 127-130	同程度の効果。
73	渡辺正好	1952	牛蒡の秋播栽培法。	農及園(農業および園芸)	27(8) 903-906	D-D剤による線虫防除を含む。
74	安尾正元	1952	土壌の殺菌効果に就て。	農及園(農業および園芸)	27(9) 1079-	各種農薬の効果。海外の研究の紹介。
75	吉井 甫	1952	線虫心枯病の冷水温湯浸の時期。	農及園(農業および園芸)	27(12) 1356.	実用農業問答。
76	Anon.	1952	昭和26年度病害虫防除試験成績一覧表(殺虫剤の部)。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	3: 173.(東北農業研究会報告1: 21)	D-D・ラックヨウのネマトーダに実用価値。根腐線虫に実用可能。
77	Anon.	1952	昭和二十七年年度大豆増産運動要綱。	大豆情報(北海道大豆協会)	6: 1-13.	ネマトーダ対策として輪作、窒素肥料多用、有機物施用。
78	Anon.(鹿児島農試)	1952	D-Dによる甘藷根腐線虫病防除試験。	鹿児島農試業務報告	昭26: 460-462.	謄写。良好な生育。小麦に薬害。
79	Anon.(熊本農試)	1952	粟不稔病防除試験。	熊本農試業務報告	昭24: 131-132.	DDT、BHC、冷水温湯浸。
80	Anon.(熊本農試)	1952	大豆病害虫分布調査。	熊本農試業務報告	昭24: 151-152.	大豆萎黄病を記録。
81	Anon.(長崎農試)	1952	D-Dによる甘藷害虫防除試験。	長崎農試業務報告	昭25: 177.	針虫虫及びヒコガメムシ幼虫を対象。
82	Anon.(東京農試)	1952	ネマトーダ防除に関する試験。	東京農試業務報告	昭25: 69-70.	D-D剤の薬量を試験。
0		1953	昭和28年(1953)			
1	赤石行雄・関口昭良	1953	苹果に寄生するNematodalについて。	日植病報(日本植物病理学会報)	18(1/2) 65.	講要。リンゴネコブセンチュウの最初の記録。
2	朝倉 参(担当者)	1953	根腐線虫に対するホルドールの効果調査。	愛知園試年報(愛知県園芸試験場年報)	昭27: 33-34.	被害株減少。
3	朝倉 参・伊藤克己(担当者)	1953	根腐線虫に対するホルドールの効果調査(清洲)。	愛知園試年報(愛知県園芸試験場年報)	昭28: 82-83.	2000倍液6回散布で被害株なくなる。
4	知久武彦・宮下忠博	1953	伊那地方に於ける大豆害虫の種類(予報)。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会報)	3: 59-62.	講要。Heterodera schachtiiは局所的。H. marioniは未確認。
5	深野 弘・横山佐太正	1953	根腐線虫心枯病灌漑水伝染に於ける時期並に量と発病との関係。	日植病報(日本植物病理学会報)	17(3/4) 177.	講要。
6	深野 弘・横山佐太正	1953	根腐線虫心枯病々原線虫が灌漑水に混入する時期並に量と発病について。	福岡農試研時報(福岡県農試試験場研時報)	5: 1-2.	被害を調査。
7	深野 弘・横山佐太正・西沢正洋	1953	ホルドールの根腐線虫心枯病予防効果について。	九州農業研究	11: 75-77.	種籾消毒、苗代、本田での散布。植物防疫8(2)89, 1954に抄録。
8	福井重郎・鎗水寿・飯島 鼎・田中正・泉 正一	1953	大豆の根腐線虫(Heterodera marioni(Goodey)の防除に関する研究 第I報 D-Dの殺虫効果について。	関東東山農試研報(関東東山農業試験場研究報告)	4: 19-22.	クロルピクリンより高い効果。植物防疫 8(6) 367-368, 1954に抄録。
9	福井重郎・鎗水寿	1953	大豆の根腐線虫(Heterodera marioni(Goodey)の防除に関する研究 (第II報) D-Dの持続効果について。	関東東山農試研報(関東東山農業試験場研究報告)	4: 23-26.	処理1年後は有効。2年後は初期のみ効果。植物防疫 8(6) 367-368, 1954に抄録。
10	後藤和夫・深津量栄	1953	根腐線虫心枯病に対する有機機剤散布の効果。	植物防疫	7(9) 311-313.	ホルドールの散布時期を検討。
11	後藤和夫・深津量栄	1953	根腐線虫心枯病に関する研究 第1報 本病の生態の観察。	北海道農業研究	3/4: 28-31.	病原虫の圃場残存、潜在茎の問題、品種抵抗性。植物防疫 8(7) 312, 1954に抄録。
12	後藤和夫・深津量栄	1953	根腐線虫心枯病の多発環境の有無に関する現地調査。	関西病虫研講要(関西病虫研究会講演要旨)	32回:	未見
13	萩原 十	1953	ゴボウの秋播栽培法。	農及園(農業および園芸)	28(1) 113-116.	ネマトーダの被害、D-D剤による防除を含む。
14	一戸 稔	1953	根腐線虫の研究に関する最近の動向。	植物防疫	7(3/4) 104-107.	ネコブセンチュウの分類に関する研究を要約紹介。
15	一戸 稔	1953	根腐線虫Meloiodogyne spp.について。	札幌農林学会報	39 巻3: 23-24.	講要。Chitwoodの研究の紹介。
16	一戸 稔	1953	北海道に於ける根腐線虫の形態学的知見。	応動応昆合同大会講要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭28: 7.	講要
17	一戸 稔	1953	大豆線虫の寄生性について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	4: 80-82.	27種の植物を供試。
18	一戸 稔	1953	大豆線虫Heterodera glycinesの植物寄生性について。	北海道農試彙報(北海道農業試験場彙報)	64: 113-124.	多種の植物根への線虫の侵入及び侵入後の発育を調査。
19	飯田 格	1953	土壌蒸着剤に関する2、3の実験。	農及園(農業および園芸)	28(4) 537-538.	クロルピクリンとD-Dの殺菌力、拡散範囲を比較。
20	井上 巖	1953	日本産Parachordodes 属ハリガネムシの一種について。	動雑(動物学雑誌)	62(3/4) 117-118.	講要。日本未記録種。
21	井上 巖・福井玉夫	1953	本邦産Gordius 属ハリガネムシの1新種について。	東京学芸大研報(東京学芸大学研究報告)	4: 37-39.	青森・山梨県からG. japonicusを新種として記載。寄主は不明。
22	石倉秀次	1953	四国に於ける大豆害虫相並びに被害状況。In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相(桑山 寛編)。	養賢堂、東京	p. 109-119, 1 pl.	コンリウセンチュウは重要視の必要なし。
23	伊藤克己	1953	名古屋近郊地帯の蔬菜栽培。	農業技術	8巻6: 8-11.	ネマトーダの害は大。D-D、ホルドールによる防除が行われている。
24	金森泰治郎	1953	十勝地方に於ける大豆線虫病に関する試験成績。	北海道立農試十勝支場	30 pp.	大豆線虫と肥料三要素との関係、耕鋤並びに施肥の深淺と被害、輪作法と発生との関係。
25	金森泰治郎	1953	十勝地方に於ける大豆萎黄病の被害と耕種防除法。	北農	20 巻3: 91-100.	輪作、施肥法、抵抗性品種。
26	加納喜多雄・藤本克己	1953	D-D使用による根切虫防除。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	2: 105-108.	被害皆無に近くなる。
27	河合 一郎	1953	種籾の撰種と消毒。	農及園(農業および園芸)	28(1) 191-193.	心枯線虫防除を含む。
28	河村貞之助	1953	葉線虫が各種Parathion 並に駆虫剤中に於ける態度について。	日植病報(日本植物病理学会報)	18(1/2) 84.	講要。線虫の生存期間。
29	木本氏幹	1953	胡瓜根腐線虫病に対するホルドールの効果。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	4: 112-113.	根腐着生は減少。収量は増加。
30	桐生知次郎・西沢正洋・水田隼人・山本 滋	1953	福心根腐線虫病抵抗性品種に関する研究。	農及園(農業および園芸)	28(8) 1001-1002.	発病程度による品種の群別、接種量と発病・収量。
31	近藤鶴彦	1953	根腐線虫の棲息密度の消長に関する研究第2報 甘藷の早掘りが棲息密度に及ぼす影響。	応動応昆合同大会講要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭28: 7.	講要
32	近藤鶴彦	1953	甘藷の根腐線虫と防除。	農業技術研究	7巻3: 15-17, 24.	症状、被害、防除(抵抗性品種、輪作)。
33	松原茂樹	1953	蔬菜の作付計画とその注意。	農及園(農業および園芸)	28(6) 732-734.	ネマトーダの害を強調。
34	松原茂樹	1953	根菜類における連作の影響。	園芸学会研発表要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭28秋, p. 15.	講要
35	水戸野武夫	1953	作物の病害虫に関する試験研究史。	島根農試創立77周年記念報	1: 106-141.	桑線虫 p. 119
36	武笠耕三	1953	ネマトーダ被害とその防除。	農業北海道	5巻3: 1-3.	大豆萎黄病・線虫根・病の解説及び防除法。
37	武笠耕三・一戸稔・金森泰次郎	1953	十勝地方に於ける大豆萎黄病の被害と実態。	札幌農林学会報	39 巻3: 25.	講要。発生面積、減収率、被害額等。
38	武笠耕三・一戸稔・金森泰次郎	1953	十勝地方に於ける大豆萎黄病の被害と実態。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	4: 79-80.	豆類作付圃場の28-50%に発生。
39	武笠耕三・金森泰次郎	1953	ネマトーダの対策。深耕と堆肥の効果。	農業北海道	5巻6: 11-15.	大豆萎黄病発生圃場でも20-30cmの深耕と反当 400貫の堆肥施用で、線虫のいない場合と全(同)収量。
40	二宮敬治	1953	イチゴの促成栽培。	農及園(農業および園芸)	28(2) 273-278.	芽線虫のホルドールによる防除を含む。
41	西沢正洋	1953	根腐線虫心枯病と福小粒菌核病との関係について。	日植病報(日本植物病理学会報)	17(3/4) 137-140.	単独又は同時感染時の福減収を比較。植物防疫 8(2) 86, 1954に抄録。
42	西沢正洋	1953	ホルドールによる根腐線虫心枯病の防除について。	防虫科学	18(1) 1-6.	散布効果なし。苗根部浸漬のみ有効。
43	西沢正洋	1953	根腐線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(第6報)。	九州農試彙報(九州農業試験場彙報)	1(3) 339-349.	交配組合わせ。発病の年変異。
44	西沢正洋	1953	根腐線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(VI)抵抗性品種の交配組合わせに関する検討。	日植病報(日本植物病理学会報)	18(1/2) 66.	講要

45	西沢正洋	1953	稲線虫心枯病に対する抵抗性品種.	農業技術	8(8) 264-265.	発病しない品種でも線虫は存在.
46	西沢正洋・水田隼人	1953	稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(第7報)陸稲に於ける被害の検定について.	日植病報(日本植物病理学会報)	17(3/4) 174.	講要. 陸稲にも寄生、被害を認める.
47	西沢正洋・山本滋・水田隼人	1953	稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(第7報).	九州農試彙報(九州農業試験場彙報)	2(1) 71-80.	接種量と発病及び収量との関係. 植物防疫 8(1) 34, 1954に抄録.
48	西沢 務	1953	植物寄生線虫Aphelenchoides fragariae及びA. oryzaeの培養法について.	応動昆虫合同大会講演要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭28: 19.	講要. No.54-14を参照.
49	尾形藤治	1953	D-Dによる土壌中の寄生虫幼虫並びに中間寄主動物の殺滅試験成績.	動雑(動物学雑誌)	62(3/4) 126.	講要. 豚の糞埋虫Strongyloides ransoniにも有効.
50	小川正行	1953	高知県に於ける蔬菜の主要病害防除について.	植物防疫	7(7) 212-214.	D-D剤の効果、普及状況を含む.
51	岡本 弘	1953	4月の普通作物の病害防除.	農及園(農業および園芸)	28(4) 573-576.	線虫心枯病防除を含む.
52	岡本 弘	1953	8月の普通作物の病害防除.	農及園(農業および園芸)	28(8) 1033-1037.	線虫心枯病にふれる.
53	尾崎重夫・岩瀬茂基・都築 仁(担当)	1953	5人參根線虫病に対する薬剤効果試験.	愛知農試年報(愛知県農業試験場年報)	昭26: 14.	D-D、クロルピクリン、石灰窒素、青酸ソーダ+硫酸アンモニア.
54	尾崎重夫・都築 仁(担当)	1953	人參線虫病防除に関する試験.	愛知農試年報(愛知県農業試験場年報)	昭27: 21.	D-D、ホリドール.
55	桜井 清・西島浩	1953	北海道に於ける大豆害虫相並びに被害状況. In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相(桑山 覚編).	養賢堂、東京	p. 29-44, 1 pl.	ダイズセンチュウ、コンリユウセンチュウを含む.
56	佐藤公一・七条實之助	1953	無花果の跡地試験成績.	園学雑(園芸学雑誌)	22(3) 163-166.	「生育不良は主としてネマトーダの寄生による」
57	佐藤 隆・戸田和男	1953	大豆萎黄病に対する石灰窒素の効果について.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	4: 77-79.	効果あり.
58	関谷 一郎	1953	東北地方に於ける大豆害虫相並びに被害状況. In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相(桑山 覚編).	養賢堂、東京	p. 81-94.	ダイズセンチュウ、コンリユウセンチュウを含む.
59	末永 一	1953	九州地方に於ける大豆害虫相並びに被害状況. In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相(桑山 覚編).	養賢堂、東京	p. 121-129.	ダイズセンチュウの分布を記録.
60	杉山章平	1953	大豆日夜病に関する試験成績.	北陸病虫研報(北陸病害虫研究会報)	3: 51-52.	講要. 石灰窒素、堆肥、ホリドール施用、輪作、抵抗性品種. 講要
61	杉山章平・飯島尚道	1953	水稻センチュウの侵入時期.	北陸病虫研報(北陸病害虫研究会報)	3: 42-43.	講要
62	杉山章平・飯島尚道・気賀沢和	1953	有機磷剤による水稻センチュウ防除について.	北陸病虫研報(北陸病害虫研究会報)	3: 46-49.	講要. ホリドール.
63	杉山章平・気賀沢和	1953	稲心枯センチュウによる稲被害の品種間差異.	北陸病虫研報(北陸病害虫研究会報)	3: 43-46.	講要. 26品種中6品種が強.
64	只野 柳	1953	Rhizobitis sp. の卵の初期卵割に及ぼすLICIの作用.	動雑(動物学雑誌)	62(3/4) 110.	講要
65	高橋三郎・小針幸省	1953	ホリドールによる稲線虫心枯病(Aphelenchoides oryzae Yokoo)防除試験(予報).	日植病報(日本植物病理学会報)	17(3/4) 179-180.	講要. 苗浸漬、苗代期撒布.
66	田村市太郎	1953	関東地方に於ける大豆害虫相並びに被害状況. In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相(桑山 覚編).	養賢堂、東京	p. 69-80.	ダイズセンチュウ: 最も重要視されねばならぬもの.
67	田中 一郎	1953	線虫による2種の大豆病害.	農及園(農業および園芸)	28(7) 827-831.	大豆萎黄病、根線虫病の分布、病原線虫、被害、防除等.
68	田中 勇	1953	根線虫の水平移動について.	九州農業研究	11: 47-48.	30日間で半径1尺5寸-2尺(45-60 cm)内外. 葉たばこ研究 23: 50, 1959に抄録.
69	田中 勇・古殿幸雄	1953	九州タバコ圃場における土壌線虫の垂直分布調査.	九州農業研究	12: 104-106.	深度別、季節別総線虫数の変化.
70	田村市太郎	1953	作物の病気と防除の技術一稲・麦・甘藷・馬鈴薯篇.	農業評論社、東京	486 pp.	稲心枯線虫病 p.172-174、小麦の穀実線虫病 p.303-307、甘藷の根・線虫病 p. 342-347.
71	栃内吉彦	1953	試験調査の成績により農業経営上特に参考となる事項.	北農	20 巻3: 53-75.	十勝地方に於ける大豆萎黄病の被害実態と耕種的防除法を含む.
72	津軽承徳	1953	大豆線虫は防げるか.	青森農業	4巻3: 15-18.	ダイズシストセンチュウの生態、被害、防除(輪作、抵抗性品種、合理的施肥、薬剤施用: D-D、クロルピクリン).
73	常谷幸雄・富永久雄	1953	クロルピクリンによる根線虫被害土壌の消毒と白菜の栽培.	農業	836: 32-33.	ゴボウ、キンシウリの後作として.
74	山田 済・堀見正保・山本秀夫	1953	稲の線虫心枯病俗称「ホタルイモチ」に関する研究 第三報 病原線虫の越冬及稲の栽培環境と発病との関係.	岡山農試臨時報(岡山県農業試験場臨時報告)	48: 27-36.	野外の稲葉では越冬まれ. 稲中中に存在. 朝出61号は抵抗性. 畑苗代は水苗代に比べ、田植えは遅いほど、1株の苗木数が多いほど多発.
75	横尾多美男・田中 勇	1953	たばこ圃場に見られる土壌線虫一種について.	日植病報(日本植物病理学会報)	18(1/2) 60.	講要. No.54-62を参照.
76	米内山泰介	1953	小型人參の周年栽培.	農業	841: 46-47.	ネマトーダの被害があると商品価値なし.
77	Anon. (福岡農試)	1953	稲線虫心枯病に関する試験研究.	福岡農試業務年報	昭26: 77-78.	品種の抵抗性、種子消毒他.
78	Anon. (福岡農試)	1953	稲線虫心枯病に関する研究.	福岡農試業務年報	昭27: 146-154.	播種期の移動、ホリドール撒布と発病他.
79	Anon. (神奈川農試)	1953	麦とむむしどもき防除試験.	神奈川農試農事試験成績	82 病虫部: 23-24.	昭25成績. D-Dの土壌灌注が効果あり.
80	Anon. (熊本農試)	1953	粟不稔病に対する粟品種の抵抗性検定試験.	熊本農試業務報告	昭26: 165.	騰写. 5品種を比較.
81	Anon. (宮崎農試)	1953	甘藷根線虫病に関する試験(昭和24年).	宮崎農試業務過程	昭24・25: 27-28.	形態、名称(Pratylenchus pratensisと同定)、寄主植物等.
82	Anon. (宮崎農試)	1953	82. Anon. (宮崎農試): 甘藷根線虫病に対する薬剤効果試験(昭和24年).	宮崎農試業務過程	昭24・25: 28-29.	D-Dの効果をクロルピクリンと比較.
83	Anon. (岡山農試)	1953	稲の線虫心枯病「ホタルイモチ」に関する試験.	岡山農試業務過程	昭25・26: 13-14.	昭25成績. No.53-74を参照.
84	Anon. (岡山農試)	1953	稲の線虫心枯病「ホタルイモチ」に関する試験.	岡山農試業務過程	昭25・26: 67-68.	昭26成績. 種籾消毒.
85	Anon. (山形農試)	1953	大豆不作地に関する調査.	山形農試業務年報	昭26: 670-674.	線虫、ネムグリハエの被害が大.
86	Anon. (山形農試)	1953	大豆不作地(萎黄病発生地)改善に関する試験. 1. 肥料試験 2. 石灰窒素施用試験 3. 土壌処理試験 4. 播種期試験 5. 豆科作物栽培試験	山形農試業務年報	昭26: 657-661.	新庄原種農場成績.
0		1954	昭和29年(1954)			
1	藍野祐久	1954	林業害虫とその駆除剤.	林業技術	147: 11-16, 21.	D-Dを含む.
2	円城寺定男	1954	秋そさいの病虫防除.	植物防疫	8(8) 348-353.	D-D、クロルピクリン消毒. 追肥による線虫被害軽減.
3	後藤重喜	1954	甘藷根腐線虫病の発病度と諸要因の関係. 土壌の温度及び湿度.	九州農業研究	13: 15-16.	降雨量とは関係少なく、地温と正の相関.
4	後藤重喜	1954	甘藷根腐線虫病の発病度と諸要因の関係. 品種及び移植の時期.	九州農業研究	14: 220-222.	7品種の比較. 遅植ほど被害少ない.
5	萩原 十・田坂耕一郎・沢地信康	1954	前作トマトが大根の生育に及ぼす影響.	東京農試試験成績発表会報(東京都農業試験場試験成績発表会)	10回: 16-22.	騰写. 後作大根の成績不良はネマトーダが原因. D-D処理が効果的.
6	萩原 十・田坂耕一郎・沢地信康	1954	前作トマトが大根の生育に及ぼす影響.	園芸学会研究発表要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭29春: 16.	講要
7	飛高義雄	1954	別府附近の温泉熱利用の作付体系. In: 蔬菜高度輪栽法: 栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編).	朝倉書店、東京	p. 156-161.	温泉熱利用のガラス室のネマトーダ防除: 夏期に高温泉を流しこむ.
8	平野伊一	1954	大阪港の植物検疫史(2).	大阪植防(大阪植物防疫)	3(通巻30): 169-189.	1927, 1937年に線虫を1回ずつ発見.
9	一戸 稔	1954	線虫における「寄主と寄生虫の関係」についての一考察.	北農研究抄報	1: 25-26.	講要
10	一戸 稔	1954	本邦未記録線虫Heterodera majorについて.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	5: 38.	千葉県から麦のシストセンチュウを発見.
11	井上 巖	1954	カマキリに寄生するハリガネムシ(Chardodes)の生活史特にその感染経路に.	動雑(動物学雑誌)	63(11/12) 481-482.	講要. C. japonensis.
12	伊藤一雄	1954	樹病講座 2.	林業技術	147: 22-29.	線虫病を含む. 外国文献の紹介が中心. 新潟のキリの線虫病に言及.
13	伊藤武夫	1954	シュロの立枯病にネマトーダが一役?	森林防疫ニュース	30: 343-344.	ネコブセンチュウを発見.

14	岩井茂松	1954	キク栽培上の問題点	農業技術研究	8巻4. 8.	線虫性葉枯病を含む。
15	弥富喜三・西沢務	1954	草毒の線虫及び稲心枯線虫の培養について。	応動(応用動物学雑誌)	19(1) 8-15.	Alternaria属菌が最も好適。線虫の病原性は不変。
16	弥富喜三・西沢務	1954	草毒から検出された新線虫。	応動(応用動物学雑誌)	29: 4	講要
17	片山貞香・片野恒雄・平松寛・中野昭信(担当)	1954	水稲線虫心枯病に対する水稲品種間罹病差異に関する試験。	和歌山農試年報(和歌山県農業試験場年報)	28: 19.	4品種は発病せず。
18	片山貞香・片野恒雄・平松寛・中野昭信(担当)	1954	水稲線虫心枯病に対する施肥試験。	和歌山農試年報(和歌山県農業試験場年報)	28: 19.	「N倍量区は発病率高く、N欠K倍量区は何れも発病率が低い」
19	片山貞香・片野恒雄・平松寛・中野昭信(担当)	1954	水稲線虫心枯病に対する施肥関係試験。	和歌山農試年報(和歌山県農業試験場年報)	28: 19.	無肥料区は著しく発病が多い。
20	片山貞香・高岡正道・片野恒雄・平松寛(担当)	1954	野菜類の根腐線虫病防除試験。	和歌山農試年報(和歌山県農業試験場年報)	27: 43-45.	ホリドール、EPN剤注。
21	河村貞之助	1954	葉線虫の有機燐剤並に人体駆虫剤に於ける態度について。	千葉大園学報(千葉大学園芸学部学術報告)	2: 8-16.	ホリドールの殺線虫効果試験。
22	河村貞之助	1954	線虫に関する新しい問題。	農業	1巻7: 10-14.	葉線虫、ネコブセンチュウの被害、防除。
23	河村貞之助・中川郁郎	1954	根腐線虫に対する有機燐剤並にHexylresorcinの作用について。	日植病報(日本植物病理学会報)	18(3/4) 186.	講要。後者は殺線虫力なし。パラチオンの土壌吸着を含む。
24	河村貞之助	1954	高度輪栽と病害。 In: 蔬菜高度輪栽法: 栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編)	朝倉書店、東京	p. 41-51.	線虫も含む。
25	川島嘉一郎・松本利雄	1954	薬用入参の線虫に対するD-Dの効果について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	5: 159-161.	クロルピクリンより高い効果。
26	桐生知次郎	1954	水害に伴った稲の病害。	農及園(農業および園芸)	29(1) 233-236.	稲線虫心枯病を含む。
27	北沢喜太郎(担当者)	1954	大豆線虫と施肥法との関係試験。	害虫防除に関する試験成績報告(長野農試)	27: 28-36-39.	線虫寄生数は硫黄施用区より石灰窒素施用区が少ない傾向。無堆肥区は寄生数多い傾向。線虫寄生数と根腐付着数に逆比例の関係。
28	北沢喜太郎(担当者)	1954	大豆線虫被害と窒素肥料施肥法との関係試験。	害虫防除に関する試験成績報告(長野農試)	27: 28-175-176.	「萎黄症状は線虫寄生数の如何に拘わらず堆肥と石灰窒素を与えたものには発生しなかった」
29	近藤鶴彦	1954	根腐線虫に対する作物の抵抗性とその利用。	農業千葉	8巻12: 11-14.	寄生性の比較、抵抗性品種の利用価値、品種の育成と問題点(主にカンショ)
30	近藤鶴彦	1954	根腐線虫に対する甘藷の耐虫性。	農業技術	9巻9: 28-29.	耐虫性による品種の分類。
31	近藤鶴彦・三枝敏郎	1954	根腐線虫の寄生性と分類に関する一・二の知見	日植病報(日本植物病理学会報)	18(3/4) 189.	講要。サツマイモネコブ、キタネコブセンチュウ。
32	真木 胖・村上真一	1954	大豆根線虫病に対するD-Dの効果。	愛媛農試試験研究速報(愛媛県農業試験場研究速報)	2: 26-27.	クロルピクリンと同程度の効果。
33	松原茂樹	1954	蔬菜の忌地はどうして起るか。	農業技術研究	8巻9: 51.	ゴボウのネマトーダによる忌地を含む。
34	松原茂樹	1954	蔬菜の種類と作付体系について。 In: 蔬菜高度輪栽法: 栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編)	朝倉書店、東京	p. 13-24.	病虫害、忌地とネマトーダを含む。
35	松岡匡一	1954	暖地用緑肥作物としてのクロタラリアの栽培	農及園(農業および園芸)	29(7) 890-892.	対抗植物としての記述はない。
36	武笠耕三	1954	農作物に対する有害動物への関心	北農	21(4) 109-111.	線虫の簡単な解説を含む。
37	二宮敬治	1954	高冷地育苗による・の早出し栽培法。	農及園(農業および園芸)	29(7) 893-898.	根腐線虫防除: 育苗中2・3回ホリドール1000倍液を散布。
38	西沢 務(担当者)	1954	稲心枯線虫に関する試験。	静岡農試業務報告(静岡県農業試験場業務報告)	28: 283-284.	人工地、県内分布。
39	西沢 務	1954	稲心枯線虫の学名と寄生性について。	中部地区農林学会報	6: 2-3.	未見
40	西沢 務	1954	植物寄生線虫とその防除。	農業技術研究	8巻9: 40-43, 2 pls.	根腐線虫、大豆線虫、根ぐされ線虫、稲心枯線虫他。
41	西沢 務	1954	線虫の生態。	農業技術研究	8巻9: グラビア(2 pls.)	ネコブセンチュウ、コムギツブセンチュウ、キクのハガレセンチュウの被害、生活史
42	小川正行	1954	ペーパーハウス栽培の果実類防除法。	農及園(農業および園芸)	29(3) 403-407.	ナス、キュウリ、トマトの一部でD-Dを使用。
43	小此木栄治	1954	埼玉県における蔬菜輪作様式。 In: 蔬菜高度輪栽法: 栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編)	朝倉書店、東京	p. 86-93.	ヤマトイモの線虫被害の回避、D-Dによる防除。
44	三枝敏郎	1954	根腐線虫とカリウムとの関係。	植物防疫	18(4) 157-160.	Oteifa (1951, 52, 53) の研究の紹介。
45	三枝敏郎	1954	本邦産植物線虫	Nagaosa	4: 1-11.	ネコブ、ネグサレセンチュウ等の解説。
46	三枝敏郎	1954	麦類に寄生するHeterodera majorの被害と生態に関する一・二の知見	日植病報(日本植物病理学会報)	19(1/2) 91-92.	講要。土壌中における垂直分布、季節的消長等。
47	佐野三千三・市川辰也	1954	Folidor-E605による桑樹根・線虫防除に関する研究。	静岡農試業務報告(静岡県農業試験場業務報告)	14: 39-48.	標写。土質と寄生との関係、寄生時期、桑苗の消毒(石灰窒素、ホリドール、温湯処理)、土壌の消毒(D-D、二硫化炭素、ホリドール)、桑樹の生育に及ぼす影響。
48	佐藤 隆・戸田和男	1954	大豆萎黄病に対する土壌消毒剤の併用効果について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	5: 90-92.	D-Dと石灰窒素が高い効果。
49	篠原捨喜	1954	静岡県下の作付様式。 In: 蔬菜高度輪栽法: 栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編)	朝倉書店、東京	p.101-106.	タバコの作付増により線虫増加。
50	白浜賢一	1954	蔬菜と病害虫: 5月の巻。	植物防疫	8(5) 228-231.	ゴボウのネコブセンチュウをD-Dで防除。
51	白浜賢一	1954	蔬菜と病害虫: 6月の巻。	植物防疫	8(6) 266-267.	ニンジン圃場のD-D処理。同種子の有機水銀剤浸漬。
52	杉山直儀	1954	蔬菜の忌地の問題。 In: 蔬菜高度輪栽法: 栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編)	朝倉書店、東京	p. 25-31.	ゴボウの忌地の原因はネマトーダ。D-Dによる防除。
53	只野 柳・只野正志	1954	線虫Rhabditis ikedai TADANOの雌雄同体について。	動雑(動物学雑誌)	65(11) 393-395.	系統により性が異なる。雌雄同体で自家受精する系統がある。
54	只野 柳・只野正志	1954	遠心分離したRhabditis sp. 初期卵の卵割特に星状体と卵割面に関係深い顆粒について。	動雑(動物学雑誌)	63(314) 164.	講要
55	高木信一	1954	線虫研究の問題点。	農業技術研究	8巻8: 41-43.	学名、分類形態学、防除、被害の把握、人工培養、密度推定。
56	高岡市郎	1954	相談室	葉たばこ研究	0.2118056	D-Dの使用法。
57	武末克哉 他2名(担当者)	1954	ソサイネマトーダ防除試験。	山口農試業務年報(山口県農業試験場業務年報)	27: 27.	ナスにホリドール、D-D、石灰窒素施用。
58	田中 勇	1954	根腐線虫病に対するタバコ品種の抵抗性について。	宮崎植防疫協会誌(宮崎県植物防疫協会誌)	1: 77-79.	未見。No. 54-67を参照。
59	田中 勇	1954	根腐線虫病に対するタバコ品種の抵抗性について。	日植病報(日本植物病理学会報)	18(3/4) 159.	講要
60	田中 勇	1954	九州タバコ産地における土壌線虫の垂直分布について。	応動(応用動物学雑誌)	29: 19.	講要
61	田中 勇	1954	タバコ線虫病に関する研究 第5報 土壌中の線虫の垂直分布について。	鹿児島たばこ試験報告	9: 41-57, 10 Tab., 5 pls.	九州各地のタバコ畑のネコブセンチュウの垂直分布を深さ20寸(約60cm)まで調査。
62	田中 勇	1954	タバコ線虫病に関する研究。タバコ畑に見られる土壌線虫の一種について(予報)。	鹿児島たばこ試験報告	9: 59-63. 1 pl.	この論文中でTetylenchus nicotiana Yokoo et Tanaka (新種)を記載。その後Rotylenchulus 属に移され(No. 67-81を参照)、現在はR. reniformisのシノニムとされている(Dasgupta et al., Proc. helminth. Soc. Wash. 35(2) 169-192, 1968)。
63	田中 勇・津曲彦寿	1954	タバコ線虫病に関する研究 第2報 根腐線虫(Heterodera marioni (Cornu) Goodey) の初期感染とD-D及びクロルピクリンによる土壌消毒の効果	鹿児島たばこ試験報告	9: 1-16, 2 pls.	タバコの初期生育、薬剤の効果範囲。
64	田中 勇・津曲彦寿	1954	タバコ線虫病に関する研究 第3報 タバコにおける根腐線虫(Heterodera marioni (Cornu) Goodey) の根腐形成とその病徴	鹿児島たばこ試験報告	9: 17-26, 6 Pls., 口絵	寄生侵入・寄生、地上部病徴、タバコ収量及び品質低下。
65	戸部敬哉	1954	臭化メチルと各種ハロゲン化炭素の混液の沸点と殺菌力に関する研究。	日植病報(日本植物病理学会報)	18(3/4) 171.	講要。EDB他。
66	椿 啓介	1954	Studies on the Japanese Hyphomycetes (I) Coprophilous group.	Nagaosa	4: 1-20, 2 pls.	線虫捕食菌Arthrobotrus oligosporaの馬糞からの記録を含む。

67	津曲彦寿・田中勇	1954	タバコ線虫病に関する研究 第4報 タバコ線虫病に対するタバコ品種(遠州葉、プライトエロー、RK70)の抵抗性の差異について	鹿児島たばこ試験報(鹿児島たばこ試験場報告)	9: 27-40, 4 pls.	[RK70は抵抗性.]
68	渡辺乙彦	1954	海岸砂地造林地のネキリムシの駆除試験	森林防疫ニュース	25:17-18	D-D、クロルピクリン、二硫化炭素を試験.
69	山田 済	1954	稲の線虫心枯病の防除法.	植物防疫	8(3) 110-111.	冷水温湯浸法、風呂湯浸、温湯浸、硝酸銀浸法、耕種的方法.
70	山田 済	1954	水稲種初消毒、特に線虫心枯病について	農及園(農業および園芸)	29(4) 499-502.	種初消毒法(ホルマリン、水銀剤、硫酸銅、温湯浸)、分布、被害(平均10%の玄米減収)、稲中の線虫、線虫の移動. 植物防疫 8(7) 313. 1954 に抄録.
71	山口弘孝・小泉美砂子	1954	ナメクシ寄生線虫Rhabditis ikedai n.sp.の二、三薬物特異性駆虫剤に対する感受性等について(予報).	日薬理誌(日本薬理学会誌)	50(5) 149 \$-150 \$.	講要. 線虫名はNo.50-32を参照. 新種の記載は含まず.
72	山本重雄	1954	菊の葉枯線虫病.	植物防疫	8(11) 489-492.	病徴、病原線虫(Aphelinchoides ritzemabosi)、防除法(パラチオン剤).]
73	柳 武・関谷一郎・早川広美・呉羽好三	1954	大豆線虫に関する研究.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	1: 19-21.	堆肥と窒素肥料の多用によって萎黄病を抑制.
74	Anon.(東京農試)	1954	甘藷根腐線虫の防除に関する試験.	東京農試業務報告	昭28: 病-49-46.	糖写. 殺虫剤(シストックス、ベストックス、モノフルオール酢酸ナトリウム)による防除.
75	Anon.(福岡農試)	1954	稲線虫心枯病に関する研究.	福岡農試業務年報	昭28: 223-234.	有機燐剤、有機塩素剤による種子処理、本田散布.
76	Anon.(福島農試)	1954	薬用入参ネマトーダに対するD-Dの効果試験(28年度成績).	福島農試業務年報	昭25-28: 341-343.	糖写. D-D、クロルピクリンが優れる.
77	Anon.(鹿児島農試)	1954	床土消毒試験.	鹿児島農試業務報告	昭282828-230.	糖写. 温泉の湯(59°C)利用による線虫防除.
78	Anon.(宮崎農試)	1954	線虫に関する試験.	宮崎農試業務功程	自昭24至25: 125-126.	川南分場成績. 茶園土壌にクロルピクリン、D-D、石灰窒素、堆肥施用. 抵抗性品種検定.]
79	Anon.(宮崎農試)	1954	甘藷根腐線虫に関する試験(昭和26、27年度).	宮崎農試業務功程	自昭26至27: 34-37.	寄主植物、抵抗性品種、発病と土壌温度、クロルピクリンによる土壌消毒、発病と肥料.
80	Anon.(長野農試)	1954	長野県における大豆栽培の実態.	長野農試報(長野県農業試験場報告)	19: 1-35.	不作の原因の一として線虫を含む害虫をあげる.
81	Anon.(栃木農試)	1954	稲線虫心枯病防除試験.	栃木農試業務年報	昭27: 101-103.	ホリドール散布、耐病性検定.
82	Anon.(栃木農試)	1954	蕃薯ネマトーダ防除試験.	栃木農試業務年報	昭27: 103	D-Dは効果あり. 種薯のホリドール処理は効果なし.
83	Anon.(山形農試)	1954	大豆不作地改善に関する試験.	山形農試業務年報	昭27. 新庄原種農場の部. 42-	石灰窒素施用試験、大豆尿素散布試験、薬剤による大豆不作防止試験.
84	池田克文	1954	(未詳)	総合農業	2(3) 124	未見(冊子体目録に未収録の文献)
0		1955	昭和30年(1955)			
1	深野 弘・横山佐太正	1955	水稲品種ツルギバに於ける稲線虫心枯病の被害について.	九州農業研究	16. 114.	病斑は出ないが減収.
2	後藤重喜	1955	甘藷根腐線虫の発病度と諸要因との関係 第3報 肥料要素及び堆肥	九州農業研究	16. 119.	堆肥多用区ほど発病度が低い.
3	広野光男(担当者)	1955	根腐線虫防除試験.	愛知農試年報(愛知県農業試験場年報)	昭29: 57.	茶樹の苗にD-D、ホリドール施用.
4	一戸 稔	1955	大豆線虫における世代数.	札幌農林学会報	39巻4: 49-50.	講要. 发育限界温度10°C、有効積算温度313.0日度、年3世代.
5	一戸 稔	1955	わが国に於ける根腐線虫の2種.	応動(応用動物学雑誌)	20(1) 75-82.	Chitwoodの分類手法によってMeloidogyne incognita acrita, M. haplaを記載.
6	一戸 稔	1955	根腐線虫の種類について.	応動応昆合同大会講演要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭30: 11	講要
7	一戸 稔	1955	草毒の線虫について.	札幌農林学会報	39巻5: 28-29.	講要. 病徴、病原線虫、発生状況.
8	一戸 稔	1955	接木による大豆線虫の寄生性に関する実験.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	6: 53-56.	ライマイニンと菜豆.
9	一戸 稔	1955	泥炭地帯に発生した大豆線虫による大豆被害の調査.	日生態誌(日本生態学会誌)	5(1) 23-26.	客土による発生例. 大豆の生育とシスト密度の関係を調査.
10	一戸 稔	1955	大豆線虫の形態並びに生態に関する研究.	北海道農試報(北海道農業試験場報告)	48: 1-64, 4 pls.	研究史、形態、生態(生活史、年間世代数、寄主植物への影響、寄主範囲. 小麦に寄生するHeterodera major(ムギシストセンチュウ)の分布、形態、病徴、寄主植物を含む).
11	一戸 稔	1955	大豆線虫の棲息密度に関する研究 1. 大豆の被害と寄生雌成虫数についての一観	北海道農試報(北海道農業試験場報告)	68: 67-70.	生育不良株の雌成虫は良好株より少数.
12	一戸 稔・浅井三男	1955	大豆萎黄病抵抗性に関する2, 3の観察.	北農研究抄報	2: 51.	講要
13	井上 巖	1955	本邦産ハリガネムシ(Gordiacea)の既知種概要並にParachordodes 属1新種について.	日生物地理学会報(日本生物地理学会会報)	16-19(日本動物相の研究) p. 31-35.	Parachordodes okadai(埼玉・長野県からの新種. 寄主不明)の記載および次の種類の寄主・産地・形態をまとめる. Gordius fulgum, G. japonicus, P. lestici, Paragordionus kawamurae, Chordodes silvestri, C. fukuii, C. japonensis.]
14	井上晋次	1955	本年の農業需給の見通し.	植物防疫	9(5) 183-185.	D-Dは6000ポンド.
15	石川正示	1955	満州大豆の近ごろ.	自刊(?)	5 pp.	昭和29年頃までの状況. 「康徳」は線虫に特に感受性が強いという欠点があるので.....」
16	弥富喜三	1955	応用動物学25年: 線虫.	応動(応用動物学雑誌)	20(1/2) 33-35.	線虫研究史の概観.
17	弥富喜三	1955	柑橘の拡大性衰弱病(仮称)について.	柑橘	7巻10: 36-39.	アメリカのRadopholus similisによるspreading declineの紹介.
18	上遠 章	1955	農業の解説一・蒸剤.	植物防疫	9(10) 431-433.	クロルピクリン等.
19	上遠 章	1955	農業の進歩発達を顧みて.	農業	868: 46-	D-D:一部で実用化
20	河村貞之助	1955	スリップスに寄生する線虫の一例報告.	植物防疫	9(4) 145-146.	線虫未同定.
21	河村貞之助	1955	2, 3の有機殺虫剤及び人体駆虫剤の殺線虫力についての観察.	日植病報(日本植物病理学会報)	19(3/4) 158.	講要. ネコフセンチュウを供試.
22	河村貞之助	1955	殺線虫剤殺菌剤の一例について.	日植病報(日本植物病理学会報)	19(3/4) 185.	講要. N-244剤をネコフセンチュウ、白絹病菌に施用.
23	河村貞之助	1955	園芸作物に被害の多いネマトーダとその被害	園芸日本	2巻4:42-45.	種類、症状の見分け方、防除(D-D、クロルピクリン).
24	河村貞之助・寺田伊斗子	1955	日本産葉線虫の寄主植物補遺.	栃内・福土両教授還暦記念論文集	p. 36-40, Pl. I-II	木本を含む15種を新寄主として屋外から記録. 接種試験結果も含む.
25	桐生知次郎・水田重人・栗田年	1955	早期栽培稲の病害発生相調査成績.	農及園(農業および園芸)	30(2) 329-330.	稲線虫心枯病発生.
26	木谷清美・土山哲夫	1955	地域別病害虫の諸問題-四国農試の諸問題	植物防疫	9(1) 12-15.	稲線虫心枯病を含む.
27	小林研三	1955	稲線虫心枯病について.	研農復刊	3(5) 67-71.	熊本県で4000町歩に発生. 生態、防除法.
28	隈元吉照	1955	稲の病害.	農業	2巻8: 37-38.	線虫心枯病:ホリドール1000倍液を散布.
29	正木二郎・安尾 俊	1955	地域別病害虫の諸問題-関東々山における病害虫研究上の諸問題	植物防疫	9(2) 49-52.	大豆線虫、大豆根・線虫、線虫心枯病を含む.
30	松本 番	1955	北海道における大豆栽培推移と害虫防除.	植物防疫	9(6) 224-227.	十勝地方のダイズシストセンチュウにふれる.
31	松岡匡一	1955	クワラリア品種の特性に関する研究(1)線肥及び飼料用栽培について.	日作紀(日本作物学会紀事)	23(3) 229-230.	講要. 対抗植物としての記述はない.
32	松岡匡一・川上剛志	1955	クワラリア品種の特性に関する研究(2)採種栽培について.	日作紀(日本作物学会紀事)	23(3) 229-230.	講要
33	武笠耕三	1955	ドブネズミとネマトーダ.	農業北海道	7巻10: 41-43.	ネズミおよび線虫害(ダイズ萎黄病、線虫根腐病)の被害・防除法の解説
34	武笠耕三	1955	ネマトーダと対策.	農業朝日	10 巻7: 41-43.	ネコフ、シストセンチュウの解説および防除法.
35	武笠耕三・一戸稔	1955	作物による大豆萎黄病防除試験.	大豆害虫防除法確立に関する研究報告(北海道農試 昭29応用研究成績)	20-24.	糖写
36	二宮敬治(担当者)	1955	母線虫駆除試験.	静岡農試業務報告(静岡県農業試験場業務報告)	昭29: 150-152.	ホリドール、パラチオン、ベストックスによる防除.
37	西沢 務・弥富喜三	1955	Lyophilie法による線虫生体標本の保存.	応動応昆合同大会講演要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭30: 33.	講要

38	西沢 務・弥富喜三	1955	福心枯病の学名と寄生性について.	日植病報(日本植物病理学会報)	20(1) 33.	講要. Aphelenchoides besseyiと同日、イチゴへの寄生性を確認.
39	西沢 務・弥富喜三	1955	毒菌に寄生するNothotylenchus acris Thorne について.	応動(応用動物学雑誌)	20(1/2) 47-55.	形態、病徴、棲息部位、伝播方法、パラチオン剤散布効果、接種試験.
40	岡田富信	1955	陸稲線虫(仮称)(Heterodera sp.)の形態について.	応動(応用動物学雑誌)	20(1) 11.	講要
41	岡田富信	1955	ニンジンに於ける根・線虫の経過習性に就いて.	宇都宮大農学報(宇都宮大学農学部学術報告)	2(3) 301-315.	キタネコブセンチュウ.
42	尾崎幸三郎	1955	土壌中の殺虫剤による薬害とその残留(II).	植物防疫	9(6) 241-254.	D-Dの土壌微生物に及ぼす影響. Bollen(1954)の研究の紹介.
43	三枝敏郎	1955	線虫類の問題点.	植物防疫	9(4) 134-136.	線虫の概説と研究、防除上の問題点を指摘.
44	三枝敏郎	1955	我が国農業に重大な被害を及ぼす線虫類とその防除法.	農及園(農業および園芸)	30(8) 1030-1036.	ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ等の解説、および防除法.
45	三枝敏郎	1955	根瘤線虫被害圃場に於ける木酢液の効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	19(3/4) 185.	講要. 効果あり.
46	三枝敏郎	1955	ペーラムン漏斗法による二・三の着意点と検出線虫数との関係.	日植病報(日本植物病理学会報)	20(2/3) 107-108.	講要
47	三枝敏郎	1955	土壌線虫の分布及びペーラムン漏斗法による検出法.	植物防疫	9(12) 495-497.	土壌量、水温、浸漬時間、土壌水分について検討.
48	桜井 清	1955	農業による土壌害虫の防除.	農及園(農業および園芸)	30(1) 202-206.	ハリガネムシ、コガネムシ幼虫にD-D有効. 線虫にも効果あるが経済上及び使用法に難点.
49	佐藤康男	1955	三浦大根の特性と栽培法[1].	農及園(農業および園芸)	30(9) 1185-	果菜類を前作とするとネマトーダの被害を受けやすい. 輪作による防除.
50	関 道生	1955	柑橘根介殼虫の被害と防除.	農業	2巻1: 12-18.	D-Dが効果あり.
51	篠原捨喜・竹穂忠雄・河村光雄	1955	糸瓜蔓割耐病品種の育種研究(第2報)罹病圃場に於ける単一品種の選抜育	育種(育種学雑誌)	5(3) 30-44.	ネコブセンチュウにより枯死する株がある.
52	白浜賢一	1955	蔬菜の病害虫.	農業	2巻2: 32-35.	苗土の消毒:ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウにクロロピクリン、D-D.
53	白浜賢一	1955	蔬菜の病害虫.	農業	2巻3: 35-39.	根瘤線虫(ネマトーダ)の防除:D-Dの施用方法を図解.
54	末永 一・西沢正洋	1955	地域別病害虫の諸問題—九州における病害虫防除・試験研究の諸問題	植物防疫	9(1) 9-12.	線の線虫、甘藷の線虫:D-Dはつかわれていない. 馬鈴薯にネグサレセンチュウ多発.
55	只野正志・只野柳	1955	線虫Rhabditis ikedai Tadanoの培養に就いて.	岐阜大学芸報(岐阜大学芸学部研究報告)(自然科学)	1(3) 271-279.	桑葉粉末、大豆、肉エキス等を用いた培地での生存、増殖.
56	只野 柳・只野正志	1955	On the elongation and the rotation of the spindle, and the different behavior in each of the amphiaser, in relation to the cleavage-plane	岐阜大学芸報(岐阜大学芸学部研究報告)(自然科学)	1(3) 281-287.	卵割過程を観察.
57	只野 柳・只野正志	1955	On the influence of lithium chloride upon the eggs of a nematode, Rhabditis sp., at the one cell stage and the behavior of the suppressed blastomere.	岐阜大学芸報(岐阜大学芸学部研究報告)(自然科学)	1(3) 289-298.	塩化リチウムの卵割への影響を卵割のステージを追って観察.
58	竹内輝久	1955	大和いものエボネマトウダの防除.	植物防疫	9(4) 175.	質疑応答.ネコブセンチュウのD-Dによる防除.
59	田村市太郎	1955	地域別病害虫の諸問題:北陸における虫害問題の展望.	植物防疫	9 (1) 4-6.	スイウセンチュウ(イネシガラセンチュウ)にふれる.
60	田中一郎	1955	病害虫発生の特異性(昭和29年度の作況と技術的反省).	北農	22(1)21-27.	大豆線虫及び根瘤線虫をふくむ.
61	田中一郎	1955	地域別病害虫の諸問題—北海道における病害虫に関する問題.	植物防疫	9(1) 44-47.	線虫を含む研究課題の紹介.
62	田中 勇	1955	根瘤線虫により形成されたゴール中の雑線虫について.	応動(応用動物学雑誌)	20(1) 11.	講要
63	田中 勇	1955	根瘤線虫により形成されたゴール中の雑線虫について.	九州農業研究	15: 94-95.	Rhabditisが多い.
64	立石 轟・村田全・行徳直己	1955	二化螟虫の天敵について(予報).	九州農業研究	16: 105.	Amphimermis zuimushiの寄生少数.
65	渡辺誠三	1955	農業用ビニールの営農分野 [12].	農及園(農業および園芸)	30(1) 99-102.	トマト、ナスの線虫はD-Dで防除. 天返し、輪作に及ぶ.
66	Wieser, W.	1955	A collection of marine nematodes from Japan.	Publ. Seto Mar. Biol. Lab. (Publications of Seto Marine Biological Laboratory)	4(2/3) 159-181.	時岡 隆氏から送られた標本を元に次の4新種を含む26種を和歌山県白浜かに記録. Halalaimus sp., Enoplus sp.1. E. sp.2. Stryngolaimus striaticaudatus de Man, Oncholaimus dujardini de Man, Viscosia carneleyensis (Ditlevsen), Eurystomina ornata (Eberth), Polygastrophora tenuicollis (Allgen), Paracanthochus hawaiiensis Allgen, Acanthochus setoi(新種), Halichoanilaimus robustus (Bastian), Desmodora scaldensis de Man, Chromadora macrolaimoides Steiner, C. brevipapillata Micoletzky, C. nudicapitata Bastian, Chromadora inversa (新種), Chromadorella filiformis (Bastian), Euchromadora tokiokai (新種), E. amokurae (Ditlevsen) (= Graphonema amokurae), Neochromadora craspedota (Steiner), Spilophorella tollenera(新種), S. paradoxa (de Man) Chromadoropsis parva (de Man) (= Metachromadora (Bradyaimus) suecica), Linhomoeus sp., Paramonhystra paranormandica (Micoletzky), Monhystra sp.
67	柳 武・関谷一郎	1955	大豆線虫の被害防除について.	応動(応用動物学雑誌)	20(1) 10.	講要
68	Anon.	1955	九州における稲作病害虫防除基準—昭和30年度(病害の部).	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	1: 104-109.	根線虫心枯病:温湯浸漬法による種粒消毒、抵抗性品種.
69	Anon.	1955	昭和29年度委託試験成績概要(3).	植物防疫	9(8) 345-348.	ネマダ(D-D)を含む.
70	Anon.(青森農試)	1955	大豆線虫(Heterodera glycines Ichinohe)防除試験.	青森農試業務年報	昭27: 47-49.	南部農事試験場成績. 耐虫性検定、D-D及びクロロピクリンの持続効果、硫酸施肥効果、ホリドール剤による防除.
71	Anon.(青森農試)	1955	大豆線虫防除試験	青森農試業務年報	昭28: 51-52.	継写. 南部支場成績. 大豆品種の耐虫性の強弱.
72	Anon.(愛媛農試)	1955	根線虫心枯病の種子消毒試験.	愛媛農試業務年報	昭28: 61-62.	硝酸銅、硝酸鉛、硝酸銀、冷水温浸漬、超音波による種子処理.
73	Anon.(神奈川農試)	1955	蔬菜ネマトーダ防除試験.	農業試験成績	88:182-183.	昭和27年度成績. D-D、ホリドール、EPN剤のニンジン、ゴボウ、ヤマトイモへの施用.
74	Anon.(宮崎農試)	1955	甘藷根腐線虫病に関する試験.	宮崎農試業務年報	昭28: 109.	クロロピクリン、D-D、ダイセン、ホリドール、フラトル施用.
75	Anon.(宮崎農試)	1955	線虫に関する試験.	宮崎農試業務年報	昭28: 186-187.	川南分場成績. 茶園土壌における線虫の垂直分布.
76	Anon.(長野農試)	1955	大豆線虫の被害防除に関する研究.	害虫防除に関する試験成績報告	昭29: 81-87.	施肥と線虫寄生程度、被害.
77	Anon.(栃木農試)	1955	水稲線虫心枯病に関する試験.	栃木農試業務年報	昭28: 133-135.	ホリドール、ベストックス剤散布、水稲品種抵抗性検定.
78	Anon.(東京農試)	1955	トマト後作大根試験.	東京農試研究年報	昭28: 38-39.	大根の生育不良の原因はネマトーダ. D-D施用で改善.
79	Anon.(山形農試)	1955	根瘤線虫病に対する薬剤の効果に関する試験.	山形農試業務年報	昭28: 166-168.	D-D、ホリドールを供試.
80	Anon.(山形農試)	1955	大豆不作地に関する試験.	山形農試業務年報	昭28: 尾花沢原種農場之部・新庄原種農場之部・133-139.	D-D、クロロピクリン、石灰による線虫防除、石灰窒素施用、大豆萎黄病品種比較.
81	Anon.(山形農試)	1955	大豆品種耐萎黄病性検定試験.	山形農試業務年報	昭29: 最上分場の部・52-55.	32品種を比較.
0		1956	昭和31年(1956)			
1	深野 弘・横山佐太正	1956	葉に線虫心枯病々斑の現われない水稲品種の抵抗性とその乗用化について.	福岡農試研究時報	11/12: 13-16.	病斑の表われない品種も、線虫接種によって生育収量低下.
2	深野 弘・横山佐太正	1956	出穂、穂揃期に散布したパラチオン乳剤の根線虫心枯病予防効果.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	2: 114-115.	1000倍液で85%死滅. 葉害なし.

3	五味美知男・木暮幹夫	1956	福線虫心枯病に対するホリドールの防除効果について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	3: 20-21.	種別処理、苗の浸漬は高い効果、生育中散布は効果不完全
4	後藤和夫・深津量栄	1956	福線虫心枯病の抵抗性質3種について.	日植病報(日本植物病理学会報)	20(4) 175.	講要. No.56-5 を参照.
5	後藤和夫・深津量栄	1956	福線虫心枯病に関する研究 第3報 品種抵抗性の解析と抵抗性質.	農技研報(農業技術研究所報告) C	6: 123-149.	福品種の線虫走化性、増殖、病徴出現の難易の差を検討.
6	後藤和夫・豊田栄	1956	福線虫心枯病に関する研究(1)誘引物質の探索.	日植病報(日本植物病理学会報)	21(1) 46.	講要
7	後藤重喜	1956	じゃがいももぐさ線虫について.	植物防疫	10(4) 153-156.	発生、被害、病徴、病原線虫、寄主植物、防除法.
8	萩原 十	1956	蔬菜の栽培と経営[9].	農及園(農業および園芸)	31(9) 1309-	線虫記述なし. 連作と休載年限.
9	一戸 稔	1956	D-Dの局所注入の大豆萎黄病防除効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 74-75.	病気発生区以外にも注入必要.
10	一戸 稔	1956	土壤燻蒸と線虫の防除(1).	植物防疫	10(10) 409-412.	従来の土壤消毒法、土壤燻蒸の問題点、主な土壤燻蒸剤.
11	一戸 稔	1956	土壤燻蒸と線虫の防除(2).	植物防疫	10(11) 459-463.	土壤燻蒸の方法、効果、費用.
12	一戸 稔	1956	根瘤線虫病の被害と防除.	北農	23(5) 178-188.	北海道内の分布、病徴、線虫の形態・生活史・被害・伝播・防除法
13	一戸 稔	1956	最近アメリカで発生をみた大豆萎黄病について.	北農研究抄報	3: 66-67	講要
14	一戸 稔・浅井三男	1956	大豆萎黄病抵抗性に関する研究(1)「第1種」および「南部竹館」の耐病性.	北海道農試報(北海道農業試験場報)	71: 67-79.	上記品種は耐病性. 機構を含む.
15	一戸 稔・湯原 藤	1956	北海道北部地方の根瘤線虫の生態.	日生態誌(日本生態学会誌)	6(1) 24-28.	ジャガイモコンリウセンチュウ(ニキタネコブセンチュウ)の分布、寄主植物(49種).
16	伊藤佳信・永沢実・保谷 茂・新井 茂	1956	ネマトーダに関する2、3の問題.	東京農試試験成績発表会報(東京都農業試験場試験成績発表会)	12回: 136-141.	騰写. ネコブセンチュウの形態、寄主反応、陸稲のストセンチュウによる被害.
17	岩田俊一	1956	有機合成殺虫剤とその応用.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	4: 120-123.	D-D: 値段が高いので普及していない.
18	弥富喜三	1956	線虫とその防除.	植物防疫	10(3) 131-134. 2 pls.	主な植物寄生線虫、防除法(耕種的方法、抵抗性品種、温湯浸、土壤燻蒸等).
19	弥富喜三・西沢務	1956	長崎県に発生した馬鈴薯寄生線虫について.	応動応昆合同大会講要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭31: 14.	講要
20	弥富喜三・西沢務・苅谷正次郎	1956	数種薬剤の根瘤線虫防除効果.	関西病虫研報(関西病虫研究会会報)	38回: 4-7.	未見
21	鎌木外敏雄	1956	研究の思い出.	植物防疫	10(8) 334.	D-D導入当時の回顧.
22	上遠 章	1956	滞米雑感.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	3: 1-2.	ゴールデンネマトーダ対策を含む.
23	加藤 博	1956	茶の病害虫.	農業	3巻2: 38-41.	根線虫病: 防除法(被害樹採取、D-D、BHC乳剤、ホリドールの土壤注).
24	河合一郎・森田 信	1956	草莓の病害とその防除法.	農及園(農業および園芸)	31(4) 575-578.	Nothotylenchus acris, Aphelenchoides fragariae, Meloidogyne spp.の病徴、防除法.
25	河村貞之助	1956	線虫のいのちの持続について.	日植病報(日本植物病理学会報)	21(1) 30.	線虫の休眠現象の紹介.
26	河村貞之助	1956	ネマトーダ.	富民.	28 巻3: 58-62	種類、防除法を解説.
27	河村貞之助	1956	花の病害虫.	農業	3巻3: 45-47.	チュウリップの球根腐敗線虫(Ditylenchus dipsaci): わが国に分布するかどうか不明.
28	河村貞之助	1956	花の病害虫.	農業	3巻6: 54-58.	バラの線虫: D-Dで防除.
29	河村貞之助	1956	花の病害虫.	農業	3巻8: 47-50.	ダリアの線虫葉枯病: ホリドールで防除.
30	河村貞之助	1956	花の病害虫.	農業	3巻9: 42-45.	菊の線虫葉枯病: ホリドールによる防除.
31	河村貞之助・平野和弥	1956	殺線虫剤の価値判断に関する知見、特に根瘤線虫の場合について.	千葉大園学報(千葉大学園芸学部学術報告)	4: 13-22.	殺線虫剤、殺虫剤の殺線虫効果、殺菌効果を検討.
32	河村貞之助・平野和弥・林 章昌・鈴井孝仁	1956	Nematicideの性能評価について.	日植病報(日本植物病理学会報)	21(1) 42.	講要
33	気賀沢和男	1956	スイウセンチュウの游出温度と時間との関係.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	4: 101.	講要. 25°C、25分処理が最適.
34	気賀沢和男	1956	環境差によるスイウセンチュウの害徴発現.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	4: 102.	講要. 温度、光線量、土壤水分.
35	小池久義	1956	ネマトーダの化学的防除.	植物防疫	10(9) 370.	ネマコン、ペーバム等の紹介.
36	小室康雄	1956	蔬菜および果樹類の忌地病.	植物防疫	10(7) 283-286.	ゴボウ、イチジクは線虫が原因.
37	近藤鶴彦・石橋信義	1956	根瘤線虫の加害が直播甘藷の発芽に及ぼす影響について.	応動応昆合同大会講要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭31: 13.	講要
38	近藤鶴彦・三枝敏郎	1956	甘藷に寄生する根瘤線虫の寄生性と形態について(予報).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	3: 9.	寄生性、形態を異にする数種が存在.
39	高野光之丞	1956	砂質土壌の大和羊に対するDDの使い方.	農及園(農業および園芸)	31(6) 862.	埼玉県石原星一氏の質問に回答.
40	是石 室・小林研三	1956	熊本県に於ける大豆病害分布調査.	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	2: 53-55.	ダイズシストセンチュウを含む.
41	小山八十八・山崎一彦・菊地良治	1956	大豆萎黄線虫(ダイズシストセンチュウ)の寄生による豆類の被害 I. 大豆の生育収量に及ぼす影響並に品種間差異.	北農研究抄報	3: 17-18.	講要
42	小山八十八・後木利三・菊地良治	1956	大豆萎黄線虫(ダイズシストセンチュウ)の寄生による豆類の被害 II. 豌豆の生育収量に及ぼす影響並に品種間差異.	北農研究抄報	3: 18-19.	講要
43	小山八十八・山崎一彦・菊地良治	1956	大豆萎黄線虫(ダイズシストセンチュウ)の寄生による豆類の被害 III. 小豆の生育収量に及ぼす影響並に品種間差異.	北農研究抄報	3: 19.	講要
44	桑山 寛	1956	ハワイにおける大規模なD-Dの使用.	植物防疫	10(10) 412.	表紙写真
45	宮川経邦	1956	米国でも多年の懸案であった柑橘の伝染性衰弱症とその対策.	農及園(農業および園芸)	31(11) 1485-	Spreading decline の研究史、病徴、病原線虫、防除法の紹介.
46	宮本雄一・居垣千尋	1956	土壤細菌用火放射器の試作とその利用価値.	農及園(農業および園芸)	31 (11) 1557-	萎縮病について試験. 小面積処理に使用するのが望ましい.
47	武笠耕三	1956	ダイズセンチュウ(大豆線虫)について.	農業	3巻2: 4-p. 569-576.	被害・生活史、防除.
48	武笠耕三	1956	有害動物.	図書房、札幌	3巻2: 4-p. 569-576.	コンリウセンチュウ、ダイズセンチュウ、イネシガラセンチュウ、草いちごの線虫.
49	二宮敬治	1956	草苺の線虫とその防除.	農業技術研究	10 巻9: 32-35.	被害状況、線虫の種類、防除法. 静岡農試年報 昭30: 100. 1956 にも同様記事.
50	二宮敬治・鈴木当治	1956	草苺の線虫防除.	園芸学会研究発表(園芸学会大会研究発表要旨)	昭31春: 20	講要
51	西沢正洋	1956	福の線虫心枯病はこうして防ごう.	図解農業	3: 38-40	未見
52	西沢 務	1956	土壤線虫について.	農業普及	2巻5: 12-17.	未見
53	西沢 務	1956	線虫は何故防除が難しい.	農業技術研究	10 巻9: 54.	線虫の生理・生態的特徴を解説.
54	西沢 務・弥富喜三	1956	根瘤へのP32の移行.	応動応昆合同大会講要(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭31: 13.	講要
55	野本亀雄	1956	畑地灌・栽培に於ける施肥法.	農及園(農業および園芸)	31(5) 671-675.	陸稲連作障害の原因未解明.
56	小野田正利	1956	澱粉甘藷の育種目標と新品種.	農業技術	11(増刊号): 38-42.	根瘤線虫抵抗性にふれる.
57	大隈敏夫	1956	薬用人参の栽培.	農及園(農業および園芸)	31(5) 705-709.	ネマトーダの寄生あり.
58	尾崎 薫	1956	大豆.	図書房、札幌	p. 188-198.	ネマトーダ抵抗性品種を紹介.
59	尾崎 薫	1956	In: 北海道農業事典(桑山 寛・堀口逸雄)	農業技術	11(12) 534-538.	大豆萎黄病対策を含む.
60	小沢 博・戸部敬哉	1956	メチルプロマイドに依る土壤燻蒸試験(1)ガスの拡散性とネマトーダに対する効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	21(1) 41-42.	講要
61	小沢 博・戸部敬哉	1956	「メチルプロマイド」に依る土壤燻蒸試験(1)ガスの拡散性とネマトーダに対する効果.	農及園(農業および園芸)	31(2) 337-339.	注入点の下方に多く拡散. 線虫に有効.

62	小沢 博・戸部敬哉・種田達三郎・大島正義	1956	「メチルプロマイド」に依る土壤蒸気試験 第1報 (I)ガスの拡散性とネマトーダに対する効果。(II)1,2の土壤伝染性病原菌に対する効果(予報)。	神奈川農試園芸分場 研報(神奈川県農業試験場園芸分場研究報告)	4: 94-102.	1平方尺当たり1cc以上必要、2ccで完全。
63	三枝敬郎	1956	Ring nematode の1種(Criconemoides sp.)と作物の被害について。	日植病報(日本植物病理学会報)	20(4) 179.	講要。サツマイモ農林5号、キュウリ、ニンジンに加重。
64	三枝敬郎・野崎仁	1956	根腐線虫の1種(Pratylenchus sp.)と茶樹仁の被害について。	日植病報(日本植物病理学会報)	21(1) 42-43.	講要。病徴、被害。
65	佐藤邦彦	1956	黄花儿びんの根腐線虫。	森林防疫ニュース	5(55) 248-249.	線虫の形態、病徴、防除法(D-D、ホルマリン等)。
66	関谷一郎・呉羽好三	1956	大豆害虫に対する浸透性殺虫剤の効果。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	3: 45-46.	シュラダーン、ダイモックス、シストックスとダイズシストセンチュウ他。
67	島内満雄	1956	輪作 In: 北海道農業事典(桑山 覚・堀口逸雄編)	植書房、札幌	p. 112-131.	線虫防除にもふれる。
68	杉山 芬	1956	線虫の寄生がイナゴに及ぼす影響 I. イナゴの翅長、前胸背板長及び外部生殖器に対する影響	動雑(動物学雑誌)	65(10) 382-385.	コバネイナゴとMermitata .
69	杉山 芬	1956	線虫の寄生がイナゴに及ぼす影響 II. イナゴに寄生する一種の線虫の分布	動雑(動物学雑誌)	65(10) 386-391.	小地域内における分布。寄生率に関する考察。
70	鈴木一平	1956	東海近畿地方の毒栽培と品種の問題点 [2].	農及園(農業および園芸)	31(2) 310-312.	葉線虫の被害、防除(パラチオン、健全苗選択)、検出法。
71	只野 柳・只野正志	1956	線虫Rhabditis ikedai Tadano の雌雄同体について	動雑(動物学雑誌)	65(11) 393-396.	系統により性比に違い。自家受精の系統もある。
72	田中一郎	1956	北海道農作物病害の概観。In: 北海道農業事典(桑山 覚・堀口逸雄編)	植書房、札幌	p. 477-483.	水稲線虫病、大豆萎黄病、根腐病(大豆、甜菜、はっか、にんじん、ごぼう、クローバー類、飼料かぶ、除虫菊)。
73	田中伊之助・宮本健太郎・藤井淳・相川英雄	1956	線虫によるジャガイモガサレについて。	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	2: 5-7.	病徴、作期・気温と被害、種薯の湯湯浸漬、メチルプロマイド燻蒸。
74	田中 勇	1956	根腐線虫の水平移動について。	応勤応昆合同大会講演(日本応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨)	昭31: 3.	講要
75	立石静男	1956	水稲の立枯れ現象について。	九州農業研究	18: 62.	線虫は直接原因でないが、線虫発生株は被害大。
76	友永 富・小林達美・羽田忠夫	1956	サツマイモのコンリョウセンチュウ抵抗性品種の選抜試験について。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会年報)	4: 103-104.	講要
77	津曲彦寿	1956	タバコ疫病に関する研究 IV. タバコ疫病と線虫病との関係	九州農業研究	18: 89-90.	菌の侵入を線虫が促進はしないが、萎凋しやすい。
78	津曲彦寿	1956	昭和31年度九州産地の病害虫の様相	葉たばこ研究	10: 26-29.	線虫病を含む。
79	浦上山太	1956	昭和30年度九州に於ける主要病害虫の発生と防除の概要	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	2: 117-119.	長崎県種バレイシヨからジャガイモガサレ線虫を発見。
80	渡辺誠三	1956	これからの胡瓜栽培	農及園(農業および園芸)	31(7) 931-932.	栽培上の注意の第一として線虫防除(D-D、クロルピクリン)をあげる。
81	渡辺誠三	1956	これからの胡瓜栽培 [2].	農及園(農業および園芸)	31(8) 1083-1083.	D-Dの施用法、有効期間(1年)、経費。
82	八木沢貞晴	1956	胡瓜早採栽培の注意点。	農及園(農業および園芸)	31(3) 431-434.	床土のネマトーダ対策が必要。
83	山本昌木	1956	アメリカで会った人々。	植物防疫	10(4) 169-170.	フロリダ、カルフォルニアの柑橘のSpreading decline の紹介を含む。
84	山本昌木	1956	アメリカで会った人々。	植物防疫	10(6) 267-268.	ニューヨークのジャガイモシストセンチュウ対策にふれる。
85	山本鉄吾	1956	関東東山地方の大豆作とその改善。	農業技術	11(12) 481-486.	ネマトーダにふれる。
86	横尾多美男	1956	On the occurrence of nematode, Rotylenchus multicinctus (Cobb, 1893) Filipiev, 1936 in Japan.	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	4: 137-140.	佐賀大学構内の温室のメロンから、Helicotylenchus dihystra と思われる。
87	横尾多美男	1956	On the occurrence of the root lesion nematode, Pratylenchus pratensis as the tuber parasite of the potato in Japan.	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	4: 141-168.	上記種と報告されたが、後にP. coffeaeと同定された。No.60-107を参照。
88	横尾多美男・水上武幸	1956	馬鈴薯寄生線虫についての1,2の調査。	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	2: 1-4.	Pratylenchus pratensisと同定。後にP. coffeaeとされた(No.60-107を参照)。成虫の計測値、病徴、寄生植物。
89	横尾多美男・田中伊之助・水上武幸・後藤重喜	1956	馬鈴薯イモガサレ線虫に関する調査研究。	植物防疫	10(9) 363-365. 1 pl.	発見経緯、既知分布地、被害等。Pratylenchus pratensis と同定。
90	吉井 甫	1956	イネ線虫心枯病についての思い出。	植物防疫	10(1) 47-48.	昭和19・20年当時の回想。
91	吉目三男・小林四郎・佐々木	1956	ダイズセンチュウによるダイズの被害解析。	東北大農研報(東北大学農学研究部)	7(3) 179-183.	栄養成長の阻害が見られた。
92	吉目三男・佐々木彦	1956	ダイズセンチュウ或いはノネズミの被害が加わった場合のダイズネグリバエによるダイズの被害解析。	東北大農研報(東北大学農学研究部)	7(3) 185-190.	ハエと線虫の被害が重複した場合、着莢数が減少。
93	Anon.	1956	質疑応答。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会年報)	4: 145-146.	線虫の寄害を受けた稲の病徴と減収。
94	Anon. (千葉大園芸学部植病)	1956	殺線虫剤としての水銀剤について(予報)その1。	農業研究	3巻1: 52-57.	ウスフルン、セレサン等のネコブセンチュウ幼虫に対する効果。
95	Anon. (千葉大園芸学部植病)	1956	殺線虫剤としての水銀剤について(予報)その2。	農業研究	3巻2: 56-65.	ウスフルン、セレサン等のネコブセンチュウ卵に対する効果。
96	Anon. (青森農試)	1956	大豆萎黄病防除試験。	青森農試業務年報	昭14-24: 4-62.	騰写。D-D、BHC、DDTを施用(昭24)。
97	Anon. (福岡農試病害研)	1956	稲初冷水湯消毒の消毒温度について、特に線虫心枯病予防の場合。	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	2: 127.	50°C10分、51°C5分で死滅。
98	Anon. (福岡農試)	1956	線虫心枯病に関する研究。	福岡農試業務年報	昭29: 249-252.	ツルギバにおける被害、N-224の効果。
99	Anon. (群馬農試)	1956	稲線虫心枯病に関する試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 13-14.	騰写。昭24夏作成績。冷水湯湯浸、ホルマリンによる種子消毒。BHC、硫酸ニコチンによる土壤消毒。
100	Anon. (群馬農試)	1956	大豆萎黄病に関する試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 14-15.	騰写。昭24夏作成績。土壤消毒: 石灰窒素、クロルピクリン、BHC、セレサン。薬剤散布: 稀硫酸、塩化マンガ、塩化亜鉛、燐素。
101	Anon. (群馬農試)	1956	稲線虫心枯病に関する試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 28-30.	騰写。昭25夏作成績。種粉消毒: 冷水湯湯浸、BHC、二硫化炭素、クロルピクリン。線虫の伝染距離。
102	Anon. (群馬農試)	1956	大豆萎黄病に関する試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 30-37.	騰写。昭25夏作成績。生態、防除: 薬剤、輪作。
103	Anon. (群馬農試)	1956	大豆萎黄病に関する試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 52-59.	騰写。昭26夏作成績。生態、防除: D-D、クロルピクリン、石灰窒素他。抵抗力品種検定。
104	Anon. (群馬農試)	1956	大豆萎黄病に関する試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 82-84.	騰写。昭27夏作成績。土壤消毒、薬剤散布。
105	Anon. (群馬農試)	1956	大豆萎黄病防除試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 115-117.	騰写。昭28夏作成績。施肥量と収量の関係。寄主範囲調査。
106	Anon. (群馬農試)	1956	稲線虫心枯病に対する有機燐剤の防除効果試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 142-145.	騰写。昭29夏作成績。ホリドール、ベストックス等の種粉浸漬、散布試験。
107	Anon. (群馬農試)	1956	稲線虫心枯病薬剤処理並発病と減収に関する試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 208-214.	騰写。昭30夏作成績。ホリドール種子粉衣。水稲抵抗性品種、発病程度と減収。
108	Anon. (群馬農試)	1956	人参根腐線虫防除試験。	群馬農試病害虫に関する試験成績	自昭23冬作至30冬作: 229-232.	騰写。昭30夏作成績。D-D、クロルピクリン、ダイオホックス他。
109	Anon. (三重農試)	1956	水稲線虫心枯病調査。	三重農試場報	昭28: 153.	被害と収量の関係。
110	Anon. (大阪府農林部)	1956	ジャガイモイモガサレ線虫の発生について。	大阪農業	75: 48.	未見
111	Anon. (神戸植防)	1956	最近輸出された植物。植物防疫	植物防疫	10(3) 140.	苗木・野菜類でネコブセンチュウを発見。
0		1957	昭和32年(1957)			
1	知久武彦・宮下志博	1957	長野県伊那地方において大豆不稔を来す害虫に関する研究。	長野農試報(長野県農業試験場報告)	23: 1-61. 5 pls.	カメシ類を主体とする。有害動物のリストの中にダイズシストセンチュウをあげる。

2	江塚昭典	1957	茶の病害研究の問題点.	植物防疫	11(3) 93-97.	根腐線虫病を含む.
3	深野 弘・横山佐太正	1957	稲線虫心枯病発生稲に対する薬剤散布の防除効果.	福岡農試研究時報	14: 13-16.	出穂期のパラチオン剤散布が有効.
4	深野 弘・横山佐太正・田中澄人・藤 英次郎	1957	稲線虫心枯病被害軽減のための出穂期薬剤散布の方法について.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	3: 45-47.	出穂期のパラチオン散布が有効. PB粉剤、EPN乳剤、ダイアジノン、マラソンも効果あり.
5	五味美知男	1957	稲線虫心枯病防除に関する研究 第2報 産地別苗代形式によるパラチオンの効果並に施肥量との関係.	日植病報(日本植物病理学会報)	22(1) 8	講要
6	一戸 稔	1957	農業における線虫の問題点:最近における線虫分類の動向.	応動昆虫学講要(日本応用動物昆虫学会シンポジウム講演要)	第1回: 3-10.	外国の研究の紹介、わが国での発生・発見例.
7	一戸 稔	1957	線虫の分類と調査法.	植物防疫	11(7) 307-311. 1 pl.	植物寄生性線虫の検索表. 土壌、植物体中の線虫調査法等.
8	一戸 稔	1957	ネマトーダの生態とその防除法.	農及園(農業および園芸)	32(4) 632-636.	主要な植物寄生性線虫の紹介.
9	一戸 稔	1957	リンゴの根腐線虫について.	札幌農林学会報	39 巻6: 41-42.	講要
10	一戸 稔	1957	草莓の線虫病.	北農	24(12) 387-392.	発生状況(北海道)、病徴、発生の歴史、病原線虫(Aphelenchoides fragariae):分類、生活史、伝播、防除法
11	一戸 稔	1957	菊の葉枯線虫の発生.	札幌農林学会報	39 巻6: 95.	講要. 病徴、生態、防除法. 農業の進歩 3巻1:口絵、1957 に病徴写真.
12	井上 寿	1957	ダイズセンチュウに関する調査 第1報 耕鋤の深度がダイズセンチュウの土中分布に及ぼす影響.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	8: 87.	深耕によって土壌中のシスト数増加.
13	井上 巖	1957	Chordeodes属ハリガナムシの内部構造についての概報.	動雑(動物学雑誌)	66(2/3) 151.	講要
14	石川正示	1957	東北地方の大豆作とその改善.	農業技術	12(1) 7-12.	「洪積地帯に多い大豆線虫の被害は、東北地方として最も警戒すべきものと思う」
15	伊藤佳信	1957	果菜類の根腐線虫に対するトマトの耐虫性品種について.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	4: 39.	供試8品種並びに28系統の内、1系統のみ耐虫性.
16	伊藤佳信	1957	ネマトーダの生態と防除.	農耕と園芸	12巻6: 23-25.	根腐線虫、大豆線虫、イモグサセンチュウ、イネシナガセンチュウ、穀実線虫等の解説、防除(抵抗性、輪作、肥培管理、薬剤).
17	伊藤佳信・保谷茂・新井 茂	1957	果菜類に対する根腐線虫の被害に関する研究 第1報 キウリに対する被害について.	東京農試試験成績発表会報(東京都農業試験場試験成績発表会)	13回:55-65.	謄写. D-D施用とキュウリの時期別、品種別の収量差異.
18	岩田節夫	1957	Rhadinis の分泌、排泄系について I. Rhadinis ikedai Tadano について.	岐阜県大紀要(岐阜医科大学紀要)	5(3) 77-87.	未見
19	岩田節夫	1957	Rhadinis の分泌、排泄系について II. 学童の糞便内より得たRhadinis sp.について.	岐阜県大紀要(岐阜医科大学紀要)	5(3) 248-255.	未見
20	岩田吉人	1957	種子伝染病.	植物防疫	11(5) 209-212.	線虫心枯病を含む.
21	弥富喜三	1957	農業における線虫の問題点:総論.	応動昆虫学講要(日本応用動物昆虫学会シンポジウム講演要)	1回:1-2.	研究の現状、問題点、今後の方向を述べる.
22	弥富喜三	1957	ネマトーダの生態と防除法.	農業世界	52 巻7: 78-82.	物理的、化学的、耕種的防除法.
23	弥富喜三	1957	根腐線虫と防除剤.	農業技術研究	11 巻10: 26-28.	殺線虫剤の種類と使用法の解説.
24	弥富喜三	1957	煙草、甘藷のネマトーダの防除法.	農及園(農業および園芸)	32(12) 1706.	抵抗性品種、D-D、EDB、DBCPの利用.
25	弥富喜三	1957	柑橘のネマトーダ.	果実日本	12 巻4: 13-15.	Radopholus similisの紹介.
26	弥富喜三	1957	果樹に寄生する線虫類の駆除法. In: 果樹 第1巻.	博友社、東京	pp 46-50.	病徴、防除法(殺線虫剤・温湯処理).
27	梶浦 実他16名	1957	果樹の忌地問題.	農及園(農業および園芸)	32(7) 1089-	昭32園芸学会春季大会果樹部会シンポジウム記録. カンキツ、モモ、イチジクの線虫を取りあげる.
28	上遠 章	1957	米国の植物防疫短見.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	4: 1-2.	検疫及び防除.
29	上遠 章	1957	米国視察記(I).	植物防疫	11(2) 75-77.	ネマトーダ. アメリカで問題とされている種、防除法を含む.
30	上遠 章	1957	米国視察記(II).	植物防疫	11(3) 117-119.	殺線虫剤を含む農業の研究、開発.
31	上遠 章	1957	土壌害虫の新しい防除薬.	今月の農業	1巻9: 58-63.	D-D、EDB剤の効果、使用方法を含む.
32	桂 琦一	1957	木津川流域で発生している根腐線虫病とその線虫に誘発される大根黒腐病.	京都農業	6巻2: 54-57.	未見
33	桂 琦一・角 博次・山田隆保	1957	根腐線虫に誘発される大根黒腐病とその防除.	農及園(農業および園芸)	32(9) 1375-	病徴、EDBによる防除.
34	川上忠夫・増田安弘・松原茂樹	1957	根菜に及ぼすネマトーダの影響.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭32春: 21	講要
35	河村貞之助	1957	農業における線虫の問題点:植物寄生線虫と薬剤.	応動昆虫学講要(日本応用動物昆虫学会シンポジウム講演要)	1回:10-17.	講要. 葉線虫、根腐線虫に対する効果等.
36	河村貞之助	1957	ネマトーダの新しい殺し方:メチルプロマイドの効果的な使い方.	農耕と園芸	12 巻2: 54-55.	使用方法、毒性.
37	河村貞之助	1957	菊の葉が黄化枯死する原因.	農及園(農業および園芸)	32(2) 388-389.	明石市岸本貞治氏の質問に対する回答. 根腐線虫、線虫葉枯病.
38	河村貞之助	1957	花のネマトーダの防ぎ方.	農耕と園芸	12 巻5: 21-23.	ネコブセンチュウの生態、防除(D-D、クロルピクリン、メチルプロマイド).
39	河村貞之助	1957	苗床のネマトーダを駆逐する.	農業	4巻2: 35.	メチルプロマイドの扱い方を図示.
40	河村貞之助・平野和弥	1957	諸種薬剤のガスが根腐線虫卵に及ぼす効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	22 (1) 44-45.	講要
41	河村貞之助・平野和弥	1957	Methyl bromideによる土壌燻蒸に関する試験.	日本園芸生産研報(日本園芸生産研究所報告)	8: 11 pp.	謄写. ガスの拡散、薬量と防除効果.
42	川島嘉内・遠藤正	1957	薬用人参コンリュウセンチュウ(根腐線虫)に対するD-Dの効果.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	8: 88.	講要
43	川島嘉内・遠藤正	1957	薬用人参根腐線虫に対するD-Dの効果について.	植物防疫	11(4) 141-144.	施用によって5年間寄生を受けなかった.
44	近藤鶴彦	1957	甘藷畑におけるサツマイモコンリュウセンチュウの季節的消長について.	防虫科学	22(1) 144-149.	深さ別の第2期幼虫密度の変化を調査. 植物防疫 12(5) 231.1958に抄録.
45	近藤鶴彦	1957	植物寄生のネマトーダ(線虫)とはどんなものか.	農研(三重農業研究会)	2巻9: 14-19.	ネコブ、シストネグサレ、クキ、ハガレ、イネシナガレ、コムギツブセンチュウ等の解説.
46	近藤鶴彦・三枝敏郎	1957	数種根腐線虫の類別について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭32: 9.	講要
47	間宮 広・露木敏雄・城所俊夫	1957	落花生の連作減収要因から見た増収技術の展開.	農及園(農業および園芸)	32(6) 927-928.	2年連作で大幅減収. 線虫記述なし.
48	松原茂樹	1957	蔬菜の輪作とネマトーダの問題.	農及園(農業および園芸)	32(10) 1485-	線虫被害の大なることを例を示して説く.
49	松原茂樹・沢地信康	1957	根菜類の連作に関する研究 第1報.	園学雑(園芸学雑誌)	26(3)141-148.	サトイモ、ゴボウ、ニンジン連作時の生育不良の原因として線虫による被害を推測. 植物防疫 14(10) 458, 1960 に抄録.
50	目黒猛夫	1957	陸稲の連作が悪い理由.	農及園(農業および園芸)	32(5) 803-804.	線虫も原因として取り上げられるが、未解明.
51	三浦和子・鈴木照磨	1957	クロフェノールの根腐線虫に対する効果.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭32: 21.	講要
52	宮川経邦	1957	柑橘根腐線虫の生態と分布.	果実日本	12 巻7: 31-33.	研究史、形態、寄生状況、分布(国内)、寄主植物、被害、微生物との関係、防除.
53	宮川経邦・森下実	1957	本邦における柑橘根腐線虫の生態と分布.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭32春: 2	講要
54	宮川経邦・森下実	1957	本邦における柑橘根腐線虫の分布について.	植物防疫	11(5) 182-184. 1 pl.	寄生状況、分布、寄主植物.
55	森 倫平	1957	土壌線虫について及びその防除薬剤の紹介.	農業技術研究	11 巻4: 33-35.	形態、種類、防除法、効果、経費.
56	本橋精一	1957	2, 3月の果菜病害防除.	植物防疫	11(2) 69-70.	床土の消毒:クロルピクリン、ホルマリン、ウスリン. トマトの萎凋病・キュウリの蔓割病との混合感染.

57	本橋精一	1957	蔬菜病害虫の防除について.	農業研究	4巻2: 12-15.	「ゴホウ、里芋等では根ぐされ線虫の被害と思われるものが発生している」。D-Dによる防除.
58	武笠耕三	1957	甜菜根・線虫.	北農	24(7) 239-244.	輪作の効果、分布調査、防除
59	向 秀夫	1957	稲の線虫と心枯病の予防.	今日の農業	1巻5: 10-12.	種粒消毒(温湯冷水浸、ウスブルン、パラチオン等)、抵抗性品種.
60	二宮敬治	1957	静岡県東山の水田利用イチゴのトンネル栽培.	農及園(農業および園芸)	32(1) 239-242.	毎線虫防除:健全苗選択、パラチオン散布.
61	二宮敬治・鈴木当治	1957	草苺の芽線虫とその防除.	農及園(農業および園芸)	32(7) 1038-1039.	被害症状、寄生部位、伝染、防除法(抵抗性品種、苗の鑑別、パラチオン散布).
62	西沢 務	1957	農業における線虫の問題点:線虫の植物加害機構.	応動昆虫学講要(日本応用動物昆虫学会シンポジウム講演要)	1回:17-23.	植物体の組織、生理の変化等をレビュー.
63	奥代重敬	1957	ミカンコナカイガラムシ.	農業	4巻4: 44-45.	D-D, EDBの施用法を図解.
64	大橋政彦	1957	Rhizoctonia hominis に関する研究 I. 形態学的研究.	岐阜医大紀要(岐阜医科大学紀要)	5(4) 384-402.	未見
65	大橋政彦	1957	Rhizoctonia hominis に関する研究 II. 生物学的研究.	岐阜医大紀要(岐阜医科大学紀要)	5(4) 403-419.	未見
66	大橋雄司	1957	立枯病抵抗性に関する研究(第1報)根の傷と立枯病の発生について.	薬たばこ研究	12: 55-57.	線虫寄生により立枯病抵抗性低下.
67	三枝敏郎	1957	根腐線虫Meloiodogyne spp. 卵の発生ならびにその形態に関する一観察.	応動昆虫学誌(日本応用動物昆虫学会誌)	1(4) 238-243.	キタネコブ・サツマイモネコブ・ジャワネコブセンチウの卵の形態、卵発生、産卵数等.
68	柴辻鉄太郎	1957	東北地方の畑作害虫対策について ダイズ害虫を中心として.	農業研究	4巻4: 1-14.	ダイズセンチウを含む.
69	洪谷正夫	1957	蔬菜の種類とネマトーダの寄生性について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭32春: 21	講要
70	白浜賢一	1957	苗床床土の消毒.	今日の農業	1巻1: 29-30.	クロルピクリン、D-Dの使用法.
71	菅原寛夫	1957	殺線虫剤二臭化エチレン.	植物防疫	11(2) 88.	性状、製品、効果、使用法.
72	鈴木直治	1957	稲の心枯病.	今日の農業	1巻9: 51-53.	症状、防除(種子消毒、パラチオン苗代散布).
73	只野正志	1957	線形動物. In: 無脊椎動物発生学(久米又三・回 勝磨編).	培風館、東京	p. 111-134.	線虫類の卵割、発生.
74	高野誠義・小森昇	1957	稲線虫心枯病に関する防除試験 第1報 種子潜在線虫の殺虫試験.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9: 23-24.	9種殺虫剤を供試.
75	田村浩国	1957	ネマトーダ駆除剤N-244及びN-521の殺菌性について.	植物防疫	11(8)342-344.	高い殺菌力をもつ.
76	田村市太郎・気賀沢和男	1957	スイウセンチウの株間移動に関する研究.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	5: 49-50.	生育ステージの違う線虫感染稲から無感染苗への線虫の移動.
77	田村市太郎・気賀沢和男	1957	スイウセンチウ游出水に対する種苗の接触と寄生.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	5: 50.	稲の根部からの心枯線虫感染を否定.
78	田村市太郎・気賀沢和男	1957	スイウセンチウの生態に関する研究 第1報 籾内センチウの游出と温度との関係.	日生態誌(日本生態学会誌)	7(3) 111-114.	「20℃から30℃までは温度の高まるほど游出時間が短くなる」.
79	田中一郎・武笠耕三・一戸 稔	1957	北海道における甜菜コンリュウセンチウ(根腐線虫)の分布について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	8: 88-89.	85市町村で検出.
80	田中一郎・桜井清	1957	北海道における畑作雑草に伴う病害虫対策について.	農業研究	4巻4: 1-10.	線虫類:防除対策の樹立は、畑作害虫中最も重要な課題.
81	田中以之助・宮本健太郎	1957	ジャガイモグサレについて.	長崎農試研究速報(長崎県農業試験場研究速報)	8: 1-8.	病原線虫、発生地、病徴、馬鈴薯品種・栽培条件と発病、防除
82	田中 勇	1957	タバコ根腐線虫病抵抗性における病原虫の発育.	応動昆虫学講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭32: 9.	講要
83	田中 勇	1957	地上部を侵す根腐線虫の観察(予報).	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	3: 47-48.	タバコ、ナス、トマトで胚軸・子葉に寄生を認める.
84	田中 勇	1957	線虫特に根腐線虫について.	薬たばこ研究	11: 54-58.	主に根腐線虫の生活史、寄生の方法、病徴、防除法.
85	田中 勇	1957	タバコ雑草の根腐線虫病抵抗性について.	九州農業研究	19: 67-68.	FRK70では侵入虫数減少.
86	田中 勇	1957	根腐線虫病抵抗性品種FRK70における病原虫の発育.	九州農業研究	20: 186-187.	感受性病原と比べ発育、虫体の大きさに差異.
87	山田隆保	1957	稲貯蔵温度の心枯線虫に及ぼす影響.	応動昆虫学講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭32: 18.	講要
88	山本正宗	1957	ジャガイモの脅威、新しい線虫、岡山・徳島両県下に発生.	神戸植防疫情報(神戸植防疫情報)	117: 1.	ネグサレセンチウ
89	山崎正枝	1957	稲穂連作害の病状と原因.	農業技術	12(10) 462-464.	「根線虫増加は副次的なもので、連作害の主因ではない」.
90	山崎正枝・仲宇佐達也・加藤治・伊藤佳信	1957	稲穂の連作害に関する研究(第1報).	東京農試研報(東京都農業試験場研究報告)	2: 33-46. 4 pls.	D-D、クロルピクリン剤の処理結果. 線虫Heterodera sp.は主要な原因ではないと結論.
91	安 正純・上田勇五	1957	今月の病害虫防除メモ.	植物防疫	11(4) 169-174.	稲線虫心枯病:種粒消毒法、減収.
92	安 正純・上田勇五	1957	今月の病害虫防除メモ.	植物防疫	11(8) 362-366.	線虫心枯病を含む.
93	安 正純・上田勇五	1957	今月の病害虫防除メモ.	植物防疫	11(9) 409-411.	線虫心枯病症状他.
94	安 正純・上田勇五	1957	今月の病害虫防除メモ.	植物防疫	11(10) 460-465.	小麦粒線虫病:症状、防除法(種子塩水選、温湯・薬液浸).
95	安 正純・上田勇五	1957	今月の病害虫防除メモ.	植物防疫	11(11) 510-515.	線虫の概説及び防除法.
96	横尾多美男	1957	馬鈴薯イモグサレ線虫の耐温性について.	応動昆虫学講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭32: 9.	No.56-93を参照.
97	横尾多美男・松延浩気	1957	馬鈴薯寄生の根腐線虫の致死温度.	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	3:95.	講要. No.57-98を参照.
98	横尾多美男・松延浩気	1957	馬鈴薯寄生の根腐線虫の致死温度.	佐賀農業(佐賀大学農学叢報)	5:97-102.	種薯の温湯処理は50℃30分程度が最も実用的.
99	吉岡謙吾	1957	北海道ほか青森・宮城・長野・広島・香川の5県下にも馬鈴薯を侵す新しい線虫がいるようだ.	神戸植防疫情報(神戸植防疫情報)	123: 2.	ネグサレセンチウ
100	Anon. (日本応用動物昆虫学会)	1957	農業における線虫の問題点.	応動昆虫学講要(日本応用動物昆虫学会シンポジウム講演要)	1回: 1, 25.	No.57-6, 21, 35, 62を参照.
0		1958	昭和33年(1958)			
1	青木 清	1958	桑樹病害虫と他種作物.	農業	5巻5: 69-72.	線虫病を含む.
2	青柳寅雄	1958	コンニャクの掘取りと病害防除.	今日の農業	2巻11: 41-44.	ネコブセンチウの被害にふれる.
3	深野 弘	1958	線虫心枯病の話.	今日の農業	2巻6: 108-111.	伝染の経路、防除上の注意、温湯消毒.
4	深野 弘・横山佐太正・田中澄人・藤 英次郎	1958	出穂期に散布したパラチオン剤の心枯線虫殺滅並びに被害軽減効果.	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	4: 29-30.	散布区の坪当精粉重量7%増. PB粉剤、マラソン乳剤も同様の効果.
5	後藤 昭	1958	ジャガイモイモグサレに関する研究.	長崎農試60年記念試研報集	285-296.	発生の沿革、病徴、被害、発生地、線虫の分類、形態、生態、防除法
6	後藤 昭	1958	ジャガイモイモグサレ線虫の諸問題.	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	12-13.	謄写. 講要. 防除他.
7	後藤重喜	1958	甘藷のねぐされ線虫について.	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	43-49.	謄写. 講要. 生態、防除他.
8	後藤重喜・川越仁	1958	土壌線虫と輪作.	宮崎農試試験研究発表会要録	12(回): 12-15.	サツマイモネコブ、ネグサレ、シストセンチウに対する抵抗性品種栽培および輪作の効果.
9	萩原 十	1958	近郊園芸における蔬菜の輪作.	農及園(農業および園芸)	33(1) 279-282.	作付体系の例を多数示す. D-D処理による休載年限短縮の可能性に言及.
10	萩原 十	1958	ネマトーダと蔬菜の作付.	農及園(農業および園芸)	33(11) 1723.	ネコブセンチウに対する東京農試の試験結果を紹介.
11	平野 暁	1958	桃の忌地に関する研究(第6報)土壌の加熱及び蒸の効果.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭33春: 3	講要. D-D剤施用を含む.
12	平野千里	1958	新殺線虫剤PRD.	植物防疫	12(5) 219-220.	トマトのネコブセンチウに有効.
13	平野伊一	1958	植物有害生物関係日本文献目録(5)線虫類.	農林省神戸植防疫所大坂支所資料	35: 60-98.	謄写. 486篇収録.
14	平野和弥・河村貞之助	1958	Rhizoctonia 属線虫における表皮剥離現象を伴う死感について.	千葉大園芸(千葉大学園芸学部学術報告)	6: 23-32.	R. terricolaの物理・化学的処理死亡時に発生.

15	広田幸喜・山田隆保	1958	アニオン界面活性剤の接触性殺線虫剤におよぼす影響(農業補助剤の研究 第16)	防虫科学	23(4) 227-229.	人体寄生虫駆除剤octylororesorcinolの福心枯線虫に対する効果
16	穂坂八郎	1958	秋植球根の掘上げの問題。	農及園(農業および園芸)	33(6) 931-935.	線虫対策(早く乾燥して、枯葉、枯根、土砂を除去)。
17	市原伊助・高橋芳雄	1958	落花生の連作と落花生ネマトーダの被害について。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	5: 38.	連作と年数と根腐害生度(3年目から被害がひどい)。
18	一戸 稔	1958	本邦産線虫類。	北日本病虫研資料(北日本病害虫研究会資料)	1: 18 pp., 3 pls.	分類、検索表、本邦産線虫類の形態と生態。(13種を解説)
19	一戸 稔	1958	本邦産線虫類について。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会年報)	9: 1-2.	講要。詳しい内容はNo.58-18を参照。
20	一戸 稔	1958	馬鈴薯の腐敗塊茎より検出された線虫4種について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭33: 15.	講要
21	一戸 稔	1958	線虫の生態と被害。	農業	5巻3: 4-8.	ネコブセンチュウ・シストセンチュウ・その他の線虫の解説・被害
22	一戸 稔	1958	ネマトーダに対する薬剤の使用法と薬価。	農及園(農業および園芸)	33(5) 833-834.	D-D、ネマヒューム、サンヒューム、ペーバム。
23	一戸 稔	1958	植物寄生性土壌線虫の分類。	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	17-27.	謄写。講要。分類表、病徴及び寄生、形態による本邦産線虫の検索表。
24	一戸 稔	1958	草莓の線虫病。	北農研究抄報	4: 47.	講要
25	飯島 鼎	1958	畑作と土壌線虫。	今月の農業	2巻3: 32-34.	線虫害を解説。
26	飯島 鼎	1958	根腐線虫の被害調査。	今月の農業	2巻8: 7-9.	被害、症状の特徴
27	飯島 鼎	1958	ジャガイモイモグサ線虫。	今月の農業	2巻10: 106-108.	分布、症状、防除法(抵抗性、D-D、EDB)。
28	飯島 鼎	1958	線虫被害のみつけ方。	今月の農業	2巻1: 95-98.	ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウの鑑定法。
29	飯島 鼎・石倉秀次・一戸 稔・近藤鶴彦・白浜賢一・河村貞之助・弥富喜三・徳野義夫	1958	[座談会]畑作振興の爲 線虫を語る。	農業	5巻5: 10-43.	線虫に関する一般的な説明および被害・防除の現状。
30	池 大司	1958	昭和32年・作物病害虫発生被害の概観。	北農	25(1) 6-13.	甜菜根・線虫病増加。線虫害が、ブドウでも発生。
31	稲賀 恒	1958	農用小型トラクター付風装置としての土壌燻蒸装置の試作。	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	75-77.	謄写。講要。
32	稲賀 恒	1958	農業と共に前進する農機具 脚光をあびる土壌消毒機。	農業	5巻5: 5-9.	試作研究の経過等。
33	井上 寿	1958	ダイズセンチュウに関する調査 第2報 耕鋤の深度が小豆の生育、ならびにシスト数に及ぼす影響。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会年報)	9: 88-89.	深耕によりシスト数増加、小豆は減収。
34	井上 寿・春木保	1958	ダイズセンチュウに関する調査 第3報 腐肥の施用が大豆ならびにシスト数に及ぼす影響。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会年報)	9: 89-90.	収量の減少は阻止、シスト数は増加。
35	井上 寿	1958	ダイズセンチュウに関する調査 第4報 肥料三要素が大豆の生育ならびにシスト数に及ぼす影響。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会年報)	9: 90-91.	窒素施肥により大豆生育は良好になるが、シスト数は増加。
36	井上 寿・春木保	1958	ダイズセンチュウに関する調査 第5報 肥料三要素が小豆の生育ならびにシスト数に及ぼす影響。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会年報)	9: 91.	小豆は増収、シスト数は増加。
37	井上 巖	1958	Studies on the life history of Chordodes japonensis, a species of Gordiacea. I. The development and structure of the larva.	Jap. J. Zool (Japanese Journal of Zoology = 日本動物学)	12 (2) 203-218.	幼虫の発育および卵からの孵化。
38	石川正示	1958	大豆品種の大豆線虫に対する耐虫性について。	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	78-81.	謄写。講要。品種のランク分け。
39	石川正示	1958	大豆在来種「ゲデンシラズ」の線虫抵抗性と有望系統の選出。	農業技術	13(10)461-463.	秋田県仙北郡畑地方の在来種。多くの系統の中から4系統を選出。
40	石川正示・宮原万芳	1958	大豆品種の大豆線虫に対する抵抗性。	育種(育種学雑誌)	8(2) 111-118.	線虫抵抗性の検定、子実重、根腐菌着生への影響。
41	石倉秀次	1958	イヤ地と病害虫。	今月の農業	2巻1: 81-83.	線虫にふれる。
42	伊藤富士雄	1958	昭和33年の農業需給をかえりみて。	植物防疫	12(12) 537-540.	「D-D、二臭化エチレン等の土壌線虫剤は需要の急増に備えて大量輸入の準備がなされている」
43	伊藤佳信	1958	ソ業の根グサレセンチュウ。	今月の農業	2巻12: 22-24.	ゴボウ、ニンジン、サトイモの被害、防除法。
44	伊藤佳信・本橋精一	1958	D-Dによるキュウリの根腐線虫の防除。	農及園(農業および園芸)	33(9) 1405-	キュウリの上物本数2.4-3.1倍に増加。
45	伊藤喜隆	1958	根腐線虫について。	園芸信州	11巻7: 34.	未見
46	弥富喜三	1958	殺線虫剤およびその試験法。	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	56-60.	謄写。講要。浸漬試験、ポット試験、圃場試験。拡散。
47	弥富喜三	1958	殺線虫剤。In: 新農業研究法(山本 享編)。	南山堂、東京	p. 460-467.	薬剤の特性、最近の動向、孵化物質の利用、殺線虫剤試験法
48	弥富喜三	1958	殺線虫剤。	植物防疫	12(1) 20-22.	EDB、ペーバム、DBCP剤等の物理化学性、使用法。
49	弥富喜三	1958	殺線虫剤。	農業技術研究	12巻4: 6-	D-D、EDB、ペーバムの解説
50	弥富喜三	1958	土壌消毒機の使い方。	農業世界	53巻11: 173-175.	使用法、使用後の注意。
51	弥富喜三	1958	厄介な線虫の被害と防ぎ方。	農業日本	13巻8: 50-53.	福心枯線虫、穀実線虫、根・線虫、ダイズの線虫。
52	弥富喜三・西沢務	1958	植物寄生線虫(植物防疫叢書 10)。	日本植物防疫協会、東京	92 pp.	線虫の概説。被害、防除法(耕種的方法、土壌・蒸、生物的方法)。
53	上遠 章・長谷川吉正・小川正和	1958	アメリカの植物防疫と農業。	海外農業生産性視察報告	9: 103 pp.	線虫 p. 2, 24, 30-45, 58, 101-102.
54	苅谷正次郎	1958	碧南市における三寸人参の栽培とネマトーダ問題について。	関西病虫研報(関西病害虫研究会年報)	1: 129.	講要。サツマイモネコブセンチュウ多発。農家から見た薬剤防除の困難性をあげる
55	桂 琦一	1958	秋蔬菜のセンチュウ防除。	富民	30巻8: 44-48.	ネコブ、シストセンチュウの被害、防除法(耕種、薬剤)
56	桂 琦一	1958	厄介な線虫の防ぎ方。蔬菜の場合。	農業日本	13巻8: 54-56.	ネコブセンチュウの被害、分布、二次的病害、防除(薬剤、その他)。
57	桂 琦一	1958	最近注目せられた土壌線虫による農作物の被害。	農研(大阪府農業教育研究会)	29: 2.	未見
58	桂 琦一	1958	土壌線虫と病菌の混合感染に関する研究(1)根腐線虫に誘発される大根黒腐病。	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	82-83.	謄写。講要。クロルピクリン、EDB、ペーバム剤による防除。
59	桂 琦一・角博次・山田隆保	1958	根腐線虫に誘発される大根黒腐病とその防除。	関西病虫研報(関西病害虫研究会年報)	1: 127-128.	講要。ペーバム、クロルピクリン、EDB等が有効。
60	河田 党	1958	病害虫の防除と抵抗性品種の利用。	植物防疫	12(3) 127-128.	イネシシゲセンチュウ、サツマイモのネコブセンチュウ
61	河村貞之助	1958	大ラッパ水仙球根の貯蔵中の腐敗防止法。	農及園(農業および園芸)	33(5) 832-833.	外国ではネマトーダ、国内ではネダニとフザリウム菌が原因
62	河村貞之助	1958	厄介な線虫の被害と防ぎ方。花の場合。	農業日本	13巻8: 57.	葉枯線虫、萎縮線虫、根腐線虫の被害、防除法。
63	河村貞之助	1958	土壌燻蒸剤のひろがり方。	今月の農業	2巻12: 78-81.	メチルプロマイド、クロルピクリン、D-D、EDB剤の土壌中の動き。
64	河村貞之助・平野和弥	1958	根腐線虫卵の孵化抑制条件について。	日植病報(日本植物病理学会報)	23(1) 37-38.	講要
65	河村貞之助・平野和弥	1958	根腐線虫卵の孵化抑制条件について。	日植病報(日本植物病理学会報)	23(2) 90-96.	低温、高温、乾燥、太陽光線、紫外線の影響を受ける。pHの変化は影響せず。
66	河野照義・伊藤 潔	1958	蔬菜栽培診断[10]。	農及園(農業および園芸)	33(10) 1609-	草莓の芽線虫防除: 8-10月に2-3回ホリドール散布。
67	河野照義・伊藤 潔	1958	蔬菜栽培診断[10]。	農及園(農業および園芸)	33(12) 1908-	人参の根腐線虫防除法: D-D、クロルピクリン、輪作。
68	川瀬英爾・小森康光	1958	ダイコンに対する殺線虫剤の影響。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会年報)	6: 49.	講要。D-D、EDB、DBCP、ペーバム剤。
69	川島嘉内	1958	線虫の生態と防除法。	農友	482: 13-	未見
70	川島良一	1958	大豆の育種と当面の課題。	農業技術	13(9) 405-409.	萎縮病抵抗性にふれる。
71	小林研三	1958	西瓜根腐線虫に対する殺線虫剤ペーバム(N-869)の根腐抑制効果について。	日植病報(日本植物病理学会報)	23(1) 58-59.	講要
72	小林研三	1958	西瓜根腐線虫に対する殺線虫剤ペーバム(N-869)の根腐抑制効果について。	九州農業研究	20: 186.	効果あり。
73	小林 尚	1958	ニカメイチュウの天敵。	植物防疫	12(6) 259-265.	ズイムシシセンチュウを含む。
74	小宮義孝(編)	1958	文献集線虫篇。	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	7(suppl.) 32 pp.	人体、家畜寄生種が主体。
75	近藤鶴彦	1958	Meloidogyne spp. に対する甘藷の抵抗性について。	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	28-29.	謄写。講要。
76	近藤鶴彦	1958	Meloidogyne属の種及び系統について。	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協)	29-31.	謄写。講要。

77	近藤鶴彦	1958	線虫に対する甘藷の耐虫性.	植物防疫	12(3) 112-114.	品種間差異、抵抗性の機構・検定、品種の育成.
78	近藤鶴彦	1958	大根の根腐線虫と輪作.	農研(三重農業研究会)	3巻3: 18-23.	大根の被害と落花生・トウガラシ・カンショ・綿・カボチャ・陸稲・トマト・里芋・藍タバコ・キビ・ナス・大豆等との輪作の効果.
79	近藤鶴彦・稲賀悟・粥見惇一・米野泰滋	1958	輪作による大根根腐線虫の防除について(予報).	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	1: 129-130.	講要. 前作に適する作物: 甘藷農林2号、大豆、里芋、藍、不適: 陸稲.
80	高野光之丞	1958	ヤマトイモの根腐線虫防除.	今日の農業	2巻5: 26-29.	D-D, EDB剤の施用方法、薬害.
81	高野光之丞	1958	ヤマトイモのネコブセンチュウ.	今日の農業	2巻12: 88-91.	症状、線虫の生態.
82	高野光之丞・石川元一	1958	ヤマトイモネコブセンチュウの防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	5: 40.	D-D.
83	堤石 肇	1958	九州における畑作害虫対策.	農業研究	5巻1: 6-	土壌線虫防除:「未だ実用までに至っていない」
84	古山 清	1958	就腐性線虫の培養に就いて.	日植病報(日本植物病理学会報)	23(1) 42	講要
85	小山八十八・山崎一彦・菊池良	1958	大豆萎黄病抵抗性を異にする品種間の雑種第3代における被害程度.	北農研究抄報	4: 23-24.	講要
86	国井喜章	1958	Baermann 氏法の検討.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講要要旨)	昭33: 5	講要
87	国井喜章	1958	Diplogaster sp.の食性について.	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	7(3) 88.	講要
88	国井喜章	1958	Diplogaster sp.の食性について(2).	寄生虫学会東日本支部大会講要	18回:	未見
89	国井喜章	1958	関東東山に於ける土壌線虫の諸問題.	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協会)	5-6.	騰写. 講要. 主にネコブセンチュウ.
90	国井喜章	1958	根腐線虫と落花生.	今日の農業	2巻5: 95-97.	生活史、連作害、防除
91	栗原昭夫	1958	果樹の忌地に関する最近の研究.	農及園(農業および園芸)	33(2) 315-319.	主に外国の研究を紹介. 柑橘、モモ、イチジク他.
92	間宮 広	1958	圃場観察による農事の新しい技術.	農及園(農業および園芸)	33(10) 1496-	落花生の連作障害の原因は線虫. 甘藷との隔年栽培で寄生率低下.
93	松原茂樹・川上忠夫・増田安弘	1958	根菜に及ぼすネマトーダの影響(第2報).	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭32春: 16	講要
94	三浦 脩	1958	根腐線虫の生態と防除について.	大阪農業	99: 19-28.	形態、生態、診断、防除法(薬剤、その他).
95	三浦 脩・出水忠夫	1958	水仙の球根線虫とその防除.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	1: 109-117.	病徴、寄主植物、形態、防除: パラチオン散布、球根の温湯消毒(50°C20-30分).
96	宮川経邦	1958	柑橘根腐線虫について.	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協会)	50-55.	騰写. 講要. 国内分布、被害.
97	盛永俊太郎	1958	アメリカ合衆国の稲と稲作害虫(2)(附一 国府田農場訪問記).	農業技術	13(11) 521-524.	ネマトーダによるWhite tip にふれる.
98	武笠耕三	1958	北海道における土壌線虫の諸問題.	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協会)	1-4.	騰写. 講要. ネコブ、シストセンチュウ.
99	武笠耕三	1958	リンゴ根腐線虫について.	北海の果樹	61: 22-24.	未見
100	中田正彦	1958	馬鈴薯のイモ腐れ線虫.	今日の農業	2巻1: 46-53.	病原線虫、線虫と土壌との関係、輪作(落花生)、分布、生産者の自衛.
101	中沢雅典	1958	稲刈消毒と苗代病害防除: その必要な理由と方法.	農及園(農業および園芸)	33(3) 527-530.	線虫心枯病対策(稲の冷水温湯浸法)を含む.
102	二宮 融・竹沢秀夫	1958	ネコブセンチュウに対する新殺線虫剤の効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	5: 41.	N-869, EDB, D-D.
103	西沢 務	1958	馬鈴薯にもくざり線虫について.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	1: 128.	講要. 中国・四国産はPratylenchus coffeae、東日本産はP. vulnus.
104	西沢 務	1958	線虫の飼育、および実験装置.	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協会)	32-40.	騰写. 講要. 英文.
105	西沢 務・弥富喜三	1958	根腐線虫の加害部位における呼吸ならびに数種酵素活性の変化.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講要要旨)	昭33: 5.	講要
106	小倉英一	1958	菊芋の栽培と加工法.	農及園(農業および園芸)	33(10) 1520-	線虫により商品価値、収量ともに低下. 発生畑での植付けをさける.
107	岡 英人	1958	新品種の解説(IV) 疫病及び線虫病抵抗性品種.	葉たばこ研究	14: 73-80.	線虫病抵抗性: 病原虫の種類、抵抗性の原理、品種の解説.
108	岡田富信	1958	陸稲線虫の寄生嗜好性について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講要要旨)	昭33: 1.	講要
109	奥浦正弘	1958	タバコ赤星病.	葉たばこ研究	14: 39-42.	「線虫病にかかる」とタバコ赤星病にかかりやすく、線虫病もひどい.
110	大泉久一・大庭寛雄・御子柴晴	1958	大豆栽培技術の事態と問題点. In: 東北大豆の生産安定条件の研究.	雑穀奨励会、東京	p. 55-112.	騰写. ネマトーダ被害大.
111	三枝敏郎	1958	植物検疫上注意すべき土壌線虫.	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協会)	14-16.	騰写. 講要. 主に輸出検疫.
112	三枝敏郎	1958	根腐線虫M. incognita acrita によるナンキンマメ被害について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講要要旨)	昭33: 9.	講要
113	三枝敏郎	1958	千葉県における根腐線虫の種類と分布.	日植病報(日本植物病理学会報)	23(1) 21.	講要. キタ、サツマイモ、アレナリアネコブセンチュウ.
114	三枝敏郎	1958	ネコブ線虫の寄生性.	今日の農業	2巻12: 45-50.	輪作、線虫の種類別の寄主作物.
115	三枝敏郎	1958	ネマトーダの種類とその防除.	農耕と園芸	13巻5: 74-76.	ネコブ、シスト、ネグサレ、ハ、イネシナガレ、イチゴセンチュウ等の解説.
116	三枝敏郎	1958	サツマイモネコブ線虫の経過習性.	今日の農業	2巻11: 72-76.	生活史、被害.
117	三枝敏郎	1958	植物寄生線虫とその調査法.	横浜植物防疫所、横浜	11 pp.	騰写. 寄生度調査法.
118	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(I).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	111: 4.	1. はしがき 2. 線虫とは.
119	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(II).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	113: 2-4.	3. 線虫の分類(イ).
120	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(III).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	116: 2-3.	3. 線虫の分類(ロ) 4. 表形の表現法 5. 植物線虫と土壌.
121	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(IV).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	118: 2-3.	6. 圃場における土壌線虫の分布 7. 線虫の検出(イ).
122	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(V).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	119: 1-2.	7. 線虫の検出(ロ).
123	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(VI).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	121: 2-3.	7. 線虫の検出(ハ) 8. 線虫の固定と保存.
124	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(VII).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	124: 2-4.	9. 線虫の名称 10. 線虫の生態と形態(イ).
125	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(VIII).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	125: 3-4.	10. 線虫の生態と形態(ロ).
126	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(IX).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	127: 4.	10. 線虫の生態と形態(ハ).
127	三枝敏郎	1958	植物線虫の基礎知識(X).	横浜補防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	133: 4.	10. 線虫の生態と形態(ニ).
128	渋谷正夫	1958	野菜のネマトーダはこうして防ぐ.	農耕と園芸	13巻5: 76-80.	多種の野菜に対する線虫の寄生、被害、防除.
129	渋谷正夫・井上頼数	1958	野菜の種類とネマトーダの寄生性について(第2報).	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭33春: 16-17	講要
130	重永知明	1958	畑作土壌線虫について.	研農復刊	10(9) 337-343.	農作物のネコブ・シスト・ネグサレ・ツブ・ハガレセンチュウの解説と防除法. D-D, EDB, DBCPを紹介.
131	篠原恒男・横尾多美男	1958	ナメクジInciliaria confusa (Cockerell) に寄生するRhabditis 属の一新線虫について.	久留米医誌(久留米医学学会誌)	21(12) 2580-2584.	R. inciliaria を新種として記載. 現在はPelodytes inciliaria (Yokoo & Shinohara, 1958) Andrassy, 1983 とされる(Andrassy, L. A taxonomic review of the suborder Rhabditina. ORSTOM, Paris, p. 109).
132	白浜賢一	1958	殺線虫剤実用上の経験および問題点.	線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協会)	67-74.	騰写. 講要. 防除事例等. 農業時代25号に同じ著者による「土壌くん蒸剤の経済性」と題する記事.
133	園 孝一・菊田庄三郎	1958	柿の忌地に関する研究.	農及園(農業および園芸)	33(5) 817-823.	線虫の寄生によるものではない.
134	杉 譲夫・戸谷昭夫	1958	畑作改善に関する試験研究の現状(2) 昭和33年度畑作改善試験打合せ会議から.	農業技術	31(11) 503-506.	線肥ダイズの導入でネマトーダ害増大. 輪作試験の事例を紹介.
135	鈴木正親・小宮書之助	1958	富士吉田農場における病虫害実態調査報告.	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	8: 15-21.	大豆萎黄病を記録. 圃場の傾斜の上方に多い.
136	高木信一	1958	殺線虫剤の選び方.	農業技術研究	12巻9: 23-26.	使用方法、使用量、毒性、副次効果、地上部の線虫防除

137	高木信一	1958	線虫の生死鑑別.	線虫対策協議会講要(日本植物防疫協会)	41-42.	謄写. 講要. 形状. 染色による方法.
138	高野誠義・小森昇	1958	稲線虫心枯病に関する試験 第2報 ロダン酢酸エステル類による種子消毒の効果について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	5: 36-37.	REM-200、REE-200の効果はホリドール処理にまさる.
139	高瀬 昇	1958	馬鈴薯育種における野生種の利用: 疫病抵抗性を中心として.	農業技術	13(8) 365-368.	Solanum andigerum: Golden nematodeに高度抵抗性.
140	滝元清透	1958	苗床の床土の消毒.	今月の農業	2巻10: 68-70.	D-D、クロルピクリンの施用法を含む.
141	田村浩国	1958	殺線虫剤の解説	農業	5巻6: 6-	性状、作用、処理法及び使用量、毒性等を解説.
142	田村市太郎・賀賀沢和男	1958	スイウセンチュウの生態に関する研究 第2報 幼苗に対する游出センチュウの加害能力と株間移動寄生.	日生態誌(日本生態学会誌)	8(1) 37-42.	根ざり以上の部分から寄生. 窒素多肥時に線虫移動大.
143	田村 茂	1958	遠州地方の洋菜栽培の特殊性.	農及園(農業および園芸)	33(11) 1687-	レタスのビニル栽培における線虫防除: D-D、EDB.
144	田中伊之助・藤井 博・相川英雄・池田定男	1958	ジャガイモモイモグサレについて.	日植病報(日本植物病理学会報)	23(1) 58.	講要. 土壌消毒効果.
145	田中伊之助・宮本健太郎・藤井 博・相川英雄・池田定男	1958	ジャガイモモイモグサレについて.	九州農業研究	20: 102-103.	線虫が原因. 粗堆肥及び薬剤の土壌施用. 種薯の温湯消毒.
146	田中 勇	1958	タバコ根瘤線虫病抵抗性品種RK70における病原菌の発育.	日植病報(日本植物病理学会報)	23(1) 59.	講要
147	田中 勇	1958	クロルピクリンによる根瘤線虫病の防除.	線虫対策協議会講要(日本植物防疫協会)	61-64.	謄写. 講要. D-Dと比較.
148	田中 勇	1958	線虫病に対するD-Dとクロルピクリンの効果. 使用法.	葉たばこ研究	14: 88.	使用方法. 経費.
149	田中 勇	1958	線虫防除にアルドリル使用の可否.	葉たばこ研究	14: 44-48.	未試験.
150	田中 勇	1958	タバコ根瘤線虫病.	葉たばこ研究	14: 44-48.	生態. 防除.
151	徳永友三・佐藤智章	1958	各種殺線虫剤によるネコブセンチュウ(根瘤線虫)の防除について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	9: 146-149.	薬剤6種.
152	植 啓介	1958	Studies on the Japanese Hyphomycetes (IV) Miscellaneous group.	植種(植物学雑誌)	71: 131-137.	線虫捕食菌Arthrotrichy arthrotrichyoides. Dactylella attractoidesの落葉からの記録を含む.
153	津軽承捷	1958	畑作のガン. 土壌線虫について.	青森農業	9巻10: 33-35.	未見
154	津軽承捷	1958	大豆線虫の生態と防除.	農業	5巻6: 23-28.	被害. 防除(輪作. 抵抗性品種利用. 窒素質肥料多用. D-D. EDB. DBCP剤施用).
155	津軽承捷	1958	大豆線虫に対する殺線虫剤の効果.	線虫対策協議会講要(日本植物防疫協会)	65-66.	謄写. 講要. D-D. ベーバム他.
156	簡井善代治	1958	ネコブセンチュウ(根瘤線虫).	農及園(農業および園芸)	33(3) 口絵及び解	生態. 防除法を解説. 雄成虫の写真は別種.
157	簡井善代治	1958	秋蔬菜の害虫と最近の防除薬剤.	農及園(農業および園芸)	33(9) 1379-	殺線虫剤の紹介. 耕作的防除法にも言及.
158	植松 敬	1958	無病無害虫の床土はどのように作るか.	農業技術研究	12巻3: 34-36. グラビ(2 pls.)	D-D、メチルプロマイド、クロルピクリン等の使用法.
159	浦上山太	1958	昭和32年度九州における稲作の主要病害虫の発生と防除の概要.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	4: 66-67.	線虫心枯病多発.
160	渡辺正好	1958	根菜類の幼苗時に根根の見わけかた.	農及園(農業および園芸)	33(4) 680-681.	ナス科. ウリ科作物の後はネマトーダが多く. 根根となりやすい. 間引き法.
161	渡澄龍雄	1958	黄蜀葵の立枯れ. 根腐の防除法.	農及園(農業および園芸)	33(8) 1249-	ネコブセンチュウ対策: 輪作. 灌水(ニカ月)他.
162	矢島寿治	1958	野菜のビニール営利栽培.	農文館. 東京	290 pp., 16 figs.	線虫防除: D-D. 輪作. 深耕. p. 92, 122, 139, 233.
163	山崎正枝	1958	陸稲の連作障害軽減法.	農及園(農業および園芸)	33(2) 400-401.	ネマトーダの原因が多らしい. D-Dの使用法等.
164	山崎正枝・仲宇佐達也・加藤治・伊藤佳信	1958	陸稲の連作害に関する研究(予報): (第1報) 農村調査とその検討.	日作紀(日本作物学会紀事)	25(1) 45-46.	講要. 農家圃場における実態調査. 線虫記述なし.
165	山崎正枝・仲宇佐達也・加藤治	1958	陸稲の連作害に関する研究(予報): 第2報 連作害の原因について.	日作紀(日本作物学会紀事)	25(4) 234.	講要. 連作により陸稲根線虫増加.
166	山崎守正	1958	暖地における甜菜栽培の概観.	農及園(農業および園芸)	33(7) 1053-	ネマトーダ対策として耐虫性品種の利用.
167	横本国臣	1958	山葵の病害とその防除に就いて.	中国農業研究	10: 48-50.	ネコブセンチュウを含む.
168	横尾多美男	1958	土壌線虫 生態と防除.	明文堂. 東京	2+9+541+11 pp.	分類. 生態及びTylenchida目. Dorylaimida 目の植物寄生性線虫の形態を中心とする記述.
169	横尾多美男	1958	暖地における土壌線虫の諸問題.	線虫対策協議会講要(日本植物防疫協会)	7-11.	謄写. 講要. 内容は線虫の分類.
170	横尾多美男	1958	根腐線虫Pratylenchus spp. の分類と生態(1).	植物防疫	12(2) 51-54.	分類学上の位置. 属の特徴. 分類.
171	横尾多美男	1958	根腐線虫Pratylenchus spp. の分類と生態(2).	植物防疫	12(3) 121-126.	P. pratensis. P. vulnus の形態. 生態. 防除法.
172	横尾多美男	1958	根腐線虫Pratylenchus spp. の分類と生態(3).	植物防疫	12(9) 415-420.	P. brachyurus. P. coffeae 等12種の形態.
173	横尾多美男・伊東好郎	1958	柑橘の根線虫について.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	4: 30.	佐賀県内に広く分布. 被害生株の根群発達は悪い.
174	横尾多美男・松本安生	1958	On the variation of dimension within soil nematodes. (I) Dimension of root lesion nematodes. Pratylenchus spp.	佐賀大農業(佐賀大学農学年報)	7: 49-66.	岡山. 長崎のバレイシヨ寄生種の形態. 計測値を比較.
175	吉田正義・鈴木康徳	1958	Testing laboratory methods of agricultural chemicals against injurious insect in soil. Researchs on the wireworm, Melanotus caudex Lewis. XI.	防虫科学	23(3) 107-111.	コメツキムシ幼虫に対する殺線虫剤(EDB, 1. 3D)のLD50.
176	吉岡謙吾	1958	グラジオラス球根のねこぶ線虫.	神戸植防情報(神戸植物防疫情報)	148: 1.	アレナリアネコブセンチュウを発見.
177	湯浅利光	1958	ニンジンの線虫防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	5: 39.	D-D. クロルピクリンを試験.
178	Anon. (シェル石油株式会社)	1958	線虫とその防除.	シェル石油株式会社. 東京	57 pp., 8 pls.	形態. 分類. 生活史. 主な植物寄生性線虫. 防除(D-D. DBCP剤の使用法). 線虫調査法. 殺線虫剤のスクリーニング法.
0		1959	昭和34年(1959)			
1	赤井節夫	1959	岡山県南部の森林病害について.	森林防疫ニュース	8(4) 58-61.	台湾キリノ線虫病の発生面積 100m ² .
2	阿久津善作・伊藤佳信・新井 茂	1959	ネコブセンチュウの季節的消長と各種作物根内におけるセンチュウの発育について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 18.	講要
3	青柳寅雄	1959	苗木病害とその防除法.	農及園(農業および園芸)	34(2) 365-368.	線虫心枯病: 本田での病苗よりの伝染距離. 種粉消毒.
4	青柳寅雄	1959	こんにやくの線虫.	今月の農業	3巻3: 93-95.	防除: 輪作. 薬剤(D-D. EDB)
5	新船幸重郎	1959	線虫防除の優良事例.	今月の農業	3巻5: 81-84.	埼玉県でのニンジン. ゴボウ. トマト. カボチャの増収例.
6	浅井三男	1959	ダイズシストセンチュウによる大豆. 小豆. 菜豆の被害.	北農	26巻8: 4-6.	被害は大豆が最も大. 小豆が次. 菜豆はきわめて少.
7	浅川正彦	1959	最近における雑穀研究の動向.	農業技術	14(8) 363-366.	大豆萎黄病線虫耐虫性品種の育種を含む.
8	家入 章	1959	大根. 白菜. 甘藍の病害防除について.	研農復刊	11(9) 712-715.	線虫による被害を含む.
9	遠藤和衛・森 芳夫	1959	北海道における甜菜の病害虫とその防除対策.	植物防疫	13 (12) 523-528.	キタネコブセンチュウ. 平均減収率10%. 4億2000万円の損害. D-D. EDBで防除.
10	藤井健雄	1959	蔬菜生産の安定問題.	農及園(農業および園芸)	34(1) 169-172.	昭和13~19年の千葉大学農場の収量を解析. 線虫との関連にふれる.
11	藤谷正信	1959	千葉県における土壌線虫発生と被害の概観	植物防疫	13(3) 126.	郡別の線虫発見地区数. ネコブセンチュウの寄主作
12	深谷昌次	1959	ヨーロッパにおける植物防疫研究機関の実情	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	6: 1-2.	講要. 線虫研究の状況は日本の現状と同様.
13	深谷昌次	1959	ヨーロッパ農業の中心 ワーゲンゲン.	植物防疫	13(8) 373-374.	農科大学の組織. ゴールデンネマ研究プロジェクトを紹介.
14	深沢永光	1959	葉線虫の被害と防除.	今月の農業	3巻9: 84-87.	イチゴ. 菊の被害と防除.
15	深沢永光・高木信一	1959	ペールマン法およびその変法についての吟味.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 16.	講要
16	福田秀夫	1959	Ethylene dibromide の nematode control pattern.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 18.	講要
17	源馬琢磨・渋谷紀起	1959	山形県田川地方における水稲の根の皮層に寄生する線虫について.	山形農林学会報	14: 11-14.	形態(線虫未定). 寄生部位. 稲への影響. 山形県内の分布

18	五味美知男	1959	福線虫心枯病防除に関する研究 第3報 浸透剤添加による薬剤処理の効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	24(1) 9.	講要. 単用で効果のない薬剤も浸透剤添加で有効化.
19	後藤和夫	1959	農業技術の変貌と植物病理研究(2).	農業技術	14(9) 390-393.	土壤病害虫防除改善試験. 畑作物線虫抵抗性品種育種.
20	後藤重喜	1959	早期陸稲の病虫害とその対策.	農業	6巻1: 42-45.	ネグサレセンチュウの被害が大. サツマイモネコブセンチュウ, オカボシトセンチュウも寄生.
21	後藤重喜・川越仁	1959	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(1)本センチュウと長崎産ネグサレセンチュウの比較.	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	5: 74.	講要. <i>Pratylenchus coffeae</i> の可能性もあるとする.
22	後藤重喜・川越仁	1959	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(2)各種作物における寄生増殖と病斑.	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	5: 75.	講要. 病斑の表われ方と線虫の増殖は直接の関係なし.
23	後藤重喜・川越仁	1959	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(Ⅲ)暖地畑作の代表的作物と線虫勢力.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 17-18.	講要.
24	後藤重喜・川越仁・長友ミチ	1959	土壤線虫の薬剤防除について.	宮崎農試試験研究発表会要録	14回: 23-25.	騰写. D-D, EDB, DBCP. 増収効果, 実施上の問題点, 経済性.
25	長谷川吉正(平賀雄吉)	1959	ビメンタド・レノイの病害について.	ハン・アマゾン	7.	未見. フランルのコショウの病害. 線虫を含む.
26	橋詰宗雄	1959	土壤線虫. 長野県における被害と対策.	都道府県展望	9: 23-27.	被害の現状, 防除効果, 対策の問題点.
27	早川広美・関谷一郎・真羽好三・岸義男	1959	浸透殺虫剤によるダイズシストセンチュウの防除.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 18-19.	講要.
28	林 武・滝嶋康夫	1959	作物の忌地性に関する研究[第1報]連作, 残根並に水耕液の生育阻害作用.	農及園(農業および園芸)	34(6) 971-972.	線虫等のため一部の試験を途中で放棄.
29	平野和弥・河村貞之助	1959	Rhoaditis属線虫における表皮剥離現象と死腔について.	日植病報(日本植物病理学会報)	24(1) 46.	講要. 殺線虫剤処理以外の死亡時にもみられた.
30	広瀬健吉・伊藤喜隆	1959	リンゴ園におけるネコブセンチュウの分布について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 17.	講要.
31	堀 正信	1959	植物防疫の畑作への展開.	植物防疫	13(1) 1-5.	畑作振興と土壤線虫対策について論ずる.
32	堀 呈治・川島嘉内	1959	コニヤクセンチュウに対する各種薬剤の効果について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	10: 153-154.	D-D, EDBが優れ, ベーバムは劣った.
33	市原伊助・高橋芳雄	1959	落花生の連作とネマトダの被害について(続報).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	6: 55.	連作試験における線虫の寄生度.
34	一戸 稔	1959	線虫実験法. In. 昆虫実験法(深谷昌次・石井象二郎・山崎輝男編).	日本植物防疫協会, 東京	p. 491-520.	採集と分離法, 保存法, 飼育法, 分類の基礎と形態観察法, 類別法, 薬剤試験法, 定量法(密度推定法)
35	一戸 稔	1959	Studies on the soybean cyst nematode, <i>Heterodera glycines</i> and its injury to soybean plants in Japan.	Pl. Dis. Reprt., suppl. (Plant Disease Reporter, supplement)	260, 239-248.	研究史, 分布, 形態, 生活史, 寄主, 被害様相, 抵抗性, 防除について概説.
36	一戸 稔	1959	アメリカにおける線虫研究の現状.	植物防疫	13(3) 119-125.	研究機関, 線虫相, 調査法, 殺線虫剤の使用状況等を紹介.
37	一戸 稔	1959	欧米の線虫事情. 研究と防除.	植物防疫	13(12) 535-538.	アメリカ, イギリス, オランダ, ドイツについて紹介.
38	飯島 鼎	1959	畑作振興と土壤線虫対策.	植物防疫	13(3) 93-96.	対策事業の背景, 大要を述べる.
39	飯島 鼎	1959	土壤線虫の被害とその防ぎ方.	八洲化学工業株式会社	49 pp.	防除等の解説.
40	飯島 鼎	1959	土壤消毒実施上の問題点.	新農業	48: 1-5.	施用法, 薬害等.
41	飯島 鼎	1959	土壤線虫対策と農業経営の改善.	農業通信	41: 1-5.	未見.
42	飯島 鼎	1959	畑作経営改善の原動力としての土壤線虫対策.	都道府県展望	9: 7-12.	わが国の畑作と畑作振興の気運, 土壤線虫の被害と土壤消毒の考え方, 土壤消毒の方法と効果, 土壤線虫対策推進上の問題点, 土壤線虫対策五ヵ年計画, 土壤線虫対策の今後の構想.
43	飯島 鼎	1959	今年の土壤線虫対策.	今月の農業	3巻3: 9-	土地の診断, パイロット防除, 消毒機の整備.
44	飯島 鼎	1959	土壤消毒の機具.	今月の農業	3巻3: 27-29.	手動・動力式機械.
45	飯島 鼎	1959	畑作の革新技術. 土壤線虫の防除対策.	農耕と園芸	14巻6: 33-35.	連作障害, 被害, 土壤消毒の効果と経済性.
46	飯島 鼎・遠藤和衛・室賀弥三郎・藤谷正信・田中新吉・本田永徳・後藤重喜	1959	[座談会]土壤病害虫による被害の実体と今後の防除対策を語る.	農業	6巻1: 4-32.	線虫を含む病害虫の被害と防除の現状.
47	今関六也	1959	農用林と線虫害.	林業技術	21: 11-13.	線虫問題出現の背景を論ず.
48	今関六也	1959	線虫病雑感. 分析と総合の必要性について.	植物防疫	13(6) 267-269.	内外の研究を紹介し, 堆肥・線虫・捕食菌の関係論ずる.
49	福賀 恒	1959	土壤消毒機の種類と使い方.	植物防疫	13(8) 349-352.	手動, 大型・小型トラクタ用機種の説明と使用上の注意.
50	井上 寿	1959	ダイズシストセンチュウに関する調査 第7報 稔度盤形成土壤におけるシストの分布について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	10: 110.	大豆の根及びシストの分布は表土中が大部分.
51	井上 寿	1959	ダイズシストセンチュウに関する調査 第8報 休閑跡地における大豆の被害とシストについて.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	10: 111-112.	4年休閑で生産面の問題ないが, 線虫の根絶に至らず.
52	井上 寿・春木保	1959	ダイズシストセンチュウに関する調査 第9報 耕鋤深度ならびに厩肥の施用がシスト数におよぼす影響.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	10: 112-113.	上記2処理は大豆の生育を良好にするが, 線虫密度も上昇.
53	井上 寿・春木保	1959	ダイズシストセンチュウに関する調査 第10報 連作がシスト数におよぼす影響.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	10: 113-114.	輪作. 5年間非寄主作物栽培でも駆除不完全.
54	井上 寿・春木保・小山陸寛	1959	ダイズシストセンチュウに関する調査 第6報 土壤中におけるシストの垂直分布について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	10: 109-110.	10~15cmの間に多い. 40cm以下深からは検出されず.
55	井上 巖	1959	Chordodes 属ハリガネムシ成虫の体制.	動雑(動物学雑誌)	68(4) 151-156.	C. japonensis の内部形態.
56	井上 巖	1959	Distribution of acid alkaline phosphatases in the hairworm, <i>Chordeodes japonensis</i> .	Annot. Zool. Japon. (Annotations Zoologie Japonenses)	32(4) 209-213.	酸性・アルカリフォスファターゼは雌成虫では卵巣・中腸, 雄成虫では中腸, 幼虫では真皮に多.
57	井上義孝・駒田 旦	1959	ダイコン萎黄病の防除について.	日植病報(日本植物病理学会報)	24(1) 23.	講要. D-D, EDB剤他.
58	石橋信義・氣賀沢和男・国井喜彦	1959	ネコブセンチュウの生理生態的研究 I. 卵と卵の内卵の孵化差異.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 16.	講要.
59	石橋信義・氣賀沢和男・国井喜彦・土橋貞夫	1959	線虫の産卵能力の季節的推移について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	6: 52.	産卵数・孵化率の10~12月にかけての変化.
60	石橋律雄	1959	埼玉県における土壤線虫防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	6: 58.	D-DよりEDBが優れる. 蔬菜の種類と注入時と薬害.
61	石井 孝	1959	EDBによるネマトダ防除について.	農業研究	6巻2: 66-68.	千葉県の花弁栽培地帯. D-Dと比較.
62	石倉秀次	1959	線虫の新しい研究.	今月の農業	3巻3: 20-22.	生態, 防除.
63	伊藤泰次	1959	落花生の土壤線虫防除について.	農業技術研究	13巻6: 32-33.	EDB, DBCP剤.
64	伊藤泰次	1959	土壤線虫についての私の体験.	植物防疫	13(3) 131.	落花生の線虫発見の経緯及びネマゴンによる防除試験成績.
65	伊藤佳信	1959	蔬菜に寄生する線虫の防ぎ方.	農耕と園芸	14巻6: 38-40.	ネコブ, ネグサレセンチュウの主に薬剤防除.
66	伊藤佳信・永沢実・阿久津喜作・新井 茂	1959	ネコブセンチュウの季節的消長とその防除法.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	15: 42-46.	騰写. 9種作物における線虫発生消長. D-D, EDB, DBCP剤による防除.
67	伊藤佳信・永沢実・阿久津喜作・新井 茂	1959	ネコブセンチュウの季節的消長と各種作物における線虫の発生について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	6: 60.	6月から翌年5月の消長. 9種作物中での線虫の発生.
68	伊藤喜隆	1959	長野県のネコブセンチュウについて.	長野農試特報(長野県農業試験場特別報告)	42巻9: 27-36.	キタネコブセンチュウ, アレナリアネコブセンチュウ, ジャワネコブセンチュウ, <i>Meloidogyne</i> sp. (リンゴ)を記録. 形態, 生態, 防除法を解説.
69	伊藤喜隆	1959	りんごの線虫対策(1).	園芸信州	12巻8: 42.	未見.
70	伊藤喜隆	1959	りんごの線虫対策(2).	園芸信州	12巻9: 42.	未見.
71	伊藤喜隆・広瀬健吉	1959	蔬菜畑におけるネコブセンチュウの土質別棲息密度および天候変化による線虫垂直分布の変化.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	6: 57.	作物の根の分布と線虫の分布が関連.
72	伊藤喜隆・尾沢賢	1959	リンゴ樹におけるネコブセンチュウの垂直・水平分布について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 17.	講要.
73	弥富喜三・西沢務	1959	Tagetes 属植物の殺線虫作用.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 18.	講要.

74	鐘木豪夫	1959	畑作営農の機械化の構想.	農及園(農業および園芸)	34(1) 135-138.	ネマトーダ防除用の薬剤注入機が製作されている.
75	鐘ヶ江英夫	1959	宮崎県における病害虫防除の問題点.	農業	6巻4: 46-51.	甘藷、陸稲の線虫を含む.
76	勝久衛・川瀬英爾	1959	ネコブセンチュウに対する殺センチュウ剤の効果について.	北陸病虫研報(北陸病害虫研究会会報)	7: 122-125.	タバコ、ナガイモ、サツマイモ、人参の収量比較及び薬害を試験.
77	桂 琦一	1959	線虫と植物病害.	植物防疫	13(3) 111-114.	関連病害の分類及び内外の研究、防除事例を紹介.
78	桂 琦一	1959	大麦の黄化現象に関する研究(予報).	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 10.	講要. 根にPratylenchus, Meloidogyneを発見. 前者の接種試験において病徴を再現.
79	桂 琦一	1959	秋蔬菜のネマトーダとその防除.	農業普及(愛知県農業改良課)	5巻9: 19-22. 口絵	ネコブ、ネグサレセンチュウの被害、防除(薬剤、効果、費用).
80	桂 琦一	1959	根腐線虫に誘発される大根黒腐病の防除試験におけるドーロン剤の効果.	農業	6巻3: 73-74.	他にベーパーム、DBCP剤等を扱う.
81	桂 琦一	1959	野菜に病気を起こす土壌線虫.	農耕と園芸	14巻6: 36-37.	複合病害の解説と薬剤防除法.
82	桂 琦一・河野又四・高橋啓允	1959	Digitalisの枯死現象について(予報).	関西病虫研報(関西病害虫研究会会報)	2: 53.	サツマイモネコブセンチュウ及び菌類の総合的な侵襲の結果と推測.
83	桂 琦一・高橋啓允	1959	根腐線虫に誘発される大根黒腐病の防除試験 第3報 昭和33年度試験結果について	関西病虫研報(関西病害虫研究会会報)	2: 50.	講要. ドーロン13.5% ¹⁰ /10 a. ネマゴン乳剤40の15% ¹⁰ が適当. 後者の37.5% ¹⁰ では薬害.
84	河村貞之助	1959	落葉果樹のネマトーダとその対策.	果実日本	14巻12: 20-22.	エチゴメセンチュウの生態、防除.
85	河村貞之助	1959	殺線虫剤の種類と使い方.	今月の農業	3巻2: 78-84.	クロルピクリン、メチルプロマイド、D-D、EDB剤.
86	河村貞之助	1959	いちごの赤芽.	今月の農業	3巻7: 58-61.	イチゴメセンチュウの生態、防除.
87	河村貞之助・野村健一	1959	バラの病害虫と防ぎ方.	植物防疫	13(4) 143-148. 口絵写真	含キタネコブセンチュウ防除.
88	川崎倫一・田口俊郎・井上 駿	1959	メチルプロマイドくん蒸が馬鈴薯塊根に及ぼす影響 II.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 7.	講要
89	川島嘉内	1959	福島県に発生している主な植物寄生線虫.	農友(福島県農友会)	494: 15-17.	未見
90	川島嘉内	1959	薬用ニンジンネコブセンチュウに対するネマゴンの効果について.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会会報)	10: 153.	効果あり. 赤枯病も減少.
91	気賀沢和男・石橋信義・土橋貞夫・国井喜章	1959	線虫の加害と寄主の生育.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会会報)	6: 56.	トマトのネコブセンチュウをEDBで防除. 休閑より有機質肥料施用が効果あり.
92	気賀沢和男・国井喜章・石橋信義	1959	ネコブセンチュウの生理生態学的研究 III. 緩衝液に対する反応.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 17.	講要
93	菊池哲朗・市原伊助・田城寺定	1959	数種の殺線虫剤による蔬菜線虫防除試験.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会会報)	6: 59.	キュウリ、ホウレンソウ等のネコブセンチュウをD-D、EDB、クロルピクリン等で防除.
94	小宮善之助	1959	富士吉田周辺における大豆萎黄病実地調査.	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	9: 1-3.	広く分布.
95	小宮善之助	1959	大豆萎黄病と施肥との関係(予報).	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	9: 5-8.	堆肥、カリが被害防止に有効.
96	近藤鶴彦	1959	畑作物とネコブセンチュウ.	愛農(全国愛農会)	6巻5: 28-30.	未見
97	近藤鶴彦	1959	殺線虫剤の使い方.	農研(三重農業研究会)	4巻8: 17-20.	未見
98	近藤鶴彦	1959	土壌線虫の被害の現状と問題点: 全国的に見た概略について.	都道府県展望	9: 13-17.	ネコブセンチュウ、シストセンチュウ、ネグサレセンチュウ・ミカンセンチュウの分布・被害対策.
99	高野光之丞	1959	人参畑の土壌消毒.	今月の農業	3巻7: 20-23.	EDBの効果.
100	古山 清	1959	線虫の培養.	植物防疫	13(3) 110.	Diplogaster sp., Aphelenchus sp., Rhabditis sp., Aphelenchoides besseyi, Rhabditoides sp.
101	口村重治	1959	シクラメンの切花栽培.	農及園(農業および園芸)	34(8) 1246-	播種土壌のネマトーダは致命的.
102	国井喜章	1959	殺線虫剤とその施用について.	植物防疫	13(3) 115-118.	一覧表として物理性、施用法、対照病害虫、薬害等を示す.
103	国井喜章	1959	最近の殺線虫剤研究の流れ.	農業	6巻6: 37-41.	海外の研究を紹介.
104	国井喜章	1959	線虫の感受性による薬剤の効力判定.	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	8(3) 100.	講要
105	国井喜章	1959	土壌線虫について.	都道府県展望	9: 2-6.	研究史. 研究上の問題. 被害の地域性. 防除の展望.
106	国井喜章	1959	殺線虫剤の施用方法.	今月の農業	3巻3: 12-15.	点注. 条注. 薬害等の解説.
107	国井喜章・石橋信義・気賀沢和男	1959	ネコブセンチュウの生理生態学的研究 II. 卵のうの食塩水処理.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 16-17.	講要
108	国井喜章・気賀沢和男・石橋信	1959	ネコブセンチュウの研究: 生理生態学への準備.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	3(1) 61-62.	講要
109	国井喜章・気賀沢和男・石橋信	1959	Rhabditoides sp.の酸素消費量.	寄生虫学会東日本支部大会講要	19回:	未見. 講要
110	栗田匡一	1959	暖地甜菜(てんさい)の移植栽培.	農及園(農業および園芸)	34(6) 933-938.	輪作による線虫防除. 線虫の寄生により収量、耐病性、耐旱性低下.
111	桑名寿一・石井五郎・埴川晴寿	1959	桑のネコブセンチュウについて(1).	蚕糸研究	31巻6: 43-60.	形態、生態(温度と分離線虫数、孵化幼虫数、垂直分布、水平分布)、被害.
112	Loof, P. A. A.	1959	Ueber das Vorkommen von Endotokia matricida bei Tylenchida.	Nematologica	4(3) 238-240.	卵が母体中で孵化し、そのため雌成虫が死亡する現象をAphelenchoides fragariae, Pratylenchus coffeae発見. 後者は日本のジャガイモからの検出個体.
113	牧 良忠・山口福男	1959	兵庫県における近郊園芸地帯の線虫害と防除上の問題点.	農業	6巻3: 34-40.	ネコブ、ネグサレ、イチゴメ、ハガレセンチュウ.
114	牧 良忠・山口福男	1959	蔬菜類に対する殺線虫剤の効果について.	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	7: 54.	キュウリ、トマト、ダイコン、ハクサイ、ホウレンソウ、ニンジンにD-D、EDB、DBCP剤.
115	松本利雄・川島嘉内	1959	薬用ニンジンセンチュウの移動に関する一考察.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会会報)	10: 116.	傾斜地では流水による移動に注意.
116	水戸野武夫・藤村俊彦	1959	生育中のブドウに対する殺線虫剤の処理とその効果.	中国農業研究	16: 54-56.	サツマイモネコブセンチュウにDBCP剤を施用. 落果減少.
117	三浦 脩	1959	殺線虫剤の種類とその施用について.	大阪農業	110: 13-	使用方法. 効果.
118	三浦 脩	1959	ダイズシストセンチュウ府下に発生す.	大阪農業	113: 18-	大阪府美木多村上.
119	三浦 脩	1959	ネコブセンチュウの発育に及ぼす殺線虫剤(EDB)の影響.	農及園(農業および園芸)	34(6) 985-988.	線虫の寄生侵入は1週間遅れるが、その後の発育に影響なし.
120	宮川経邦	1959	ミカンセンチュウによるみかんの被害.	農業	6巻2: 口絵及び解説	
121	宮川経邦	1959	ミカンの根センチュウ.	今月の農業	3巻2: 121-125.	症状、天敵.
122	宮川経邦・賀川 実	1959	ミカンセンチュウ(Tylenchulus semipenetrans)の生態と防除に関する2、3の実験.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭34秋: 10	講要
123	宮本健太郎	1959	秋作馬鈴薯の栽培法.	農及園(農業および園芸)	34(1) 209-212.	秋作では線虫による腐敗は認めず.
124	百瀬行男	1959	林木苗木のネマトーダ.	森林防疫ニュース	8(3) 55-56.	長野県北信地方のカラマツ、スギ苗畑の線虫. ピンセンチュウ他.
125	森 介計	1959	ミカンノカイガラムシの防除とEDB乳剤の使い方.	農業	6巻3: 6-10.	効果、施用方法・時期.
126	森 信義	1959	ゴールデンネマトーダの調査法.	農業	6巻2: 54-55.	アメリカで実施されている方法を紹介.
127	本橋精一・伊藤佳信・阿部善三	1959	トマ萎黄病の発生とネコブセンチュウとの関係.	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 25	講要
128	宗像 桂・原田昭夫・西沢 務	1959	Nematocidal activities of halogenoalkyl-carboxylic acid esters.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	23(6) 457-459.	イネニンガレセンチュウに40種のハロゲン化合物のエステルの殺線虫活性を試験. 構成成分の酸・アルコールの種類と活性の関係を調べる.
129	村上計彦	1959	桑の根りゅう線虫の防除について(予報).	日蚕関西講要(日本蚕糸学会関西支部合同研究発表会講演要旨)	19: 8.	講要
130	長沢正雄・山本福太郎・戸塚隆	1959	殺線虫剤スクリーニング方法に関する一考察.	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 17	講要
131	永沢 実・伊藤佳信・新井 茂	1959	キタネコブセンチュウ・サツマイモネコブセンチュウの寄生様式について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 17.	講要
132	永田利男	1959	馬鈴薯品種とその特性概要について: 北海道農業試験場作物部作物第4研究室(恵庭町松島)で保有する品種.	北農	26 巻7: 1-32.	ネマトーダ抵抗性: Capella, Merkur, Varan.

133	内藤豊三郎	1959	秩父地方の蒟蒻栽培とその改善.	農業技術	14(3) 107-111.	トロアオイの後作に線虫が発生. 休載、D-Dで防除.
134	中島三夫	1959	便利な線虫実験器具について.	植物防疫	13(10) 467.	ガラス毛細管を計数、すくい取りに利用.
135	仲宇佐達也・加藤 治・山崎正枝	1959	陸稲の連作害に関する研究 第3報 連作害の原因について.	日記紀(日本作物学会紀事)	27(4) 438-440.	土壤消毒の効果. 線虫記述なし.
136	中山 保・斎藤武衛	1959	「かんひん」の栽培法.	農及園(農業および園芸)	34(2) 348-352.	ネマトーダの多い所では7-8割減収.
137	西沢 務	1959	植物ガンの形成機構.	蛋白・核酸・酵素	4巻(増刊号): 82-2.	線虫、ウイルス、昆虫等によって生じる植物異常組織に関する総説.
138	西沢 務	1959	殺線虫剤の拡散型.	関西病虫研報(関西病虫研究会会報)	2: 50-51.	講要. D-D, EDBは直径30~40cmの球形. DBCPは効果範囲やや大.
139	西沢 務・高橋武正	1959	土壤線虫の分離方法に関する研究(I) Baermann 法の検討.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 16.	講要
140	野中福次	1959	稲小核菌病と稲線虫心枯病との関係、並びに線虫被害稲の呼吸酵素活性について.	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 8.	講要
141	野中福次	1959	稲小核菌病と稲線虫心枯病との関係並びに線虫被害稲の呼吸、酵素活性について.	九大農学誌(九州大学農学部学芸雑誌)	17(1) 1-7.	菌核病著しく減少. 稲の各種酵素活性が高い.
142	小尾充雄・小菅喜久弥	1959	コンニャクネコブセンチュウの防除について.	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	6: 65.	D-D, EDBによる土壤消毒と増収効果.
143	織田真吾	1959	イネシガラセンチュウに対するパラチオン散布適期の判定.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	7: 118.	7月20~30日が最適.
144	及川嘉一・本庄一雄	1959	田畑輪換栽培に関する研究.	岩手大農学報(岩手大学農学部報告)	4(2) 182-191.	線虫記述なし. 大豆は輪換畑でも連作障害発生
145	岡 英人	1959	たばこの育種50年の歩み.	葉たばこ研究	20: 16-27.	線虫抵抗性を含む.
146	岡野秋盛・田中勇	1959	EDBの薬害および効果範囲について.	九州農業研究	21: 151-152.	タバコに対する薬害は非常に少ない. 殺虫効果と病害発生(タバコ腰折病)との間に関係.
147	岡野秋盛・田中勇	1959	EDBの薬害および効果範囲について.	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 65.	講要
148	大橋雄司	1959	立枯病抵抗性に関する研究 第2報 根の傷と発病との関係.	育種(育種学雑誌)	9(1) 59-60.	講要
149	大橋雄司・村井高伯	1959	立枯病抵抗性に関する研究 第1報 根の傷と立枯病の発生について.	葉野たばこ試報(葉野たばこ試験場報告)	44: 51-65.	ネコブセンチュウ接種との関係も調査.
150	大泉久一・他	1959	東北大豆の生産安定条件の研究.	雑穀奨励会、東京		未見. ダイズシストセンチュウ対策を含む.
151	小沢 博・戸部敬哉	1959	臭化メチル液状くん蒸剤「サンミック」の殺線虫試験.	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 50.	講要. EBDと同様の効果.
152	三枝敏郎	1959	線虫による作物の被害.	植物防疫	13(3) 105-109. 口絵写真	病徴の説明. 線虫寄生度と作物減収度をグラフで示す.
153	三枝敏郎	1959	ダイズ品種間におけるネコブ線虫寄生度の差異.	農及園(農業および園芸)	34(5) 835-836.	供試49品種中3品種(小金黄1号、Laredo、十勝長葉)が免疫性.
154	三枝敏郎	1959	線虫による畑作物の病徴とその防除(1)作物の病徴とくにネコブ線虫について.	農及園(農業および園芸)	34(12) 1847-1847.	線虫の種類と病徴の一覧表、ネコブセンチュウの種類とゴール形状の違いを図示.
155	三枝敏郎・松本安生	1959	兵庫県産 Stylet nematode の一種について.	植物防疫	13(10) 451-452.	Tylenchorhynchus martini近似種の形態を記載.
156	三枝敏郎・松本安生	1959	スイセンのクキセンチュウの寄生性と分類に関する1、2の知見.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 18.	講要
157	斎藤康夫・岡本弘	1959	小麦萎縮病 Virusに対する薬剤による土壤処理の影響並びに直接不活性化について.	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 56.	講要. D-D, EDBは発病抑制).
158	佐藤 清	1959	本県におけるネマトーダの種類と分布及びその防除法[1].	農業技術研究	13巻9: 35-37.	静岡県. ネコブ・シストセンチュウの寄主作物、被害.
159	佐藤 清	1959	本県におけるネマトーダの種類と分布及びその防除法[2].	農業技術研究	13巻10: 37-39.	静岡県. ネグサレセンチュウの被害. 土壤線虫の分布と被害、防除法、土壤消毒機.
160	関谷一郎・早河広美・呉羽好三・柳 武・山岸義男	1959	ダイズシストセンチュウの被害防除について.	長野県試験集報(長野県農業試験場研究集報)	2: 157-171.	窒素質肥料、堆肥、石灰窒素、殺線虫剤施用の効果.
161	重永知明	1959	ネコブセンチュウとその防除 I. ネコブセンチュウの生態と土壤燻蒸剤の性質について.	研農復刊	11(2) 465-471.	D-D, EDB, クロルピクリンの性質、土壤条件との関連.
162	重永知明	1959	ネコブセンチュウとその防除 II. 燻蒸剤を使った土壤消毒法の実験、および土壤消毒の経済効果.	研農復刊	11(3) 459-465.	D-D, EDB, ベーバム、クロルピクリン、臭化メチル.
163	重永知明	1959	ビートの病害虫について.	研農復刊	11(8) 699-703.	根瘤線虫、殺線虫剤20/10a処理.
164	篠原捨喜	1959	静岡県三保における温室の栽培と経営.	農及園(農業および園芸)	34(1) 288-292.	線虫を含む土壤伝染性病害虫の問題が大きい.
165	白浜賢一	1959	東京都における線虫の防除事例.	植物防疫	13(3) 127-130.	昭和7・8年から当時までの蔬菜の線虫害及び防除法. D-Dによる防除事例.
166	白浜賢一	1959	東京都における病害虫防除の問題点.	農業	6巻1: 54-56.	センチュウ防除がかなり実際に行われるようになってきた.
167	白浜賢一	1959	東京都下の線虫防除の実際.	農業技術研究	13巻6: 30-31.	D-D, EDBの使用例.
168	白浜賢一	1959	夏そ菜の露地定植前の土壤消毒.	農業	6巻2: 35-38.	クロルピクリン, EDB, D-D, 臭化メチル, DBCP, ベーバムの施用法.
169	白浜賢一	1959	土壤線虫: 東京都における被害と問題点.	都道府県展望	9: 18-22.	被害の歴史・分布・防除した場合の増収、防除上の問題点(経費並びに行政上の問題、技術上の問題).
170	白浜賢一	1959	秋ゴボウの播種前の土壤消毒.	今月の農業	3巻10: 59-63.	ネコブ、ネグサレセンチュウのD-D, EDB, クロルピクリン施用を含む.
171	白浜賢一	1959	甘藷作あとの土壤消毒.	今月の農業	3巻11: 25-28.	線虫防除方法.
172	末永 一	1959	九州における土壤害虫対策の問題.	農業	6巻1: 34-37.	主に線虫.
173	杉本達美	1959	福井県におけるサツマイモネコブセンチュウの被害実態について.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	7: 119-121.	現地調査、アンケート回答のとりまとめ.
174	杉本達美	1959	殺線虫剤の土性と薬害の関係について.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	7: 126-128.	EDB. 土性. 土壤分、処理時間との関係.
175	砂田喜与志	1959	大豆シストセンチュウに対する耐虫性育種の現状.	日育日作北該報(日本育種学会・日本作物学会北海道談話会報)	1: 21.	未見
176	高橋 信・畠山俊朗	1959	大豆「ゲデンシラズ1号」について.	東北農業研究	1: 73-75.	線虫抵抗性および品種育成上の問題点を指摘.
177	高野誠義・川田徳平・広原宗次	1959	ネコブセンチュウに対する新殺線虫剤の持続性について.	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	6: 61.	ネコブセンチュウのD-D, EDB, DBCPによる防除.
178	田村市太郎	1959	水稻の有害動物とその防除対策[1].	農及園(農業および園芸)	34(4) 655-658.	稲心枯線虫病: 苗の初期生育、病徴.
179	田村市太郎・気賀沢和男	1959	スイウセンチュウの生態に関する研究 第3報 苗代様式によるイネの害徴及び棲息密度の変動.	日生誌(日本生態学会誌)	9(1) 1-4.	保温折衷苗代育苗のイネに発病少ない. 寄生を受けても発病しない場合がある.
180	田村市太郎・気賀沢和男	1959	スイウセンチュウの生態に関する研究 第4報 栽培環境によるイネの害徴及び稲心枯密度の変動.	日生誌(日本生態学会誌)	9(2) 65-68.	湿土状態より湛水状態が発病多.
181	田村市太郎・気賀沢和男	1959	スイウセンチュウの生態に関する研究 第5報 罹病イネの生育並びに収量解析試験	日生誌(日本生態学会誌)	9(3) 120-121.	罹病した株は発芽勢、草丈低下. 20%(抵抗性品種)から60%(罹病性品種)の減収を予想.
182	田中一郎・櫻井清	1959	北海道におけるビートの病害虫.	農業	6巻4: 9-14.	キタネコブセンチュウを含む. 被害額4億2千万円と推定.
183	田中伊之助	1959	ロタン錯酸エステル類(REE-200、REM-200、REB-200)による稲心枯線虫罹病粉浸漬消毒試験.	九州農業研究	21: 152-153.	REE-200 (20%), 6000 倍24時間浸漬が効果あり.
184	田中伊之助	1959	ロタン錯酸エステル類による稲心枯線虫罹病粉浸漬消毒試験.	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 65.	講要
185	田中 勇	1959	ネマヒューム20Iによる線虫の駆除.	葉たばこ研究	18: 86-87.	効果使用方法.
186	田中 勇・岡野秋盛	1959	ネコブセンチュウと併発するタバコ腰折病、立枯病防除について.	日植病報(日本植物病理学会会報)	24(1) 67.	講要
187	田中 勇・岡野秋盛	1959	センチュウとほかの病害との関係. 1. 昭和39年度腰折病防除試験成績.	葉たばこ研究	18: 70-73.	D-D, EDB, クロルピクリン施用によって腰折病発病減少.
188	田中 勇・岡野秋盛	1959	ネコブセンチュウと併発するタバコ腰折病或は枯病防除について.	九州農業研究	21: 160-161.	D-D, EDB, クロルピクリン. ルベロン水和剤の効果の比較.
189	戸部敬哉・新井貞夫	1959	サンヒュームの土壤くん蒸における線虫最低致死量と土壤中のガス消長.	農及園(農業および園芸)	34(10) 1583-1583.	メチルプロマイド. 7.5kg/10a で90%以上死亡.
190	津軽承捷	1959	本県の土壤線虫: 昨年の発生分布と被害.	青森農業	10巻3: 29-30.	ネコブセンチュウの検出作物・同面積、ダイズシストセンチュウの分布.
191	津軽承捷	1959	果樹のセンチュウ.	農業	6巻2: 口絵および	キタネコブセンチュウによるリンゴの被害.
192	筒井喜代治	1959	土壤センチュウ類.	農業	6巻1: 口絵(2 Pls.)および解	サツマイモネコブセンチュウ(ニンジン、ゴボウ)、キタネコブセンチュウ(トマト)、ダイズシストセンチュウ(ダイズ)、ネグサレセンチュウ(ジャガイモ)

193	上田浩二	1959	北海道における土壌線虫のバイロット防除をみて.	植物防疫	13(8) 357-359.	ダイズシストセンチュウにD-D、EDB. 線虫密度と収量.
194	渡辺誠三	1959	蔬菜栽培と営農[1].	農及園(農業および園芸)	34(1) 94-96.	D-Dの使用.
195	渡辺誠三	1959	蔬菜栽培と営農[12].	農及園(農業および園芸)	34(12) 1913-	線虫は火山灰地帯や砂地に多い、D-Dで防除. 前作の作物に言及.
196	山田隆保・桂 瑠一	1959	麦根から発見される線虫 <i>Pratylenchus</i> sp. について(予報).	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭34: 18.	講要
197	山口福男	1959	ネグサレセンチュウの一種(<i>Pratylenchus</i> sp.)によるニンジン被害.	植物防疫	13(6) 257-259.	秋作に多い. 病徴. 寄主作物、D-D、EDB、DBCPによる防除とその効果.
198	山口福男	1959	センチュウ類.	農業	6巻3: 口絵および	ネグサレセンチュウによるニンジン被害. サツマイモネコブセンチュウによるイチジクの被害.
199	山崎肯哉	1959	蔬菜産地の生産力低下と改善の実例.	農及園(農業および園芸)	34(1) 225-228.	総説. 線虫のD-D、EDBによる防除に言及.
200	横尾多美男	1959	暖地における土壌線虫防除の問題点(上).	農芸西日本	8: 54-56.	未見
201	横尾多美男	1959	暖地における土壌線虫防除の問題点(下).	農芸西日本	9: 48-49.	未見
202	横尾多美男	1959	主要な農作物や果樹蔬菜類に寄生する線虫群.	佐賀大農業(佐賀大学農学要報)	8: 73-85.	文献をもとに作物の種類別に検出線虫をまとめる.
203	横尾多美男・阿部 恭洋	1959	サツマイモネコブセンチュウの生活史.	佐賀大農業(佐賀大学農学要報)	9: 107-121.	接種後日数と線虫の体長・体幅. 寄主を運えた場合の線虫の発育.
204	横尾多美男・阿部 恭洋・大坪和	1959	サツマイモネコブセンチュウの生態に関する2, 3の知見.	九州病虫研究会報(九州病虫研究会報)	5: 74.	講要
205	横尾多美男・阿部 恭洋・大坪和	1959	サツマイモネコブセンチュウの生態に関する2, 3の知見.	佐賀大農業(佐賀大学農学要報)	8: 1-9.	接種数とゴール指数の関係. 三要素施肥と罹病. 温湯処理により致死温度.
206	米林徳三	1959	ネマトーダによるキリの被害.	森林防疫ニュース	8(3) 45.	千葉県. 線虫未同定(ネコブセンチュウ?).
207	吉田正義	1959	土壌害虫に対する農業の室内試験法: 殺虫効果の判定と残効性.	農業	6巻2: 39-42.	Nemafume 20 (EDB) の残効性を含む. ハリガネムシ(コメツキムシ幼虫)を対象.
208	湯原 巖・浅井三男	1959	寄主作物の差異によるダイズシストセンチュウの増殖と被害.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	10: 114-116.	大豆, 小豆で増殖. 被害が大. 品種間差あり.
209	Anon. (編集部)	1959	殺線虫剤の最近の動向.	農業研究	5巻3: 76-80.	線虫防除事業計画とメーカーの動き.
210	Anon.	1959	殺センチュウ剤試験結果摘録(昭和36年度補防依託試験成績総合考察より).	北陸病虫研報(北陸病虫研究会報)	7: 125.	ネマヒューム, ネマセット, ネマゴン, ネマール, ソイル, VC-13, MN-400, REE-200.
211	Anon. (明大農学部)	1959	大豆萎黄病と施肥との関係試験.	明大農富士吉田農場特報(明治大学農学部付農場特別報告)	1: 6-7.	堆肥施用によって線虫害軽減.
212	Anon. (明大農学部)	1959	大豆萎黄病抵抗性の品種間差異に関する試験.	明大農富士吉田農場特報(明治大学農学部付農場特別報告)	1: 7-11.	11品種の比較.
213	Anon. (農林省植物防疫課)	1959	土壌線虫対策実施要綱.	農林省振興局	2 + 45 pp.	謄写. 線虫検診事業の実施要綱. 主旨及び目的. 実施方針. 畑作物害虫対策推進体制(県. 検診員. 防除員. 市町村畑作物害虫対策協議会). 検診(計画の立案. 実施). 防除指針. 計画. 指定地区等). 附図(被害程度基準図. 線虫の形態). 附録(作物の抵抗性品種. 土壌線虫の植物の寄生性. 主たる殺線虫剤の種類).
214	Anon. (名古屋営林局)	1959	ネマトーダによる苗木の被害.	森林防疫ニュース	8(3) 44-45.	サツマイモネコブセンチュウをヒノキまき付苗で発見.
215	Anon.	1959	土壌線虫の被害と対策.	長野県・長野県土壌線虫対策協議会	8 pp. 1 map.	土壌線虫の解説及び薬剤防除法. 発生面積.
216	Anon.	1959	線虫談話会の設立.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	3(4) 293.	昭和34年11月10, 11日
0		1960	昭和35年(1960)			
1	新船幸重郎	1960	埼玉県における土壌線虫の防除.	土壌改良	9巻3: 20-26.	線虫の分布. 防除実施状況. 防除方法. 防除器具の普及状況. 防除効果.
2	浅田三津男	1960	植物成分の殺線虫力について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 20.	講要
3	朝比奈英三	1960	「ガラス化」法及び予備凍結法による線虫の超低温での生存.	動雑(動物学雑誌)	69 (1/2) 49.	講要. キウハガレセンチュウの液体酸素中(-183°C)及び予備凍結段階での生存率.
4	家入 章	1960	土壌線虫の生態と防除(その1).	農研復刊	12(4) 104-107.	土壌線虫の解説.
5	家入 章	1960	土壌線虫の生態と防除(其の2).	農研復刊	12(9) 261-266.	ネコブ, ネグサレ, シストセンチュウの生態. 熊本県24市町村5087haの検診結果(昭和34年).
6	円城寺定男	1960	土壌線虫の経済的な防ぎ方.	農耕と園芸	15巻5: 34-35.	薬剤防除効果.
7	深野 弘・横山佐太正	1960	福線虫心枯病株の高位節からの異常分岐について.	福岡農試研究時報	16: 33-36.	No.60-8を参照.
8	深野 弘・横山佐太正	1960	福線虫心枯病株の高位節からの異常分岐について.	九州病虫研究会報(九州病虫研究会報)	6: 75-76.	窒素過多の場合に見られる. 心枯線虫は誘因の一.
9	深沢永光	1960	苺芽線虫の被害とその防除法.	農業技術研究	14巻6: 19-20.	症状. 病原線虫. 伝播. 防除法.
10	深沢永光	1960	土中の害敵を防ごう.	農業技術研究	14巻8: グラビア(4 Pls.)	土壌病害. 線虫.
11	深沢永光	1960	線虫の被害.	農業技術研究	14巻9: カラーグラビア(1 Pl.)および解	ピート, チャ, イチゴ, ダイズの線虫害.
12	深沢永光・小林 義明	1960	静岡県における根外部寄生線虫.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 17.	講要
13	後藤 昭・大島康臣	1960	ネグサレセンチュウに関する研究: 日本産数種の形態的群別と長崎県産馬鈴しょ寄生種の発育について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 16-17.	講要
14	後藤寛治・砂田 喜与志	1960	ダイズシストセンチュウに対する抵抗性育種.	育種(育種学雑誌)	10(4)267	講要
15	後藤和夫	1960	福心枯病病について.	今月の農業	4巻10: 36-40.	伝染経路. 減収率. 防除法(ホリドール).
16	後藤清衛・武田 理	1960	砂丘地に於ける桑の「ねこぶ線虫」被害実態について.	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東北支部研究発表会講演要旨)	14: 34-35.	講要
17	行徳直己	1960	ニカメイチュウの天敵について.	九州病虫研究会報(九州病虫研究会報)	6: 1-3.	ズイムシシセンチュウの寄生率 0.1%.
18	林 真守	1960	キタネコブセンチュウ及びサツマイモネコブセンチュウのdimension について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 17-18.	講要
19	平野和弥	1960	蛍光顕微鏡利用に関する考察[1]ネコブセンチュウ頭部の生死の判別をめぐって.	日植病報(日本植物病理学会報)	25(1) 51.	講要
20	広瀬健吉・伊藤 喜隆	1960	果樹の線虫と防除.	園芸信州	13巻10: 18.	未見
21	広瀬健吉・伊藤 喜隆	1960	ネコブセンチュウのリンゴ樹におけるSamplingの位置について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 18-19.	講要
22	細辻豊二・横山 昭一	1960	土壌処理剤に関する研究 第3報 D-D, EDBの特異性について.	日植病報(日本植物病理学会報)	25(1) 58-59.	講要
23	堀 正侃	1960	新しい年への期待.	農業	7巻1: 3-4.	土壌線虫対策について: 「土壌線虫の防除によって.....その土地における作物の選択の自由を確保し. 新しい作付体系を打ち立てることが目的」
24	堀 正侃・石倉秀次・遠藤武雄・国井喜章・白浜賢一・円城寺定男・遠藤和衛・一戸 稔・海野景正	1960	[座談会]土壌線虫防除はいかになされたか.	農業	7巻1: 6-34.	全国各地の線虫被害の現状および防除の実施状況.
25	市原伊助・高橋 芳雄	1960	落花生の連作とネマトーダの被害について第3報.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 72.	ネコブセンチュウ. 連輪作と線虫密度変化.
26	市川久雄	1960	薬用人参の播種及定植時の病害虫防除.	今月の農業	4巻5: 105-108.	ネコブセンチュウの害を含む.
27	一戸 稔	1960	害虫の生態型をめぐる諸問題 7. 線虫における問題. .	応動昆虫シンポジウム・討論要旨(日本応用動物昆虫学会シンポジウム講演・討論要旨)	4回: 19-22	講要. 応動昆虫大会講要 昭35: 34にも講要.
28	一戸 稔	1960	米国における土壌線虫の問題.	農業	7巻1: 53-57.	研究の概観. 線虫の発生状況. 線虫薬剤の問題.

29	一戸 稔	1960	線虫の形態と分類の基礎。 In: 線虫研究指針。	農林省振興局研究部	p. 1-15.	「目または上科の検索表」を含む。
30	一戸 稔	1960	線虫と天敵。	植物防疫	14(11) 501-502	胞子虫、捕食性線虫、捕食性糸状菌、細菌等の解説。
31	一戸 稔	1960	外寄生の線虫とは。	農業	7巻4: 42-45.	代表的な属を解説。
32	一戸 稔	1960	線虫実験用の“シラキウスの時計皿”。	植物防疫	14(6)260.	国産化
33	一戸 稔・武田和子・中園和年	1960	本邦重要植物寄生性線虫の調査。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 19.	講要
34	飯島 鼎	1960	ネグサレ線虫。	今月の農業	4巻4: 13-16.	寄主作物、被害、ゴボウのロチレンクス(=ロチレンクス)。
35	飯島 鼎	1960	防除六年の歩み: 線虫。	今月の農業	4巻5: 35-38.	D-D, EDB剤の国産化。
36	飯島 鼎・一戸 稔・国井喜章・白坂繁	1960	土壤線虫読本。	ナマヒューム普及会、東京	4+88 pp., 8pls.	線虫の分類、生態、防除等についての解説。改訂版 No.63-41.
37	福垣春郎・湯原 隆	1960	Pratylenchus sp.とアマ(亜麻)の生育不良について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 9.	ネグサレセンチュウの寄主植物とハッカへのD-D剤施用。
38	福垣春郎・湯原 隆	1960	アマの生育不良とPratylenchus sp.	日植病報(日本植物病理学会報)	25(1) 62.	講要
39	福垣春郎・湯原 隆	1960	ハッカの腐敗地下茎から検出された線虫について。	日植病報(日本植物病理学会報)	25(5) 233.	講要。ピンセンチュウ多。
40	井上 寿	1960	キタネコブセンチュウによる作物の被害。	北農	27巻11: 10-20.	大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甘菜、亜麻、蕎麦、赤クローバにおける被害。
41	井上 寿・谷口善弘	1960	ダイズシストセンチュウに関する調査 第11報 菜豆の収量に及ぼす品種間差異	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 97.	10品種の4年連作試験。
42	井上 隆	1960	Studies on the life-history of Chordodes japonensis, a species of Gordiacea. II. On the manner of entry into the aquatic insect-larvae of Chordodes larvae.	Annot. Zool. Japon. (Annotiones Zoologie Japonenses)	33(2) 132-141.	経皮的ではなく、寄主の摂食により体内侵入。昆虫の種類により異なる型のenvelopeを作る。
43	井上 隆	1960	Studeis on the ecology of the larvae of the hairworm, Chordodes japonensis.	東京学芸大研報(東京学芸大学研究報告)	11. 物理・化学・生物学・地学・数学: 21-25.	孵化条件、孵化幼虫の乾燥耐性。
44	井上忠彦	1960	A.C.C.18133の殺線虫性について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 28.	講要。浸透移行性の有機燐剤。
45	石橋信義・気賀沢和男	1960	Mギシストセンチュウの寄生試験。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 71.	エンバクではコムギ、オオムギよりも寄生度が低い。
46	石橋信義・気賀沢和男・国井喜章	1960	Studies on hatching of the root-knot nematode, Meloidogyne incognita var. acrita Chitwood. I. The relation between hatching and the original egg content of egg mass.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	4(4) 249-255.	卵囊の産卵数が少なくなるにしたがい幼虫の孵化遊出率は高まる傾向。
47	石橋信義・気賀沢和男・国井喜章	1960	ネコブセンチュウの孵化に関する研究 その1 孵化能力について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 19.	講要
48	石橋信義・国井喜章・一戸 稔(訳)	1960	土壤燻蒸の理論。	農林省振興局植物防疫課	87 pp.	基本原理、数学的研究、害虫に対する基礎毒性、施用条件ならびに環境条件、燻蒸剤の物理化学的性質、土壌とその環境要因、結論、文献。原著未詳(Goring, C. A. I.(1957) Factors influencing diffusion and nematode control by soil fumigants. The Dow Chemical Company ACD. Inform. Bull. No. 110か)。
49	石田 一郎	1960	昭和34年産を顧みて。福岡地方局。	葉たばこ研究	21: 26-30.	線虫の被害面積、減収量、被害金額を含む。
50	石井五郎・江森京・植田幸夫	1960	桑のネコブセンチュウについて(2)新梢挿木根に見られたネコブセンチュウ。	蚕糸研究	33: 48-56.	アレナリアネコブセンチュウ、挿木時期とネコブセンチュウの寄生、異常根瘤の大きさや寄生虫数。
51	石井五郎・江森京・植田幸夫	1960	桑のネコブセンチュウについて(4)寄生と各種殺線虫剤の薬害。	蚕糸研究	35: 35-41.	越冬形態(卵、幼虫)、寄主目録(アレナリアネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウ)、DBCP、D-D、EDB剤施用。第3報は・60-162を参照。
52	石倉秀次	1960	アメリカの線虫のぞきあるき。	植物防疫	14(10) 449-451.	研究体制と研究の動向。殺線虫剤の研究とその使用他。
53	伊藤喜隆・広瀬健吉	1960	蔬菜畑の天地返しによるネコブセンチュウの増殖とその後の推移及び作物の被害相	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 65.	ナス、ニンジン、ゴボウ。
54	伊藤喜隆・広瀬健吉	1960	Perineal pattern分類による長野県のネコブセンチュウの種類と寄生性。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 18.	講要
55	伊藤喜隆・広瀬健吉	1960	Perineal pattern分類による長野県のネコブセンチュウの種類と寄生性。	長野県試験場報告	2: 45-50, 2 pls.	サツマイモネコブ、ジャワネコブ、アレナリアネコブ、キタネコブ、M. sp.(リンゴネコブ)を記録。種類別に寄主および寄生程度の表。植物防疫 14(12) 550, 1960に抄録。
56	糸賀賢人・馬場口勝男・堀切正弥	1960	鹿児島県における甜菜害虫の種類について(殺線虫剤)。	九州病虫研報(九州病虫研究会報)	6: 35-36.	サツマイモネコブセンチュウの被害大。
57	弥富喜三	1960	殺線虫剤。	有機化学合成協会誌	18(8) 543-549.	殺線虫剤の物理化学的性質をまとめる。
58	弥富喜三	1960	柑橘のネマトーダと防除。	果実日本	15巻1: 59-61.	ミカンネコブセンチュウ、ミカンネモグリセンチュウの解説。
59	弥富喜三	1960	ネマトーダとその防ぎ方(農民叢書 第109号)。	農業技術協会、東京	69 pp.	防除法を主とした普及書。
60	和泉清久	1960	土壤線虫剤の効果と地温。	今月の農業	4巻4: 55-57.	D-D, EDB剤の施用効果。
61	和泉清久・竹沢秀夫・近岡一郎	1960	殺線虫剤の効果と地温との関係について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 78.	D-D剤は低温でも効果、EDB剤の効果は劣る。
62	鎌木豪夫	1960	機械化で進む畑作農業: 農業機械の現状と問題点を衝く。	畑地かんがい	34: 6-10.	ネマトーダ防除用の機械実用化の域。
63	梯 剛	1960	ネマヒューム30(EDB)の土壌拡散について。	農業生産技術	6: 29-32.	拡散量・濃度の経時変化、温度との関係。
64	苅谷正次郎	1960	サツマイモネコブセンチュウに対するD-D及びEDBの持続効果。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 28.	講要
65	苅谷正次郎	1960	殺線虫剤の有効年限。	今月の農業	4巻7: 98-102.	施用効果の持続期間。
66	加藤 治	1960	早期畑苗育苗に於ける土壌消毒の効果。	農及園(農業および園芸)	35(1) 59-60.	線虫記述なし。ペーバム、クロルピクリン、D-D剤を施用。
67	加藤 治	1960	室内育苗器による畑苗育苗における土壌消毒の効果。	農及園(農業および園芸)	35(5) 863-864.	水稲苗、クロルピクリン、ペーバム、D-D剤を施用。線虫記述なし。
68	勝元久衛・川瀬英徳	1960	ネコブセンチュウに対する殺線虫剤の効果について。(第2報)。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会年報)	8: 120-122.	ホウレンソウ、ニンジンにD-D、EDB、DBCP剤。
69	桂 琦一	1960	土壌伝染性病害の発生に対する線虫と病原体との関係。	日植病報(日本植物病理学会報)	25(2) 116-117.	土壌伝染病に関するシンポジウム講要。菌類、ウイルス病と線虫の関係を概説。
70	川越 仁・後藤重喜	1960	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(4)大豆の被害様相と被害査定。	九州農業研究	22: 113-114.	ミナミネグサレセンチュウ密度と寄生度・生育・収量の間に密接な関係。重量及び・重ともに3~4割の減少。
71	川越 仁・後藤重喜	1960	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(4)大豆の被害様相と被害査定。	日植病報(日本植物病理学会報)	25(1) 69.	講要
72	川越 仁・後藤重喜	1960	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(5)陸稲の被害様相と被害査定。	九州農業研究	22: 114-115.	最大4割前後の減収。
73	河村貞之助	1960	線虫寄生作物の被害徴候。 In: 線虫研究指針。	農林省振興局研究部	p. 37-45.	線虫の種類別の症状、特徴、見分け方。
74	河村貞之助	1960	線虫病害混合被害の研究法。 In: 線虫研究指針。	農林省振興局研究部	p. 103-106.	病気の種類及び接種試験法。
75	河村貞之助・平野和弥・渋谷正	1960	大和羊におけるネコブセンチュウの病理学的解剖所見並びに生育と被害について。	日植病報(日本植物病理学会報)	25(1) 22.	講要
76	河村貞之助・弥富喜三	1960	薬剤試験法。 In: 線虫研究指針。	農林省振興局研究部	p. 89-102.	室内及び圃場試験法。in vitroでの線虫培養法。
77	河村貞之助・米山伸吾	1960	水和剤・乳剤・液剤・粉剤形態 Nematicideの土壌中透過の様相について。	千葉大学学報(千葉大学園芸学部学術報告)	7: 15-26.	EDB、DBCP、ペーバム等。
78	河村貞之助・米山伸吾	1960	殺線虫力・溶線虫力および殺菌力を有する細菌群について。	千葉大学学報(千葉大学園芸学部学術報告)	8: 13-23.	鶏糞・米糠・川砂・火山灰土・堆肥中から分離した細菌・糸状菌の線虫に対する影響。
79	河村貞之助・米山伸吾	1960	土壌透過によるVapamの変化について、特に殺線虫力、殺菌力を通じて。	日植病報(日本植物病理学会報)	25(1) 45-46.	講要
80	川島嘉内	1960	ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の効果並びに他の害虫の被害におよぼす影響。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 144-145.	D-D, EDB, DBCP剤が有効。
81	川島嘉内・遠藤正	1960	ネマゴンの加用化成肥料によるネコブセンチュウの防除効果。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 146-148.	キュウリ、トマトで効果。
82	川島嘉内・徳永友二・堀 皇二	1960	コンニャクにおけるネコブセンチュウの被害と腐敗病発生との関係について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 10-11.	線虫寄生程度が高いほど発病多。接種時期、防除時期と発病の関係を試験。D-D, EDB, DBCP剤の効果を含む。
83	川島嘉内・矢口直夫	1960	殺線虫剤の畦間処理によるネコブセンチュウの防除効果について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 146.	DBCP, EDBをニンジン、ダイコンの生育中に処理。薬害を認めず。

84	気賀沢和男・石橋信義・国井喜章	1960	ネコブセンチュウの孵化に関する研究 第2報 孵化の変動について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 19.	講要
85	岸 国平	1960	土壌の殺菌剤、殺虫剤の使い方。	農業技術研究	14巻7: 6-	殺線虫剤を含む。
86	小林 尚	1960	水田の天敵、とくにニカメイチュウおよびウナカ類の天敵	植物防疫	14(11) 497-500.	ズイムシシセンチュウ、ウナカシセンチュウの寄生率を安松(1958)、今村(1932)から引用
87	小宮善之助・工藤 馨	1960	大豆萎黄病防除に関する研究 1. D-Dによる薬剤防除試験。	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	10: 22-24.	50%の増収。
88	小森 昇	1960	福線虫心枯病保虫剤のFolidor 処理による一考察	日植病報(日本植物病理学会会報)	25(1) 9.	講要。寄生能力低下。完全防除は困難
89	小森 昇・高野誠義	1960	福線虫心枯病に関する試験 第3報 ホリドール乳剤による防除効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 64.	出穂期の散布効果顕著。ディブレックスの効果は劣る。
90	高野光之丞・石川元一	1960	ネコブセンチュウに対する殺線虫剤の効果について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 69.	ヤマトイモに対するD-D処理効果2年間持続。
91	高野光之丞・石川元一	1960	ゴボウのセンチュウ防除について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 73.	ゴボウの「ヤケ」圃場からRotylenchulusを多数発見。D-D、EDB、DBCP剤は「ヤケ」に効果なし。
92	小菅喜久弥	1960	コンニャクいも内におけるネコブセンチュウの越冬について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 66.	各虫態で越冬。植付期(5月)までにいも内で一代経過。
93	小菅喜久弥	1960	コンニャクいも内のネコブセンチュウに対する温湯消毒の効果。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 68.	50℃15分以上の処理が効果あり。
94	熊沢隆義	1960	畑輪作と虫害。	農業改良	9: 48-52.	線虫防除による5作物の増収率を含む。線虫4種を解研究史、土壌線虫の種類と分布、防除等。
95	国井喜章	1960	土壌線虫の諸問題。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	8: 1-2.	
96	国井喜章	1960	殺線虫剤注入後の鎮圧。	今月の農業	4巻4: 27-30.	水封、鎮圧、ガス抜き。
97	国井喜章	1960	秋の土壌線虫の対策。	今月の農業	4巻11: 89-92.	低温時の殺線虫剤の施用方法等。
98	国井喜章・気賀沢和男・石橋信義	1960	卵のうに対する根部拡散物質の孵化作用について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 19-20.	講要
99	国井喜章・気賀沢和男・石橋信義	1960	線虫の採集・分離。In: 線虫研究指針。	農林省振興局研究部	p. 47-57.	材料の採集と保存、土壌からの線虫の分離、植物組織中よりの線虫の分離等。
100	国井喜章他	1960	共立トレーラ形土壌消毒機と手動土壌消毒機の効力比較試験	共立農機報告	34: 1-3.	未見
101	蔵納久男	1960	柑橘のネマトーダとカイガラムシ。	農業技術研究	14巻10: 18-19.	ミカンセンチュウを含む。
102	蔵納久男	1960	柑橘根線虫に関する研究。	静岡柑橘試験報(静岡県カンキツ試験場報告)	昭34: 54-56.	密度調査法、県内分布。
103	蔵納久男	1960	煮沸法による柑橘根線虫の雌成虫の分離について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 18.	講要
104	奥羽好三・山岸義男・関谷一郎	1960	ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の効果。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 28.	講要
105	黒崎正美	1960	畑作農園の実験[4月]。	農及園(農業および園芸)	35(4) 735-738.	「輪作の合理性を考えた作付」の中で線虫に言及。
106	黒崎正美	1960	畑作農園の実験[12月]。	農及園(農業および園芸)	35(12) 2007-	ネコブセンチュウ、シストセンチュウの寄主作物、抵抗性品種(カンショ、大豆)、薬剤以外による防除法を総論。
107	Loof, P. A. A.	1960	Taxonomic studies on the genus Pratylenchus (Nematoda).	T. Plziekt. (Tijdschrift over Plantenziekten)	66: 29-90.	長崎産のバレイシヨから検出され、P. pratensis と呼ばれていた線虫(No.56-87を参照)を、P. coffeaeとする。
108	前田達雄	1960	トマトにおけるサツマイモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝について。	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	16: 32-37.	略号。N.R.V.、Anahu、菓原の交配試験結果の解析。
109	前原 宏	1960	南九州におけるネコブセンチュウについて。	九病虫研会報(九州病虫研究会会報)	6: 105-106.	講要。ジャワ、アレナリア、サツマイモ、キタネコブセンチュウの分布、寄主作物
110	牧 良忠・山下優勝	1960	兵庫県における都市近郊果樹イテジクの土壌線虫に関する防除試験成績 第1報 サツマイモネコブセンチュウに対する薬剤処理の初年目効果。	兵庫農試	1+9 pp., 1 pl.	寄生程度、被害、DBCP剤処理(驚異的増収)。
111	牧 良忠・山下優勝	1960	イテジクの根腐線虫の発生被害と防除効果。	農及園(農業および園芸)	35(10) 1625-	寄生程度、被害、防除(DBCP剤)及びその効果。
112	増田道雄・土橋貞夫・国井喜章	1960	線虫分離方法の検討。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 77.	砂壌土の線虫をベルマン法とふるい分け法で比較
113	増田安彦	1960	静岡県における病害虫防除の問題点。	農業	7巻2: 48-50.	土壌線虫対策を含む。「ハイロット防除の結果、線虫防除に対する関心が非常に高まり。」
114	増田安弘	1960	蔬菜の生理に及ぼすネマトーダの影響[第1報] 土壌環境とネマトーダの寄生との関係について。	農及園(農業および園芸)	35(9) 1505-1506.	寄生と土壌湿度、土壌深度との関係。
115	増田安弘	1960	土壌環境とネマトーダの寄生との関係について。	園芸学会大会要旨(園芸学会大会講演要旨)	昭35春: 28	講要
116	松野忠男・吉沢中夫・関谷一郎・奥羽好三	1960	山牛蒡に対する殺線虫剤の効果について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 74.	ネコブセンチュウ。D-D、DBCP剤効果あり。
117	三田保正	1960	豆類主産地の形勢と栽培技術の変遷(上)。	北海道農業研究	17: 26-52.	明治40年以降地力減耗と病害虫(萎黄病他)の被害著しくなる。
118	三浦 脩	1960	ネコブセンチュウの発生と白菜の播種期との関係。	農及園(農業および園芸)	35(2) 395-396.	「播種期を遅延することにより被害を軽減し得る」
119	三浦 脩・喜田和男	1960	大阪府下に発生する甘藷ネグサレセンチュウ病について。	大阪農試創立40周年記念報	p. 216-220.	Aphelenchus avenae。形態、生態(寄生性、生活史)、防除(D-D、EDB、DBCP剤、ペーバム)。植物防疫15(6)272-273. 1961に抄録。
120	宮本雄一	1960	植物ウイルス病の土壌伝播。	植物防疫	14(3) 103-107.	総説。線虫伝播にふれる。
121	宮本雄一	1960	植物ウイルス病の土壌伝播に関する諸問題。	農及園(農業および園芸)	35(6) 943-948.	線虫伝播の研究の現状を含む。
122	森川 修	1960	サツマイモネコブセンチュウの走化性。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 20.	講要
123	森津孫四郎・浜崎昭三郎	1960	福岡県若松市の線虫に関する調査。	山口大農学報(山口大学農学部学術報告)	11: 145-150, pl. 8-11.	ネコブセンチュウと寄主植物。福岡県若松市畑地土壌総合調査報告書。
124	本橋精一・阿久津喜作・河合省三・永沢 実・堀江典昭・新井 茂	1960	東京都における土壌線虫の検診結果。	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	16: 72-78.	略号。ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウの検出状況。
125	本橋精一・永沢 実・阿久津喜作・河合省三・新井 茂	1960	共立土壌消毒機に関する試験。	共立農機報告	34: 4-6.	未見
126	村上計広	1960	桑のネコブセンチュウの防除について。	日蚕関西講要(日本蚕糸学会関西支部合同研究発表会講演要旨)	22: 29.	講要
127	村上計広	1960	桑のネコブセンチュウの防除について(II)。	日蚕関西講要(日本蚕糸学会関西支部合同研究発表会講演要旨)	22: 29.	講要
128	永沢 実・阿久津喜作・河合省三・新井 茂・本橋精一	1960	動力土壌消毒機による線虫の防除。	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	16: 79-83.	略号。D-D、EDBで薬量の出方に差。
129	永沢 実・阿久津喜作・河合省三・新井 茂・本橋精一	1960	動力土壌消毒機による線虫の防除。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 75.	D-DがEDBよりも薬量の出方が少ない。
130	中島三夫	1960	根腐線虫による暖地甜菜の一つの病徴と線虫の生態。	農及園(農業および園芸)	35(8) 1329-	被害と生活史。
131	中園和年・一戸稔・武田和子	1960	Rotylenchulus 属線虫によるゴボウの被害。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 17.	講要
132	新開一郎・佐藤隆・大沼 彪・板垣善之助	1960	大豆ネマトーダに関する研究: 抵抗性品種及び薬剤防除について。	東北農業研究	2: 101-102.	D-D、石灰窒素、ホリドール剤等による防除。大豆品種の収量試験。
133	西原夏樹	1960	クローバーの病徴とその見分け方: 干葉果における調査から。	農業技術	15(10) 446-450.	被害大の病徴の一としてキタネコブ、サツマイモネコブセンチュウをあげる。
134	西沢 務	1960	赤外線吸収スペクトルによる線虫同定の試み。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 18.	講要
135	西沢 務	1960	線虫の顕微技術。In: 線虫研究指針。	農林省振興局研究部	p.59-71.	プレバート作製法、植物組織中の線虫の染色法、検鏡法。

136	野中福次	1960	線虫心枯病罹病株に対するジベレリン処理の影響	日植病報(日本植物病理学会報)	25(5) 225.	講要、異常分葉発生。
137	能勢和夫	1960	新しい農薬の性質と使い方[3].	農及園(農業および園芸)	36(6) 951-954.	殺線虫剤(D-D、EDB、DBCP、ペーバム)の物理性、対象害虫を含む。
138	落合盛吉・栗原毅・大野勝法	1960	Meloidogyne sp. の初期発生.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 19.	講要
139	織田真吾	1960	イネシガラセンチュウの罹病における増殖様相判定について.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	8: 118-120.	生育段階の違う罹病に接種。草丈、茎数、初内虫数を調査。
140	岡 英人	1960	ヒユススの特性とその耕作法.	農及園(農業および園芸)	23: 5-12.	線虫病に中程度の抵抗性
141	岡田正順	1960	菊の栽培[4].	農及園(農業および園芸)	35(4) 747-750.	ハガレセンチュウの伝播、防除(ホリドール、マラソン、D-D、EDB)を含む。
142	岡田正順	1960	菊の栽培[8].	農及園(農業および園芸)	35(8) 1373-	ハガレセンチュウによる病徴、防除を含む。
143	岡田富信	1960	線虫の被害とその防除法.	農及園(農業および園芸)	35(9) 1475-	オカボシトセンチュウの被害、寄主植物、抵抗性品種、土壌水分・施肥と線虫寄生の関係
144	岡田富信	1960	水田中でネマトーダは死滅するか.	農及園(農業および園芸)	35(11) 1824.	ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウ.
145	岡田富信	1960	土壌線虫防除後の施肥量の減らしかた.	農及園(農業および園芸)	35(12) 1983.	線虫の作物生理に対する影響、殺線虫剤の施用効果にも言及
146	大和田健治	1960	昭和34年産を顧みて、水戸地方局	葉たばこ研究	21: 15-19.	線虫の被害面積を含む。
147	小沢 博・戸部敬哉・陶山尚山	1960	メチルクロマイドによる土壌線虫試験(第4報): 6. 土壌中のガス消費の消長について. 7. 線虫に対する最低有効致死量の検定.	神奈川農試園芸分場研報(神奈川農試園芸分場研究報)	8: 65-70.	薬剤の注入点からの距離とガス濃度、土壌中のガスの消費。処理5時間後において土壌中濃度が0.12%以上で線虫に効果
148	三枝敏郎	1960	線虫による畑作物の病徴とその防除. II. 線虫の防除法、とくにネコブ線虫について.	農及園(農業および園芸)	35(2) 371-374.	輪作、抵抗性品種、種苗の湯湯処理、薬剤施用。
149	三枝敏郎	1960	線虫による被害の見分け方と防除.	農業技術研究	14巻9: 33-37.	ネコブ、シスト、ネグサレセンチュウの被害の特徴。
150	三枝敏郎・松原芳久・松本安生	1960	わが国輸入植物検疫における発見有害線虫について.	植物防疫	14(7) 309-312.	昭和33年1月から昭和34年12月の発見線虫。
151	三枝敏郎・松本安生	1960	本邦未記録線虫Rotylenchulus reniformisとその分布について.	日植病報(日本植物病理学会報)	25(1) 41.	講要。長崎、奈良、静岡、長野、千葉の各県から。
152	桜井 清・湯原 敏・福田春郎・浅井三男・井上 寿	1960	ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の防除効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	11: 6-8.	D-D、EDB剤は有効
153	桜井 清・湯原 敏・福田春郎・浅井三男	1960	リンゴのネコブセンチュウに対する殺線虫剤の防除効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	11: 148-149.	生態調査とD-D、EDB、DBCP剤施用試験。
154	鮫島徳造	1960	大豆の主なる害虫とその防除.	農及園(農業および園芸)	35(5) 807-810.	九州の害虫。ネグサレセンチュウの重要性を強調。
155	佐藤昭美・大森秀雄	1960	昭和34年度岩手県における土壌線虫の検出結果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	11: 5-6.	キタネコブ、ダイズシスト、ネグサレ、ピン、ラセンセンチュウを検出。
156	佐藤末男	1960	土壌検定と線虫防除の手引き.	富士平工業株式会社、東京	138 pp.	線虫関係 p. 112-136.
157	重永知明	1960	春蔬菜の病害虫防除のネライ。特に果菜類について.	研農復刊	12(3) 75-81.	ネコブセンチュウ: 3~4年イネ科作物を作る。苗床、本圃のクロロピクリン、ペーバムによる消毒。
158	重永知明・家入 肇	1960	人参ネコブセンチュウに対するVC-13およびネマト剤の効果について.	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	6: 43-45.	後者は播種直前処理で薬害。
159	島内満男	1960	北海道における畑作物の寒害とその改善.	農業改良	9: 83-93.	豆類のネマトーダを含む。
160	下川三男・牛山 敏司	1960	ネグサレセンチュウ(Pratylenchus sp.)の一種によるイチゴの黒色根腐について.	神奈川農試園芸分場研報(神奈川農試園芸分場研究報)	8: 54-59.	線虫が侵入加害し、被害部に病原菌が二次的に感染。薬剤防除を含む。
161	下村休三郎・大内義久	1960	種子島における主要害虫の種類と発生期について.	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	6: 36-39.	甜菜にサツマイモネコブセンチュウ。
162	塩川晴寿・石川五郎・桑名寿一	1960	桑のネコブセンチュウについて(3) 桑園における薬剤防除.	蚕糸研究	34: 23-35.	DBCP剤施用。
163	白浜賢一	1960	質疑応答.	植物防疫	14(1) 32.	殺線虫剤による低温時の土壌消毒
164	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(2月).	植物防疫	14(2) 83-85.	ネコブセンチュウ対策としてD-D、EDB、メチルプロマイドによる果菜類ハウス内の土壌消毒を含む。
165	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(3月).	植物防疫	14(3) 131-136.	春蔬菜、甘藍、茶、コンニャク、薬用人参の線虫防除を含む。
166	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(4月).	植物防疫	14(4) 169-176.	初の温湯冷水浸法による線虫心枯病予防を含む。
167	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(5月).	植物防疫	14(5) 221-230.	ダイズシストセンチュウ防除を含む。
168	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(6月).	植物防疫	14(6) 269-276.	夏菊のハセンチュウ防除(ホリドール、サッセン散布)を含む。
169	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(7月).	植物防疫	14(7) 315-321.	コガブ、白菜、大根のネコブセンチュウ防除を含む。
170	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(8月).	植物防疫	14(8) 363-369.	大根、白菜、甘藍、果菜類の苗床のネコブセンチュウ; 秋菊のハセンチュウ防除を含む。
171	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(9月).	植物防疫	14(9) 409-413.	イネシガラセンチュウ、ゴボウ・早熟エンドウのネコブセンチュウ、菊のハガレセンチュウ防除を含む。
172	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(10月).	植物防疫	14(10) 455-457.	ニンジン・ゴボウのネコブセンチュウ、イチゴのメセンチュウ防除を含む。
173	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(11月).	植物防疫	14(11) 506-508.	甘藷跡地のネコブ、ネグサレセンチュウ、桑のネコブセンチュウ対策を含む。
174	白浜賢一	1960	今月の病害虫防除メモ(12月).	植物防疫	14(12) 551-553.	果菜類ハウス内の土壌消毒(ネコブセンチュウ対策)を含む。
175	杉 頼夫・後藤和夫・甲田知則・井上 平	1960	最近におけるてん菜試験研究の展望。昭和34年度てん菜試験成績から I. 北海道・東北・東山編.	農業技術	15(7) 297-301.	DBCP、D-D剤のいずれも薬害なし。防除時期は間引き時がよい。
176	杉 頼夫・後藤和夫・川田則雄・井上 平	1960	最近におけるてん菜試験研究の展望。昭和34年度てん菜試験成績から II. 西南暖地編.	農業技術	15(8) 337-343.	ネコブセンチュウにふれる。DBCP剤以外は薬害ほとんどなし。
177	鈴木当治・深沢 永光	1960	イチゴメセンチュウ(芽線虫)の産地被害、花芽加害、種類、伝播について.	園芸学会大会要旨(園芸学会大会講演要旨)	昭35春期:	講要。未見。
178	田部 真	1960	土壌病害防除に関する研究 I. 栽培植物の種類が、土壌センチュウ類、細菌類及び菌類の周年消長に及ぼす影響について(予稿).	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	8: 98-100.	三者の相互関係は不明。
179	高木信一・近藤 鶴彦	1960	線虫の生態調査法. In: 線虫研究指針.	農林省振興局研究部	p. 73-88.	圃場サンプリング法、計数法、被害の表示法、寄主調査法、線虫の飼育法、抵抗性検定法。
180	高野十吾	1960	こんにやく腐敗病と線虫.	今月の農業	4巻5: 59-62.	症状、防除法、線虫との関係
181	高野誠義・川田 惣平・谷 芳明	1960	コンニャクのネコブセンチュウと腐敗病との相互関係について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会会報)	7: 67.	両者に密接な相互関係を推測。
182	高野誠義・織田 一夫	1960	殺線虫剤の各種作物に対する薬害試験 I. 小麦の低温処理(中間報告).	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 28.	講要
183	竹腰昭夫	1960	線虫と林業用苗木の育成.	農業たより(東亜農業)	7巻: 5-6.	愛知県林業苗木苗圃のマツ、ヒノキ、スギのネグサレセンチュウ被害の例の紹介。
184	竹腰忠雄	1960	暖地におけるセロリ栽培.	農及園(農業および園芸)	35(5) 833-837.	EDB剤によるネコブセンチュウ防除を含む。
185	田村 茂	1960	暖地における手持甘藍の作りかた.	農及園(農業および園芸)	35(7) 1147-	「線虫のいる土地は予めネマヒューム等で消毒しておく」
186	田中一郎・桜井 清他14名	1960	線虫類の分布並びに防除に関する討論会要旨.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	11: 11-15.	東北・北海道における発生実態、防除、土壌病害との関係について討議
187	田中 勇	1960	移植後の土壌線虫の防除.	葉たばこ研究	23: 94.	施肥、DBCP剤の薬害にふれる。
188	田中 勇	1960	ネコブセンチュウの宿主による試験管培養について.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 19.	講要
189	田原虎次他	1960	土壌薬剤注入機に関する基礎的研究: 薬剤の土中移動に関する試験.	共立農機報告	36: 1-19	未見
190	友永 富・杉本達美	1960	球根類のネダニに対する殺線虫剤ネマゴンの応用.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	8: 116-118.	ラッキョに薬害。
191	塚田益夫・富入 芳明・泉羽好三	1960	ニンジンのネコブセンチュウに対する殺線虫剤の用法について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会会報)	7: 70.	播種処理より全面処理がよい。EDB 20% / 10 a、DBCP(乳剤) 10%、D-D 20%処理の順に高い効果。
192	上田浩二	1960	昭和35年度の土壌線虫対策.	農業	7巻3: 6-	農林省の事業の解説。
193	梅田兼弘・山口 国男・小川正和	1960	土壌中のDBCP剤の微量定量法について.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 20.	講要
194	魚谷和彦	1960	人尿中に見出された尾久杆線虫の研究(1) 培養条件の検討.	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	9(3) 322-327.	Rhabditis sp.: 水と少量の薬用酵母を加えた培養法が好適。
195	魚谷和彦	1960	人尿中に見出された尾久杆線虫の研究(2) 生物学的性状について.	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	9(3) 328-335.	温度と発育、生存(醤油、食塩水、酢、塩酸、胃液、尿)。
196	魚谷和彦	1960	人尿中に見出された尾久杆線虫の研究(3) 実験動物に対する感染実験.	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	9(3) 336-338.	マウスに経口的に摂取させると消化器、体腔から検出。体腔に注射すると消化器から検出。イヌには感染

197	魚谷和彦	1960	人尿に見出された尾久根線虫の研究(4) 各種薬剤により殺虫試験	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	9(3) 339-343.	駆虫剤に対する反応.
198	齋藤貞夫・中川原 孝・豊川菊祐・小山内 清・赤平篤郎	1960	青森県における土壤線虫の発生実態と今後の問題点.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 3-5.	ダイズシスト、キタネコブセンチュウ.
199	渡辺文吉郎	1960	畑輪作と病害	農業改良	9: 44-48.	線虫を含む.
200	渡辺誠三	1960	蔬菜栽培と営農.	農及園(農業および園芸)	35(10) 1687-	ピーマンの線虫防除にふれる.
201	渡辺敬夫	1960	畑輪作と地力.	農業改良	9: 53-62	土壤肥料学から見た畑輪作. 陸稲、ダイズ、コボウの連作障害の原因は線虫とする.
202	渡辺敬夫・安尾正元	1960	陸稲の連作障害に関する研究(1).	農業技術	15(3) 111-113.	症状、対策試験、原因究明試験結果を各地の試験場成績から引用.
203	渡辺敬夫・安尾正元	1960	陸稲の連作障害に関する研究(2).	農業技術	15(4)154-158.	Fusarium菌、シストセンチュウの接種試験結果. 後者を主要因子とする.
204	山田隆保	1960	麦根に寄生する線虫Pratylenchus sp.に就て 1. 侵入と温度の関係.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 20.	講要
205	山田隆保・西村良夫	1960	ネグサレセンチュウPratylenchus sp.の室内接種法について.	高嶺研年報	12: 279-281.	接種方法の検討. 5℃でも寄主侵入、15℃では産卵.
206	山口福男	1960	草毒に寄生するNothotylenchus acris Thorne の兵庫県における発生.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 17.	講要
207	山口福男	1960	草毒の線虫に関する研究 第1報 兵庫県における線虫の種類と被害状況について.	中国農業研究	18: 58-61.	Aphelenchoides fragariae, Nothotylenchus acris. 植物防疫 15(6) 271. 1961に抄録.
208	山口福男	1960	兵庫県に分布する土壤線虫の種類.	応動昆虫中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支会報)	2: 2.	講要. 19種を記録.
209	山口福男・牧 良忠	1960	ネグサレセンチュウ(Pratylenchus sp.)に関する研究 第2報 ニンジンのネグサレセンチュウについて.	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	8: 1-4.	P. penetransに似る.
210	山沢新吾	1960	土壤消毒機の合理的な使い方: 効果的なネマトダの防ぎ方.	農耕と園芸	15巻6: 23-25.	機械、施用法の説明.
211	大和茂八	1960	「いちご」の育苗法.	農及園(農業および園芸)	35(7) 1136-	芽線虫による病徴、防除(ホリドール)、抵抗性品種を含む.
212	山内己酉・藤井新太郎	1960	暖地における甜菜の病害に関する研究 第1報 病害の種類.	日植病報(日本植物病理学会報)	25(1) 12.	講要. 岡山県、キタ、サツマイモネコブセンチュウ.
213	谷中清八・滝田泰章・熊沢隆義	1960	殺線虫剤の作用機構について(予報).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	7: 76.	ネコブセンチュウにD-D, EDB, DBCP処理. 5日後にガス抜き. ムギに被害なし.
214	安田 伸	1960	蔬菜栽培と土壤線虫防除について.	植物防疫	14(3) 129.	千葉種山武郡土気町における土壤線虫バイロット防除の状況.
215	安村作郎	1960	根コブ線虫の寄生に対する桑根組織の反応(1) 巨大細胞の形成について.	日蚕問講要(日本蚕糸学会関西支部合同研究発表会講演要旨)	22: 27.	講要
216	安尾正元	1960	陸稲の連作障害の防ぎ方.	4巻6: 35-39.	シストセンチュウの被害、防除(D-D、クロロピクリン剤施用、輪作).	
217	横川 定・森下薫・横川宗雄	1960	人体寄生虫学提要 改定第7版.	杏林書院、東京	2+10+466 pp.	「人体に検出される自活性又は植物寄生性線虫類」 p. 154-155. Diplogaster lirata, Diploscapter coronata, Rhabditis pelio, R. hominis, R. niellyi, R. donbass, R. schachtliella, R. gracilis, R. foecalis, R. usuii, Rhabditella acei, Turbatrix acetii, Heterodera marioni (ネコブセンチュウ), Anguillulina putrefaciens (ナミクキセンチュウ).
218	横尾多美男	1960	Meloidogyne incognita acritaの第2幼虫期の尾部のくびれについて.	佐賀大農業(佐賀大学農業学報)	10: 121-123.	種内変異を検討.
219	横尾多美男	1960	線虫の分類と主要種類の解説. In: 線虫研究指針.	農林省振興局研究部	p. 17-35.	植物寄生性線虫の特徴. 主要属の解説、種名リスト.
220	横尾多美男・阿部洋洋	1960	サツマイモネコブセンチュウの生活史.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	6: 106	講要
221	横尾多美男・行徳 美	1960	On the dumping off of the seedlings of the sugar beet caused by the root-knot nematode, Meloidogyne incognita acrita.	佐賀大農業(佐賀大学農業学報)	11: 65-74.	線虫接種数とテンサイの生育の関係をポットで試験.
222	横尾多美男・松延浩気・太田洋子	1960	On the variations of dimensions within soil nematodes II. Dimensions of the suspected plant parasitic nematode, Aphelenchus avenae, and the bud or leaf nematode, Aphelenchoides fragariae.	佐賀大農業(佐賀大学農業学報)	10: 125-136.	ニセネグサレセンチュウ・イチゴセンチュウの形態計測値の種内変異を検討.
223	湯原 巖・稲垣春郎	1960	数種線虫の冬期における検出.	北農	27巻11: 8-9.	ダイズシストセンチュウ、キタネコブセンチュウ、ピンセンチュウ
224	湯原 巖・稲垣春郎	1960	ダイズシストセンチュウに対するダイズ品種の抵抗性.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 93-95.	Kingwa弱、Ilsoy 強、PI84751, PI90763極強.
225	湯原 巖・稲垣春郎	1960	北海道において発見された2、3の土壤線虫.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭35: 17.	講要
226	湯原 巖・山田英一	1960	キクハガレセンチュウの高湿並びに低温に対する抵抗性.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	11: 95-96.	裸虫は乾葉内虫より弱い.
227	Anon. (明治大学)	1960	大豆萎黄病に対する抵抗性品種間差異に関する試験.	明大農富士吉田農場特報(明治大学農学部付農場特別報告)	2: 4-8.	13品種の比較.
228	Anon. (農林省振興局研究部)	1960	線虫研究指針.	農林省振興局研究部、東京	1+2+110 pp.	No. 60-29, 73, 74, 76, 99, 135, 179, 219を参照.
229	Anon. (東京都建設局公園緑地部)	1960	合衆国首都ワシントンの桜.	東京都、東京	1+88 pp., 2 Pls., 1 map.	寄贈50周年記念誌. 第1回送付苗(明治42年、1909年)がCobb等の言により焼却処分された経緯につき当時の公文書、新聞記事等を引用 p.37-50. 翌年の第2回送付苗準備の項にもネマトダの記事 p. 50-58.
230	Anon. (大阪府林務課)	1960	苗畑に「根ぐされ線虫」の被害発生.	森林防疫ニュース	9(6) 139.	ぶどう畑跡地のスギ.
0		1961	昭和36年(1961)			
1	青柳寅雄	1961	コンヤクの種類と土壤消毒.	今月の農業	5巻5: 84-87.	EDB, DBCP剤によるネコブセンチュウ防除.
2	知久武彦・今村昭二	1961	ヤマゴボウ黒腐病について(第2報).	日植病報(日本植物病理学会報)	26(2) 58.	講要. 線虫が原因でない.
3	千代西尾伊彦・中原 守・奥山義	1961	ネコブセンチュウの駆除効果及び施肥量がダイコンの収量構成因子に及ぼす影響につ	中国農業研究	19: 53-55.	EDB処理の効果大. 植物防疫 15(10) 463-464, 1961に抄録.
4	土橋貞夫・国井喜彦	1961	殺線虫剤の実験室内における2、3の検定法.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 72.	D-DとRhabditoides sp.を供試.
5	塚入 章	1961	土壤線虫検診について.	研農復刊	13(1/2) 391-394.	植物・土壤検診、線虫分離法の説明.
6	遠藤昭二・川島嘉内・堀 星治	1961	福島県におけるオカボシストセンチュウ(Heterodera sp.)の分布について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 9-10.	郡山以南の4郡に分布. 連作障害が見られる.
7	藤本啓一・横山昭一・松本清蔵	1961	殺線虫剤に関する研究 第2報 環境温度、土壤の種類がD-D、EDBの殺線虫力に及ぼす影響について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 21.	講要
8	藤本義則	1961	線虫防除へ胎動する開拓地高光をたずねて: 土壤調査より.	土壤改良	10巻6: 23-26.	愛媛県. 線虫被害と防除実施状況.
9	藤村俊彦	1961	果樹に対する殺線虫剤の使い方: ブドウ.	植物防疫	15(3) 109.	サツマイモネコブセンチュウによる被害. DBCP剤の使用法、効果、使用上の注意.
10	藤村俊彦	1961	粘質土壌における殺線虫剤の使い方.	農業	8巻4: 24-27.	D-D, EDB剤.
11	藤沢博信	1961	殺線虫剤とその使用上の問題点 5. 動力土壤消毒機の利用について (1) 液剤用動力消毒機による殺線虫剤施用上の問題点.	応動昆虫シンポジウム記録(日本応用動物昆虫学会シンポジウム記録)	5回: 48-51.	講要. D-D, EDB剤を用い、土壤消毒機の機種(前向爪、後向爪)、整地の有無、土性の違いによる効果の差を検討.
12	藤沢博信・中沢嘉富・勝野和人・具羽好三・関谷一郎・早川広美・鈴木照彦・村井	1961	動力土壤消毒機による線虫防除は耕直前がよい.	長野農試時報(長野県農業試験場時報)	44巻11: 9-13.	D-D, EDB剤によるネコブセンチュウ防除.
13	深沢永光・中田正彦・小林義明	1961	水稲に寄生するRadopholus属線虫について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 17.	講要
14	福井重郎	1961	関東東山における大豆作の現状と将来: わが国における大豆作の現状と将来. 2	農業技術	16(2) 68-71.	害虫の項でダイズ線虫の重要性にふれる.
15	福本日陽	1961	ヒラナメナス雑種4倍体F2における形質の分離.	育種(育種学雑誌)	11(3) 233-234.	講要. 根線虫抵抗性をもつ.
16	福永一夫・海野景正・熊野義夫	1961	[座談会]アメリカの農業とその研究事情.	農業	8巻2: 62-71.	殺線虫剤にふれる. 殺線虫剤の最後のねらいは地上部散布.

17	五味美知男	1961	福出穂期のシンガレセンチュウの防除.	今月の農業	5巻10: 9-12.	ホリドール剤散布.
18	後藤 昭	1961	殺線虫剤とその施用上の問題点 4. ネグサレセンチュウ防除の事例.	応動昆シンボ記録(日本応用動物昆虫学会シンポジウム記録)	5回: 46-48.	講要. D-0、EDB、DSCP剤の効果の比較.
19	後藤 昭	1961	ネグサレセンチュウの防除法.	農業技術	16(7) 316-320.	薬剤(D-0、EDB、テロン、ドーロン、クロロピクリン)、耕種防除法(早掘り、抵抗性品種利用、輪作).
20	後藤 昭	1961	ネグサレセンチュウに関する調査成績. In: 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要	日本植物防疫協会、東京	p. 53-64.	謄写. 日本産種類の形態及び寄生性.
21	後藤 昭・大島康臣	1961	九州の線虫相より(1).	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	7: 80-81.	Pratylenchus coffeae (九州一円)、P. vulnus (熊本)、P. zaeae (陸稲)を記録.
22	後藤重喜	1961	甜菜に寄生する線虫の生態と防除上の問題点	九州農業研究	23: 97-99.	ネコブ、ネグサレセンチュウの寄主、発生消長、輪作・薬剤(D-0、EDB、DSCP剤)による防除.
23	後藤重喜・川越仁・岩橋哲彦	1961	胡瓜の生育中におけるネコブ線虫の薬剤防除について.	九州農業研究	23: 223-224.	DSCP剤の生育中処理は効果あり.
24	後藤重喜・長友ミチ	1961	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究 VIII 落花生の栽培と線虫密度の低下.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 19.	講要
25	浜口 頌	1961	パイロット防除の体験: 三重県におけるダイコンの線虫防除.	植物防疫	15(3) 129-130.	実施状況及び農家の反応.
26	長谷川邦一・小野琢志・上原久	1961	輸出農産物と病害虫.	植物防疫	15(11) 503-506.	ボタン、グラジオラスのネコブセンチュウにふれる.
27	橋本平一	1961	福岡県下の林業苗畑における植物寄生性線虫類について.	森林防疫ニュース	10(4) 76-79.	スギ・ヒノキからサツマイモネコブ、ネグサレ、イシュク、コムハリ、ハセンチュウ等を検出.
28	橋本 保・津軽承捷	1961	テンサイ立枯病の発生と線虫との関係.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 14-16.	キタネコブセンチュウ、クルミネグサレセンチュウとPellicularia菌の混合接種は、後者単独より発病多.
29	引地直至	1961	福島県北部におけるモモ・リンゴの土壌線虫による被害の実態調査.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 106-107.	モモからMeloidogyne arenaria, M. incognita acrita, Pratylenchus vulnusを検出.
30	引地直至	1961	モモ樹に寄生せるネコブセンチュウの調査結果について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 107-110.	アレナリアネコブセンチュウによる細根の被害を、線虫の水平・垂直分布の面から調査.
31	引地直至	1961	落葉果樹に寄生する線虫とその防除.	落葉果樹	15巻9: 24-27.	桃、リンゴ、梨、桜桃からの検出線虫と被害.
32	引地直至	1961	落葉果樹に寄生する線虫とその防除.	落葉果樹	15巻10: 16-19.	DBCP剤による防除.
33	平野和弥	1961	ネコブセンチュウ卵の土壌からの採卵法に関する研究 第1報 アンチホルミン溶液による卵の崩壊能力について.	日植病報(日本植物病理学会報)	26(5) 241.	講要
34	広瀬健吉・伊藤喜隆	1961	果樹に対する殺線虫剤の使い方: リンゴ.	植物防疫	15(3) 106-107.	ネコブセンチュウによる被害、防除薬剤及びその使用方法.
35	堀 皇治・川島嘉内	1961	Radopholus sp.の分布と寄生性について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 10.	線虫密度は湿田、半湿田、乾田の順に多. ヒエ、スゲ、コナギは好適寄主.
36	星野三男・谷中清八・滝田泰章・尾田啓	1961	陸稲シストセンチュウの防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 74.	D-0、EDB施用で線虫密度は低下、収量は増加せず.
37	市原伊助	1961	輪作による落花生のキタネコブセンチュウ生虫密度の変化と被害について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 73.	陸稲、甘藷の組合わせ.
38	一戸 稔	1961	Studies on the soybean cyst nematode, Heterodera glycines.	北海道農試報(北海道農業試験場報告)	50: 1-80, 7 pls.	分布、研究史、形態、分類、发育、寄生性、被害解析、輪作、抵抗性品種、防除(耕種、薬剤等). 植物防疫16, 170, 1962に抄録.
39	一戸 稔	1961	殺線虫剤とその施用上の問題点 1. 問題の概要.	応動昆シンボ記録(日本応用動物昆虫学会シンポジウム記録)	5回: 39-41.	講要. 殺線虫剤の種類、土壌条件・用法と効果、効果の持続期間等.
40	一戸 稔	1961	線虫の種類による殺線虫剤の使い分け.	植物防疫	15(3) 100-102.	D-0、EDB、DSCP剤の効果の特性、対象線虫等を解説.
41	一戸 稔	1961	わが国に確認されている植物寄生性線虫.	農業技術	16(7) 320.	属名の一覧.
42	一戸 稔	1961	畑作農業の発展とネマトーダの諸問題.	農業技術	16(10) 454-457.	線虫学とその生い立ち、線虫の種類と問題点、被害の診断、わが国の線虫被害の実態.
43	一戸 稔	1961	畑作農業の発展とネマトーダの諸問題(2).	農業技術	16(11) 509-512.	被害の実態(続き)、線虫と他の病害とのコンプレックス、防除の問題点.
44	一戸 稔	1961	ネグサレセンチュウ(Pratylenchus)の種類、生態およびその防除. In: 線虫とその防除(其の2).	シエル石油株式会社農業部、東京	p. 51-65, 2 pls.	研究史、形態、分類、我国の種類、生態(含被害、病徴)、防除(耕種、化学的).
45	一戸 稔	1961	植物寄生性線虫日本文献目録.	日本植物防疫協会、東京	64 pp.	謄写. 1960年以前の文献. 収録数 786. 配列は著者のアルファベット順.
46	一戸 稔	1961	Bibliography of Phytonematology.	日本植物防疫協会、東京	9+198 pp.	1960年以前の日本及び外国の植物寄生性線虫関係の論文3186を収録した文献目録. 配列は主に線虫の学名のアルファベット順.
47	一戸 稔	1961	水稻の線虫.	今月の農業	5巻4: 76-78.	イネネモグリセンチュウの解説.
48	一戸 稔	1961	種類の多くなったネグサレセンチュウ.	今月の農業	5巻11: 86-89.	新たに発見された種類の解説.
49	一戸 稔・国井喜章・白浜賢一・石倉秀次	1961	土壌線虫対談.	今月の農業	5巻1: 49-62.	研究、防除技術の現状.
50	一戸 稔・中國和年	1961	北海道から発見されたPratylenchoides 属線虫について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 18.	講要
51	飯島 鼎	1961	土壌線虫防除上の諸問題. In: 線虫とその防除(其の2).	シエル石油株式会社農業部、東京	p. 1-7.	殺線虫剤の価格、畑地検診の早急な実施、耕種防除法と土壌消毒法との関連、土壌消毒技術の改善、土壌消毒と耕種技術の改善、果樹等の土壌線虫の被害と防除、その他.
52	今井正信	1961	土壌消毒機の種類と使用上の問題点.	植物防疫	15(3) 122-126, 1 pl.	種類、構造、性能、作業精度ならびに能率、耐久性.
53	今井正信・武長孝・平田孝三・藤木敬実	1961	共立土壌消毒機の作業性能並びに機構に関する試験.	共立農機報告	41.	未見
54	稲賀 恒	1961	殺線虫剤とその施用上の問題点 5. 動力土壌消毒機の利用について (3) 米国の土壌消毒機をみる.	応動昆シンボ記録(日本応用動物昆虫学会シンポジウム記録)	5回: 52-54.	講要及び討論要旨. トラクター牽引型の紹介.
55	稲垣春郎・湯原巖	1961	アマに対するRhizoctoniaとPratylenchusの混合感染.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 12-13.	混合接種により立枯、リゾクトニア病罹病ともに増加.
56	井上 寿	1961	ダイズシストセンチュウに関する調査 第12報 野生の寄主植物について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 99-100.	ヤブマメを追加.
57	井上 寿	1961	ダイズシストセンチュウに関する調査 第13報 窒素肥料の用量と作物の生育および線虫の発生との関係.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 100-102.	施肥多い程シスト数多.
58	井上 寿	1961	クローバーのシストセンチュウについて(予報).	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 105-106.	帯広市の赤クローバーで発見. 白クローバー、ハコベ、ギンギンでも確認.
59	井上忠彦・金森正剛	1961	数種浸透殺虫剤の土壌施用がイチゴのメセンチュウに及ぼす影響.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 21.	講要
60	井上義孝・筒井善代治	1961	伊勢湾台風による長期潮冠水地帯跡の病害虫発生様相について.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	3: 1-5.	20~40日海水冠水下の畑地でもネコブセンチュウ生存.
61	井上 敬・伊藤春男	1961	春季の土壌燻蒸処理における1、2の考察.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 162.	D-0、EDB剤ともにガス抜き期間は2週間が良い.
62	石橋信義・気賀沢和男・国井喜章	1961	ネコブセンチュウの産卵について III. 雌成虫と卵のう.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 20.	講要
63	石橋信義・国井喜章・千代西尾伊彦	1961	ネコブセンチュウの産卵について II. in vitro 産卵の傾向とそれを支配する二、三の条件.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 20.	講要
64	石川正示	1961	ダイズシスト線虫抵抗性品種の育成.	育種(育種学雑誌)	11(3) 231-232.	講要
65	石倉秀次	1961	植物防疫事業の指向点.	植物防疫	15(1) 1-4.	線虫検診事業、パイロット防除の進捗状況を含む、「殺線虫剤による防除は昭和34年には5,000haと増加し、殺線虫剤の価格も使用量の増加と供給の増加によって当初の予想よりも早く低下」
66	石倉秀次	1961	植物防疫の問題点.	植物防疫	15(11) 479-482.	種苗検疫の中に線虫を含む.
67	石沢修一	1961	農業の施用と土壌微生物.	土と微生物	2: 9-13.	EDB剤施用によって放線菌抑制、細菌、糸状菌は増
68	伊藤富士雄	1961	殺線虫剤の動向.	植物防疫	15(3) 127.	D-0、EDB、DSCP、カーバム剤、臭化メチル、クロロピクリンの国内での供給態勢及び数量.
69	伊藤勝男	1961	ダイズに対するネコブ線虫の寄生性についての一検索.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 19-20.	講要

70	伊藤喜隆	1961	果樹のネコセンチュウの生態と防除.	農及園(農業および園芸)	36(8) 1309-	線虫の種類、生態と被害症状、防除(D-D、EDB、D BCP、クロロピクリン剤)
71	伊藤喜隆	1961	果樹の線虫と防除(主としてネコセンチュウについて). In: 線虫とその防除(其の2).	シェル石油株式会社農業部、東京	p. 93-111.	線虫相、生態(発生経過、垂直分布、移動・伝播、寄主選択性、症状と被害、発生地の要因)、防除(抵抗性苗木の利用、植付前の検診、薬剤防除)等。
72	伊藤喜隆	1961	主要植物寄生性土壌線虫に関する研究. In: 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要	日本植物防疫協会、東京	p. 32-45.	謄写、リンゴ及び葉のネコセンチュウの生態と防除法。
73	伊藤喜隆	1961	DBCP剤の特性と使い方.	今月の農業	5巻4. 36-40.	効果、薬害、使用方法。
74	伊藤喜隆	1961	線虫防除は天地返しに薬剤か.	今月の農業	5巻9. 12-15.	殺線虫剤施用前の天地返しは薬剤の防除効果を低下させる。
75	伊藤喜隆・広瀬健吉	1961	ネコセンチュウの越冬形態について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8.66.	リンゴの根(ゴール)では卵、幼虫、成虫、土中では卵、幼虫
76	伊藤喜隆・広瀬健吉	1961	リンゴ園におけるネコセンチュウの分布について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36. 19.	講要
77	岩本哲夫	1961	パイロト防除の体験・ダイズシストセンチュウの防除に思う	植物防疫	15(3) 128-129.	北海道十勝地方における実施状況及び反省。
78	弥富喜三	1961	殺線虫剤の概況.	植物防疫	15(3) 97-99.	ハロゲン化炭化水素、有機燐剤、その他の殺線虫剤を解説。
79	弥富喜三	1961	土壌消毒剤の新施用法.	今月の農業	5巻4. 60-64.	標準薬量、二重処理法、薬害とDBCP、錠剤と粒剤、薬剤の混合。
80	弥富喜三・西沢秀	1961	主要植物寄生性土壌線虫に関する研究. In: 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要	日本植物防疫協会、東京	p. 5-16.	謄写、ベルマン法による線虫分離条件、防除法の検討。
81	和泉清久	1961	殺線虫剤の効果に影響する土壌の諸因子.	植物防疫	15(3) 116-118.	土壌の空隙量、最大容水量、土性、有機物含量、鎮圧、圧封、地温とD-D、EDB、DBCP剤の効果。
82	和泉清久	1961	土壌線虫防除の諸問題.	農及園(農業および園芸)	36(11) 1795-	殺線虫剤施用の経済性、DBCP剤処理不成功例の解析、地温と効果、線虫の種類と防除効果。
83	和泉清久・近岡一郎	1961	殺線虫剤の土壌中における減少過程と土壌の理学的性質について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36. 22.	講要
84	鎌木外岐雄	1961	総括. In: 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要	日本植物防疫協会、東京	p. 53-64	謄写
85	金沢 純・越中俊夫・佐藤六郎	1961	殺線虫剤EDBのガスクロマトグラフィー.	農業生産技術	5: 15-18.	抽出および分析方法。
86	金沢 純・佐藤六郎	1961	イオン交換クロマトグラフィーによるDBCP中の塩素と臭素の分離定量.	農業生産技術	4: 42-43.	試薬、装置、方法。
87	金子 武	1961	茶の線虫とその対策.	今月の農業	5巻11: 82-86.	サヤワ、ネグサレセンチュウの被害と防除法。
88	勝元久衛・川瀬英樹	1961	殺線虫剤の効果について 第3報 ネマゴン粒剤の施用量と施用深度.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	9: 94-95.	ニンジンのネコセンチュウに対し20%粒剤を 3.3 m2 当たり80 gを深さ24cmへ施用が効果的。
89	桂 琦一	1961	土壌線虫と病原体との関連による病害の病理学的治病的研究. In: 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要	日本植物防疫協会、東京	p. 17-24	謄写、殺線虫剤施用し、病害を軽減又は増加させた事例、ネコセンチュウに誘発される大根黒腐病、殺線虫剤の殺菌力、水稲の根ぐされ現象。
90	河合一郎	1961	西瓜の新病害青枯病について.	農及園(農業および園芸)	36(6) 1011-	ネコセンチュウ寄生との関係を含む。
91	川俣 稔・筑島安宏・佐藤虎雄	1961	畑作物の連、輪作に関する研究 第1報 主要畑作物の一・二毛連作が生育、収量並びに二・三の土壌理化学性に及ぼす影響について.	農林省振興局研究部・鹿児島県農業試験場	p. 1-30.	陸稲、甘藷、落花生、粟、大豆、蕎麦、小麦、ルーピン、菜種を扱う。陸稲の試験考察の中で線虫に言及。
92	河村貞之助	1961	殺線虫剤と土壌微生物.	植物防疫	15(3) 119-121.	殺線虫剤の土壌病原菌・害虫への影響、線虫の天敵(捕食菌・細菌)を解説。
93	河村貞之助	1961	植物寄生性線虫に関する研究(Ⅲ). In: 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要	日本植物防疫協会、東京	p. 1-46	謄写、モモのネコセンチュウのサンプリング、線虫の生死的別法、殺線虫剤の土壌中での拡散、薬剤の室内及びポット試験法。
94	河村貞之助	1961	草花の病害虫防除と農薬の選び方.	農業	8巻1: 63-67.	葉枯線虫にはホリドール、メタシトックス、サツセンを散布。
95	河村貞之助・平野和弥	1961	ツクシイモとキタネコセンチュウとの生活干渉.	日植病報(日本植物病理学会会報)	26(1) 7-15	線虫の侵入、感染、根瘤形成、越冬。
96	瓦井 豊・加藤昭	1961	栃木県の平坦地におけるトマトの抑制栽培.	農及園(農業および園芸)	36(5) 841-846.	ネコセンチュウ対策「茄科作物を3年間作つたことのない畑を選ぶ」
97	川崎倫一	1961	植物防疫所における調査研究. 植物防疫	植物防疫	15(11) 510-512.	ネコセンチュウの温湯防除とグラジオラス球根への応用を含む。
98	川島嘉内	1961	土壌条件と線虫寄生との関係 1. 土壌の種類とネコセンチュウの寄生について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	12: 95.	寄生・生息多いのは砂壤土、腐植に富む植土
99	川島嘉内	1961	土壌条件と線虫寄生との関係 2. 土壌粒子の大きさとのネコセンチュウの寄生について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	12: 95-96.	砂の粒子40~82メッシュで寄生、ゴール顕著。
100	川島嘉内・堀 呈治	1961	コンニャクにおけるネコセンチュウの被害と腐敗病発生との関係.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	12: 13-14.	D-D、EDB剤処理による線虫密度低下により腐敗病発生著しく減少。
101	川島嘉内・堀 呈治	1961	Radopholus sp.の寄生数とEh6との関係について(予報).	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 18.	講要
102	気賀沢和男・石橋信義・国井喜章	1961	殺線虫剤の注入点からの効果範囲.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	9: 92-94.	深さ15、20cmの注入点から10cm以内でサツマイモネコセンチュウの寄生指数顕著に減少。
103	気賀沢和男・国井喜章	1961	ネコセンチュウの密度分布.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 20.	講要
104	木村 宏・高倉重義	1961	キタネコセンチュウの防除に関する研究 第2報 テンサイの前後作の種類とキタネコセンチュウの密度.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	12: 102-103.	春小麦で減少、ハッカ、豆類、クローバー、パレシヨ、タバコで増加。
105	小林和男・室賀弥三郎・大槻昭・呉羽好三	1961	DBCP剤による桑のネコセンチュウ防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 68.	80%乳剤1000倍液 600/a処理により桑葉で2倍の増収。
106	小宮書之助・工藤 肇	1961	大豆萎黄病防除に関する研究(予報).	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	12: 27-29.	D-D剤施用、輪作。
107	小宮書之助・工藤 肇	1961	大豆萎黄病防除に関する研究(1)大豆萎黄病抵抗性の品種間差異.	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	12: 31-36.	ゲデンシラス、岩手ヤギ1号、ウゴダイズ、陽月1号、岩手2号は抵抗性強。
108	小宮書之助・工藤 肇	1961	大豆萎黄病防除に関する研究(2)D-Dによる薬剤防除試験.	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	12: 37-41.	薬剤施用により50~30%増収。
109	小宮書之助・中沢文男	1961	富士吉田周辺地区における大豆萎黄病実態調査(2).	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	12: 47-50.	調査した全地区で発生。
110	近藤源吉	1961	畑作における作付改善方法.	農及園(農業および園芸)	36(5) 47-50.	連輪作と収量、陸稲、粟、トウモロコシ、甘藷、エンドウ他、落花生の線虫害を含む。
111	近藤鶴彦	1961	植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要. In: 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要	日本植物防疫協会、東京	p. 53-64.	謄写、ネコセンチュウの種類。
112	高野光之丞	1961	果樹に対する殺線虫剤の使い方. 苗木.	植物防疫	15(3) 111.	ネコセンチュウ(イチジク、モモ、リンゴ、ブドウ)、ミカンセンチュウ。
113	高野光之丞・石川元一	1961	ネコセンチュウに対する殺線虫剤の効果について(2).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 67.	ヤマトイモのD-D剤36/10 a 処理効果は2年間のみ。
114	古山 清・中村広明	1961	線虫の培養.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	5(1) 76-77.	講要、自由生活、植物寄生性線虫の培養方法。
115	工藤三郎	1961	岩手県におけるネコセンチュウおよびダイズシストセンチュウの発生について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	12: 7.	75,000haの80%にキタネコセンチュウを確認。ダイズシストセンチュウは全県下に分布。
116	国井喜章	1961	土壌線虫の生態と防除.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	12: 1-3.	講要、土壌線虫と農業、わが国の主要な土壌線虫、土壌線虫の生態・防除。
117	国井喜章	1961	殺線虫剤とその施用上の問題点 2. ネコセンチュウを中心とした薬剤防除.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会シンポジウム記録)	5回: 41-43.	講要、問題点、今後の研究方向を指摘。
118	国井喜章	1961	ネコセンチュウ. In: 線虫とその防除(其の2).	シェル石油株式会社農業部、東京	p.33-49.	研究史、分類、同定法、生活史、生理(産卵、孵化)、加害、分布、防除(薬剤、耕種的手段)。
119	国井喜章	1961	今年の農業: 殺線虫剤.	今月の農業	5巻2: 35-37.	D-D、EDB、DBCP、メチルプロマイドの使用法。
120	国井喜章	1961	夏期における殺線虫剤使用上の注意.	今月の農業	5巻8: 102-105.	D-D、EDB、DBCP剤使用上の注意。
121	国井喜章	1961	殺線虫剤拡散条件.	今月の農業	5巻10: 101-104.	地温、耕起との関係。
122	国井喜章・石橋信義・気賀沢和男	1961	ネコセンチュウの産卵について I. in vitro 産卵.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 20.	講要
123	蔵納久男	1961	柑橘根線虫の標本抽出について.	関西病虫研報(関西病虫研究会会報)	3: 69.	講要、温州みかんの場合 10gずつ10カ所から根を採取。
124	蔵納久男	1961	柑橘根線虫に対する殺線虫剤の効果.	静岡柑橘試験場(静岡県カンキツ試験場報告)	昭35: 49-50.	DBCP剤施用の効果。

125	蔵納久男	1961	柑橋線虫の苗木寄生に関する調査.	静岡柑橋試報(静岡県カンキツ試験場報告)	昭35: 50-51	土壌、樹幹と植物寄生線虫数の関係.
126	呉羽好三	1961	検診によって発生を確認された数種植物寄生性線虫について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 17.	講要
127	呉羽好三	1961	殺線虫剤とその施用上の問題点 5. 動力土壌消毒機の利用について(2)殺線虫剤施用時の畑状態と防除効果.	応動昆虫大会記録(日本応用動物昆虫学会シンポジウム記録)	5回: 51-52	講要. D-D, EDB剤の効果と耕起、土性との関係等.
128	呉羽好三・早河広美・関谷一郎	1961	ダイズシストセンチュウの被害防除について.	長野農試時報(長野県農業試験場時報)	44巻5: 20-26	未見
129	黒崎正美	1961	畑作農薬の改善[3].	農及園(農業および園芸)	36(3) 597-600	大豆の線虫対策(堆肥多用、抵抗性利用等)を含む.
130	黒崎正美	1961	畑作農薬の改善[12].	農及園(農業および園芸)	36(12) 2011-	著者の回顧録. 線虫問題を含む.
131	桑名寿一	1961	特用作物などに対する殺線虫剤の使い方: クワ.	植物防疫	15(3) 112-113.	寄生線虫、ネコブセンチュウによる被害及び殺線虫剤の使用法、効果.
132	牧良忠・山下俊勝	1961	果樹に対する殺線虫剤の使い方: イチジク.	植物防疫	15(3) 110.	ネコブセンチュウに対するDPCP剤の防除効果.
133	松田礼治郎・斉藤 広	1961	DBCP剤で土壌線虫防除処理を行なった桑葉の蚕に対する被害.	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東北支部研究発表会講演要旨)	15: 24-25.	講要. 未見.
134	松本清蔵・藤本啓一・横山昭一	1961	殺線虫剤に関する研究 第1報 DD構成成分の物理化学的性質と殺線虫力について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 21.	講要
135	南 芳雄・大塚幹夫	1961	殺線虫剤によるキウリの増収効果に関する試験.	九州農業研究	23: 220-221.	D-D剤約20%/10 a はEDB剤30・施用より増収効果大.
136	三浦 脩	1961	最近我が国で明らかとなった植物寄生性線虫について.	大阪農業	126: 1-6.	14種以上の線虫の解説.
137	宮川経邦	1961	果樹に対する殺線虫剤の使い方.	農及園(農業および園芸)	36(12) 1955-	リンゴ、ミカン、ブドウ、イチジクの線虫被害. D-D、D BCP剤の用法とその効果.
138	宮本雄一	1961	木酢液の土壌消毒剤としての効果.	農及園(農業および園芸)	36(10) 1637-	線虫関係は55-45を引用.
139	森元幹雄	1961	タバコ立枯病とクロールビクリン防除の効果について.	葉たばこ研究	27: 82-89.	線虫との関係にふれる.
140	森田 僑	1961	花卉病害の問題点と防除法: 静岡県を中心として.	農業技術	16(2) 558-562.	キクの葉枯線虫防除(バラチオン散布)を含む.
141	森田 僑	1961	土壌消毒のいろいろ.	農業技術研究	15巻10: グラビア(3 pls.).	焼土機、手動式土壌消毒機の種類および使用法.
142	本橋精一	1961	[質疑応答]答	植物防疫	15(3) 115.	早春における殺線虫剤の使用法.
143	本橋精一・永沢実・河合省三	1961	低温時における殺線虫剤の使い方.	農業	8巻1: 50-54.	D-D, EDB, DBCP剤施用上の注意.
144	室賀弥三郎	1961	桑のネコブ線虫の防除法.	今月の農業	5巻9: 91-94.	症状、DBCP剤の施用方法.
145	永井芳雄・中國昭	1961	窒素質肥料の硝酸化進行速度並びに土壌消毒剤DDの硝酸化に及ぼす影響について.	九州農業研究	23: 241-242.	塩安、硫酸、尿素の順に硝酸化速度が遅い.
146	永沢 実	1961	[質疑応答]答	植物防疫	15(10) 438.	線虫の伝播について.
147	永沢 実・阿久津嘉作	1961	ネコブセンチュウの越冬越冬について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 19.	講要
148	永沢 実・阿久津嘉作	1961	ネコブセンチュウの越冬越冬について.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	17: 70-73.	謄写. 寄主植物の検索、線虫の越冬ステージ.
149	永沢 実・河合省三	1961	ネグサレセンチュウ(Pratylenchus penetrans group)の垂直分布について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 19.	講要
150	永沢 実・河合省三・本橋精一	1961	低温時に殺線虫剤で処理した場合のガス抜きと被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 21-22	講要
151	永沢 実・河合省三・本橋精一	1961	殺線虫剤の低温時の処理.	植物防疫	15(2) 64-68.	D-D, EDB, DBCP剤の効果と被害.
152	永沢 実・河合省三・本橋精一	1961	低温時における殺線虫剤の使用法.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	17: 62-65.	謄写. D-D, EDB, DBCP剤施用上の注意
153	永沢 実・河合省三・本橋精一	1961	低温時に殺線虫剤で処理した場合のガス抜きと被害.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	17: 66-70.	謄写. D-D, EDB, DBCP剤.
154	中川春夫・大沼彰	1961	ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 16-17.	D-D, EDB, DBCP剤の防除効果は1年間.
155	中村広明	1961	植物の組織培養とその応用.	日仏生物学会誌	18/19: 565-576.	未見. 線虫学への応用を含む. 植物防疫 15(2) 554, 1961に抄録.
156	中村克己・山貴重夫・秋山安義	1961	殺線虫剤によるニンジンノキタネコブセンチュウ防除効果およびその経済効果について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 160-162.	D-D, EDB剤20~40/10 a の低温時処理(7.3~11.8°C)約40日後播種は薬害なく防除効果
157	中村克己・山貴重夫・秋山安義	1961	人参寄生「キタネコブセンチュウ」における防除効果及び経済効果.	北農	28巻12: 8-12.	D-D, EDB, DBCP剤.
158	中國和年・一戸稔	1961	チャとニハから分離された Hemicriconemoides spp.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 17.	講要
159	中國和年・一戸稔	1961	Hemicriconemoides kanayaensis n.sp. associated with tea root in Japan (Nematoda: Criconematidae).	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会誌)	5(4) 273-276.	チャからカナヤサヤワセンチュウを新種として記載. 模式産地は静岡県金谷町.
160	中田正彦	1961	特用作物などに対する殺線虫剤の使い方: 花卉.	植物防疫	15(3) 114-115.	キク(ハガレセンチュウ、ネコブセンチュウ)、スイセン、アイリス(クキセンチュウ)、シャクヤク、シクラメン、グラジオラス(以上ネコブセンチュウ)対策.
161	中田正彦	1961	春季土壌消毒の期間.	今月の農業	5巻4: 106-109.	D-D, EDB, DBCP剤の施用方法.
162	中田正彦・深沢永光・小林義明	1961	水稲に寄生するRadopholus属の線虫について.	植物防疫	15(9) 395-398.	形態と被害. 現在はHirschmanniella oryzae, H. imamuraとされている線虫.
163	仲宇佐達也	1961	陸稲連作害の原因と対策.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	17: 153-159.	謄写. 連作によるシスト数、収量の変化.
164	仲宇佐達也・山崎正枝	1961	陸稲の連作害に関する研究(第4報)陸稲の作付年数と休作年数が害の発現におよぼす影響.	日作紀(日本作物学会紀事)	29(4) 436-437.	講要
165	中里晴夫・下方満治・松原芳久	1961	山口県下における園芸植物のネコブセンチュウに関する調査(第1報).	山口県農事調査報告	14 pp.	謄写
166	成田武四	1961	北海道における牧草・飼料作物の主要病害と問題点(2).	農業技術	16(11) 520-523.	マメ科牧草の線虫にふれる.
167	成田武四・馬場徹代・山田英一	1961	ダイコン萎黄病と線虫との関係.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 10-12.	D-D, EDB剤処理と接種試験. ネグサレセンチュウ関与の可能性.
168	奈須田和彦	1961	土壌伝染性細菌のpaper diskによる薬剤検定方法.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会報)	9: 59-64.	本法の線虫への応用は無理.
169	西山市三・藤瀬一馬・寺村 貞・宮崎 司	1961	甘藷とその近縁植物に関する研究 II. 甘藷野生種K123の生理生態的特性.	青穂(青穂学雑誌)	11(4) 261-268.	ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ抵抗性.
170	西沢 務	1961	線虫生命の一保存法.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 17.	講要
171	及川弘志・佐々木栄信・工藤三	1961	妻間作のゴボウネコブセンチュウに対するD-Dの防除効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 157-158.	20%/10 a 処理で経済的効果を認めたが、大妻に薬害.
172	岡 英人	1961	タバコに於ける野生種の育種利用.	育種学最近の進歩	2: 20-31.	Nicotiana sylvestris × N. tomentosiformis による線虫抵抗性品種育種を含む
173	岡田正順	1961	キクの連作土壌の生育障害とその防除について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭36春: 43	講要
174	岡田正行・山田 亀	1961	土壌線虫防除薬剤がアンモニア生成並びに硝酸化に及ぼす影響.	農及園(農業および園芸)	36(10) 1657-1658.	D-D, DBCP, MB剤(サンヒューム)施用により土壌酸度が高くなり、硝酸態窒素が増加. メチルプロマイド処理と堆肥との関係にも言及.
175	岡野秋盛・本田暢苗・林 松雄	1961	殺線虫剤(Chlorpicrin, D-D, EDB)による土壌処理がアンモニア化作用および硝酸化作用に及ぼす影響.	九州農業研究	23: 221-223.	硝酸化作用の抑制は前二薬剤が著しく、EDBは比較的少.
176	大森秀雄・佐藤昭美	1961	ニンジンノキタネコブセンチュウに対する殺線虫剤の春季低温時の消毒効果について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 158-159.	地温4°C前後のD-D, EDB剤施用試験. 処理4週間で十分な防除効果. 薬害なし.
177	大島俊市・小野邦明・赤沢敏紀	1961	線虫捕食菌に関する研究(予報).	日植病報(日本植物病理学会報)	26(5) 229.	講要
178	袴木忠夫	1961	シクラメンの営利栽培.	農及園(農業および園芸)	36(3) 542-546.	用土の線虫防除にふれる.
179	三枝敏郎	1961	わが国がその侵入を警戒している病害虫 3. 線虫.	植物防疫	15 (11) 493-494.	ジャガイモシストセンチュウ、ミカンネモグリセンチュウ、Ditylenchus angustus を解説

180	三枝敏郎	1961	各種土壌線虫の検出方法.	農及園(農業および園芸)	36(1) 109-110.	土壌・植物体からの線虫分離方法を解説.
181	三枝敏郎・松本安生	1961	ネコブ線虫の温湯防除とグラジオラス球茎への応用.	植物防疫(植物防疫所調査研究報告)	1: 30-35.	トマトにおける44-50℃での防除効果. グラジオラスの浸漬温度・時間・生育への影響を試験. 植物防疫16(11) 485. 1962に抄録.
182	三枝敏郎・松本安生	1961	A list of host plants of root nematodes, <i>Meloidogyne incognita</i> var. <i>acrita</i> and hapla.	植物防疫(植物防疫所調査研究報告)	1: 84-88.	サツマイモネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウの寄主のリスト.
183	三枝敏郎・松本安生	1961	The survey of the plant parasitic nematodes, distributed in the fields of the export plant and seed potato. I. Classification of the main plant parasitic nematodes separated from sampling soil.	植物防疫(植物防疫所調査研究報告)	1: 89-94.	輸出植物と種ジャガイモ栽培地における線虫調査. 15属の線虫の検出記録
184	桜井 清	1961	殺線虫剤とその施用上の問題点 3. ダイズシストセンチュウ防除の現状.	応動昆虫学記録(日本応用動物昆虫学会シンポジウム記録)	5回: 43-45.	講義. 季節的発生消長. シスト内の卵、幼虫に対する殺線虫効果(D-D, EDB, DBCP剤). 殺線虫剤の種類と薬量、使用時期、処理翌年の防除効果、防除の考え方. 討論
185	桜井 清	1961	ダイズシストセンチュウの生態と防除. In: 線虫とその防除 (其の2).	シェル石油株式会社農業部、東京	p.67-84.	分布と研究史. 寄主植物ならびに被害状況、形態・生態(生活史、土壌中での垂直分布、孵化、発育)、防除法(輪作、施肥、捕獲作物の栽培、抵抗性品種、殺線虫剤施用)
186	桜井 清・湯原 康・稲垣春郎・堤正明	1961	北海道の牧草地から発見された土壌線虫.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 103-104.	ネグサレ、ネコブ、シストセンチュウ等を検出
187	佐藤昭美・大森秀雄	1961	ダイズシストセンチュウに関する研究(I)圃場における発生消長について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 98-99.	連作・ヒエとの輪作圃場の比較.
188	佐藤雄夫・伊藤猛夫	1961	無脊椎動物採集・飼育・実験法.	北隆館、東京	5+16+446p.p.	線虫類 p. 195-204. 同分類表 p. 370.
189	沢地信康	1961	サトイモの連作害に関する研究.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭36春: 19	講要
190	関 道生	1961	果樹に対する殺線虫剤の使い方: ミカン.	植物防疫	15(3) 107-108.	ミカンセンチュウの土壌中分布、防除薬剤(DBCP, EDB剤)と施用方法.
191	関谷一郎	1961	大豆シスト線虫の経済的な防ぎ方.	今月の農業	5巻6: 41-44.	施肥改善、抵抗性品種利用、殺線虫剤施用
192	関谷一郎	1961	桑の土壌線虫防除.	今月の農業	5巻12: 100-103.	DBCP剤の施用法と効果.
193	関谷昭二郎	1961	鹿児島県の土壌線虫.	サンケイ農業たより	16: 9-12.	ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウの検診結果、被害.
194	千田長二・清原悦郎	1961	東北の北東部における麦間作大豆の問題点と改善策.	農及園(農業および園芸)	36(4) 654-658.	「シストセンチュウ発生畑などではNの基肥が効果的な場合のあることを忘れてはならない」.
195	柴田富男・西本弘次	1961	苗畑における土壌線虫防除.	森林防疫ニュース	10(4) 72-76.	スギにD-D、クロルピクリンを施用.
196	渋谷正徳・高良鉄夫	1961	Note on the root-knot nematode in the Ryukyu Islands.	鹿児島大・琉球大琉球諸島共同調査報告	1: 67-69.	Meloidogyne incognita acritaの寄主植物44種を記録.
197	重永知明	1961	殺線虫剤使用上の問題点.	研農復刊	13(1/2) 407-410.	燻蒸剤の効果的・経済的使い方、効果持続期間等の解説.
198	重永知明	1961	ダイズシストセンチュウに関する2、3の調査.	九州農業研究	23: 219-220.	熊本県内における分布、夏大豆における発生消長(7月に多).
199	下川三男・牛山欽司	1961	ネグサレセンチュウの一種 <i>Pratylenchus</i> sp. によるイチゴの黒色根腐について(第2報).	神奈川農試園芸分場研報(神奈川県農業試験場園芸分場研究報)	9: 75-78.	ネグサレセンチュウとPythium菌の協力の可能性. 線虫の計測値.
200	白浜賢一	1961	そ菜に対する殺線虫剤の使い方.	植物防疫	15(3) 103-105.	D-D, EDB, DBCP剤の使用法、薬害、副次的効果等を解説.
201	白浜賢一	1961	線虫防除の経済性. In: 線虫とその防除(其の2).	シェル石油株式会社農業部、東京	p. 9-32.	殺線虫剤施用による増収に関するデータを各地の試験場成績から引用. 作物: キュウリ、トマト、大根、ミツバ、ホウレンソウ、甜菜、イチジク、大豆、陸稲.
202	白浜賢一	1961	ソ菜畑に対するDBCP剤の使い方.	今月の農業	5巻6: 58-61.	薬害、施用時期等の注意.
203	末沢一男	1961	暖地のビート栽培.	農及園(農業および園芸)	36(8) 1277-	「暖地の場合は線虫のため発芽しないし、発芽しても根は肥大しない」.
204	杉 謙夫	1961	特用作物の育種.	育種(育種学雑誌)	11(2) 151-154.	甜菜のネコブセンチュウ抵抗性にふれる.
205	杉本達美	1961	土壌線虫の加温遊出法について.	北隆病虫研報(北隆病虫研究会報)	9: 90-92.	冬季に線虫(サツマイモネコブセンチュウ幼虫)・出をよくするためには、土壌をビニル袋にシャーレに入れ20℃で10日加温.
206	砂田喜与志	1961	ダイズシストセンチュウに対する抵抗性について.	日育日作北談報(日本育種学会・日本作物学会北海道談話会報)	2: 6.	未見
207	諏訪内正名	1961	物理化学的にみた殺線虫剤の効き方.	植物防疫	15(9) 391-394.	気化、拡散、ガス体の虫への作用、土壌中での薬剤の拡散、土壌水分の薬剤の拡散性への影響、土壌中での効き方.
208	鈴木一平	1961	イチゴ苗の退化現象.	今月の農業	5巻11: 102-104.	ネグサレセンチュウ害にふれる.
209	鈴木親庵・栗林茂治・植口鉄美	1961	除草剤および殺線虫剤の垂におよぼす影響.	日本臨時講演会要旨(日本蚕糸学会臨時講演会講演要旨)	19	講要
210	鈴木達彦	1961	土壌肥料と農薬.	土肥誌(日本土壌肥料学雑誌)	32(4) 163-172.	土壌の物理・化学・生物学的性質に対する農薬の影響に関する総説. 殺線虫剤もとりあげる.
211	田川憲夫・呉羽好三	1961	ダイズシストセンチュウに対するEDBの効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 75.	増収効果はあるが、線虫防除効果は期待出来ず.
212	田口啓作	1961	異種馬鈴薯の育種利用.	育種学最近の進歩	2: 32-43.	<i>Solanum famatiniae</i> , <i>S. andigenum</i> , <i>S. vernei</i> 利用による線虫抵抗性育種を含む.
213	高野十吾	1961	秋の土壌消毒.	今月の農業	5巻11: 16-19.	D-D, EDB, DBCP, クロルピクリン、カーバム剤の施用に関する注意.
214	高野誠義・川田徳平・針谷信義	1961	コンヤクスのネコブセンチュウと腐敗病との相互関係について.	関東東山病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 70.	両者に密接な関係.
215	高野誠義・織田一夫	1961	殺線虫剤の小麦に対する薬害試験について(I).	関東東山病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 71.	地温10℃前後の処理: D-D, DBCP剤で15日、クロルピクリンで20日、DBCP剤で25日後にガス抜き、播種すれば薬害なし.
216	武田和子・一戸稔	1961	Meloidodera 属線虫の発生.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 17-18.	講要
217	竹上静夫・島村和夫・赤松誠一・笹井一男	1961	暖地盛夏における畑作甜菜の発芽対策[2].	農及園(農業および園芸)	36(7) 1130-1132.	「線虫の発生地帯は、適当な防除なしには正常な栽培は不可能であろう」.
218	竹腰昭夫	1961	林業苗木を加害する線虫について.	森林防疫ニュース	10(4) 69-72.	スギ、ヒノキのネグサレセンチュウの症状.
219	竹腰昭夫	1961	林業用苗木に加害する線虫種類についての考察.	農業たより(東亜農業)	8巻5: 1-5.	愛知県、スギ、マツ、ヒノキ苗圃のネコブ、ネグサレ、外部寄生線虫.
220	竹内重之	1961	落花生の品種と増収栽培法.	農及園(農業および園芸)	36(3) 519-523.	キタネコブセンチュウ対策としての輪作にふれる.
221	田村市太郎	1961	作物病害虫診断メモ II. 虫害診断メモ.	植物防疫	15(11) 522-525.	日本における線虫の既知種のリスト、線虫及びそれらによる病徴の見分け方.
222	田村市太郎・桜井 清・国井善章・工藤三郎・川島嘉内・中川春夫・岡崎幸吉・大森秀雄・小山・佐藤昭美・山田英一・浜田・稲垣春	1961	線虫類の分布ならびに防除に関する討論会要旨.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 18-20.	同誌12巻に発表された論文を中心に、北海道、東北の線虫の分布、防除、病害との関係について論ずる.
223	田中 勇	1961	ネコブセンチュウの形態におよぼす試験管継代培養の影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 18.	講要
224	田中 勇	1961	特用作物などに対する殺線虫剤の使い方: タバコ.	植物防疫	15(3) 113-114.	クロルピクリン、D-D, EDB剤の使用法及びそれらの硝酸化作用に及ぼす影響.
225	田中 勇	1961	線虫の有無についての調査方法.	葉たばこ研究	27: 102-103.	指標植物、ベルマン法使用
226	田中 勇・福留信明	1961	タバコに対するDBCPの薬害.	植物防疫	15(4) 155-158.	タバコは本剤にきわめて弱い.
227	田中 勇・岡野秋盛	1961	植物病原菌の発育におよぼす殺線虫剤の影響.	九州農業研究	23: 193-194.	クロルピクリン、D-D, EDB剤とタバコ腰折病菌、疫病菌、黒根病菌、炭疽病菌.
228	田中修吾	1961	共立土中注液機について: 果樹、茶などの土壌病害虫防除用.	植物防疫	15(9) 399-401.	用途、特徴、構造、作業能率、使用方法等.
229	田坂耕一郎	1961	夏蒔きホウレンソウの栽培法.	農及園(農業および園芸)	36(8) 1329-	D-D, EDB, DBCP剤によるネコブセンチュウ防除を含む.
230	田瀬幸男・山本隆司・石山哲爾	1961	有機水銀化合物の殺線虫性について.	日植病報(日本植物病理学会報)	26(5) 219.	講要

231	田原虎次他	1961	土壤薬剤注入機に関する基礎的研究 II.	共立農機報告	43: 1-8.	未見
232	寺下隆喜代	1961	関西の林業苗畑における線虫病について.	森林防疫ニュース	10(4)68-69.	タイワンギリ、ヒノキ、スギ、フサアカシアで検出.
233	津軽承捷	1961	主要植物寄生性土壌線虫に関する研究. 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要.	日本植物防疫協会、東京	p. 29-31	謄写. 青森県産線虫および寄主リスト. ネコブセンチュウの生態、防除法.
234	内海千年	1961	小豆島のヒノキ耕作を省みて.	葉たばこ研究	26: 61-65.	線虫を含む.
235	渡辺折悦・諸留操・淡路航一郎	1961	秋田県における土壌線虫の発生分布と防除について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 7-8.	ネコブ、ネグサレ、ダズシストセンチュウ県下全域に分布. D-D、EDB剤処理:ネコブには有効、ダズシスト密度は収穫期に無処理の3-4倍に増加.
236	渡辺龍雄	1961	胡椒の病害.	熱帯農業	4(4) 183-186.	根腐病、ネマトーダ他.
237	山田英一・湯原巖・稲垣春郎	1961	北海道における土壌線虫の分布.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 5-6.	線虫の種類、作物の被害、検出数と土性.
238	山田 忍	1961	土壌学的立場から見た大豆シスト線虫の被害と防除対策[1].	農及園(農業および園芸)	36(3) 469-474.	土性と線虫分布、土壌侵蝕と線虫移動、土性と被害、垂直分布(特に整地との関係)、防除対策.
239	山田 忍	1961	土壌学的立場から見た大豆シスト線虫の被害と防除対策[2].	農及園(農業および園芸)	36(4) 633-636.	豆科牧草根の根腐病発生状況、線虫寄生状況と牧草収量・飼料価値.
240	山田 忍	1961	土壌学的立場から見た大豆シスト線虫の被害と防除対策[3].	農及園(農業および園芸)	36(5) 797-800.	DBCP剤の線虫防除効果、豆科牧草跡地における大豆の生育.
241	山口福男	1961	草毒の線虫に関する研究 第2報 Nothotylenchus acris Thorne の防除について.	中国農業研究	23: 49-52.	ディフテレックス乳剤以外は実用性なし.
242	山口福男	1961	イチゴを加害する線虫Nothotylenchus acris Thorne の防除について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 20-21	講要
243	山口福男	1961	ニンジンのネグサレセンチュウ(Pratylenchus sp.)とその防除について.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	3: 70.	講要. D-D剤は効果あり. EDB、DBCP剤は効果が劣る.
244	山本鉄司	1961	関東地方における大豆増収栽培法と問題点.	農業技術	16(9)395-399.	「シスト線虫の被害防止は品種と輪作が中心となる」
245	山下俊勝	1961	水田の土壌消毒と米麦作との関係(第1報).	中国農業研究	23: 33-35.	ペーバム、D-D剤はEDB剤処理区より生育収量が優れた.
246	山下幸彦・栗原徳二	1961	DBCP剤によるビートのネコブセンチュウ防除について.	九州農業研究	23: 100-102.	20kg/10 a 以上施用は被害が出る. 立毛中処理は効果不十分.
247	山崎青哉	1961	蔬菜の連作障害の原因と対策.	農及園(農業および園芸)	36(3) 573-574.	原因の一つとしてネマトーダをあげ、対策(薬剤処理)を略述.
248	柳 武 他	1961	長野県に於ける牧草生育障害の実態 第二報.	長野県農地経済部畜産課	32 pp. 6 pls.	土壌線虫 p.30-31.ネコブセンチュウ(キタ、アレナリア)、シストセンチュウ(クローバー)、ネグサレセンチュウ.
249	谷中清八・滝田泰章・星野三男・熊沢隆義	1961	殺線虫剤の作用機構(第1報).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	8: 69.	ネコブセンチュウはD-D剤30/10 a 処理区は6日後、50/10 a には3日後に殆ど生息を認めず. ネグサレセンチュウは30区は確実でなく、50/10 a で6日後に殆ど生
250	安尾 俊	1961	キューバの稲作病害.	植物防疫	15(8) 367-369.	「3月末中部マタンサス州のカルデナス付近の水田に線虫心枯病が発生していた」
251	横尾多美男	1961	たばこ線虫病に関する調査研究.	鹿児島たばこ試参考資料	88 pp.	日本及び海外のタバコ寄生の線虫の解説、防除法.
252	横尾多美男	1961	主要植物寄生性土壌線虫に関する研究. In: 昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要	日本植物防疫協会、東京	p. 25-28	謄写. イチゴ、ミカン、ビート、タバコ、ヒノキの線虫の同定、生態、防除等.
253	横尾多美男	1961	ミカンネセンチュウの生態と防除. In: 線虫とその防除(其の2).	シェル石油株式会社農業部、東京	p. 85-91.	柑橘寄生線虫のリスト. ミカンセンチュウの寄主植物、形態、生活史、被害状況、防除法(D-D、EDB、DBCP).
254	横尾多美男・古賀 孝	1961	ミカンセンチュウの地中での分布状況及び殺線虫剤の効果に関する知見.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	7: 81-83.	深さ30cmまでに多. 120 cmでも検出. DBCP、EDB乳剤の土壌灌注によって1~4月間線虫密度低下.
255	横尾多美男・古賀 孝・大丸多熊	1961	ニンジンのネコブセンチュウの薬剤防除試験.	佐賀大農業(佐賀大学農学要報)	12: 157-160.	D-D、EDB、DBCP剤.
256	横尾多美男・太田洋子	1961	On the variations of dimensions within soil nematodes. III. Dimensions of the Brevibucca japonica n. sp. found in the decayed fruit of pear in Japan with descriptions of this new species.	佐賀大農業(佐賀大学農学要報)	12: 149-156.	Rhabditida目の新種を記載. 模式産地は仙台. 属の変更が必要か?.
257	吉村清一郎	1961	九州におけるてん菜害虫とその発生生態.	九州農業研究	23:93-96.	サツマイモネコブセンチュウ(要防除)、ネグサレセンチュウ(注意)を含む.
258	湯原 巖	1961	抵抗性ダイズ品種におけるダイズシストセンチュウの発生.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭36: 18-19.	講要
259	湯原 巖・稲垣春郎	1961	ダイズ品種間におけるダイズシストセンチュウ抵抗性の差異.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 96-98.	最強:PI90763; 強:東北6号、下田不知、Ilsay;中:南部竹館、最弱:新4号.
260	湯原 巖・稲垣春郎・浅井三男	1961	北海道で発見されたHeterodera trifolii.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	12: 104-105.	芽室町、月寒の白クローバーから. 形態観察を行う.
261	Anon.(農林省)	1961	殺線虫剤EDBの技術提携認可.	植物防疫	15(1) 45.	久島化学工業株式会社とダウ・ケミカル社. 生産量は月間40 t.
262	Anon.(昭和35年度中国地域農業試験場試験打合せ病害部会・虫害部会)	1961	中国地域蔬菜病害虫防除基準.	中国農業研究	19: 77-106.	十字花科蔬菜のネコブセンチュウ類 p. 82、イチゴのセンチュウ類 p. 100-101、ゴボウのネコブ、ネグサレセンチュウ類 p. 105、ヤマミモのネコブセンチュウ類 p. 106.
263	Anon.(茨城農試)	1961	線虫に関する試験研究.	茨城農試創立60周年記念業績集	p.159.	ダイズシストセンチュウ、コンニャクのネコブセンチュウ防除.
264	Anon.(北海道病害虫防除史編さん委員会)	1961	北海道における農作物病害虫防除の歩み.	北海道植物防疫協会、札幌	106 pp.	座談会(出席者:板内吉彦、桑山寛、田中一郎、岩垂悟他12名) p. 5-73. 追記に「線虫のハイロット防除」を取りあげる(遠藤和衛) p. 75-77. 病害虫に関する年表 p. 81-106.
0		1962	昭和37年(1962)			
1	阿久津喜作	1962	大根栽培がネコブセンチュウの密度に及ぼす影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 29.	講要
2	阿久津喜作・永沢 実	1962	大根栽培がネコブセンチュウの密度に及ぼす影響について.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	18: 78-84.	謄写. 美濃早生、時無大根の春まきでは密度が著減、秋まきでは影響なし.
3	青木 朗・森田修二	1962	土壌および雑草に及ぼすNematocideの影響.	京都府大学術報告(京都府立大学学術報告) 農	14: 106-109.	ペーバム、EDB剤施用による土壌水位の変化、アンモニウム及び硝態態窒素の消長、殺菌効果.
4	知久武彦・今村昭二	1962	ヤマゴボウ黒腐病について.	植物防疫	16(7) 283-286.	ネコブセンチュウの寄生はあるが、主因はFusarium菌.
5	近岡一郎・和泉清久	1962	ネコブセンチュウに対する殺線虫剤の殺卵効果と土壌温度との関係試験.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9: 68.	D-D、EDB剤は5、10℃で11日間、15℃では2-6日間の燻蒸で効果. DBCP剤の効果は劣る.
6	近岡一郎・和泉清久	1962	低温時処理を中心とした殺線虫剤の効果について(第1報).	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 30.	講要
7	近岡一郎・高橋正男	1962	土壌線虫パイロット防除の実態調査.	植物防疫	16(11) 457-462.	実施農家で以下の項目を調査. 防除時期、圃場の土壌状況、注入機具と注入深、薬剤施用前後の耕起と鎮圧、ガス抜作業状況、薬剤使用量と処理方法、処理後の効果(収量、品質)、葉害、他の病害虫の増減、農家の意見(価格、処理時期).
8	千代西尾伊彦	1962	ペールマン法による合成洗剤の添加とネコブセンチュウの游出数について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 28.	講要
9	江原昭三	1962	線虫類(Nematoda). In: 動物系統分類学(内田 亨監修)4. 袋形動物.	中山書店、東京	pp. 90-119, 141-191.	形態、生活史、雌雄性、生理、宿主との関係、系統、分類. 動物寄生、植物寄生、自活性線虫を扱う. p. 119-141の発生は項はNo.62-177を参照.
10	家入 章	1962	サツマイモネコブセンチュウの寄生様相について.	九州農業研究	24: 175-176.	線虫寄生根を土中に埋没し深度別に幼虫分布、ゴール形成数を調査. 35cmに深に埋没するとゴール形成少.
11	藤井新太郎	1962	岡山県におけるてん菜主要病害とその対策.	農業技術	17(8)366-368.	ネコブセンチュウは早蒔きするほど多発.
12	藤井新太郎	1962	岡山県におけるてん菜主要病害とその対策(2).	農業技術	17(9) 416-418.	ネコブセンチュウ防除:D-D、EDB、DBCP剤などを播種後10-15日以前に処理.
13	藤村俊彦	1962	作物病害虫の試験研究史 第3節 害虫に関する試験研究史. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 643-655.	くわ線虫の防除. 大正6年、大正11年、昭和3-5年、昭和8-11年.
14	深野 弘	1962	イネ線虫心枯病の生態および防除に関する研究.	福岡農試特報(福岡県農業試験場特別報告)	18: 1-108, 3 pls.	研究史. 発生の沿革と分布、病名、経済的重要性、病徴および被害、病原線虫の寄生・加害、病原線虫の越冬および伝染経路、水稲品種の抵抗性、防除法.
15	深野 弘	1962	稲線虫心枯病の防除法.	農及園(農業および園芸)	37(4) 689-692.	線虫の伝染経路、発生防止策(種子処理)、被害軽減策(パラチオン散布、施肥).
16	深沢永光	1962	新しい農業の種類と使い方: 殺線虫剤.	農業技術研究	16巻7: 30-31.	DBCP、D-D、EDB剤の使用法.

17	深沢永光・鈴木当治	1962	イチゴの土壤線虫とその防除法.	農耕と園芸	17巻14: 55-56.	被害、防除(薬剤、健全苗の確保).
18	深沢永光・小林義明・中田正彦	1962	静岡県における植物寄生性線虫の種類とその分布について.	静岡農試報(静岡県農業試験場研究報告)	7: 89-105.	ネコブ、ネグサレセンチュウが最重要種。ネコブセンチュウ他の解説、作物別の検出線虫と発生地の表等を伝染経路、被害機構、苗代形式と発病、施肥量と発病並に被害、薬剤による種別消毒法、発病後の対策。
19	五味美知男	1962	稲の線虫心枯病とその防除法.	農及園(農業および園芸)	37(12) 1949-1952.	
20	五味美知男	1962	稲の線虫心枯病の防ぎ方.	今月の農業	6巻5: 59-62.	生活史、冷水温湯浸漬法、種籾の薬液浸漬。
21	五味美知男・中里肇二	1962	稲線虫心枯病に関する研究 第4報 水銀剤による処理効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9: 73.	ルベロン乳剤 500倍液24時間浸漬は、冷水温湯浸漬と同率。
22	後藤 昭	1962	2,3ネグサレセンチュウのEDB感受性について.	応動昆虫学会大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 29.	講要
23	後藤 昭・大島康臣	1962	九州の線虫相より(2).	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	8: 43-44.	Pratylenchus loosi (チャ), P. coffeae (カンキツ), P. zaeae (陸稲、チャ、サトウキビ), P. vulnus (ビワ), Radopholus oryzae (水稲), Tylenchorhynchus spp. (ダイズ、サトウキビ)。
24	五島善秋	1962	線虫に対する石灰窒素の殺虫効果(基礎試験). In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素.	石灰窒素普及会、東京	pp.9-13.	ポット試験 0.5-1%の風乾土混合によりネコブセンチュウ生存数皆無となる。
25	橋本平一	1962	福岡県下の林業苗畑における線虫について2,3の観察.	日林誌(日本林学会誌)	44 (9) 248-251.	イシユク、ネグサレ、ネコブ、ユミハリ、ハセンチュウを検出。
26	引地直至	1962	リンゴ・モモの線虫類防除に関する2,3の試験について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	13: 180-183.	モモのネグサレ、ネコブ、ピンセンチュウ、リンゴのネコブセンチュウにDBCP剤施用。濃厚液の土中点注より、希釈液の溝灌注がよい。
27	平野和弥	1962	土壌中のネコブセンチュウ卵の検出法 1. 卵のうの顕微鏡条件について.	千葉大園学報(千葉大学園芸学部学術報告)	10: 81-88.	サツマイモネコブセンチュウ卵嚢にアンチホルミン使用。
28	平野和弥	1962	ネコブセンチュウ卵の土壌中からの採卵法に関する研究 第2報 土壌中卵の検出.	日植病報(日本植物病理学会報)	27(5) 275.	講要
29	平野喜代人・岡本康博	1962	暖地における甜菜根こぶ線虫病の発病と被害.	日植病報(日本植物病理学会報)	27(5) 65.	講要
30	広瀬健吉・伊藤喜隆	1962	殺線虫剤の低温時における効果について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9: 83.	D-D, EDB, DBCP剤を用いた土壌処理の室内試験。
31	堀 正侃	1962	農業展望.	植物防疫	16(1) 1-3.	線虫対策の最大のネック:防除薬剤の価格問題が一般化に影響。
32	保坂義行	1962	殺線虫剤の使用とトマト萎ちよう病発生との関係.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9:32.	EDB剤はコロピクリンにまさる発病株率低減効果。
33	一戸 稔	1962	永年作物における線虫の被害.	農業技術	17(10) 471-475.	線虫の種類、加害生態、被害、果樹の忌地と線虫(DBCP剤施用を含む)。
34	一戸 稔	1962	土壤線虫の話題をひろう.	農業	9巻4: 45-50.	永年作物の線虫、甜菜の線虫被害と紙筒移植法、イネに寄生するRadopholus oryzae。
35	一戸 稔	1962	今年の殺線虫剤の新研究.	今月の農業	6巻1: 87-90.	果樹に対するDBCP剤の効果等。
36	一戸 稔	1962	新しい線虫(メロイドデラの分布と被害).	今月の農業	6巻4: 55-58.	形態、分布。
37	一戸 稔	1962	飼料作物の線虫の害.	今月の農業	6巻9: 84-97.	検出線虫、被害。
38	一戸 稔・中国和年・武田和子	1962	飼料作物における線虫調査.	応動昆虫学会大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 27.	講要
39	飯島 鼎・阿部善三郎・平野寿一・本橋精一	1962	接木苗によるトマト萎凋病の防除.	日植病報(日本植物病理学会報)	27(2) 69.	講要:ネコブセンチュウ抵抗性品種にふれる。
40	福垣春部・湯原茂・桜井 清	1962	数種殺線虫剤のダイズシストセンチュウに対する殺虫効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	13: 178-179.	D-D, EDB剤はシスト内の卵・卵嚢にも効果。
41	井上 寿	1962	ダイズシストセンチュウに関する試験および調査.	北海道農業試験場十勝支場	229 pp.	踏写。発生の沿革(十勝地方における発生の沿革、分布)、寄生による形態の差異、土壌中での分布、年間発生消長、被害程度、栽培方法と被害、作付様式と線虫密度、施肥と被害、薬剤防除(D-D, EDB, DBCP, DDT, BHC, アルドリ、ディルドリン、ヘプタクロル、シストゴン、N-224, ベーバム、VC-13, DDVP, PCNB, NNR-13M, ネマクロル)。
42	井上 寿	1962	ダイズシストセンチュウに関する調査 第14報 マメ科植物に対する寄生性.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	13: 125-126.	フジマメ、ラッカセイ、ソラマメ、ハギ、イタチハギ及びクズ属の供試植物には寄生せず。
43	井上 寿・大上秀雄	1962	ダイズシストセンチュウに関する調査 第15報 寄主作物による線虫の形態の差異.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	13: 126-127.	ダイズ、アズキに比して、インゲンでは小型のシスト。
44	井上 寿・大上秀雄・中村日出夫	1962	ダイズシストセンチュウに関する調査 第16報 幼虫の侵入時期と作物の被害との関係.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	13: 127-128.	生育初期に寄生を受けるほど生育・収量に影響大。
45	井上 寿	1962	ダイズシストセンチュウに関する調査 第17報 根・菌の接種との関係.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	13: 128-129.	ダイズ、アズキ、インゲンの黄変度、寄生度、根腐菌着生程度、収量は無接種時と差なし。
46	井上 巖	1962	Studies on the life history of Chordodes Japonensis, a species of Gordiacea III. The mode of infection.	Annot. Zool. Japon. (Annotations Zoologie Japonenses)	35(1) 12-19.	本ハリガネムシの感染は経皮的より中間寄生をカマキリが摂食することによりおこる。
47	井上 巖	1962	線形虫類 Nematomorpha (または Gordiacea). In: 動物系統分類学 (内田 亨監修) 4. 袋形動物.	中山書店、東京	p. 192-220.	形態、発生、生態・生殖、生理、分布、類縁関係、分類。
48	井上義孝・竹内昭十郎・駒田 日	1962	ダイコン萎黄病の薬剤防除.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	4: 60.	講要: D-D, EDB, クロピクリンも効果あり。
49	石橋信義	1962	線虫の繁殖に關するもの.	農業技術	17(2) 68-72.	孵化、遊出(温度、pH、化学的要因、根部拡散物質等)、寄主作物への侵入(誘引、侵入)、寄主植物の生育(線虫の生育、性比の分化)、産卵(ネコブ、シストセンチュウ)、繁殖の自律性。
50	石橋信義・杉本達美	1962	寄主作物の生育と線虫の繁殖能力.	応動昆虫学会大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 28.	講要
51	石川正示・宮原万芳・加藤 明・松本定夫	1962	各種殺線虫剤のダイズシストセンチュウに対する防除効果について.	東北農業研究	4: 84-87.	D-D, EDB, DBCP
52	石川元一	1962	オカボのネグサレセンチュウ.	今月の農業	6巻5: 63-65.	症状、防除(D-D, EDB, DBCP剤)。
53	石川元一・高野光之丞・村山正	1962	苗木の線虫防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9: 78.	オウトウ苗木にDBCP剤。51日目の線虫・出数は減少。苗木の生育は無処理と同じ。
54	伊藤喜隆	1962	リンゴの土壤線虫の被害とその防除.	農業	9巻5: 58-63.	ネコブセンチュウの被害が最も大。他にMeloidodera、ピンセンチュウ、ワセンチュウ。
55	伊藤喜隆	1962	リンゴの根こぶ線虫の被害と対策.	果実日本	17巻1: 38-40. 80.	被害の状況、発生地における諸因子、対策(D-D, EDB, DBCP剤)。
56	伊藤喜隆	1962	りんごどぶどうの線虫とその防除.	今月の農業	6巻4: 90-93.	主にネコブセンチュウの生態、DBCP剤による防除。
57	伊藤喜隆・広瀬健吉	1962	ごぼうの黒変症状(ヤケ)とその防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9: 74.	殺線虫剤処理の効果はなく、病菌が原因と推測。
58	岩崎藤助	1962	蜜柑の忌地現象の原因と対策.	果実日本	17巻1: 41-43.	線虫被害対策を含む。
59	弥富三三	1962	殺線虫剤の作用機構.	植物防疫	16(10) 421-422.	D-D, EDB, DBCP, クロピクリン、臭化メチル剤の物理化学性、環境要因の防除効果に及ぼす影響、殺線虫機構。
60	弥富三三	1962	柑橘に寄生する線虫とその防除.	和歌山の果樹	13巻9: 33-37.	ミカンセンチュウの形態、生態、被害症状、寄主植物、薬剤防除。
61	和泉清久	1962	土壤線虫の低温時処理について.	農業	9巻1: 45-50.	処理の問題点、蒸気圧、卵に対する効果、燻蒸日数、薬害、被覆。
62	和泉清久	1962	D-Dの秋処理について(新農業相談室).	農業	9巻3: 72-73.	地温と効果の関係を解説。
63	和泉清久	1962	土壤の種類と殺線虫剤の効果.	今月の農業	6巻4: 26-29.	粘土質、砂土等における施用上の注意。
64	和泉清久	1962	殺線虫剤の秋季施用の注意.	今月の農業	6巻11: 47-50.	D-D, EDB, DBCP剤について。
65	和泉清久・近岡一郎	1962	低温時処理を中心とした殺線虫剤の効果について(第2報).	応動昆虫学会大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 30.	講要
66	梶浦 実・一戸稔・大野正夫・浜川潤一他	1962	果樹園の土地生産力増強報告抄録(3): 農林水産業における生産力増強の可能性.	農及園(農業および園芸)	37(10) 1582-1586.	日本農学会大会シンポジウムの抄録。イチジク、リンゴ、モカン、ナン、ブドウ、モモの線虫に関する話題を含む。
67	柿崎泰彦・小野昭・千葉陸雄	1962	桑のネコブセンチュウについて(1)寄生の実態について.	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東北支部研究発表会講演要旨)	16: 48.	講要

68	金沢 純・佐藤六郎	1962	メチルプロマイドとクロロピクリンのガスロマトグラフィ。	農業生産技術	6: 43-44.	カラム充填剤と装置、操作条件等。
69	金子 武	1962	土壌線虫と茶樹の関係。	茶	15巻12: 16-17.	線虫相、防除の解説。
70	金子 武	1962	茶の苗木と線虫とその防除。	今日の農業	6巻4: 16-20.	ネグサレ、ネコブ、サヤワセンチュウの被害、防除。
71	柏木正名	1962	甜菜紙筒移植法によるキタネコブ線虫の被害回避効果。	ビート生産技術研究会報告	38 pp.	効果あり。
72	桂 琦一	1962	大根黒腐病の発生地土壌から得られるネコブセンチュウの保菌に関する知見。	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	4: 47-49.	病原菌Xanthomonas campestrisを経口的に保菌。
73	川田惣平・坪 存	1962	殺線虫剤による土壌処理の肥効効果(予報)。	関東病虫研報(関東東山病虫害研究会年報)	9: 82.	トロロアオイにEDB剤(32/10 a)施用。薬剤処理区では施肥量の多い区がネコブセンチュウ寄生指数小、無施肥区では逆の傾向。
74	河合一郎	1962	苺の病害とその防除。	農及園(農業および園芸)	37(1) 49-52.	芽線虫、葉枯線虫、根腐線虫の病徴、防除法を含む。
75	河村貞之助	1962	菊の線虫性葉枯病の防除法。	農及園(農業および園芸)	37(3) 576-577.	線虫の生活史、苗の温湯処理、ホリドール、サッセンの散布。
76	河村貞之助	1962	キクの病害虫の防ぎ方。	植物防疫	16(9) 390.	葉枯線虫(ホリドール、サッセン散布)、立枯れ症状(フザリウム菌とネグサレセンチュウの混合感染の可能性)を含む。
77	河村貞之助	1962	種イモ(ヤマトイモ)のネコブセンチュウ消毒法。	今日の農業	6巻6: 16-19.	サッセン浸漬による防除。
78	河村貞之助・平野和弥・渋谷正夫・中島三夫	1962	ロタン酢酸エステル類の応用に関する研究。特にやまいもの根腐線虫に対する防除効果について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 30-31.	講要
79	川島嘉内	1962	土壌条件と線虫寄生との関係 3. 粘土質土壌におけるネコブセンチュウの寄生について。	北日本病虫研報(北日本病虫害研究会報)	13: 119-120.	砂土に近い粒子構成の土壌では寄生多。垂直分布を含む。
80	川島嘉内	1962	Pratylenchus penetransによる薬用ニンジン根の被害について。	北日本病虫研報(北日本病虫害研究会報)	13: 129-130.	忌地の原因は上記線虫。D-D剤30/10 aは防除効果なし。
81	川島嘉内	1962	水稲の根を被害するRadopholus oryzaeの生態。	植物防疫	16(2)57-59.	本邦における発生、福島県における分布、根部侵入と稲作期の消長、水田の乾湿と線虫密度、水稲の被害、線虫の雑草に対する寄生性。
82	川島嘉内	1962	水稲に対する土壌線虫の防除法。	農業	9巻6: 42-44.	DBCP剤。
83	川島嘉内・堀 呈治	1962	Radopholus oryzaeによる稲の幼苗期の被害について。	北日本病虫研報(北日本病虫害研究会報)	13: 120-121.	苗の根長、草丈が短く、生育が遅れる。
84	川島嘉内・堀 呈治	1962	Radopholus oryzaeの防除に関する一考察。	北日本病虫研報(北日本病虫害研究会報)	13: 174-175.	D-D、EDB剤は乾田の防除効果は高、半乾田・湿田では効果なし。
85	気賀沢和男・石橋信義	1962	栽培様式と土壌線虫密度。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 28-29.	講要
86	気賀沢和男・川島嘉内	1962	イネセンチュウの分布調査。	北陸病虫研報(北陸病虫害研究会報)	9: 72.	8月下旬から9月下旬に密度増。標高300m以上の水田には少ない。
87	木場三郎	1962	植物病原の診断法。In: 植物病理実験法(明日山秀文・向 秀夫、鈴木直治編)。	日本植物防疫協会、東京	pp. 129-171.	病原線虫の同定 p. 154-155. 形態及び体形表示法の簡単な記述。
88	小林源二・馬場正	1962	D-Dの殺虫力について 第1報 イエバエの幼虫及 に対する効力。	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	4: 27-29.	殺虫力を認める。
89	小林政明	1962	石灰窒素による大豆シスト線虫防除試験。In: 線虫(ネマトード)防除と石灰窒素。	石灰窒素普及会、東京	pp. 30-34.	未見
90	小宮書之助・工藤 馨・中沢文男	1962	畑作物の病害虫防除に関する研究: 大豆萎黄病に関する研究(1)。	明大科技研紀要(明治大学科学技術研究所紀要)	1: 177-197.	実態調査、薬剤防除(D-D)施用と線虫害。
91	近藤鶴彦	1962	三重県産植物寄生線虫。	三重植物防疫	1(1) 47-59.	謄写。11属15種を記録。
92	近藤鶴彦	1962	ネコブセンチュウの種類と作付体系による被害の変動。	農耕と園芸	17巻14: 57-59.	線虫の種類、寄生植物。
93	近藤鶴彦・山本敏夫	1962	伊勢湾台風による長期冠水地帯の植物寄生性線虫について。	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	4: 1-5, 70-71.	2カ月の冠水によってもネコブセンチュウは死滅せず。寄生性も不変。ダイズシストセンチュウも同様。
94	高野光之丞・村上正雄・石川元	1962	ムギ類に対する殺線虫剤の影響について。	関東病虫研報(関東東山病虫害研究会年報)	9: 81.	播種当日及び播種5日目以降のD-D、EDB剤施用で小麦の発芽率低下。
95	越中俊夫・金沢純・佐藤六郎	1962	殺線虫剤EDBの定量法。	農業生産技術	6: 54-56.	モ/エタノールアミン法、亜鉛法。
96	国井喜章	1962	殺線虫剤。	植物防疫	16(1) 17-19.	基礎毒性、選択毒性、施用、整地、水封・鎮圧、持続効果、施用時期、製剤形態、薬剤との混用、将来の問題。
97	国井喜章	1962	水田の線虫被害。	今日の農業	6巻6: 79-82.	イネネモグリセンチュウの分布(国内、国外)等。
98	国井喜章	1962	高温時における殺線虫剤施用上の注意。	今日の農業	6巻8: 80-82.	D-D、EDB、DBCP剤について。
99	国井喜章・石橋信義	1962	ネコブセンチュウの産卵ならびに子発生時の温度反応。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 28.	講要
100	蔵納久男	1962	耕種的環境によるミカンセンチュウの季節的消長調査。	静岡相模試験報(静岡県カンキョウ試験場報告)	昭37: 74-79.	謄写。草生、敷草、裸地の比較。
101	呉羽好三・関谷一郎	1962	ネコブセンチュウに対する殺線虫剤施用前の耕起法と防除効果との関係。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 29-30.	講要
102	呉羽好三・関谷一郎	1962	DBCP剤による桑のネコブセンチュウの防除法。	長野農試時報(長野県農業試験場時報)	44巻3: 19-23, 2 pls.	桑園における線虫の垂直分布、処理時期、処理方法、効果。
103	呉羽好三・柴本精	1962	殺線虫剤施用前の畑状態と処理後における鎮圧効果について。	関東病虫研報(関東東山病虫害研究会年報)	9: 69.	D-D、EDB剤。無耕起施用が耕起後鎮圧にまさる効果。
104	牧 良忠・山口福男	1962	ネグサレセンチュウに関する研究 第3報 殺線虫剤による被害防除効果について。	兵庫農試時報(兵庫県農業試験場研究報告)	9: 55-57.	ニンジン、ダイコンのキタネコブセンチュウにD-D、EDB剤。サツマイモにD-D、EDB、DBCP、ドローン、ペーパム剤施用。植物防疫 16(11) 484, 1962 に抄録。
105	松原芳久・下方満治・中里晴夫	1962	山口県下におけるネコブセンチュウの種類とその被害。	植物防疫	16(5) 199-202, 1 pl.	ジャワ、サツマイモ、アレナリア、キタネコブセンチュウの4種。寄生植物、被害程度(根腐指数)、採集地の表。
106	松田 栄・綿原孝夫・吉近 学	1962	促成苺の品種と栽培に関する試験。	農及園(農業および園芸)	37(2) 401-402.	線虫を含む。耐虫性に言及。
107	松中昭一	1962	ケミカルコントロールの生化学的側面(その2): 農業生化学講座 18。	農業技術	17(11) 530-536.	殺線虫剤の土壌硝化作用への影響にふれる。
108	三浦春夫・大沼彪	1962	殺線虫剤によるダイズシストセンチュウの防除効果。	北日本病虫研報(北日本病虫害研究会報)	13: 176-178.	D-D、EDB剤30/10 a施用。処理2年目でも増収。シスト数は処理当年内に無処理との差なくなる。
109	三浦 脩	1962	植物寄生性土壌線虫の生態と防除。	グリーン研報集(グリーン研究報告集)	2: 1-5.	講要
110	三浦 脩	1962	植物寄生性土壌線虫について: 生態と防除。	グリーン研報集(グリーン研究報告集)	2: 5-23.	前記講演のテキスト。付録にゴルフ場の芝生に寄生する線虫のリスト。
111	森川 修	1962	サツマイモネコブセンチュウの走化性について。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	6(1) 34-38.	好適寄主の根に幼虫が集まる。誘引は根の近くで、その他では無方向性の動き。
112	森川 修	1962	サツマイモネコブセンチュウの幼虫の走化性とpHとの関係。	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	4: 69.	講要。pH 3.5に特異的な誘引。
113	森川 修	1962	殺線虫剤の作用機構に関する研究(第2報)。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 31.	講要
114	森田 儒	1962	花卉病害の問題点と防除(2) 静岡県を中心として。	農業技術	17(2) 64-67.	水仙のクセンチュウの温湯処理(50°Cに20~30分)を含む。
115	森田 儒	1962	カーネーションの立枯病とその防ぎ方。	植物防疫	16(8) 346.	フザリウム菌とピンセンチュウの複合感染の可能性あり。
116	森田 儒・大沢高志	1962	カーネーションの立枯病(第1報)原因調査と防除。	日植病報(日本植物病理学会報)	27(2) 70.	講要。ピンセンチュウを検出。
117	守田美典・望月正己	1962	Radopholus spp.の時期別寄生数について。	北陸病虫研報(北陸病虫害研究会報)	10: 63-64.	7月17日、9月25日にピーク。
118	守田美典・望月正己	1962	ネコブセンチュウの低温時処理効果について。	北陸病虫研報(北陸病虫害研究会報)	10: 92.	積雪前にD-D、EDB、DBCP剤施用。翌年2作目の甘藷 46-68%増収。
119	長岡伊三郎	1962	石灰窒素による大豆のシスト線虫防除試験。	石灰窒素普及会、東京	pp. 25-29.	ポット試験。大豆の発芽障害なく、線虫にも効果。
120	永沢 実・堀江典昭	1962	前作物栽培末期の殺線虫剤処理による影響と効果。	関東病虫研報(関東東山病虫害研究会年報)	9: 80.	D-D、EDB剤はナスに薬害。DBCP剤はナス、キュウリに薬害なし。
121	永沢 実・堀江典昭	1962	前作物栽培末期の殺線虫剤処理による影響と効果。	東京農試時報(東京都農業試験場特別報告)	18: 74-78.	謄写。D-D、EDB、DBCP剤。
122	永沢 実・河合一郎・本橋精一	1962	春作物に対する殺線虫剤の処理からガス抜きまでの日数と薬害。	東京農試時報(東京都農業試験場特別報告)	18: 63-74.	謄写。トマト、ナス、キュウリのD-D、EDB、DBCP剤施用結果。
123	中島三夫・岡田和夫	1962	イネシラレセンチュウ防除に関する研究: 特にロタン酢酸誘導体(SASSEN)の効果と薬害について。	東京獣医畜産誌(東京獣医畜産学雑誌)	12: 42-50.	線虫・種粉の浸漬効果。哺乳動物・魚類に対する毒性。

124	中島三夫・島田和夫・山中国夫・河村貞之助	1962	ロダン酢酸エステル類の基礎的研究.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37. 30.	講要
125	仲宇佐達也・栗原茂次・橋本貞夫	1962	トマト連作害の原因と対策.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	18. 203-208.	勝野. 萎凋病とネコブセンチュウが原因. 土壌消毒及び線虫抵抗性品種Anahuの台木利用を試験.
126	仲宇佐達也・栗原茂次・橋本貞夫	1962	トマト連作害の原因と対策.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭37春: 27	講要
127	仲宇佐達也・田村光一郎・栗原西沢 務	1962	ナスの連作害と土壌消毒の効果.	農及園(農業および園芸)	37(2) 399-400.	連作及びD-D剤処理時の収量を比較.
128	西沢 務	1962	カーテシアン・ダイバーによる数種植物寄生線虫の呼吸量の測定.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37. 27-28.	講要
129	織田一夫・高野誠義	1962	殺線虫剤の小葉に対する薬害試験(続報).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9: 79.	土性、薬害の出なくなる薬剤施用後日数.
130	岡部広二	1962	苗畑の土壌線虫について.	青森林友	昭37年12. 1-7.	形態、生殖と発育、被害、薬剤防除等を解説.
131	岡部広二	1962	林業苗畑の線虫病の一例.	林業技術研究集報. 青森県林局	p.30-34.	主にネグサレセンチュウ. 被害苗の伸長.
132	岡田正順	1962	花卉栽培における田畑輪換および土壌消毒の利用.	農及園(農業および園芸)	37(1) 240-244.	菌類、線虫、ネダニを対象. 薬剤はクロロピクリン、D-D、EDB. カーネーション、マーガレット、キク、アスター、グラジオラス、ジャクヤク、シクラメン、スイセンを扱う.
133	岡田利承・森 哲郎	1962	殺線虫剤D-Dの拡散とその防除範囲.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37. 30.	講要
134	岡本 弘	1962	早期水稲の種もみ消毒.	植物防疫	16(3) 133.	線虫心枯病対策としての温湯消毒を含む.
135	岡野秋盛・本田 暢苗・福留信明	1962	殺線虫剤による土壌処理がタバコの生育に及ぼす影響.	九州農業研究	24: 179-180.	クロロピクリン、D-D、EDB剤施用. 初期生育は抑制されるが、中期以降は生育盛んとなり、増収.
136	恩田 清	1962	病害虫の防除 第7節 園芸地帯における病害虫防除の発達 第1項松江市津田地区における「そ菜」病害虫の防除発達. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 490-496.	殺線虫剤の効果を確認したのは昭和27年.
137	小野邦明・赤沢 徹	1962	線虫捕食菌に関する研究 第・報 Arthrobotrys conoides, Dactylella ellipsoidea の生長と培地の組成.	日植病報(日本植物病理学会報)	27(5) 262-263.	講要
138	小野邦明・大島 俊市	1962	線虫捕食菌に関する研究 第・報 Arthrobotrys conoides, Dactylella ellipsoidea の生長と温度、pHおよび栄養.	日植病報(日本植物病理学会報)	27(2) 89.	講要
139	大森秀雄・佐藤 昭美	1962	ダイズシストセンチュウに関する研究(2) ダイズシストセンチュウの水平・垂直分布.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	13: 121-123.	作条に近い所、深さ10-25 cmにシスト多.
140	大島康臣・後藤 昭	1962	2, 3の九州産Tylenchorhynchus属線虫(Nematoda: Tylenchida)について.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	8: 44-47.	T. clyatoni(福岡県のツツジ)、T. spp.(熊本のダイズ、沖永良部島のサトウキビ)の形態.
141	大島康臣・後藤 昭	1962	日本産Tylenchorhynchus claytoniに関する2, 3の知見.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37. 27.	講要
142	太田朋子・松村 清二	1962	ビートとBeta procumbens との雑種について.	育種(育種学雑誌)	12(3) 196-197.	講要. 後者は線虫抵抗性
143	太田勇吉・井上 敏	1962	杉苗に寄生するPratylenchus属線虫の防除 I. 低地温期の土壌燻蒸処理とビニール被覆の併用の効果.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	14: 92-95.	ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウにD-D施用.
144	大浦清介	1962	時代別病害虫の被害状況. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 1-44	大正3年(1914)野津六兵衛が初めて桑の生育不振が線虫の害と確認 p. 39.
145	大浦清介	1962	病害虫の防除 第5節 昭和前期時代(昭和元年~20年). 第3項防除の啓蒙. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 302-323.	桑園の線虫防除 p. 322-323.
146	大浦清介	1962	病害虫の防除 第6節 昭和時代後期(昭和21年以降). 第3項 病害虫の防除奨励. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 469-490.	昭和35年度土壌線虫検診防除計画 p.482-484.
147	大浦清介	1962	病害虫の防除 第7節 園芸地帯における病害虫防除の発達. 第5項土壌線虫防除事業. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 509-510.	収量調査結果(ニンジン、ハクサイ、カンラン)及び線虫防除による収益を表として示す
148	尾添正雄	1962	農業及び防除器具. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 511-592.	殺線虫剤 p.547-548. 土壌消毒機 p.583-584.
149	尾添 茂	1962	作物病害虫の試験研究史 第1節 概説. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 623-628.	土壌線虫は昭和32年から.
150	三枝敏郎	1962	ネコブ線虫の防除法.	農及園(農業および園芸)	37(2) 385-388.	輪作、混作、抵抗性品種の利用、施肥の改善、グラジオラス球根の温湯処理、殺線虫剤施用.
151	齊藤 肇・松本定雄	1962	殺線虫剤(D-D)の使用時期に関する試験.	日蚕関西講要(日本蚕糸学会関西支部合同研究発表会講演要旨)	25: 11-12.	講要
152	齊藤 敬・呉羽好三・大槻 昭・小林和男・関谷一	1962	桑のネコブセンチュウ(Meloidogyne arenaria)に対するDBCP剤の施用法について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	9:77.	濃厚液の手動機注入より希釈液の多量灌注が効果. 4月中下旬の発芽前処理が適当
153	齊藤靖雄	1962	殺線虫剤注入器でクロロピクリンは使えるか.	植物防疫	16(6)265.	土壌消毒器の使用法及び使用後の洗浄、整備を解説.
154	酒井久夫・吉村 清一郎	1962	Stunt nematodeによる“つづじ”の被害について.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	8: 50-51.	ナミシクセンチュウ(Tylenchorhynchus claytoni): 病徴、防除(クロロピクリン、D-D、ナマヒューム、ペーパー).
155	佐久間忠雄	1962	イチゴの採苗時期と育苗法.	農及園(農業および園芸)	37(9) 1465-	芽線虫防除(ホリドール散布)にふれる.
156	桜井 清・湯原 敏・木村 宏・高倉重義・堤 正明・榎垣春郎	1962	殺線虫剤処理によるテンサイのキタネコブセンチュウの防除.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	13: 33-35.	D-D、EDB剤が高い効果. DBCP剤は線虫密度低下程度が少ない.
157	桜井 清・湯原 敏・山田英一	1962	ゴボウに発生したネグサレセンチュウとその防除.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	13: 179-180.	D-D剤60%/10 a 施用の効果が優れ、DBCP剤では薬害
158	佐々木隆太・木村 宏・高倉重義・相山優光	1962	キタネコブセンチュウによるテンサイの被害量.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	13: 31-33.	線虫数とテンサイ生育は逆相関. 根中糖分、純糖率には線虫寄生の有無による差なし.
159	佐藤昭美・大森 秀雄	1962	土壌の種類および低温時処理による殺線虫剤の効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	13: 175-176.	ニンジンのネコブセンチュウ防除. EDB剤は火山灰土で、D-D剤は砂土で効果小. 両剤とも低温期(11. 3月)に使用可.
160	佐藤正人・猪狩 俊夫	1962	土壌線虫防除剤の使用試験.	造林技術研究集報(前橋県林局)	1961: 80-87.	線虫記述なし. D-D、EDB剤施用により苗の生育増大.
161	清家義明	1962	Helicotylenchus nanusの抽出率について.	愛媛農試研報(愛媛県農業試験場研究報告)	2: 81-83.	ベルマン法、篩別法、Seinhorst法の比較. 第2法の後の第3法使用が好成績
162	関川 清	1962	石灰窒素による人参の根腐線虫防除試験. In: 線虫(ネマトダ)防除と石灰窒素.	石灰窒素普及会、東京	p. 13-18.	DBCP剤と同程度か、上回る効果. 同剤施用時と収支計算結果を比較.
163	関谷一郎・呉羽好三	1962	殺線虫剤注入前の耕起と効果について.	植物防疫	16(7) 289-294, 1 pl.	D-D、EDB剤とネコブセンチュウ. 無耕起又はロータリー耕の後で深さ10~15cmに注入すると高い効果.
164	関谷一郎・呉羽好三・早川広美・中沢富富・柴本 精	1962	殺線虫剤注入前の耕起方法とネコブセンチュウ防除効果との関係について.	長野農試研究集報(長野県農業試験場研究集報)	5: 270-288.	キタネコブセンチュウにD-D、EDB剤施用.
165	柴本 精・呉羽好三・田川憲夫	1962	ダイズシストセンチュウの発生消長と大豆連作との関係について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37. 29.	講要
166	渋谷正夫・井上 頼数	1962	ナスの連作による生育障害とその防除について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭37春: 27	講要. ネコブセンチュウが原因.
167	渋谷正夫・岡田正順・真家丈夫	1962	キクの連作土壌の生育障害とその防除について(第2報).	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭37春: 43-44	講要
168	繁浪和夫	1962	作物別病害虫の発生と被害状況. In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編).	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 45-145.	心柱線虫病(昭和24年に同県で発生を確認) p. 58、クワセンチュウ(同大正3年) p. 121.

169	繁浪和夫	1962	病害虫の防除 第4節 大正時代 第2項 防除法。 In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編)	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 192-235.	クワセンチュウ p. 227-228.
170	繁浪和夫	1962	病害虫の防除 第5節 昭和時代前期(昭和元年~20年) 第2項 防除法。 In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編)	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 255-302.	クワセンチュウの防除法を昭和6年9月5日付松陽新聞記事及び昭和10年の鳥根県病害虫予防指針から引用 p. 298.
171	繁浪和夫	1962	病害虫の防除 第5節 昭和時代後期 第2項 防除法。 In: 鳥根県植物防疫史(鳥根県植物防疫協会編)	鳥根県植物防疫協会、松江	p. 342-368.	線虫心枯病 p. 358-359、土壌線虫 p. 467-468 (昭和35年度病害虫防除指針から引用)。
172	塩川晴寿・中山喜平・石井五郎・桑名圭一	1962	桑のネコブセンチュウについて (5) 桑園におけるネマコン使用の効果。	蚕糸研究	41: 22-32.	無処理との比較で、施用3年目の桑収量は5割増。
173	白浜賢一・福井功	1962	石灰窒素による三寸人参の根腐線虫防除試験 In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素	石灰窒素普及会、東京	p. 18-22.	無処理と比べ収量の差はないが、上率が增加。
174	白浜賢一・松村欣	1962	石灰窒素による長茄子の根腐線虫防除試験	石灰窒素普及会、東京	p. 22-23.	線虫寄生率半減、収量4割増。
175	白崎彌雄・杉本達美	1962	ナスの生育に及ぼす殺線虫剤の影響。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	10: 86-88.	D-D、EDB剤は有効。DBCP剤(粒剤、乳剤)は薬害あり。
176	杉本達美・白崎彌雄	1962	センチュウの游出法についての2、3の実験。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	10: 62-63.	土壌改良剤ソイルラックの分離1~8日前土壌添加により、ベルマン法の分離虫数増加。砂の加用も同様の効果。
177	只野正志	1962	線虫類・発生。 In: 動物系統分類学(内田 亨監修)4. 袋形動物物。	中山書店、東京	p. 119-141.	動物寄生種が主体。スセンチュウ(<i>Trubatrix aceti</i>)の卵発生・器管形成、植物寄生性・昆虫寄生性線虫の生活史を含む。
178	田尻矩次郎	1962	昭和初期頃の思い出。 In: 長崎県農業試験場史。	長崎県総合農林センター、長早	p. 116-121.	岩里間佐一(長崎農試種芸主任): 水稲ネマトーダの被害に先鞭をつける。
179	高橋保夫	1962	これからの田畑輪換。	農及園(農業および園芸)	37(9): 1447-1450.	線虫記述なし。歴史、最近の動き、今後の問題点等につき述べる。同誌36・37巻に田畑輪換関連記事が多い。No.61-197も参照。
180	高瀬 昇	1962	暖地におけるテンサイ栽培のこつ。	農及園(農業および園芸)	37(8): 1297-	DBCP剤施用を含む。「線虫害があれば、いかに他の栽培管理をしても無駄」
181	竹下晴彦・横尾多美男	1962	苗畑における線虫防除試験(予報)。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	16: 70-72.	モリシマアカシアのネコブ、ネグサレ、ラセン、オオハリセンチュウにクロビクリン、D-D、EDB、DBCP剤。
182	田中 勇	1962	サツマイモネコブセンチュウ(<i>Meloidogyne incognita</i> var. <i>acrita</i> Chitwood, 1949)の試験管培養に関する研究	鹿児島たばこ試験場報告	10: 1-42, 17 pls.	研究史、培養法、生活環(一代所要日数、産卵数、寄生性、こぶの形成と発達)、継世代の形態、寄主体侵入(侵入部位、移動等)。
183	田中 勇	1962	ネコブセンチュウの生活環におよぼす試験管継代培養の影響。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 28.	講要
184	田中 勇	1962	寄主植物が存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性の存続。	九州病虫研報(九州病虫研究会会報)	8: 81.	講要
185	田中 勇	1962	最近タバコで発生したハガレセンチュウについて。	葉たばこ研究	29:44-47.	病徴、寄主植物、病原、生態、防除。
186	種市賢蔵	1962	青森県のリんごに対する線虫問題。	今月の農業	6巻4: 112-114.	ネコブセンチュウの被害、薬剤防除。
187	田坂耕一郎	1962	ビニールハウス栽培[5]。	農及園(農業および園芸)	37(10): 1695-	D-D、EDB、DBCP、メチルプロマイド剤による線虫防除を含む。
188	田坂耕一郎	1962	ビニールハウス栽培[7]。	農及園(農業および園芸)	37(12): 1993-	キュウリの線虫防除にふれる。
189	手塚 浩・高倉重義	1962	キタネコブセンチュウの防除に関する研究(第3報)キタネコブセンチュウによるアズキの被害解析。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	13: 123-124.	線虫密度の高い所では被害著しい。
190	津軽承捷	1962	青森県の土壌線虫。	今月の農業	6巻4: 98-100.	ネコブ、シスト、ネグサレセンチュウの被害、薬剤防除。
191	津軽承捷	1962	青森県における線虫の春期防除上の注意。	今月の農業	6巻4:117-119.	D-D、EDB、DBCP剤の施用と温度の関係等。
192	内田 亨	1962	袋形動物: 総説。 In: 動物系統分類学(内田 亨編)4. 袋形動物	中山書店、東京	p. 1-8.	各綱の類縁関係、他の門との関係。
193	上住 泰	1962	奈良県産植物寄生性線虫について。	関西病虫研報(関西病虫研究会会報)	4: 69.	16種30種以上を確認。
194	藤尾貞夫	1962	ネグサレセンチュウに関する調査 第1報 青森県における発生分布について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	13: 130-132.	ネグサレ、ネコブ、ダイズシストセンチュウの検出頻度をまとめる。
195	藤尾貞夫	1962	ネグサレセンチュウに関する調査 第2報 <i>Pratylenchus penetrans</i> の寄生によるナタネの生育不良について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	13: 132-133.	線虫寄生が影響。
196	山田隆保	1962	マツノルーム菌に寄生する <i>Ditylenchus myceliophagus</i> の生態に関する研究(1)休眠処理と越冬。	高峰研年報(高峰研究所年報)	14: 138-141.	乾燥又は5℃処理で休眠状態になる。
197	山極栄司	1962	田畑輪換と水利用。	農及園(農業および園芸)	37(1): 11-16.	線虫記述なし。忌地現象の回避にふれる。
198	山口福男	1962	イチゴの芽を害する <i>Nothotylenchus acris</i> Thorneとその防除について。	植物防疫	16(9): 373-377. 1 pl.	加害状況、被害の季節的推移、線虫の寄生数、線虫の増殖、防除(ディプレックス散布)。
199	山本敬夫・近藤鶴彦	1962	サトイモのネグサレセンチュウに関する研究(第1報)。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 29.	講要
200	山下幸彦・栗原徳二	1962	DBCP剤によるビートのネコブセンチュウ防除に関する研究(2)DBCP乳の防除効果。	九州農業研究	24: 177-178.	播種10-15日後の施用で十分な効果。
201	谷中清八・尾田啓一・星野三男・滝田泰章・熊沢	1962	オカボシトセンチュウに関する研究 第2報 薬剤施用による線虫の繁殖および陸稲の生育におよぼす影響。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会会報)	9: 71.	EDB剤施用面積は増収するが、シスト数は収穫期には無処理と同じ。シストの垂直分布調査を含む。
202	横川登代司	1962	苗木を加害する線虫類と防除について(予報)。	日林論(日本林学会大会論文集)	72回: 263-268.	スギ、ヒノキのネコブ、ネグサレセンチュウにD-D、EDB、DBCP剤。
203	横木清太郎・渡辺 弘	1962	ビニルハウス利用のクロキシニアの生産。	農及園(農業および園芸)	37 (11): 1807-	<i>Aphelenchoides olesistis</i> による葉枯線虫病(球根の温湯処理)を含む。
204	横尾多美男	1962	日本産ネグサレセンチュウ類の分類並びに生態に関する調査。	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	14: 161-216.	主に文献から引用。分類、形態(計測値)、寄主。
205	横尾多美男	1962	罌野茶園土壌の線虫相に関する調査: 茶樹を中心とした土壌線虫類の分布状況。	九州病虫研報(九州病虫研究会会報)	8: 47-50.	リングネマ、 <i>Pratylenchus loosi</i> 、 <i>Mononchus Dorylaimus</i> (5種)、 <i>Cephalobus</i> 、 <i>Rhabditis</i> の垂直・水平分布。
206	吉田 猛	1962	千葉県における植物寄生線虫の種類と分布(1961年までの調査結果)。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会会報)	9:75.	検出線虫のリストおよび発生場所、主な寄主植物、検出頻度。
207	吉田 猛	1962	イチジクのネコブ線虫防除効果。	今月の農業	6巻6: 57-60.	被害、症状、生態、DBCP剤施用効果。
208	吉井孝雄・松崎征美	1962	桃のネコブセンチュウの薬剤による防除について。	高知農試研報(高知県農業試験場研究報告)	3: 86-87.	DBCP剤の施用効果。
209	吉井孝雄・松崎征美・石本 茂	1962	殺線虫剤の土壌注入後の水封液封の効果。	高知農試研報(高知県農業試験場研究報告)	3: 88-89.	キュウリのサツマイモネコブセンチュウにD-D、EDB、DBCP剤施用。
210	吉沢中夫・塩沢淳一	1962	ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の施用時期について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会会報)	9: 70.	D-D剤よりDBCP剤が被害を少なくする傾向。春処理は秋処理に若干まさる。
211	湯浅利光・大野敏朗・小倉政衛・高浜健三	1962	いちじく畑におけるネコブセンチュウの分布。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会会報)	9: 67.	樹幹を中心とし、地表下5-10cm、距離40cmに多い。
212	湯浅利光・大野敏朗・小倉政衛・高浜健三	1962	いちじくのネコブセンチュウに対するDBCP剤の防除効果。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会会報)	9:76.	2年継続処理すると樹勢の回復顕著。
213	湯原 巖・稲垣春郎	1962	牧草地における土壌線虫について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭37: 27.	講要
214	湯原 巖・堤 正明・稲垣春郎	1962	北海道において果樹に寄生する線虫類。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	13: 133-134.	リンゴ、ブドウ、ナシ、モモ、ネコブ、ネグサレセンチュウが多い。
215	Anon.	1962	土壌線虫パイロット防除の概要。	北農	29巻8: 23-26.	北海道における実施状況。
216	Anon.	1962	線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素。 In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素	石灰窒素普及会、東京	p. 3-8.	線虫、石灰窒素の概要。ネコブセンチュウに対する施用法、施用量、時期、注意。
217	Anon.(千葉大園芸学部付属日本園芸生産研究所)	1962	石灰窒素によるネマトーダの根腐線虫防除試験。 In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素	石灰窒素普及会、東京	p. 23-24.	高い効果を認める。
218	Anon.(農林省農業検査所)	1962	農業の公定検査法(6)EDB剤の分析法。	農業生産技術	6: 40-42.	ボルハード法による手順、原理、注意点。

219	Anon. (農林省北海道農試病昆虫害2研)	1962	殺線虫剤によるダイズシストセンチュウの防除.	北農	29巻8: 12-19.	年間発生消長、D-D、EDB、DBCP剤のシスト内の卵・幼虫に対する効果、圃場試験.
220	Anon. (愛知園試)	1962	石灰窒素施用による「ひのな」の根腐線虫防除試験. In: 線虫 (ネマトード) 防除と石灰窒素施用による根腐線虫の防除の概要.	北農	p. 34-36.	EDB剤と同程度か、やや勝る効果. 10 a/80 kg が適量.
221	Anon	1962	甜菜に寄生するキタネコブセンチュウの被害とその防除.	北農	28巻8: 23-26.	甜菜のキタネコブセンチュウ、大豆のダイズシストセンチュウのD-D、EDB剤により防除.
222	Anon. (北海道立農試北見支場病虫課・北海道農試病昆虫害2研)	1962	甜菜に寄生するキタネコブセンチュウの被害とその防除.	北農	29巻8: 1-12.	寄生状態、根腐着生程度と収量、D-D、EDB、DBCP剤による防除.
223	Anon. (北海道立農試空知支場病虫課)	1962	殺線虫剤による人参キタネコブセンチュウ防除.	北農	29巻8: 19-23.	D-D、EDB、DBCP剤施用と経済性
224	Anon. (新潟林試)	1962	試験研究十年の歩み.	新潟県林業試験場	5+132 pp.	「立枯病防除試験」p.36-38. 「苗畑不良の原因が、土壤線虫による場合がすくなくないことが解ってきました」
0		1963	昭和38年(1963)			
1	赤沢徹・小野邦明	1963	Dactylella ellipsosporaによるサツマイモ根こぶ線虫の防除について.	日植病報(日本植物病理学会報)	28(5) 297-298.	講要
2	近岡一郎	1963	DBCP剤の薬害.	植物防疫	17(6) 243.	薬害の出やすい作物(タバコ、ジャガイモ、ピーマン、タマネギ、ネギ、レタス、ゴボウ)、症状、播種時処理と生育期処理、施用方法、処理時期、土壌と薬害.
3	近岡一郎	1963	土壤線虫の季節的消長と作付様式との関係について.	生態学会講要(日本生態学会大会講演要旨)	10回: 14	講要
4	近岡一郎	1963	低温時の殺線虫剤の殺菌力.	今月の農業	7巻1: 9-	No.62-5を参照.
5	藤本啓一・岸川実一・横山昭一・松本清蔵	1963	殺線虫剤に関する研究 第7報 アクリル酸エステル類およびそのハロゲン附加化合物の殺線虫力.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10: 84.	直接的な殺線虫力は強いが、ガス拡散が悪く燻蒸剤としての実用性なし.
6	藤本 清・山根伸夫・山口福男	1963	兵庫県における植物寄生性線虫の分布について.	中国農業研究	27: 46-48.	16属を検出. 土性・作物別の検出率をまとめる.
7	藤村俊彦・安部浩	1963	D-Dが作物の生育に及ぼす影響(予報).	中国農業研究	25:23-26.	D-D剤が直接作物の生育を促進.
8	深沢永光	1963	イチゴのメセンチュウ.	植物防疫	17(8) 329.	被害症状、防除法(健全苗の選択、ホリドール、ディプレックス散布).
9	深沢永光・小林義明・中田正彦	1963	水稲根に寄生するRadopholus属線虫についての2, 3の知見.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	5: 70-72.	講要. R. oryzaeの近似種. 静岡県下に広く分布. クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤処理により罹倒伏.
10	福留信明・田中勇	1963	土壤線虫の消長に及ぼす土壌消毒の影響について. I. クロルピクリン消毒の影響.	九州農業研究	25: 138-140.	タバコ圃場に薬剤を施用した4月後には無処理区よりネコブセンチュウ増加.
11	後藤 昭	1963	ベルマン法を主とした土壤線虫の調査について.	九州農業研究	25:141.	ネグサレセンチュウの分離率. ベルマン法・ふるい分け法: 10~40%. ふるい分け法: 30%前後. 遠沈浮・法: 前記三法の数倍.
12	後藤 昭	1963	ネグサレセンチュウの種類と分布について.	今月の農業	7巻8: 40-43.	日本における種類と分布の特徴.
13	後藤 昭・大島康臣	1963	九州の線虫相より(3).	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	9: 67-68.	9属13種以上の線虫の検出地と寄主を記録.
14	後藤 昭・大島康臣	1963	日本産ネグサレセンチュウの種類と分布に関する知見.	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	7(3) 187-199	9種(Pratylenchus coffeae, P. loosi, P. neglectus, P. vulnus, P. penetrans, P. zeae, P. crenatus, P. convallariae, P. thornei)の形態、計測値等.
15	後藤 昭・大島康臣	1963	ネグサレセンチュウの分布よりみた日本(予報).	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 29.	講要
16	後藤重喜・岩橋哲彦・川越 仁	1963	南九州におけるネコブセンチュウの種類について.	九州農業研究	25: 143-145.	Meloidogyne incognita, M. incognita var. acrita, M. javanica, M. haplaを検出. 寄生性、発育ステージ別の計測値を示す.
17	後藤重喜・川越 仁・岩橋哲彦	1963	低温時における殺線虫剤の効果について.	九州農業研究	25: 142.	ミニネグサレセンチュウに対しEDB、DBCP、D-D剤の順に高い効果.
18	萩屋 薫	1963	花卉球根栽培法[8].	農及園(農業および園芸)	38(9) 1459-1462.	球根線虫病: ヒヤシンス、チューリップ、スイセン、アイリスの病徴、防除法(圃場のD-D剤処理、球根の湯湯処理).
19	浜 武人	1963	長野県下の林業苗畑における線虫について.	森林防疫ニュース	12(3) 58.	ヒノキ、カラマツ等からの検出線虫数. 線虫未特定.
20	橋本平一	1963	林業苗畑における線虫病の実態についての2, 3の知見.	福岡林試時報(福岡県林業試験場時報)	16: 153-167. 4 pls.	樹種・土性・前作と検出線虫、病徴、垂直分布、発生消長・施肥と発生数の関係.
21	橋本平一	1963	林業苗畑におけるスタントネマトードおよびネグサレセンチュウに対する殺線虫剤の効果について.	日林誌(日本林学会)	45(1) 33-36.	クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤、木酢液の施用効果.
22	橋本平一	1963	2, 3の線虫による被害苗の徴候について.	日林九支講(日本林学会九州支部大会講演集)	16: 72-73.	モリシマアサギア、スギに対するサツマイモネコブ、ネグサレ、インシュクセンチュウの加害症状.
23	橋岡良夫	1963	イネ茎線虫病(Ufra)の病徴発現と伝染性.	日植病報(日本植物病理学会報)	28(2)68	講要
24	橋岡良夫	1963	The rice nematode, Ditylenchus angustus in Thailand.	FAO Plant Prot. Bull. (FAO Plant Protection Bulletin)	11(5) 97-102.	タイのイネのクキセンチュウによる被害. 病徴、雨・灌漑水・植物・種子・土壌による伝播、品種間差、寄生範囲、温度と感染との関係.
25	橋岡良夫	1963	Rice blast varietal resistance in relation to the local environments with notes on stem nematode and other diseases of rice in Thailand. Final Report to Food and Agricultural Organization of the United Nations.	FAO	66 pp.	膝写. タイのイネの病害. クキセンチュウによる被害を含む.
26	林田 勉・北井三喜雄	1963	蜜に発生した糸片虫病について.	日蚕関西講要(日本蚕糸学会関西支部合同研究発表会講演要旨)	27: 7.	講要
27	引地直至	1963	モモの根の伸長とネコブセンチュウ(M. arenaria)の侵入によるゴール発現との関係.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	14: 24.	幼虫の侵入は、伸長活動初期の幼根のみ.
28	平野和弥	1963	土壤中のネコブセンチュウ卵の検出法 II. 遠沈浮法による土壤中卵の分離.	千葉大園学部(千葉大学園芸学部学術報告)	11: 51-57.	1.40の比重液で92.7%の検出率. 砂土、砂壤土、壤土の順に検出率低下. 卵囊の検出率は砂土で80%.
29	平野和弥	1963	モモの検診についての資料. In: 永年作物の検診に関する資料(土壤線虫資料 第1号).	日本植物防疫協会、東京	p. 43	膝写
30	広瀬健吉	1963	果樹園における土壤施肥.	植物防疫	17(4) 141-143.	リンゴ、モモ、ミカンへのDBCP剤施用を含む.
31	広瀬健吉・伊藤喜隆・酒井 保・須藤山路	1963	ナガイモの黒変障害の防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10: 58.	D-Dは効果あり. ただし症状は線虫に無関係.
32	堀 裕	1963	そ菜・花弁のれき耕栽培[11].	農及園(農業および園芸)	38(11) 1745-1749.	ホルマリンによるベッド内の消毒を含む. 線虫に対しては同剤の50倍液を灌注.
33	堀 正侃	1963	病害虫防除における土壤施肥の意義.	植物防疫	17(4) 125-126.	線虫防除(殺線虫剤施用)の問題点、今後の見通し等を含む.
34	堀 輝禎・西沢務	1963	殺線虫剤の室内検定法の吟味.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	5: 73.	講要. サツマイモネコブセンチュウ、イネシナガレセンチュウはEDB感受性が低い.
35	星野三谷・谷中清八・尾田啓一・熊沢隆義	1963	ネグサレセンチュウに対するEDBの効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10: 78.	ゴボウのキタネグサレセンチュウに32.4/10 aで効果. 無処理区は発芽30日後位から生育が著しく劣り収量皆無.
36	市川伊三郎・樋口泰三	1963	キクに寄生するネグサレセンチュウの防除(その1).	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	9: 65-67.	D-D、EDB剤の土壤灌注が有効. DBCP80%乳剤3/10 aで薬害. 苗のサツセン、シストックス浸漬処理もよい.
37	一戸 稔	1963	殺線虫剤施用に関する最近の話題.	植物防疫	17(4) 144-146.	サイネムの効果はDBCPに匹敵するか、DBCP粒剤と肥料の混用、スプリンクラーによる果樹園のDBCP散布、除草剤がベントグラスの線虫に有効、捕食菌による線虫防除はむずかしい.
38	一戸 稔	1963	水田の線虫: イネネモグリセンチュウとその問題.	農業技術	18(8)356-359.	分類、生態、問題発展の経過、線虫と秋落との関連、ジャワのイネ病害「メタ」と線虫、わが国での線虫による被害.
39	一戸 稔・中国和年	1963	牧草地の線虫調査.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 28.	講要
40	一戸 稔・中国和年・岡本好一	1963	牧草・飼料作物の線虫.	植物防疫	17(11) 449-452.	千葉市、鳥根県太田市からの検出線虫のリスト、計測値. クローバー類等のEDB剤施用効果.
41	飯島 鼎・一戸 稔・国井喜章・白浜寅一	1963	土壤線虫読本 改定版.	ネマヒューム普及会、東京	124 pp., 8 pls.	線虫全般にわたる概説書. 畑作と土壌線虫、植物寄生線虫概説、土壌線虫の防除概説. おもな殺線虫剤の性状と使いかた、殺線虫剤の一般的な用法と使用上の注意、永年作物の線虫とその防除法. No.60-36の改訂版.

42	飯島 勉・本橋精一	1963	接木苗によるトマト萎凋病の防除.	農及園(農業および園芸)	38(8)1273-1274	Anahu 系接木苗:萎凋病・夏疫病・ネコブセンチュウに抵抗性.
43	今井正信	1963	目でみる防除器具:土壌消毒機.	農業	10巻2:30-31, 2 pls.	液剤用、粒剤用の機種を図示、解説.
44	今井正信	1963	目でみる防除器具:畑作の病害虫防除機.	農業	10巻2:40-41, 2 pls.	土壌消毒機4種を図示、解説.
45	稲垣春郎・湯原 淑	1963	ハッカ地下茎の腐敗に関する線虫について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38:30.	講要
46	稲垣春郎・湯原 淑	1963	ハッカ地下茎の腐敗に関する線虫について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:121-122.	ピンセンチュウが腐敗の一因と推定.
47	井上 寿	1963	ダイズシストセンチュウに関する調査 第18報 ダイズの被害解析.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:118-119.	大豆の生育、収量を調査。「7月上・中旬の調査によって(ほぼ)収量におよぼす程度が予測できる」.
48	井上 寿	1963	ダイズシストセンチュウに関する調査 第19報 休耕地におけるシストの消長.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:119-120.	蔵卵シストは2年目以降減少。ただし4年目でも小敵検出.
49	井上 寿	1963	ダイズシストセンチュウに関する調査 第20報 窒素肥料の追肥と被害との関係.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:120-121.	追肥により被害をある程度防止可能。シスト数は増加.
50	井上 寿	1963	ダイズシストセンチュウに関する調査 第21報 薬剤の秋季注入による防除効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:161-162.	EDB剤秋季施用は春季に比して効果が劣る.
51	井上 寿	1963	ダイズシストセンチュウに関する調査 第22報 ダイズの生育中における薬剤の注入の効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:162-163.	5月中下旬に播種した場合、6月30日以降D-D剤施用では被害。EDB剤の6月10~20日の施用が適当.
52	井上 寿	1963	ダイズシストセンチュウに関する調査 第23報 殺線虫剤の持続効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:164-165.	D-D, EDB剤の効果は施用当年のみ.
53	石橋信義・気賀 沢和男・国井喜章	1963	ネコブセンチュウ(Meloidogyne incognita var. acrita)の生理的食塩水内産卵.	動雑(動物学雑誌)	72(6)170-176.	実験条件(溶液の浸透圧、雌成虫の大きさ、卵嚢の着色度、温度)を検討.
54	石橋信義・国井喜章	1963	ネコブセンチュウの産卵に関する研究 1. 卵の物質の着色硬化にともなう雌成虫の産卵力減退.	動雑(動物学雑誌)	72(8)217-223.	「産卵力を低下させるものは、age [ともなう]雌成虫の生理的活力の低下のほかに卵の硬化それ自身が機械的抑制因子として考えられる」.
55	石橋信義・国井喜章	1963	ネコブセンチュウの電離放射線感受性.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38:31.	講要
56	石亀英徳・及川 英雄・佐藤昭美	1963	くわのネコブ線虫防除に関する試験(Ⅱ)桑園におけるネコブ線虫の時期別発生消長.	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東北支部研究発表会講演要旨)	17:32.	講要
57	石亀英徳・田口 恒雄・及川英雄・及川 弘	1963	くわのネコブ線虫防除に関する試験(Ⅰ)曲取町の曲込時期における薬剤処理の効果.	若手実証年報(若手県蚕業試験場年報)	10:108-111.	謄写. DBCP, EDB剤の効果. ネコブセンチュウ、ピンセンチュウ.
58	石黒嘉門	1963	愛知県を中心としたそ菜栽培の諸問題[1].	農及園(農業および園芸)	38(11)1771-1775.	ナスの促成床土の消毒「気温15℃以下の時はメチルプロマイドを使用する」.
59	石井五郎・江森 京・稲田幸夫	1963	桑のネコブセンチュウ(6)桑根寄生の発育経過と越冬前の根・状況.	蚕糸研究	47:67-71.	年間2~3世代. 越冬前の卵嚢中の発育ステージは卵嚢が大部分.
60	石川元一	1963	オカボのネグサレセンチュウについて.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38:29-30.	講要
61	石川元一・犬東 正美	1963	チャ樹の線虫について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10:80.	ネグサレ、ネコブセンチュウの水平・垂直分布:地表下10cm程度に多. 生育不良樹は線虫の生息数、被害度も多.
62	石川元一・高野 光之丞	1963	ニンジン・ネグサレセンチュウ防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10:77.	EDB30%油剤で54/10a 必要. D-D剤の効果は期待できない.
63	石倉秀次	1963	農業の進歩と農業生産.	農及園(農業および園芸)	38(1)231-234.	土壌線虫パイロット防除地区の殺線虫剤施用による次の作物の増収結果を含む. ニンジン、ゴボウ、ダイコン、キャベツ、ハクサイ、ホウレンソウ、キウリ、トマト、ダイズ、ジャガイモ、サツマイモ.
64	伊藤喜隆	1963	リンゴの検診についての資料(2)、(3). In: 永年作物の検診に関する資料(土壌線虫資料 第1号).	日本植物防疫協会、東京	p. 4-31	謄写
65	伊藤喜隆	1963	ブドウの検診についての資料. In: 永年作物の検診に関する資料(土壌線虫資料 第1号).	日本植物防疫協会、東京	p.32-42.	謄写
66	伊藤喜隆	1963	果樹加害線虫の検診について.	今日の農業	7巻8:75-78.	植付け前の圃場の検診、立木園の検診、調査位置の決定、検診結果と防除.
67	伊藤喜隆・広瀬 健吉・須藤山路	1963	りんご園およびぶどう園の線虫類の分布について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38:28.	講要
68	弥富喜三	1963	殺線虫剤のじょうずな使いかた.	ネマヒューム普及会、東京	32 pp.	DBCP剤に重点。「あずの農業」誌連載記事(未見)をまとめた.
69	垣谷誠一・菅家 英治	1963	DBCP剤による桑苗のネコブセンチュウ防除に関する試験第1報 処理方法および薬量について.	茨城蚕試報(茨城県蚕業試験場報告)	21:26-32.	謄写. 幅30cm. 深さ10cm程度に畦間に散布し、覆土・鎮圧. 20%粒剤で20kg/10a必要.
70	柿崎泰彦・千葉 陸雄・小野 昭	1963	桑のネコブセンチュウについて:寄生の実態について(Ⅱ).	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東北支部研究発表会講演要旨)	17:32-33.	講要
71	金子 武	1963	静岡県牧之原茶園の土壌線虫、特に Hemicriconeimoides kanayaensis(カナヤサヤワセンチュウ)について.	茶業技術研究	28:31-41.	線虫の静岡県内の分布、土壌中垂直分布、季節的消長、天敵(藻菌類)、寄生状況、ネグサレセンチュウにもふれる.
72	金子 武	1963	チャの検診についての資料. In: 永年作物の検診に関する資料(土壌線虫資料 第1号).	日本植物防疫協会、東京	p.53-60.	謄写
73	金子 武・一戸 稔	1963	茶に寄生する線虫の種類と2、3の生態的知見.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	7(3)165-174.	7種(Helicotylenchus dihystra, H.erythrinae, Hemicriconeimoides kanayaensis, Meloidogyne incognita var. acrita, Paratylenchus curvatus, Pratylenchus loosi, Tylenchorhynchus nudus)を記載、図示. 土壌中における垂直分布、カナヤサヤワセンチュウの生態等を調査.
74	桂 琦一	1963	殺線虫剤の殺菌力に関する2、3の実験.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	5:11-14.	連結式ガラス管による殺線虫剤の土壌投下と殺菌力に関する試験. EDB, ベーバム, DBCP, トリジウム剤の植物病原菌に対する影響を調査.
75	桂 琦一・榎村則大	1963	トマト青枯病の発生における病原細菌とネコブセンチュウとの混合感染.	京都府大学報(京都府立大学学術報告) 農	15:33-36.	病原細菌 Pseudomonas solanacearum と線虫との混合感染によって発病.
76	川田徳平・与義 実光	1963	大豆、落花生に対する殺線虫剤の立毛処理に関する試験.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10:74.	EDB, DBCP剤の点注(一穴当たり1.8 cc)は優れた効果. 葉害なし.
77	川越 仁・後藤重 喜	1963	ネコブセンチュウとキウリつる割病との関連について.	九州病虫研報(九州病虫研究会年報)	9:14-16.	サツマイモネコブセンチュウとFusarium菌、カンショ、パレイショ、ウリ、ナス、テンサイ、トマト、ダイコン、タバコにも被害. クロルピクリン、EDB剤が効果あり.
78	河合 一郎	1963	イチゴの病害虫とその防除法.	農業	10巻1:50-54.	イチゴメセンチュウを含む. 健全ランナーの育苗、ホリトール、ティプテックス、ジメエートの散布.
79	河村貞之助・平 野和弥	1963	Pratylenchus spp. と Fusarium spp. との干渉について.	日植病報(日本植物病理学会報)	28(5)286-287.	講要
80	川島嘉内	1963	薬用ニンジン・Pratylenchus penetransに関する研究:薬剤に対する抵抗性について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:165-166.	D-D剤の効果はEDB剤に劣る.
81	川島嘉内	1963	Hirschmannia oryzae に関する研究(Ⅰ)品種間差について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:111.	供試した17品種の中では線虫寄生数に明瞭な差はなし.
82	川島嘉内	1963	Hirschmannia oryzae に関する研究(Ⅱ)雑草に対する寄生性について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:112-113.	イヌビエ、アギナシ、ヘラオモダカ、スズメノテッポウ、ハス等の根から検出.
83	川島嘉内	1963	Hirschmannia oryzae に関する研究(Ⅲ)各種薬剤の持続効果について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	14:158-159.	EDB, DBCP剤に比べ、D-D剤の効果大. 2年間効果持続.
84	川島嘉内・藤沼 敏子	1963	Hirschmannia oryzae による稲の被害について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38:30.	講要
85	気賀沢和男	1963	イネ線虫心枯病の見分け方と防ぎ方.	植物防疫	17(9)376.	イネカラバエの被害との違い、種別消毒法(サッセン、パラチオン、温湯浸漬).
86	気賀沢和男・土 橋貞夫・国井喜章	1963	線虫被害と肥培.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10:76.	ナス、キュウリとネコブセンチュウ. 収量、ゴール指数は多肥・標準肥区間で大差なし.
87	気賀沢和男・国井喜章	1963	Hirschmannia oryzae の生態に関する研究Ⅱ. 薬剤の線虫、水稲に及ぼす影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38:30-31.	講要
88	小林源二・馬場 正	1963	D-Dの殺菌力について 第1報 イエバエの幼虫及蛹に対する効力.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	5:60.	講要. 効果あり.
89	小林義明・深沢 永光	1963	低温時における殺線虫剤の防除効果.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	5:72-73.	講要. D-D, EDB剤. 1-4月の処理でも効果.
90	小宮書之助・工 藤 馨	1963	大豆萎黄病防除に関する研究(3)D-Dによる薬剤防除試験.	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	15:1-6.	コンクリート検試験. 約19/10aを施用. 線虫密度低下効果は施用当年のみ. 収量は3年目でも増加.

91	小森 昇・川田惣平・高野誠義	1963	イネ線虫心枯病の防除に関する研究.	茨城農試研報(茨城県農業試験場研究報告)	5: 1-14.	種子のN-244の5%粉末10、20日処理、REM-222、REE-200の1000倍12時間浸漬、出穂後穂揃期前のホリドール、ディブテックス散布が有効。品種抵抗性を検定。
92	高野光之丞・村上正雄	1963	ムギ類に対する殺線虫剤の影響について(Ⅲ).	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	10: 83.	コムギに対するD-D剤の薬害を沖積土で試験。
93	高野光之丞・村上正雄・石川元一・戸 稔・国井嘉章	1963	ゴボウのヤケについて.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 31.	講演
94	工藤壯六	1963	畑作輪作の合理化.	農及園(農業および園芸)	38(6) 911-916.	大豆5年連作と他作物との輪作時の大豆収量比較を含む。
95	国井嘉章・気賀沢和男	1963	Hirschmannia oryzae の生態に関する研究 I. 水稲根への侵入.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 30.	講演
96	蔵納久男	1963	柑橘線虫と研究の歩み.	柑橘	15巻7: 36-43.	ミカンネセンチュウ、ネグサレセンチュウの形態、生態、被害。国内の研究を紹介。
97	呉羽好三・市川久雄・柴本 精	1963	Hirschmannia oryzae に対する薬剤処理時の圃場状態と防除効果.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 31.	講演
98	前田速雄	1963	トマトにおけるサツマイモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝について.	園芸学会大会要旨(園芸学会大会講演要旨)	昭38春: 19-20	講演
99	真宮靖晴	1963	林業における線虫問題.	森林防疫ニュース	12(10) 200-203.	ネグサレ、ネコブ、イシユク、コムハリセンチュウを解説。防除にふれる。
100	増田清志・金子武	1963	茶園土壌線虫の防除効果について.	茶業技術研究	28: 26-30.	挿木床のDBCP、EDB剤処理、改植圃の植え付け前のEDB剤処理、幼木・成木圃のDBCP剤処理。
101	松田 栄・綿原孝夫	1963	広島県におけるイチゴの品種と栽培.	農及園(農業および園芸)	38(7) 1083-	メセンチュウの寄生により奇形果を生ずる。
102	三浦春夫	1963	センチュウ防除畑におけるネコブセンチュウの発生消長.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	14: 115.	薬剤施用後6作した(3年後)圃場の線虫密度: 防除前以下。
103	三浦春夫	1963	低温時におけるネコブセンチュウの防除について.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	14: 159-160.	D-D、EDB剤。前年12月上旬までに施用、ガス抜きは翌春。
104	三浦 脩・吉村修一・喜田和男・津田 稔	1963	殺線虫剤の甘藷の生育に及ぼす影響について.	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	5: 1-6.	砂地ではD-DよりEDB剤が有効。窒素多用区は蔓ぼけ傾向。硝酸化成作用抑制にふれる。
105	三宅利雄・藤原昭雄・木村義典・中沢啓一	1963	On the growth stimulating action of D-D emulsion.	広島農試研報(広島県農業試験場研究報告)	16: 1-7.	D-D乳剤は0.09 ppm〜0.9ppbで水稲、裸麦、キュウリ、チンヤの実生に対し伸長刺激作用を持つ。
106	森川 修	1963	殺線虫剤の作用機構に関する研究 第1報 ワモンゴキブリの呼吸作用におよぼす影響.	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	5: 73.	講演
107	森川 修	1963	殺線虫剤の作用機構に関する研究 Ⅲ.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 32.	講演
108	守田美典	1963	Hirschmannia sp. の苗代期における寄生について.	北陸病虫研報(北陸病害虫研究会報)	11: 61.	前年の古株の根にも寄生。
109	村井敏信・上杉康彦・鈴木照彦	1963	殺線虫剤DBCPの簡易比色定量法.	農業生産技術	8: 39-40.	Fujiwara反応を利用した新方法的紹介。
110	村上正雄・高野光之丞	1963	ムギ類に対する殺線虫剤の影響について(Ⅱ).	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	10: 82.	播種直後のコムギに対するD-D、EDB剤の薬害を調査。
111	村上正雄・高野光之丞・相馬 茂	1963	土壌pHと殺線虫剤に関する研究. 殺線虫剤(D-D、EDB)が土壌pHにおよぼす影響.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	10: 85.	D-D処理2週間内は若干酸性側に变化。
112	村上雅二・清松清高・加島了相	1963	育苗法の相違が稲線虫心枯病の発生に及ぼす影響.	九州農業研究	25: 55.	箱育苗では被害株の発生100%。
113	永沢 実・堀江典昭	1963	ネコブセンチュウに対するD-D入り液肥の効果.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	19: 75-79.	謄写。作物の種類によっては実用性あり。
114	永沢 実・堀江典昭	1963	ネコブセンチュウに対するD-D入り液肥の効果.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	10: 75.	三寸ニンジンの播種2日前に施用、10日後にガス抜き。D-D、液肥を別々に施用するより高い効果。
115	永沢 実・堀江典昭	1963	ネグサレセンチュウに対する各種殺線虫剤の効果.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	10: 79.	キタネグサレセンチュウにD-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、日東NC-Na5を供試。後者2薬剤が高い効果。D-D、EDBはビニル被覆すると効果。
116	中園和年	1963	本邦産Rotylenchulus 属線虫の種類と分布.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 29.	講演
117	仲宇佐達也・橋本貞夫・栗原茂	1963	ナスの連作害と抵抗性台木利用の効果.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	19: 191-198.	謄写。ネコブセンチュウが原因。殺線虫剤施用、抵抗性ナス(米国大丸、平なす、赤なす)の利用が有効。
118	仲宇佐達也・栗原茂次・橋本貞夫	1963	洪積畑におけるナス連作害対策としてのつぎ木利用の効果.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭38春: 26	講演。ネコブセンチュウ対策。
119	仲宇佐達也・山崎正枝	1963	陸稲の連作害に関する研究 第5報 土壌の薬剤処理と客土の青消去効果について.	日作紀(日本作物学会紀事)	31(4) 417.	講演
120	新留伊彦・永野邦弘・小戸健良	1963	てん菜に寄生するネコブセンチュウの簡易防除法の検討.	てん菜研報(てんさい研究所報告)	補1: 38-39.	DBCP乳剤、粒剤が効果あり
121	西沢 務	1963	新宮営林署有馬苗畑に発生する樹苗寄生線虫について.	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	5: 74-75.	講演。Pratylenchus coffeae, Tylenchorhynchus claytoni, Helicotylenchus nannus の計測値。No.63-155 も参照。
122	西沢 務	1963	ミカンの検診についての資料。In: 永年作物の検診に関する資料(土壌線虫資料 第1号).	日本植物防疫協会、東京	p. 47-52.	謄写
123	西沢 務・弥富喜三・古里和夫	1963	Crotalaria属植物による線虫の生物防除に関する研究(予報).	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 31.	講演
124	野口純隆・吉野 実	1963	土壌消毒畑における暖地でん菜に対する硝酸態窒素施用の意義について.	てん菜研報(てんさい研究所報告)	補1: 19-21.	テリ硝石無施用区では初期生育の遅延はあるが、収穫期には大差なし。
125	野崎光夫・浅野清美・井上 敬	1963	大豆シストセンチュウ防除に関する研究.	東北農業研究	5: 131-133.	線虫感受性品種・抵抗性品種の連・輪作(4年間)試験結果。
126	尾田啓一・星野三男・谷中清八・熊沢隆義	1963	オカボシトセンチュウに関する研究 第3報 被害解析.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	10: 71.	ポット試験。100頭接種でも陸稲の生育、収量は有意な減少。
127	岡田利承・森 哲郎	1963	土壌燻蒸剤の拡散に関する研究 第1報 土壤中におけるD-Dの拡散とダイズシストセンチュウに対する防除範囲.	北海道農試彙報(北海道農業試験場彙報)	82: 1-7.	拡散は注入点を中心とした楕円形。防除範囲もほぼ同じ。地表近の効果は劣る。植物防疫 18(7) 292, 1964 に抄録。
128	岡野秋盛・本田暢苗・福留信明	1963	殺線虫剤(Chloropicrin D-DおよびEDB)による土壌消毒とタバコの生育 第2報 タバコの生育および成分におよぼす影響.	鹿児島たばこ試験場報告	11: 25-29.	初期生育は抑制、中期以降生育旺盛。含窒素化合物含量が高く、全糖、澱粉含量は低い。
129	岡野秋盛・本田暢苗・林 松雄	1963	殺線虫剤(Chloropicrin D-DおよびEDB)による土壌消毒とタバコの生育 第1報 アンモニアおよび硝酸化成におよぼす影響.	鹿児島たばこ試験場報告	11: 20-24.	アンモニア化成作用は処理後一時抑制されたが、それ以後は著しいNH4-Nの増加集積がみられた。硝酸化成作用の抑制は顕著。
130	小野邦明・小泉成徳	1963	タバコのハガレセンチュウによる被害と防除について.	日植病報(日本植物病理学会報)	28(5) 298.	講演
131	小野邦明・大島俊市・赤沢敏紀	1963	根腐線虫病に対する線虫捕食菌処理の効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	28(2) 100.	講演
132	大橋雄司・佐藤昌良	1963	ネコブセンチュウ(Meloidogyne sp.)に対するたばこの抵抗性の品種間差異並びにその検定法について.	育種(育種学雑誌)	13(3) 189.	講演
133	大野賢一郎・西沢 務	1963	殺線虫剤の薬害について、特に土性ならびに土壌水分と薬害との関係.	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	5: 72.	講演。D-D、EDB、DBCP剤。粘土、有機物の多い畑で薬害顕著。
134	大島康臣・後藤昭・市川伊三郎・大串重一	1963	長崎県における線虫分布調査.	九病虫研報(九州病害虫研究会報)	9: 69-70.	畑作物・果樹からの検出線虫をまとめる。
135	大島康臣・市川伊三郎	1963	雲仙のゴルフ場の線虫について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 28.	講演
136	尾崎 薫・浅井三男	1963	畑輪作における前後作組み合わせ様式に関する研究 第2報ダイズシストセンチュウと前後作との関係.	北海道農試彙報(北海道農業試験場彙報)	81: 11-21.	寄主栽培時には線虫密度増加。非寄主では前作と同程度。
137	三枝敏郎・藤原敏夫・松本安生	1963	輸出球根産地におけるネコブ線虫の種類.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 28-29.	講演
138	桜井 清	1963	畑地における土壌施肥・害虫.	植物防疫	17(4) 137-138.	D-D剤の線虫以外の害虫に対する効果を含む。
139	桜井 清	1963	リンゴの検診についての資料(1)。In: 永年作物の検診に関する資料(土壌線虫資料 第1号).	日本植物防疫協会、東京	p. 1-3.	謄写

140	関谷昭二郎	1963	紅茶園の土壤線虫防除試験. 茶業技術研究	茶業技術研究	28: 22-25.	ネコブ、ネグサレセンチュウのDBCP剤による立毛中処理、D-D、クロルピクリン剤による挿木床施用. 植物防疫 18(9) 380, 1964に抄録.
141	Sher, A. A.	1963	Revision of the Hoplolaiminae (Nematoda) III. Scutellonema Andrassy, 1958.	Nematologica	9(3) 421-443.	S. brachyurus の内に日本のタチボウキ(アスパラガス風園芸植物)からの記録.
142	渋谷正夫	1963	そ菜におけるネマトーダの被害と防除法.	農及園(農業および園芸)	38(10) 1552-1556.	そ菜の種類・栽培時期とネコブセンチュウ寄生によるゴール指数の違い、ナスの連作 試験. 防除(播種・植付時期の移動、薬剤施用、輪作).
143	渋谷正夫	1963	そ菜におけるネマトーダの被害.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭38春: 25	講要
144	下川利之	1963	庭園木(ドラセナ)苗木にみられる根こぶ線虫について.	森林防疫ニュース	12(11) 234.	岡山県. 被害状況.
145	須藤山路・伊藤達隆・酒井 保	1963	ゴボウの黒変症状(ヤケ)の防除試験.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10: 19.	クロルピクリン剤が高い防除効果. D-D、ペーバム剤は劣る.
146	鈴木春夫・深沢永光	1963	高冷地育苗苗の病気と線虫.	農業技術研究	17巻8:47-48.	メセンチュウを含む.
147	鈴木達彦・渡辺 隆	1963	農業の土壌施用に伴う土壌肥料の問題点.	植物防疫	17(4) 155-158.	D-D、EDB、クロルピクリン剤施用による土壌中の有機態窒素の無機化、硝化作用の抑制を解説.
148	鈴木照彦	1963	土壌施肥に関する2、3の問題.	植物防疫	17(4) 127-130.	土壌燻蒸剤の性質、土壌中での拡散・吸着などを含む.
149	高倉重義・手塚 浩	1963	キタネコブセンチュウの防除に関する研究第5報 網走地方における分布.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	14: 116-117.	65%以上の圃場に線虫. 15%は防除が必要.
150	高野誠義・織田 一夫	1963	殺線虫剤に関する薬害試験.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 31-32	講要
151	滝田泰章・尾田啓一・谷中清八・星野三男	1963	殺線虫剤の陸稲生育におよぼす影響について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10: 81.	オカボシセンチュウの生息しない圃場で試験. D-D、EDB、クロルピクリン剤処理と無処理の生育差は小さい.
152	田中 勇	1963	タバコのハガレセンチュウに関する調査.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 30	講要
153	田爪静夫・岩永 睦	1963	畑におけるビートの連作について.	てん研報(てんきん研究所報告)	補1: 31-32.	EDB施用3年後まで連作可能. 毎年施用では線虫被害は減少、黒斑病が増加.
154	寺下隆喜代	1963	土壌線虫について: 新宮営林署有馬苗畑の例を参考にして.	みやま	126: 100-106.	スギ、ヒノキ、クロマツからの線虫検出状況、防除.
155	照屋林宏	1963	主要植物寄生性土壌線虫に関する研究 第1報 胡瓜畑におけるネコブセンチュウの棲息密度と寄生程度について.	沖縄農業	2巻1: 61-63.	水平・垂直分布をベルマン法の分離虫数とゴール指数の関係で調査.
156	戸崎正弘	1963	茶を侵す線虫に関する研究(第1報)寄生性線虫の成木茶園における水平及び垂直分布.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	5: 7-10.	ピン、サヤフ、チャネグサレセンチュウ、自活性線虫の樹幹を中心とした分布.
157	津川 カ・山田雅輝・白崎将博・小山信行	1963	リンゴ園における土壌線虫の被害と防除に関する研究 1. 青森県のリンゴ園における土壌線虫種類と分布について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	14: 122-124.	14属を検出.
158	鶴島久男	1963	ビニールハウス栽培[18](B)花卉の部.	農及園(農業および園芸)	38(12) 1921-1924.	キクハガレセンチュウ: ハウスでは少ない.
159	堤 正明	1963	ダイズシストセンチュウの分離に関する2、3の乗験.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	14: 117-118.	土壌量25g、温度25℃内外でベルマン法による接種幼虫の回収率が高い.
160	上住 泰	1963	奈良県産植物寄生線虫類について(第2報).	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	5: 74.	講要. 27種を記録. 17種は種まで同定.
161	牛山敬司・大垣 智昭	1963	温州ミカンのいや地に関する試験(第1報) 土壌消毒および土壌処理とミカン苗の生育(1).	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭38春: 17	講要
162	篠尾貞夫	1963	キュウリのネコブセンチュウにおける経済効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	14: 168.	EDB剤によるキタネコブセンチュウ防除. 収支計算をまとめる.
163	篠尾貞夫	1963	畑地土壌の病害虫と防除.	青森農業	14巻9: 32-35.	D-D、EDB、DBCP剤によるネコブ、ネグサレセンチュウ防除を含む.
164	篠尾貞夫・佐藤 保	1963	ネグサレセンチュウに関する調査 第3報 田代におけるネグサレセンチュウの防除.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	14: 166-167.	D-D、EDB剤施用で薬害.
165	渡辺文吉郎	1963	畑地における土壌施肥: 病原.	植物防疫	17(4) 139-140.	「D-D、ネマゴンの使用によってトマト白絹病、レタス菌核病が多く誘発」「DBCP剤がビショム菌によく効果がある」.
166	渡辺敬夫・安尾正元・石井和夫・永井政雄・市来小太郎	1963	陸稲の連作障害に関する研究.	農事試験研報(農事試験場研究報告)	5: 1-44.	鉄、マンガン欠乏、毒素、土壌微生物、線虫等について検討. オカボシセンチュウが主要な原因と結論.
167	山田英一	1963	イネネモグリセンチュウHirschmannia oryzaeと北海道における分布.	北農	30巻10: 13-17.	形態、被害、防除.
168	山田隆保	1963	ヒマラヤ(ジュガール・ヒマール)の線虫(予報).	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 28.	講要
169	山口福男	1963	毒の線虫Nothotylenchus acris Thorneとその防除について.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	5: 70.	講要. 気温低下とともに症状消失. 高温時には1芽当たり500頭で症状発現. 1世代に20~30日(適温下). ディフテックス、ホリドールが効果あり.
170	山本敬夫	1963	サトイモとネグサレセンチュウ.	農研(三重農試)	8巻4: 7-	ミネナメグサレセンチュウによる病徴、被害、防除法.
171	山本敬夫・近藤 鶴彦	1963	サトイモのネグサレセンチュウに関する研究(第2報).	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 29	講要
172	山下幸彦・栗原 徳三	1963	DBCP剤によるビートのネコブセンチュウの防除(3)DBCP剤の防除効果.	九州農業研究	25: 136-137.	乳・粒剤による効果の差はない. 10-15 kg/10a で十分.
173	横川登代司	1963	苗木を加害する線虫類と防除: ネグサレセンチュウに対する殺線虫剤の効果について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	74回: 279-281.	講要. スギのキタネグサレセンチュウにEDB、D-D剤.
174	横浜正彦・新井 茂	1963	そ菜畑におけるクロールピクリンの土壌病害、土壌線虫に対する効果に関する試験.	東京農試特報(東京都市農業試験場特別報告)	19: 273-279.	膝写. キュウリ、シュンギク、サラダナに施用.
175	横浜正彦・新井 茂	1963	そ菜畑におけるクロールピクリンの土壌病害、土壌線虫に対する効果に関する試験.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10: 27.	サラダナ、キュウリ. 線虫の発生は少なく、傾向は不明瞭.
176	横尾多美男	1963	畑野茶園土壌の線虫相に関する調査: 殺線虫剤を施用した場合の変化と経済効果について.	佐賀大農業(佐賀大学農学集報)	16: 1-30.	サヤフセンチュウ、チャネグサレセンチュウ、Mononchus, Dorylaimus, Cephalobus の樹幹を中心とした水平・垂直分布. EDB、DBCP剤施用による線虫密度の変化、茶樹の生育状況.
177	横尾多美男	1963	A new ring nematode, Hemicriconemoides ureshinoensis n.sp. found in the soil around the root of tea-plant with some notes on its distribution in the soil.	佐賀大農業(佐賀大学農学集報)	16: 31-35.	茶から検出されたサヤフセンチュウの新種の記載. 現在はH. kanaensisのシノニムとされている(Dasgupta, D.R. et al., J. Nematol. 1(2) 126-145, 1969).
178	横尾多美男	1963	Nematological studies on the yellow patch of the green grass of golf links. I. On the nematode fauna in the green grass soil of the B. S. GolfLinks near Tosu-City, Saga.	佐賀大農業(佐賀大学農学集報)	17: 141-156.	ゴルフ場の芝の線虫の垂直分布、線虫相の構成、検出線虫のリスト.
179	横尾多美男	1963	病害虫研究の展望: 線虫.	植物防疫	17(1) 9-16.	外国の研究を主に紹介. 線虫の分類、生態、防除. わが国の研究からミカンセンチュウの土壌中の分布、モリンマアカンア・桑の殺線虫剤施用効果を含む.
180	横尾多美男	1963	林業と線虫について(1).	林業技術	252: 12-15.	線虫の種類. 一般的な解説. 特に林業を対象にした内容でない(以下の2報も同様).
181	横尾多美男	1963	林業と線虫について その2.	林業技術	253: 18-	線虫の形態、被害、土壌中における分布.
182	横尾多美男	1963	林業と線虫について その3.	林業技術	254: 24-	防除.
183	吉田 猛	1963	各種殺線虫剤による落花生のキタネコブセンチュウの防除効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10: 73.	EDB剤が殺線虫力でDBCP剤その他にまさる.
184	湯浅利光・高浜健三・大野敏朗・小倉政博	1963	モモ畑におけるネコブセンチュウの分布.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	10: 72.	垂直分布. 樹幹を中心とした水平分布.
185	湯原 巖・稲垣春郎	1963	ダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究(II) 根節侵入幼虫の発育と抵抗性.	北海道農試集報(北海道農業試験場集報)	80: 94-102.	幼虫の侵入数は品種間で大差なし. 強度抵抗性品種では成虫に達せずに死亡. 最強: P190763, P18471. 強: IIsay. 東北6号. 下田不知. 弱い抵抗性: 南部竹館.
186	湯原 巖・稲垣春郎	1963	牧草の発育・収量におよぼす線虫の影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭38: 29.	講要
187	湯原 巖・堤 正明	1963	マリネゴールのネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの生息密度におよぼす影響.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	14: 113-114.	キタネコブセンチュウは密度低下せず、キタネグサレセンチュウでは低下. 作用は運動的、強力な持続効果なし.
188	Anon. (農林省農薬検査所)	1963	農薬の公定検査法(7)D-D剤の分析法.	農薬生産技術	8: 41-43.	ガスクロマトグラフィーのカラム、操作条件等.
0		1964	昭和39年(1964)			
1	安部 浩・藤村俊彦	1964	窒素施用量とD-D剤が水稻の生育に及ぼす影響との関係.	中国農業研究	30: 8-9.	線虫の影響のない水田で試験. D-D剤の影響は窒素施用量の増加にとまない漸減.

2	合田昌義・酒井清六・野上寿・松石一樹・米林	1964	幅広い虫駆除剤の効果におよぼす希釈液相の影響について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 6.	講要。EDB剤も含む。
3	合田昌義・酒井清六・野上寿・松石一樹・米林	1964	幅広い虫駆除剤の研究 第1報 γ -BHC、EDB混合剤の幅広い虫駆除効果。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	8(4) 263-271	マツノダカラカキキも供試。ダイアジノン+ γ -BHC+EDB混合剤、 γ -BHC+EDB混合剤が最も効果的。
4	藍野祐久	1964	最近話題となっている二、三の病害虫の防除対策。	林業技術	262: 15-17.	線虫防除を含む。
5	安藤茂信	1964	線虫防除試験: 苗圃における線虫の被害と薬剤の効果について。	大分林試業報(大分県林業試験場業務報告)	昭38: 92-100.	騰写。D-D、EDB、DBC、クロルピクリン剤をスギ苗に施用。
6	新井邦夫	1964	ニンジン採種の病害虫防除。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 39.	サンネマ、ネマックス剤を含む。
7	荒木幹男・田中勇	1964	植物病原細菌の発育におよぼす殺線虫剤の影響。	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	10: 88-89.	タバコ立枯病菌、タバコ空洞病菌、タバコ野火病菌に対するクロルピクリン、D-D、EDB剤の影響。前記2種薬剤は殺菌力あり。
8	浅井三男・西尾美明	1964	ダイズシストセンチュウ発生圃場における薬剤注入後の発生消長。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 33.	講要
9	浅井三男・西尾美明・岡田利承	1964	ダイズシストセンチュウの発生消長。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15: 138-139.	土壌中では4月下旬に幼虫出現、5月中旬から増加。増加の山は1月間隔。
10	千葉修・真宮靖治	1964	苗圃における土壌線虫の被害と防除。	最近の林業技術	1: 48 pp.	線虫の概説及び防除法。
11	千葉修・真宮靖治・近藤秀明・横川登代司・国末幸・中野香苗	1964	林業苗圃における線虫被害調査要領。	農林省林業試験場	20 pp.	騰写。線虫分離法等の解説。
12	近岡一郎	1964	イチゴのネグサレセンチュウについて。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 34.	講要
13	近岡一郎	1964	最近蔓延しているイチゴのネグサレセンチュウとその防除。	今月の農業	8巻10: 35-37.	未見
14	近岡一郎・片木尚寿	1964	ダイコンのネグサレセンチュウの季節的消長ならびに防除効果。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 103-104.	作付様式と季節的消長(ダイズ、オカボ、パレイショで増加)。D-D剤の効果が高い。
15	千代西尾伊彦	1964	梨根の状態とネグサレセンチュウの遊出傾向について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 34.	講要
16	千代西尾伊彦	1964	畑作物土壌線虫の防除法。	農及園(農業および園芸)	39(7) 1113-1116.	輪作、肥料・堆肥の多用、他圃場からの侵入防止、殺線虫剤(処理時期、使用方法)、殺線虫剤施用後の施肥計画。
17	Edward, J. C.・S. L. Mier & G. R. Singh	1964	Longidorus pisi n.sp. (Nematoda, Dorylaimoidea) associated with the rhizosphere of Pisum sativum, from Uttar Pradesh, India.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	8(4) 310-312.	インドからナガハリセンチュウの新種を記載。L. brevicaudatusに近似。
18	Edward, J. C.・S. L. Mier & G. R. Singh	1964	A new species of Paralongidorus (Nematoda, Dorylaimoidea) from Allahabad, Uttar Pradesh, India.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	8(4) 313-316.	インドからナガハリセンチュウの新種を記載。P. citriliに近似。
19	家入章・古山肇	1964	熊本県における甘藷の線虫被害に関する研究 第1報 線虫被害の関与性について。	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	10: 39-41.	検出線虫7種。Pratylenchus sp. Aphelenchus avenaeの季節的消長。線虫とFusarium菌との関連では、線虫が影響大。EDB剤による防除は効果的。
20	江村一雄	1964	イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の影響。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会年報)	12: 77-79.	D-D、DBC剤施用で稲は増収、EDB剤では減収。水田土壌中の効果範囲は畑地より狭い。
21	藤本清・山根伸夫	1964	イネネモグリセンチュウの県内分布と発生消長および防除効果について。	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	12: 20-22.	県内のほとんどの水田から周年的に検出。D-D、EDB、クロルピクリン剤施用により、精粒重2-7%増収。
22	藤村俊彦・安部浩	1964	島根県における土壌線虫の種類と分布。	島根植防(島根の植物防疫)	3: 20-26.	未見
23	深野弘・横山佐太正・吉田桂輔	1964	REE乳剤による線虫心枯病種別消毒法について。	福岡農試研報(福岡県農業試験場研究報告)	2: 42-47.	濃度、時間、温度、展着剤加用と効果、薬害、水銀剤混用の影響。
24	源馬琢磨・渋谷紀紀・菊池新一	1964	線虫の水稲根への寄生及びその被害について。	山形農林学会報	22: 15-20.	イネネモグリセンチュウの生態、防除。
25	Golden, A. M. & W. Friedman	1964	Some taxonomic studies on the genus Criconema (Nematoda: Criconematidae).	Proc. helminth. Soc. Wash. (Proceedings of the Helminthological Society of Washington)	31 (1) 47-59.	Criconema sulcatumを新種として記載。日本のヤマロギキク(?)根辺土壌からの個体も調査。現在は Neolobocriconema serratum のシノニムとされている (De Grisse, A. Biol. Jaarb. 35: 80, 1967).
26	五味美知男・三輪計一・市川恒	1964	コンニャクの新病害「根ぐされ病」について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 44.	線虫検出せず。
27	後藤昭	1964	ミナネグサレセンチュウの卵と幼虫の発育。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	8(1) 26-33.	卵期間は30°Cで6-8日、1世代所要日数は25-30°Cで約1月。各発育ステージの計測値を示す。
28	後藤昭	1964	未耕地の植物寄生性線虫(長崎県における予備調査)。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 31-32.	講要
29	後藤昭・大島康臣	1964	ネグサレセンチュウの薬剤防除について。	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	10: 41-43.	キタ、ミナネグサレセンチュウのEDB感受性比較。圃場施用: D-D、EDB剤は有効、DBC剤の低温時処理はパレイショに薬害。
30	後藤昭・大島康臣	1964	ミナネグサレセンチュウによるジャガイモ塊茎被害の品種間差異について。	九州農業研究	26: 150-152.	早掘りではフコ、長崎赤の被害が農林1号より少。遅掘りでは差なし。
31	後藤重喜	1964	甘藷根ぐされ線虫病の防除に関する調査研究。	宮崎農試研報(宮崎県農業試験場研究報告)	5: 1-121, 8 pls.	研究史、分布、生態(垂直分布、発生消長、寄主体侵入)、各種作物における寄生増殖と病斑型、致死温度と生存期間、伝播経路、越冬、寄主植物、病徴、被害査定、病原菌類との関係、カンショ品種の抵抗性、発病度と諸要因(土壌温度・湿度・酸度、土性、肥料要素、堆肥、田畑輪換、深耕、植付時期、再植)、耕種防除法(輪作、ラッカセイの効果)、薬剤防除。
32	後藤重喜・岩橋哲彦・川越仁	1964	南九州におけるネコブセンチュウの種類について。	宮崎農試研報(宮崎県農業試験場研究報告)	3: 37-43.	Meloidogyne incognita var. acrita, M. hapla, M. javanica, M. arenariaの計測値、寄主植物。
33	萩屋 薫	1964	園芸講座: 花卉球根栽培[22]。	農及園(農業および園芸)	39(1) 82-86.	ヒヤシンスのノッチングによる線虫等の球根内の病気の完全な判別。
34	原島典雄・中山嘉平	1964	桑のネコブセンチュウについて(7) ネマゴン使用桑園4年後の効果。	蚕糸研究	49: 88-92.	枝條の発育良く、8-10割の増収。
35	針谷信義	1964	コンニャクに対する施肥量とネコブセンチュウの被害について。	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会年報)	2/3: 19-22.	騰写
36	針谷信義	1964	コンニャクに対する施肥量とネコブセンチュウの被害について 第1報。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 100-101.	EDB剤施用は増収効果はないが、被害は減少。施肥量により被害に差。
37	針谷信義	1964	コンニャクに対する施肥量とネコブセンチュウの被害について 第2報。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 101-102.	窒素分の増肥で被害増加。磷酸及びカリ分では減少。
38	橋岡良夫	1964	Nematode diseases of rice in the world.	Riso	13(2) 139-147.	イネシシガレ、クキ、イネネモグリ、ネコブ、イネシストセンチュウの被害等。
39	引地直至	1964	モモの土壌線虫に関する調査(1)モモの土壌線虫と土壌条件に関する実態。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	15: 150-152.	ネコブ、ピン、ネグサレセンチュウ多。線虫と忌地の関係は判然とせず。
40	引地直至	1964	桃の線虫類とその防除について。	東北農業研究	8: 172-	検出線虫相及び数。DBC剤による立毛中処理と効果。
41	引地直至	1964	モモの土壌線虫とその防除。	落葉果樹	17巻10: 9.	未見
42	広原宗次	1964	水稲の心枯線虫に対するDBC剤の処理効果と発芽に及ぼす影響。	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会年報)	2/3: 55-57.	騰写
43	外口允孝・田中勇	1964	タバコにおける線虫病抵抗性検定法。	九州農業研究	10: 43-46.	サツマイモネコブセンチュウ。本葉6-7枚時に卵囊接種が簡単。
44	星野三男・谷中清八・尾田啓一・熊沢隆義・氣賀沢和男	1964	イネシストセンチュウに対する殺線虫剤の効き方。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 35.	講要
45	星野三男・谷中清八・尾田啓一・熊沢隆義・氣賀沢和男	1964	イネシストセンチュウに関する研究(第5報) 薬剤の効き方について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 110.	D-D剤は地表から30cm、EDB剤では20cmまでの層の出着減。
46	星野三男・谷中清八・尾田啓一・熊沢隆義	1964	イネシストセンチュウに関する研究(第6報) 輪作の効果について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 111.	非寄主の1-2年輪作により、密度著減・被害軽減が可能。
47	一戸 稔	1964	サツマイモネコブセンチュウの学名。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	8(2) 171-172.	ネコブセンチュウの継代飼育による perineal pattern の変異、寄主植物との関係を紹介。日本産をMeloidogyne incognitaとする。
48	一戸 稔	1964	昭和38年度に試験された害虫防除薬剤: 委託試験成績から、殺線虫剤。	植物防疫	18(2) 41.	EDB、DBC、ドジョウビクリン、0795、CDBE、N-582、DM、H-1311、D-D液体肥料。
49	一戸 稔	1964	果樹と線虫: 線虫特殊調査から。	農業技術	19(8) 351-354.	線虫相(ミカン、カキ、リンゴ、モモ、ナシ、ブドウ)、土壌中の分布、検診法、被害(ミカン、ブドウ)。
50	一戸 稔	1964	果樹の線虫被害とその防除。	農業	11巻2: 42-45.	主にDBC剤の使用法。

51	一戸 稔・引地直至	1964	Tetylenchus の一新種の形態的特徴とその意義.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 31.	講要
52	飯島 勉・本橋精一	1964	トマト萎凋病防除試験.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 35	ネコブセンチュウを含む、ドジョウビクリン、ペーバム、N-582(ペーバムのアンモニウム塩の50%液剤)を施用.
53	稲垣春郎	1964	ハッカの地下茎腐敗と生育不良の原因.	日植病報(日本植物病理学会報)	29(2) 91.	講要
54	稲垣春郎	1964	圃場におけるハッカの生育と線虫密度.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15: 146-147.	ピンセンチュウ等の線虫が関与.
55	稲垣春郎・湯原 茂	1964	ダイズシストセンチュウ抵抗性品種における幼虫の侵入と根組織の褐変.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15: 135.	褐変は抵抗力弱の品種でも生ずるが、強品種に比べ少.
56	稲垣春郎・湯原 茂	1964	シストからの幼虫遊出と根節侵入に対するダイズ品種の影響.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15: 136.	ダイズ品種により遊出数多くなる. 品種間の差は少.
57	稲生 稔・菅原 毅	1964	直播栽培種に対する殺線虫剤処理の影響とその効果について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 107.	D-D剤の効果がすぐれ、EDB剤は薬害.
58	井上 敏・伊藤春男	1964	乾田直播栽培における殺線虫剤の春季処理の効果(予報).	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 35-36	講要
59	井上 敏・伊藤春男	1964	イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の効果 第1報 移植栽培における春処理の効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15: 194-195.	DBCP剤施用で稲が倒伏. 線虫防除効果は不明瞭.
60	犬東正美・石川元一	1964	茶樹の線虫防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 115.	DBCP剤処理は点・溝の間隔が短いほど高い効果.
61	石橋信義	1964	放射線照射による線虫の研究.	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	8(1) 89.	講要
62	石橋信義・気賀沢和男・国井喜章	1964	Studies on the egg production of the root-knot nematode, <i>Meloidogyne incognita</i> Chitwood. II. Effects of the growth condition of the host plant on the propagation of the nematode.	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	8(3) 245-250.	サツマイモネコブセンチュウの発育に及ぼすカリの重要性は寄主作物により異なる傾向. 窒素欠乏、燐酸欠乏の区では線虫の発育・産卵開始は早まった. 全般的に窒素欠乏時に繁殖大.
63	石橋信義・国井喜章	1964	ネグサレ加害の馬鈴薯に対する放射線照射.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 34-35.	講要
64	石亀英徳・及川英雄・佐藤昭美	1964	くわのネコブ線虫防除に関する試験(予報) 桑園におけるネコブ線虫の時期別発生消長.	若手実証年報(若手県蚕業試験場年報)	11: 109-113.	深度別の発生消長
65	石川元一	1964	桃樹のネコブセンチュウについて.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 98.	アレナリア、サツマイモネコブセンチュウ. 樹幹を中心とした水平、垂直分布、寄生時期、園内の被害樹の分布、樹勢と線虫の関係.
66	石川元一	1964	イネ栽培法とイネネモグリセンチュウ.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 35.	講要
67	石川元一	1964	イネ栽培法とイネネモグリセンチュウの生態.	農業技術	19(5)229-231.	苗代様式、移植栽培・直播栽培、湛水・排水田、田植時期、施肥量、水田耕起と線虫の寄生との関係.
68	石倉秀次	1964	昭和39年度植物防疫事業の概要.	植物防疫	18(4) 125-128.	土壌病害虫対策は土壌線虫から土壌病害に指向を転ずる. 新たに永年作物の線虫防除を開始. 3年計画で7,500haのハイロット防除を推進. 本年度は1,000haを実施.
69	伊藤武夫	1964	数種の農薬による土壌消毒試験(1).	高知林友	448: 横組7-21.	昭和34年度の成績. スギ、ヒノキ、クロマツのEDB剤他の処理と生育状況.
70	伊藤武夫	1964	数種の農薬による土壌消毒試験(2).	高知林友	449: 横組6-21.	ヒノキ、スギ、クロマツに臭化メチル剤、ペーバム、セレン石灰、D-D、EDB剤.
71	伊藤武夫	1964	数種の農薬による土壌消毒試験(3).	高知林友	451: 横組13-23.	殺線虫剤施用の効果. 線虫相.
72	伊藤武夫	1964	数種の農薬による土壌消毒試験(4).	高知林友	452: 横組10-20.	苗木の発生数、病害虫の発生に及ぼす影響.
73	伊藤喜隆	1964	りんごのネコブセンチュウの被害について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39:33.	講要
74	伊藤喜隆・須藤山路・土屋弘道	1964	ゴボウの黒変障害の防除(第2報).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 48.	D-D剤施用も効果あり.
75	弥富喜三	1964	果樹の線虫.	果実日本	19巻5: 13-16.	被害、病徴、線虫相、防除(主に殺線虫剤の使用法).
76	弥富喜三・西沢 務	1964	水稲の生育に及ぼす殺線虫剤の副次的影響.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 36.	講要
77	堀谷誠一・菅家英治	1964	DBCP剤による桑苗のネコブセンチュウ防除に関する試験 第2報 処理時期、処理深度及び液剤の処理方法について.	茨城県蚕業試験場報告	22: 103-112.	7月10-20日頃、深さ16-20cmに灌注.
78	柿崎泰彦・千葉陸雄・小野 昭	1964	桑のネコブセンチュウに関する試験 第1報.	宮城県蚕業試験場要報	3: 40-56.	ネコブセンチュウの寄生実態調査、発育の良否と寄生状況、収穫量、防除(ペーバム、EDB、DBCP乳剤・同粒剤).
79	神谷勇男・高瀬尚明	1964	マッシュルーム栽培に関する研究(第4報) ネマトーダの被害について.	園芸学会研究発表要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭39春: 31	講要
80	金沢 純・佐藤六郎	1964	ガスクロマトグラフィーによる殺線虫剤D-D中の1, 2-ジクロロプロパン、シスおよびトランス1, 3-ジクロロプロパンの定量.	分析化学	13 (4) 358-359.	定量分析の改良法の手順.
81	神田吟子・新田ゆき・山田 忍	1964	ダイズシストセンチュウ(<i>Heterodera glycines</i> Ichinohe)による被害大豆および無被害大豆の種子間の化学組成の差.	帯広畜大研報(帯広畜産大学学報)第1部	4(1) 131-136.	被害大豆は粗蛋白・粗脂肪含量は少なく、粗繊維・粗灰分・ビタミンB1、B2は多い. 無機成分含量、脂肪の化学性等も分析.
82	桂 琦一	1964	十字科野菜の土壌病害と防除法.	農及園(農業および園芸)	39(6) 963-966.	線虫病ダイコン、カブ、ヒノナの防除法(天地返し、湛水、殺線虫剤施用)を含む.
83	川田惣平・本田 仁	1964	殺線虫剤(D-D、EDB剤)の生育期処理に関する試験.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 112-113.	大豆にEDB剤使用可能.
84	河村貞之助・平野和弥	1964	ジャガイモのいもぐされ線虫病とFusarium spp.との関係.	日植病報(日本植物病理学会報)	29(2) 61.	講要
85	川島嘉内	1964	Hirschmannia oryzae に関する研究(IV) 土壌の還元と被害について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15: 131-132.	線虫接種区のエネの生育状況は無接種区と比べ、還元が強さとともに悪化. 7月中旬頃より根腐れ増大.
86	川島嘉内	1964	イネシストセンチュウ(<i>Heterodera oryzae</i>)による水稲の被害について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15:133-134.	湛水とともに被害発現. 鎮圧箇所(トラクタ車輪跡)では無鎮圧より寄生少なく玄米重は約5倍となる. 漏水の基だし箇所が被害大.
87	川島嘉内	1964	水稲の線虫被害と防除法.	農業技術	19(2) 75-78.	イネネモグリセンチュウ. 季節的消長、被害、症状、減収、防除(D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン). シストセンチュウ: 赤枯病に関与.
88	川島嘉内	1964	水田の線虫とその被害.	農業	11巻2: 口絵(2 pls.)、解	イネネモグリセンチュウ、イネシストセンチュウ
89	川島嘉内・小林 幸雄	1964	イネシストセンチュウによる乾田直播栽培の被害について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 34.	講要
90	川内一郎・清水 精一郎	1964	林業苗圃における土壌線虫被害調査.	鹿児島林試報(鹿児島県林業試験場報告)	12: 61-68.	謄写. ヒノキ、アカマツ、クロマツ、イヌマキの検出線虫.
91	気賀沢和男・土橋貞夫・国井喜章	1964	線虫被害と肥培(II).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	0.5375	施肥量の違いによるキュウリ、ナスの収量差よりも、殺線虫剤処理の効果が大. 3-5倍の増収.
92	気賀沢和男・中里肇二・国井喜章	1964	Hirschmannia oryzae の生態に関する研究・根群内密度と圃場内分布密度.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 33.	講要
93	小林源次・馬場 正	1964	D-Dの殺虫力について 第2報 イエバエの幼虫及びに対する他剤との比較・びに残効力について.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	6: 14-18, 98-99.	EDB、DBCP剤と比較. 残効16時間以内.
94	小林源次・馬場 正	1964	D-Dの殺虫力について 第3報 イエシロアリに対する殺虫力について.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	6: 19-21.	効果あり.
95	小林義明・深沢 永光	1964	殺線虫剤の施用による水稲の線虫(Hirschmannia oryzae)の防除について.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	6: 77-78.	講要. D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤.
96	小林義明・深沢 永光	1964	水稲に対する殺線虫剤の副次的効果について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 36.	講要
97	小宮書之助・工藤 毅	1964	ネコブセンチュウとその寄主植物について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 97.	No.64-100を参照
98	小宮書之助・工藤 毅	1964	茶樹のネグサレセンチュウについて(1).	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	17: 13-14.	P. loosiと同定. 計測値を示す.
99	小宮書之助・工藤 毅・八重樫隆	1964	ネコブセンチュウの寄主植物について(1).	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	17: 9-11.	アレナリア、キタ、サツマイモ、ジャワネコブセンチュウ、M. sp. の作物、雑草に対する寄生性.

100	小宮喜之助・八重隆隆志	1964	大豆萎黄病防除に関する研究(1)EDBによる薬剤防除試験	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	17: 1-3.	D-D剤と同程度か、まさる効果。
101	小宮喜之助・八重隆隆志	1964	大豆萎黄病防除に関する研究(2)大豆萎黄病抵抗性の品種間差異	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	17: 5-7.	東北6号、若手ヤギ1号の生育が良い。
102	今野善一郎	1964	線虫抵抗性を異にする大豆品種を栽培した跡地における線虫被害程度の差異に関する研究 第1報 線虫被害程度の逆転現象に	東北農業研究	6: 152-154.	強品種栽培跡地の大豆:線虫被害大。弱品種栽培跡地:被害小・生育良好。原因不明。
103	高野光之丞・村上正雄・奥村聡一・上村睦生	1964	ゴボウの「ヤケ」の薬剤防除。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 122.	ムギネグサレ、ニセフクロセンチュウを多数検出。線虫と糸状菌の関与を推定。
104	小飯和彦・中山芳久	1964	マッシュルームを加害する線虫と防除について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 35.	講要
105	小菅喜久弥	1964	水銀剤によるシガラセンチュウと馬鹿苗病の同時粉消毒の効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 108.	ソイルシン乳剤1000倍液24時間浸漬の実用性を認める。
106	国井善章	1964	Nematological survey on Malayan crops.		40 pp.	謄写、マレーシアの、主にカカオ・イネの線虫調査結果、薬剤防除試験結果を含む。
107	呉羽好三・市川久雄・上郷千春・柳子榮・穆・松野忠男・芝田裕二・小林和男	1964	イネネモグリセンチュウに対するEDB処理と窒素肥料の施用量について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 35.	講要
108	前田達雄	1964	トマトにおけるサツマイモネコブセンチュウ抵抗性品種の育種に関する研究。	東京農試研報(東京都農業試験場研究報告)	3: 1-7, 2 pls.	検定法、遺伝子分析、実用形質と抵抗性因子との関係、抵抗性品種の後作とネコブセンチュウの生息密度。
109	真宮清治	1964	苗木に寄生するネグサレセンチュウ(Pratylenchus spp.)について(予報)	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	75回: 368-371.	スギ実生におけるキタネグサレセンチュウの発生消長と被害。
110	増田安弘	1964	そまの生理に及ぼすネマトーダの影響[第2報]茄子跡地のホウレンソウにおける寄生と土壌反応及び有機物との関係。	農及園(農業および園芸)	39(6) 991-992.	ネコブセンチュウ被害と土壌pHの関係とD-D剤処理と無処理で比較。薬剤処理より土壌pHがホウレンソウの生育に強く影響。堆肥施用との関係を含む。
111	松村安治・速水 和彦	1964	陸稲連作障害に関する研究。	東海近畿農試研報(東海近畿農業試験場研究報告)	10: 102-139.	土壌肥料学的原因究明。最終的には土壌線虫が原因と結論。
112	三井 康	1964	土壌に添加した炭素源の種類と線虫密度の変動。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭 39: 32.	講要
113	三浦春夫・東海 林久雄	1964	山形県におけるイネネモグリセンチュウの分布について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15: 132-133.	秋落水田・泥炭地による密度の違いは小、水苗代の稲からは多数の線虫を検出、畑苗代の稲からは無検出。
114	三浦利男・鷲尾 貞夫	1964	ネグサレセンチュウに関する調査 第4報 ナスにおけるムギネグサレセンチュウ(Pratylenchus neglectus)の防除。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	15:142.	D-D剤20%/10 a 施用で防除可能。
115	森川 修	1964	殺線虫剤のワモンゴキブリに対する毒性ならびに中毒症状の解析。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	8(1) 1-5.	EDBでは麻痺後死亡、DBCP、cis-1, 3-dichloropropeneでは興奮、麻痺、死亡の順に症状が出る。
116	森川 修	1964	ワモンゴキブリの背脈管搏動ならびに呼吸に及ぼす殺線虫剤の影響。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	8(2) 136-140.	背脈管・動はEDBでは徐々に減少、DBCP、cis-1, 3-dichloropropene (D-Dの有効成分)では処理直後は無処理と変わらず、後に不規則となり、停止。呼吸はいずれでも増加。
117	森川 修	1964	ワモンゴキブリの解糖作用におよぼす殺線虫剤の影響。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	8(4) 277-285.	炭水化物の消費はEDB処理で少、DBCP、cis-D処理で多。乳酸の量はDBCP、EDB中毒個体で多、cis-Dでは不変。その他、粗脂肪、α-グリセロ燐酸含量、解糖系酵素類の活性を定量。
118	森川 修	1964	殺線虫剤によるワモンゴキブリおよび自活性線虫 Panagrellus redivivus の三度糖リン酸脱水素酵素の阻害。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 22.	講要
119	本橋精一	1964	クロールピクリンによるビニールハウス内土壌の消毒。	農業	11巻4: 6-9.	注意事項を解説。
120	本橋精一・阿部 善三郎・飯島 勉・平野寿一・横 浜正彦	1964	トマト萎ちょう病防除に関する研究。	東京農試研報(東京都農業試験場研究報告)	3: 27-51, 2 pls.	ネコブセンチュウと発病の関係を含む。
121	森田 健	1964	温室・ビニールハウスの花卉病害と防除[1].	農及園(農業および園芸)	39(1) 35-38.	カーネーションの立枯病: Fusarium菌とビニ、ネコブセンチュウとの複合感染。キクの連作障害: Fusarium菌とネグサレセンチュウの複合感染。
122	村井文彦	1964	林業における防除機材。	林業と薬剤	9: 11-14.	苗畑の土壌消毒を含む。
123	村上正雄・高野 光之丞・和田利 春・相馬 茂・高 瀬一太郎・飯島 清彦・近藤 信	1964	そま類への殺線虫剤の影響について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 123-125.	ダイコン、キュウリに対するD-D、EDB剤施用:播種 5-7日以上前。
124	村上雅二・清松 清彦・近藤 信	1964	水稲の箱育苗と線虫心枯病の関係。	九州農業研究	26: 75.	普通育苗より発病多。
125	永沢 実・阿久津 善作・河合 一郎・堀江典昭・新井 茂・伊藤桂佳	1964	ネコブセンチュウの生態並びに防除に関する研究。	東京農試研報(東京都農業試験場研究報告)	3: 63-103, 6 pls.	土壌中・植物根中の線虫数の消長、連作と線虫数、垂直分布、土壌病害と線虫、防除(トマトの線虫抵抗性品種、D-D、EDB、DBCP、ペーハム剤による線虫防除効果、施用時期、施用方法、薬害他)
126	永沢 実・堀江典 昭	1964	DBCP剤のナスに対する薬害。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 43.	植え付け1月以上後に出る。
127	中島三夫・広瀬 清信・石沢昭雄・石田秀武	1964	殺線虫剤に関する研究、特に0795の理化学的性質と生物学的活性について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 36.	講要
128	中国和年	1964	ニセフクロセンチュウの1種、Rotylenchulus sp. 幼虫の成育と温度条件。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 32.	講要
129	仲宇佐達也・栗 原茂次・橋本貞 夫・田村光一郎	1964	果菜類の連作害に関する研究。	東京農試研報(東京都農業試験場研究報告)	13: 9-26, 4 pls.	トマト、ナス、キュウリ、マクワウリ、スイカ、カボチャ。線虫害を含む。
130	中里肇二・神保 藤蔵・黒沢一男・五味美知男	1964	コンニャクのネグサレセンチュウ防除時期について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 105.	DBCP剤は生育中及び春処理では薬害、秋処理(80%乳剤7/10 a)が適する。EDB剤は50/10 a 必要。連作地帯では殺線虫剤施用により20-60%の増収。
131	中里肇二・川島 徹市・黒沢次男	1964	イネネモグリセンチュウの発生消長について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 106.	移植期、穂ばらみ期頃に寄生数最高。
132	中里肇二・大塚 猛行	1964	群馬県内のリンゴ園の線虫について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 116.	8圃の線虫を検出。ネグサレセンチュウが多。同線虫の圃内分布、季節的消長。
133	中沢雅典	1964	育苗と促成における果菜類の病害防除。	農及園(農業および園芸)	39(12) 1857-	苗床、本圃の土壌消毒、根腐線虫病、トマト萎凋病の解説を含む。
134	中沢雅典・天野 隆・尾崎典光	1964	Aphelenchus avenaeの甘藷に対する寄生性と随伴菌(Fusarium spp.)との関係。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 32-33.	講要
135	成田武四	1964	ハッカの黒くされ病の病原と防除。	植物防疫	18(8) 308-312, 1 pl.	病名、症状、病原菌(Phoma)、地下茎の腐敗と線虫(ピン、ネグサレ、ネコブセンチュウ)との関係、伝染経路と発生条件、防除法(PCNB剤施用他)。
136	新留伊俊	1964	てん菜の連・輪作と土壌病害虫の動向。	てん研報(てんさい研究所報告)	補4: 161-167.	ネコブセンチュウの発生と輪作(スーダングラス、麦、カンショ他)を含む。
137	西沢 務	1964	ネコブセンチュウによる根腐組織における植物成長促進物質の存在。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 33.	講要
138	野村静男・横川 登代司	1964	殺線虫剤EDBの土壌処理が苗木の生育に及ぼす影響について(予報)	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	75回: 371-376.	スギのネグサレセンチュウ。
139	尾田啓一・星野 三男・谷中清八	1964	イネシストセンチュウの陸稲に対する被害。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 34.	講要
140	尾田啓一・星野 三男・谷中清八・熊沢隆義・滝田	1964	イネシストセンチュウに関する研究 第4報 被害解析の2。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 109.	ポット試験。播種25日後の接種区稲の生育遅れ、収量大幅減。
141	小口健夫	1964	Pestalotia菌によるAphelenchoides sp.の培養温度。	北海道林試報(北海道立林業試験場報告)	3: 46-50.	スギのコブから分離した線虫と菌。15°C、25°Cでよく増殖。
142	岡田正順	1964	花の産地形勢とその方向。	農及園(農業および園芸)	39(1) 263-266.	キクの連作障害(Fusarium菌とネグサレセンチュウの複合感染)にふれる。
143	岡田正順	1964	切花用秋ギクの栽培法。	農及園(農業および園芸)	39(4) 639-642.	ハガレセンチュウ防除(ホリドール、メタシトックス、マラン)散布。D-D、EDB剤土壌処理を含む。
144	岡田利承・森 哲 郎	1964	土壌・薬剤の拡散に関する研究 第2報 注入深度の違いによるD-Dの拡散とダイズシストセンチュウに対する防除範囲。	北海道農試報(北海道農業試験場報告)	83: 24-31.	5, 10, 15 cmに注入。深い注入ほど広範囲に拡散。浅い注入ほど地表部の防除効果が高い。
145	岡本信義	1964	茶樹の土壌線虫による被害とその防除。	農及園(農業および園芸)	39(8) 1255-1260.	線虫相、被害、生態(垂直分布の季節的変化)、防除(植付前: D-D、EDB剤。立毛中: DBCP剤)。

146	小野邦明	1964	線虫捕食菌に関する研究(III) <i>Dactylolella ellipsolella</i> によるネコブセンチュウ捕殺効果	日植病報(日本植物病理学会報)	29(2) 100.	講要
147	大島康臣・後藤昭・大串竜一・平野露治	1964	長崎市茂木町の植物寄生性線虫相。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 32.	講要
148	太田勇吉・井上敏	1964	スギに寄生する <i>Pratylenchus</i> 属線虫の防除(2) 床替前の土壌・蒸処理	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	16: 31-33.	D-D, EDB, DBCP 剤の効果。
149	大塚幹雄・内藤祐・葦島童久	1964	昭和39年の病害虫の発生と防除。	植物防疫	18(12) 471-478.	イネ線虫心枯病が中国、四国の一部で発生。
150	三枝敬郎	1964	冬季圃場のネコブ線虫の保温検出: ネコブ線虫の発生予防法。植物防疫	植物防疫	18(2) 45-48.	25°C 数日間保温によりベルマン法の分離幼虫数増加。
151	三枝敬郎	1964	植物防疫上重要なゴールデンネマトーダの識別法	植物防疫	18(7) 283-284.	近似種3種との識別法。
152	三枝敬郎・葦原敏夫	1964	1ネコブ線虫の形態と寄生性に関する知見。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 31.	講要
153	齊藤 肇・錦織亀吉・松本定雄	1964	桑園の線虫防除に関する研究: 桑園における薬剤防除(1)。	鳥根農試報(鳥根県蚕糸試験場報告)	40: 8-14.	播写。 DBCP 剤注灌の効果
154	齊藤 肇・錦織亀吉・松本定雄	1964	桑園の線虫防除に関する研究: 桑園における薬剤防除(2)。	鳥根農試報(鳥根県蚕糸試験場報告)	40: 15-20.	播写。 D-D 剤の冬期処理。
155	坂井健吉 他	1964	火山灰土壌地帯における甘藷の生産性向上。	農及園(農業および園芸)	39(1) 461-467.	日本作物学会九州支部例会シンポジウム要旨。ネコブ・ネグサレセンチュウ抵抗性育種問題にふれる。「抵抗性の改良はやや困難」
156	酒井清六・合田昌義・野上 寿・松石一樹・米林	1964	広く虫類動的防除の一試案。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 6.	講要
157	桜井 清	1964	北海道における主要土壌線虫とその防除。	農業の進歩	10巻2: 12-18.	ネコブセンチュウ(てん菜、マメ科牧草、リンゴ)、ダイズシストセンチュウ、ピンセンチュウ(はっか)、イネネグサレセンチュウの被害・防除とその問題点
158	桜井 清・湯原巖・福田春郎・堤正明	1964	線虫による牧草の被害。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	15: 147-149.	デモシーにネグサレ、クロバー類にネコブセンチュウの被害。収量の比較。
159	佐藤昭美・及川英雄・石亀英徳	1964	クワ樹原苗圃におけるネコブセンチュウ防除効果について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	15: 149-150.	テムズネコブセンチュウ(多分リンゴネコブセンチュウの誤り)。 DBCP 剤では成分量 5 g/m ² 以上、粒剤では 10 g/m ² 以上でクワの生育旺盛。
160	佐藤昭美・大森秀雄	1964	ダイズシストセンチュウに関する研究(3) 越冬状態に関する調査。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	15: 139-140.	第1期幼虫が大部分、一部が第2期幼虫
161	佐藤昭美・大森秀雄	1964	ダイズシストセンチュウに関する研究(4) ダイズ抵抗性品種が線虫の発育および密度におよぼす影響について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	15: 140-141.	侵入幼虫の大部分は第2・第3期幼虫で发育停止。根中で死亡。成虫の雄/雌比が増加。2年連作でシスト数激減。
162	清家義明・井手 隆	1964	イネネグサレセンチュウの薬剤防除について。	愛媛農試報(愛媛県農業試験場研究報告)	4: 29-32.	D-D, EDB, DBCP, ドル粒剤。
163	関谷昭二郎	1964	茶園の線虫防除について。	九州農業研究	26: 148-149.	DBCIP 剤によるネコブ、ネグサレ、ピンセンチュウ防除。幼木園で80%乳剤3・/10 a、粒剤30kgが適当。
164	下川利之	1964	林業育苗畑の土壌線虫に関する研究(予報)	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	4: 138-143.	播写。被害の実態。検出線虫の種類、Rhizoctonia, Pythium 菌との混合感染
165	下長根 鴻・松田明・渡辺文吉郎	1964	土壌殺菌剤の圃場適用に関する研究 第3報 薬剤施用による土壌微生物相と土壌抗力の変動。	日植病報(日本植物病理学会報)	29(5) 292.	講要。含EDB剤。
166	須藤山路・伊藤嘉隆・高野利康・土屋弘道	1964	ナガイモの黒変障害の防除(第2報)。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 47.	D-D, EDB, クロルピクリンが効果あり。
167	周藤靖雄・山田栄一	1964	土壌消毒による針葉樹稚苗の立枯病防除試験。	日林関西支誌(日本林学会関西支部大会講演集)	14: 64-65.	講要。クロマツにD-D、クロルピクリン剤他。
168	菅原 毅・稲生 稔	1964	直播栽培稲に対する殺線虫剤処理の影響とその効果について。	日植病報(日本植物病理学会報)	29(5) 288-289.	講要
169	砂田喜与志	1964	下田不知系のダイズシストセンチュウ抵抗性因子の導入について。	北農	31巻2: 12-14.	黒炭三本木、下田不知系から因子を導入。
170	砂田喜与志・佐々木敏一	1964	大豆根の栄養成分と根粒着生及びシストセンチュウの被害との関係。	日育日北談報(日本育種学会・日本作物学会北海道談話会報)	4: 26.	未見
171	鈴木春夫・森 喜作	1964	圃耕栽培の病害と防除法。	農及園(農業および園芸)	39(12) 1839-	過去にキュウリにネコブセンチュウ大発生事例あり。
172	高橋芳雄	1964	生態的特性からみた落花生品種と栽培法[2]。	農及園(農業および園芸)	39(5) 774-780.	連作によるネコブセンチュウ被害(収量、茎葉の窒素・炭水化物含有率、根瘤の着生数等)、防除(土壌消毒、輪作)を含む。
173	高久恒夫・青木満・杉本 堯	1964	土壌消毒によるコムギ萎縮病防除について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	11: 28.	D-D 剤の防除効果顕著。
174	高倉重義	1964	キタネコブセンチュウの防除に関する研究 第6報 イネ科植物とクロバー混作が線虫密度におよぼす影響。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	15: 143-144.	イネ科の1年間栽培により線虫密度低下。混作時は効果半減。
175	高倉重義・手塚 浩	1964	キタネコブセンチュウの防除に関する研究 第7報 主要作物品種の被害について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	15: 144-145.	D-D 剤施用と無施用圃場の収量比較。ハッカ、アマ、アズキ、エンドウ、インゲン、ダイズ、ハレイショ
176	竹下晴彦・横尾多美男	1964	苗圃における線虫防除試験(モリシマアカシアについて)。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	17: 159-161.	ネコブ、ネグサレ、ラセン、オオカタハリセンチュウに対するD-D, DBCP, クロルピクリン、有機水銀剤の施用
177	滝田泰章・尾田啓一	1964	殺線虫剤の陸稲生育におよぼす影響。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 36.	講要
178	田辺仁志	1964	愛知県下における桑園土壌線虫の分布について。	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東海支部東海地区蚕桑研究連絡会研究発表会講演要旨)	12: 8-9.	講要
179	田原篤行・江崎一弘・織田博之・山田俊秋	1964	土壌殺菌剤に関する研究: 水銀剤の土壌中における行動。	九病虫研報(九州病虫研究会報)	10: 92-94.	DBCIP-DMA 混合剤は土壌吸着少ない。
180	照屋林宏	1964	バインアップルの生育中に処理せる土壌殺線虫剤の影響について。	沖繩農業	3巻1: 27-33.	D-D 剤は葉害、EDB, DBCP 剤は葉害なし。EDB15% /10 a が適当
181	照屋林宏・外間忠守	1964	沖繩本島の南風原村におけるネコブセンチュウの被害実態とその防除について。	沖繩農業	3巻2: 53-60.	寄主植物、検診面積、防除(D-D, DBCP 剤)。
182	富田一郎	1964	マリーゴールドの殺線虫成分の化学的創造と作用機構。	植物防疫	18(9) 345-349.	マリーゴールドから抽出された α -terthienyl, 5-(3-buten-1-ynyl)-2,2-bithienyl が殺線虫物質。それらの類縁化合物の合成と殺線虫力にも言及
183	友永 富・黒川秀一	1964	イネネグサレセンチュウに関する新発見。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会報)	12: 74-76.	湿田に多い。土性。コマハナシ病、根ぐされとの関係は不明瞭。珪酸カルシウム、堆肥連用により線虫寄生減少。寄生の増加で稲の生育低下。
184	戸津侃公	1964	系瓜のツルワレ病抵抗性とネコブセンチュウとの関係(予報)。	育種(育種学雑誌)	14(3) 207.	講要
185	堤 正明	1964	ダイズシストセンチュウふ化に及ぼす栽培土壌浸出液の影響。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	15: 136-137.	インゲン栽培土の浸出液では孵化が多く、コムギでは少。
186	堤 正明	1964	ダイズシストセンチュウふ化に及ぼす植物栽培土壌浸出液の影響。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭39: 33-34.	講要
187	都築辰吉	1964	前橋営林局管内における森林病害虫とその防除について。	森林防疫ニュース	13(2) 36-38.	土壌線虫およびそのD-D 剤による防除を含む。
188	植村誠次	1964	オガ屑堆肥の製造と施用効果(わかりやすい林業研究解説シリーズ 6)。	林業科学技術振興、東京	51 pp.	土壌病害線虫防除効果 P.33-42。線虫防除用には鶏糞添加した堆肥が良い。
189	上住 泰	1964	<i>Helicotylenchus</i> 属線虫各種の比較。	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	6: 78-79.	講要。H. nanus, H. digonicus, H. erythrinae, H. microlobus, H. bambophilus n.sp. を記載。最後の種(H. erythrinae に近似)は一戸 稔により記載予定と記されているが、命名規約上は本記事が本種の実原記載となる(一戸による記載は刊行されていない)。
190	和知文雄	1964	苗圃における土壌線虫防除試験。	林業技術	269: 29-30.	D-D, EDB, クロルピクリン, VS34 才方堆肥を施用。ユミハリセンチュウ等に対する効果
191	和知文雄・藤田伯寿	1964	苗圃における立枯病(根腐型)防除調査。	造林技術研究集録(前橋営林局)	1964: 131-135.	殺菌剤・土壌改良剤と比較してD-D 剤の効果大
192	若林敏一	1964	馬鈴薯のネグサレセンチュウに関する研究。	東北農試研究速報(東北農業試験場研究速報)	2: 29-34.	抵抗性検定: 高澱粉種の品種ほど抵抗性の傾向。被害度と軟腐病とは無関係。
193	鷲尾貞夫	1964	青森県に棲息する植物寄生性線虫類。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	15: 129-131.	18種29種以上を確認。ネグサレセンチュウ6種の分布。キタネグサレのマツ苗、ムギネグサレのナスへの接種試験。ダイズシストセンチュウの検出状況。
194	鷲尾貞夫	1964	線虫の被害と防除: 県内で現在知られている線虫は29種。	青森農業	15巻3: 40-42.	分布、被害、防除(薬剤の種類と使用上の注意)。

195	渡辺 巖	1964	土壌殺菌剤施用による土壌微生物相の変動: 窒素成分の変化に関する微生物の変動.	植物防疫	18(10) 406-410.	クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤他. 有機物の無機化、処理後の土壌中微生物相の回復、硝化菌の抑制と回復.
196	山田隆保	1964	Studies on the ecology of the parasitic nematode of the mushroom, <i>Ditylenchus myceliophagus</i> Goodey, 1958. II. Relation between several breeding temperature and its number of multiplication.	三共研年報 (三共研究所年報)	16: 79-83.	20-33 °Cにおける増殖.
197	矢内万平・三輪計一・太田 叶	1964	ビールムギ線虫縮病について(I) 土壌消毒の効果	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	11: 29.	D-D、ベーパーム剤施用でムギ増収、発病程度は不変または減少.
198	横川登代司	1964	苗木に寄生する線虫実態調査からの2、3の知見	日林大会講要集(日本林学会大会講要集)	75回: 365-368.	埼玉県のスギ、ヒノキ、アカマツの調査. イシユク、ユミハリ、ネグサレセンチュウが主体.
199	横浜正彦・菅田重雄・新井 茂	1964	そ菜におけるケロルピクリン剤の効果について(2) 効果と経済性	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	20: 250-252.	謄写. サラダ菜、キュウリ.
200	横尾多美男	1964	On the stubby root nematodes from western Japan.	佐賀大農学(佐賀大学農学雑誌)	20: 57-62, 7 pls.	<i>Trichodoros mirzai</i> Siddiqiを乏から記録. 2新種 <i>T. longistylus</i> (福岡県田主丸のクロマツ苗畑), <i>T. cedarus</i> (福岡県朝倉町のスギ)を記載. 前者は後者のシノニムとされた(No. 79-132).
201	横尾多美男	1964	On a new species of ring nematode from Japan (II).	佐賀大農学(佐賀大学農学雑誌)	20: 63-65, 3 pls.	<i>Criconemoides sagaensis</i> を新種として佐賀県鳥栖のゴルフ場から記載. 本種は現在 <i>species inquirenda</i> とされている(De Grisse, A. T., Thesis, 1969). 写真及び図では2種類(<i>Hemicriconemoides</i> 属と <i>Criconemella</i> 属)を含むように見える).
202	横尾多美男	1964	On a new species of Aphelenchoides (Aphelenchidae: Nematoda), a parasite of bulb of lily, from Japan.	佐賀大農学(佐賀大学農学雑誌)	20: 67-69.	新種 <i>Aphelenchoides lilium</i> (ユリセンチュウ) を記載. 模式産地は神奈川県.
203	横尾多美男	1964	ミカンネセンチュウに関する調査研究.	佐賀大農学(佐賀大学農学雑誌)	20: 71-109, 5 pls.	総説的論文. 各ステージの計測値、生活史、寄生植物、被害、地理的分布、垂直分布、樹幹からの距離と分布、防除法(D-D、EDB、DBCP剤他)、防除効果、植物防疫 19(6) 255. 1965に抄録.
204	横山俊治・山本敏夫・近藤鶴彦	1964	茶の成木園における <i>Pratylenchus loosi</i> の被害について.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	6: 79-80.	講要. 茶の生育と線虫密度. DBCP剤施用による回復.
205	吉田正義・廿日出正美	1964	土壌病害虫によるミカン根の被害解析 第1報. ミカの栽培装置	静岡大農研報(静岡大学農学部研究報告)	14: 157-166.	Knop液を含んだ木材粉利用. 線虫記述なし. 植物防疫 19(6) 254. 1965に抄録.
206	吉田 猛	1964	ラッカセイのキタネコブセンチュウに対する薬剤防除.	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	11: 99.	EDB剤が特に高い効果. 持続性はDBCP、EDB、D-D剤の順.
207	吉野 実	1964	主要畑作物の前後作としての暖地てん菜栽培上の土壌肥料からみた問題点.	てん研報(てんさい研究所報告)	補4: 153-160.	クロルピクリン、D-D、EDB剤の硝酸化成作用に及ぼす影響を含む.
208	Anon.	1964	線虫の和名.	植物防疫	18(4) 159-160.	日本植物防疫協会線虫対策委員会において決定された和名の一覧表. 現在も多くはこれに準拠.
209	Anon.	1964	大豆の病害虫と抵抗性品種.	農業技術	19(3) 107.	ダイズシストセンチュウの薬剤防除と抵抗性品種の育成を含む.
210	Anon.	1964	最近における農業輸入事情.	農業技術	19(6) 269.	D-D: 1億5千万円.
211	Anon.	1964	新製品解説.	農及園(農業および園芸)	39(2) 1870.	共立式トレーラ形土壌消毒機 TF-2型.
0		1965	昭和40年(1965)			
1	天野 隆・尾崎典光・岩瀬茂基	1965	ニセネグサレセンチュウ(<i>Aphelenchus avenae</i>)に関する研究 第1報 本線虫の形態及び生態と甘藷加害性について.	愛知農試年報(愛知県農業試験場年報)	19: 84-93	形態、生態(季節的消長、垂直分布)、寄生性、被害、甘藷品種と被害.
2	安藤隆夫・宮崎司・藤瀬一馬	1965	近縁植物とのかけあわせによる甘しよ新品種の育成.	九州農試年報(九州農業試験場年報)	39: 24-30.	<i>Ipomoea trifida</i> を用いた線虫抵抗性育種を含む.
3	安藤茂信	1965	苗畑並びに品種別杉木苗の線虫被害について.	日林九支講(日本林学会九州支部大会講演集)	18: 121-123.	スギ、ヒノキからの検出線虫の種類と密度
4	安藤茂信・吉田勝馬	1965	苗畑並びに品種別杉木苗の線虫被害について.	大分林試年報(大分県林業試験場業務報告)	39: 95-106.	謄写. ネコブ、ビン、ネグサレセンチュウが多い. EDB剤の効果等
5	荒木隆男	1965	果樹の土壌病害とその対策.	農及園(農業および園芸)	40(1) 40-44	線虫の解説(ネコブ、ネグサレセンチュウ). 防除対策を含む.
6	浅井三男	1965	ダイズシストセンチュウによるダイズの生育変動について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	16: 98.	肉眼的な被害兆候なくとも実害大
7	浅井三男・西尾美明	1965	D-D処理後におけるダイズシストセンチュウの発生消長について.	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	80: 40-43	春先の処理により増収. ただし収穫期のシスト数・根のホウイシスト数などは無処理と差なし.
8	浅井三男・尾崎 薫	1965	輪作における前後作組合せ様式に関する研究 第6報 作付順序の相連によるダイズシストセンチュウの消長.	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	87: 66-73.	寄主・非寄主の隔年栽培ではシスト密度除々に高まる. 非寄主4年連作でもシストは残存. 前作跡地シスト密度と後作豆類の生育・収量は負の相関.
9	千代西尾伊彦	1965	ナシ. In: 永年作物線虫防除基準	日本植物防疫協会、東京	P. 17-19.	クルミネグサレセンチュウの季節的発生消長. DBCP剤による防除.
10	千代西尾伊彦・井嶋竜雄	1965	梨の根辺から検出されるネグサレセンチュウの季節的消長について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	39: 1870.	講要
11	江畑正之・相星勝美・広沢正人	1965	暖地におけるてん菜品種の適応性について.	九州農業研究	27: 83-84.	初秋まき栽培は夏まきにくらべ線虫の発生少ない.
12	塚人 章・古山 寛	1965	熊本県における甘藷の線虫被害に関する研究(第2報) 線虫と甘藷つる割病菌との混合感染機構について.	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	11: 110-112.	<i>Fusarium</i> 菌と <i>Minimegacera</i> センチュウとの混合接種で、菌単独より大きな病斑
13	江村一雅・植村昭三・諸橋重郎	1965	イネネグサレセンチュウに対する殺線虫剤処理の影響 第2報 D-D処理と稲の生育	北陸病虫研報(北陸病虫研究会年報)	13: 94-96.	線虫防除効果以外に薬剤の副次的作用が(増収の原因).
14	榎木輝男・宮下茂樹・今村 実	1965	暖地畑地におけるてん菜の連作について.	てん研報(てんさい研究所報告)	補6: 47-52.	土壌消毒で連作可能. 無消毒では2年連作まで. 輪作は3年以上が望ましい.
15	江藤守総・小林健・加藤猛史・小島健一・大島康	1965	Saligenin cyclic phosphoramidate and phosphoramidothionates as pesticides.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	29(3) 243-248.	サリゲニン環状ホスホラミデートとホスホラミドチオートの12の化合物について殺虫効果を検討. <i>Rhadinus</i> sp.に対する効果を含む.
16	藤川 隆・富来務・岡岡善次郎	1965	福心枯線虫病に関する研究 第1報 福心枯線虫病に対するREE剤および有機水銀剤の混用による種子消毒効果.	農及園(農業および園芸)	40(11) 1777-1778.	水銀剤単用は高濃度でも効果なし. 馬鹿苗病・イモチ病との同時防除に混用が効果.
17	藤村 良	1965	蒸気土壌消毒の方法.	農業技術研究	19巻11: 35-39.	各種方法の紹介
18	藤村俊彦	1965	ドウ. In: 永年作物線虫防除基準	日本植物防疫協会、東京	p. 11-13	ネコブセンチュウのDBCP剤、同剤による防除法.
19	深沢永光・鈴木当治	1965	草毒を加害するイチゴメセンチュウ <i>Nothotylenchus acris</i> Thorne! に関する研究 第1報 発生分布と被害.	静岡農試年報(静岡県農業試験場研究報告)	10: 85-91.	(分布、被害株率、症状、収量、加害部位. 植物防疫 20(11) 514, 1966に抄録.
20	福留信明・田中 通	1965	土壌線虫の消長に及ぼす土壌消毒の影響.	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	11: 112-114.	タバコのサツマイモネコブセンチュウにクロルピクリン、EDB剤施用. 早い場合には処理6月後に線虫密度回.
21	五味美知男・中里肇二・吉沢 進	1965	福心枯線虫病防除に関する研究 第5報 低毒性有機燐剤による種別処理効果.	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	12: 99.	スミチオン乳剤が有効
22	後藤 昭	1965	九州の飼料作物、牧野の線虫.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	39: 1870.	講要
23	後藤 昭	1965	薩南諸島の主としてサトウキビ畑の植物寄生性線虫.	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	11: 105-110.	以下の種の形態を記載. <i>Pratylenchus scribneri</i> , <i>P. brachyuuus</i> , <i>Helicotylenchus erythrinae</i> , <i>H. sp.</i> , <i>Scutellonema sp.</i> , <i>Tylenchorhynchus</i> spp., <i>Hemicriconemoides</i> sp., <i>Trophorus</i> sp., <i>Xiphinema americanum</i>
24	後藤 昭	1965	薩南諸島におけるサトウキビ有害線虫に関する調査.	九州農試研究資料(九州農業試験場研究資料)	35: 63-87, 1 pl.	謄写. 検出線虫及び検出地、検出圃場の作付歴、発生程度、土壌等をまとめる.
25	後藤 昭・大島康臣	1965	ジャガイモを加害する <i>Minimegacera</i> センチュウの生態と防除.	農林水産技術会議 指定試験(病虫)	5: 1-77, 4 pls.	分布、被害作物、病徴、発育、産卵、生態(越冬、垂直・水平分布、季節的消長、年間変動)、被害解析、寄主根・塊茎への侵入)、加害、植付・掘取時期・温度・施肥・ジャガイモ品種と被害)、防除(薬剤消毒、早掘り、種いもの温湯浸漬). 植物防疫 20(4) 188, 1966に抄録.
26	樺本平一・萩原幸弘	1965	モリシマアカシアの根腐線虫に対する殺線虫剤の効果.	日林九支講(日本林学会九州支部大会講演集)	18: 127-129.	D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、シムルトン剤を施用
27	引地直至	1965	モモ. In: 永年作物線虫防除基準	日本植物防疫協会、東京	P. 3-6.	線虫相、DBCP剤による生育中消毒. 新植・改植時のD-D、EDB剤等消毒.
28	平野和弥	1965	モモの線虫病の被害と防除法.	農及園(農業および園芸)	40(1) 87-92.	ネコブセンチュウ. 病徴、被害、生態(根への侵入、生活史、分布)、発生要因、伝染経路、防除対策(予防対策、DBCP剤注).
29	平野和弥	1965	ネコブセンチュウ (<i>Meloidogyne incognita</i> var. <i>Aorita</i> Chtwood) の罹病組織汁液が各種土壌病原菌におよぼす影響.	千葉大園学報(千葉大学園芸学部学術報告)	13: 1-8.	汁液は菌体の発育を促進. ただし、菌の種類によってその程度に違い.

30	平野和弥・河村貞之助	1965	線虫と他の微生物とによるDisease complex (I)土壌中におけるネグサレセンチュウ (<i>Pratylenchus</i> spp.)のFusarium spp.に対する行動。	日植病報(日本植物病理学会報)	30(1)24-30.	キタネグサレ、ミナネグサレセンチュウは菌叢および浮遊液に誘引された。その程度は菌の種類により差異。
31	堀内克一	1965	クワの生育におよぼすD-Dの影響。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12:110.	18%/10aで1%の枯死株発生、残存株は翌年の伸長が15-20%増。
32	一戸 稔	1965	線虫学の話題と方向:第8回国際線虫学シンポジウムから。	農業技術	20(12)570-574.	シンポジウムの成り立ち、フランスの線虫学の紹介、分類、栄養、生理、シストセンチュウ(レース、孵化、被害予測、性誘引物質)、加害生態、摂食行動、ウイルス伝播、輸作、薬剤防除。
33	一戸 稔	1965	ネコブセンチュウの生態と防除。	農及園(農業および園芸)	40(6)973-976.	被害とその診断、種類(寄生反応による判別法)、耕種技術的防除(輸作、抵抗性品種、対抗植物、堆肥施用他)、化学的防除(D-D、EDB、DBCP)。
34	一戸 稔	1965	昭和39年度に試験された害虫防除薬剤:委託試験成績から:殺線虫剤。	植物防疫	19(2)49-50.	D-D、EDB、DBCP、CDBE、N-582、IK-141、新ネマセット粒剤、TS-100、A-529、A-1339、A-1311。
35	一戸 稔	1965	永年作物の線虫防除。	新農業	19(3)47-58.	被害、忌地と線虫との関係、検出線虫、防除(根の温湯浸漬、植付前の圃場の消毒(D-D、EDB、DBCP)剤)、成本に対する薬剤防除(DBCP)。
36	一戸 稔	1965	果樹と線虫(上)恐るべき線虫の被害。	果樹	19巻5:4-5.	果樹の線虫被害、線虫は果樹の寿命をちじめる、農地の原因は線虫、そのほかのかくれた被害。
37	一戸 稔	1965	果樹と線虫(中)線虫の種類。	果樹	19巻6:4-6.	堆肥施用、DBCP剤施用。
38	一戸 稔	1965	果樹と線虫(下)線虫の防ぎ方。	果樹	19巻7:6-8.	ネコブ、ネグサレ、ミカンセンチュウの解説。
39	一戸 稔	1965	Nematodes menace perennial crops.	Biokemia	9:10-13.	日本における永年作物寄生性線虫防除を紹介。
40	一戸 稔	1965	線虫における“寄主と寄生者の関係”についての一考察。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40:37.	講要
41	一戸 稔	1965	袋形動物:線虫綱。In:新日本動物図鑑(上)(岡田 要他監修)	北隆館、東京	pp.432, 434, 435, 451-454.	下記の自活性、植物寄生性線虫20種の図示、記載。Xiphinema americanum, Trichodorus porosus, Diplogaster longicaudatus, Tylenchus davaini, Tylenchorhynchus claytoni, Ditylenchus dipsaci, Anguina tritici, Helicotylenchus dihystrera, Pratylenchus coffeae, Radophorus oryzae, Rotylenchulus reniformis, Nothotylenchus acris, Heterodera glycines, Meloidogyne hapla, Criconemoides komabaensis, Hemicriconemoides kanayaensis, Paratylenchus elachistus, Tylenchulus semipenetrans, Aphelenchoides ritzemabosi.
42	一戸 稔・中園和年・岡本好一・中島健次	1965	放射線育種場における線虫密度の変動に関する調査。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40:36.	講要
43	位田藤久太郎	1965	ハウス栽培における蔬菜の生育障害と対策。	農及園(農業および園芸)	40(12)1885-1889.	ネマトーダによる連作障害を含む。
44	井嶋清生・松枝章	1965	苗畑土壌線虫防除試験(中間報告)。	石川林試研報(石川県林業試験場研究報告)	2:315-324.	嚙写。アカマツ、スギにD-D、DBCP、クロルピクリン剤施用。
45	稲垣春郎	1965	線虫関連病害に関する研究の現状。	植物防疫	19(4)141-148.	分類、研究事例(国内、国外)、研究法、研究上の問題点。
46	稲垣春郎・古山三郎	1965	各種作物栽培によるピンセンチュウ密度の変化。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16:97.	ハッカで線虫密度増加。インゲン、ダイズ、パレシヨ、テンサイ、コムギ、チモシー、赤クローバーで減少。
47	稲垣春郎・桜井清	1965	ハツカ地下茎(種根)黒腐病におけるParatylenchus sp.の関係。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40:38-39.	講要
48	稲生 稔	1965	葉のネグサレ症状について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12:106-107.	ネコブ、トゲワセンチュウの検出多。
49	稲生 稔	1965	県内における作物寄生性線虫の種類と被害について。	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会報)	4:54-56.	14属26種。
50	稲生 稔・阿部鉄造	1965	ヤマモの褐変硬化現象に対する薬剤防除効果。	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会報)	4:59-60.	クロルピクリンが効果あり。
51	稲生 稔・針谷信義	1965	殺線虫剤による茶園根腐防除効果について。	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会報)	4:59-60.	DBCP剤が薬害少
52	井上 寿	1965	北海道におけるアズキ、インゲンの害虫。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16:64.	ダイズシスト、キタネコブセンチュウを含む。
53	井上 巖	1965	袋形動物:線形虫綱。In:新日本動物図鑑(上)(岡田 要他監修)	北隆館、東京	PP. 465-466.	概説並びに5種を図示・記載。Chordodes japonicus, C. Fukuii, Parachordodes okadae, Paragodionus kawamurae, Gordius japonicus.
54	井上忠彦・中山勇	1965	γ-BHC剤のマツ樹皮にたいする浸透性および残効性。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40:19.	講要
55	石橋信義	1965	The increase in male adults by gamma-irradiation in the root-knot nematode, Meloidogyne incognita Chitwood.	Nematologica	11(3)361-369.	性分化前の幼虫にガンマー線を照射。その量の増加によって雄成虫が増える。発育ステージの進んだ幼虫でも実験。
56	石橋信義・田口茂	1965	Studies on the hatching of the root-knot nematodes, Meloidogyne incognita Chitwood. II. Radio-sensitivity of embryos and infecivity of larval emerging from	Annot. Zool. Japon. (Annotations Zoologie Japonenses)	38(1)12-19.	照射量が増加するにつれて卵囊からの游出幼虫減少。0.3M NaCl浸漬液及び褐色卵囊では異なった傾向。孵化幼虫は形態的に異常。
57	石橋信義・田口茂	1965	Effect of ionizing on the propagatio of root-knot nematode, Meloidogyne incognita Chitwood	Annot. Zool. Japon. (Annotations Zoologie Japonenses)	38(4)182-189.	寄生侵入3日以内に10K以上照射すると線虫は成熟・産卵せず、雄成虫が増加。寄生に照射すると線虫侵入が激減
58	石川元一	1965	茶樹の線虫防除をおこなった効果の事例。	今月の農業	9巻4:12-14.	未見
59	石川元一	1965	施肥とイネネグサレセンチュウとの関係。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12:115.	稲の根からの線虫游出数は窒素多用で増加、カリ多用で減少
60	石川元一・高瀬一太郎	1965	ナンシンの土壌線虫について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12:102.	ネグサレセンチュウが多。他に7属の線虫の検出頻度、樹齡と線虫換出率
61	石倉秀次	1965	昭和40年度植物防疫事業の概要。	植物防疫	19(4)133-136.	永年作物の土壌線虫パイロット防除1,500ha、ネグサレセンチュウの簡易検診方法の確立に関する特殊調査の継続実施
62	伊藤喜隆	1965	リンゴ。In:永年作物線虫防除基準。	日本植物防疫協会、東京	P. 7-10.	ネコブセンチュウのDBCP剤による防除
63	伊藤喜隆・中越省逸	1965	リンゴのネコブセンチュウ被害樹に対するDBCP処理後の樹勢の回復について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40:38.	講要
64	彌富喜三	1965	殺線虫剤の生物検定法。In:農業の生物検定法(古山 清・菅原寛夫編)。	南山堂、東京	P. 169-188.	線虫の人工培養法、殺線虫剤の浸漬・ポット・圃場試験法、拡散型・防除型の調査法。
65	桂 靖一・河野又四	1965	Digitalis lanataの株腐病の発生と防除。	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	7:69-70.	講要。D-D、クロルピクリン、ペーパーム、EDB剤処理が当年のみ効果。
66	川田惣平	1965	落花生に対するD-D、EDB剤の生育期処理の効果。	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会報)	4:40-42.	発芽障害が見られた。
67	河村貞之助・平野和弥	1965	線虫と他の微生物とによる複合病(Complex disease)に関する研究 第1報。ネコブセンチュウによる罹病組織の汁液が各種病原菌の発育におよぼす影響。	日植病報(日本植物病理学会報)	30(2)105.	講要
68	川島嘉内	1965	Hirschmaniella oryzaeに関する研究(6)コマハダ病との関係。	東北農業研究	7:57-58.	線虫寄生数と同病の病斑数は7月24日には正の、8月23日には負の相関。線虫寄生によりカリの吸収量が減少
69	川島嘉内	1965	Hirschmaniella oryzaeに関する研究(VII)移植期の差異と発生消長との関係。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40:36.	講要
70	川島嘉内	1965	乾田直播栽培におけるイネシストセンチュウの防除法について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16:127.	D-D剤施用(30%/10a)後に鎮圧すると防除効果が大きい。薬剤処理鎮圧区では石灰窒素、化成肥料の違いによる収量差は少
71	川島嘉内・藤沼敏子	1965	イネネグサレセンチュウの被害に関する研究:水稲幼植物の被害について。	福島島試研報	1:57-64.	ポットによる接種試験。稲の生育の遅延、草丈・生体重・風乾重の減少、根の褐変度と接種数に正の相関。
72	氮賀沢和男	1965	ネコブセンチュウによるクローバーの被害とその防除について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16:100-101.	寄生指数50以上で寄主の生育低下。D-D剤施用、ラブラス(対抗植物)混播の効果
73	木村俊彦・西沢正洋	1965	イネ萎縮病の生態および防除に関する研究第14報。イネ萎縮病とイネ心枯線虫病との関係。	九州農業研究	27:124.	混合感染で稲生育悪化。

74	清原友也	1965	九州国有林苗畑の土壤線虫調査.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	18: 108-111.	アカマツ、クロマツの検出線虫。ネコブセンチュウが多.
75	小林義明・深沢永光	1965	早播甘しょにおけるネコブセンチュウの防除を要する判定について.	関西病虫研報(関西病虫研究会会報)	7: 89.	講要. 冬春季の線虫寄生程度から、被害の予測可能.
76	近藤秀明・大津貞夫・山本雄三	1965	土壤線虫の防除に関する研究(Ⅱ)殺線虫剤による土壌処理がスギまきつけ苗の生育におよぼす影響について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	76回: 342-345.	スギのネグサレセンチュウにD-D、EDB、DBCP剤.
77	近藤鶴彦・高見辰吉・伊達一郎・山本敬夫	1965	畑地かんがいおよび田畑輪換による連作障害対策試験.	畑地かんがいに関する研究集録	8: 43-45.	謄写. 畑地の1作水田化ではネコブ、ラセン、ワセンチュウは下層で生存.
78	工藤 馨	1965	線虫に関する試験.	明大農付農場特報(明治大学農学部付農場特別報告)	4: 24-26.	ビートのネコブセンチュウ被害、D-D剤による防除.
79	熊本勝己	1965	筑紫郡における抑制トマトの病害虫防除の問題点とその対策.	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	11: 79-82.	D-D、クロルピクリン剤施用により青枯病も減少.
80	熊沢基弘・近岡一郎	1965	イチゴのネグサレセンチュウについて(第3報)苗の寄生について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12: 105.	多くの苗に線虫寄生.
81	熊沢隆義	1965	イチゴセンチュウの生態と防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12: 6-8.	線虫の形態、生活史、寄主植物(イネ、ヒエ、イヌビエ)、被害、防除(抵抗性品種、輪作、薬剤防除(D-D、EDB剤)、防除効果(生育、収量))
82	呉羽好三	1965	クワ. In: 永年作物線虫防除基準.	日本植物防疫協会、東京	P. 27-28.	ネコブセンチュウのDBCP80%乳剤、20%粒剤による防除.
83	呉羽好三・松野忠男・中村知義	1965	イネネモグリセンチュウに対する薬剤の効果とイネに対する影響.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12: 96-97.	D-D剤20%/10a施用で防除効果. 窒素質肥料少な目が増収.
84	黒川秀一・中村良一	1965	イネネモグリセンチュウによる水稲の被害について.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	13: 92-94.	線虫接種により土壌還元が強まり、収量は約1割減.
85	前田栄三	1965	Rate of lamina inclination in excised rice leaves.	Phys. Plant. (Physiologia)	18: 813-823.	稲に対するEDB剤の生育促進作用を調べる.
86	真宮靖治	1965	苗木に寄生するネグサレセンチュウについて(予報): 線虫寄生が苗木の生育におよぼす影響(2).	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	76回: 345-347.	線虫接種により苗木の生育低下
87	真宮靖治	1965	林業と線虫.	北方林業	17巻11: 16.	北海道のネグサレセンチュウ他.
88	増田康哉	1965	桑園における土壤線虫の防除について(Ⅰ)桑園における土壤線虫の季節的消長.	日蚕九州講要(日本蚕糸学会九州支部研究発表会講演要旨)	昭40: 44.	講要. アレナリアネコブセンチュウ.
89	増田康哉	1965	桑園における土壤線虫の防除について(Ⅱ)土壤線虫の生息密度と桑の生育.	日蚕九州講要(日本蚕糸学会九州支部研究発表会講演要旨)	昭40: 44.	講要
90	増田康哉	1965	桑園における土壤線虫の防除について(Ⅲ)土壤線虫の薬剤による防除効果.	日蚕九州講要(日本蚕糸学会九州支部研究発表会講演要旨)	昭40: 44-45.	講要
91	松井弘之	1965	イチジク寄生線虫(Meloidogyne incognita var. acrita)に関する研究(第1報).	園芸学会研究要旨(園芸学会大会発表要旨)	昭40秋: 1.	講要
92	松本重男・松永弥七・朝日幸光・高瀬 昇・井浦峰尾一彦・寺下隆喜代	1965	暖地におけるてん菜の連作と持作.	九州農試年報(九州農業試験場年報)	昭39: 31-33.	D-D剤の防除効果大.
93	宮川経邦	1965	ミカン. In: 永年作物線虫防除基準.	日本植物防疫協会、東京	P. 20-23.	補付け前のD-D、EDB剤による土壌処理. DBCP剤の立毛中処理.
94	宮本雄一	1965	植物ウイルスの伝搬機構: 特に土壌伝搬と昆虫伝搬について.	農及園(農業および園芸)	40(2): 297-300.	線虫媒介を含む.
95	水田美照・佐藤 誠	1965	家畜に寄生する線虫についての二、三の観察.	蚕糸研究	57: 22-24.	Rhabditidae科線虫の1種. 寄生(症状)、形態
96	森川 修	1965	自活性線虫(Panagrellus redivivus Goodey)における三度糖精酸脱水素酵素活性とEDBによる阻害について.	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	9(3): 187-190.	In vitroでの酵素阻害度は上記線虫とワモンコギブリでよく似る. In vitroの阻害度は浸漬法で求めた死亡率とほぼ平行的関係
97	森田 健	1965	イチゴの病害と防除法.	農及園(農業および園芸)	40(4): 665-668.	ネグサレセンチュウの被害、防除法(D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン)を含む.
98	森田 健・庄司和雄・栗田 博・松本弘義	1965	キクの連作害に対する薬剤防除の効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12: 50.	ネグサレセンチュウを多数検出. D-D剤施用が効果.
99	村井敏信・鈴木照磨	1965	土壌中におけるDBCPの拡散係数.	農業生産技術	13: 27-28.	計算式と実測値はよく一致.
100	村井敏信・鈴木照磨	1965	土壌中におけるDBCPの拡散係数.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 19.	講要
101	村上雅二・清松清高・近藤 信	1965	水稲品種の線虫心枯病抵抗性について.	日作九支報(日本作物学会九州支部会報)	25: 27-28.	病徴だけでなく、寄生数・生育収量への影響も調査し判定する.
102	村上正雄・高野光之丞	1965	土壌反応を異にした場合の殺線虫剤(D-D、EDB)処理がコムギの収獲物におよぼす影響について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12: 117-118.	立毛中の施用で減収.
103	永沢 実・堀江典昭	1965	ネグサレセンチュウの寄生性と被害.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 38.	講要
104	永沢 実・堀江典昭	1965	ネグサレセンチュウの寄生性と被害.	東京農試特報(東京都農業試験場特別報告)	21: 76-80.	謄写. キタネグサレセンチュウ. トマト、ナス、キュウリ、ダイコン、コカブ、インゲン、陸稻、麦に寄生多い.
105	中臣康範・江村一雄	1965	新潟県の植物寄生線虫について.	新潟園試研報(新潟県園芸試験場研究報告)	1: 47-57.	17属21種を記録. ネコブ、ダイズシストセンチュウの分布と土性、ネコブ、ネグサレセンチュウの垂直分布と季節的消長.
106	中園和年	1965	ニセフクロセンチュウ(Rotylechulus sp.)雌虫の成長.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 35.	講要
107	中渡瀬清香・今村 寛・榎本理男	1965	かんがい下における線虫の消長に関する試験.	畑地かんがいに関する研究集録	8: 126-129.	謄写. 灌水によってネコブ、ネグサレセンチュウ密度半以下に減少.
108	中里肇二・黒沢次男	1965	イチゴセンチュウの分布調査.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12: 100.	群馬県内では標高70-300mの範囲に棲息密度の高い畑が多.
109	難波宏之	1965	福岡県におけるセルリーの品種と栽培.	農及園(農業および園芸)	40(10): 1531-1534.	ネマトーダ防除(D-D、EDB、クロルピクリン)を含む.
110	成田武四	1965	貯蔵ジャガイモの病気および生理障害の見分け方.	植物防疫	19(2): 77-81.	いもぐされ線虫病(ねぐされ線虫を含む)
111	新留伊俊・永野邦弘	1965	てん菜に寄生するネコブセンチュウの防除法.	てん研報(てんさい研究所報告)	補6: 1-7.	DBCP剤・液剤は実用的に使用可能
112	西山成俊・三宅輝夫・酒井久夫	1965	D-Dの施用が水田土壌の有機物窒素の無機化におよぼす影響について.	福岡農試研報(福岡県農業試験場研究報告)	3: 33-38.	アンモニア態窒素が増加するが、水稲収量には影響なし.
113	西沢 務・弥富喜三	1965	EDB処理による水稲の異常生育について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 36.	講要
114	野口純隆・吉野 実	1965	土壌消毒畑における窒素施肥の問題点とその対策.	農及園(農業および園芸)	40(9): 1437-1438.	畑水稲、暖地甜菜に対するD-D剤施用問題を述べる. 硝酸嗜好性作物には、初期生育を旺盛にする意味で硝酸態窒素の添加が望ましい.
115	野口純隆・吉野 実	1965	湛水かんがいによる線虫被害の軽減効果に関する試験.	畑地かんがいに関する研究集録	8: 167-169.	謄写. 20日間の高温湛水によってキュウリのネコブセンチュウ被害ほとんど皆無.
116	野村静男・横川登代司	1965	殺線虫剤EDBの土壌処理が苗木の生育に及ぼす影響について(第1報)EDBの処理に対するスギの肥料3要素試験.	日林大会講要(日本林学会大会講演集)	76回: 100-103.	窒素欠乏時は処理効果なし、リン酸・カリ欠乏時は効果大.
117	小戸健良	1965	タバコに対するDBCP剤の被害について.	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	11: 114-115.	補え付け9カ月前では被害なし.
118	小畑啄志・武田和子・森 武雄	1965	植物病原菌、植物寄生線虫に対する各種化合物のくん蒸効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	30(5): 272.	講要
119	尾形 保	1965	ラジクロロバの夏枯れに及ぼす土壌の種類と地温の影響について.	土と微生物	7: 16-22.	火山灰土壌ではネコブセンチュウの寄生が重要原因.
120	及川英雄・石亀英徳・佐藤昭美	1965	くわのネコブセンチュウ防除に関する試験(Ⅲ)桑苗の消毒試験.	岩手農試年報(岩手県農業試験場年報)	12: 104-107.	DBCP剤の桑葉根の浸漬及び葉害.
121	岡 英人	1965	黄色品種の動向と新品種の特性.	葉たばこ研究	38: 29-38.	線虫抵抗性を含む.
122	岡田利承	1965	ダイズシストセンチュウ密度と施肥量との関係.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 37.	講要

124	岡田利承	1965	線虫の寄生分布に関する研究 第1報 ダイズシストセンチュウの土中分布が大豆の根系と線虫の寄生分布に及ぼす影響.	北海道農試報(北海道農業試験場報)	87: 74-86.	線虫の寄生により、大豆根系の土中分布が変化。土壤中及び根組織中のシスト、線虫の垂直分布、天地返しの際防除効果を含む。植物防疫 20(9)409-410, 1966に抄録。
125	岡田利承	1965	線虫の寄生分布に関する研究 第2報 大豆根の生長とダイズシストセンチュウの寄生分布.	北海道農試報(北海道農業試験場報)	88: 28-37.	線虫寄生時の根の分布は浅層で増加。大豆の生育とともに根と線虫の分布は変化。植物防疫 20(9)409-410, 1966に抄録。
126	恩田政行・滝口和夫・平倉 実・福島 浩・赤川真壽子・直井房司	1965	たけにぐさ成分の研究(第1報)殺線虫作用を有するアルカロイドについて.	農化(日本農業化学会誌)	39(4)168-170.	sanguinarine, chelerythrine, bocconineが殺線虫力、抗菌力(前記物質の塩基)を持つ。Rhabditis, Panagrolaimus 属線虫を供試
127	太田勇吉・井上 敏	1965	宮城県の杉苗畑における寄生性線虫類の分布と杉苗の被害.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 35.	講要
128	大塚清次	1965	新登録農薬.	植物防疫	19(1)27.	カーバム剤(NCS):ネコブ、ネグサレセンチュウ、土壌病害に効果
129	大塚清次	1965	新登録農薬.	植物防疫	19(9)378-379.	DCP油剤、同乳剤(ネマモール)の物理性、毒性、対象線虫、対象作物、施用法を含む。
130	大槻 昭	1965	桑園土壌線虫防除試験.	長野農試報(長野県農業試験場報)	11:181-193.	ネコブセンチュウに対するDBCP剤の効果。殺線虫剤の輩への影響。
131	三枚敏郎	1965	土壌中の線虫の分布とその検出実験法.	グリーン研報(グリーン研究報告集)	8: 10-23.	未見
132	三枚敏郎	1965	薬剤による土壌線虫の一般的防除.	グリーン研報(グリーン研究報告集)	8: 26-30.	クロルピクリン、メチルプロマイド、D-D、EDB、DBCP、ペーハム剤の施用方法と効果。
133	三枚敏郎・近岡 一郎・殿原敏夫	1965	ジャワネコブセンチュウのイチゴへの寄生と加害.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 37-38.	講要
134	三枚敏郎・殿原敏夫	1965	スイセン園地のクキセンチュウ生息密度の消長と作付様式との関係.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 36-37.	講要
135	桜井 清・稲垣春郎・笠野秀雄・古山三郎	1965	殺線虫剤によるハツカのピンセンチュウ防除.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16: 128.	クロルピクリン、D-D剤に線虫防除効果を確認。ただし、ハツカの徒長・倒伏目立つ。EDB剤は薬害、DBCP剤は効果なし。
136	桜井 清・稲垣春郎・湯原 巖・安部 浩	1965	リンゴ苗木におけるネコブセンチュウの被害.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16: 101-102.	苗木の生育が悪化する傾向。紅玉より旭で大
137	佐藤昭美	1965	クワ寄生線虫の苗木による伝播と苗木の消毒法について.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 38.	講要
138	佐藤昭美	1965	クワ寄生線虫の苗木による伝播について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16: 103.	ネコブ、ピンセンチュウを根中、根まわりの土から検出。
139	佐藤昭美	1965	ダイズシストセンチュウの抵抗性品種と増殖について.	東北農業研究	7: 126-128.	感受性品種、抵抗性品種の連作と線虫密度の変化。
140	佐藤昭美・及川 英雄	1965	線虫の寄生したクワ苗木のDBCP乳剤による消毒法について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16: 132-133.	薬剤希釈液への苗木根の15分以上浸漬で線虫数激減。100倍濃では発芽(活着)に悪影響。
141	清家義明	1965	イネシガラセンチュウの種別消毒について(第2報).	愛媛農試報(愛媛県農業試験場報告)	5: 35-39.	サッセン40単用は1000倍希釈以内で効果。水銀剤の併用では効果低下。
142	清水靖雄・近岡 一郎	1965	イチゴのネグサレセンチュウについて 第1報 生息分布と種類.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	12: 103.	大部分の園地からクルミネグサレ、キタネグサレセンチュウ多数検出
143	清水精一郎・川 内 一郎	1965	土壌線虫防除試験.	鹿児島林試報(鹿児島県林業試験場報告)	13: 67-69.	既写。D-D、EDB、DBCP、クロルピクリンによるコマツのネコブセンチュウ防除
144	下川利之・井上 悦甫	1965	林業苗木の土壌線虫に関する研究.	岡山林試報(岡山県林業試験場報告)	5: 53-63.	既写。ヒノキ、スギ、アカマツ、キリの検出線虫。ヒノキ、スギのネグサレセンチュウ、アカマツのネコブセンチュウのD-D、DBCPによる防除
145	白浜賢一・戸 稔・桜井 清	1965	土壌病害虫の見分け方・防ぎ方(改良普及員書 42).	農山漁村文化協会、東京	193 pp.	線虫 pp. 117-172.
146	宗野重徳・田中 平善・二見敏三	1965	蒸気消毒による土壌の化学的変化について.	中国農業研究	32: 71-72.	線虫記述なし。アンモニア態窒素は増加、pHは上昇傾向
147	菅原 毅・稲生 稔	1965	直播栽培田に対する殺線虫剤の処理効果と病害虫の発生について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	12: 107-108.	D-D、EDB施用によりクイモチ病、モンガレ病、イネツトムシは多発。ゴマハガレ病は減少。
148	菅原 毅・稲生 稔	1965	直播栽培田に対する殺線虫剤処理の影響とその効果について.	茨城病虫研報(茨城県病虫研究会報)	4: 57-58.	D-D、EDB施用。
149	鈴木 実	1965	水量の少ない環境に生息する水性小動物群集の生態学的解析 III. 地上性大型群集の間隙水にみられる春季動物相とその変動.	動植物学雑誌	74(5)135-148.	未同定の線虫を含む。
150	高木一夫	1965	チャ. In: 永年作物線虫防除基準.	日本植物防疫協会、東京	P. 24-26.	チャネグサレ、カナヤサヤワセンチュウのDBCP剤による防除。前者の防除基準。
151	高木一夫	1965	サヤワセンチュウの集団と令構成.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 35-36.	講要
152	布石哲夫・栗田 宏妃・大島康義・奥田朝晴・河津 光高・井手明雄	1965	アミノ酸とそのエステルの線虫誘引性について.	農化(日本農業化学会誌)	39(9)323-327.	Rhabditis属線虫他を供試。オキシム、リジン、フェニルアラニン、チロシン、オルニチンエステル、パリンメチル、アスパラギン酸β-プロピル、同一-ブチルは線虫を誘引
153	高久恒夫・杉本 義・青木 浩	1965	土壌消毒によるオオムギ萎縮病防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	12: 22.	D-D剤施用区が最も増収。
154	高倉重義・木村 宏	1965	キタネコブセンチュウの防除に関する研究(第9報)輪作体系の密度におよぼす影響.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16: 125-126.	線虫被害の多い作物の栽培には前作物に1年間イネ科作物の単作が有効。後者は3年に一度の導入がよい。
155	高倉重義・手塚 浩	1965	キタネコブセンチュウの防除に関する研究(第8報)D-D、EDBの秋季施用時期.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16: 124-125.	高薬剤とも地温5℃前後でも効果。土壌その他の条件によっては薬害
156	高桑 亮・真野 豊・高倉重義	1965	ハツカ黒腐病および線虫の発生分布について.	日植病報(日本植物病理学会報)	30(2)102.	講要
157	田中 勇	1965	線虫接種密度とクワコ生息との関係.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 38.	講要
158	照屋林宏	1965	植物寄生性土壌線虫の防除に関する研究(第1報)第3紀泥灰岩土壌におけるネコブセンチュウの防除効果について.	琉球農試報(琉球農業試験場報告)	2: 71-74.	D-Dは40-50%/10a、DBCP剤は50kg/10aが必要。
159	時岡 隆	1965	袋形動物 線虫綱. In: 新日本動物園鑑(上)(岡田 要他監修).	北隆館、東京	PP. 431-432.	自活性海棲線虫4種の図示、Eurytostoma ornatum, Chromadora tokioaki, Chaetosoma sp.
160	宮来 務・藤川 隆・岡留善次郎	1965	イネ科結線虫病に関する研究 第2報 MPP粉剤による種子粉衣並びに播床散布の防除効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	30(5)274.	講要
161	堤 正明	1965	ダイズシストセンチュウのふ化におよぼす寄主作物浸出液の影響.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	16: 99.	卵の孵化、シストからの幼虫遊出を促進。
162	内田貞男・臼井 嘉明・近岡 一郎	1965	イチゴのネグサレセンチュウについて 第2報 防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会報)	12: 104.	DBCP剤の効果はクルミネグサレセンチュウには高く、キタネグサレセンチュウには低い。殺菌殺線虫剤の効果は殺線虫剤単用より高い防除効果。
163	上住 泰	1965	カキ・ウメ. In: 永年作物線虫防除基準.	日本植物防疫協会、東京	P. 14-16.	線虫相。DBCP剤による線虫防除例。試験例が不十分
164	牛山敬司・大垣 智昭	1965	温州ミカン園の忌地に関する研究(第1報)忌地現象とミカンセンチュウの関係について.	神奈川園試研報(神奈川県園芸試験場報告)	13: 23-31.	D-D剤処理と無処理の比較。線虫と忌地との関係を示唆。
165	篠尾貞夫	1965	やさいの病害虫防除:主なもの病徴とその防ぎ方.	青森農業	16巻6: 40-42.	ネコブセンチュウの薬剤防除を含む。
166	篠尾貞夫	1965	畑の土壌病害虫の防ぎ方.	青森農業	16巻9: 43-45.	リンゴのネコブセンチュウ被害と防除を含む。
167	渡辺文吉郎	1965	土壌化学処理の病原菌および土壌微生物に対する効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	31(記念号2)427-430.	DBCP剤によるPytium ultimum菌の抑制、D-D剤によるレタス菌核病菌の子実発生量の増加にふれる
168	八重樫隆志	1965	土壌改良剤(アズミン)に関する研究(2).	明大農付農場特報(明治大学農学部付属農場特別報告)	4: 20-24.	ダイズシストセンチュウ被害軽減対策
169	山田隆保	1965	キノコ線虫の生態に関する研究(第3報)飼育温度と線虫の消長および休眠型の出現について.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40: 36.	講要
170	山賀 一郎・野村 精一・安部 邑美・今井善之輔・都 司 孝司	1965	こんにやくの連作障害対策に関する研究 第1報 クロルピクリンの土壌消毒効果.	群馬農試報(群馬県農業試験場報告)	6: 66-78.	ネグサレセンチュウに対してはEDB剤と同効果。
171	山中俊勝・牧 良忠	1965	イチジクのネコブセンチュウに対する殺線虫剤の効果.	兵庫農試報(兵庫県農業試験場報告)	13: 53-59.	DBCP剤等

172	矢内方平・賢田裕行・花岡重喜・鹿本孝夫	1965	フリージア立枯病(仮称)防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12:52.	サンビューム、昇糸、ペーバム、D-D処理で発病少
173	横尾多美男	1965	線虫のはなし.	日本林業技術協会、東京	235 pp.	一般向けの概説書
174	吉田桂輔・横山佐太正	1965	REE乳剤の種消毒における被害について.	九病虫研報(九州病害虫研究会年報)	11:21-23.	主に中・晩生種の稲品種に出る。玄米処理では軽度.
175	吉田光男	1965	苗畑土壌線虫実態調査.	栃木林七葉報(栃木県林業センター業務報)	11:28-29.	ヒノキ、スギ、アカマツの検出線虫。ネグサレセンチュウが主。
176	吉田 猛	1965	千葉県における土壌線虫類の分布.	千葉農試研報(千葉県農業試験場研究報告)	6:69-78.	18属33種以上を記録。発生地、主な寄主作物、作物別線虫検出圃場率、市町村別検出圃場率等のまとめ。植物防疫 22(1)35, 1968に抄録
177	吉田 猛	1965	ラッコセイキタネコブセンチュウに処理殺線虫剤使用上の問題点.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12:101.	低温で日照不足の年に被害大、EDB剤の効果も不明瞭の傾向
178	吉田 猛	1965	イチゴクイックIn: 永年作物線虫防除基準.	日本植物防疫協会、東京	P. 1-2.	ネコブセンチュウ、補え付け前の圃場消毒(D-D、EDB剤)、苗木の選定。立毛中のDBCP剤処理。
179	吉田 猛・鈴木哲朗	1965	イネネモグリセンチュウに対する薬剤防除効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	12:98.	D-D、EDB、DBCP剤の田植1月前施用では減収。D-D剤施用は窒素肥料の減施で増収
180	吉井 甫	1965	イネ心枯線虫病.	日植病報(日本植物病理学会報)	31(記念号2)254-260.	既往の研究、被害植物(種類、イネの病徴と被害、抵抗性)、病原線虫(形態、種名、寄生状態、越冬)、防除法(種子消毒、薬剤散布)、将来の問題点(抵抗性、防除法、加害機構)
181	吉野 実・北山登喜男・草水 崇・野口純隆・福田幸雄	1965	甘藷の裂かい現象の原因究明に関する理論考察.	九州農業研究	27:187-188.	土壌線虫が基本的要因。
182	湯原 巖	1965	キタネコブセンチュウによる赤クローバ、アルファルファの被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭40:37.	講要
183	湯原 巖	1965	キタネコブセンチュウによるマメ科牧草の被害.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	16:92-93.	ポット試験。線虫接種により赤クローバ、アルファルファの生育悪化。
184	湯原 巖	1965	キタネコブセンチュウによるてん菜苗期の被害.	てん研報(てんさい研究所報告)	補5:147-151.	線虫害重要。紙筒育苗によって被害回避の可能性。
185	湯原 巖・堤 正明	1965	泥炭地における線虫発生相(予報)	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	16:129.	ネグサレ、ピン、ニセネグサレセンチュウを検出。高地地下水位の湿地には植物寄生線虫ほとんどない。
186	川田信一郎・石原 純・飯塚 広	1965	水稲根に見出された微生物について	日作紀(日本作物学会紀事)	35:164-167.	(無子体に未収録の文献)微生物とともに、線虫(ネモグリセンチュウ?)を検出
0		1966	昭和41年(1966)			
1	安部 浩	1966	鳥根県におけるぐりに寄生する線虫について.	鳥根植防(鳥根の植物防疫)	7巻2:1-7.	11属の線虫を記録。被害は不明。
2	合田昌義・酒井清六・豊 芳明・米林依三・岩見天野 隆・尾崎典光・岩瀬茂基	1966	空中散布を含む松くい虫の動的防除.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41:37-38.	講要
3	天野 隆・尾崎典光・岩瀬茂基	1966	ニセネグサレセンチュウ(Aphelenchus avenae Bastian)に関する研究 第2報 サツマイモに対する被害防除について.	愛知農試報(愛知県農業試験場年報)	21:58-63.	D-D油剤、EDB油剤が有効。DBCP剤、AC-1833 粒剤、殺菌剤は効果なし。
4	天野 隆・尾崎典光・岩瀬茂基	1966	ニセネグサレセンチュウ(Aphelenchus avenae Bastian)に関する研究 第3報 サツマイモに対するニセネグサレセンチュウの加害と随伴菌との関係について.	愛知農試報(愛知県農業試験場年報)	21:64-73.	Fusarium菌、Trichoderma 菌の各単独接種では被害小。線虫との混合接種で被害発現。
5	安藤茂信	1966	ウラセバル杉挿木苗の発根と土壌線虫剤の関係について.	日林九支講(日本林学会九州支部大会講演集)	19:27-28.	クロルピクリン、EDB、DBCP剤の効果。
6	有村清光・白本久善・古野鶴吉	1966	茶樹定植前の施肥ならびに土壌消毒について.	九州農業研究	28:87-88.	クロルピクリン、DBCP剤、堆肥区は生育良好。
7	千葉 修	1966	苗畑の線虫被害と防除(その一).	林業と薬剤	17:3-5.	検出線虫、被害の解説。
8	千葉 修	1966	苗畑の線虫被害と防除(その二).	林業と薬剤	18:1-6.	薬剤による土壌・苗の消毒、堆肥施用、天敵の利用の効果、関連病害との関係。
9	近岡 一郎	1966	キタネグサレセンチュウの殺線虫剤感受性(1)キタネグサレセンチュウとクルミネグサレセンチュウのD-D感受性	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	10(3):163-164.	前者の感受性が低い。両種とも若令幼虫の死亡率が成虫より高い。
10	近岡 一郎	1966	ネグサレセンチュウ種類間の殺線虫剤感受性の相違	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	13:142-143.	No.66-9も参照。D-D、EDB剤を供試。
11	近岡 一郎	1966	ダイコンを加害するキタネグサレセンチュウの被害と防除.	植物防疫	20(7)303-306.	症状、被害の発現と推移、経過習性(季節的密度変動・垂直分布)、防除(D-D、EDB、クロルピクリン、NC S、ペーバム剤他)
12	近岡 一郎・浅見 宏	1966	促成イチゴの根腐症状に対する殺線虫剤の効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	13:134.	クルミネグサレセンチュウが原因。ネマトップの補付け前処理が効果。
13	近岡 一郎・岡山 勇	1966	ダイコンのキタネグサレセンチュウについて(第2報)薬剤防除とくにNCSの効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	13:135.	効果あり。灌漑区で被害。
14	伊達 一郎	1966	畑水稲の連作と水田化の効果	畑地農業	95:6-8.	植物寄生性線虫の消長を含む。
15	家入 章	1966	採取土壌の管理とネグサレセンチュウ密度推移との関係について.	九州農業研究	28:131-132.	室内と冷蔵庫内の比較。
16	江尻 博	1966	土壌殺線虫剤の施用試験.	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1966:219-228.	スギ苗畑のネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウ、雑草防除にD-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤。
17	江尻 博・岸野 勇	1966	薬剤別による土壌線虫防除試験.	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1965:410-414.	D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤のスギのネグサレセンチュウへの効果。
18	江尻 博・上田 勇五	1966	D-Dの水田処理とイネネモグリセンチュウ.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41:34-35.	講要
19	江藤守総・岸本勝光・松村建治・大下直樹・大島 隆	1966	Studies on saligenin cyclid phosphorus esters with insecticidal activity. Part IX. Derivatives of phosphonic and	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	30(2)181-185.	Rhabditis sp. に対する効果を含む。
20	藤川 隆・富永 努・岡留兼次郎	1966	稲心枯線虫病の新防除法について.	農業研究	12巻3:32-36.	ハイジット、サツセン他の種子粉衣等。
21	藤本 清・山下俊勝	1966	クリに寄生する土壌線虫の種類と分布について.	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	14:67-68.	樹幹を中心とした水平、垂直分布。
22	藤村 良	1966	施設園芸の技術[4].	農及園(農業および園芸)	41(4)673-676.	蒸気土壌消毒の方法を詳しく解説。
23	藤村 良・森 俊人	1966	施設園芸の技術[5].	農及園(農業および園芸)	41(5)831-834.	前項の続編。
24	藤沼敏子・川島 喜内	1966	イネネモグリセンチュウの染色調査法一試案	農業技術	21(12)577-578.	塩酸による根部の酸化鉄の除去法。
25	深谷昌次・小島 建一	1966	供試動物の飼育、培養施設 In: 新農業研究施設(佐木謙介・八木誠政	南江堂、東京	p. 67-74.	線虫類を含む。
26	深沢永光・山内 寛好	1966	イネネモグリセンチュウに対する薬剤の種子粉衣および土壌施用に関する防除効果(予報).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	3:123-124.	0795粉剤、ギルバール粉衣剤、ダイズトン粉剤の播種時施用、前二剤の種子粉衣、苗生育中施用の比較。
27	五味美知男	1966	イネ心枯線虫病の防除について.	農業研究	12巻3:22-25.	スミチオン、ハイジット剤他。
28	五味美知男	1966	稲における心枯センチュウ病の新しい防ぎ方.	今月の農業	10巻3:69-71.	サツセン、サツセップラス、スミチオン、ハイジットの種粉浸漬、ジメエート、PSP204の苗床施用効果。
29	五味美知男・中里 幸二	1966	稲心枯線虫病防除に関する研究(第7報)有機燐製剤の殺虫機構について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	13:123.	増殖、加害機能低下。
30	五味美知男・中里 幸二・西野目 良	1966	稲心枯線虫病防除に関する研究(第6報)浸透移行性土壌施用剤の効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	13:122.	0795粒剤、ダイズトン、PSP204の効果がすぐれる。
31	原 敬一・小戸健良・肥後三郎	1966	甘藷根腐現象(仮称)について(予報).	九病虫研報(九州病害虫研究会年報)	12:60-62.	発生圃場にネグサレセンチュウが多い。DBCP剤効果なし。
32	橋田茂和	1966	ハウス野菜の連作障害と土壌管理.	農業技術	21(5)223-228.	実態及び対策(田畑輪換、薬剤防除、深耕、土壌の加熱処理)。
33	引地直室	1966	ネコブセンチュウのモモに対する寄生性に関する試験	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	17:105.	サツマイモネコブセンチュウの4品種への寄生性の比較。
34	日野裕彦・古田 力	1966	イネ心枯線虫病防除法としての臭化メチル種子くん蒸.	日植病報(日本植物病理学会報)	32(2)105.	講要
35	広瀬和栄	1966	柑橘の育苗、とくに連作障害の対策.	農及園(農業および園芸)	41(9)1329-1332.	ミカンネセンチュウと対策(D-D、DBCP、クロルピクリン剤処理、台木、施肥)。
36	本田藤雄・大和 茂八・二井内清	1966	イチゴ促成4号について.	九州農業研究	28:236-237.	メセンチュウに強い。
37	堀 正伋	1966	戦後20年を顧みて一 行政.	植物防疫	20(1)1-6.	植物防疫行政戦後史。土壌検診事業にふれる。No.66-54, 100も参照。
38	堀 正伋	1966	日本新農薬物語(37)ネマモル剤.	今月の農業	10巻10:44-48.	開発研究、特性、使用方法。

39	一戸 稔	1966	Present status of nematological research on rice in Japan.	FAO, IRC Wk. Pty. Rice Prod. & Prot.,	14 pp.	稲の線虫に関する研究レビュー。農業技術 21(11) 519-525, 1966 に抄録。
40	一戸 稔	1966	Rice-infesting nematodes in the Pacific Basin. Div. Meet. Pl. Prot.,	11th Pacif. Sci. Cong., Tokyo	p. 31-36.	イネシシガシラ, Ufra(Ditylenchus angustus)、イネネモグリセンチュウの主に防除を中心とした総説
41	一戸 稔	1966	イネと線虫(試験成果のまとめ)。	植物防疫	20(9) 391-395.	イネシシガシラセンチュウ防除、イネシストセンチュウの陸稲加害と水田での発生、イネネモグリセンチュウの病原性、水田の土壌処理がイネ生育と線虫密度に及ぼす影響。
42	一戸 稔	1966	昭和40年度に試験された害虫防除薬剤: 委託試験成績から: 殺線虫剤	植物防疫	20(2) 93-94.	CDB, IK-141(ネモモール)、5121粒剤他。
43	一戸 稔	1966	ダイズシストセンチュウに関する研究。	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	10(2) 101.	昭和41日本応用動物昆虫学会賞受賞記念講演要旨。
43	伊藤 潔	1966	ごぼうの生育障害の事例とその対策。	農業技術	22(8) 376-377.	線虫でなく、石灰・苦土の不足が原因。
44	一戸 稔	1966	ヨーロッパのセンチュウ研究事情。	今月の農業	10巻2: 28-30.	問題となっている線虫、殺線虫剤の解説。
45	一戸 稔	1966	自然教育園の土壌線虫。	自然教育園の生物群集に関する調査報告	1: 119.	東京都港区の自然植生からMononchus, Dorylaimus 属線虫を記録。
46	一戸 稔	1966	果樹のセンチュウ害とその防除。	農耕と園芸	21巻12: 61-63.	被害、DBCP剤による防除。
47	一戸 稔・岡本好一	1966	ミカンセンチュウ幼虫の大量分離の一例。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭和41: 32.	講要
48	井手 篤・清家義明・田中豊彰	1966	イネネモグリセンチュウの薬剤防除について(第2報)。	愛媛農試研報(愛媛県農業試験場研究報告)	6: 17-23.	湿田・乾田へのD-D剤施用により増収効果、施肥量との関係。
49	稲生 稔	1966	イネ心枯線虫病の水媒感染について(1) 稲穂床の線虫生存と稲苗感染。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 121.	室内試験。
50	稲生 稔	1966	Aphelenchoides besseyiおよびA. saprophilusの培養について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭和41: 33.	講要
51	井上悦甫・香山 馨	1966	線虫実態調査(II)。	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	6: 31-33.	スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、オオバヤシャブシの検出線虫とネグサレ、イシユクセンチュウの発生消長。
52	井上 寿	1966	北海道におけるエンドウの害虫。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 81.	キタネコブセンチュウを挙げる。
53	井上 巖	1966	A new species of Euechordodes (Goediaceae) from Malaysia.	Annot. Zool. Japon. (Annotationes Zoologie Japonenses)	39(1) 60-62.	マレーシアからハリガネムシの新種E. malaysiensis を記載。寄主は不明。
54	井上晋次・稲賀 恒	1966	戦後20年を顧みて一 業界。	植物防疫	20(1) 19-25.	殺線虫剤に言及。No. 66-37も参照。
55	井上 敏	1966	キタネコブセンチュウによる杉苗の被害と防除法。	今月の農業	18巻8: 28-31.	被害、D-D、EDB、DBCP剤施用効果。
56	井上 敏・伊藤春男	1966	イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の効果(2) 移植栽培における連年施薬の効果	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 139.	D-D、EDB剤各連用区で線虫減少、イネの生育、収量との関連は不明。
57	井上 敏・伊藤春男	1966	イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の効果(3) 乾田直播栽培におけるD-Dの効果	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 140.	殺線虫効果はみとめる。増収との関連は不明。
58	井上 敏・太田勇吉	1966	ネグサレセンチュウによるスギ苗の被害と苗畑における土壌・蒸剤処理。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭和41: 34.	講要
59	井上 敏・太田勇吉・早坂義雄	1966	殺線虫剤によるスギ苗のネグサレセンチュウの防除。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 141.	D-D30%油剤、EDB30%油剤、DBCP80%乳剤の順に効果。
60	石橋信義・国井 喜章	1966	ネコブセンチュウ雄成虫の存在様式について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭和41: 33.	講要
61	石川元一	1966	ネグサレセンチュウによるモモ樹の被害。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 139.	クミネグサレセンチュウを苗木に接種。ポット試験。
62	石川元一	1966	ネグサレセンチュウのナン樹に対する被害。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭和41: 31.	講要
63	石倉秀次	1966	薬剤防除基礎講座 害虫篇[7] 土壌くん蒸。	今月の農業	10巻9: 86-89.	土壌線虫の作物等の被害、殺線虫剤の種類と特性、施用方法、作業とその条件
64	伊藤弘康	1966	土壌線虫実態調査 第1報 植物寄生性線虫の棲息について。	新潟林試研報(新潟県林業試験場報告)	11: 28-43.	スギ、アカマツ、クロマツからのネグサレ、イシユク、コムハリセンチュウ等の分布、密度、前作・土性との関係。
65	伊藤武夫	1966	農業による土壌処理が苗木の生育におよぼす影響。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	77: 302-302.	EDB、バイジツ水銀粉剤、D-D施用のスギ苗の生育への影響。
66	伊藤喜隆	1966	ネコブセンチュウの種の分布と寄生性について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭和41: 30.	講要
67	伊藤喜隆	1966	殺センチュウ剤(DBCP剤)によるリンゴ園の回復の事例。	今月の農業	10巻10: 24-27.	施用後のゴール指数の変化、効果持続期間、増収例。
68	岩谷宏司・竹内 孝司・滝沢 祥・中田正彦	1966	新殺線虫剤バイエル5121 10%粒剤について。	農業研究	12巻3: 74-77.	残留毒性、施用法、効果(トマト、イチジク、ナス、ミカン、キウ)、薬害。
69	弥富喜三	1966	供試生物(昆虫、ハダニ、線虫)の飼育法: 線虫類。	南江堂、東京	p. 63-66.	自由生活種、植物寄生種について概説。
70	弥富喜三	1966	生物検定の施設・蒸剤検定施設。	南江堂、東京	p. 89-95.	研究室、装置等の解説。
71	弥富喜三	1966	生物検定の施設: 殺線虫剤検定施設。	南江堂、東京	p. 96-99.	殺線虫剤検定法、線虫分離法、検定施設の概説。
72	神谷育男	1966	農産加工原料用・菜の栽培と貯蔵・加工[6]・4. マッシュルームの栽培と加工。	農及園(農業および園芸)	41(6) 979-982.	線虫害及び対策(スチーム処理)を含む。
73	河村貞之助・平野和弥	1966	トマト幼苗における根こぶ線虫病と萎ちよう病との関連について。	日植病報(日本植物病理学会報)	32(2) 69.	講要
74	川島嘉内	1966	イネシストセンチュウによる水稲の被害に関する研究(1) 被害と灌水との関係。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 92.	灌水直播栽培で寄生を認めず。乾田直播では被害大。灌水で回復。間断灌水では被害大。
75	川島嘉内	1966	キタネコブセンチュウによるイタリアンライグラスの被害について。	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 93.	症状及び収量調査。
76	川島嘉内	1966	Hirschmanniella oryzaeに関する研究 - 線虫寄生とゴマハガレ病発生との関係。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭和41: 32.	講要
77	川島良一	1966	豆類の育種の現状。	育種(育種学雑誌)	16(1) 71-72.	大豆、落花生の線虫抵抗性に言及。
78	気賀沢和男	1966	豆類の病害虫と防除 In: 北海道豆類生産事情(上)。	日本豆類基金協会、東京	p. 118-138.	線虫(ネコブ、シスト、ネグサレ、ピン)を含む。本書中で下記の章でダイズシストセンチュウに言及されている。「豆類の栽培技術」第3節(その1) p. 68-72(岩淵晴郎); 同第4節(その2) p. 83-117(後木利三); 「豆類の作業技術」第4節(1) p. 218-228(加藤明治); 「豆類農家の経営構造」 p. 242-313(西村正一)。
79	気賀沢和男・浅井三男	1966	シスト内蔵卵数に及ぼす寄主作物初期密度の影響。	北農	33巻2: 42-44.	初期密度が低い程、収穫時までの増加率は、大。
80	菊川誠士・坂井 健吉	1966	甘しょに対するサツマイモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝力および伝達力。	育種(育種学雑誌)	16(1) 56-57.	講要
81	菊池泰夫	1966	土壌殺線虫剤の施用試験。	林業技術研究集録(前橋農林局)経営部門	1966: 214-218.	スギのネグサレ、コムハリ、イシユクセンチュウにクロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤。
82	小林義明	1966	イネ心枯線虫の防除について。	農業研究	12巻3: 26-28.	0795粒剤、キルバール粉衣剤、ダイシストン粒剤。
83	小林義明・深沢 永光・田杉 甫	1966	土壌くん蒸剤の施用が水稲の生育に及ぼす影響。	静岡農試研報(静岡県農業試験場研究報告)	11: 9-20.	イネネモグリセンチュウ防除。EDB、DBCP剤は2年有効、D-D剤は1年。EDB剤ではイネが異常生育。
84	小泊重洋	1966	茶園における殺線虫剤処理方法について。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 141-142.	DBCP40%+Hg 2%剤消毒。灌水が注入にまざる。
85	高野光之丞・村上 正雄	1966	そ菜類に対する殺線虫剤の影響について III。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 131-132.	No.66-111の続報。吸水後の種子に対するD-D、EDB、クロルピクリン剤の影響。
86	久保岡正昭	1966	土壌線虫防除試験。	熊本林指研報(熊本県林業研究指導所研究報告)	4: 116-119.	D-D、EDB、DBCP剤のモリシマアカシア苗木施用。
87	工藤 馨・小宮書之助	1966	Studies on the damage of orchardgrass caused by root-knot nematode.	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	19: 41-44.	サツマイモネコブセンチュウによるオーチャードグラスの被害。
88	工藤 馨・八重樫 隆志・小宮書之助	1966	ネコブセンチュウの寄主植物について(2)。	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	19: 27-29.	主にキタネコブセンチュウの雑草への寄生性。

89	工藤 馨・八重樫隆志・小宮書之助	1966	Studies on the interrelation between the root-knot nematode (<i>Meloidogyne incognita</i>) and 'summer depression' of white clover.	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	19: 45-51.	白クローバーの夏枯れとサツマイモネコブセンチュウは密接に関連。
90	工藤 馨・八重樫隆志・小宮書之助	1966	ネコブセンチュウの病原性におよぼす湛水の影響(1)。	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	20: 9-15.	15、20、25℃定温で15、30日間湛水。
91	国井喜章	1966	イネネモグリセンチュウの生態と防除。	今日の農業	10巻3: 66-68.	分布、寄主植物、種類と生息場所、被害、防除。
92	栗山隆明・下大迫三徳・吉田守・横尾多美男	1966	柑橘苗ほの連作障害に関する試験。	福岡園試特報(福岡県園芸試験場特別報告)	11: 1-8.	クロルピクリン、D-D、DBCP剤によるミカンセンチュウ防除と苗の生育。
93	栗山隆明・下大迫三徳・吉田守・横尾多美男	1966	カンキツの育苗に関する研究(第5報)カンキツ苗ほの連作障害について。	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭41春: 97-98.	講要
94	前田速雄	1966	トマトにおけるMeloidogyne属3種のネコブセンチュウ抵抗性について。	東京園試特報(東京都農業試験場特別報告)	22: 186-190.	騰写、Anahu及びその系統ではサツマイモ、ジャワネコブセンチュウは発育せず。キタネコブセンチュウは発育可能。No.66-94を参照。
95	前田速雄	1966	Meloidogyne属3種のネコブセンチュウに対するトマト品種の抵抗性。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 132-133.	
96	真宮靖治	1966	国有林苗畑における植物寄生線虫の分布(予報)。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	77回: 295-299.	講要。スギ、ヒノキ、アカマツ、トドマツ、ストローブマツの検出線虫の種類、分布、被害。
97	真宮靖治	1966	苗畑の線虫。	植物防疫	20(8) 335-336.	線虫相、被害、防除。
98	真宮靖治	1966	苗畑における土壌線虫。	林試年報(林業試験場年報)	昭40: 111.	キタネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウ。
99	益子訓男	1966	土壌線虫防除に関する二三の考察。	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1965: 396-403.	スギ、アカマツの線虫調査。D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤による防除。
100	益子訓男・片桐玄治	1966	土壌殺線虫剤の施用試験。	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1966: 209-213.	スギのイシユク、ネグサレ、ユミハリセンチュウにD-D、EDB、DBCP、クロルピクリン施用。
101	増田康哉	1966	桑園における土壌線虫防除に関する試験。	鹿儿島畜産試験場年報	13: 12-23.	騰写。ネコブセンチュウにDBCP剤。防除効果と苗の生育。
102	松枝 章・井幡清生	1966	苗畑土壌線虫防除試験。	静岡柑桔試験場(静岡県カンキツ試験場報告)	3: 366-372.	騰写。アカマツ、スギにクロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤。
103	松井弘之	1966	イチジク寄生線虫(Meloidogyne incognita)に関する研究(第2報)根瘤の肥大速度と肥大に伴う組織および細胞の変化、根瘤中の糖、アミノ酸および無機成分。	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭41秋: 47-48.	講要
104	松本重男・沢畑秀	1966	ネコブセンチュウの寄生が大豆の収量におよぼす影響。	九州農業研究	28: 82-83.	寄生度が高い程、一株粒重が減少。
105	峰尾一彦	1966	ネグサレセンチュウ寄生苗を床替した場合について。	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	16: 41-42.	講要
106	峰尾一彦	1966	管内国有林苗畑の植物寄生線虫類とその被害について。	みやま	150: 82-89.	アカマツ、スギ、クロマツ、ヒノキの検出線虫。ネグサレセンチュウの被害。
107	三井 康	1966	線虫捕食菌の分離と定量。	日植病報(日本植物病理学会報)	32(2) 79.	講要
108	三浦宏一郎	1966	Nutrition and spontaneous trap-formation of <i>Arthrobotrys dactyloides</i> Drechsler	菌学会報(日本菌類学会報)	7(2/3) 320-324.	炭素源・窒素源の種類、培地の酸性度、栄養物質の欠乏と線虫捕食器官の形成との関係。
109	宮崎政光・清家義明	1966	殺線虫剤が水稲の生育に及ぼす影響(第1報)。	農及園(農業および園芸)	41(6) 947-948.	D-D、EDB剤処理と稲の生育と茎葉分析結果。EDBはD-Dより影響大。
110	向 秀夫・石倉秀次・福永一夫	1966	戦後20年を顧みてー 研究。	植物防疫	20(1) 7-18.	線虫研究にふれる。No.66-37も参照。
111	村上正雄・高野光之丞	1966	そ菜類に対する殺線虫剤の影響についてII。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 130-131.	D-D、EDB、クロルピクリン剤のダイコン、トマト、キュウリ、コボウ、ネギ乾燥種子処理と発芽の関係。
112	中川九一・川島嘉内	1966	葉いもち病発病に及ぼすイネネモグリセンチュウ侵入加害の影響。	日植病報(日本植物病理学会報)	32(2) 69-70.	講要
113	中野香苗	1966	土壌線虫の防除に関する研究(1)各種殺線虫剤が有機質肥料施用後の線虫発生消長について。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	77回: 304-306.	D-D、EDB、糞堆肥、オガクズ堆肥施用によるミナネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウの発生消長の違い。
114	中園和年	1966	An instance of male and young female development of reniform nematode (<i>Rotylenchulus</i> sp.) within egg shell (Tylenchida: Haploaimidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	1(1) 49-50.	孵化することなく、卵殻中で若雌・雄成虫になる。
115	中園和年	1966	Role of males in reproduction of reniform nematodes (<i>Rotylenchulus</i> spp.) (Tylenchida: Haploaimidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	1(4) 203-205.	両性型個体群で雄は生殖上必要な存在。
116	中園和年	1966	ニセフクロセンチュウ類(<i>Rotylenchulus</i> spp.)の生殖と雄虫の役割。	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 33-34.	講要
117	中里肇二・津久井悦治	1966	コンニャクのネグサレセンチュウに関する研究(第3報)生育期間中の線虫の増殖と被害徴候について。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 137.	ムギネグサレセンチュウ。被害区では9月下旬から10月に入ると完全に倒伏。
118	中里肇二・山賀一郎・新井五郎	1966	コンニャクのネグサレセンチュウに関する研究(第2報)。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 136.	線虫密度と黄変・倒伏程度との関係、クロルピクリン、EDB剤による防除(有効)、検出数の年間変動。
119	中里肇二・山崎武男・樹下毎郎	1966	田畑輪換と線虫密度の変動。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 129.	ネコブセンチュウの密度低下には効果、イネシストセンチュウには効果なし。
120	新留伊俊	1966	今後に残された暖地でん菜の病害虫防除上の問題点。	てん研報(てんさい研究所報告)	補8: 137-141.	サツマイモネコブセンチュウの重要性を強調。
121	西山成俊・福永良一	1966	殺線虫剤の土壌処理が水稲の生育および収量におよぼす影響について。	福岡園試特報(福岡県農業試験場研究報告)	4: 48-51.	D-D、DBCP剤処理。
122	西沢 務	1966	根瘤組織におけるエーテル不溶性オーキシンの存在とオーキシン生成能。	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 33.	講要
123	野田弘之・上原等	1966	香川県に見られたビニールハウス内のクローリルリン施用にともなう発芽障害について(その3)消石灰施用後各種土壌害虫防除剤を使用した場合の発芽阻害の有	日植病報(日本植物病理学会報)	32(5) 331.	講要。D-D、EDB剤も扱う
124	尾田啓一・星野三男・谷中清八	1966	イネシストセンチュウに関する研究(第7報)播種処理の経済効果について。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 128-129.	ニセフクロセンチュウ類(<i>Rotylenchulus</i> spp.)の生殖と雄虫の役割。
125	小口健夫	1966	林業苗畑における線虫。	北方林業	18(3) 70-73.	スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、カラマツ、トドマツ、ストローブマツ、キリ、サワラ、ヤシャブシから13種を検出。ネグサレセンチュウが主。
126	小口健夫・工藤 規	1966	北海道の林業苗畑における線虫。	林業技術研究発表大会論文集(北海道林務局)	15: 122-127.	騰写。トドマツ、カラマツ、スギ、アカエゾマツ、ストローブマツのハリ、クキ、ネグサレ、ハ、ニセネグサレセンチュウ等の検出
127	及川英雄	1966	桑苗木のセンチュウ防除。	今日の農業	10巻3: 63-65.	線虫の種類、DBCP剤による苗根浸漬試験。
128	岡田利承	1966	線虫の寄生分布に関する研究(第3報)施肥量が大豆の生育およびダイズシストセンチュウの寄生分布に及ぼす影響。	北海道農試集報(北海道農業試験場年報)	89: 30-36.	土壌中の線虫の分布。施肥によって大豆の生育は良くなったが、土壌中のシスト数は増加。植物防疫 21(3) 122, 1967に抄録。
129	岡田利承	1966	ダイズシストセンチュウの寄生時期と大豆の被害。	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 32.	講要
130	大橋雄司	1966	ネコブセンチュウ(<i>Meloidogyne incognita</i>)に対するタバコの抵抗性の品種間差異。	育種(育種学雑誌)	16(3) 204.	講要
131	大畑徳輔・廣瀬和栄	1966	カンキツ連作障害の諸要因とその相互作用(第1報)連作がカラタチ苗の生育におよぼす影響について。	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭41春: 99-100.	講要
132	大久保清作・呉羽好三	1966	EDBのイネネモグリセンチュウに対する効果と水稲に及ぼす影響。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	13: 125-126.	線虫に対する効果はないが、水稲の生育が良好となり増収。
133	大野真雄	1966	苗畑における土壌線虫の殺線虫剤施用効果。	秋田営林局研究発表会論文集	昭40: 20-22.	スギのネグサレセンチュウにクロルピクリン。
134	大沢幹雄・白方貞好	1966	昭和40年度のたばこ作をかりみて: 北四国の黄色種の品種を中心に。	葉たばこ研究	41: 24-29.	土壌消毒の普及状況を含む。
135	太田勇吾・井上敏	1966	苗畑実態調査より得られた2、3の問題点。	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	17: 4-6.	スギ、アカマツのネグサレ、ユミハリセンチュウの検出率を示す。
136	大津貞夫・斉藤勝清	1966	林業苗畑における土壌実態調査。	茨城林試集報(茨城県林業試験場業務報告)	昭40: 95-99.	騰写。スギ、ヒノキ、アカマツからネグサレ、ユミハリ、イシユク、ネコブ、ラセンセンチュウ、その他。
137	大津貞夫・斉藤勝清	1966	土壌線虫防除試験。	茨城林試集報(茨城県林業試験場業務報告)	昭40: 100-105.	騰写。スギ、ヒノキ、アカマツにDBCP剤。ネグサレセンチュウの防除効果、葉害、効果持続期間。
138	大津貞夫・山本雄三・斉藤勝清	1966	林業苗畑における土壌実態調査。	茨城林試研報(茨城県林業試験場研究報告)	11: 1-19. 付図9 pp.	スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、テーダマツの線虫相。ネグサレ、イシユク、ユミハリセンチュウが主。

139	大塚清次	1966	新登録農薬.	植物防疫	20(11) 517-519.	DSP粉剤(カヤエース)の解説を含む.
140	佐川 喬・五十嵐正夫	1966	土壤消毒剤施用比較試験.	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1966: 204-209.	スギにD-D、ウスブルン、木酢液、ホールサイド、ホマゾール施用の効果の比較.
141	三枝敏郎	1966	果樹類に寄生する既知線虫目録.	補防研報(植物防疫所調査研究報告)	3: 52-57.	外国を含めた文献のまとめ.
142	三枝敏郎・殿原敏夫	1966	スイセン圃場のクキセンチュウDitylenchus dipsaci (KUHN) FILIPJEV の生態とスイセンの被害.	補防研報(植物防疫所調査研究報告)	4: 29-44.	症状、被害、季節的消長、輪作による密度変化、植物防疫 20(12) 558-559, 1966 に抄録.
143	三枝敏郎・殿原敏夫・武田和子	1966	ポタン苗木のAphelenchoides fragariaeによる被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 30-31.	講要
144	酒井 豊・川島嘉内	1966	ネコブセンチュウ類によるごんやくの被害について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 31.	講要
145	向笠芳郎	1966	茶園における定植前の土壤消毒について.	農業技術研究	20巻12: 18-20.	D-D、EDB、同+鶏糞、DBCP剤+Hg、マリーゴールド栽培、堆肥、鶏糞処理の比較、EDB、DBCP剤処理区は線虫減少.
146	佐々木 壮	1966	サツマイモネコブセンチュウとタバコ疫病菌との関係(1)サツマイモネコブセンチュウがタバコ疫病に及ぼす影響.	日植病報(日本植物病理学会会報)	32(2) 69	講要
147	佐藤昭美	1966	コボウのキタネグサレセンチュウ防除上の問題点.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 99.	コロルピクリン剤または殺線虫剤と殺菌剤の混合施用によって黒変、腐敗症状回避可能.
148	佐藤昭美	1966	クワ幼木におけるネコブセンチュウの被害について.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 102	接種後3年間の生育調査により、線虫被害を実証.
149	佐藤昭美・大森秀雄	1966	ダイズシストセンチュウに関する研究(5)加害時期と被害の発生について.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 97.	大豆の生育初期の線虫寄生回避により被害軽減.
150	関塚清蔵・栗原浩	1966	東北地方におけるデンサイ栽培の現状と問題点.	農及園(農業および園芸)	41(6) 891-897.	ネコブセンチュウによる連作障害を含む.
151	Sher, A. A.	1966	Revision of the Hoplolaiminae (Nematoda) VI. Helicotylenchus Steiner, 1945.	Nematologica	12(1) 1-56.	H. dhysteraの内に長崎のタマネギからの記録を含む.
152	重松喜昭・清家義明・上田 進	1966	イネ心枯線虫病の発生地域性とその防除に関する研究(1)苗代および本田環境の違いが発病に及ぼす影響.	四国植防(四国植物防疫研究)	1: 29-33.	種籾中の線虫が発生源、冷水温湯法、サッセンの種籾浸漬が有効.
153	白浜賢一	1966	温室、ハウスの土壤消毒および資材の消毒と環境衛生.	植物防疫	20(10) 456-462.	蒸気・薬剤により消毒法の紹介.
154	杉山信太郎・広間勝己	1966	A resistant gene of soybeans to the soybean cyst nematode observed from the cross between Peking and Japanese varieties (Preliminary report).	育種(育種学雑誌)	16(2) 83-86.	ネマシラスでは1因子、シロユタカでは2遺伝子が関与、種皮色抑制遺伝子Iと抵抗性の間に相引的な連鎖.
155	杉山信太郎・広間勝己	1966	大豆品種のシスト線虫抵抗性に関する研究第1報 抵抗性の遺伝について.	育種(育種学雑誌)	16(3) 205.	講要
156	杉山信太郎・宮原芳彦	1966	ダイズシストセンチュウraceの地域差について.	農及園(農業および園芸)	41(9) 1375-	桔梗ヶ原と刈野の個体群の比較.
157	砂田喜与志	1966	ダイズシストセンチュウ抵抗性を異にする品種の栽培跡地が後作大豆の生育に及ぼす影響.	日育日作北談報(日本育種学会・日本作物学会北海道談話会報)	6: 3.	未見
158	砂田喜与志・後藤寛治・齊藤正隆・酒井真次	1966	大豆新優良品種「ホウライ」および「トコス」.	北農	33巻11: 16-28.	両品種ともダイズシストセンチュウ抵抗性は強、後者については、農業技術 21(7) 334, 1966にも紹介記事.
159	鈴木久弥・中川喜之	1966	茶園線虫の検診方法について(第1報)茶樹根辺土壌中における線虫の水平・垂直分布調査.	京都農試研報(京都府農業試験場研究報告)	1: 16-23.	騰写、ネグサレ、ラセン、センチュウについて.
160	鈴木定治	1966	三方原鉱質土壌における田畑輪換栽培に関する実証的研究.	静岡農試研報(静岡県農業試験場特別報告)	8: 156 pp., Pls.	「田畑輪換と土壤病害虫」p.81-84. ネコブセンチュウの発生は畑1年目でごく少なく、3年で普通畑と同程度.
161	高木一夫	1966	ネマモール(DCIP)薬剤による茶樹線虫の防除効果.	農業昭和	162: 24-26.	使用方法、効果.
162	高倉重義・高桑亮	1966	キタネコブセンチュウの防除に関する研究X. 網走地方における主要作物上の季節的消長.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 31.	講要
163	田中 勇・福留信明・木原宮子	1966	寄主植物が存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性の存続 第1報 砂および水中における寄生性の存続.	九州農業研究	28: 132-133.	28°Cの砂中で100日前後、水中で30日以上.
164	田中 勇・木原宮子	1966	ネコブセンチュウの浸水処理と寄生性存続との関係.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 34.	講要
165	照屋林宏	1966	沖繩におけるサツマイモネコブセンチュウ(Meloidogyne incognita Kofoid et White)の寄主植物の種類.	沖縄農業	5(1) 52-57.	23科44種を記録(8科11種が新記録).
166	富来 務・藤川隆・岡留善次郎	1966	福心枯線虫病に関する研究(第2報)MPP粉剤による種子粉衣並びに播床散布の防除効果.	九州農業研究	28: 109-111.	バイジット剤、種子重量の5%粉衣でも効果、水苗代散布で葉害.
167	鶴島久男	1966	鉢物の新しい作りかたと経営[6]. 鉢物栽培用土の消毒について.	農及園(農業および園芸)	41(6) 983-986.	薬剤、焼土、蒸気処理法
168	堤 正明	1966	各種豆類根腐碎液のダイズシストセンチュウのふ化に及ぼす影響.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 95.	菜豆、アズキでは促進、エンドウ・ソラマメは効果なし.
169	堤 正明	1966	ダイズシストセンチュウの寄主植物根中におけるふ化促進物質の消長.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	0.775	インゲン・ダイズ・アズキ、根の成長と密接な関係.
170	堤 正明	1966	ダイズシストセンチュウ寄主作物根ならびに土壌中におけるふ化促進物質の消長.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 33.	講要
171	堤 正明・桜井清	1966	ダイズシストセンチュウのふ化ならびに幼虫・出に及ぼす寄主・非寄主植物・出物の影響.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	10(3) 129-137.	寄主植物栽培土壌・出物で孵化が促進された、物質は一定期間土壌中に残存.
172	内村新吉・福留信明・川上嘉通	1966	タバコの接木に関する研究 第3報 本ほ栽培ならびに線虫病検定.	日作九支報(日本作物学会九州支部会報)	26: 44-46.	NC95上にBYの接木でも線虫抵抗性発現.
173	上原 等	1966	ダイズシストセンチュウの苗代施用によるイネ心枯線虫病の防除(予報).	農業研究	12巻3: 29-31.	土壤施用.
174	上住 泰	1966	奈良県産植物寄生性線虫について(第3報).	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	8: 113.	講要. 水稲(Tylenchorhynchus martini)、カキ(Helicotylenchus platyurus)、ウメ、チャ、タケ、ビワ、雑草等から11属14種を記録.
175	和知文雄	1966	低温時におけるコロルピクリン剤による土壤線虫防除試験.	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1965: 404-409.	スギ、アカマツのネグサレセンチュウへの効果.
176	和知文雄	1966	土壤線虫に関するする2, 3の考察.	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1966: 234-239.	スギのネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウにEDB剤.
177	和知文雄・菊池泰夫	1966	苗畑(スギまき付)における土壤線虫防除試験.	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1965: 134-138.	D-D、EDB、コロルピクリン、US34、おが屑堆肥の施用効果.
178	篠尾貞夫	1966	リンゴ園における線虫害について(1)ネコブセンチュウの寄生程度と収量.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 103.	No.66-180を参照.
179	篠尾貞夫	1966	リンゴ園における線虫害について(2)リンゴ園におけるネグサレセンチュウの分布.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 104.	樹幹を中心とした土壌中の水平、垂直分布、園内における線虫寄生樹の分布.
180	篠尾貞夫	1966	ネコブセンチュウ被害リンゴ樹の収量推移.	農業技術	21(8)379-380.	「樹令20年を経過すると、重症樹ほど急激に低下」
181	篠尾貞夫	1966	りんごのネコブセンチュウ被害樹における収量の推移.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 31.	講要
182	篠尾貞夫	1966	秋やさいの病害虫; そのふせぎかた.	青森農業	17巻8: 37-39.	ネコブセンチュウの薬剤防除を含む.
183	渡辺文吉郎・松田 明・下長根鴻・高野 貞・朝日秀雄	1966	植物病理学からみたリクトウ連作害についての2, 3の知見.	茨城農試研報(茨城県農業試験場研究報告)	8: 1-12.	フザリウム菌を重点に研究.
184	矢口宣夫・川島嘉内・一戸 稔	1966	ナガイモの黒変障害とTrichodorus porosus.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 32.	講要
185	山田英一	1966	キタネグサレセンチュウの寄主植物について.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 100.	24作物を記録. アスパラガス、トウガラシ、ピーマンは非寄主.
186	山田英一	1966	ネグサレセンチュウ2種の寄主作物(予報).	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	17: 101.	12作物のうちキタネグサレセンチュウはトウガラシに、ノコギリネグサレセンチュウはアマに寄生せず.
187	山田栄一・周藤達雄	1966	林業苗畑における線虫被害調査.	島根林試研報(島根県林業試験場研究報告)	14: 1-27.	線虫の種類・分布・密度、土壤条件・前作との関係、苗木の生育、病原菌との関係.
188	山田隆保・戸塚邦子	1966	キノコセンチュウにおける 325メッシュ篩透過率.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	10(1) 44-46.	Ditylenchus mycelophagus 懸濁液の水量1,000・の時40%、100・で70%程度が・上に残る.

189	山田隆保・戸塚邦子	1966	キノコ線虫の生態に関する研究 IV. 休眠型移行と湿度との関係について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 34.	講要
190	山口福男	1966	イチゴモセンチュウとその防除.	農及園(農業および園芸)	41(10) 1513-1516.	線虫の分布、分離、症状、生態、防除方法(品種、被害株抜取、薬剤:ホリドール、ディフレックス、サッセン、ダイシストン).
191	山本敬夫・近藤鶴彦	1966	畑地の水田化と植物寄生性線虫の消長.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	8: 113.	講要: ネコブセンチュウは水田の下層土に多数生存.
192	山本敬夫・近藤鶴彦	1966	三重県のみかん園におけるチャネグサレセンチュウ分布とその被害.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	8: 44-48.	みかん園の線虫相. ミカンセンチュウは健全木から、チャネグサレセンチュウは衰弱木から検出. 被害は線虫単独ではおきない.
193	山岡貞夫・田村達一	1966	土壌線虫剤施用試験.	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1966: 229-233.	スギのネグサレ、ネコブ、ユミハリセンチュウにD-D、EDB、DBCP、クロルピクリン施用.
194	山下俊勝・牧良忠	1966	イチジクのネコブセンチュウの防除効果とその持続期間について.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	8: 113-114.	講要: DBCP剤の効果は2、3年持続
195	横川登代司	1966	苗木を加害する線虫類と防除(・)ネグサレセンチュウと土壌病害との関係について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	77回: 299-301.	Fusarium菌との関係を調査.
196	横尾多美男	1966	On a new stubby root nematode (Trichodoros kurumeensis n. sp.) from Kyushu, Japan.	佐賀大農業(佐賀大学農学報)	23: 1-6.	福岡県久留米市のモモの根辺から検出. T. cedarus Yokoo, 1964のシノムとされた(No. 79-132を参照).
197	横尾多美男	1966	サボテンストセンチュウ九州に分布す.	佐賀大農業(佐賀大学農学報)	22: 105-109.	シスト・幼虫の計測値およびDBCP剤による防除.
198	横尾多美男・阿部恭洋	1966	イネネモグリセンチュウの水田土壌中における生息密度の季節的消長.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	12: 132-133.	講要
199	横尾多美男・秦卓義	1966	土壌消毒剤クロルピクリンの濃度と殺線虫効果との関係について.	佐賀大農業(佐賀大学農学報)	22: 75-81.	ミナミネグサレセンチュウを用いたポット試験
200	横尾多美男・池上泰俊	1966	ミナミネグサレセンチュウ(Pratylenchus coffeae)の金魚草への寄生加害と殺線虫剤による防除効果についての2、3の知見.	佐賀大農業(佐賀大学農学報)	22: 83-92.	D-D、DBCP剤処理と寄生の生育との関係を調査.
201	横尾多美男・古賀成司	1966	On the nematodes found from the soils dug around the roots of azalea nurseries for sale: one sample of the propagation of the more important plant parasitic nematodes by the salling of the nurseries.	佐賀大農業(佐賀大学農学報)	22: 7-15.	ツツジの苗木からTylenchorhynchus claytoni, Trichodoros sp.等を記録.
202	横尾多美男・黒田善紀	1966	ミナミネグサレセンチュウ(Pratylenchus coffeae)の寄生植物体への侵入加害と地温との関係について.	佐賀大農業(佐賀大学農学報)	22: 93-103.	8°Cではバレイシヨ塊茎から線虫検出なく、20°Cでは検出.
203	横尾多美男・西牟田耕一	1966	イネネモグリセンチュウの防除による水稲の増収について.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	12: 133-134.	講要
204	横尾多美男・蘇武御	1966	落水期前後における水田土壌中での線虫相の変化について: イネネモグリセンチュウの棲息密度の変化.	佐賀大農業(佐賀大学農学報)	23: 17-25.	土壌中の垂直分布を種類別に論ずる.
205	横尾多美男・蘇武御	1966	落水期前後の水田土壌線虫相の変化: イネネモグリセンチュウを中心として.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	12: 133.	講要
206	吉田光男	1966	苗畑土壌線虫実態調査(II).	栃木林業センター業務報	2: 58-59.	スギ、ヒノキ、アカマツのネグサレ、ラセン、ユミハリセンチュウ、その他の分布.
207	吉田 猛	1966	落花生のキタネコブセンチュウ薬剤防除の持続効果.	関東病虫研報(関東山病虫害研究会報)	13: 138.	D-D、EDB、DBCP剤: 線虫検出数は2年目より低下、3年目は横ばい、4年目で元に戻る.
208	吉田 猛	1966	落花生栽培における線虫の被害と防除法.	農及園(農業および園芸)	41(3) 478-482.	線虫相、被害症状、連作年限、品種間差、気象条件と被害、防除法(D-D、EDB、DBCP剤処理他).
209	吉田 猛	1966	各種果樹の植付けと植物寄生性線虫との関係.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 32.	講要
210	吉田 猛・鈴木哲朗	1966	水稲に対する殺線虫剤施用の効果.	関東病虫研報(関東山病虫害研究会報)	13: 127.	D-D、クロルピクリン施用により、イネシガレセンチュウ、ゴマハガレ病減少、増収効果も認められた.
211	吉田 猛・吉井正夫	1966	ナンシンの線虫類について.	関東病虫研報(関東山病虫害研究会報)	13: 140.	11属14種を記録.
212	湯原 巖	1966	ダイズ栽培温度とダイズシストセンチュウの生育差異.	北日本病虫研報(北日本病虫害研究会報)	17: 94.	抵抗性・感受性品種間で15°C23°Cにおける線虫生育を比較.
213	湯原 巖	1966	アルファルファ品種のキタネコブセンチュウに対する抵抗性差異.	北日本病虫研報(北日本病虫害研究会報)	17: 98.	Vernal系M-9は抵抗性、Vernal, Sonoraも有望.
214	湯原 巖	1966	キタネコブセンチュウによるてん菜種苗期の被害.	てん研報(てんさい研究所報告)	補5: 147-151.	被害大. 紙筒育苗により被害回避の可能性. 植物防疫21(9): 396-397, 1967に抄録.
215	湯原 巖	1966	抵抗性マメ科牧草におけるキタネコブセンチュウの生育.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭41: 34.	講要
216	Anon.	1966	接触的に線虫を殺すDSP粉剤.	農及園(農業および園芸)	41(9) 1388.	カヤエースの紹介.
0	1967	昭和42年(1967)				
1	安部 浩	1967	ブドウ幼木の生育に及ぼす線虫の被害.	中国農業研究	35: 64-66.	線虫による生育阻害を認める.
2	阿部 慎・及川英隆	1967	くわのネコブセンチュウ防除に関する研究 (IV) DBCPおよびDIP剤による消毒試験	岩手県試年報(岩手県農業試験場年報)	14: 137-141.	前者の効果がまるる
3	鎌谷大郎	1967	北海道における主要農作物の病害虫概説.	植物防疫	21(11) 455-458.	線虫害を含む.
4	新井邦夫	1967	アイリスに寄生するMeloiodogyne 属類似の線虫について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 41.	講要
5	Bains, R. C., 宮川経邦, Smal I, R. H.	1967	Biotype of the citrus nematode (Tylenchulus semipenetrans) and their effect on resistant rootstocks.	Nematologica	13(1) 137.	講要: No. 69-7を参照.
6	近岡一郎	1967	キタネグサレセンチュウおよびネコブセンチュウの殺線虫剤感受性.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 40.	講要
7	近岡一郎・浅見宏・相原次郎・竹沢秀夫	1967	ダイコンのキタネグサレセンチュウについて第3報 NCSの施用量と効果.	関東病虫研報(関東山病虫害研究会報)	14: 140.	21.6%/10a 処理が良好な結果.
8	家入 章	1967	甘しよを加害する線虫と甘しよつる割れ病菌の混合感染について.	九州農業研究	29: 134.	D-D油剤32%/10aまたはクロルピクリン21%/10aで防除可能.
9	藤本 清・神納浄・宇都敏夫・山口福男・松尾鏡	1967	兵庫県における土壌病害虫防除の実態.	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	15: 95-100.	殺線虫剤・殺菌剤の効果、種類、使用方法、経費、労力等のまとめ.
10	深沢永光・小林義明	1967	イネシガレセンチュウに対する薬剤種子粉衣および土壌施用による防除効果(続報) 陸苗代及び電熱苗代における試験.	関東病虫研報(関東山病虫害研究会報)	14: 135-136.	カヤエース、ダイシストン、サッセンを供試.
11	布施 寛・佐藤政太郎	1967	山形県下におけるウツクセンチュウの寄生率.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 29.	講要
12	五味美知男	1967	イネシガレセンチュウの生態と防除.	農業研究	14巻1: 38-41.	分布、被害、生態、防除(ホリドール他8薬剤).
13	五味美知男	1967	コンニャクの病害虫による連作障害対策.	農業研究	14巻2: 32-37.	D-D、EDB剤によるネグサレセンチュウ防除を含む.
14	五味美知男・中里肇二・田裕行・菊地正明	1967	福心枯線虫病防除に関する研究(第8報)殺菌剤との混用による種子伝染性病害虫総合防除の実用化について.	関東病虫研報(関東山病虫害研究会報)	14: 133-134.	イモチ菌、こま葉枯病菌、馬鹿苗病菌を供試.
15	後藤 昭	1967	暖地の植物寄生性線虫.	九州農試年報(九州農業試験場年報)	昭40: 61-65.	水田、畑地、樹園地、牧野、薩南諸島からの検出線虫.
16	後藤美明	1967	施設園芸の機械化.	農業技術	22(10) 466-470.	土壌消毒施設を含む
17	林 勇	1967	温室バラの栽培および収量構成要因.	農及園(農業および園芸)	42(9) 1373-1379.	線虫害に言及.
18	日高 静・田中勝利	1967	サツマイモネコブセンチュウ(Meloiodogyne incognita var. acrita Chitwood)のふ化状態と寄主体侵入に及ぼす温度の影響.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	13: 7-9.	侵入数・侵入率ともに28、22、10°Cの順に多.
19	引地直室	1967	モモの線虫防除.	植物防疫	21(10) 418-421.	線虫相、被害、防除の考え方、防除の実際(点注、灌注、散粒).
20	日野裕彦・古田力	1967	イネ心枯線虫病防除の一方法: 臭化メチルによる種子くん蒸.	中国農試研報(中国農業試験場報告)(E)	1: 79-87.	160 g/m ² で線虫死滅.
21	平野 暁	1967	果樹における前作があと作の生育におよぼす影響の種類間関係.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭42春: 8-9.	講要
22	平野和弥・河村貞之助	1967	トマト幼苗における根ぐされ線虫病と萎ちょう病との関連について.	日植病報(日本植物病理学会報)	33(2) 90.	講要
23	平野和弥・河村貞之助	1967	ネコブセンチュウとの混合感染におけるFusarium菌の寄生範囲の変動.	日植病報(日本植物病理学会報)	33(5) 346.	講要

24	平野和弥・河村貞之助	1967	ハガレセンチュウに対する5121粒剤の浸透移行殺線虫作用.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 144.	キクを処理.
25	星野三男・尾田啓一・谷中清八・熊沢隆義・滝田泰章(担当者)	1967	イネシストセンチュウの生態と防除について.	栃木農試業績報(栃木県農業試験場業績報告)	4: 88-93.	形態、生態、被害解析、防除.
26	一戸 稔	1967	Control of plant nematodes. In: Plant Protection in Japan (Special issue No.5 of "Agriculture in Japan")		p. 93-98.	日本の線虫相、線虫被害及び防除に関するレビュー.
27	一戸 稔	1967	Pinat nematode investigations in Japan: results and problems.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	2巻1: 1-4.	日本の線虫相、被害、防除の解説.
28	一戸 稔	1967	日本産ヘテロデラ科線虫の2種について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 41.	講要
29	一戸 稔	1967	永年作物と線虫: 現状と将来.	植物防疫	21(10) 405-409, 1 pl.	線虫の種類、線虫のウイルス伝播、将来の殺線虫剤.
30	一戸 稔	1967	昭和41年度に試験された害虫防除薬剤: 委託試験成績から、殺線虫剤.	植物防疫	21(2) 75.	TSN-21油剤(EDB15%+EDC40%)、5121粒剤、カヤエース粉剤.
31	一戸 稔	1967	果樹にみられる線虫被害とその対策.	果実日本	22巻12: 16-22.	ミカン、リンゴ、イチジク、モモ、リンゴ、ブドウ、チャ、クワの線虫被害: DBCP剤による防除.
32	一戸 稔	1967	果樹にみられるセンチュウとその被害.	今日の農業	11巻2: 50-52.	被害、衰弱・忌地の事例.
33	飯村 武	1967	苗畑土壌線虫実態調査.	神奈川県指導報(神奈川県農業指導所報告)	16: 68.	講要
34	稲生 稔	1967	ハウス内における殺線虫剤処理効果について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 145.	EDB、クロロピクリン. 夏期は処理後被覆すると顕著な効果.
35	井上悦甫	1967	苗畑線虫防除試験(Ⅰ)苗木におよぼす殺線虫剤の影響.	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	7: 53-56.	EDB、DBCP、IK-141剤をアカマツ、ヒノキに施用.
36	井上悦甫・香山隆・下川利之	1967	林業苗畑における土壌線虫防除に関する研究(Ⅰ)苗畑における土壌線虫の実態.	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	1: 1-21.	樹種別の線虫相、生息密度等
37	入子善助・塩野勇	1967	根菜類省力機械化一貫作業.	農及園(農業および園芸)	42(3) 481-485.	土壌消毒(D-D、EDB剤処理)について詳述.
38	石橋信義	1967	サツマイモネコブセンチュウMeloiodgyne incognita (Kofoid & White, 1919) Chitwood, 1949の繁殖に関する研究.	農事試験報(農事試験場研究報告)	11: 177-219.	I. 産卵孵化に関する実験法の確立: 1.雌成虫の生理的食塩水内産卵、2.生理的食塩水内にて産卵された卵の発育と幼虫の孵化、3.卵囊産卵数と幼虫孵化との相互関係. II. 孵化・生育ならびに産卵におよぼす寄主植物の影響: 1.根分泌物の孵化促進作用、2.寄主の生育状態が線虫の生育ならびに産卵におよぼす影響、3.卵囊物質の着色硬化にともなう雌成虫の産卵力減衰. III. 電離放射線照射による孵化・産卵力・侵入・性分化の解析: 1.卵囊の特性、2.産卵力を決定する発育ステージ、3.寄主植物の線虫誘引、4.性決定の発育ステージ. IV. 雄成虫の増加と耐久卵の出現: 1.圃場における雄成虫と褐色卵囊の消長、2.雄成虫の存在様式. V. ネコブセンチュウにおける種族維持の考察. 植物防疫 22(12) 546-547, 1968 に抄録.
39	石橋信義・清水啓・国井喜章	1967	ネコブセンチュウの繁殖様式に関する生態学的研究 I. 発生消長と環境感受性の関係.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 39.	講要
40	石川元一	1967	イネネモグリセンチュウによるイネの被害.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 138.	稈長の低下、穂数の減少、玄米重および千粒重の低下.
41	石川元一・熊倉善八郎	1967	連作落花生のキタネコブセンチュウの被害と防除.	農業技術	22(5) 226-227.	連作と収量、施肥と線虫防除効果(クロロピクリン)、キタネコブセンチュウ防除法(D-D).
42	伊藤弘康・阿部正博	1967	土壌線虫防除試験(Ⅰ)主にイシクセンチュウ(Tylenchorhynchus claytoni)に対する薬剤防除について.	新潟林試研報(新潟県林業試験場研究報告)	12: 1-11.	D-D、EDB、DBCP、ペーバム、KCl、クロロピクリン、NCS、チアム剤のネグサレ、イシク、ユミハリセンチュウに対する効果、立枯病発生・苗木の生育への影響.
44	伊藤喜隆	1967	蔬菜畑におけるネコブセンチュウの防除法.	農及園(農業および園芸)	42(7) 1105-1108.	D-D、EDB、DBCP剤処理、地温と処理時期、処理上の注意(土壌の耕起、土壌水分、鎮圧、水封、前作の残遺)、残効、薬害、雑作.
45	伊藤喜隆	1967	リンゴの線虫防除.	植物防疫	21(10) 414-417.	線虫相、被害、生態(発生消長、圃場内分布、一本の木での分布)、土質との関係、防除(D-D、EDB、DBCP、ペーバム剤).
46	弥富喜三	1967	ミカンネモグリセンチュウの防除対策.	果実日本	22巻5: 38-41.	八丈島における発生、緊急防除、生態と被害、分布、防除.
47	鍵渡徳次・近岡一郎・水沢芳名	1967	ナガイモの表皮褶変による奇形症状と防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 57-58.	EDB剤で防除可能.
48	金子 武	1967	昭和41年度に試験された茶樹病害虫防除薬剤: 連続試験成績から、殺虫剤.	植物防疫	21(1) 27-28.	チャネグサレセンチュウにネマチック粉剤、5121粒剤、UC-21149粒剤等.
49	金子 武	1967	茶樹の線虫と5121粒剤.	農業研究	14巻1: 16-18.	チャネグサレセンチュウを対象.
50	川田惣平・石塚隆男	1967	落花生に対する殺線虫剤の生育期処理(動力土壌消毒機による処理の効果).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 142.	EDB剤
51	河村貞之助・平野和弥	1967	トマト幼苗におけるネコブセンチュウと萎ちょう病とによる複合病に関する研究 I. 発病ならびに品種間差異.	千葉大園学報(千葉大学園芸学部学術報告)	15: 7-20.	両者の接種時期を違えて3品種間で比較.
52	河村貞之助・平野和弥	1967	畑作水稲の連作障害におよぼす土壌水分の影響に関する研究 第2報 畑作水稲に対する土壌水分処理がイネシストセンチュウの発生消長とその被害におよぼす影響.	農電研報(農電研究所所報)	67019: 16-28.	ライシメータを使った試験. 土壌水分含量が多い場合、線虫の増殖率は高いが、被害は軽減. 第1報: 土壌水分と生育、収量は同号 p.1-15 (中山敬一・青木正則・菅原重二). 線虫記述なし.
53	河瀬憲次・松尾平	1967	モモのネコブセンチュウ抵抗性台木について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭42秋: 32-33.	講要
54	川島島内	1967	イネシストセンチュウによる水稲の被害に関する研究(第2報)畑苗代の被害について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	18: 120.	生育調査および葉葉分析. 線虫寄生によって明瞭な被害.
55	賀賀沢和男	1967	北海道におけるダイズシストセンチュウの昨今.	植物防疫	21(11) 471-474.	研究史、研究の現状、今後の問題点.
56	桐生五郎	1967	加工用としてのイチヂク(蓬葉柿)の栽培改善: 新発田市五十公野のイチヂク栽培を中心として.	農及園(農業および園芸)	42(8) 1239-1242.	線虫害とその対策(D-D、EDB、DBCP剤処理)を含む.
57	小林義明・深沢永光	1967	静岡県内のイネ主要品種のイネシナガレセンチュウに対する抵抗性について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 131-132.	9品種を調査.
58	腰塚 敏	1967	田畑輪換の行ないかた.	農及園(農業および園芸)	42(9) 1367-1367.	線虫との関係にふれる(埼玉農試圃引試験地 昭37-38の成績を引用).
59	国井喜章・石橋信義・小林宏信	1967	イネネモグリセンチュウ寄生水稲の代謝異常.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 39.	講要
60	国安克人	1967	Pratylenchus penetrans Chitwood et Oteifaの土壌中の密度とエンドウ萎凋病との関連について.	日植病報(日本植物病理学会報)	33(5) 331.	講要
61	蔵納久男	1967	警戒を要するミカンネモグリセンチュウについて.	柑橘	19巻6: 38-39.	来歴、病徴、生態、寄主植物、分布.
62	呉羽好三	1967	クワの線虫防除.	植物防疫	21(10) 426-428.	ネコブセンチュウ. 根と線虫の垂直分布、薬剤防除(DBCP乳剤、同粒剤).
63	真宮靖治	1967	Descriptive notes on three species of Trichodorus (Dorylamida:Trichodoridae) from forest nurseries in Japan.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	2(2) 61-68.	T. cedarus Yokoo, 1964, T. minor Colbran, 1956, T. porosus Allen, 1957を林業苗畑から記録. 再記載し各種を図示.
64	真宮靖治	1967	アメリカにおける林業と線虫: 研究の現状と問題点.	植物防疫	21(10) 446-448.	苗畑における線虫問題、防除、林地での線虫問題.
65	増田康哉	1967	桑の紋羽病防除について(第1報)白紋羽病発生跡地におけるD-D剤処理の効果.	日蚕九州講要(日本蚕糸学会九州支部研究発表会講演要旨)	昭42: 9-10.	講要
66	松枝 章	1967	苗畑土壌線虫防除試験.	静岡柑橘試験報(静岡県カンキツ試験場報告)	4: 179-184.	膝写、スギ、アカマツ、モミ、アテ(アスナロ)のネグサレ、イシク、ラセンセンチュウ、その他の検出状況.
67	松本重男・松永弥七・朝日幸光・高瀬 昇・井浦昌彦	1967	暖地におけるてん菜の輪作年限に関する試験.	九州農試彙報(九州農業試験場彙報)	12(3/4) 269-279.	ネコブセンチュウの被害大.
68	松本重男・財津昌彦	1967	大豆におけるネコブセンチュウ寄生程度の品種間差異.	九州農業研究	29: 87-88.	634品種・系統の比較試験.
69	松永良夫・西野操	1967	ミカンの線虫被害の解析.	植物防疫	21(10) 433-437.	ミカンセンチュウによる症状・被害. チャネグサレセンチュウによる被害. その他の検出線虫.
70	松崎征義・桐谷圭治・法橋信彦	1967	ベルマン法による線虫の総個体数の推定の問題点.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 1.	講要

71	峰尾一彦	1967	近畿南部の国有林苗圃から検出された植物寄生線虫について.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	17. 38-39.	講要. スギ、ヒノキ.
72	三田久男	1967	天敵シリーズ(5)水田害虫の天敵.	農業	14巻1: 口絵(2 pls.)、解説.	ワンカシヘンチュウをカラー写真で図示.
73	宮川経邦	1967	ミキサ-ふるい別け法(Baines法)によるミカンネセンチュウの定量.	植物防疫	21(10) 438-441.	手順、精度、注意点等.
74	宮川経邦・賀川実・大和浩国	1967	ミカンネセンチュウ(Tylenchulus semipenetrans Cobb)の寄生度の調査と表	四国植防(四国植物防疫研究)	2: 83-87.	寄生度にはミキサ-ふるい分け法、殺線虫剤の効果判定にはベルマン法.
75	宮沢洋一・萩原博司	1967	ドロクロールの土壌消毒による薬用ニンジン	農及園(農業および園芸)	42(12) 1851-	処理後に窒素過剰のため葉が枯れる.
76	森川国康	1967	土壌動物主要抽出法.	Edaphologia	1: 17-25.	動物群別の抽出法のリスト.
77	諸井忠明	1967	管内苗圃における線虫の棲息実態調査.	秋田管林局研究発表論文集	昭41: 97-103.	スギのネグサレセンチュウの検出状況. 前栽培作物・土性と生息数.
78	永野道昭・樋口泰三・中須賢孝	1967	ショウガの害虫類とその生態.	九州病虫学会報(九州病虫研究会報)	13. 68-69.	ネコブセンチュウの寄生が圃場によってかなり高い.
79	中村好男・堀浩一	1967	Studies on the gall formation of northern root-knot nematode, Meloidogyne hapla Chitwood.	帯広畜大研報(帯広畜産大学学術報告)第1部	4(4) 425-444. 10 pls.	赤クローバーにおけるゴール形成とその組織変化. 植物防疫 22(9) 408, 1968に抄録.
80	中野雷苗	1967	土壌線虫防除試験.	静岡林試研報(静岡県農業試験場研究報告)	1966: 157-166.	スギのミナミネグサレ、ラセン、イシユク、ユミハリセンチュウにD-D、DBCP、同十加が肩堆肥、糞堆肥、および肩堆肥施用効果. DBCP、5121、ネマモル剤の薬害.
81	中国和年・一戸稔	1967	日本産ネセフクロセンチュウの1種(Rotylenchulus nicotiana (Yokoo et Tanaka, 1954) n.comb. (Tylenchida: Hoplolaimidae) について.	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	11(4) 169-176.	各発育ステージの形態の記載(新模式標本を定める)、寄生性、雌成虫の形態的変異と根における寄生部位との関係. 本種の原記載はNo.54-62. 本種はその後R. reniformisのシノニムとされた(Dasgupta et. al., Proc. helminth. Soc. Wash. 35(2) 169-192. 1968
82	仲宇佐達也	1967	果菜類の連作害とその対策.	農及園(農業および園芸)	42(11) 1671-1675.	トマト、ナス、キウリ、その他のウリ類の連作害と対策. ネコブセンチュウの寄生と収量、台木の選択等.
83	中里肇二・井野光夫	1967	コンニャクのネグサレセンチュウに関する研究(第4報)コンニャクの品種と寄生性および被害について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 141.	ミナミネグサレセンチュウ. 在来種の被害が大. EDB剤処理によって増収.
84	西野操・松永良夫・古橋嘉一	1967	ミカンネセンチュウの検出法と密度調査法.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	9: 120-121.	講要. 細根をミキサで粉砕. ふるい(100. 325メッシュ)で線虫選別.
85	西山成俊・福永良一	1967	殺線虫剤の土壌処理が水稻の生育及び収量に及ぼす影響について.	九州農業研究	29: 188-189.	D-D、DBCP剤のイネネモグリセンチュウに対する効果. 増収した.
86	西沢 務	1967	永年作物における線虫防除の諸問題.	植物防疫	21(10) 410-413.	被害及び防除(栽培前の土壌処理、苗木問題、被覆植物の利用、DBCP剤による治療的防除).
87	西沢 務	1967	カルスによる植物寄生線虫の無菌培養.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 40.	講要
88	西沢 務・弥富喜三	1967	カンキツ幼苗の生育とミカンネセンチュウとの関係について.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	9: 121-122.	講要. ポット試験では関係不明. 野外苗圃の実態調査では被害を確認.
89	野口義弘	1967	ネグサレセンチュウの検出方法に関する研究: ミナミネグサレセンチュウ検出法としてのインキュベーション法について.	四国植防(四国植物防疫研究)	2: 79-82.	25-30℃で14日後がよい.
90	野村信史	1967	北海道における小豆栽培の改良の要点.	農及園(農業および園芸)	42(2) 321-324.	シストセンチュウの害と輪作の関係について述べる.
91	岡 昌二・清水靖彦	1967	埼玉県における根菜類の省力化の経過と問題点.	農業技術	22(2) 64-69.	線虫防除は広く普及.
92	岡田利承	1967	寄主の生育条件とダイズシストセンチュウの寄生.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	18: 121.	土壌水分の多少、剪葉と線虫の寄生数・発育.
93	奥代重敏	1967	昭和41年度に試験されたカンキツ病害虫防除薬剤. 委託試験成績から. 殺虫剤.	植物防疫	22(2) 77-78.	5121粒剤はミカンネセンチュウ幼虫に効果.
94	大橋雄司	1967	線虫抵抗性の機構について.	葉たばこ研究	45. 49-54.	品種間差異、線虫の侵入、抵抗性の解剖学的観察、土壌温度と抵抗性. 植物防疫 21(12) 525.1967に抄録.
95	大島康臣・国井喜章	1967	イネに寄生する線虫について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 39.	講要
96	大津貞夫	1967	土壌線虫防除試験.	茨城林試報(茨城県林業試験場報告)	昭41: 64-69.	謄写. スギ、ヒノキ、アカマツの主にネグサレセンチュウにクロルピクリン、D-D、EDB、DBCP、TS-10、IK-141. 5121粒剤. EDB剤処理、抵抗性品種利用.
97	大和田常晴・加藤 昭(担当者)	1967	ダイズシストセンチュウの防除について.	栃木県農業試験場報告	4: 94-96.	EDB剤処理、抵抗性品種利用.
98	長田 巖	1967	ブドウにおけるDBCP剤の薬害について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭42秋: 30-31.	講要
99	長田 巖	1967	殺線虫剤の効果.	山梨の園芸	15巻2: 31-34.	ブドウにDBCP剤
100	長田 巖	1967	ブドウ園におけるDBCP剤の使い方.	今月の農業	11巻5: 39-41.	線虫の種類と被害、処理方法・時期、薬剤処理による生育異常.
101	領家武房	1967	ミカンの土壌線虫検診方法について(1).	中国農業研究	37:61-62.	株の樹冠範囲1/2 円周上、4地点(深さ10-20cm)の土壌標本により密度推定が可能. 園内は4樹を調査.
102	三枝敏郎	1967	八丈島に侵入したミカンネモグリセンチュウ. その形態と生態ならびにアメリカにおける検診と防除.	植物防疫	21(5) 181-187.	調査方法と結果、学名ならびに形態、分布と寄主植物、作物のおもな被害、生態系統および非寄主植物、生活場所と移動.
103	三枝敏郎	1967	日本に侵入したミカンネモグリセンチュウの発見と発見の経緯.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 40.	講要
104	三枝敏郎	1967	104. 三枝敏郎: シバ苗のネコブ線虫の温湯防除.	グリーン研報集(グリーン研究報告集)	12: 27-28.	未見
105	齊藤 諦	1967	林業苗圃における線虫被害調査.	山形林指導報(山形県林業指導所報告)	7: 93-94.	スギ、アカマツからの検出線虫.
106	坂井健吉・丸峯正吉・広崎昭太・菊川誠士・井手義人・白坂 進	1967	甘しょ新品种"コガネセンガン"について.	九州農業試験場報告	13(1/2) 55-68.	特性及び育成過程. ネコブ、ネグサレセンチュウに強い.
107	佐々木 寛・星 稔男	1967	苗圃実態調査からみた線虫の生息について.	日林東北支講(日本林学会東北支部会誌)	18: 97-103.	福島県のアカマツ、スギの検出線虫. D-D、EDB剤による防除.
108	佐々木 壮	1967	サツマイモネコブセンチュウとタバコ疫病菌(2)センチュウ腐病組織がタバコ疫病菌の生育と遊走子発芽におよぼす影響.	日植病報(日本植物病理学会報)	33(2) 90-91.	講要
109	佐々木 壮・田中 勇	1967	線虫と他の病害との関係.	葉たばこ研究	46: 79-84.	疫病との関係.
110	佐藤昭美	1967	キタネグサレセンチュウによるゴボウの害徴と糸状菌の関係について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	18: 126.	根表面の褐変腐敗症状の進展には線虫とFusarium菌またはRizoctonia菌が関与と推定.
111	沢田啓司	1967	ミカンネモグリセンチュウの侵入と緊急防除.	今月の農業	11巻5: 71-73.	八丈島における発見とその後の防除対策.
112	清家義明	1967	イネネモグリセンチュウ(Hirschmanniella oryzae)に関する研究.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 39.	講要
113	渋谷正夫・岡田正順・真家文夫	1967	キウの連作障害における線虫とFusarium菌の混合感染について.	東教大農場報(東京教育大学農学部附属農場報告)	1: 25-37.	謄写. キタネグサレセンチュウの寄主植物、形態. 菌・線虫の単独より混合接種により大きな被害.
114	清水 啓・石橋信義	1967	ネコブセンチュウの繁殖様式に関する生態学的研究 II 雄成虫の行動.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 39-40.	講要
115	清水四郎	1967	八丈島におけるミカンネモグリセンチュウの緊急防除事業.	植物防疫	21(5) 179-180.	植物防疫法上の取り扱い、発見の経緯、防除方針の検討と緊急防除省令の内容他. 関連記事: 植物防疫 21(3) 126-127, (5) 213, (6) 272, 1967.
116	下川利之	1967	岡山県下の林業用苗圃から検出されるネグサレ線虫Pratylenchus spp.について.	森林防疫ニュース	16(9) 204-205.	キタネグサレ、ミナミネグサレセンチュウ.
117	下川利之・井上悦甫	1967	林業苗圃の土壌線虫防除に関する研究(1)苗圃における土壌線虫の実態.	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	1:1-21.	分布、密度、土壌条件との関係、発生消長
118	塩原右治	1967	林業苗圃における土壌線虫実態調査.	群馬林試研報(群馬県林業試験場報告)	5: 86-106.	謄写. スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツからの検出線虫. 発生消長
119	白浜賢一	1967	土壌の蒸気消毒の作業能率と消毒経費.	今月の農業	11巻10: 58-59.	4機種比較. 3.3 平米当たり114.1 ~ 390.5 円.

120	菅原祐幸・栗山尚志・島田英雄	1967	トマトネコブセンチュウ抵抗性検定法に関する試験.	園試興津支年報(そ業)(園芸試験場興津支場年報)	3: 15-17.	未見
121	杉山信太郎・広間勝巳・国分喜治郎・宮原万芳	1967	大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性の地域性.	育種(育種学雑誌)	17(別)134.	講要
122	砂田喜与志	1967	ダイズシストセンチュウ抵抗性を異にする大豆品種の栽培跡地が後作大豆の生育に及ぼす影響.	北海道農試集報(北海道の農試集報)	16: 106-113.	抵抗性品種栽培跡地でのシスト数減少、後作大豆の生育良好.
123	鈴木春夫	1967	いろいろな土壌消毒とその方法.	農業技術研究	21巻2: 34-36.	蒸気、蒸剤、薬液灌注、粒剤の施用法.
124	鈴木久彌・中川喜之	1967	茶園中における線虫および細根の分布について.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	9: 123-124.	講要. ピンセンチュウ、ネグサレセンチュウの樹幹を中心とした水平・垂直分布.
125	多川 閃・都丸敬一	1967	土壌くん蒸剤のガスクロマトグラフィーによる分析.	日植病報(日本植物病理学会報)	33(5) 318.	講要
126	高木一夫	1967	チャの線虫防除.	植物防疫	21(10) 429-432.	線虫相、被害、防除(成木園:DBCP乳剤、同粒剤、幼木園:同前;改植園:D-D、EDB剤;苗床:クロルピクリン)
127	高倉重義	1967	網走地方におけるキタネコブセンチュウの季節的消長.	北農	34巻2:33-47.	甜菜、バレイショ、菜豆、秋播小麦間作クローバー、2年目クローバーにおける消長、1世代所要積算温度、冬期の消長.
128	高倉重義・富岡博・高桑 亮	1967	テンサイ連作畑における主要病害虫発生状況.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	18: 67.	キタネコブセンチュウを含む.
129	高野文男・大川晶・佐々木信夫・小川勝美	1967	化学薬剤による水稻の生育調節に関する試験 第1報 殺線虫剤処理が水稻の生育収量におよぼす影響.	東北農業研究	9: 54-56.	クロルピクリン、D-D、DBCP、EDB剤の順に増収効果.
130	武田昭七・高橋周寿・山崎慎一	1967	水稻に対する薬剤(Vitamin およびEDB剤)施用効果について.	東北農業研究	9: 57-59.	収穫期のイネネモグリセンチュウ数はEDB剤施用の有無の間に有意差なし.
131	竹下晴彦	1967	林業苗畑における土壌線虫に関する研究(1) 苗畑土壌線虫実態調査.	佐賀林試研報(佐賀県林業試験場研究報告)	67(2) 1-29.	ヒノキ、スギ、マツ苗畑の検出線虫. 環境条件と線虫相(地域的分布、土性・土壌酸度・施肥方法・施肥と線虫数、ヒノキ・スギの生育と線虫数、被害の徴候).
132	竹下晴彦	1967	線虫防除試験:ヒノキ苗畑の異常枯損について.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	20: 140-141.	線虫でなく、キリウジガガンボが原因、クロルピクリン、EDB、IK-141、TS-10 剤を施用.
133	竹崎 勇・家入章	1967	秋大豆に対する殺線虫剤EDBの効果について.	日作九支報(日本作物学会九州支部会報)	28: 33-35.	EDB剤施用と施肥改善により増収可能.
134	田中 勇・福留信明・木原宮子	1967	寄主植物の存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性存続.	葉たばこ研究	45: 55-62.	灌水の影響. No. 67-136を参照.
135	田中 勇・福留信明・木原宮子	1967	寄主植物の存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性存続(2) 土壌中における寄生性の存続および寄生性の存続におよぼす土壌温度の影響.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	13: 108-109.	4種の土壌を供試. 実験開始 200日後の寄生率は20°C > 28°C > 10°Cの順.
136	田中 勇・福留信明・木原宮子	1967	寄主植物の存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性存続(3) 寄生性に及ぼす土壌たん水の影響.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	13: 109-111.	室内試験. 流水区、滞水区、対照区と比較.
137	照屋林宏	1967	サトウキビの生育初期におけるネマトーダの加害について.	熱帯農業	10(4) 196-201.	ラセン、イシユク、サツマイモネコブセンチュウを苗に接種.
138	樋田幸夫	1967	桑園の土壌線虫.	蚕糸科学と技術	5巻3: 48-51.	ネコブセンチュウの生態、防除.
139	徳永美治	1967	畑地の連作障害を考える(1).	農業技術	22(7) 301-304.	連作障害の概説. 作付体系との関係、症状、収量低下、病害虫との関係他.
140	徳永美治	1967	畑地の連作障害を考える(2).	農業技術	22(8) 351-354.	施肥、土壌条件、水との関係、アレロパシー他.
141	富来 務・藤川隆・岡留善次郎・佐藤俊次	1967	福心枯線虫病に関する研究(第3報) 本病に対する各種粉剤並びに粒剤の効果.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	13: 5-7.	14種の処理. MPP粉剤、MEP粉剤、同粉衣剤、PSP 204 粉剤の3-5%粉衣が良い成績. ダイシントン、PS P204 粒剤の苗代の播種散布も有効.
142	堤 正明	1967	ダイズシストセンチュウ抵抗性品種におけるふ化促進作用.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	18: 122.	強い作用を認める.
143	内村新吉・福留信明・川上嘉通	1967	タバコの接木に関する研究 第3報 線虫病検定.	鹿児島たばこ試験場報	14: 61-64.	NC95上にBYを接木した場合は抵抗性発現. 逆の組み合わせでは認められず.
144	内村新吉・福留信明・川上嘉通	1967	タバコの接木に関する研究 第3報 本ほ栽培ならびに線虫病検定.	日作九支報(日本作物学会九州支部会報)	6: 44-46.	No. 67-143を参照.
145	上野徳男・宮原義雄	1967	DBCP剤のサツマイモの生育におよぼす影響.	九病虫研報(九州病虫研究会報)	13: 71-75.	「一穴(80%) 2 cc 以上の施用は減収する例が多かった」
146	上住 泰	1967	カキ寄生性線虫に関する研究 第1報 カキ根圏内土壌中より発見された植物寄生性線虫類と、根群と2、3主要線虫の分布.	奈良農試研報(奈良県農業試験場研究報告)	1: 74-83.	19歳以上を記録. ミカンネンセンチュウ、Tylenchorhynchus sp.、Helicotylenchus sp. の樹幹周囲の垂直、水平分布を調査.
147	上住 泰	1967	カキ寄生性線虫に関する研究 第1報 カキ根圏内土壌中における線虫の分布.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	9: 122-123.	講要
148	上住 泰	1967	永年作物の検診と薬剤処理.	植物防疫	21(10) 442-445.	永年作物線虫検診の特異性、土壌中における線虫分布と細根の関係、線虫の園内分布、永年作物の線虫防除.
149	牛山敏司	1967	ミカン園から検出される線虫と被害の実態.	農業技術	22(2) 74-76.	線虫相、線虫の垂直分布、ミカンネンセンチュウがミカン類に及ぼす影響、外部寄生性線虫の被害.
150	牛山敏司	1967	神奈川県下に発生した温州ミカンの衰弱症.	今月の農業	11巻10: 18-20.	線虫も検出.
151	牛山敏司	1967	外部寄生性線虫が柑橘の生育におよぼす影響について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭42春: 96-97.	講要
152	和知文雄	1967	土壌線虫防除上の緑肥栽培に関する2、3の考察 1.	林業技術研究集録(前橋営林局)経営部門	1967: 168-175.	マリーゴールドの品種比較. ネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウに対する抑制効果. ネグサレセンチュウにのみ有効.
153	矢口宣夫・川島嘉内	1967	ユミハリセンチュウTrichodorus porosusによるナガイモの被害について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	18: 127.	発生地、線虫の垂直分布、防除(クロルピクリン、D-D、サンヒューム).
154	山田英一	1967	数種作物におけるキタネコブセンチュウの消長.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	18: 124.	ダイズ、コムギ、ゴボウ、ジャガイモ、ニンジン、テンサイ、アスパラガス.
155	山田英一	1967	キタネコブセンチュウによるリンゴ幼木の被害.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	18: 125.	紅玉、国光と比較. 線虫接種で生育に影響.
156	山口福男・藤本清	1967	イチジクの線虫と5121粒剤.	農業研究	14巻1: 19-22.	ネコブセンチュウの被害と薬剤施用効果.
157	山本敏夫	1967	ベルマン法における土壌量と検出線虫数.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	9: 123.	講要. 土壌量、土性、目皿の直径、土壌の載せ方等をミカンネンセンチュウで検討. 10g 程度が適量と結論.
158	山本敏夫	1967	ミカン園におけるチャネグサレセンチュウの検出法とその被害.	農及園(農業および園芸)	42(4) 659-662.	ベルマン法、ミキサー法、それら混用法の解説. 検出状況、被害.
159	横尾多美男	1967	土壌線虫調査覚書 その1.	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	24: 73-82.	アスパラガス畑、芝地、ミカン苗木園、水田、イチヂク畑、テッポウユリ、トドマツ苗畑の線虫相
160	横尾多美男・古賀成司	1967	ツツジ苗木の根まわり土壌から発見された線虫について.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	13: 145.	講要. No. 68-201を参照.
161	横尾多美男・松崎武樹	1967	ボタン寄生の新葉線虫とその寄主植物.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	13: 103-104.	Aphelenchoides liliumと同定. 計測値を他の個体群・近似種と比較.
162	横尾多美男・大串和夫	1967	イネネモグリセンチュウの防除効果について2、3の知見.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	13: 104-106.	D-D、DBCP、ネマモール剤処理の効果をイネネモグリセンチュウを含む多種の線虫と比較.
163	横尾多美男・大串和夫・寺町国	1967	除草剤の水田線虫相に及ぼす影響.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	13: 106-107.	6薬剤を供試.
164	横尾多美男・富尾孝雄	1967	On the experimental studies and field observations on the relationships between the pH of the soils and the population density of the citrus nematode, Tylenchulus semipenetrans.	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	24: 83-91.	ミカンネンセンチュウは酸性土壌で増殖大. カラタチの線虫抵抗性を確認.
165	横山俊祐	1967	茶園の土壌線虫. 特にチャネグサレセンチュウの被害とその症状.	茶	昭42. 5: 4 pp. (ページ不明)	種類と分布状況、茶の生育樹齢、品種などと線虫検出率との関係、ネグサレセンチュウの寄生と茶樹の被害.
166	横山俊祐・山本敏夫・近藤鶴彦	1967	三重県の茶樹地帯における植物寄生性線虫の分布とその被害. 特にチャネグサレセンチュウPratylenchus loosi Loofについて.	三重農試研報(三重県農業試験場研究報告)	2: 47-58. 3 pls.	茶園の線虫相とその検出状況、生育・樹齢・品種とネグサレセンチュウ検出率、茶樹の被害(地上部、地下部)、症状と線虫密度、DBCP剤処理の効果. 植物防疫 21(2) 525-526に抄録.
167	吉田桂輔・吉村大三郎・横山俊	1967	各種薬剤の苗代施用による福心枯線虫病防除効果.	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	13: 2-5.	10薬剤を供試. ダイアジンンが有効.
168	吉田孝二・橋本康・西山康浩	1967	農業の魚毒性表示について.	植物防疫	21(3) 109-111.	殺線虫剤(D-D、EDB、DBCP剤他)を含む. No. 71-89に改定版.
169	吉田光男	1967	苗畑土壌線虫防除試験.	栃木林業報(栃木県林業センター業務報)	3: 60-64.	スギのネグサレ、ユミハリ、ラセンセンチュウにD-D、EDB、5121粒剤.

170	吉田 猛	1967	イチジク・ブドウ・ナシの線虫防除.	植物防疫	21(10) 422-425.	線虫相、被害、防除.
171	吉田 猛	1967	落花生の土壤センチュウ防除法.	今日の農業	11巻7: 29-31.	被害と土壤環境. D-D, EDB, DBCP剤施用の効果.
172	吉田 猛・鈴木哲朗	1967	イネモグリセンチュウに対するカヤエース(DSP剤)の防除効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 139.	本田施用でかなりの効果.
173	吉田 猛・宇田川理・三井 康	1967	落花生のキタネコブセンチュウ被害と土壤固相率との関係.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 143.	固相率が高い程線虫被害が少ない傾向.
174	渡原敏夫・気賀沢和男	1967	土壌水分の相違とダイズシストセンチュウの寄生.	応動昆虫学会大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 40.	講演
175	吉井憲良・岡 高明・佐々木●郎・鈴木久弥(●は、こもへんにXX)	1967	茶園土壌の深耕と線虫防除について(茶園土壌の特異性とその肥培管理 II).	京都農試研報(京都府農業試験場研究報告)	2: 30-34.	踏写. チャネグサレ、ピンセンチュウについて.
176	吉野正義	1967	薬剤によるイネシシガレセンチュウの防除.	今日の農業	11巻5: 33-35.	サッセン、ダイズシスト、カヤエースの土壌施用、カヤエースの種子粉衣.
177	吉野正義・広瀬清信	1967	イネシシガレセンチュウの薬剤防除:カヤエース粉剤の使用法について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	14: 137.	10%粉剤の種子粉衣および苗代土壌施用が良い結果.
178	湯原 巖	1967	北海道における牧草線虫.	北農	34巻1: 41-52.	検出線虫、キタネコブ、キタネグサレ、クローバシスト、ピン、クキセンチュウの形態、発生、被害、防除の問題点.
179	湯原 巖	1967	てん菜野生種のキタネコブセンチュウに対する抵抗力について.	てん研報(てんさい研究所報告)	補9-169-172.	発表年は1968年の誤.
180	湯原 巖	1967	キタネコブセンチュウ寄生に対するテンサイ野生種の抵抗力.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会年報)	18: 123.	No. 67-179を参照.
181	湯原 巖	1967	キタネコブセンチュウ寄生に対するてん菜野生種の抵抗力.	応動昆虫学会大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭42: 38-39.	講演
182	Anon.	1967	土壌中の動物の数.	Edaphologia	1: 25-28.	踏写. 線虫を含む動物群別の1・当たりの生息個体数、現存量等の比較.
183	Anon.(東北農試栽培第2部作物第3研)	1967	大豆新品種「ネマシラス」育成報告:附. 選抜育成の基本材料に用いた大豆在来種「ゲデンシラス」について.	東北農試研報(東北農業試験場研究報告)	35: 43-84.	ダイズシストセンチュウ強度抵抗性品種. 育成過程と特性.
184	Anon.(農林省農薬検査所化学課)	1967	農薬の機械分析法(2).	植物防疫	21(3) 103.	D-D, EDB, DBCP剤の分析法を含む.
0		1968	昭和43年(1968)			
1	安部 浩・門脇義行	1968	線虫調査用土壌の貯蔵温度が線虫検出量に及ぼす影響.	応動昆虫中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支会会報)	10: 29-30.	ジャワネコブ、ミカンネ、ピンセンチュウを26°C、4°Cで貯蔵. ベルマン法による検出数は前2種では変動大.
2	天野 隆・上林隆・尾崎典光	1968	ネグサレセンチュウ分離法に関する研究.	愛知農試報(愛知県農業試験場年報)	23: 77-88.	遠心浮遊法、ベルマン法、ミキサー法の比較.
3	青柳恒夫・田坂耕一郎	1968	トマトの耐虫性品種について.	東京農試特報(東京農業試験場特別報告)	24: 9-17.	踏写. 新系統Black leaf(仮称)の検定結果. サツマイモネコブセンチュウ、ジャワネコブセンチュウに抵抗性.
4	浅川 勝	1968	農薬の新しい解説[13] II. 土壌用殺虫剤(3).	農及園(農業および園芸)	43(1) 99-102.	臭化メチル、カーバム(ペーバム、NCS)、EDB(ネマヒューム、ネマトロン)、CDBE(CDB)、DBCP(ネマゴン、ネマナックス、ネマセット)、D-D、DCIP(ネマモル)、FREE(サッセン)の解説.
5	千葉 修	1968	林業苗畑における土壌線虫の実態:連絡試験により実態調査の結果から.	森林防疫ニュース	17(2) 26-36.	12道県のマツ、スギ、ヒノキ苗畑の調査結果. 検出線虫および頻度、密度を地域、樹種、線虫毎にまとめる.
6	千葉 修	1968	四月初の苗畑の病害虫防除.	今日の農業	12巻4: 68-69.	線虫に対するクロルピクリン、D-D, EDB, DBCP, NCS剤の施用を含む.
7	近岡一郎	1968	大根におけるキタネコブセンチュウの防除と薬剤施用法.	今日の農業	12巻1: 68-70.	症状、寄生範囲、D-D, EDB, NCS, クロルピクリン剤の効果.
8	近岡一郎・浅見宏・竹沢秀夫	1968	ダイコンのキタネグサレセンチュウについて第4報 殺線虫剤の無耕起処理効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	15: 124.	D-D剤. 耕起後の処理より高い効果.
9	近岡一郎・水沢芳名	1968	ダイコンのキタネグサレセンチュウについて第5報 センチュウ密度と被害.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	15: 125.	両者に正の相関. ベルマン法で線虫が検出皆無でも若干の被害発生.
10	近岡一郎・竹沢秀夫	1968	ネコブセンチュウの防除に関する研究.	神奈川農試研報(神奈川県農業試験場研究報告)	106: 36-45.	D-D, EDB, DBCP剤. 殺線虫剤の効果と土壌温度、冬期施用効果、殺卵と土壌温度、現地試験(ニンジン、ヤマトイモ、キュウリ、ホウレンソウ).
11	Cutler, H. G. & Krusberg, L. G.	1968	Plant growth regulators in Ditylenchus dipsaci, Ditylenchus trifurcatus and host tissues.	Pl. Cell Physiol. (Plant and Cell Physiology)	9(3) 479-497.	2種線虫からのクロロフォルム・メタノール抽出物のIAA OCH ₃ 活性物質について. 無菌培養のTurbarix acetiiから検出されず. 線虫培養用の菌からは検出.
12	Dutky, S. R.	1968	An appraisal of the DD-136 nematode for the control of insect populations and some biochemical aspects of its host-parasite relationships.	Proc. Joint U.S.-Jap. Semin. Micr. Contr. Ins., Tokyo	pp. 139-140.	未見
13	家入 章	1968	ネグサレセンチュウを分離する場合の遠心浮遊法の利用について.	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	14: 76-78.	分離操作の比較.
14	江村一雄・上田勇五	1968	殺線虫剤の水田処理が水稻とイネモグリセンチュウにあたる影響.	新潟農試研報(新潟県農業試験場研究報告)	18: 7-18.	D-D, EDB, DBCP剤. 殺線虫剤の効果範囲、水稻の生育、収量、線虫の発生消長への影響等. 殺線虫剤の副次的作用が線虫害より大と推定. 植物防疫 22(9) 408, 1968に抄録.
15	藤本 清・神納浄・宇都敏夫・山口福男・松尾綾	1968	兵庫県における土壌病害虫防除の実態.	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	15: 95-100.	対象作物、薬剤の種類・効果・使用方法、経費と労力、農家の所見をまとめる.
16	藤村 良・浜田国彦	1968	土壌蒸気消毒の生育障害に関する研究 第1報 肥料および消毒温度の影響.	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	15: 101-106.	線虫記述なし. 消毒土壌のキンギョソウの若い展開葉にクロロシス発生. 有機質窒素多用の高温処理区ではアンモニア態窒素の集積とpHの上昇. 2報:同誌 16: 117-122, 1968; 3報:同誌 18:159-165, 1971.
17	福井重郎	1968	Soy-bean breeding in Japan.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	3巻3: 5-9.	ダイズシスト、サツマイモネコブセンチュウ抵抗性品種に言及.
18	布施 寛・佐藤政太郎	1968	山形県下におけるウケカンセンチュウの寄生.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	12(2) 97-99.	トビイロ、セジロウカに寄生を確認.
19	後藤 昭	1968	沖繩の主要作物の植物寄生性線虫.	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	14: 78-82.	サトウキビ、カンショ、そさい類、パイナップル、バナナ、イネ等からの検出線虫.
20	後藤 昭	1968	沖繩の土壌線虫.	熱研集報(熱帯農業研究集報)	7: 8-10.	作物別に検出線虫を挙げる.
21	後藤 昭	1968	琉球列島における植物寄生性線虫3属の種類、分布.	応動昆虫学会大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 38.	講演
22	後藤 昭・大島康臣	1968	The root-lesion nematodes, Pratylenchus spp. and their geographical distribution in Japan (Nematoda: Tylenchida).	Rev. Plant Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	1: 118-121.	No. 63-14の英文抄訳.
23	後藤寛治・砂田喜与志	1968	ダイズシスト線虫に対する抵抗性の導入に関する研究. In: 大豆の育種(福井重郎編)	ラティス社、東京	p. 38-66.	黒炭三本木系・下田不知系の抵抗性の導入
24	浜島直巳	1968	高冷地そ菜の栽培[12].	農及園(農業および園芸)	43(12) 1917-1919.	レタスの線虫被害にふれる.
25	橋本平一	1968	林業苗畑における殺線虫剤の効果について(II).	日林誌(日本林学会誌)	50(9) 288-291.	D-D, EDB, DCIP, TS-10 剤. ネグサレ、イシクセンチュウに施用
26	八田茂嘉	1968	線虫の被害.	和歌山の果樹	19巻4:42.	被害、線虫の種類、薬剤防除
27	早坂義雄・太田庄平・伊藤 巖・角田 貞・舟嶋宏・沼崎啓司	1968	苗畑における寄生線虫類の薬剤防除試験(第1報) スギ播種床における殺線虫剤施用の効果.	森林防疫ニュース	17(5) 98-103.	D-D, EDB, DBCP剤の効果と苗の伸長.
28	引地直至	1968	モモに寄生するネコブセンチュウの生態と防除に関する研究.	福島農試研報(福島県園芸試験場研究報告)	11: 63-73.	ネグサレ、ピンセンチュウも含む. 佐橋5号の寄生程度が顕著に低い. DBCP剤処理は春季が適当.
29	引地直至	1968	モモの線虫とその防除法.	農及園(農業および園芸)	43(10) 1565-1568.	検出線虫、忌地と線虫の関係、土壌中での線虫の分布、防除法(DBCP剤).
30	日岡登治	1968	ニセネグサレセンチュウによるサツマイモの被害とその防除.	今日の農業	12巻8: 72-75.	症状、品種の耐虫性、クロルピクリン、D-D, EDB+DCIP、グラント乳剤による防除.
31	日岡登治・田中徳己	1968	サツマイモのニセネグサレセンチュウとその防除について.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	10: 120-121.	講演. Fusarium直との混合感染. 抵抗性品種・薬剤防除. 土壌pH調整の効果なし.
32	平野和弥・河村貞之助	1968	ネコブセンチュウと萎ちょう病菌とによるトマト複合病の感染と発病.	日植研報(日本植物病理学会報)	34(3) 169-170.	講演
33	広瀬和栄	1968	ミカンの改植と連作障害.	今日の農業	12巻10: 45-47.	ミカンネセンチュウ接種試験. 線虫寄生と肥料吸収、防除法(D-D, DBCP, クロルピクリン)

34	堀江典昭・永沢実・松本安生・三枝敏郎	1968	八丈島におけるミカンネモグリセンチュウの分布と寄生植物。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 38-39.	講要
35	星野三男・尾田啓一・谷中清八・滝田泰章・熊沢	1968	イネシストセンチュウの陸稲に対する被害と防除に関する研究。	栃木農試研報(栃木県農業試験場研究報告)	12: 127-140.	線虫の形態の概要、被害(生育、症状、収量)、土壤中の垂直分布、防除法(輪作、殺線虫剤: D-D、EDB剤)。
36	一戸 稔	1968	Present status of research on the rice-infesting nematodes in Japan.	Rev. Plant Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	1: 26-38.	イネシストセンチュウの防除、イネシストセンチュウの被害、イネネモグリセンチュウの生態等。薬剤(D-D、EDB、DBCP、クロロピクリン、ペーパム剤)の水田施用効果。
37	一戸 稔	1968	Nematode species and their damage to perennial plant in Japan.	Internatl. Symp. Nematol. (8th). Antibes, Sept. 8-14.	72-73.	講要。日本の永年作物の線虫相。
38	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[1] 連作とセンチュウ。	今日の農業	12巻3: 89-93.	畑作物、果樹の忌地等。
39	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[2] センチュウの形態・分類同定	今日の農業	12巻4: 89-93.	形態の簡単な解説。
40	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[3] センチュウの検診(診断)	今日の農業	12巻5: 91-93.	病徴、検診法。
41	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[4] ヘテロデラ科センチュウ	今日の農業	12巻6: 89-93.	種類、生理生態。
42	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[5] ネグサレセンチュウとネモグリセンチュウ	今日の農業	12巻7: 87-91.	生理生態、被害、防除。
43	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[6] チレンクス目の外部寄生センチュウ	今日の農業	12巻8: 94-98.	ラセン、イシユク、ワ、ミカンネ、ニセフクロ センチュウの解説
44	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[7] ドリライム目センチュウ	今日の農業	12巻9: 88-92.	オオガタハリ、ナガハリ、ユミハリセンチュウの解説。
45	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[8] 葉・莖の寄生センチュウ	今日の農業	12巻10: 79-84.	ハセンチュウ属、クキ、コムギツブ、イチゴメセンチュウの解説。
46	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[9] 関連病害。	今日の農業	12巻11: 85-90.	線虫と糸状菌病、細菌病、ウイルス病との関係。
47	一戸 稔	1968	土壤センチュウ[10] センチュウの天敵	今日の農業	12巻12: 70-75.	捕食菌、捕食性線虫、天敵微生物、捕獲作物、対抗植物、抵抗性品種の解説。
48	井幡清生・松枝	1968	苗畑土壤線虫防除試験	静岡柑橘試報(静岡県カンキツ試験場報告)	5: 106-108.	騰写、スギにD-D剤施用。おが屑堆肥施用の有無と効果の関係。
49	飯村 武	1968	林業苗畑における土壤線虫実態調査。	神奈川県指導報(神奈川県林業指導所報告)	17: 28-32.	スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツのネグサレ、ラセン、イシユク、ユミハリセンチュウの密度、検出頻度、苗木の成長との関係。土壤中垂直分布。
50	池田 豊・荒武義信	1968	桑園における採取土壤の管理と土壤線虫密度の推移について。	日蚕九州講要(日本蚕糸学会九州支部研究発表会講演要旨)	昭43: 9-10.	講要
51	池田 豊・荒武義信	1968	桑園における土壤線虫の垂直、水平分布とその季節的消長。	日蚕九州講要(日本蚕糸学会九州支部研究発表会講演要旨)	昭43: 9.	講要
52	池永和夫・樋口泰三	1968	土壤線虫分離についての試案(1)。	九病虫研会報(九州病畜虫研究会報)	14: 74-76.	遠心分離法、ベルマン法の線虫の種類別の適性。後者の温度と分離虫数の関係
53	稲垣春郎	1968	ネグサレセンチュウの無菌培養。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 39.	講要
54	稲垣春郎	1968	北海道における露地イチゴの退化現象。	日植病報(日本植物病理学会報)	34(5) 365.	講要
55	稲垣春郎・Powell, N. T.	1968	タバコ疫病におけるネグサレセンチュウの関連。	日植病報(日本植物病理学会報)	34(3) 170.	講要。No. 69-31を参照。
56	稲生 稔	1968	ネコブセンチュウ寄生とキュウリつる割病発病との関係。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 41.	講要
57	稲生 稔	1968	イネ心枯線虫病の水媒感染について 第2報 移植後の線虫寄生と発病	関東東山病虫研報(関東東山病畜虫研究会年報)	15: 118.	本田移植後でも健全株に移行。
58	井上悦甫	1968	林業苗畑におけるセンチュウとその防除。	今日の農業	12巻7: 74-76.	主にスギのネグサレセンチュウの被害とD-D、EDB、DBCP、DCIP、5121、クロロピクリンの効果。
59	入子善助・熊倉善八郎	1968	埼玉県における落花生栽培技術。農業技術	農業技術	23(3)116-119.	連作障害とその対策(輪作、施肥、薬剤処理: D-D、EDB、クロロピクリン)を含む。
60	石橋信義	1968	ヘテロデラ科線虫における環境抵抗性の獲得について II. 雌成虫蛋白の電気泳動パターン。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 43.	講要
61	石川正示	1968	大豆シスト線虫抵抗性品種の育成に関する研究。In: 大豆の育種(福井重郎編)	ラテイス社、東京	p. 1-37.	抵抗性の検定、系統分離法による抵抗性新系統の選抜、品種間交配育種法・放射線育種法による抵抗性品種の育成。
62	石川元一	1968	田畑輪換と線虫。	埼玉農試研報(埼玉県農業試験場研究報告)	28: 97-101.	ネコブ、ネグサレセンチュウを主に調査。
63	石川元一	1968	イネネモグリセンチュウに対する5121粒剤の防除効果。	関東東山病虫研報(関東東山病畜虫研究会年報)	15: 122.	上記種とイネシストセンチュウにも効果。
64	石倉秀次	1968	鎮本先生を偲ぶ。	植物防疫	22(3) 130.	明治23年6月-昭和43年2月21日。応動昆12(1) 48-49、1968に弔辞(杉山章平)及び略歴。
65	伊藤一雄	1968	森林保護試験研究のあゆみ。	森林防疫ニュース	17(11) 256-264.	戦後の林業関係の土壤線虫研究史を含む。
66	伊藤喜隆	1968	リンゴのネコブセンチュウの垂直、水平移動について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 40.	講要
67	伊藤喜隆	1968	果樹(落葉果樹)のセンチュウ類による被害と防除の要否。	今日の農業	12巻6: 36-40.	リンゴ、モモ、ブドウ、ナシ、イチジクの線虫被害。DBC P剤の効果、防除の必要性の有無の考え方。
68	伊藤喜隆	1968	果樹類のネコブセンチュウ。	信州の果実	142: 62.	未見
69	伊藤喜隆・広瀬健吉	1968	リンゴのネコブセンチュウに対するDBCP処理の持続効果。	関東東山病虫研報(関東東山病畜虫研究会年報)	15: 129-130.	根を露出させて灌注すれば5-6年効果持続。
70	城野 晋	1968	水田転換ミカン園におけるミカンセンチュウの分布構造 第1報 樹令と線虫密度の	関西病虫研報(関西病畜虫研究会報)	10: 126.	講要。1-6年までは両者に正の相関、7年以降は一定の傾向なし。
71	K. M. (森川国康)	1968	土壤線虫検索表試案。	Edaphologia	2: 28-33.	科までの検索表。
72	金子 武・一戸 稔	1968	Notes on the nematode species and their bionomics associated with tea roots in Japan.	Rev. Plant Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	1: 122-123.	No.63-73の英文抄訳。
73	河村貞之助・平野和弥	1968	トマト幼苗におけるネコブセンチュウと萎ちよう病菌との複合病に関する研究 III. 発病における感染過程	千葉大園芸学(千葉大学園芸学部学術報告)	16: 23-35.	根の頂端分裂組織から両者とも侵入。
74	河村貞之助・平野和弥	1968	線虫とフザリウム病。	植物防疫	22(10) 421-426.	発病の助長、線虫による傷、混合感染と菌の寄生性等。
75	河瀬憲次	1968	モモのネコブセンチュウとその抵抗性台木。	果実日本	23巻5: 38-40.	野生モモ(岩手、長野、岡山)、オキナワ、ネマガード等は抵抗性。
76	河瀬憲次	1968	モモのセンチュウ対策: 被害の実態と台木の関係。	農耕と園芸	23巻10: 164-166.	線虫の種類と被害、研究の現状、薬剤(DBCP剤)防除、台木の利用例。
77	河瀬憲次・松尾平	1968	モモの台木のネコブセンチュウ抵抗性について。	九州農業研究	30: 179-180.	野生種、米園産台木品種は抵抗性。
78	川島嘉内	1968	イネシストセンチュウによる乾田直播稲の被害と防除に関する調査。	福島農試研報(福島県農業試験場研究報告)	4: 17-31.	県内分布、被害の徴候、被害解析(水稲の生育温度、鎮圧処理、土壤水分、灌水量と被害の関係)。水稲と陸稲における被害発現の差異、防除法(D-Dと石灰窒素施用又は鎮圧処理との組み合わせ)、線虫寄生、収量、茎葉分析結果
79	川島嘉内	1968	イネネモグリセンチュウに関する研究 IX. 卵期間ならびには増える発生消長について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 40.	講要
80	川島嘉内・武田敏昭	1968	イネシストセンチュウによる水稲の被害に関する研究 第3報 幼苗期の被害について。	北日本病虫研報(北日本病畜虫研究会報)	19: 92.	茎葉分析結果。
81	氣賀沢和男	1968	線虫の混合寄生によるアズキの被害。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 42.	講要
82	氣賀沢和男	1968	豆類の病害虫と防除(豆作限界地域の生産・流通構造) In: 北海道豆類生産事情(下)。	日本豆類基金協会、東京	p. 90-116.	検出された線虫はダイスシスト、キタネコブ、キタネグサレ、ピンセンチュウ。
83	木下常夫・田中敏夫	1968	わが国の農業残留事情について。	植物防疫	22(4) 141-145.	EDB剤を含む。
84	北沢右三	1968	志賀高原亜帯針葉樹林生態系の土壤線虫(メミズ、双・目幼虫)の予備調査。In: 陸上動物個体群集の2次生産力測定法(北沢右三編)。	昭和42年度研究報告(JIBP-PT-S)	p. 162-169.	未見

85	小林義明	1968	キタネグサレセンチュウ(Pratylenchus penetrans Cobb)によるキクの被害について	静岡農試研報(静岡県農業試験場研究報告)	13: 114-123.	症状、接種密度と被害との関係、2作目以降品質面で慢性的被害。
86	小林義明・深沢永光・藤江秀行	1968	イネシナガレセンチュウに対する薬剤の種子粉衣および土壌施用による防除効果	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	15: 120-121.	カヤエース、ダイシストン種子粉衣の陸苗代にスタムを散布すると薬害
87	小林義明・深沢永光・庄司和夫・船越桂市	1968	夏グキにおけるハガレセンチュウの寄生様式について	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 39.	講演
88	小泊重洋・向笠芳郎	1968	茶園における殺線虫剤の効果ならびに処理方法について	静岡農試研報 z(静岡県茶業試験場研究報告)	2: 23-25.	謄写。クロルピクリン、DBCP剤。
89	駒井功一郎	1968	DBCPの分解と作物の耐性(予報)	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会中国支部会報)	10: 1-3.	地下部搾汁液中でのDBCP分解が弱い作物(ホウレンソウ、ハウサイ、タマネギ、ジャガイモ)は薬害を受けやすい
90	小室康雄	1968	土壌センチュウで媒介されるウイルス病	今日の農業	12巻1: 60-63.	ウイルスの種類・諸性質、媒介の仕方。
91	小室康雄・吉野正義・一戸 稔	1968	アスター黄色輪紋病株からのTobacco rattle virus の分離とその病圃土壌からのTrichoderma minor の検出	日植病報(日本植物病理学会報)	34(3) 201-202.	講演
92	小菅喜久弥	1968	切花用トリカブトのネグサレセンチュウの被害について	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	15: 127-128.	キタネグサレセンチュウ。症状、種いも消毒(5121剤、スミチオン、サッセン、カヤエースが効果)
93	国井喜章	1968	低温時に使用できる新しい殺センチュウ剤	今日の農業	12巻11: 58-60.	D-D、EDB、EDB+EDC剤
94	国井喜章・石橋信義・土橋貞夫	1968	ヘテロデラ科線虫における環境抵抗性の獲得について I. 作付ならびに肥培管理とEDBのネコブセンチュウ防除効果	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 42-43.	講演
95	桑原雅彦・西沢務	1968	イネネモグリセンチュウの侵入による水稲根の組織化学的変化	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 41.	講演
96	牧野 朗・伊沢房雄・西沢 務	1968	連作により生育不良なミカン苗ほにおけるミカンセンチュウの防除効果	愛知農試研報(愛知県園芸試験場研究報告)	7: 23-28.	D-D剤処理効果顕著。
97	真宮靖治	1968	Rotylenchus pini n. sp. (Nematoda: Hoplolaimidae) from forest nurseries in Japan.	Proc. helminth. Soc. Wash. (Proceedings of the Helminthological Society of Washington)	35(1) 38-40.	アカマツ根辺から検出した線虫を新種として記載。現在はParatylenchus piniとされている(Baldwin, J.G. & A. H. Bell, J. Nematol. 13(2) 111-128, 1981)
98	真宮靖治	1968	土壌から線虫を検出するための一方法:遠心分離法について	森林防疫ニュース	17(5) 89-91.	特徴および手順を詳しく解説。
99	増田道雄・秋野浩二	1968	ヤマトイモのネコブセンチュウに対する種いも薬液浸漬の効果	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	15: 127.	サッセン40%乳剤 500倍液30分浸漬で防除効果。
100	増田康哉	1968	桑の幼羽病防除について(第2報)白紋羽病発生跡地におけるD-D剤の防除効果	日蚕九州講要(日本蚕糸学会九州支部研究発表会講演要旨)	昭43: 10.	講演
101	松原芳久・三枝敏郎	1968	植物寄生線虫の寄主一覽	横浜植物防疫所、横浜	409pp.	謄写。Goodey, J.B. 6 M.T. Franklin (1965) T. Goodey's The Nematode Parasites of Plants Catalogued under their Hosts. 3rd ed., CAB, Bucksの日本語訳。
102	松田正治	1968	苗畑における線虫の効果について	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	18: 186-189.	講演。スギ、ヒノキのネグサレ、イシクセンチュウにD-D、DBCP、DCIP、5121剤施用。
103	松井弘之	1968	ネコブセンチュウの卵塊接種によるホーセンカの茎のゴール形成について	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 41.	講演
104	松本重男・沢畑秀・財津一郎	1968	ネコブセンチュウに強い大豆品種	九州農試年報(九州農業試験場年報)	昭41: 34-37.	約1,800品種・系統の中から36を選抜
105	松崎征美・吉井孝雄・堀内正也	1968	茶樹に寄生する三種の線虫の分布と季節的消長	高知農林研報(高知県農林技術研究所研究報告)	1: 51-57.	チャネグサレセンチュウ、カナヤサヤワセンチュウ、ピンセンチュウ(P. carvatus)の樹幹を中心とした土壌内分布と深度別の季節的消長。
106	峰尾一彦・竹谷博子	1968	関西地方の林業苗畑から検出されたネグサレセンチュウの種類について	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	18: 185-186.	講演。キタ、ミナミ、クルミネグサレセンチュウを検出。
107	三井 康・岡本好一	1968	線虫捕食菌に対する殺線虫剤の影響	日植病報(日本植物病理学会報)	34(3) 170.	講演
108	森 喜作	1968	水田における土壌消毒の効果	今日の農業	12巻4: 47-49.	クロルピクリン、D-D剤施用とイネネモグリセンチュウへの効果、窒素施肥の改善。
109	森 武雄・池上春・小畑琢志・三枝敏郎・樋谷昭	1968	数種植物病原・植物寄生線虫および貯蔵害虫に及ぼす各種化合物のくん蒸剤効果 II	植防疫報(植物防疫所調査研究報告)	6: 23-27.	34薬剤を供試。線虫はサツマイモネコブセンチュウを使う。
110	森 武雄・小畑琢志・武田和子	1968	数種植物病原・植物寄生線虫および貯蔵害虫に及ぼす各種化合物のくん蒸剤効果	植防疫報(植物防疫所調査研究報告)	5: 50-60.	80薬剤を供試。線虫はキタネコブセンチュウ、Anguina agrostis、Rhabditis sp.を使う。
111	森川 修	1968	Toxic properties of nematocides to American cockroach	Rev. Plant Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	1: 124-126.	No. 64-116, 117, 118の英文抄訳。
112	森川 修	1968	The activity of ribosephosphatase dehydrogenase in a free living nematode, Panagrellus redivivus Goodey and its inhibition by EDB	Rev. Plant Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	1: 126-127.	No.65-97の英文抄訳。
113	森岡寛治・上住 泰	1968	奈良県におけるイネシナガレセンチュウの分布とその被害発現条件に関する一考察	奈良農試研報(奈良県農業試験場研究報告)	2: 45-50.	山間部より平坦部に多い。催芽処理の有無・定植直後の水温が被害発現に影響。
114	村井敏信	1968	殺線虫剤の土壌中における拡散性	植物防疫	22(8) 361-365.	数学的研究、薬剤の物理性および環境因子と防除効果、土壌中における薬剤の分布(D-D、EDB剤)。
115	中西 勇・尾崎典光・上林 讓	1968	イネシナガレセンチュウ防除に関する2、3の知見	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	10: 117-118.	講演。種初浸漬、苗代、出穂期の防除用薬剤。
116	中里肇二	1968	コニヤクを加害する線虫類の生態と防除	農及園(農業および園芸)	43(2) 406-407.	実用農業問答
117	中里肇二・五味美知男・田中米	1968	イネネコブセンチュウ防除に関する研究 第9報有機機製剤とDCCA乳剤の接近散布の薬	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	15: 119.	スミチオン、バイジットは問題ないが、カヤエースは薬害。
118	新島漢子・田中雅生・青木淳一・菊沢喜八郎・今立源太郎・田村	1968	Hand sorting との比較による Tullgren funnel の抽出率の検討	Edaphologia	2: 22-27.	各人のHand sortingの結果と、Tullgren funnel の抽出数の比較検討。線虫を含む
119	西村正晴・林 真二・千代西尾伊彦・奥田純一郎	1968	ナガイモ栽培における皮面黒変現象とその一成因	日植病報(日本植物病理学会報)	34(5) 282.	講演
120	西山成俊・福永良一	1968	殺線虫剤の土壌処理が水稲の生育及び収量におよぼす影響について(第2報)	福岡農試研報(福岡県農業試験場研究報告)	6: 5-7.	D-D、DBCP剤施用、D-D剤処理によって土壌中のアンモニア態窒素が増加。
121	西沢 務	1968	カルス上での線虫増殖に及ぼす生長物質拮抗剤およびEDTA的作用	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 39.	講演
122	西沢 務・弥富喜三・石上孔一	1968	キタネグサレセンチュウによるフキの被害とその治療的防除について	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	10: 20.	講演。線虫の計測値、防除:UC-211 49の10%粒剤 5-20kg/10 aが有効。
123	岡田利承	1968	ダイズノコセンチュウの寄生時期と大豆の生育	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	93: 32-38.	大豆の播種期に2令幼虫の侵入適期がある。この時期の線虫の密度が被害の大小に関係。
124	岡田利承	1968	ダイズノコセンチュウの寄生とダイズ根・菌の着生に関する報告	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 41-42.	講演
125	岡山 勇・内田 輝・岸 春雄・相原次男・長谷川和男・近岡一郎	1968	ダイズによるキタネグサレセンチュウの植物検診	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	15: 123.	大豆を播種30日後に抜き取り、病斑を調査。
126	大羽克明・西沢 務	1968	線虫捕食菌に対する数種殺線虫剤の影響	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 43.	講演
127	大瀬木清・森田 泰作	1968	桑の土壌線虫に関する試験	福島農試研報(福島県農業試験場報告)	16: 14-28.	ネコブセンチュウ。D-D、DBCP剤による苗の消毒、施肥量と被害。
128	大津貞夫	1968	土壌線虫防除試験	茨城林業報(茨城県林業試験場業務報告)	42: 59-66.	謄写。クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤、5121剤、IK-141、TS-10のキタネグサレセンチュウへの効果、苗の生育
129	三枝敏郎	1968	ポタンに寄生するイチゴセンチュウ Aphelenchoides fragariae の生態と温湯防除の試み	植防疫報(植物防疫所調査研究報告)	5: 17-30.	ポタン生産地における春季の線虫検出調査、掘取り時、輸出検査時の苗木の病徴と線虫検出調査、線虫密度の季節的消長、芽における線虫分布、線虫寄生株の外見による診断、温湯による苗木の線虫防除試験。植物防疫 22(9) 408, 1968 に抄録。
130	三枝敏郎	1968	ポタンに寄生するイチゴセンチュウの生態と防除に関する知見	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 39.	講演
131	三枝敏郎	1968	小笠原諸島の病害虫発生調査 II. 有害線虫	植物防疫	22(10) 449-450.	検出線虫を概説。

132	三枝敬郎	1968	輸入禁止植物の対象病害虫解説 10. ジャガイモセンチュウ	横浜植防疫ニュース(横浜植防疫ニュース)	340: 2-3.	形態、分布等。
133	三枝敬郎	1968	輸入禁止植物の対象病害虫解説 11. ミカンネモグリセンチュウ	横浜植防疫ニュース(横浜植防疫ニュース)	341: 2-6.	形態、分布等。
134	三枝敬郎	1968	輸入禁止植物の対象病害虫解説 15. イネの病害虫類	横浜植防疫ニュース(横浜植防疫ニュース)	345: 2-4.	Ditylenchus angustusを含む。
135	三枝敬郎・松本安生・堀江典昭・永沢 実	1968	八丈島におけるミカンネモグリセンチュウ Radopholus similis (Cobb) Thorneの分布と寄主植物	植防疫報(植物防疫所調査研究報告)	6: 41-42.	10種の植物から検出。
136	齊藤 正・山本 肇	1968	臭化メチルくん蒸剤によるビニールハウスの全面くん蒸	植物防疫	22(2) 63-66.	取り扱い方法、適用範囲(主に菌類)、実施上の注意。
137	桜井 清	1968	ダイズシストセンチュウの生態と防除。	農及園(農業および園芸)	43(3) 519-523.	生態(寄主植物、被害、生活史、幼虫の発育と温度、卵の孵化と幼虫の出し、シストの土中分布、拡散、生存期間)、防除(輪作、播種作物、抵抗性品種、土壌改良と施肥)、殺線虫剤。
138	桜井 清	1968	線虫害。In: 北海道農業技術史。	農林省北海道農業試験場、札幌	p. 510-515.	大正5年から昭和41年までの研究史。
139	佐々木 壮	1968	土壌水分とクロロピクリンの薬効範囲。	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	14: 88-90.	立枯病菌を中心としたグラム陰性菌の調査。効果範囲は土壌水分含量によって変化。
140	佐々木 壮	1968	線虫と他の病害との関係(3)ネコブセンチュウ罹病根へのタバコ疫病菌遊走子の誘引および発芽	日植病報(日本植物病理学会報)	34(5) 352.	講要
141	佐藤昭美	1968	ダイズシストセンチュウの殺線虫剤感受性について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	0.8576389	キタネコブセンチュウに比べD-D剤に対し強い。
142	佐藤昭美	1968	ダイズシストセンチュウ抵抗性品種の検索に関する1方法。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 42.	講要
143	佐藤一郎	1968	砂丘地のナガイモ栽培。	農及園(農業および園芸)	43(9) 1429-	植付前の線虫防除を含む。
144	佐藤邦彦・庄司次男	1968	国有林苗畑の土壌線虫調査。	林試東北支場年報(林業試験場東北支場年報)	9: 74-75.	ネグサレセンチュウ(スギ、アカマツ、カラマツ)、ユミハリセンチュウ。
145	Sher, S. A.	1968	Revision of the genus Hirschmanniell Luc & goodey, 1963 (Nematoda: Tylenchoidea).	Nematologica	14(2) 243-275.	No.31-4 のTylenchus gracilisを同定の誤りとし、東京駒場産の標本をもとに新種H. imamuriとして記載。H. oryzae (=Tylenchus apapillata Imamura, 1931)の産地の記録の中に東京、鴻巣、琴似をあげる。
146	清水 啓	1968	ネコブセンチュウの雌成虫の雄誘引性。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 40.	講要
147	下川利之	1968	苗畑線虫防除試験。	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	8: 87-96.	ミナミネグサレセンチュウ、殺線虫剤の効果、苗木の生育、苗木の薬液浸漬試験、Fusarium病発病との関係。
148	下川利之	1968	ネグサレ線虫汚染苗木の薬液消毒効果について。	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演要旨)	18: 189-190.	講要。MZ剤が高い効果。
149	下川利之	1968	ヒノキ葉から検出されるAphelenchoides属線虫	森林防疫ニュース	17(10) 219-220.	形態、寄生性等。
150	白井 正	1968	八丈島におけるミカンネモグリセンチュウの緊急防除事業概況	植物防疫	22(9) 399-402.	発見から撲滅までの経緯。
151	白井 正(編)	1968	八丈島におけるミカンネモグリセンチュウの緊急防除事業実績報告	農林省横浜植防疫所・東京都	4+111 pp., 5 pls., 1 map.	併写。昭和41年10月の発見から昭和42年12月の撲滅までの経緯をまとめる。
152	蘇 武郎・日高 群	1968	寄主体に侵入したサツマイモネコブセンチュウの性比と卵のうの雄成虫の出現	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 40.	講要
153	末沢一男	1968	瀬戸内におけるてん菜の採種栽培	四国農業の新技術	5: 47-98.	線虫 p.81-82.
154	杉山信太郎・広間勝巳	1968	大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究Ⅰ 抵抗性の品種間差異	育種(育種学雑誌)	18(2) 80-87.	抵抗性の差は栄養成長より、生殖成長に大きく関係することを示唆。根粒の推移も調査。
155	杉山信太郎・広間勝巳	1968	大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究Ⅱ 抵抗性の遺伝について	育種(育種学雑誌)	18(別1) 151-152.	講要
156	杉山信太郎・広間勝巳・宮原万芳・国分喜治郎	1968	大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究Ⅱ 線虫系統の地域差について	育種(育種学雑誌)	18(4) 206-212.	異なるレースである刈和野と桔梗ヶ原個体群による大豆の被害の比較。
157	砂田喜与志・酒井真次	1968	ダイズシストセンチュウ強度抵抗性因子導入について: 特に十系421号、十系422号について。	日育北報(日本育種学会北海道談話会報)	9: 15-16.	未見
158	高橋芳雄	1968	落花生の連作障害とその対策。	農業技術	23(2) 55-60.	作付体系との関係、他の病害との関係、収量の推移、体内成分の変化、根・数、開花数、土壌・根の線虫密度の変化、主要因の解析、回避技術(深耕、早播、堆肥、輪作、薬剤施用: EDB剤等)。
159	高木信一	1968	昭和42年度に試験された害虫防除薬剤: 委託試験成績から。	植物防疫	10(2) 51-53.	ネグサレセンチュウ: 5121粒剤10、NCS、ネコブセンチュウ類: NCS、1179水溶性・粉剤、ネマホルン。
160	高倉重義	1968	キタネコブセンチュウの防除に関する研究第11報 アカクローバーの播種期と線虫密度	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 99.	播種期を遅らせるると線虫密度は低下
161	高倉重義	1968	キタネコブセンチュウの防除に関する研究第12報 殺線虫剤秋処理による主要作物	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 100.	EDB剤はハッカに薬害。
162	田村市太郎	1968	作物や虫に生育変動をあたえる無生物のおよび生物的添加物。	農及園(農業および園芸)	43(8) 1215-1518.	殺線虫剤による野沢菜、水稲の増収例。「センチュウの死体やその生息残留物はイネの生育を変える」例を含む。
163	田中 勇	1968	ネコブセンチュウの温度別水浸処理と寄生性の存続。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 40-41.	講要
164	田中 勇・山口洋一	1968	被覆栽培と土壌病害の発生について。	葉たばこ研究	48: 75-81.	ネコブセンチュウに対する影響を含む。
165	谷川 渡	1968	土壌消毒が土壌および作物生育に及ぼす影響。九州農業研究	九州農業研究	30: 156-158.	クロロピクリン、D-D、EDB剤処理によって土壌中の無機態窒素が増加。微生物の作用。
166	照屋林宏	1968	植物寄生性線虫の防除に関する研究(第1報)第三紀泥灰岩土壌におけるネコブセンチュウの防除効果について。	琉球農試研報(琉球農業試験場研究報告)	2: 71-74.	D-D、DBCP剤の薬量を検討。
167	照屋林宏・屋部 澄孝	1968	清浄な菜栽培地におけるネコブセンチュウの発生と被害の実態。	沖縄農業	7巻2: 28-30.	沖縄本島の25.8haで70.2%に発生、要防除は27.8%
168	樋田幸夫・原島典雄・菊池 実	1968	薬剤による桑線虫の防除。	蚕糸研究	68: 106-115.	DBCP、5121粒剤のポット及び圃場試験。
169	雷田 勲・田辺仁志	1968	桑園土壌線虫の季節的消長と分布。	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東海支部東海地区蚕糸研究連絡会研究発表会講演要旨)	16: 2.	講要
170	鳥居西蔵	1968	昆虫寄生線虫DD136の感染、増殖、保存について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 43.	講要
171	堤 正明	1968	牧草根磨砕汁液によるダイズシストセンチュウふ化阻害作用。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 94.	アカクローバー、シロクローバーの根に孵化阻害(殺卵)物質。
172	堤 正明	1968	ダイズシストセンチュウの非寄主作物根磨砕汁液によるふ化抑制現象。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 42.	講要
173	上垣隆夫・袁島龍久・佐々木亨・菅原敏夫・内藤 祐	1968	昭和43年の病害虫の発生と防除。	植物防疫	22(12) 509-516.	八丈島・愛知県でのミカンネモグリセンチュウ発生を含む。
174	上原 等・嶋崎芳久	1968	イネ枯線虫の薬剤による省力防除法。	香川農試研報(香川県農業試験場研究報告)	19: 24-31.	殺虫剤の種子粉衣、苗代散布。
175	和知文雄	1968	土壌線虫防除上の緑肥栽培に関する2、3の考察(Ⅱ)。	林業技術研究集録(前橋養林局)経営部門	1968: 309-313.	マリーゴールド、クワタラリア・スペクタリス栽培のネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウに対する効果。
176	鷲尾貞夫・豊川 衛祐	1968	リンゴ園における線虫被害について 3. ネグサレセンチュウの寄生量と根の症状。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 103.	線虫被害の進展とそれによる根系のタイプの変化。
177	渡辺文吉郎	1968	陸稲連作障害と土壌病害虫対策について。	今月の農業	12巻4: 34-35.	症状、対策(PCP、テラクロール、チウラム、ボマゾースホルテ、D-D、EDB、DBCP、クロロピクリン剤の施用効果)。
178	八重樫隆志・小宮書之助	1968	オーチャードグラスおよびシバの根辺土壌から検出されるワセンチュウ属(Oriconemoides)の1種について。	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	23: 73-78.	計測値及び図。No.77-175も参照。
179	矢口宣夫・川島 嘉内	1968	ユミハリセンチュウによるナガイモの被害について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 102.	線虫接種により全株に被害。D-D剤の防除効果が高い。

180	山田英一	1968	キタネグサレセンチュウによる作物の被害(予備調査)	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 96.	ゴボウ、ダイズ、ジャガイモ、ニンジン、テンサイの被害
181	山田英一	1968	キタネグサレセンチュウの根からの分離法の検討	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 97.	加温・出法、ミキサー法の比較
182	山田英一	1968	ムギネグサレセンチュウの寄主植物について	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 98.	28作物のうち、23が寄主、5は非寄主
183	横川登代司	1968	埼玉県における線虫被害の実態と防除試験について	森林防疫ニュース	17(2) 36-41.	スギ、ヒノキ、アカマツ苗畑42点の線虫、病菌との関連、防除
184	横尾多美男	1968	On a new Rhabditis species (Nematoda: Rhabditidae) found in the alimentary organs of snails from Nagasaki.	佐賀大農業(佐賀大学農学叢報)	25: 63-67.	新種R. ninomiyaiを記載。現在Pellioiditis ninomiyai (Yokoo, 1968) Andrassy, 1983とされている(Andrassy, I. A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentia). ORSTOM, Paris, 1983, p. 103)
185	横尾多美男	1968	Nematological studies on the yellow patch of green grass of the golf link. II. On the nemico-fauna in the green grass of International Golf Link of Isahaya, Nagasaki Prefecture, with descriptions on new species of Neotylenchus (Nematoda).	佐賀大農業(佐賀大学農学叢報)	26: 9-19.	ゴルフ場のシバから検出した線虫を同示(属まで同定)。新種Neotylenchus turfusの記載を含む。
186	横尾多美男・崔永然(Choi, Y.E.)	1968	On a new species of shoot gall nematode (Tylenchidae: Anguina) found from the galls on the leaves of Moxa (Artemisia sativa Nakai).	佐賀大農業(佐賀大学農学叢報)	26: 1-7.	韓国のヨモギの葉のゴールから検出した線虫を新種Anguina moxaeとして記載。Nematologica 19: 285-292, 1973に訂正と再記載(Y.E. Choi & P.A.A. Loof).
187	横尾多美男・Okabe.K.	1968	Two new species of genus Rhabditis (Nematoda: Rhabditidae) found in the intermediate host of Schistosoma japonica, Oncomelania hupensis nosophora and Oncomelania hupensis formosana.	佐賀大農業(佐賀大学農学叢報)	25: 69-78.	Rhabditis 属の2新種R. oncomelaniae, R. formosanaを記載。現在、両種はAndrassy (A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentia). ORSTOM, Paris, 1983)により、前者はPellioiditis pellioides (Buetschli, 1873) Andrassy, 1983のシノニムとされ(p.103)、後者はCaenorhabditis formosana (Yokoo et Okabe, 1968) Andrassy, 1983とされている(p. 95).
188	横尾多美男・野田茂行	1968	土壌調整剤(HSC)施用の水田線虫相に及ぼす影響	佐賀大農業(佐賀大学農学叢報)	26: 21-44.	イネネモグリセンチュウ他の調査
189	横山佐太正	1968	ダイアジン粒剤のイネ心結核線虫病とキリウジガガンボに対する使用法とその効果	農業	15巻2: 40-43.	苗床施用で10 a当たり9 kg以上で効果
190	横山佐太正・吉田桂輔・吉村大	1968	粒剤の苗床施用によるイネ心結核線虫病防除法	福岡農試研報(福岡県農業試験場研究報告)	6: 8-11.	11薬剤のうちダイアジン粒剤が高い効果
191	横山俊祐	1968	土壌線虫の生態と防除	三重農試茶業分場	4 pp.	検出・寄生状況、DBCP剤施用方法
192	米安 展	1968	ナスのマルチ栽培	農及園(農業および園芸)	43(7) 1129-	フィルムマルチと線虫の関係にふれる。
193	吉田桂輔・吉村大・横山佐	1968	ダイアジン粒剤の苗床施用によるイネ心結核線虫病防除法	九州農業研究	30: 123-125.	12kg/10aで発病なし。
194	吉田光男	1968	苗畑土壌線虫防除法	栃木林業報(栃木県林業センター業務報)	4: 48-54.	スギのネグサレ、ユミハリ、ラセンセンチュウに対するD-D、EDB、5121粒剤の効果
195	吉田光男	1968	林業苗畑における線虫の薬剤防除	農業研究	14巻3: 74-79.	D-D、EDB剤と主にネグサレセンチュウ
196	吉田 猛	1968	落花生のキタネコブセンチュウ被害と土壌C/N率との関係	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	15: 126.	C/N比高い程、線虫数・寄生指数高い傾向
197	藤原敏夫	1968	土壌水分の相異とダイズシストセンチュウの侵入	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭43: 42.	講要
198	湯原 巖	1968	マメ科作物栽培がダイズシストセンチュウの密度に及ぼす影響	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 93.	ダイズ、アカクローバー、シロクローバー、エンバク
199	湯原 巖	1968	キタネコブセンチュウ寄生に対するアカクローバの品種間差	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	19: 101.	北海道産来種(月寒)はかなり強い抵抗性
200	Anon. (福島農試)	1968	薬用人参における連作障害要因としてのキタネグサレセンチュウの生態並びに防除について	福島農試補防資料(福島県農業試験場植物防疫資料)	16: 16 pp.	略写
201	湯原 巖	1968	てん菜野生種のキタネコブセンチュウに対する抵抗性について	てん研報(てんさい研究所報告)	補9: 169-172.	Beta weviana WB11がかなり強い抵抗性(冊子体で1967年発表としたが(No.67-179)、正しくは1968年)
0		1969	昭和44年(1969)			
1	安部 浩	1969	温湯浸法によるボタンの芽寄生線虫 Aphelenchoides liliun の防除について	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 12.	講要。No. 69-2を参照
2	安部 浩・門脇義行	1969	ボタン芽寄生線虫に関する研究 第1報 Aphelenchoides liliun の温湯中での致死温度並びに温湯処理がボタンの芽葉伸長に及ぼす影響	鳥根病虫研報(鳥根県病害虫研究会年報)	3: 27-30.	46°C60分、48°C20-60分、50°C5-10分等の処理で防除可能
3	阿部定夫	1969	施設園芸における病害虫防除と微気象制御	農及園(農業および園芸)	44(1) 254-258.	土壌消毒(薬剤、蒸気)を含む。
4	荒木浩一・北山登喜男・草水崇・福田幸雄・野口純隆・吉野 実	1969	甘しう裂開の実態とその原因推定に関する試験	鹿児島農試鹿屋支研報(鹿児島県農業試験場鹿屋支場研究報告)	6: 1-132 pls.	線虫が関与
5	嵐 嘉一	1969	暖地におけるてん菜育種事業の回顧(1)	農業技術	24(8) 382-385.	ネマトーダの被害が大きく、栽培は土壌消毒が前提となる。
6	有吉 亮	1969	作物病害虫の防除機械	農及園(農業および園芸)	44(1) 188-194.	土壌消毒機を含む。
7	Bains, R. C., 宮川経邦・Cameron, J. W.・Small, R. H.	1969	Infectivity of two biotypes of the citrus nematode on citrus and on some other hosts.	J. Nematol. (Journal of Nematology)	1(2) 150-159.	カルフォルニアと徳島のミカンセンチュウのミカン類に対する寄生性は異なった。
8	千葉隆雄・柿崎泰彦・横山十三男	1969	桑の根・線虫防除と収量推移について	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東海支部東海地区蚕桑研究連絡会研究発表会講演要旨)	23: 8.	講要
9	近岡一郎・水沢芳名	1969	ダイコンのキタネグサレセンチュウについて第6報 ネコブセンチュウとの薬剤感受性比	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	16: 140.	キタネグサレはネコブセンチュウよりD-D、EDB剤に対し感受性が低い。
10	藤本 清	1969	クリに寄生する土壌線虫の種類とワセンチュウの分離方法についての知見	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	11: 88-89.	講要。7属を記録。ベルマン法のフィルター、遠沈・法の比重液の検討
11	藤本 清・山口福男・古川紀彦	1969	遠沈浮遊法による土壌線虫分離についての知見	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	17: 45-49.	比重液の種類、比重、回転数、回転時間、土性と検出数を検討
12	福留信明・田中 通	1969	サツマイモネコブセンチュウの生活環境に及ぼす土壌温度の影響	Delphax	12: 4.	講要
13	後藤 昭	1969	牧野等本邦未耕地の植物寄生性線虫属	丸病虫研報(九州病虫研究会報)	15: 180-186.	全国50ヵ所 120地点の調査結果
14	後藤 昭	1969	リュウキュウイシユクセンチュウの分布	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 8-9.	講要
15	後藤和夫	1969	土壌消毒の多面的効果	農及園(農業および園芸)	44(1) 171-175.	土壌消毒の方法の類別、消毒効果、増収と土壌微生物についての研究のまとめ
16	後藤三千代	1969	庄内地方におけるイネネモグリセンチュウ Hirschmannella imamura S.A.Sherの生態学的研究	山形農林学会報	26: 43-49.	D記種とH. oryzaeの体長の比較、H. imamuraの生殖原基の発達過程、根への侵入他
17	浜島直巳	1969	高冷地そ菜の栽培[23]	農及園(農業および園芸)	44(12) 1905-	D-D剤によるネコブセンチュウ防除を含む。
18	橋本平一	1969	林業苗畑の土壌線虫被害解析(1)とくにカラマツ稚苗について	日林北海道支講(日本林学会北海道支部講演集)	17: 91-95.	キタネグサレセンチュウ、季節的消長、根への侵入、苗木の成長
19	林 宏	1969	台木用カボチャ(フシホリア)の特性	農及園(農業および園芸)	44(12) 1851-	ネマトーダに比較的強い。
20	引地直至	1969	桃のセンチュウ類とその防除について	今月の農業	13巻2: 56-59.	ネコブ、キタネグサレ、クルミネグサレ、ニセストセンチュウの被害、DBCP施用)
21	日野隆之	1969	ボタン苗土の芽に寄生するハセンチュウの温湯消毒法	農及園(農業および園芸)	44(3) 539-541.	Aphelenchoides fragariaeは25°C30分浸漬後、48°C30分浸漬。施設の概要
22	菱沼 勇	1969	連作障害対策: 植木生産に問題のネマトーダとその被害	農耕と園芸	24巻3: 145-146.	ツツジ、ツゲ、マツ、モミジ、ツバキ等の線虫害とDBCP剤施用
23	一戸 稔	1969	殺線虫剤の薬害	植物防疫	23(10) 415-416.	DBCP剤によるミカン、ブドウの薬害
24	一戸 稔	1969	果樹園のセンチュウ害と防除対策	農及園(農業および園芸)	44(6) 945-949.	果樹と忌地、センチュウの検診(症状等)、防除対策
25	一戸 稔	1969	土壌センチュウ[11]センチュウの耕種的・物理的防除	今月の農業	13巻1: 89-94.	輪作、有機質肥料施用、圃場衛生、温湯処理、土壌の熱処理、休閑、灌水他
26	一戸 稔	1969	土壌センチュウ[12]センチュウの化学的防除	今月の農業	13巻2: 80-86.	主に燻蒸剤の使用法

27	今泉 寛	1969	温室メロンの周年栽培.	農及園(農業および園芸)	44(12) 1841-	灌水(60日、120日)、蒸気(80、100°C)によるネコブセンチュウ防除を含む。
28	稲垣春郎	1969	イチゴの線虫に対する数種浸透性殺虫剤の効果.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	20: 113.	ハガシ、イチゴ、キタネコブセンチュウにメソミル、DEP、エチルチオメチン、5121粒剤。
29	稲垣春郎	1969	ハッカから分離されるピンセンチュウの種名について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 8	講要. <i>Pratylenchus curvatus</i> van den Linde, 1938
30	稲垣春郎・古山三郎・笠野秀雄	1969	ハッカ品種の耐線虫性.	北農		ピンセンチュウ抵抗性.
31	稲垣春郎・Powell, N. T.	1969	Influence of the root-kiln nematode on black shank symptom development in flue-cured tobacco.	Phytopathology	59(10) 1350-1355	<i>Pratylenchus brachyurus</i> と <i>Phytophthora parasitica</i> を同時に、又は時期をずらして接種した場合の病徴の進展を比較。
32	稲生 稔・谷 芳	1969	ゴボウの「ヤケ症状」およびネグサレセンチュウ防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	16: 141.	クロルピクリン、D-D、EDB、NCS剤でキタネコブセンチュウを防除。線虫以外に菌の関与の可能性。
33	石橋信義	1969	ヘテロテラ科線虫における蛋白電気泳動パターンとの発育ステージならびに環境条件による変動について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 11-12.	講要
34	石橋信義・清水啓	1969	ネコブセンチュウの寄生による硝酸の異常代謝.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 11.	講要
35	石倉秀次	1969	植物防疫の展開と今後の課題.	農業技術	24(8) 354-360.	ミカンネモグリセンチュウに言及。
36	伊藤敏一・横地大次郎	1969	殺線虫剤による土壌処理が水稻の生育および収量に及ぼす影響について.	三重農試研報(三重県農業試験場研究報告)	4: 21-26.	D-D、クロルピクリン剤の副次作用。
37	伊藤喜隆・大島康臣・一戸 稔	1969	A root-knot nematode, <i>Meloidogyne mali</i> n.sp. on apple tree from Japan (Tylenchida: Heteroderidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	4(4) 194-202.	リンゴネコブセンチュウの新種記載。模式産地は長野県上水内郡豊野村。寄主はリンゴ、サクランボ、バラ、ブドウ、クリ、クワ、カエデ、シロクロバー。
38	金沢幸三	1969	野菜の耐虫性品種育成の現状.	農及園(農業および園芸)	44(3) 499-503.	トマトの線虫抵抗性を含む。
39	金子 武	1969	茶園の害虫防除あの手この手.	農業技術研究	23巻5: 84-88.	チャネグサレセンチュウ、チャノカイガラムシ、モグラの同時防除としての殺線虫剤施用にふれる。
40	嘉藤省吾	1969	モモいや地園における殺線虫剤処理効果.	富山農試研報(富山県農業試験場研究報告)	3: 37-40.	D-D、EDB、DBCP剤施用。クルミネグサレ、ネコブ、ピンセンチュウの季節的発生消長も調査。
41	河村貞之助・平野和弥・中山敬一・青木正則・菅原重二	1969	畑水稲の連作とイネシストセンチュウの消長.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 10.	講要
42	川島嘉内	1969	イネネモグリセンチュウの生態と防除.	農及園(農業および園芸)	44(6) 987-990.	生態(生活史、発生消長)、被害、防除(D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン)。
43	川島嘉内	1969	イネネモグリセンチュウに関する研究 X. 圃場での被害解析調査.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 10.	講要
44	川島嘉内	1969	イネシストセンチュウの防除法について.	今日の農業	13巻10: 21-23.	症状、発生条件、防除法(ピニルマルチ栽培、薬剤施用)。
45	川島嘉内・酒井豊	1969	コンニャクに対するネコブセンチュウ類の寄生性と被害.	福島農試研報(福島県農業試験場研究報告)	6: 69-74.	球茎にはジャワネコブセンチュウのみ寄生。被害球を種とすると減収。貯蔵中腐敗しやすい。品種比較試験(備中種がやや強)。
46	菊川誠士・坂井健吉	1969	甘しょにおける線虫抵抗性品種の育成方法に関する研究.	九州農試報(九州農業試験場年報)	14(3) 365-397.	ネコブ、ネグサレセンチュウ抵抗性品種の検定法、交配母本の選抜効果、栄養系の選抜効果、育苗方法。
47	桐谷治・松崎征美	1969	ベルマン法による線虫の抽出効率について.	高知農林研報(高知県農林技術研究所研究報告)	2: 25-30.	サツマイモネコブセンチュウ第2期幼虫を供試。経過時間と・出数(1週間で10%内外)、累積・出数と総個体数の関係。
48	北沢右三	1969	志賀山亜寒帯針葉樹林生態系の土壌線虫、ヒメミズ、双・目幼虫の調査。In: 亜寒帯および温帯林生態系の生物生産力(志賀山特別研究地域)。(北沢右三編)	昭和43年度研究報告(JIBP-PI)	p. 105-109.	未見
49	小林義明	1969	菊の連作障害: ネグサレセンチュウの害と防除.	農業技術研究	26巻6: 50-52.	キタネグサレセンチュウ対策。
50	小林義明・深沢永光	1969	Aphelenchoides 属線虫の寄生による葉組織の形態的变化について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 10.	講要
51	小林義明・杉野多万司	1969	静岡県におけるイネネモグリセンチュウの発生消長について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	16: 138.	密度・令構成の変化。
52	小泊重洋・大場正明	1969	チャのさし木床消毒について.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	11: 70-71.	3種線虫と苗根腐病。ガスバ、グランド乳剤、NCS剤が実用化可能。
53	小室康雄・吉野正義・一戸 稔	1969	Tobacco rattle virusの <i>Trichodorus minor</i> による伝搬.	日植病報(日本植物病理学会報)	35(2) 124.	講要
54	駒井功一郎	1969	DBCPの作物搾汁液成分中に糖類に及ぼす影響.	応動昆虫中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支会報)	11: 35-38.	葉害感受性作物の汁液中に還元糖が増加、非還元糖が減少。
55	小菅善久弥	1969	トリカブトのネグサレセンチュウに対する種いもおよび土壌消毒の効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	16: 143.	テラクアP粒剤の土壌消毒効果が高い。
56	熊倉善八郎・石川元一	1969	連作落花生に対する土壌くん蒸剤の効果.	農業技術	24(3) 127-128.	深耕、増肥、D-D剤施用の効果の比較
57	桑原雅彦・西沢務	1969	イネネモグリセンチュウの発生消長について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 10.	講要
58	真宮靖治	1969	各種針葉樹のキタネグサレセンチュウにたいする寄生反応.	日林誌(日本林学会誌)	51(7) 199-200.	スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ、エゾマツ、トドマツに増殖。
59	真宮靖治	1969	国有林苗圃における植物寄生線虫の分布: 東日本の苗圃について.	林試研報(林業試験場研究報告)	219: 95-119.	下記の11種を図示・記載。分布・寄主植物・生息密度等を調査。 <i>Pratylenchus penetrans</i> , <i>P. vulnus</i> , <i>P. coffeae</i> , <i>Trichodorus cedarus</i> , <i>T. porosus</i> , <i>Tylenchorynchus claytoni</i> , <i>Helicotylenchus dihystra</i> , <i>Rotylenchus pini</i> , <i>Scutellonema brachyurus</i> , <i>Xiphinema americanum</i> . 植物防疫 23(4) 174, 1969に抄録。
60	真宮靖治	1969	苗圃における各種殺線虫剤施用効果の一例.	林試研報(林業試験場研究報告)	220: 121-132. 1 pl.	D-D、EDB、DBCP、TS-10剤の効果。スギのキタネグサレセンチュウと <i>Trichodorus sedarus</i> を対象。
61	真宮靖治	1969	キタネグサレセンチュウの寄生を受けたスギ稚苗の根の組織解剖学的観察.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 10-11.	講要
62	真宮靖治・末永健	1969	スギ苗に寄生するキタネコブセンチュウについて.	森林防疫	18(2) 21-22.	岩手県石鳥谷町。被害状況。
63	増田安弘	1969	蔬菜の生理に及ぼすネマトダの影響(第3報)地温および土壌水分の組合せと寄生及び被害について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭46秋: 164-165	講要
64	松田 明・下長根鴻・尾崎克己	1969	キュウリつる割病、トマト萎ちよう病発生とネコブセンチュウ寄生との関係.	日植病報(日本植物病理学会報)	35(2) 104.	講要
65	松田 明・下長根鴻・尾崎克己	1969	NET(ガスバ)のキュウリつる割病防除効果について(第2報).	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	16: 50-51.	ネコブセンチュウ寄生度と発生率に正の相関。
66	松枝 章	1969	苗圃土壌線虫防除試験.	石川林試業報(石川県林業試験場業務報告)	6: 126-127.	謄写。スギにD-D剤施用。施肥(N、K)と効果の関係。
67	松井弘之	1969	ネコブセンチュウにより形成されたゴールの肥大促進物質ならびに肥大抑制物質.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 11.	講要
68	松実成忠	1969	連作障害: いわゆる「いや地」問題について.	農及園(農業および園芸)	44(2) 309-312.	休載年限、原因・対策の概説。
69	松浦美文・末次哲雄	1969	侵入を警戒すべき重要病害とその防除.	植物防疫	23(5) 202-206.	線虫媒介の三種のウイルス(<i>Grapevine fan leaf virus</i> , <i>Arabis mosaic virus</i> , <i>Tobacco ring spot virus</i>)を解説。
70	峰尾一彦・紺谷修治	1969	苗木掘取跡地の残留根内のネグサレセンチュウについて.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	19: 84-86.	講要。スギ、ヒノキ。線虫は残留。
71	三井 康・岡本好一	1969	キタネコブセンチュウの増殖に及ぼす線虫捕食菌の影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 12.	講要
72	宮沢敦雄・西宗昭・小塚川忠士・吉岡真一	1969	十勝地方における畑地の地力と豆類生産について(その1).	北農	36巻3: 1-9.	沖積土や粒径の細かい土では線虫が寄生していない例あり。
73	森田 僑	1969	花卉に対する農薬の薬害.	植物防疫	23(10) 435-437.	EDB剤(カーネーション)、DBCP剤(キク)を含む。
74	内藤 篤	1969	飼料作物の害虫とその防除.	農及園(農業および園芸)	44(1) 287-290.	ラジノクローバーの線虫害に言及。

75	中西 勇・上林 謙・天野 隆	1969	生育期を主体としたイネシガラセンチュウの防除について	関西病虫研報(関西病虫学会研究報告)	11: 89-90.	講要. 種別消毒, 苗代・分・期・出穂期の薬剤防除.
76	中國和年	1969	Aphelenchoides属線虫の個体数の消長と形態的変異.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 9.	講要
77	中里肇二・只木 正之	1969	水田土壌に対するクロルピクリン剤処理効果, 乾土効果との関連.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	16: 139.	乾土効果と似た状態となる.
78	西村正晴・林 真二・千代西尾伊彦・奥田純一郎・佐藤 一郎・田辺 賢二	1969	Relation of soil toxins to the occurrence of a new black scurf of Chinese yam in the Tottori sand dune field.	日植病報(日本植物病理学会会報)	35(4): 286-293.	ナガイモの表皮の黒変. 誘因として殺線虫剤の使用の可能性もあるとする.
79	西沢 務	1969	寄生性を異にするサツマイモネコブセンチュウの系統について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 9.	講要
80	西沢 務・赤富喜三・伊沢房雄	1969	ミカン畑におけるミカンセンチュウの被害査定の一例.	関西病虫研報(関西病虫学会研究報告)	11: 88.	講要. 線虫寄生区では苗の成長が抑制された.
81	落合憲光・井上 巖	1969	ハリガネムシ(Chordodes 線形虫類)の幼虫の器官形成について. 1. 幼虫の宿主内着生部位と発生との関係.	動雑(動物学雑誌)	78(1): 60.	講要
82	岡田利承	1969	ダイズ加害におけるダイズシストセンチュウと根粒菌の関係.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	13(4): 167-173.	線虫寄生と根粒菌接種. 根粒着生と線虫接種, ダイズの生育と線虫・根粒接種.
83	岡山 勇・鍵渡徳次・近岡一郎・水沢秀名	1969	ヤマトイモの褐色腐敗病とネコブセンチュウの同時防除について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	16: 142.	ドジョウピクリンが有効. EDB剤単独使用では効果劣る.
84	大羽克明・西沢 務	1969	線虫捕食菌に対する殺線虫剤の影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 12.	講要
85	大橋雄司・佐藤 昌良・村井高伯	1969	線虫抵抗力黄色種BN2およびHN2の育成.	磐田たばこ試験場報告	2: 1-10.	育成過程及び特性. NC95, PD611 が抵抗力性母本.
86	大川 清	1969	アカカノコユリの球根養成.	農及園(農業および園芸)	44(1): 71-76.	D-D剤による連作障害対策(ネダニが主因)を含む.
87	大津貞夫	1969	土壌線虫防除試験.	茨城林試業報(茨城県林業試験場業務報告)	昭43: 63-67.	謄写. スギのネグサレセンチュウにDSP(5121), ダイシストン, DBCP, EDB, NCS剤.
88	長田 巖・矢野 龍	1969	ぶどうにおけるDBCP剤の薬害について.	山梨果試報(山梨県果樹試験場報告)	1: 21-29.	処理1年後に花穂, 葉に薬害. 台木の種類, 品種, 施用法により薬害に差.
89	尾崎 薫	1969	北海道畑作中心地帯における輪作, 特に前後作組合せ様式に関する研究.	北海道農試場報(北海道農業試験場報)	74: 1-158.	ダイズシストセンチュウ p. 96-111.
90	領家武居	1969	ミカンの土壌線虫検診方法について(1).	中国農業研究	37: 61-62.	掘土深度, 位置, 調査樹数等を検討.
91	三枝敏郎	1969	輸出植物栽培地におけるアレナリアネコブセンチュウとジャワネコブセンチュウの寄主.	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	7: 75-78.	前者の寄主植物37科77種, 後者は37科67種を記録.
92	三枝敏郎	1969	小笠原諸島における有害線虫発生時の現状.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 8.	講要
93	斉藤正隆・赤井 隆	1969	北海道における豆類の保護対策.	農及園(農業および園芸)	44(2): 325-331.	ダイズシストセンチュウ対策を含む.
94	酒瀬川義一・佐々木 壮	1969	土壌消毒剤の効果範囲.	九病虫研報(九州病虫学会研究報告)	15: 28-30.	菌類について調査. クロルピクリン, アイオピクリン, ガスバ, NCSの比較.
95	佐藤昭美・大森 秀雄	1969	ダイズシストセンチュウの防除に関する研究.	岩手農試研報(岩手県農業試験場研究報告)	13: 1-47.	線虫の密度消長(季節的消長, 水平・垂直分布, 作付体系と密度), 抵抗性品種(線虫の侵入, 発育, 線虫密度への影響, 抵抗性の検定法), 薬剤防除(処理による線虫密度の変化, 効果範囲, ネコブセンチュウとの薬剤感受性比較, 種類・薬量と効果, 寄生持続期間, 低温時処理, 大豆生育中処理).
96	Seinhorst, J. W. ・国安克人	1969	Rotylenchus uniformis (Thorne) on carrots.	Neth. J. Pl. Path. (Netherlands Journal of Plant Pathology)	75(3): 205-223.	ニンジンに対するラセンセンチュウの1種の被害水準. 17°Cの時土壌5g当たり30頭, 5-10°Cの時2頭以上で被害. 他の試験データの検討も含む.
97	四方俊一・湯之上 忠・安藤隆夫・小野敏忠・丸峯正吉・広崎昭太・坂井健吉	1969	甘しょ育種における外国品種の利用と効果.	九州農試年報(九州農業試験場年報)	昭42: 25-29.	ネコブ, ネグサレ線虫抵抗性遺伝子の集積にふれる.
98	下川利之	1969	苗畑線虫防除試験(V).	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	9: 176-186.	謄写. スギのキタネグサレセンチュウとFusarium菌にNCS, DCIP, DBCP, 5121粒剤, 同剤+MZ剤施用.
99	新庄五郎・井上 巖	1969	Gordius 属ハリガネムシの幼虫の構造について.	動雑(動物学雑誌)	78(10/11): 426.	講要
100	庄司次男・佐藤 邦彦	1969	春まきスギ苗のネグサレセンチュウの薬剤防除試験.	林試東北支場年報(林業試験場東北支場年報)	10(昭43): 106-111.	NCS乳剤, 5121粒剤, ネマナックス粒剤.
101	周藤靖雄	1969	苗畑線虫防除試験.	島根林試研報(島根県林業試験場研究報告)	20: 105-134.	苗床の土壌消毒(スギ苗のネグサレ, イシュク, ユミハリ, オオカタハリ, ハリセンチュウ, その他の線虫にEDB, DBCP, 5121粒剤). 苗木の根節薬剤浸漬(パラチオン, スミチオン, ティブテックス, バイジット, ジフトコート).
102	末永 健	1969	土壌線虫の薬剤による防除試験.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	21: 131-133.	スギ苗のネグサレセンチュウにNCS, TS-40, DBCP剤.
103	杉山信太郎・広間勝巳	1969	大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究. 第4報. 抵抗性の遺伝について.	育種(育種学雑誌)	19(別1): 141-142.	講要
104	多川 四・都丸敬一	1969	くん蒸剤による土壌消毒に関する研究. 第1報. 電子捕獲ガスクロマトグラフィーによる土壌中のくん蒸剤の定量.	薬野たばこ試験場(薬野たばこ試験場報告)	65: 77-83.	D-D, EDB, クロルピクリン剤の分析法.
105	多川 四・都丸敬一	1969	くん蒸剤による土壌消毒に関する研究. 第2報. クロルピクリンの残留におよぼす土壌環境要因の影響.	薬野たばこ試験場(薬野たばこ試験場報告)	65: 85-91.	残留は土壌水分40%前後を極小値にもつ二次曲線を示す. 低温で多く残留, 土性との関係も検討.
106	高木一夫	1969	Nematode confronts tea plantation in Japan.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	4巻3: 27-29.	チャネグサレ, カナヤサヤワセンチュウの解説, 防除法.
107	高木一夫	1969	土壌線虫の改植期における防除法.	技術と普及	6巻2: 53-54.	茶園のEDB, DBCP剤処理.
108	高木一夫	1969	昭和43年度に試験された害虫防除薬剤.	植物防疫	23(2): 52-54.	線虫については以下の薬剤を試験: D-D乳剤, ランネット粒剤, 同水和剤, N-34アイオピクリン, NCS, IC-101, EDB粒剤, バダン水和剤.
109	竹島暹二	1969	温室バラの連作障害について.	滋賀農試研報(滋賀県農業試験場研究報告)	12: 61-67.	ネグサレセンチュウが一因.
110	竹下晴彦	1969	苗畑土壌線虫実態調査: 線虫相に関する要因分析.	日林九支誌(日本林学会九州支部大会講演要旨)	22: 195-197.	優先種は寒冷地ではネグサレセンチュウ, 西南暖地では特になし. 施業種によるネグサレセンチュウ検出頻度に差なし.
111	竹内重之	1969	Breeding of the peanut in Japan.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	4巻4: 11-14.	キタネコブセンチュウ抵抗性に言及.
112	照屋林宏	1969	植物寄生性線虫の防除に関する研究. 第2報. 菜畑におけるサツマイモネコブセンチュウ幼虫の発生と被害の季節的消長.	琉球農試研報(琉球農業試験場研究報告)	5: 23-28.	4毛作畑(キュウリ・ピーマン・サントウサイ・トマト), 2毛作畑(ニガウリ・ニンジン)における発生消長. 線虫寄生とキュウリの記録・指数の関係.
113	照屋林宏・島仲 常吉	1969	石垣島のパイナップル畑における植物寄生性線虫類の分布.	琉球農試研報(琉球農業試験場研究報告)	5: 29-37.	11属15種の記録. 島内の分布, 密度, 検出率.
114	手塚 浩	1969	畑作におけるキタネコブセンチュウの秋季薬剤防除.	今月の農業	13巻10: 32-35.	加害作物, 輪作, 薬剤防除(D-D, EDB, DBCP剤).
115	徳重陽山・清原 友也	1969	マツ枯死木中に生息する線虫 Bursaphelenchus sp.	日林誌(日本林学会誌)	51(7): 193-195.	マツノザイセンチュウに関する正式な第1報. 熊本県から記録.
116	堤 正明	1969	無寄主状態におけるダイズシストセンチュウ幼虫の生存期間について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	20: 110.	2か月程度と推定.
117	堤 正明	1969	ダイズシストセンチュウふ化幼虫の寄主におよぼす諸要因.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 9-10.	講要
118	津谷武樹	1969	イネシガラセンチュウの新しい防除薬剤.	今月の農業	13巻4: 32.	REE(サッセン), DSP(カヤエース), 低毒性有機燐剤(スミチオン, バイジット, ティブテックス), カルタップ剤の施用効果.
119	宇田川隆敏・西沢 務	1969	キュウリ幼苗に対するキタネグサレセンチュウとキュウリ蔓割病菌による複合病について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 11.	講要
120	上林 謙・今村三郎	1969	イネシガラセンチュウの伝播に関する圃場調査.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 12.	講要
121	上田 進・橋田信行・松本益美	1969	種別消毒によるイネ心枯線虫病の防除について(第3報).	農及園(農業および園芸)	44(6): 993-994.	カルタップ, MEP乳剤の効果.

122	上住 泰・森岡寛	1969	奈良県下のイネニンガレセンチュウの分布と発生条件に関する一考察	関西病虫研報(関西病虫学研究会報)	11: 90-91.	講要。温度と発病の関係を検討。分布との関わりも。
123	牛山欽司	1969	温州ミカン園の忌地に関する研究 第2報	神奈川園試研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	17: 27-38.	ミカンセンチュウと土性の関係を含む。
124	篠尾貞夫	1969	畑作物と土壤線虫: 影響と防除について。	青森農業	20巻7: 44-47.	ダイズシストセンチュウ、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの防除(輪作、抵抗性品種、薬剤施用)。
125	篠尾貞夫・豊川 衛裕	1969	リンゴ樹における線虫被害について 4. ネグサレセンチュウ寄生樹根系の症状と収	北日本病虫研報(北日本病虫学研究会報)	20: 112.	寄生指数と収量(生産重量、生産個数)との間に負の相関関係
126	渡辺弘之	1969	大型土壤動物 macro faunaの範囲	Edaphologia	3: 7-9.	線虫を含む土壤動物の大きさによる区分法の解説
127	山田英一	1969	北海道のリンゴ園におけるネグサレセンチュウの種類と苗木の被害	北日本病虫研報(北日本病虫学研究会報)	20: 111.	5種類検出。キタネグサレセンチュウ接種株は成長が劣る傾向
128	山本鉄司	1969	畑作物の栽培法と問題点	農及園(農業および園芸)	44(1) 33-36.	線虫害に言及。「連作害は陸稲より大きい」
129	山本敏夫	1969	大型トラクタによる殺線虫剤の簡易処理法	関西病虫研報(関西病虫学研究会報)	11: 45-47.	EDB剤を表面散布後ロータリー攪拌。ネコブセンチュウ防除に実用化可能
130	山本敏夫・近藤 鶴彦	1969	温室のネコブセンチュウ発生源としての基礎土	関西病虫研報(関西病虫学研究会報)	11: 91.	講要。今後の対策を提唱。
131	冨城洋之・糸井 節美	1969	DBCP剤の白紋羽病防除効果について。	日蚕中部講要(日本蚕糸学会中部支部講演集)	25: 13.	講要
132	横本清太郎	1969	施設園芸の展望と経営のあり方(5)。	農及園(農業および園芸)	44(11) 1709-	培養土、床土殺菌設備。
133	横尾多美男・森 光和子	1969	土壤調整剤(HSC)施用の水田線虫相に及ぼす影響について 第II報	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	28: 95-106.	珪酸を主体としたもの。イネネモグリセンチュウ減少。
134	吉田桂輔・吉村 大三郎・横山 佐	1969	イネ心枯線虫病に対するダイアジン粒剤の苗木施用条件と効果との関係。	九州病虫研報(九州病虫学研究会報)	15: 7-10.	「畑苗代、とくに焼もみがらの播種前使用、萌芽種子では効果が劣る」
135	吉田光男	1969	栃木県におけるネグサレセンチュウの苗木土壌線虫防除試験	栃木県農業センター業務報	5: 117-122.	スギ、ヒノキ、アカマツのネグサレセンチュウに5121、D CIP剤。
136	藤原敏夫	1969	寄主の生育期とダイズシストセンチュウの侵入	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 9.	講要
137	藤原敏夫	1969	土壌水分含量とダイズシストセンチュウのシスト内卵、幼虫数の推移	北日本病虫研報(北日本病虫学研究会報)	20: 109.	土壌水分60%前後が生存に最適
138	藤原敏夫	1969	球根・苗木類に寄生する線虫の温湯浸漬防除に関する一考察	十勝病虫研報(十勝病虫学研究会報)	3: 3-4.	講要
139	吉岡真一・小梁 川忠士・沢田 泰	1969	畑地の地力と大豆の生育について(その2)	北農	36巻4: 1-10.	ラジノクロバー跡はネコブセンチュウの被害多。
140	湯原 巖	1969	クワタリアおよびマリーゴールドのキタネコブセンチュウに対する影響	北日本病虫研報(北日本病虫学研究会報)	20: 108.	土壌中の幼虫密度低下。
141	湯原 巖	1969	大規模草地における線虫生息相についての知見	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 8.	講要
142	Anon.(北海道農試畑作物部虫害研究室)	1969	寄主の生育と線虫の侵入寄生	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	昭44: 49-52.	ダイズシストセンチュウ: 大豆の生育期における2令幼虫の侵入、侵入時期によるダイズシストセンチュウの繁殖
143	Anon.(名古屋植防)	1969	ミカンネモグリセンチュウ愛知県下で防除	植物防疫	23(1) 39.	半田市内の温室のアンスリウム。
0		1970	昭和45年(1970)			
1	安部 浩	1970	ポタンの芽寄生線虫とその対策	島根植防(島根の植物防疫)	11(3) 81.	苗の温湯浸漬、成木はディプレックス水溶液(80%) 200-400 倍液散布
2	安部 浩・広沢 敬之	1970	島根県におけるブドウ寄生線虫の種類と分布	応動昆虫中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支会報)	12: 14-16.	14種を記録。ネコブセンチュウが最多。
3	天野 隆・尾崎 典光・岩瀬 茂基	1970	Studies on the nematode, <i>Aphelenchus avenae</i> Bastian, 1865. I. Injury to sweet potatoes caused by nematodes.	Rev. Pl. Prot. Res. (Review of Plant Protection Research)	3: 137-139.	No. 65-1, 66-3, 4の英文抄訳。
4	新井邦夫	1970	採種ニンジン(短根)の病害虫と防除	農及園(農業および園芸)	45(4) 671-675.	ネコブセンチュウの薬剤防除を含む。
5	千葉隆雄・横山 十三男	1970	桑のネコブセンチュウに関する試験 第2報 DBCP剤による桑の根・線虫防除について	宮城農試要報(宮城県畜産試験場畜産要報)	9: 62-78.	粒剤、乳剤、灌注により2年目から増収。線虫寄生減少。
6	千葉 修	1970	マツ類の衰弱に関与する微生物・松くい虫加害と病原微生物	森林防疫	19(6) 138-140.	Bursaphelenchus 属線虫の発見を含む。
7	近岡 一郎	1970	イチゴを加害するクルミネグサレセンチュウ(<i>Pratylenchus vulnus</i>)の防除に関する研究	神奈川農総研報(神奈川県農業総合研究所研究報告)	109: 61-77.	県内分布、イチゴのネグサレセンチュウの種類、形態、被害(根、地上部の症状)、寄主植物、イチゴ畑の発生消長、イチゴ苗の線虫寄生、土壌菌類との関係、薬剤防除(薬剤感受性、D-D、EDB、DBCP剤の効果)、その他の寄生性線虫(キタネコブ、ジャワネコブセンチュウ他)。
8	近岡 一郎	1970	Studies on the root lesion nematode, <i>Pratylenchus penetrans</i> , on Japanese daikon, <i>Raphanus sativus</i> L. var. <i>acathiformis</i> Makino.	Rev. Plant. Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	3: 135-137.	No. 66-11, 13, 67-7; 68-8, 9; 69-7の英文抄訳。
9	知識敬道	1970	Potato breeding in Japan: Breeding for adaptability to warm region.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	5(2) 10-14.	キタネコブ、ミナネグサレセンチュウ抵抗性にふれる。
10	遠田輔男・野淵 隆	1970	マツ類の穿孔虫に関する研究: 卵巣の成熟と寄生性線虫(予報)	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	81回: 274-276.	ゾウムシ、キウイムシ、カミキリのほとんどの種に線虫が寄生。
11	藤川 隆・富来 秀・佐藤俊次	1970	キュウリ根こぶ線虫病の薬剤防除(1)。	日植病報(日本植物病理学会報)	36(5) 345-346.	講要
12	藤本 清・山口 福男・古川紀彦	1970	遠心分離法による土壤線虫の分離についての知見	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	17: 45-50.	キタネグサレ、ワセンチュウを供試。分離条件(比重液の種類、比重、回転数、回転時間、土壌の量)、適する土性の検討。
13	深沢永光	1970	イチゴのセンチュウ類と防除	農業試験	17巻1: 34-37.	ディプレックス、メチルホルドール、バイジット散布他。
14	深沢永光	1970	農作物の病害虫防除[3]: 1. 果菜類の病害虫とその防除	農及園(農業および園芸)	45(3) 577-580.	ウリ類のネコブセンチュウ、イチゴのネグサレ、ネコブセンチュウ防除を解説。
15	深沢永光	1970	イチゴのセンチュウ類とその防ぎ方	今月の農業	14巻9: 79-81.	症状、被害、寄生部位、伝播のしかた、防除(耕種的、薬剤: ディプレックス、ホルドール)。
16	福留信明	1970	異なる土壌条件下で育てたタバコ幼苗でのサツマイモネコブセンチュウの発育について	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 47-48.	講要
17	福留信明・福田 睦男	1970	ネコブセンチュウと他の病害との関係 1. タバコ赤星病との関係	日植病報(日本植物病理学会報)	36(5) 345.	講要
18	五味美知男・中里 肇二	1970	福心枯線虫病の防除に関する研究	群馬農試報(群馬県農業試験場報告)	10: 73-90.	県内分布、伝染経路(苗代・本田)、施肥量と発病・被害、薬剤防除(有機水銀剤、ホルドール、有機燐剤)による種粉浸漬、浸透移行性殺菌剤との混用、カヤエースの土壌施用、スミチオン、バイジットの散布)。
19	五味美知男・賀 田裕行	1970	群馬県におけるコンニャク根腐病とその対策	関東病虫研報(関東東山病虫学研究会年報)	17: 135-138.	病原菌とミナネグサレセンチュウの相互作用は認めず。
20	後藤 昭	1970	牧野等本邦未耕地のネグサレセンチュウ	九州病虫研報(九州病虫学研究会報)	16: 34-37.	種名未確定の3種の形態を記載。その他の6種の検出地及び種性。
21	後藤 昭・佐野 善一	1970	九州の山岳地における線虫調査例	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭44: 45.	講要
22	後藤三千代	1970	庄内地方におけるイネネモグリセンチュウ <i>Hirschmanniella imamurai</i> S.A.Sherと <i>Horyzae</i> S.A.Sher の生態学的研究 第2報 両種の令期の区別と卵の発生について	山形農学会報	27: 22-28.	口針長と生殖器(原基)による発育ステージの区別。温度と卵発生の関係も調査。
23	後藤美明・市川 友彦	1970	温風暖房機利用による土壌消毒の実験	農及園(農業および園芸)	45(5) 743-749.	線虫記述なし。キュウリつる割病菌に対する効果。
24	浜田喜樹・松岡 英子・林 真守	1970	化学療法剤の研究(第5報)アゾおよびジフェニールエーテル類などの殺線虫作用に	薬誌(薬学雑誌)	90(5) 644-646.	NCS化合物の殺虫力等を検討。
25	原沢興子	1970	志賀山垂高山帯針葉樹林生態系の土壌線虫調査報告 In: 亜寒帯および温帯林生態系の生物生産力(志賀山特別研究地域)	昭和44年度研究報告(JIBP-PT)	p.158-161.	未見
26	橋本平一	1970	北海道における国有林苗圃の線虫実態調査	北方林業	22(2) 53-56.	6種を記録。キタネグサレセンチュウの検出密度、樹種と線虫
27	橋本平一	1970	トドマツ種苗木のキタネグサレセンチュウ密度の季節的消長	北方林業	22(6) 182-188.	根の伸長期に線虫増殖。苗令によって線虫密度変化が速い
28	橋本平一	1970	北海道におけるカラマツ種苗木の根腐型立枯病(線虫複合病害)の被害例	北方林業	22(8) 241-245.	キタネグサレセンチュウの関与の可能性大。

29	平野和弥	1970	イネシストセンチュウのふ化ならびに幼虫・出に關する要因。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 46.	講要
30	平田明由	1970	桑園の土壤線虫相とくにドリライム目について。	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	40: 19.	講要
31	平田明由	1970	桑園における植物寄生線虫とその発生消長。	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	21:13.	講要
32	久永 勝・牧野秋雄・大沢高志	1970	イネ目黒米の発生生態。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	17: 121.	静岡県内の分布、病徴、発生経過、被害、被害残による伝染。
33	細田隆治	1970	マツノマダラカミキリより分離したマツノサイセンチュウ幼虫のマツ苗への接種試験。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	22: 135-137.	講要。全供試木が枯損。
34	一戸 稔	1970	稲作転換をめぐる農業技術上の諸問題(2) 土壤線虫の立場から。	農業技術	25(4)151-156.	畑地の連作障害(ピート、大豆、陸稲、野菜)、主要産地形成を阻むもの、休載年数とハウス栽培、湛水(水田化)による土壌対策、「輪作」の原理。
35	一戸 稔	1970	連作障害と線虫:総合的な土壌対策の必要性。	化学と生物	8(12) 737-738.	研究史と今後の問題等。
36	五十嵐清治・佐々木正三	1970	土壤線虫の実態調査と防除に関する試験。	秋田林試報(秋田県林業試験場報告)	23: 62-66.	謄写。スギのネグサレ、イシユクセンチュウの検出、5121粉剤、NCSの施用と苗の生育。
37	飯田文彌・椎津和夫	1970	D-Dの処理期間がまき付苗の発芽と成長に及ぼす影響について。	果研報(東京営林局)(東京営林局業務研究発表集)	2: 94-100.	スギ、ヒノキにガス抜きなしでも無葉害。
38	池田 豊・荒武義信	1970	DBCP剤が土壤線虫の発生消長および桑の発育に及ぼす影響。	九州蚕糸	1: 34.	粉剤・粒剤で同等効果。
39	稲垣春郎	1970	いちごのセンチュウ類と浸透性線虫剤による防除。	今日の農業	14巻6:29-31.	症状、被害、防除(ディテレックス、エテルチオモン)。
40	稲垣春郎	1970	はっかのピンセンチュウとその防除。	今日の農業	14巻9: 86-88.	生態、被害、黒腐病との関係、防除(DBCP、EDB、クロロピクリン、PCNB)。
41	井上 巖	1970	Gordius 属ハリガネムシ(線形虫類)の1種について。	動雑(動物学雑誌)	79(11/12) 91.	講要
42	井上 敬・菅原信夫	1970	マリゴールドの混植によるネグサレセンチュウ防除試験 I. スギ苗畑における混植の効果。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 48-49.	講要
43	石橋信義	1970	Variations of the electrophoretic protein patterns of Heteroderidae (Nematoda: Tylenchida) depending on the developmental stages of the nematode and on the growing conditions of the host.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	5(1) 23-32.	6種線虫(ダイズシスト、イネシスト、キタネコブ、サツマイモネコブ、リンゴネコブ、Hypsoperine sp.)の水溶性蛋白の電気泳動パターンとの比較。同一種でも寄主植物、発育ステージにより大きく変化。
44	石橋信義	1970	肥培管理がサツマイモネコブセンチュウの発生消長ならびに殺線虫剤の防除効果におよぼす影響。	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	14(3) 127-133.	無施肥、堆肥、化成肥料施用時の線虫の発生消長。EDB剤処理時期と施肥との関係他。
45	石橋信義・清水啓	1970	Gall formation by root-knot nematode, <i>Meloidogyne incognita</i> (Kofoid et White, 1919) Chitwood, 1949, in the grafted tomato plants, and accumulation of phosphates on the gall tissues.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	5(2) 105-111.	[ゴール形成と磷酸代謝の関係をトマト(線虫抵抗性及び感受性品種)で検討。ゴールに磷酸の集積。
46	石橋信義・清水啓	1970	肥培管理がネコブセンチュウの発生消長、殺線虫剤の防除効果等におよぼす影響。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 49-50.	講要
47	石原正義	1970	桃の連作障害園の実態調査から。	今日の農業	14巻10: 52-54.	アンケート調査。線虫害を含む。
48	石川元一・長島稔・水谷義清	1970	キクのネグサレセンチュウ防除。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	17: 120.	キタネグサレセンチュウ、NCS、クロロピクリン、EDB、ソイルメート、テラクアール粉剤を施用。
49	伊戸泰博	1970	堆肥上に発生する中気門ダニ類の線虫捕食性と繁殖。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 27-28.	講要
50	伊藤一雄	1970	特別研究「まついむしによるマツ類の枯損防止に関する研究(中間報告 概要)。	森林防疫	19(6) 135-136.	林試九州支場における線虫の一種の検出に言及。
51	伊藤武夫・泉水義明・峰尾一彦	1970	数種の農業による土壌消毒試験(上)。	みやま	173: 68-71.	スギ、ヒノキにクロロピクリン、D-D、EDB剤施用効果。
52	伊藤武夫・泉水義明・峰尾一彦	1970	数種の農業による土壌消毒試験(中)。	みやま	174: 85-96.	処理による分離線虫数の変化。
53	伊藤武夫・泉水義明・峰尾一彦	1970	数種の農業による土壌消毒試験(下)。	みやま	175: 87-96.	苗木の生育。
54	伊藤喜隆	1970	果樹のネコブセンチュウの検診と防除。	農業技術	25(3) 108-113.	種類、被害、検診方法、移動伝播、抵抗性苗木、発生回数、防除方法。昭和44年度農業技術功労賞受賞記。
55	岩橋哲彦・後藤重喜	1970	早掘り甘藷に対するDBCP剤の施用時期について。	九州農業研究	32: 104-105.	早春施用で「つるぼけ現象」発生。
56	岩木満朗	1970	スイセンから分離されるウイルス。	植物防疫	24(9) 378-382.	Trichodorus属線虫によって伝播されるTobacco rattle virusの解説を含む。
57	岩木満朗・小室康雄	1970	スイセンから分離されたTomato ringspot virus とそのXiphinema americanumによる伝播について。	日植病報(日本植物病理学会報)	36(5) 371.	講要
58	弥富三三・西沢弥	1970	Growth response of rice to soil fumigation. In: Root Diseases and Soil-Born Pathogens (Toussoun, T.A., et al., eds.).	Univ. Calif. Press, Berkeley	p. 226-228.	Hirschmanniella oryzae, H. imamuraiに対するD-D、EDB、DBCP剤の防除効果と稲の生育。
59	柿崎泰彦・千葉陸雄・横山十三男・小野 昭	1970	桑のネコブセンチュウに関する試験(第3報)タギテス・ミスリによる桑の根・線虫防除について。	宮城蚕試要報(宮城県蚕業試験場蚕試要報)	9: 79-88.	根・数へは影響なし、桑は増収。
60	金指信夫・河森武	1970	そ菜栽培における土壌蒸気消毒法とその効果。	農と園(農業および園芸)	45(3) 517-524.	線虫記述なし。消毒機械、方法、効果(収量・品質)、土壌の物理性・化学性の変化。
61	川畑克己・古城元夫	1970	狭い虫被害の伝播について。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	25: 198-200.	鹿児島県内。
62	川田惣平	1970	茨城県におけるダイズおよびナンキンマメの線虫防除の一方法。	植物防疫	24(2) 55-58.	二作物のEDB剤生育中処理の効果。処理時期によっては無葉害。
63	賀賀沢和男	1970	牧草あと地における小豆のネコブセンチュウの寄生。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	21: 50.	線虫被害は、意外に大きい。
64	賀賀沢和男	1970	耐虫性品種による虫害防除:ダイズシストセンチュウの耐虫性を中心に。研究の現状と	北農	37巻7: 36-44.	育種、耐虫性の要因、利用、問題点。
65	北沢右三	1970	志賀山亜寒帯針葉林帯生態系のBaermann法による土壌動物の調査(1969年度報告)。	昭44年度研究報告(JIBP-PT)	p. 148-150.	未見
66	清原友也	1970	In: 亜寒帯および温帯林生態系の生物生産九州の国有林苗圃における植物寄生線虫の分布。	林試研報(林業試験場研究報告)	232: 1-12, 2 pls.	線虫の種類と樹種、生息密度、季節的消長、被害。
67	清原友也	1970	マツ材線虫の侵入と繁殖。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	81回: 255-256.	マツ丸太中で増殖。
68	清原友也	1970	クロマツ生立木に対するマツ材線虫の接種。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	24: 243-244.	線虫が強い病原性を示した。
69	清原友也	1970	マツ材線虫の侵入と繁殖。	林試九州支場年報(林業試験場九州支場年報)	12(昭44): 8-10.	マツ異常木からBursaphelenchus sp.を分離。まついむしの体表面からごく小数量発見。
70	小林富士雄・細田隆治・奥田素男・竹谷昭彦	1970	各種穿孔虫からのマツ材線虫の分離。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	22: 137-139.	マツノマダラカミキリに最も多い。
71	小林 裕・山本敏夫	1970	大型トラクターによる殺線虫剤の省力施用法:技術開発の動機とその成果の紹介。	E. D. B. 普及会、東京	8 pp., 1 pl.	No. 69-130を参照
72	小林義明	1970	イネネモグリセンチュウに寄生する胞子虫類について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 47.	講要
73	小島 暁	1970	温湯処理による桑苗木の病害虫防除について。	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	21: 8.	講要。ネコブセンチュウを含む。
74	小室康雄	1970	土壌伝染性ウイルスの検診法。	植物防疫	24(8) 336-339.	線虫媒介ウイルスを含む。

75	小室康雄・吉野正義・一戸 稔	1970	アスターの黄色輪紋症状株のタバコ・ラット・ウイルスの分離とそのTrichodorus minor Colbran による伝播	日植病報(日本植物病理学会報)	36(1)17-26.	ウイルスの同定(アスターにおける病徴と病株の発生状況、他植物への病原性、ウイルス粒子の形態・耐熱性)、伝播試験(アラムシ、種子伝染、土壌伝染、線虫の検出)、TRV-AとTRV-HSNの病原性の差異、TRVのT. minorによる伝播試験、TRVの指標植物)。
76	昆野昭展	1970	Soybean cultivation in Japan.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	5巻2: 21-27.	ダイズシストセンチュウ防除にふれる。
77	小菅喜久弥	1970	切花用のトリカブトのネグサレセンチュウと防除。	今月の農業	14巻10: 36-38.	テラクアP、スミチオン、オイルシン、サッセン、ネマモール、温湯カヤエースによる種いも消毒、NCS、クロルピクリンによる土壌消毒。
78	小谷 晃	1970	わが国におけるイチゴの育種の現状と今後の問題点[2]	農及園(農業および園芸)	45(9) 1343-	ネコブ、ネグサレ、ウキ、メセンチュウ耐虫性素材未発見
79	久保田 勝	1970	畑作物の連作障害に関する研究 第1報 連作障害の実態とその原因	新潟農試研報(新潟県農業試験場研究報告)	20: 41-50.	原因は線虫ではないと結論。
80	工藤 馨	1970	茶園におけるPratylenchus loosiの季節的消長と降雨量の関係について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 49.	講要
81	熊沢喜八郎・石川元一	1970	連作落花生に対する輪作とマルチ栽培の効果	農業技術	25(9) 431-432.	連作2年が限度、D-D剤施用時は3年、EDB剤施用とポリマルチ栽培で増産。
82	桑原雅彦・弥富善三	1970	イネネモグリセンチュウの生態、とくに生活史と発生消長について。	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	14(3) 117-121.	H. ImamuraとH. oryzaeの比較。前者は年1世代、後者は2世代を経過。
83	桑原雅彦・弥富善三	1970	イネネモグリセンチュウの産卵、ふ化に及ぼす温度の影響について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 46-47.	講要
84	牧野秋雄	1970	農作物の病害虫防除[5]:2. イネの病害虫とその防除。	農及園(農業および園芸)	45(6) 1021-	イネシシガレセンチュウ防除を解説。
85	真宮靖治	1970	キタネグサレセンチュウ(Pratylenchus penetrans)のスキ苗にたいする寄生性および加害性。	日林誌(日本林学会誌)	52(2) 41-50.	線虫の消長(根、土壌)、寄生部位、苗木の生育。
86	真宮靖治	1970	スキの根組織内におけるキタネグサレセンチュウの生活史。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 48.	講要
87	真宮靖治	1970	林業苗畑における殺線虫剤の効果。	今月の農業	14巻3: 25-27.	スキのキタネグサレセンチュウ、D-D、EDB、DBCP剤による防除。
88	真宮靖治	1970	苗木に寄生するネグサレセンチュウの生物学的特性	林業と薬剤	34: 1-5.	スキ苗のキタネグサレセンチュウの種類、生態、被害。
89	松田 明・下長根 鴻・尾崎克己	1970	作物の連作とフザリウム病発生との関係。各種作物跡地におけるキュウリつる割病とトマト萎ちよう病の発生	日植病報(日本植物病理学会報)	36(3) 163-164.	講要
90	松井弘之	1970	ネコブセンチュウによるホーセンカ葉のゴール肥大に伴う糖および有機酸の変化。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 49.	講要
91	水沢芳名	1970	ヤマモの褐色腐敗病とネコブセンチュウの同時防除。	今月の農業	14巻10: 64-66.	クロルピクリンとEDBまたはD-Dの混合剤使用例。
92	百田洋二・大島康臣	1970	水田から検出されるワセンチュウについて。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 45.	講要
93	森 喜作	1970	蒸気土壌消毒機実用化の経過と使用方針。	農業技術研究	24巻4:68-71.	線虫記述なし。
94	森本勇馬	1970	土壌線虫防除に関する研究(1)各種殺線虫剤の効力比較ならびに対抗 植物の輪作が線虫におよぼす影響。	日林中部支講(日本林学会中部支講演集)	19: 83-87.	スキ、ヒノキのキタネグサレセンチュウにEDB、DBCP、NCS、DCIP、5121粒剤。マリーゴールド作の影響。
95	森本勇馬	1970	岐阜県下における林業苗畑土壌線虫実態調査。	岐阜県林試報(岐阜県林業試験場試験報告)	12: 1-20.	スキ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ、シラベ、トウヒ他の検出線虫の地理的分布、密度、樹種、土性、経歴年数、経営規模、前作とネグサレセンチュウ密度。
96	森田 備	1970	農作物の病害虫[10]:4. 花の病害虫防除(2)。	農及園(農業および園芸)	45(12) 1895-	スイセン球根のクキセンチュウ防除のための温湯浸漬法を含む。
97	中込輝雄	1970	フキのネグサレセンチュウの生態と防除。	今月の農業	14巻8: 31-33.	被害、生態、防除(DBCP、UC-21149粒剤)。
98	中込輝雄・尾崎典光	1970	愛知県知多地方のフキ畑におけるキタネグサレセンチュウ Pratylenchus penetrans (Cobb, 1917) Chitwood & Otief, 1952の季節的消長と根への寄生状況。	愛知農試研報(愛知県農業総合試験場研究報告) B	2: 50-54.	10月下旬から11月上旬にピーク。病斑太根、細根、褐変太根、白色太根の順に分離虫数が多い。
99	中込輝雄・尾崎典光・都築 仁・西沢 務	1970	フキのネグサレセンチュウの発生消長と防除。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 49.	講要
100	中村好男・藤川徳子・山内克典・田村弘忠	1970	北海道の天然林と人工林における土壌動物相。	日林誌(日本林学会誌)	52(3) 80-88.	天然林、トマツ人工林、ドイソウヒ人工林の比較。落葉層と土壌層の線虫相、線虫数を含む。
101	西沢 務・百田洋二	1970	イネネモグリセンチュウ2種の生態について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 46.	講要
102	西沢 務・大島康臣	1970	連作障害に関連する2、3の線虫問題。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	17:118.	陸稲、カンショ、ラッカセイ、サトモ連作区の種類線虫の分離虫数他。
103	野尻悦司	1970	粒剤による白紋羽病発病跡地の消毒効果について。	日蚕園西講要(日本蚕糸学会関西支部合同研究発表会講演要旨)	36:33.	講要。DBCP剤を含む。
104	小笠原隆一	1970	苗畑の病害虫防除についての研究。	青森林試報(青森県林業試験場報告)	昭44: 60-61.	アカマツ、スキからの検出線虫。
105	小河誠司・蓮尾久光	1970	マツの材線虫に関する試験(I)県内分布と接種試験。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	25: 161-164.	福岡県。
106	岡田利承	1970	ダイズシストセンチュウのふ化条件の季節的な差。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 47.	講要
107	岡田利承	1970	ダイズシストセンチュウのふ化におよぼす温度の影響。	農業検査(農業検査所報告)	10:73-75.	25>20>15>30>35℃の順に多く孵化。5℃では孵化せず。
108	岡本康博・藤井新太郎	1970	イチゴ萎黄病の症状とその対策。	農業技術	25(10) 464-467.	クロルピクリンの効果がD-D、EDB剤にまさった。
109	岡本康博・藤井新太郎・加藤喜重郎・芳岡昭夫	1970	イチゴの新病害「萎黄病」。	植物防疫	24(6) 231-235.	Fusarium oxysporumが病原。D-D、DBCP剤の発芽抑制を認める。
110	大部和夫	1970	土壌くん蒸剤(D-D)のタバコ立枯病に対する防除効果について。	日植病報(日本植物病理学会報)	36(3) 196.	講要
111	大島康臣・西沢 務	1970	日本産イネシストセンチュウの種名の検討。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 45-46.	講要
112	大谷広之・日岡登治	1970	イネネモグリセンチュウの生態と被害について。	滋賀農試研報(滋賀県農業試験場研究報告)	13: 79.	講要。発生消長、被害解析(ポット試験)
113	長田 巖	1970	モモの病虫防除法。	農及園(農業および園芸)	45(4) 651-655.	忌地対策を含む。DBCP剤処理で7年間増収。
114	ラッセル、E. J. (高井康雄・西尾道徳訳)	1970	土壌の世界。	講談社、東京	8 + 286 pp.	E.J.Russell (1957) The World of the Soilの訳。線虫 p.116-126.
115	三枝敏郎	1970	小笠原諸島における植物寄生性線虫の調査。	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	8: 65-66.	未同定を含め36種を記録。
116	三枝敏郎・山本洋祐	1970	Additional hosts of four species of root-knot nematode (Meloitogonyne) in Japan.	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	8: 63-64.	アレナリア、キタ、サツマイモ、ジャワネコブセンチュウの寄主として、それぞれ7、3、20、3種を追加。
117	三枝敏郎・山本洋祐	1970	Xiphinema insigne Loosの分類と生態についての1、2の知見。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 45.	講要
118	三枝敏郎・殿原敏夫	1970	スイセン球根のクキセンチュウDitylenchus dipsaci (Kuhn) Filijevに対する温湯防除の試み。	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	8: 21-29.	第4期幼虫を供試。47℃70分間浸漬が効果。
119	坂本 敏	1970	Utilization of related species on breeding of sweet potato in Japan.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	5巻4: 1-4.	Ipomoea trifidaを用いたネグサレ、ネコブセンチュウ抵抗性育種に言及。
120	作山 健	1970	キタネコブセンチュウのスキ苗にたいする寄生性。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	81回: 253-254.	主根の先端部のみに寄生。産卵は認めず。
121	佐々木 壮・田中勇	1970	ネコブセンチュウとタバコ疫病菌とによる混合感染の影響 1. ネコブセンチュウが疫病の発病におよぼす影響。	鹿児島たばこ試験場報告	16:37-43.	線虫接種後14日の菌接種で著しい発病。線虫寄生により疫病抵抗性消失。
122	佐々木 壮・田中勇	1970	ネコブセンチュウとタバコ疫病菌とによる混合感染の影響 2. ネコブセンチュウ感染根に対する疫病菌の反応。	鹿児島たばこ試験場報告	16:45-55.	遊走子の根への誘引、組織汁液中における疫病菌の成長。

123	佐藤昭美	1970	ミキサー法(仮称)による根部寄生線虫類の定量.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	21: 78.	講要. イネネモグリセンチュウ、大豆のネコブ、ネグサレセンチュウ.
124	佐藤仁彦・諏訪内正名	1970	EDBの拡散に関する基礎的観察.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 33.	講要
125	佐藤テイ・湖山利彦・藤原達雄	1970	イネネモグリセンチュウの寄生と水稲の栽培条件との関係.	東北農試研報(東北農業試験場研究報告)	39: 207-219.	田植時期とH. oryzaeとH. imamuraの発生消長、栽培密度、品種間差を検討.
126	清家義明	1970	愛媛県における野菜類の栽培と線虫.	植物防疫	24(7): 279-282.	15属22種を記録. 結球ハクサイと線虫防除(D-D、EDB、DBCP剤)、コボウの紫紋羽病と殺線虫剤処理、作物の生育との関係.
127	清水 啓	1970	イネシストセンチュウ寄生水稲における光合成産物の動態.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 46.	講要
128	下川利之	1970	林業苗畑根腐病の防除試験(1).	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	10: 194-206.	線虫生息密度による被害解析(スキのキタネグサレセンチュウ)、線虫と土壌病原菌との複合被害解析.
129	下川利之・井上悦甫	1970	林業苗畑の土壌線虫防除に関する研究 1. 殺線虫剤の消毒効果.	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	2: 1-24.	キタ、ミナネグサレセンチュウ. 苗床の5121粒剤、D-D、EDB、DBCP剤処理.
130	塩原右治	1970	苗畑線虫防除試験.	群馬林試研報(群馬県林業試験場報告)	8/9: 105-118.	NCS、5121、DBCP剤、堆肥のスキ苗に対する線虫防除効果.
131	末永 健	1970	土壌線虫の薬剤による防除試験.	若手林試成果報(若手県林業試験場成果報告)	1: 51-59.	スキのネグサレ、ユミハリセンチュウにD-D、EDB、DBCP、DCIP、ドジョウビクリン.
132	末永 健	1970	殺線虫剤処理したスキ苗の秋伸び防止試験.	若手林試成果報(若手県林業試験場成果報告)	1: 60-62.	根切り、窒素欠除、ニップ(除草剤)散布の効果.
133	菅原祐幸	1970	トマト耐虫性品種の育成とその利用.	植物防疫	24(4) 135-140.	萎凋病・ネコブセンチュウ複合病抵抗性系統の育成を含む.
134	諏訪内正名・石橋定己	1970	くん蒸剤(メチルプロマイド・ホストキシン・クロロピクリン)の塩化ビニール膜に対する透過性.	農業生産技術	22(補) 52-53	講要
135	多川 閃	1970	土壌内におけるクロロピクリンの分解.	日植病報(日本植物病理学会報)	36(5) 339	講要
136	高木一夫	1970	二層遠沈浮・法による土壌線虫の分離.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	14(2) 108-110.	分離操作、同法と遠沈浮・法のカナヤサヤワセンチュウ成虫、幼虫、卵の分離結果の比較. 超音波による撹拌効果. ふるい分け法のパイプレーター使用による改良例.
137	高倉重義	1970	イネネモグリセンチュウに関する研究 第2報 イネネモグリセンチュウ寄生の品種間差.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	21: 49.	2種の本属線虫の侵入虫数等を18品種で比較.
138	高倉重義・山本忠志	1970	イネネモグリセンチュウに関する研究 第2報 北海道における発生消長.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	21: 27-31.	H. imamura, H. oryzaeは単独に生息する場合が多い. 両種の季節的消長、令構成を比較.
139	竹下晴彦	1970	林業苗畑における土壌線虫に関する研究(2) 苗畑線虫防除試験(ヘノキ播種床における殺線虫剤施用効果).	佐賀林試研報(佐賀県林業試験場研究報告)	70: 1-43.	D-D、EDB、DBCP、クロロピクリン剤を施用. ネグサレ、イシユク、ラセン、ユミハリ、ネコブ、オオハリセンチュウ、捕食性線虫、自由生活種に対する殺線虫効果およびヘノキ苗木の生育. 薬害も調査.
140	竹下晴彦	1970	薬剤が線虫相に及ぼす影響について: 2、3の事例.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	23: 228-229.	ヒノキにクロロピクリン、EDB、DBCP剤. ネグサレ、ネコブセンチュウで密度回復過程に違い.
141	竹沢淳二	1970	桑苗圃の連作障害.	蚕糸科学と技術	9巻11: 68-70.	DBCP、D-D剤による線虫防除を含む.
142	滝沢幸雄	1970	シムルトンによるマツ稚苗の薬害について.	森林防疫	19(4) 94-98.	立枯病防除薬剤. D-D剤等と比較.
143	田中 勇	1970	九州地方におけるサツマイモネコブセンチュウMeloiodogyne incognita Chitwoodの越冬形態調査.	鹿児島たばこ試報(鹿児島たばこ試験場報告)	16: 17-25.	9地点で調査. 全生育段階が検出された.
144	田中 勇・福留信明	1970	サツマイモネコブセンチュウMeloiodogyne incognita Chitwoodおよび他の土壌線虫の消長に及ぼす土壌消毒の影響.	鹿児島たばこ試報(鹿児島たばこ試験場報告)	16:27-35.	クロロピクリン、EDB剤処理後の線虫密度の回復. 被覆の有無と効果.
145	田中 勇・福留信明・木原富子	1970	寄主植物の存在しない状態におけるサツマイモネコブセンチュウ(Meloiodogyne incognita)の寄生性の存続.	鹿児島たばこ試報(鹿児島たばこ試験場報告)	16: 1-15.	水、砂、土壌中の幼虫を保存. 幼虫の内部形態の変化・温度と寄生性の関係.
146	田上義也・竹内昭士郎	1970	コンニャク根腐病に関する連続試験の経過の概要.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	17: 149-151.	殺線虫剤施用の効果を含む. 植物防疫 24(9) 369-372, 1970も参照.
147	徳重陽山	1970	九州地方におけるマツの衰弱と根糸との関係について.	森林防疫	19(6) 146-149.	Bursaphelenchus 属線虫の発見を含む. 健全なマツを直接衰弱されるような病原微生物は見つかっていないとする.
148	豊田久蔵	1970	種子粉衣による病害虫防除に関する研究 第2報 種子粉衣の数種病害虫防除効果.	福岡農試研報(福岡県農業試験場研究報告)	8: 1-8.	MIPC、PHC、MEP、カルタツ剤によるイネシシガレセンチュウ防除を含む.
149	豊田久蔵・吉村清一郎	1970	水稲病害虫の省力防除とその問題点.	九州農業研究	32:25-28.	ダイアジン粒剤による苗代の心結線虫病・キリウジガガンボの同時防除を含む.
150	堤 正明	1970	インゲン根腐病の土壌施用がダイズシストセンチュウの密度におよぼす影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 48.	講要
151	宇田川 晃・都丸敬一	1970	タバコ萎えそ病について.	葉たばこ研究	55: 25-29.	Trichodoros minor がウイルスを伝搬.
152	上林 謙	1970	イネシシガレセンチュウと黒変米.	今日の農業	14巻8: 64-66.	症状と対策、発生要因、線虫の害、防止対策(種粉消毒).
153	上林 謙・天野隆・中西 勇	1970	黒変米(仮称)に関する研究 . . イネシシガレセンチュウとの関係.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 47.	講要
154	牛山欽司	1970	ミカンセンチュウのカンキツ実生苗での発生.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	14(2) 95-100.	夏橙>ユズ>カラタチの順に寄生数が多い. 増殖適温は20-30℃、1世代は20-26℃で5~6週間.
155	牛山欽司・大垣智昭	1970	温州ミカン園の忌地に関する研究(第3報) 1. ミカンセンチュウおよびチャネグサレセンチュウがミカン樹に及ぼす影響. 2. 休閑草生および殺線虫剤処理による忌地打破効果.	神奈川農試研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	18: 46-56.	ミカン園内の線虫調査、カラタチでの接種試験・三要素施肥の影響. ミカン樹におよぼす影響(収量・糖度). ルーピン、フロムグラス、チモシー、ケンタキ-31、フェスク輪作でカラタチ、ミカンの生育良好. D-D、EDB、DBCP剤処理.
156	藍尾貞夫	1970	秋やさいの病害虫の防ぎ方.	青森農業	21巻9: 31-32.	イチゴメセンチュウ、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの薬剤防除を含む.
157	渡辺政善	1970	苗畑土壌線虫防除試験.	福島林試研報(福島県林業試験場報告)	1: 71-75.	騰写. スギのネグサレセンチュウに5121粒剤.
158	八木田秀幸	1970	桑根周囲の土壌から分離されるDorylaimida(目)センチュウ(予報).	埼玉畜試要報(埼玉県畜産試験場要報)	42: 78-84.	Longidorus, Xiphinema 属線虫を検出. 土壌中の水平・垂直分布、季節的発生消長.
159	八木田秀幸	1970	桑根周囲の土壌から分離されるドリライムス科センチュウについて(予報).	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	40: 19.	講要
160	八木田秀幸・小室康雄	1970	クワモザイク株からの1ウイルスの土壌線虫(Longidorus martini)による伝播.	日植病報(日本植物病理学会報)	36(5) 371.	講要
161	山田俊雄・酒井久夫・吉鹿正三	1970	田畑輪換によるネコブセンチュウの抑制防除に関する試験.	福岡農試研報(福岡県農業試験場研究報告)	8: 37-42.	水田化1年で線虫密度半減、2-3年で1/6に減少.
162	山本敬夫	1970	ベルマン漏斗法における土壌量が線虫の分離効果におよぼす影響.	三重農試研報(三重県農業試験場研究報告)	5: 29-40.	ミカンネ、ネコブ、ミナネグサレ、ラセン、ニセネグサレ、自活性線虫を供試. 土壌量、分離時間、温度、の直径等を検討. 土壌10-20gを4-6日分離が好成績.
163	山本敬夫	1970	ミカンの根におけるチャネグサレセンチュウの寄生部位.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	12: 87.	講要. 細根にのみ寄生. 防除は樹冠下外周に重点.
164	家城洋之・米山光郎	1970	PCNB・DBCP混合剤の白紋羽病防除効果について.	日蚕中部講要(日本蚕糸学会中部支部講演集)	26: 9.	講要
165	横川登代司	1970	殺線虫剤処理と根切作業の併用が苗木生育に及ぼす影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 43.	講要
166	横川登代司	1970	殺線虫剤処理と根切作業を併用した苗木の生育.	森林防疫	19(7) 166-169.	EDB、クロロピクリン施用時の徒長防止に根切が有効.
167	横尾多美男	1970	桑園土壌の線虫相に関する調査研究 1. XiphinemaとParatylenchus属の線虫について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 45.	講要
168	横尾多美男	1970	土壌線虫調査覚書 その2.	佐賀大農業(佐賀大学農学要報)	29: 15-28.	バーク堆肥埋め立て地の土壌線虫相(Cephalobus sp., Brachorchulus sp., Mylenchulus sp.), 異常生育を示したタバコ苗発生の苗床土壌の線虫相(Rhadinis sp., Aphelenchoides sp.(?), Achromadora sp.)とそれらの計測値及び図.

169	横尾多美男	1970	Studies on the nematode fauna of soil of the mulberry plant field in Kyushu. II. On the occurrence of two pin nematodes, <i>Paratylenchus aciculatus</i> Brown, 1959 and <i>P. morius</i> n.sp.	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	30: 1-10.	2種のピンセンチュウ(内1種は新種として記載)及び自活性線虫の桑園における垂直分布、季節的消長。 <i>P.aciculatus</i> として記録された種は、後に別種であるとして <i>Gracilacus yokooi</i> と命名された(No. 83-175)
170	横尾多美男・仲洲	1970	佐賀県下におけるHirschmanniella spp.(イネネモグリセンチュウ類)の分布状況について	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	30: 45-61.	2種の標高別の分布状況
171	横山 正・井上 巖	1970	Gordius 属ハリガネムシ成虫の体内構造について	動物(動物学雑誌)	79(11/12): 366-367	講要
172	藤原敏夫	1970	ダイズシストセンチュウの接種時期と線虫の繁殖・ダイスの被害	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 47.	講要
173	藤原敏夫	1970	植物寄生線虫の土壌別分布調査	十勝病虫研報(十勝病害虫研究会報)	4: 3.	講要
174	藤原敏夫・気賀 沢知男・岡田利 吉岡真一	1970	十勝地方における火山灰土壌と線虫の分布	北農	37巻7: 29-35	シスト、ネコブ、ネグサレ、ピンセンチュウと土壌水分含量、作物との関係
175	吉岡真一	1970	大豆枯れ上り現象の原因と対策	農及園(農業および園芸)	45(9): 1381-1389	EDB剤によるネコブセンチュウ防除効果を含む
176	吉岡真一・小梁 川忠士	1970	畑地の地力と大豆の生育について その4 大豆の登熟阻害現象について	北農	37巻5: 1-12	作付体系とシスト、ネコブセンチュウの関係。EDB剤処理効果を検討
177	湯原 巖	1970	クワタリアの根、茎葉粉末施用によるキタネコブセンチュウの影響	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭45: 48.	講要
178	湯原 巖	1970	造成草地および未墾地における線虫生態相	北海道草地研報(北海道草地研究会報)	4: 41.	それぞれの草地の線虫相の特徴および相違点
179	Anon.(東北農試栽培第2部作物第3研)	1970	放射線照射によって育成された大豆新品種「ライデン」および「ライコウ」育成報告	東北農試研報(東北農業試験場研究報告)	40: 65-105.	ダイズシストセンチュウ抵抗性強。育成過程及び特性。照射材料はネマシラス
0		1971	昭和46年(1971)			
1	安部 浩	1971	ボタンに寄生したキタネグサレセンチュウの被害とその防除に関する2、3の知見	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 32.	講要
2	青木淳一	1971	方法のちがいはる土壌動物検出数の差	Edaphologia	5: 5-8.	志賀高原IBP特別調査地域の調査結果。Tullgren装置、Baermann装置、O'Conner装置、実体顕微鏡により平方メートル当たりの推定個体数の比較。線虫を含む
3	有田昌雄	1971	砂丘地帯の畑かんの展開	畑地農業	150: 21-	D-D剤のナガイモへの薬害に言及
4	近岡一郎	1971	イチゴに加重するネグサレセンチュウの種類と防除	農及園(農業および園芸)	46(12): 1707-1711	発生分布および種類、被害・症状、苗の線虫寄生、寄主植物、本圃における発生消長、防除方法(苗、本圃: D-D、EDB、DBCP剤)
5	近岡一郎	1971	大根のキタネグサレセンチュウ防除の最近の知見	今月の農業	15巻9: 70-72	マリーゴールドの利用(品種比較試験)、有機肥料の効果
6	近岡一郎・大林 延夫・推名清治	1971	三浦ダイコンに加重するキタネグサレセンチュウの総合防除に関する研究	神奈川農研報(神奈川県農業試験場共同研究報告)	2: 1-50.	沿革、被害の現況、病徴、収量、各種作物の被害(カンラン、ジャガイモ、スイカ、トマト、インゲン)、寄生植物、薬剤防除(D-D、EDB、DBCP、NCS剤)、処理方法(ビニル被覆、処理前耕起、注入の深さ、間隔)、効果の持続、品質・収量への影響、薬害、堆肥、有機質資材施用、マリーゴールドの利用、上記の防除法の組合わせ(総合防除)
7	藤川 隆・富来 務・佐藤俊次	1971	キュウリ根こぶ線虫病の薬剤防除(1)	九州農業研究	33: 105.	D-D、カヤエース、テラクAP剤が高い効果
8	藤本 清	1971	初消毒後のイネニンガレセンチュウの活動性と増殖について	応動昆虫中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支部会報)	13: 11-13.	防除効果の要因として活動力の低下が大、次いで死亡率・増殖率が変化
9	藤本 清	1971	消毒前から遊出したイネネモグリセンチュウの活動性と増殖について	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 30.	講要
10	藤本 清・足立年一	1971	カルタップ剤(バダン)の土壌線虫に対する効果	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	13: 67-68.	講要。DBCP剤に劣るが、ネコブセンチュウに対し実用化を期待
11	藤下章男	1971	林業苗圃における土壌線虫防除試験	静岡林試研究調査資料(静岡県林業試験場研究調査資料)	6: 2+30 pp.	線虫相、発生消長、防除試験(D-D、EDB、DBCP、カーバム、NCS、ダイシストン、テラクAP剤、有機質肥料)
12	深沢永光	1971	農作物の病害虫防除[11]。4. 花の病害虫防除(3)	農及園(農業および園芸)	46(2): 426-430	キクハガレセンチュウの防除を含む
13	深沢永光・小林 義明	1971	ハガレセンチュウ(Aphelenchoides ritzemabosi)による夏ギク異常症状の薬剤防除	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	18: 126.	ランネット剤の仮植床処理が高い効果
14	後藤 昭	1971	阿蘇九重地区の高草原地のネコブセンチュウ	九州病虫研報(九州病虫研究会報)	17: 78-80.	キタネコブセンチュウのみ検出
15	後藤 昭	1971	阿蘇九重地区の自然草地、人工草地における線虫の分布密度比較調査例	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 31.	講要
16	後藤 昭・岡田忠 虎・佐野善一	1971	阿蘇九重高原地区の大規模草地で警戒を要する害虫	九州農試年報(九州農業試験場年報)	昭45: 45-47.	自然草地・人口草地における植物寄生性線虫の検出頻度を示す
17	後藤 昭・佐野善一	1971	殺線虫剤の室内検定法としての密閉容器内くん蒸法の検討	九州病虫研報(九州病虫研究会報)	17: 81-84.	サツマイモネコブセンチュウに対するEDB、EDB・EDC剤のベルマン法分離幼虫数抑制率とゴール指数抑制率を検討、採集時期・寄主の違いによるEDB感受性、上記線虫とミナメネグサレセンチュウのEDB感受性を比較
18	後藤三千代	1971	庄内地方に於けるイネネモグリセンチュウの発生消長について	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 29.	講要
19	原沢辰常	1971	東北地方における豆類生産の動向と地域性。In: 東北地方豆類生産事情(第1部)	日本豆類基金協会、東京	p. 33-96.	連作による線虫害が問題となり、数県ではシストセンチュウ抵抗性大豆品種が奨励品種となる。同書 p.269-340, 341-367に抵抗性品種の普及状況等
20	早坂義雄・小原 憲由	1971	土壌線虫の防除に関する試験	宮城林試業務成績(宮城県林業試験場業務成績)	昭45: 53-55.	マリーゴールド跡地のスキのネグサレセンチュウ、EDB剤の効果と比較。単播、点播が線虫検出数少ない
21	林 勇・西沢 孝・大島康臣	1971	温室バラのセンチュウに関する試験 第1報 寄生性センチュウの形態調査	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	18: 124-125.	クルマネグサレ、キタネコブ、ピン、オオガタハリ、ワ、ユミハリ、ラセンセンチュウを検出
22	平野 暁	1971	忌(いや)地現象とその研究動向[1]忌地除去に関する文献学的考察	農及園(農業および園芸)	46(2): 321-326.	連作害除去を目的とした実験例を整理
23	平野 暁	1971	忌(いや)地現象とその研究動向[2]忌地除去に関する文献学的考察	農及園(農業および園芸)	46(3): 456-460.	前報の続き
24	平野和弥	1971	トマトにおける萎ちよう病菌とネグサレセンチュウとによる感染初期の経過	日植病報(日本植物病理学会報)	37(2): 172-173.	講要
25	平野和弥・河村 貞之助	1971	サツマイモネコブセンチュウとの混合感染におけるFusarium spp.の寄生性の転換	千葉大園学報(千葉大学園芸学部学術報告)	19: 29-38.	5植物に対する線虫と3菌種の接種。いずれも菌の寄生性と根の組織に変化
26	平田明由	1971	桑園の植物寄生性線虫の分布と発生消長について	群馬畜試報(群馬県畜業試験場報告)	44: 1-12.	ネコブ、ピン、ニセシスト、ワ、ラセン、オオガタハリ、ユミハリ、ナガハリセンチュウの分離法(ベルマン、別ベルマン、遠心浮遊法)の検出率の比較、垂直分布、発生消長
27	平田明由	1971	クモザイク病土壌処理と発病との関係	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	22: 21.	講要
28	平田明由	1971	前橋付近桑園における線虫の分布	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	41: 10.	講要
29	平田明由・小島 暁	1971	桑園の土壌線虫に関する研究:DBCP剤の処理時期と処理量について	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	22: 19.	講要
30	平田明由・小島 暁	1971	桑園土壌線虫防除試験	群馬畜試年報(群馬県畜業試験場年報)	昭45: 20.	線虫相、垂直分布、発生消長、防除
31	広間勝己・御子 柴公人・杉山信 太郎	1971	ダイズシストセンチュウの生理的系統について	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 28.	講要
32	堀 正侃	1971	植物防疫行政進展の概況	植物防疫	25(6): 231-234.	昭和34-38年:線虫検診事業、昭39から果樹線虫対策、昭25:D-D剤の輸入
33	細田隆治	1971	マツノマダラカミキリより分離したマツノサイセンチュウ幼虫のマツ苗への接種試験	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	22: 135-137.	接種苗は総て枯死
34	一戸 稔	1971	土壌病害虫防除技術の発展:土壌線虫。In: 植物防疫この二十年	植物防疫事業二十周年記念会、東京	p. 78-81.	種類の確定、耕種的・生物的・物理的防除・化学的防除、関連病害の研究の歴史と現状
35	一戸 稔	1971	作物の線虫被害およびその防除。In: 植物防疫この二十年	植物防疫事業二十周年記念会、東京	p. 190-195.	作物別(野菜、イモ、マメ類、特用作物、花卉、牧草、果樹、チャ、クワ、林業苗、イネ)の線虫防除技術とその効果

36	一戸 稔・岡本好一・三井 康・中園和年	1971	ミカン園の線虫類について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 29.	講要
37	稲垣春郎	1971	湛水による土壌病害虫防除の可能性。	北農	38巻9: 35-43.	総説. ネコブ、ネグサレセンチュウに関するデータを含む。
38	稲垣春郎	1971	イチゴの線虫に対するメソミル剤、エチルチオマトン剤の効果。	日植病報(日本植物病理学会報)	37(5) 407.	講要
39	稲垣春郎・堤 正明	1971	Survival of the soybean cyst nematode, <i>Heterodera glycines</i> Ichinohe (Tylenchida: Heteroderidae) under certain storing conditions.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	6(4) 156-162.	風乾土壌の中で9年、湿った状態の大豆の根で7年間生存。
40	稲生 稔	1971	イネシソコセンチュウの水媒感染について 第3報 多発地における雑草寄生とほ場ダイズシソコセンチュウの卵のうららびにシソコの加害性比較試験。	関東害虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	18: 123.	畦畔のヌカキビ、ヒエ、メシバから検出。
41	石橋信義・村岡実	1971	イネシソコセンチュウの卵のうららびにシソコの加害性比較試験。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 30.	講要
42	石川昌男・松田明・浅野伸幸	1971	連作障害の軽減対策。	農及園(農業および園芸)	46(3) 477-481.	総説. 病害虫対策(線虫を含む)、施肥および土壌改良、水による対策、その他。
43	石川元一	1971	菊のネグサレセンチュウ被害とその防除。	今日の農業	15巻11: 35-37.	NCS、ドジョウビクリン、EDB、テラクアP、ソイルメート剤の効果。
44	伊戸泰博	1971	Predation by manure-inhabiting mesostigmatids (Acarian: Mesostigmata) on some free-living nematodes.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	6(2) 51-56.	中気門類の3種ダニによるRhabditi elongata, R. teres, Panagrellus redivivus, Aphelenchoides composticola, Aphelenchus avenaeの捕食。
45	伊藤一男	1971	材線虫によるマツ類の枯損について; まつくい虫の被害との関連。	山林	1046: 35-42.	材線虫の発見から接種試験等その後の研究経過。
46	伊藤喜隆	1971	ヤツデなどに寄生するネコブセンチュウについて。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 27.	講要
47	岩木満朗	1971	スイセンから分離されたウイルス 第6報 <i>Arabis mosaic virus</i> について。	日植病報(日本植物病理学会報)	37(5) 402.	講要
48	岩木満朗	1971	数種球根類に発生するウイルスの種類と性質。	植物防疫	25(5)180-183.	TRV(線虫伝搬)等の解説。
49	岩木満朗・小室康雄	1971	スイセンから分離されたウイルス 第2報 <i>Tomato ring-spot virus</i> とその <i>Xiphinema americanum</i> による伝播。	日植病報(日本植物病理学会報)	37(2) 108-116.	線虫による伝播を確認。
50	岩木満朗・小室康雄	1971	<i>Tomato ringspot virus</i> の <i>Xiphinema americanum</i> による伝播の形態。	日植病報(日本植物病理学会報)	37(3) 198-199.	講要
51	空野秀雄	1971	ハッカ育種の現状と今後の課題。	育種(育種学雑誌)	21(5) 296-298.	ピンセンチュウ抵抗性の強化にふれる。
52	柏尾具俊・近藤栄造・横尾多美	1971	桑園土壌から検出されたピンネマの生態についての2, 3の知見。	九病虫研報(九州病害虫研究会報)	0.8083333	講要
53	柏尾具俊・横尾多美	1971	桑園土壌から検出されるピンセンチュウ (<i>Paratylenchus</i> spp.) に関する2, 3の知見。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 30.	講要
54	桂 琦一	1971	根コブセンチュウに誘発されるダイコン黒腐病。	京都府大農付農場報(京都府立大学農学部付農場報告)	4: 1-6.	発生と発病、感染機構(線虫接種との関係、線虫の体内保菌)、防除試験(エチル塩化水銀、EPN、EDB剤)。
55	河村貞之助	1971	花類病害の研究の現状と問題点。	植物防疫	25(5) 177-179.	線虫による病害を含む。
56	Khurana, S. M. P. & Singh, S.	1971	Interrelationship of a fungus, <i>Curvularia lunata</i> with root-knot nematode, <i>Meloidogyne javanica</i> in sugarcane seedling.	日植病報(日本植物病理学会報)	37(4) 313-315.	サトウキビ立枯病におけるネコブセンチュウとの協働。
57	菊池 実	1971	桑園の土壌線虫。	蚕糸科学と技術	10巻10: 79-81, 3 pls.	ネコブセンチュウの形態、生態、被害。
58	桐谷圭治・中筋房夫	1971	害虫の総合防除-システムズ・アナリシスによるアプローチ。	農業技術	26(3) 105-110.	被害解析の項でSeinhorstの理論として、モデル式を解説。
59	清原友也	1971	マツノザイセンチュウの接種試験。	林試九州支場年報(林業試験場九州支場年報)	13(昭45) 12-15.	健全木への接種により病原性を確認。病徴の進展過程を調査。
60	清原友也・徳重陽山	1971	マツの生立木に対する線虫 <i>Bursaphelenchus</i> sp. の接種試験。	日林誌(日本林学会誌)	53(7) 210-218.	接種線虫数とマツの異常および枯死、線虫を接種したマツの個別経過、試験期、時期別、樹種別、品種別の線虫接種結果。
61	小林富士雄・細田隆治・奥田素男・竹内昭彦	1971	各種穿孔虫からのマツ材線虫の分離。	日林関西支誌(日本林学会関西支部大会講演集)	22: 137-139.	マツアナキソウムシからも線虫の幼虫(マツノザイセンチュウとは別種?)を分離。
62	小林義明	1971	秋ギクにおけるハガレセンチュウ (<i>Aphelenchoides ritzemabosi</i>) の薬剤防除効果。	関東害虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	18: 127.	サリチオン乳剤、ランネット乳剤、同粒剤が有効。
63	小林義明	1971	夏菊、秋菊のハガレセンチュウの防ぎ方。	今日の農業	15巻7: 47-50.	症状、発生病態、伝播、防除(ダイアジン、ディフテックス、キルパール、メオパール、バラチオン、サリチオン、ランネット)。
64	小林義明・深沢永光・佐藤 清	1971	ネグサレセンチュウ (<i>Pratylenchus</i> sp.) によるニンジン黒斑病とその防除。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 33.	講要
65	小林義明・庄司和雄・深沢永光・古木重郎・船越桂市	1971	ハガレセンチュウ <i>Aphelenchoides ritzemabosi</i> (Schwartz) Steiner によるキウイの縮症。	静岡県農試研報(静岡県農業試験場研究報告)	16: 71-82.	病徴ならびに発生状況、線虫の形態、線虫の寄生状況、葉位との関係、接種試験、薬剤防除(ランネットの仮植床処理)、葉組織の観察。
66	駒井功一郎・佐藤庄太郎	1971	殺線虫剤によるジャガイモの褐変現象に関する研究 第1報 褐変機構について。	農化(日本農業化学会誌)	45(11) 483-488.	D-D、EDB、DBCP剤。塊根組織に殺線虫剤が浸透し、組織を破壊。ポリフェノール類が酸化され褐変。
67	栗山尚志・国安克人・菅原裕幸	1971	ネコブセンチュウ抵抗性検定における接種用ふ化幼虫の多量採集法。	農及園(農業および園芸)	46(11) 1609-1610.	卵嚢が形成されている根をガラスシリンダー中で20°Cに保って通気する。
68	桑原雅彦	1971	桑園の土壌線虫検出法の検討。	日蚕東北講要(日本蚕糸学会東北支部研究発表会講演要旨)	25: 29-30.	講要
69	真宮靖治	1971	Effect of temperature on the life cycle of <i>Pratylenchus penetrans</i> on <i>Cryptomeria</i> seedlings and observation on its	Nematologica	17(1) 82-92.	異なる温度条件のスギ苗でのキタネグサレセンチュウの発育と産卵数。
70	真宮靖治・清原友也・徳重陽山	1971	マツの材組織中にみられる <i>Bursaphelenchus</i> 属線虫の1新種、マツノザイセンチュウ(仮称)。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 28.	講要
71	増田康哉	1971	「D-D」剤による萎葉病羽病防除について。	九州蚕糸	2: 49.	クロルピクリンと同程度の効果。
72	松田 明・下長根鴻・尾崎克己	1971	作物の連輪作とツリウム病発生との関係(第2報)各種作物栽培がキュウリつる割病および病原菌の変動に及ぼす2, 3の要因。	日植病報(日本植物病理学会報)	37(3) 173-174.	講要
73	松田 明・下長根鴻・尾崎克己・渡辺文吉郎	1971	農業による畑水稲連作障害の軽減効果。	日植病報(日本植物病理学会報)	37(3) 191-192.	講要
74	松井弘之	1971	ネコブセンチュウによるゴール肥大とエチレンとの関係について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 31.	講要
75	三井 康	1971	<i>Aphelenchus</i> の寄生性 1. 植物根への侵入について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 33.	講要
76	宮川経邦	1971	徳島県下に発生したミカンの根ぐされ衰弱病(仮称)。	植物防疫	25(2) 70-74.	チャネグサレセンチュウを検出。土壌の蒸気、D-D、DBCP剤(生育中)による消毒と効果。
77	宮良高忠	1971	沖繩の病害虫をめぐる諸問題。	植物防疫	25(11) 429-432.	殺線虫剤は本土の倍量必要。
78	三善重信・山田俊雄・吉鹿正三	1971	さいとも連作障害に関する研究 第1報 連作障害の発生と田畑輪換効果。	福岡農試研報(福岡県農業試験場研究報告)	9: 45-48.	2作目より減収。水田化2年で連作害解消。
79	三善重信・小宮正寛・吉田桂輔・吉村大三郎・仲	1971	さいとも連作障害に関する研究 第2報 さいとも連作障害と薬剤防除効果。	福岡農試研報(福岡県農業試験場研究報告)	9: 49-54.	クロルピクリン、D-D剤による土壌消毒の効果範囲。
80	三善重信・小宮正寛・吉田桂輔・吉村大三郎・仲	1971	サトイモの連作障害に関する研究: 発生実態と防除について。	九病虫研報(九州病害虫研究会報)	17: 98-101.	2作目から障害発生、クロルピクリン、D-D剤が高い効果。
81	水本順敏	1971	蒸気土壌消毒とマンガン過剰症。	農業技術研究	25巻4: 16-18.	線虫記述なし。蒸気消毒の副次的効果とその対策。
82	百田洋二・大島康臣	1971	<i>Criconeimoides</i> 属の分類学的研究。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 27.	講要
83	森本 桂・岩崎厚	1971	マツノザイセンチュウ伝播者としてのマツノマダラカミキリの役割。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	25: 165-166.	耐久型幼虫を体に付けて伝播することを確認。

84	森田 偉	1971	キクの主な病害とその防除.	植物防疫	25(5) 200-203.	203.	連作障害の原因としてのネグサレセンチュウ、夏菊の異常症状(ハガレセンチュウ)とその防除法を含む。
85	村岡 実・石橋信義・横尾多美男	1971	ダイズシストセンチュウ(Heterodera glycines)の卵の生産と加害性について.	九病虫研報(九州病害虫研究会)	17: 144.		講要
86	村岡 実・石橋信義・横尾多美男	1971	ダイズシストセンチュウの発育・産卵におよぼす生育状態の影響.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 31.		講要
87	中西 勇・上林 隆・天野 隆	1971	黒粟米(仮称)に関する研究 第1報 症状ならびに実態調査.	関西病虫研報(関西病害虫研究会)	13: 73-74.		講要: イネシガレセンチュウが関与.
88	中園和年・山本 敏夫・近藤鶴彦	1971	連作障害発生ミカン園における主要寄生線虫の季節的発生消長.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 29.		講要
89	西山康浩	1971	農薬の魚毒性分類表について.	植物防疫	25(7) 279-280.		No. 67-168を改定.
90	西山喜一・高橋登美雄	1971	バナナの生態に関する研究 第7報 線虫寄生と生育について.	熱帯農業	15(2) 86-90.		厚木市の温室内における調査. 線虫寄生状況、土壌中の垂直分布、被害と生育及び収量.
91	西山喜一・高橋登美雄	1971	中南米産ナス科植物の農作物利用に関する研究.	熱帯農業	15(3) 169-173.		ジルベバ(Jirveber)又はこれを台木としたトマト、ナスはネコブセンチュウの寄生なし.
92	西沢 務・大島康臣・伊藤善隆	1971	黒変症が発生するナガイモ畑の線虫について.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 28.		講要
93	西沢 務・大島康臣・栗原 浩	1971	連作および輪作実験場における線虫相.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	18: 121-122.		陸稲、サツマイモ、ラッカセイ、サトイモ、陸稲連作跡サトイモ、サトイモ・ラッカセイ輪作区.
94	岡 克	1971	最近の黄色種新品種の解説.	葉たばこ研究	56: 20-26.		線虫抵抗性品種を含む.
95	岡田利承	1971	The hatching response of the soybean cyst nematode, <i>Heterodera glycines</i> Ichinohe (Tylenchia: Heteroderidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	6(2) 91-93.		ダイズ、インゲンの根・出液の濃度とダイズシストセンチュウの孵化の関係.
96	岡田利承	1971	ダイズシストセンチュウ卵の前処理と根浸出液のふ化促進効果の関係.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	15(4) 215-221.		根浸出液に入れる前に水中に浸漬したシストからの孵化が多い. 前処理時の水温・時間を検討.
97	岡田利承	1971	ダイズシストセンチュウのふ化におよぼす寄主植物根の出液の作用の安定性.	農業核報(農業検査所報告)	11: 118-121.		加温・蒸留濃縮した液の作用は5°C保存で半年から1年3か月間不変.
98	岡田利承	1971	ダイズシストセンチュウのシスト内ふ化抑制物質.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 31.		講要
99	大羽克明・弥富 達三	1971	浸透性殺線虫剤に関する研究.	関西病虫研報(関西病害虫研究会)	13: 69-70.		講要. Temik, Lannateの効果. 葉害等.
100	大林延夫・近岡 一郎	1971	キタネグサレセンチュウの防除と密度還元抑制に関する試験.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 32.		講要
101	大橋雄司	1971	タバコのネコブセンチュウ抵抗性.	日本専売公社宇都宮たばこ試験場. 宇都宮園芸学会大会(園芸学会大会講演要旨)	1 + 12 pp.		謄写. 抵抗性品種の育種・抵抗性の研究結果概要. 線虫談話会資料.
102	大川 清・三枝敏郎	1971	ウチダカノコリウの連作障害.	園芸学会大会(園芸学会大会講演要旨)	昭47春季: 310-311.		講要. ネグサレセンチュウ.
103	大島康臣・西沢 務・平田由由・岡部光波	1971	クワ園の線虫相について.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 33.		講要
104	大山浪雄・齊藤 明	1971	マツノザイセンチュウ接種木じん皮汁液のマツ芽ばえ枯損作用.	林試九州支場年報(林業試験場九州支場年報)	13(昭45): 16-17.		クロマツはアカマツに比して枯れるものが多い. 前者の生存率と汁液中のタンニン濃度間に高い相関.
105	三枝敏郎	1971	ランに寄生する線虫.	えびね会誌	1: 37-42.		未見
106	三枝敏郎・山本 洋祐	1971	輸出ユリ球根に寄生するXiphinema insigne Loosの分布と寄主植物.	植防疫報(植物防疫所調査研究報告)	9: 27-38.		線虫の形態、ユリ球根産地における分布、ベルマン法における浸漬時間と検出数、園場ヤマユリ株における寄生部位、線虫の時期的消長(ウチダカノコリ、ヤマユリ、寄主植物).
107	三枝敏郎・山本 洋祐	1971	ユリ球根産地におけるXiphinema insigne Loosの分布と寄主植物.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 28.		講要
108	齊藤 明	1971	マツノザイセンチュウ接種木のフェノール性物質含有量の接種後の推移.	林試九州支場年報(林業試験場九州支場年報)	13(昭45): 18.		カテコールタンニン含有量の少ない木が枯死.
109	齊藤 明	1971	健全木、異常木のフェノール性物質含有量.	林試九州支場年報(林業試験場九州支場年報)	13(昭45): 19-23.		樹体の健全度とカテコールタンニン含有量の間に密接な関係.
110	桜井 清	1971	転換作物としての大豆の地位.	農業	18巻2: 19-23.		線虫に言及.
111	作山 健	1971	本県の林業苗畑における土じょう線虫の被害の実態と防除.	岩手林試成果報(岩手県林業試験場成果報告)	3: 1-11.		6種の線虫を記録. 検出頻度、前作との関係、被害、防除.
112	佐野逸夫・植田 幸夫	1971	DBCP剤高濃度液の土壌処理による桑園の線虫防除効果.	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	22: 19.		講要
113	佐野善一・後藤 昭	1971	密閉容器内線虫土壌くん蒸法よりみた数種殺線虫剤の有効性.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 33.		講要
114	佐藤仁彦	1971	EDBの土壌による吸着測定を試み.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 18.		講要
115	Seinhorst, J. W. & 国安 克人	1971	Interaction of <i>Pratylenchus penetrans</i> and <i>Fusarium oxysporum</i> forma pisi race 2 and of <i>Rotylemchulus reniformis</i> and <i>F. oxysporum</i> f. pisi race 1 on peas.	Nematologica	17(3) 444-452.		線虫の初期密度 500頭/土壌500g以上でキタネグサレセンチュウと菌によるエンドウの立枯れが発生.
116	清水 啓	1971	イネシストセンチュウの寄生が水稻の収量におよぼす影響.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 32.		講要
117	下川利之	1971	林業苗畑の根ぐされ病防除試験(II).	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	11(昭45): 231-252.		謄写. スギ苗のキタネグサレセンチュウ. 薬剤防除効果、生息密度別被害解析、フザリウム菌との複合被害度の解析.
118	進藤 登・中島 昇・三鍋輝男・高橋弘毅・大坪 巖	1971	D-Dの製造に関する研究(第1報)塩素反応の検討.	農業生産技術	24: 16-22.		塩素化したプロピレンの反応条件及び反応装置の検討.
119	進藤 登・林 真守・三鍋輝男・中島 昇・高橋弘毅・大坪 巖	1971	D-Dの製造に関する研究(第2報)主として生物試験.	農業生産技術	26: 37-45.		有効成分の含量増加と、薬害成分の生成抑制の必要.
120	庄司次男	1971	東北地方国有林苗畑における植物寄生線虫の分布.	林試研報(林業試験場研究報告)	241: 19-29.		キタネグサレセンチュウ、ユミハリセンチュウが多い. 樹種別の線虫検出頻度、土壌環境条件(土性、pH、前後作)と線虫の生息密度.
121	庄司次男・佐藤 邦彦	1971	秋まきスギ苗のネグサレセンチュウの薬剤防除試験.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	22: 129-132.		キタネグサレ、ユミハリセンチュウにNCS、DBCP、5121粒剤.
122	杉 泰昭	1971	とりあげ法(Hand sorting)との比較によるベルマン装置の抽出効率について.	Edaphologia	5: 1-4.		線虫の種類別の抽出効率及び推定法. Haplolaimidae科で7.7±3.0%、Criconeima属で1.1±3.2%、Xiphinema属で4.5±5.7%、Mononchidaeで17.2±55.8%、Rhabditisで3.8±0.4%、Cephalobidaeで2.9±0.7%.
123	鈴木春夫・小林 義明・古市重郎・森 喜作	1971	蒸気土壌消毒と病害虫.	静岡農試特報(静岡県農業試験場特別報告)	10: 16-24.		温室メロンの蒸気消毒の一部. ネコブセンチュウに対する効果を含む.
124	鈴木 実	1971	淡水産ミクロ動物のColonizationに関する研究 1. 富士五湖湖畔におけるColonizationの土壌中におけるクルルビクリンの分解と消毒煙における塩素の消長.	動雑(動物学雑誌)	80(6) 191-201.		線虫(未同定)を含む.
125	多川 閃	1971	土壌中におけるクルルビクリンの分解と消毒煙における塩素の消長.	葉たばこ研究	58: 84-88.		線虫記述なし.
126	高木一夫	1971	浸透性殺線虫剤のチャネグサレセンチュウに対する効果.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 32.		講要
127	高橋芳雄	1971	落花生の連作障害に関する研究.	千葉農試研報(千葉県農業試験場研究報告)	11: 1-12.		連作によりキタネコブセンチュウ、黒斑病、褐斑病の発生が増加. これらは相互に作用. 深耕・増肥・早播き・密植より薬剤防除(EDB剤)の効果が大きい.
128	田村弘忠	1971	線虫捕食菌Arthrobotrys oligosporaの捕捉器官形成におよぼす線虫の影響.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	15(4) 264-266.		Aphelenchus avenae, Rhabditis sp. の兩種又は、一方の生存虫、熱殺個体の添加時の器官形成.
129	田村弘忠	1971	捕食菌Arthrobotrys oligosporaのring形成.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	昭46: 27.		講要

130	田中彰一	1971	ブドウのウイルス病(1).	農及園(農業および園芸)	46(2) 口 絵及び解説	ファンリーフの病徴のカラー写真と解説.
131	寺中理明・宮原 義雄	1971	九州における豆類の病害虫. In: 九州豆類生産事情(上).	日本豆類基金協会、東京	p. 269- 300.	九州の大豆から検出される線虫、被害、抵抗性品種、 線虫密度と収量の関係、p. 294-8.
132	照屋林宏	1971	沖縄における有害線虫.	植物防疫	25(11) 458-460.	種類、被害、発生、生態、防除.
133	種田幸夫	1971	ネコブセンチュウによるクワの被害解析(1) 線虫接種当年のクワの苗の生育.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	昭46: 30.	講要
134	種田幸夫	1971	桑園の植物寄生線虫の種類について(予 報).	日蚕講要(日本蚕糸学 会大会講演要旨集)	41:10	講要
135	種田幸夫	1971	Tagetes minutaの線虫防除効果について (予報).	日蚕関東講要(日本蚕 糸学会関東支部学術 講演会講演要旨)	22:18.	講要
136	徳重陽山	1971	松くい虫と材線虫そしてマツの枯損.	林業技術	357: 8-11.	研究の動向、被害樹の症状経過、衰弱枯損に関わる 諸要因、材線虫のあらまし.
137	徳重陽山	1971	松くい虫と材線虫.	植物防疫	25(12) 480-484.	松くい虫とその周辺(種類、症状、経過、水分異常)、材 線虫(発見、形態、所属、生態、地理的分布、寄生性、 加害性、接種木の生理的変化).
138	富来 務・藤川 隆・佐藤俊次	1971	イネ心結線虫病に関する研究(第4報)本病 に対する各種薬剤の防除効果.	九病虫研究会報(九州病 害虫研究会報)	17: 42-44.	ランネットの種子粉衣、播種直前発芽直後の播床散 布、カヤエースの種子粉衣の効果をもめた.
139	富田 勲・田辺仁 志	1971	桑園土壌線虫の生態と防除について.	愛知県総試研報(愛知 県農業総合試験場研 究報告) D(蚕業)	2: 39-46.	季節的消長(ピン、ラセン、ネコブセンチュウ等)、垂直・ 水平分布、薬剤防除(NCS、DCIP、DBCP剤).
140	土崎常雄・比野 啓行・齊藤康	1971	輪紋症状のクワから分離されたクワ輪紋ウ イルス.	日植病報(日本植物病 理学学会報)	37(4) 266- 271. 2 pls.	ウイルスの形態、感染症状、線虫記述なし.
141	堤 正明	1971	インゲン根浸出液の土壌施用によるダイズ シストセンチュウのふ化促進効果 1. 土壌 温度の差異とふ化促進効果.	北日本病虫研報(北日 本病害虫研究会報)	22: 63.	20-25℃で比較的短期間に孵化促進.
142	内山正昭・佐藤 六郎・越中俊夫・ 西沢 秀	1971	殺線虫剤. In: 現代農業講座 III.	朝倉書店、東京	p. 151- 166.	9種薬剤の物理的・化学的特性、対象病害虫、使用法、 使用上の注意.
143	宇田川隆敏・弥 富喜三	1971	キタネグサレセンチュウとキュウリつる割病 菌のキュウリ幼苗における複合病.	関西病虫研報(関西病 虫研究会報)	13: 68-69.	菌と線虫は協力的に発病させる.
144	上林 謙・天野 隆・中西 勇	1971	イネシガラレセンチュウの防除法.	愛知県農試報(愛知県 農業試験場報)	25: 50-70.	種子粉衣(サッセンプラス乳剤、スミチオン、ハイジット、 ダイアジノン、パダン、ランネット他)、苗代期防除(カヤ エース、PSP-204、テラクア-P他)、本田防除(スミ チオン、ハイジット他).
145	上林 謙・天野 隆・中西 勇	1971	黒点米に関する研究 第1報 症状と発生実 態.	愛知県農試研報(愛知 県農業総合試験場研 究報告) A	3: 46-54. 1 pl.	黒点米含有率と寄生線虫数(イネシガラレセンチュウ) の間に正の相関.
146	牛山欽司	1971	ミカン園の線虫:被害の実態と対策 (園芸シリーズ ミカン No.14).	神奈川園試、	15 pp.	各種線虫の被害及び防除法.
147	八木田秀幸・小 室康雄	1971	クワ輪紋ウイルスの土壌線虫(Longidorus martini)による伝播.	日植病報(日本植物病 理学学会報)	37(3) 199.	講要
148	八木田秀幸・小 室康雄	1971	クワ・モザイク病の発生桑園における線虫の 分布状況と同一ウイルスのLongidorus martini による伝播.	日蚕講要(日本蚕糸学 会大会講演要旨集)	41: 12.	講要
149	山本公志・今村 和夫	1971	イネクロカメムシに寄生する糸片虫とその生 活及び習性.	福井農試報(福井県農 業試験場報)	8: 139- 151.	形態、県内の分布、寄生状況、寄主からの脱出時刻、 土中越冬深度および活動時期.
150	山本公志・奈須 田和彦	1971	立枯症クワから検出される線虫 Pseudohalenchus sp.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	昭46: 27.	講要
151	家城洋之	1971	PCNB-DBCP混合剤の白紋羽病防除効果.	蚕糸研究	79:79-84.	土壌10%当たり20gで殺菌効果.
152	家城洋之	1971	DBCP剤の白紋羽病防除効果.	蚕糸科学と技術	10巻11: 48-51.	効果および経費.
153	家城洋之・糸井 節美	1971	DBCP剤の白紋羽病防除効果.	蚕糸研究	79: 71-78.	土壌10%当たり20%粒剤10gで殺菌効果.
154	横尾多美男	1971	植物のセンチュウ(1)生態と防除の基礎.	誠文堂新光社、東京	201 pp.	線虫学の教科書. 第2巻は1972年刊(No.72-154を参 照). 第1巻の内容は下記の通り. 1.センチュウはどん な動物か、2.センチュウ類の生息域、3.土壌センチュウ の形態、4.センチュウ類の繁殖、5.センチュウ類の生活 環境、6.センチュウ類の行動と刺激、7.センチュウ類の 栄養生理、8.センチュウ病、9.植物寄生種と対抗植物・ 抵抗性品種、10.センチュウの天敵、11. 防除.
155	横尾多美男	1971	線虫捕食糸状菌Arthrobotrys菌の胞子を添 加した土壌調整剤の水田施用効果.	佐賀大農業(佐賀大学 農学報)	31: 65-70.	植物寄生種が個体数・構成比率ともに低下.
156	横尾多美男	1971	ネコブセンチュウのことなど	Delphax	14: 3-4	講要
157	吉田桂輔・吉村 大二郎・横山佐 藤原敬夫	1971	カルタツ水溶剤によるイネ心結線虫病の 種粉消毒効果.	九病虫研究会報(九州病 害虫研究会報)	17: 44-46.	1000倍液24時間浸漬で効果. 葉害なし.
158	藤原敬夫	1971	接種時期の違いとダイズシストセンチュウの 繁殖.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	昭46: 29.	講要
159	藤原敬夫	1971	ダイズシストセンチュウの侵入時期と寄生数 ならびに跡地シスト数.	十勝病害虫研究会報	5: 4.	講要
160	湯原 巖	1971	てん菜寄生キタネコブセンチュウの密度に 及ぼす有機物粉末施用の影響.	てん研報(てんさい研 究所報告)	補13: 201- 205.	クロタラリア・スペクタビリス、マリーゴールド野生種の 根・莖葉の施用後の期間が長くなるにつれて線虫密度 低下.
161	湯原 巖	1971	クロタラリアおよびマリーゴールドの根・莖葉 粉末の施用がキタネコブセンチュウの密度 に及ぼす影響.	北日本病虫研報(北日 本病害虫研究会報)	22: 62.	No. 72-160を参照.
162	湯原 巖・桜井 清	1971	ダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究 (第3報)大豆品種抵抗性の地域差につい て.	北海道農試報(北海 道農業試験場報)	99: 89-96.	接種試験によるraceの存在、各地の幼虫の計測値.
163	Anon. (農林水 産技術会議事務 局)	1971	畑作物の新品種	農林水産研究情報	9: 41-42.	テコナ(らっかせい農林2号): キタネコブセンチュウ抵 抗性.
0	1972	昭和47年(1972)				
1	安部 浩・池田嘉 英	1972	ポタン苗木に寄生したキタネコブセンチュウ の温湯浸法による防除について.	応動昆虫中国支報(日本 応用動物昆虫学会中 国支部会報)	14: 28- 31.	46°C60分、48°C30-60分、50°C10-20分処理で実用 化可能
2	千葉 修	1972	病害と松くい虫被害: マツノザイセンチュウと ツチクラガを中心として.	森林防疫	21(6) 113 -118.	それぞれの解説
3	千葉滋男	1972	JIBP東南アジア計画:PT-土壌動物調査状 況報告	Edapbologia	6: 17-20.	騰写. マレーシアの原生多雨林の調査結果. 線虫を含 む.
4	近岡一郎	1972	三浦タイコンのキタネコブセンチュウの総 合防除.	今月の農業	16巻10: 69 -72.	薬剤、マリーゴールド、有機質肥料、それらの組合 せ.
5	堂園安生・清原 友也	1972	菌系培養法におけるマツノザイセンチュウの 増殖温度.	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	25: 160- 161.	Botrytis菌と25°Cの温度で大量増殖.
6	遠田暢男	1972	マツノザイセンチュウの媒介昆虫と保持数.	日林関東支講要集(日 本林学会関東支部大 会研究発表集)	24: 31.	講要
7	遠田暢男	1972	マツノマダラカミキリからのマツノザイセン チュウの離脱経過.	日林関東支講要集(日 本林学会関東支部大 会研究発表集)	24: 32.	講要
8	遠田暢男・真宮 靖治	1972	マツノマダラカミキリの後食がマツの枯損に 及ぼす影響.	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	83回: 112	講要
8.1	遠田暢男・真宮 靖治	1972	マツノマダラカミキリの後食がマツの枯損に 及ぼす影響.	日林論(日本林学会大 会論文集)	83回: 320 -322.	線虫をもつカミキリの後食から15日-1カ月で樹液浸出 量の低下、及び高率の枯死.
9	遠田暢男・真宮 靖治・野淵 輝・ 山根明臣	1972	関東北部におけるマツノザイセンチュウの分 布.	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	83回: 111	講要
9.1	遠田暢男・真宮 靖治・野淵 輝・ 山根明臣	1972	関東北部におけるマツノザイセンチュウの分 布.	日林論(日本林学会大 会論文集)	83回: 318 -319.	1971年当時. 静岡、神奈川、東京、千葉、茨城、石川県
10	遠田暢男・野淵 輝・山根明臣・小 田久五	1972	マツ類の穿孔虫に関する研究:被害発生型 の比較とマツノザイセンチュウの調査	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	83回: 112 -113	講要
11	藤本 清	1972	イネネモグリセンチュウの低温・高温および 乾燥に対する耐久性について.	関西病虫研報(関西病 害虫研究会報)	14: 73.	講要. -7°Cで1日、46°C20分、48°C10分で死滅. 水分 含量14. 6%以下の水根根からは検出されず.

12	藤本 清・山口福男	1972	兵庫県におけるイネシナガセンチュウの発生分布とその生態及び防除.	兵庫農試研報(兵庫県農業試験場研究報告)	19:33-38.	県内発生分布、水稲品種別寄生性、被害程度薬剤による防除(種科浸漬、粉衣、粒剤の苗床施用)
13	福留信明	1972	九州たばこ産地における線虫の分布.	葉たばこ研究	60:84-92.	サツマイモ、ジャワネコブ、ミナミネグサレセンチュウ他を検出。併発病害名をあげる。
14	福留信明・酒瀬川義一	1972	ネコブセンチュウと他の病害との関係 2.ネコブセンチュウが立枯病の発病におよぼす影響.	九州病学会報(九州病害虫研究会報)	18:100-102.	菌単独より混合接種で高い発病率。線虫接種後3週間目の菌接種では激発
15	後藤 昭	1972	植物寄生性線虫の種類相、分布.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:9-13.	地理的分布に関する総説、海外、近隣諸国、日本における調査研究および基本的問題。
16	後藤 昭	1972	各種生息環境におけるネグサレセンチュウの分布.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:34-35.	文献のとりまとめが主。
17	後藤 昭	1972	九州における里山土壌の線虫調査例.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:23-24.	7属線虫の種生別の検出例。
18	後藤 昭	1972	開墾地におけるミナミネグサレセンチュウの発生調査例.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:25-26.	7カ所の調査例
19	後藤 昭	1972	ベルマン法の分離効率について(附:その他の方法におけるデータ).	Edapbiologia	6:1-7.	謄写、主にミナミネグサレセンチュウのベルマン法、ふるい分け法の分離率
20	後藤 昭	1972	九州の自然草地から検出された Radopholoides sp.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:118.	講要
21	後藤三千代	1972	イネモグリセンチュウの水稲根への侵入機構について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:116.	講要
22	橋本平一・清原友也・堂園安生	1972	マツノザイセンチュウの樹体内生息と移動	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	83回:114-115.	講要
22.1	橋本平一・清原友也・堂園安生	1972	マツノザイセンチュウの樹体内生息と移動	日林論(日本林学会大会論文集)	83回:329-331.	技先より基部への移動が多。
23	橋本健一・井上巖	1972	ハリガネムシ種(Chordodes fukuii)の生活史の特殊性ならびに越冬条件について.	動雑(動物学雑誌)	81(4):422-423.	講要
24	早坂義雄・小原憲由	1972	土壌線虫の防除に関する試験.	宮城林試業務成績(宮城県林業試験場業務成績)	昭46:90-97.	マリーゴールド、薬剤(DBCP、ネマモール、NCS剤)のネグサレセンチュウ抑制効果
24.1	林 勇	1972	温室バラの線虫に関する試験 第2報 検出頭数の年間消長	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	19:143-144.	ネグサレ、ネコブ、ピン、ワセンチュウを調査
25	万豆剛一	1972	電照ギクの連作障害を防ぐために:志太地区の実態調査成績を中心にして.	農業技術研究	26巻5:122.	ハウス密閉灌水(地温30度15日間)でほとんどネグサレセンチュウ死滅
26	平野和弥・河村貞之助	1972	トマト幼苗におけるPratylenchus属線虫と萎ちょう病菌とによる複合病の発現.	千葉大園芸学(千葉大園芸学部学術報告)	20:37-43.	発病の程度はミナミネグサレセンチュウ区がキタネグサレセンチュウ区より激しく、短期間で発病
27	平田明由	1972	群馬県における桑園の線虫について.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:20-22.	8属の線虫を検出。検出率、密度、クワモザイク病発生桑園の線虫調査
28	平田明由	1972	桑園の土壌線虫に関する研究:DBCP粒剤の殺線虫効果と持続性について.	日蚕関係講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	23:11.	講要
29	平田明由・小島隆	1972	DBCP粒剤による桑園の土壌線虫防除について.	群馬畜試報(群馬県畜業試験場報告)	45:21-30.	20kg/10a 4月処理が適当、ユミハリ、オオガタハリ、ナガハリセンチュウには効果なし。効果持続期間も推定
30	細田隆治	1972	マツノザイセンチュウがマツノダカラカミキリにつく時期.	日林園西文講(日本林学会園西支部大会講演集)	23回:193-194.	謄写、蛹の時期。
31	一戸 稔	1972	Nematode diseases of rice. In: Economic Nematology(Webster, J. M., ed.).	Academic Press, London & New York	pp. 127-144.	イネに寄生する線虫の種類、被害、防除の総説
32	一戸 稔	1972	農業の特性と効力:殺線虫剤. In: 農業の科学と応用.	日本植物防疫協会、東京	pp. 268-276.	殺線虫剤の種類、作用機構、効力、特性、適用範囲、製剤形態、注意事項
33	一戸 稔	1972	線虫類. In: 谷津・内田 動物分類名辞典(内田 亨編)	中山書店、東京	pp. 205-223.	線虫(動物寄生を含む)の分類体系の概説。代表的な属又は種については生態・形態等の短い記事を付す。
34	一戸 稔	1972	北海道に発生したジャガイモシストセンチュウ.	今日の農業	16巻12:30-35.	和名、形態、分布、寄主植物、生活史、北海道での発生状況、防除法、法令による規制、アメリカ合衆国農務省による防除計画、問題の解析と今後の課題。
35	一戸 稔	1972	線虫学談話会てん末記.	日線虫研ニュース(日本線虫研究会ニュー)	1:4-5.	謄写、昭和34~46.
36	池田 豊・荒武義信	1972	桑園における土壌線虫の発生消長とDBCP剤の施用効果.	九州病学会報(九州病害虫研究会報)	18:6-8.	地表下100cmまで生息。薬剤の効果は、線虫密度は1年半、桑の生育は2年目まで。
37	池田 豊・荒武義信	1972	DBCP剤の連続施用と土壌線虫の発生消長および桑の生育.	九州畜試報	3:54.	ピンセンチュウ減少。
38	堀垣幸郎・古山三郎・笠野秀雄・桜井 清	1972	はつかの線虫に関する研究 第1報 はつかほ場における線虫の発生と被害、ならびに生態.	北海道農試集報(北海道農業試験場集報)	100:48-57.	線虫相、はつかの生育に及ぼす線虫の影響、ピンセンチュウ(Paratylenchus vorvitusus)・キタネグサレセンチュウの季節的消長、垂直分布、寄生範囲
39	井上 巖	1972	アフリカの線形虫類概観ならびにエチオピア産一種について.	動雑(動物学雑誌)	81(4):422.	講要
40	井上 巖	1972	The fauna of the lava caves around Mt. Fujisan; VIII. Gordiacea.	科博研報(国立科学博物館研究報告)	15(1):167-169.	富士山の溶岩洞からカマドウマを寄主とする堆積されるハリガネムシの新種Gordius cavernarumを記載
41	石橋信義・近藤栄造・柏尾具俊	1972	ネコブセンチュウ雌成虫蛋白の分離抽出に関する2,3の検討.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:113.	講要
42	伊藤一雄	1972	特別研究「まつくいむしによるマツ類の枯損防止に関する研究」を終えて.	森林防疫	21(6):109-112.	昭和43年から46年。研究の概観。この号は「松くい虫特別研究特集号
43	伊藤一雄	1972	材線虫によるマツ類の枯損:まつくい虫から線虫へ.	農林水産研究情報	16:13-18.	研究の記録。材線虫発見からこの時点までの研究の概観、今後の問題点
44	伊藤一雄	1972	恐るべきマツ類の材線虫病.	グリーンエイジ	22巻2:39-45.	材線虫、被害、マツノダカラカミキリの解説
45	伊藤一雄	1972	最近問題になっているマツ類の材線虫について.	農業研究	19巻2:36-41.	枯損の研究史、材線虫の発見、接種試験、媒介者、防止方法。
46	弥富三三	1972	殺線虫剤の残留について.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:1-5.	総説。殺線虫剤の理化学的性質と毒性、臭素化合物・塩素化合物・その他の殺線虫剤の分解・残留
47	妻 司・青野信男・児玉政宏・相原次男・森 史郎	1972	ハウス土壌に対するメチルプロマイドの全面くん蒸効果について.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	19:53-54.	m ² 当たり50-75gでネコブセンチュウとTMVに効果
48	柏尾具俊・横尾多美男	1972	Studies on the nemico-fauna of mulberry plant field in Kyushu. III. On the life-history of pin nematode, Paratylenchus aciculus Brown, 1959.	佐賀大農業(佐賀大学農学集報)	32:57-61.	発生ステージ別の計測値
49	柏尾具俊・横尾多美男	1972	Studies on the nemico-fauna of mulberry plant field in Kyushu. IV. On the host plant of pin nematode, Paratylenchus aciculus Brown, 1959.	佐賀大農業(佐賀大学農学集報)	32:63-66.	ダイズ、クワ、インゲン、アカウローバ、ニンジンで増殖
50	加藤利之	1972	ジャガイモシストセンチュウ「北海道に新発生」.	植物防疫	26(11):442.	昭和47年7月に確認。北海道虻田郡真狩村及び寿春都村
51	河瀬憲次	1972	Resistance of peach rootstocks to the root-knot nematode (Meloidogyne incognita arrita (Chitwood) in Japan).	園試報(園芸試験場報告) D	7:1-11.	長野県の実生樹、寿星桃、米国で選抜された台木5品種に抵抗性
52	川島嘉内	1972	薬用人参におけるキタネグサレセンチュウの被害について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:117.	講要
53	岸 洋一・神永翔六	1972	春季マツ枯損木から検出されたマツノザイセンチュウ.	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	24:35.	講要
54	小林義明	1972	キクの連作にともなう生育障害の線虫学的研究 I. 産地における発生実態と高温下基水によるネグサレセンチュウの防除.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:121.	講要
55	小林義明	1972	連作障害はこの手で:線虫対策:キクの連作の場合.	農業技術研究	26巻5:45-46.	ハウス密閉灌水の試験結果。
56	小林義明・深沢永光・佐藤 清	1972	ネグサレセンチュウ(Pratylenchus fallax Seinhorst, 1968)によるニンジンの黒変症状とその防除.	静岡農試研報(静岡県農業試験場研究報告)	17:21-30.	主要栽培地における線虫の発生状況、線虫の発生消長、薬剤防除(NCS、D-D、ネマホルン、クロルピクリン剤他)、耕種防除(苦土石灰、CDU燐加安、FTE、キノックス、撥機施用)
57	小玉孝司・中西喜徳・芳岡昭夫・田和福司	1972	イチゴ萎黄病に関する研究 第2報 イチゴ萎黄病防除に関する一考察.	関東病虫研報(関東病害虫研究会報)	14:83-84.	講要。有機物施用16処理。クロルピクリン、D-D施用が好成績

58	小本曾重文・弥富善二・宗像 桂	植物成分の殺線虫作用について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:121.	講要
59	駒井功一郎・佐藤庄太郎	殺線虫剤(DBCP)によるジャガイモ塊茎の産地間差異(殺線虫剤によるジャガイモ塊茎の褐変に関する研究 第2報)	農化(日本農業化学会誌)	46(12) 607-612	北海道産は奈良、京都、福井産より褐変が弱く、緩慢。メークインはダンシヤクより弱い褐変、ポリフェノールオキシダーゼ、セルラーゼの活性を比較。
60	小室康雄	土壌センチュウで媒介されるウイルス病について。	今月の農業	16巻4:71-74.	国内発生 of 病害の解説
61	近藤秀明・神永翔六・岸 洋一・斎藤勝清	県内におけるマツノザイセンチュウの分布。	茨城林試業報(茨城県林業試験場業務報告)	昭46:78-80.	1971年夏から秋の調査。
62	近藤鶴彦	サツマイモの品種がサツマイモネコブセンチュウの増殖に及ぼす影響	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:16-19.	根こぶ指数の高い品種ほど線虫の発育が順調
63	近藤鶴彦	京都の原生林での土壌線虫相。	日線虫研ニュース(日本線虫研究会ニュー)	1:5-6.	騰写 京都大学演習林(京都府北桑田郡美山町芦生)のフナ林
64	近藤鶴彦・林 勇・大沢 茂・山崎龍男・山本和多留・三枝敏郎	サツマイモにおけるサツマイモネコブセンチュウ寄生度の品種間差異。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:14-17.	1943-53年の試験結果。ゴール指数による品種の階級分け。
65	栗山尚志	トマト耐病性育種の現状と今後の方向[1].	農及園(農業および園芸)	47(5)713-716.	ネコブセンチュウ抵抗性を含む。
66	真宮靖治	マツノザイセンチュウの接種によるクロマトおよびアカマツ幼令本の萎凋症状の進展とマツノザイセンチュウ接種をうけたアカマツ、クロマトの異常と樹体内における線虫の分布。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:40-44.	線虫接種に伴うマツの外見的、生理的変化、線虫数の変動
67	真宮靖治	マツノザイセンチュウの接種によるアカマツ、クロマトの異常と樹体内における線虫の分布。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:118.	講要
68	真宮靖治	マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリ蛹室周辺における集中。	日林園東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	24:30.	講要
69	真宮靖治	Pine wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus Mamiya and Kiyohara, as a causal agent of pine wilting disease	Rev. Plant Protect. Res.(Review of Plant Protection Research)	5:46-60	マツノザイセンチュウによるマツ枯損に関する研究レビュー。病徴、分布、接種、伝播、寄生
70	真宮靖治・遠田 暢男	Transmission of Bursaphelenchus lignicolus (Nematoda: Aphelenchoididae) by Monochamus alternatus (Coleoptera: Cerambycidae).	Nematologica	18(2) 159-162	マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリによる伝播。カミキリ1頭当たり15,000頭の線虫耐久型幼虫をもつ
71	真宮靖治・清原友也	Description of Busaphelenchus lignicolus n. sp. (Nematoda: Aphelenchoididae) from pine wood and histopathology of nematode-infested trees.	Nematologica	18(1) 120-124.	マツノザイセンチュウの新種記載。病原性にもふれる。本種は後に B. xylophilus (Steimer & Buher, 1934) Nickle, 1970のシノニムとされた(No. 81-109).
72	真宮靖治・陳野好之・遠田略男・小林亨夫・佐々木克彦	マツノザイセンチュウの接種によるアカマツ生立木の枯死	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	83回:110-111.	講要
73	正宗 直	大豆シストセンチュウのふ化促進物質について。	化学	27(5)452-453.	研究の端緒及び進展具合。
74	増田安弘	そ菜の生理に及ぼすネマトーダの影響 第3報 地温および土壌水分の組合せと寄生および被害について。	農及園(農業および園芸)	47(9)1329-1330.	キュウリのサツマイモネコブセンチュウ。
75	増田安弘	そ菜の生理に及ぼすネマトーダの影響(第4報)温度と寄生性について。	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭47春: 218-219.	講要
76	増田安弘・知脇勝久	そ菜の生理に及ぼすネマトーダの影響 第4報 温度と寄生性について。	園学雑誌(園芸学雑誌)	41(3)265-271.	46種の蔬菜を供試し、3温度段階でのキタネコブ、サツマイモネコブセンチュウの寄生性を見る。
77	松田正治	苗木の根腐れ被害防除試験。	愛媛林試業報(愛媛県林業試験場業務報告)	昭46:71-98.	スギのネグサレセンチュウ、イシクセンチュウへのNCS剤および堆肥施用効果。
78	松井弘之	ゴール肥大に伴うオーキシンおよびサイトカイニン様物質の活性化について。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:113.	講要
79	皆川 望・後藤昭	牧野等本邦未耕地のHemicricnemoides属線虫。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:119.	講要
80	峰尾一彦	和歌山県南部のマツの異常とマツノザイセンチュウ。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	83回:113	講要
80.1	峰尾一彦	和歌山県南部のマツの異常とマツノザイセンチュウ。	日林論(日本林学会大会論文集)	83回:324-326.	枯損木からの線虫分離、線虫の接種試験、樹体内の線虫分布。
81	峰尾一彦・紺谷修治	宮崎国有林におけるマツノザイセンチュウ調査。	日林園西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	23回:194-196.	講要。県全体に分布。
82	三井 康	線虫捕食菌に及ぼす殺線虫剤の殺菌効果。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:25-29.	殺菌又は抑制作用はDBCP≧EDB≧メチルプロマイド<D-D<クロロピクリン≧NCSの順に高くなる。処理後の捕食菌の活性を試験。
83	森本 桂	マツノマダラカミキリとマツノザイセンチュウの相互作用およびマツの枯損	昆虫学会講要	32回:5.	講要
84	森本 桂	マツの枯れる原因: 虫から線虫へ研究の発展	インセクタリアム	9(12)280-283.	一般向解説
85	森本 桂・岩崎厚	マツノザイセンチュウ伝播者としてのマツノマダラカミキリの役割。	日林誌(日本林学会誌)	54(6)177-183.	線虫伝播者の探索、マツノマダラカミキリの線虫保持率と保持数、耐久型幼虫のカミキリからの離脱、マツへの侵入経路。
86	森本 桂・岩崎厚	マツノマダラカミキリによるマツノザイセンチュウの伝播。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	25:165-166.	No.72-87を参照
87	森本 桂・岩崎厚	マツノザイセンチュウ伝播者の探索とマツ樹体内への侵入経路。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	83回:114	講要
87.1	森本 桂・岩崎厚	マツノザイセンチュウ伝播者の探索とマツ樹体内への侵入経路。	日林論(日本林学会大会論文集)	83回:326-327.	マツノザイセンチュウの伝播者の探索、保持線虫数、耐久型幼虫の虫体からの離脱、樹体内への侵入の経路。
88	森本勇馬・江崎昌弘・長瀬照彦	岐阜県下におけるポット苗根ぐされ被害実態調査。	森林防疫	21(9)190-194.	被害と寄生線虫との間に直接的な関連は見られず。
89	中西喜徳	タケ類に寄生する線虫 第1報。	関西病虫研報(関西病虫学研究会報)	14:106-107.	Helicotylenchus californicus, Paratylenchus besoiianus, Rotylenchus sp.の計測値・形態。
90	中園和年	Development retardation and morphological abnormalitis observed in moulting larvae of the reniform nematode, Rotylenchulus reniformis.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	7(4)243-245.	近紫外線によるニセフクロセンチュウの脱皮・発育の阻害。
91	中園和年	ニセフクロセンチュウ幼虫の脱皮・発育に及ぼす可視光線の影響。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:115.	講要
92	中園和年・山本敏夫・近藤鶴彦	温州ミカン の運作障害発現園における植物寄生線虫の季節的消長。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:33-39.	トゲワ、オオガタハリ、チャネグサレ、ミカンセンチュウの季節的密度変化及び令構成変化。ミカン樹の根の被害状況。
93	西沢 秀	農業の使用法: 線虫。In: 農業の科学と応用。	日本植物防疫協会、東京	pp. 728-737.	ネコブ、シスト、ネグサレ、その他の線虫(イネシガレ、イチゴ、イチゴメセンチュウ)の種類と発生生態、薬剤防除の解説。
94	西沢 秀・中西喜徳	収穫期の水稲根園におけるイネネモグリセンチュウの分布。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	19:141-142.	地表下80cmまでの分布。
95	西沢 秀・大島康臣	4種作物の連・輪作圃場における線虫相の年次変化。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:120.	講要
96	西沢 秀・清水啓・長島利仁	畑水稲におけるイネシストセンチュウの防除試験ならびにイネ根腐砕液のふ化促進作用。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:27-32.	殺線虫剤(D-D, EDB, ランネート)、輪作(イネ、ダイズ、カンショ)による防除。根腐砕液のふ化への影響
97	野淵 輝	マツノマダラカミキリ体内のマツノザイセンチュウ。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	83回:113	講要
97.1	野淵 輝	マツノマダラカミキリ体内のマツノザイセンチュウ。	日林論(日本林学会大会論文集)	83回:323-324.	カミキリの線虫保持率100%。保持部位を調査。
98	野崎光夫	大豆品種のダイズシストセンチュウに対する抵抗性と地域差。	東北農業研究	13:140-142.	宮城県産麻料と秋田県刈和野の線虫は、PI90763とネマラズに対する寄生性に差。
99	小芦健良	ミナミネグサレセンチュウによるサイモの被害。	Delphax	16:2.	講要
100	越智鬼志夫・五十嵐 豊	マツノマダラカミキリの後食とマツの枯損の関係 I。各地の枯損本より脱出した成虫による後食実験。	日林園西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	23回:183-185.	講要
101	小河誠司・蓮尾久光	マツの材線虫に関する試験 I。県内分布と接種試験。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	25:161-164.	福岡県内分布。線虫数を運えた接種試験。

102	荻原英雄	1972	大豆育種.	育種(育種学雑誌)	22(1)55-56	育種情報. シストセンチュウ抵抗性に言及.
103	岡田利承	1972	Hatching inhibitory factor in the cyst contents of the soybean cyst nematode, <i>Heterodera glycines</i> Ichinohe (Tylenchida: Heteroderidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	7(3)99-102	シスト内の孵化阻害物質の存在を確認.
104	岡田利承	1972	Hatching stimulant in the egg of the soybean cyst nematode, <i>Heterodera glycines</i> Ichinohe (Tylenchida: Heteroderidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	7(4)234-237	卵内の孵化促進物質の物理的・化学的性質を検討.
105	岡田利承	1972	ダイズシストセンチュウのふ化におよぼすフアラニン酸の影響.	農業検査(農業検査所報告)	12:93-95	0.2-3.0 M水溶液中で高い孵化率. ダイズ根の浸出液には劣る.
106	岡田利承	1972	ダイズシストセンチュウのふ化におよぼす水素イオン濃度の影響.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:115	講演
107	岡田利承	1972	線虫防除剤一覧.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:36-42	24薬剤の剤形、有効成分含量、適用線虫名、適用作物名、使用法又は希釈倍率、使用方法の一覧.
108	岡本好一・一戸稔	1972	モモ園の線虫相について.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:119	講演
109	大橋雄司・石川一清・前田初枝	1972	関東・甲信越地方のタバコ畑におけるネコブセンチュウの種類と分布調査.	葉たばこ研究	60:80-84	サツマイモネコブ、キタネコブ、ジャワネコブセンチュウを検出. 分布を論ず.
110	大川 清・三枝敏郎	1972	アカカノコリノ連作障害に関する研究 1. ネグサレセンチュウによる被害と防除法.	神奈川園芸研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	20:103-107	キタネグサレ、クルマネグサレセンチュウ、D-D、クロルピクリン処理効果は1作だけ. サトイモ、ラッカセイによる密度低下.
111	大川 清・三枝敏郎	1972	アカカノコリノ連作障害に関する研究: ネグサレセンチュウによる被害について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭47春:310-311	講演
112	大島康臣	1972	学名の構成法.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:30-35	解説記事
113	三枝敏郎	1972	クキセンチュウのスイセンにおける寄生部位、ならびに、ペールマン法による検出法.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:117	講演
114	三枝敏郎・気賀沢和男・湯原 巖・堤 正明・福田春郎・桜井義郎・山田英一・高倉重義・一戸 稔	1972	北海道釧路・留寿都地区におけるジャガイモシストセンチュウの発生分布調査: 1972年8月の植物検診による調査.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:45-46	調査圃場の内10.9%に発生.
115	三枝敏郎・山本洋祐・藤原敏夫	1972	盛夏におけるスイセンのセンチュウ <i>Ditylenchus dipsaci</i> Filolejevの低温処理による横浜植物防疫所(横浜植物防疫所)による調査報告.	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	10:1-7	試料の湿度34.4%で2-3週間の保存により、かなりの線虫検出が可能.
116	三枝敏郎・臼井正 南 国衛・矢島 馨・飯島尚道・水田隼人	1972	北海道後志支庁管内4町村にジャガイモシストセンチュウ発生.	横浜植防ニュース(横浜植物防疫所)	445:1-4	発見の経緯、防疫所と道による現地調査、発生確認の地域、応急の対策、発生確認後の主な会議. この号は「ジャガイモシストセンチュウ特集」他に二編. 井上 亨: ジャガイモシストセンチュウに対する対策決定をめぐってp. 5; 三枝敏郎: ジャガイモシストセンチュウ類別にあたっての知緯p. 6-7.
117	齊藤正隆	1972	Breeding of soybean in Japan.	Trop. Agr. Res. Ser. (Tropical Agriculture Research Series)	6:43-54	シストセンチュウ抵抗性育種を含む.
118	坂本与市・菊池正己・長井 勉	1972	牧草地における土壌動物相.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	23:139	草種別、土壌別、施肥別の線虫、ミミズ、昆虫類の検出数の比較.
119	佐野善一・後藤昭	1972	線虫の薬剤感受性.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:6-11	総説. 実験法(密閉容器内線虫土壌燻蒸法、密閉容器内線虫燻蒸法、薬液浸漬法、卵態の実験法)、線虫の種類・発育ステージ、生理的状態と感受性、殺線虫剤の作用機構.
120	佐野善一・後藤昭	1972	線虫の薬剤感受性実験法としての薬液浸漬法の検討.	九州病虫研報(九州病虫研究会報)	18:1-6	Mojeの方法を応用. フィルターの線虫透過性、濃度・殺虫率関係及びその再現性、浸漬温度・時間と殺虫率. サツマイモネコブセンチュウとEDB剤を供試.
121	佐々木 寛・佐藤豊八	1972	桐を害する土壌線虫の防除試験: 桐栽培地における実態調査の一例.	福島林試研報(福島県林業試験場報告)	4:69-75	ネグサレ、ネコブ、ユミハリセンチュウの深度別検出数.
122	司馬直文・吉野治男・小沢慎吾	1972	ネコブセンチュウ防除と燻蒸剤施用による桑園能率向上試験.	東京都蚕糸指導書試験要報	6:29-35	燻蒸. DBCP剤、燻蒸の施用により植付初年日の総条長は無処理の1.9倍.
123	清水 啓	1972	イネシストセンチュウ接種時期の違いが水稲の生育ならびに収量に及ぼす影響.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:114	講演
124	下川利之	1972	林業苗畑根ぐさ病防除試験.	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	12:229-251	スギ、ヒノキ苗のキタネグサレセンチュウ. 線虫の寄生密度別被害解析、薬剤防除(NCS、クロルピクリン、ピオメート、テラクラP)にともなう2年生の山行得苗.
125	鈴木省三・佐藤豊八	1972	苗木根腐れ被害防除試験.	福島林試研報(福島県林業試験場報告)	4:76-80	NCS、DC剤施用と施肥によるネグサレセンチュウ防除.
126	鈴木達彦	1972	畑作物の連作障害と無菌栽培の将来[2].	農及園(農業および園芸)	47(6)835-840	連作障害と土壌微生物に関する研究のまとめ. 第1報は毒素説関係.
127	鈴木達彦	1972	畑作物の連作障害と無菌栽培の将来[3].	農及園(農業および園芸)	47(7)972-978	前報の続き.
128	忠政 亨	1972	マツノザイセンチュウの調査(予備調査).	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	12:291-293	県内の検出状況
129	高木一夫	1972	改植時のチャネグサレセンチュウの簡易検診法.	日線虫研ニュース(日本線虫研究会誌)	1:6	簡写. 要防除水準の生物検定法
130	高木信一	1972	線虫個体群生態学論.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:1-8	総説. 土壌中(根などを含む)の所在、線虫個体群の動態論、線虫の個体数の変動要因(主として線虫そのものによる変動、生物的要因、無生物的要因).
131	高倉重義	1972	イネネグサレセンチュウの生態と被害について.	北農	39巻4:29-45	北海道における分布、耐寒性、土壌条件と線虫密度、発生消長、寄主植物、品種間差異、被害.
132	竹股知久・坂井健吉	1972	ニュージーランドからの導入かんしょの特性概要.	育種(育種学雑誌)	22(6)346-347	育種通信. ネコブセンチュウ抵抗性は強から弱まで.
133	竹島輝二	1972	滋賀県における温室バラの栽培と技術上の開産点.	農業技術	27(7)304-307	連作障害対策として線虫防除にふれる.
134	龍野得三	1972	大型ハウス栽培、とくに培地に関する覚書: ハウス環境の制御を考える.	畑地農業	161:29-33	連作障害対策の必要性.
135	樋田幸夫	1972	メキシカンマリーゴールドのクワ寄生線虫殺虫効果.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:18-21	ネコブ、ピン、オオカタハリセンチュウを供試. 植物体摩砕液中での線虫生存率、クワ実生との混植による線虫個体数への影響.
136	樋田幸夫	1972	クワ寄生線虫のメキシカンマリーゴールド (<i>Tagetes minuta</i>) 利用による防除の検討.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:122	講演
137	徳重陽山	1972	松くい虫研究の脱皮: 解決の糸口がみつかった松くい虫問題.	暖帯林	308:37-45	諸説の紹介、材線虫の解説
138	都丸敬一	1972	Pesticides to control diseases and insect pests of tobacco.	Jap. Pesticide Inform. (Japan Pesticide Information)	13:27-31	土壌燻蒸剤及び殺線虫剤の適用病害虫・使用状況の解説を含む.
139	都丸敬一・平林征四郎	1972	病害虫発生実態調査結果について(その1) 病害集計結果.	葉たばこ研究	58:86-92	線虫病を含む.
140	都丸敬一・宇田川 昇	1972	わが国のタバコに発生するウイルスの種類・系統と判別法.	植物防疫	26(6)251-256, 1 pl.	<i>Tricodorus mimor</i> によって伝播されるタバコ萎えウイルス(TRV)を含む.
141	堤 正明	1972	インゲン根浸出液の土壌施用によるダイズシストセンチュウの密度減少について.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:122	講演
142	上林 謙・天野隆・中西 勇	1972	黒点米に関する研究 第2報 発生環境.	愛知農試研報(愛知県農業総合試験場研究報告) A	4:94-104	気象条件(高温、遮光で含有率上昇)、土壌の乾湿、栄養条件(多肥で多発).
143	上林 謙・天野隆・中西 勇	1972	黒点米に関する研究 第3報 発生環境.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:114	講演
144	上林 謙・今村四郎	1972	イネシソガレセンチュウの本田における発生例.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	1:22-24	本田における伝播の顕著な事例.
145	上林 謙・中西喜徳	1972	イチゴ萎黄病に関する研究 第1報. イチゴに寄生する <i>Tylenchorhynchus</i> sp. について.	関西病虫研報(関西病虫研究会誌)	14:81-83	講演. 本病に関与している可能性大
146	後木利三・犬塚正	1972	品種および育種方法に関する試験 II. 菜豆.	北海道十勝農試資料(北海道立十勝農業試験場資料)	4:52-63	ダイズシストセンチュウにより被害(品種間差異)を含む.

147	八木田秀幸	1972	桑園のLongidorus martiniの卵・幼虫各ステージの形態ならびに雄成虫について.	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	23:9.	講要
148	八木田秀幸・小室康雄	1972	クワ輪紋ウイルスのLongidorus martini Mernyによる伝播.	日植病報(日本植物病理学会会報)	38(4):275-283.	線虫による伝播を確認
149	山田英一・高食重義・手塚 浩	1972	On the occurrence of the potato cyst nematode, Heterodera rostochiensis Wollenweber in Hokkaido, Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	2:12-15.	発生地の概要、被害、線虫の形態
150	山川邦夫	1972	イギリス、フランスおよびオランダにおける野菜の耐病性育種	育種(育種学雑誌)	22(5):299-301.	育種通信. トマトのジャガイモシストセンチュウ(イギリス)、ネコブセンチュウ(フランス)抵抗性を含む.
151	山本公志・奈須田和彦	1972	クリ立枯症(仮称)の治療の試み.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:120.	講要
152	山本敏夫・中野直・中野 岳	1972	三重県におけるキクスのネグサレセンチュウ発生実態と対策について.	関西病虫研報(関西病虫研究会会報)	14:106.	Pratylenchus fallax. 発生実態、防除(灌水、薬剤).
153	安永秀樹・近藤崇彦・横尾多美	1972	伊予地方における捕食性の線虫類について.	九病虫研会報(九州病虫研究会会報)	18:144.	講要
154	横尾多美男	1972	植物のセンチュウ類(2)防除の実際.	誠文堂新光社、東京	195 pp.	第1章 園芸植物の種類とおもな寄生センチュウ類. 第2章 園芸植物に寄生するおもなセンチュウ類の概要. 第3章 園芸植物に寄生するおもな種類. 線虫の種類別に形態、生態を記述.
155	横尾多美男・白浜二生・今泉正	1972	イネネモグリセンチュウ類に対する殺線虫剤(DBCP, DCIP)の施用効果について.	佐賀大農業(佐賀大学農学雑誌)	32:1-7.	両薬剤の効果に差なし.
156	藤原敬夫	1972	シストを多量に得るための一分離法.	十勝病虫研会報	6:3-4.	講要
157	吉村大郎・吉田桂輔・横山佐	1972	イネ雑草移植栽培の育苗箱における心枯線虫病防除法について.	九病虫研会報(九州病虫研究会会報)	18:130-132.	ダイアジン粒剤(3%)、播種直後の箱当たり2g施用に有用性.
158	湯原 巖	1972	ダイズシストセンチュウ卵の超音波および電気刺激に対する応答反応.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	16(3):156-157.	両方とも高い孵化促進効果.
159	湯原 巖	1972	2, 3の物理的刺激がダイズシストセンチュウ卵に及ぼす影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	16回:116.	講要
160	湯原 巖	1972	てん菜生育キタネコブセンチュウの密度に及ぼす2, 3有機物粉末施用の影響.	てん研報(てんさい研究所報告)	補13:201-205.	クロタリア・スベクタピリス、マリーゴールド野生種、ケンタッキーブルーグラス、魚類臓器の乾燥粉末. 施用後の期間が長くなると線虫密度減少.
161	陳野好之・五十嵐 豊	1972	四国の国有林苗圃における植物寄生線虫の分布.	林試研報(林業試験場研究報告)	246:11-20.	スギ、ヒノキ、クロマツの苗圃からミナミクサレ、キタネグサレ、ユミハリ、ラセンセンチュウ等を検出. 線虫の種類と生息密度、樹種.
162	Anon.(農林省九州農試編)	1972	かんしょの品種ならびに系統の特性.	九州農試研究資料(九州農試試験場研究資料)	43:205pp.	ネグサレセンチュウ抵抗性程度 p. 148-152. ネコブセンチュウ抵抗性程度 p. 153-155.
163	Anon.(北海道農試作物第二部特用作物第2研究室)	1972	洋種はつかの品質向上に関する研究:ペーパーミント種の連作障害.	北海道農試年報(北海道農試試験場年報)	昭45:69-71.	ピン、ネグサレセンチュウは多発しないが、ネコブセンチュウが4年目から急増.
164	Anon.(横浜植防)	1972	北海道後志支庁管内4町村にジャガイモシストセンチュウ発生.	横浜植防ニュース(横浜植物防疫ニュース)	445:1-4.	発生の経緯、現地調査の概要及びその結果、対策
10a	遠田暢男・野瀧輝・山根明臣・小田久五	1972	マツ類の穿孔虫に関する研究:被害発生型の比較とマツノザイセンチュウの調査.	日林論(日本林学会大会論文集)	83回:322-323.	アカマツ・クロマツ、年次、時期別の比較.
0		1973	昭和48年(1973)			
1	安部 浩	1973	キタネグサレセンチュウを主としたボタン根寄生線虫の生態と防除に関する研究.	鳥根農試研報(鳥根農試試験場研究報告)	11:74-99.	被害(苗木生育状況と線虫密度、部位別線虫数と被害症状発生、寄生線虫の種類(8種)、生態(発生地、圃場内分布、発生消長)、防除(圃場の薬剤処理、苗木の生育中処理、苗木の温湯処理)
2	安部 浩	1973	鳥根県の砂丘地ドウに寄生する数種線虫の密度消長について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:140.	講要
3	青木淳一	1973	土壤動物学:分類・生態・環境との関係を中心として.	日隆館、東京	13+814 pp.	土壤動物学の教科書. 線虫編(土壤動物各群の解説) p. 85-98. 他に生態的記述中に線虫関連事項.
4	青木幸夫	1973	堆肥施用と桑園土壌線虫相の関係.	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	24:10.	講要
5	浅野明文・山下清一・石橋信義・横尾多美男	1973	イチゴセンチュウの生態と防除 2. 数種殺線虫剤の防除効果.	九病虫研会報(九州病虫研究会会報)	19:130-131.	ランナーの薬液浸漬、苗木・定植後の薬剤散布.
6	近岡一郎	1973	最近各地で話題となっているイチゴの「すくみ」とネグサレセンチュウとの関係.	今月の農業	17巻10:62-65.	被害、症状、防除(DBCP剤)
7	千代西尾伊彦・奥田純一郎	1973	砂丘地のナガイモにおける黒あざの発生におよぼす殺線虫剤の影響について.	鳥取農試研報(鳥取農試試験場研究報告)	13:29-52.	クロルピクリン、DCIP, NCS, D-D, EDB, DBCP剤では黒あざ増加. テラクア-P, N3-Gは増加せず.
8	堂岡安生・清原友也・橋本平一	1973	マツ種類別にみたマツノザイセンチュウの樹体内移動.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	26:183.	線虫感受性のマツは抵抗性に比べ移動大.
9	遠田暢男	1973	マツノマダラカミキリの後食がマツの枯損におよぼす影響 II. 9年生および20年生クロマツの摂食試験	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	84回:106.	講要
9.1	遠田暢男	1973	マツノマダラカミキリの後食がマツの枯損におよぼす影響 II. 9年生および20年生クロマツの摂食試験	日林論(日本林学会大会論文集)	84回:319-321.	線虫を保持するカミキリだけがマツを枯らす.
10	遠田暢男	1973	マツノマダラカミキリ成虫の部位別線虫保有数.	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	25:16.	講要
11	遠田暢男	1973	マツノマダラカミキリ成虫体からのマツノザイセンチュウの離脱経路.	昆虫学会関東支講要(日本昆虫学会関東支部大会講演要旨)		未見. 講要.
12	藤本 清	1973	水田線虫特殊調査成績.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:105-109.	兵庫県. イネネモグリセンチュウの発生消長、水稲以外の作物への寄生性. 温度・乾燥に対する適応性、県内分布、水稲の収量におよぼす影響、殺線虫剤による防除.
13	Goswami, B. K. & Raychaudhuri, S. P.	1973	Host-parasite relationship of tobacco and root-knot netode, Meloidogyne javanica (Treb.) Chitwood, influenced by tobacco mosaic virus infection.	日植病報(日本植物病理学会会報)	39(2):99-102.	タバコのTMV感染によりジャワネコブセンチュウの寄生増加
14	後藤 昭	1973	各種立地環境における植物寄生性線虫属の分布.	Edapbologia	8:10-16.	謄写. 属別の検出例を主とする.
15	後藤 昭・佐野善一・皆川 望	1973	有効積算温度によるサツマイモネコブセンチュウの侵入時期別発生予察.	九病虫研会報(九州病虫研究会会報)	19:124-127.	発育零点を12°C、1世代所要有効積算温度を410日度と推定.
16	後藤三千代	1973	イネネモグリセンチュウの生態学的研究 I. 水稲節根と線虫寄生様式との関係について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会会報)	24:1-5.	H. Imamuraの令期別の寄生部位、稲根中の還元糖含量の節位及び生育時期別の変化
17	後藤三千代	1973	庄内地方におけるイネネモグリセンチュウ Hirschmiella imamuri S. A. SherとH. oryzae S. A. Sherの生態学的研究 第3報 稲根からの線虫分離要因について.	山形農林学会報	30:20-27.	両種のベルマン法による分離時の温度、時間、分離前の根の切断処理の有無等を比較
18	後藤三千代	1973	イネネモグリセンチュウ(H. imamuri)の水稲根への侵入について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:128.	講要
19	萩原幸弘	1973	マツ類の材線虫病によるマツ立枯予防:適期を予察する場合の留意点.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	84回:112.	講要
19.1	萩原幸弘	1973	マツ類の材線虫病によるマツ立枯予防:適期を予察する場合の留意点.	日林論(日本林学会大会論文集)	84回:336-338.	カミキリの羽化時期の調査
20	萩原幸弘・中島康博・小河誠司	1973	マツ類の材線虫病によるマツ立枯れ鎮除.	福岡林業試験場研究資料	2:45-69.	MPP, MEP散布に防除効果を確認した. p. 60-63にマツ枯損関係の文献集(140編)
21	橋本平一	1973	マツノザイセンチュウの樹体内移行(II).	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	26:187-188.	「まず接種付近の幹が異常となり、その後線虫が先行して分散し、地際付近に集中した時点で全身に異常がおこる」
22	橋本平一・堂岡安生	1973	マツ丸太中における材線虫の増殖.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	26:185-186.	条件によっては低密度でも速やかに増殖.
23	橋本平一・清原友也	1973	マツノザイセンチュウの樹体内移行(III).	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	84回:110.	講要

23.1	橋本平一・清原友也	1973	マツノザイセンチュウの樹体内移行(Ⅲ).	日林論(日本林学会大会論文集)	84回:330-332	高密度の接種時に大きな移動.
24	橋本平一・清原友也・堂園安生	1973	マツの健全木中における材線虫生息の可能性.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	26:189-190	線虫の検地されない異常木もあった.
25	早坂義雄・小原憲由	1973	土壤線虫の防除に関する試験.	宮城県林業試験場業務報告	昭47:80-92	スギのネグサレセンチュウにマリゴールド・薬剤.
26	林 勇	1973	温室バラのセンチュウに関する試験 第3報 殺線虫剤の立ち中処理とその効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	20:157-158	ネグサレ、ネコブセンチュウにDBCP剤.
27	林 勇・森 君彦・神山克己	1973	温室カネシオン、バラの土壤消毒栽培における施肥改善試験.	神奈川県研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	21:103-111	主に窒素施肥の改善、土壤消毒前後の線虫調査を含む.
28	日岡登治・大谷広之	1973	イネネモグリセンチュウに関する調査成績.	農作物有害動物発生予察特殊報告	25:76-92	滋賀県、県内の分布、発生消長、被害解析
29	平野和弥	1973	線虫と他の病原微生物とによる複合病の諸問題.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	3:1-8	総説、複合病と関連病言、既往の研究(線虫と菌類病、細菌病・ウイルス病)、複合病における混合感染の問題点
30	平野和弥	1973	キュウリ苗立枯病に対するネコブセンチュウの関連.	日植病報(日本植物病理学会報)	39(3)198	講要
31	平野和弥	1973	キュウリ立枯病とネコブセンチュウ.	今月の農業	17巻9:54-58	線虫の関連機構、ベノミル、DAPA、PCNB、メソミル、DBCP、D-D、NGS、クロルピクリン剤施用の防除効果
32	平田明由	1973	DBCP粒剤の桑園土壤線虫への選択的影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:144	講要
33	星野三男	1973	水田線虫特殊調査結果の概要.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:36-39	栃木県における水田線虫の種類別分布、発生消長、冬期間の水田土壌管理条件・水田の休耕・転作と線虫の密度変動.
34	細田隆治	1973	マツノザイセンチュウとその近縁種(Bursaphelenchus sp. No. 5)の比較試験.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	24:177-180	接種試験.
35	一戸 稔	1973	ジャガイモシストセンチュウの生態.	植物防疫	27(2)73-76	形態、分布、生態(シストの形成、寄生範囲、生活史、症状、検診法、孵化促進物質)、発生動態、抵抗性ジャガイモ品種とバソタイプ.
36	一戸 稔	1973	Nematodes and their control in Japan.	Jap. Pesticide Inform. (Japan Pesticide Information)	14:11-18	日本の線虫および線虫問題のレビュー.
37	一戸 稔	1973	ジャガイモシストセンチュウの発生と予防.	技術と普及	10巻12:93	農業技術情報.
38	一戸 稔・三井康・岡本好一・関谷宏三・鈴木勝彦・横沢愛三	1973	モモ根園土壌における数種線虫の立体的分布.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:139	講要
39	池永和夫	1973	水田線虫の検診方法確立に関する特殊調査.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:127-146	長崎県、県内分布、水稲主要品種に対する寄生性、発生消長、冬季休閑期における発生消長.
40	稲垣春郎	1973	ハツカ地下茎黒腐病の発病におよぼすピンセンチュウと土壌温度の影響.	日植病報(日本植物病理学会報)	39(2)149	講要
41	稲垣春郎・気賀沢和男	1973	Discovery of the potato cyst nematode, <i>Heterodera rostochiensis</i> Wollenweber, (Tylenchida: Heteroderidae) from guano.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	8(2)97-102	日本に輸入されたペルーグアノからジャガイモシストセンチュウの生きたシストを発見。計測値、接種試験結果を示す。北海道農試報 9:1-3, 1973にこの問題に関する紹介記事
42	稲垣春郎・気賀沢和男・堤 正明	1973	圃場におけるジャガイモシストセンチュウの寄生によるジャガイモの被害とその症状	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	3:25-29	症状の進展過程、根辺土壌中のシスト密度とジャガイモの生育・収量の関係(負の相関)
43	稲垣春郎・桜井清・古山三郎・笠野秀雄	1973	はっかの線虫に関する研究 第2報「はっかの線虫ならびに地下茎黒腐病の防除.	北海道農試研報(北海道農業試験場研究報告)	104:131-148	ピンセンチュウの関連性、種根処理による線虫の防除(水洗、DBCP、VC-13水溶液浸漬)、土壌燻蒸(D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、D-D・PCNB、PCNB)、はっか品種の線虫抵抗性.
44	稲垣春郎・堤 正明・気賀沢和男	1973	ジャガイモシストセンチュウに関する研究:ふ化、侵入、繁殖におよぼす温度の影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:133	講要
45	稲生 稔	1973	イネシガラセンチュウの多発田と田植期の感染.	茨城県農試研報(茨城県農業試験場研究報告)	14:47-58	発生調査(年次別発生、灌漑水中・水路・水田での線虫寄生、雑草・野越冬調査)、水による感染(田植後における線虫の寄生、罹病苗からの線虫の游出、圃場内における感染、水中における生存期間)、目黒米発生(線虫寄生と目黒米発生)、防除(畑苗代・植付時の粒剤散布)
46	稲生 稔	1973	茨城県における斑点米の発生について.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	20:107	目黒米は平坦地に多い、籾内からイネシガラセンチュウを分離、生息密度も高い.
47	井上 平	1973	春秋二期作ジャガイモにおける連作に伴うネコブセンチュウの増殖と減収.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:135	講要
48	井上 平	1973	春秋二期作ジャガイモのネコブセンチュウの被害Ⅱ.	Delphax		講要
49	井上 巖	1973	ハリガネムシの生活.	インセクトリウム	10(4)76-80	Chordodes japonensis, C. fukuuiの生活史
50	石橋信義・柏尾具俊・横尾多美男	1973	ピンセンチュウ(<i>Gracilacus aciculus</i>)における口針の退化と再形成 2. 寄主植物根分泌物の脱皮促進効果.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:151	講要
51	石橋信義・近藤栄造・村岡 実・横尾多美男	1973	Ecological significance of dormancy in plant parasitic nematodes. I. Ecological difference between eggs in gelatinous matrix and cyst of <i>Heterodera glycines</i> Ichinohe (Tylenchida: Heteroderidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	8(2)53-63	EDB剤、温度(-10~+25°C)処理をした褐色シスト・黄白色シスト・卵囊からの游出幼虫の植物体への侵入の比較
52	石川元一・黒田恭久	1973	ハウス内キュウリのネコブセンチュウ防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	20:152	D-D、EDB、ネマブロン、ソイルメト剤処理.
53	伊戸泰博	1973	The effects of nematode feeding on the predatory efficiency for house fly eggs and reproduction rate of <i>Macrocheles muscaedomesticae</i> (Acarina: Mesostigmata).	衛動(衛生動物)	23(3)209-213	ハエ飼育培地中での、ハエダニによるイエハエ卵(若令幼虫を含む)捕食効果に、線虫 <i>Rhabditis</i> sp. の給餌量が影響
54	伊藤一雄	1973	新特別研究「マツ類の材線虫防除に関する研究」の発足にあたって.	森林防疫	22(6)131-132	研究計画の概要.
55	伊藤喜隆・西沢務	1973	コボウにおけるネグサレセンチュウ防除効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	20:154-156	ネマクロベン、クロルピクリン、EDB剤を推奨
56	岩橋哲彦	1973	水田線虫特殊調査成績.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:147-165	宮崎県におけるイネネモグリセンチュウ2種の県内分布、発生消長、作付体系別圃場における発生消長、水及び肥培管理と線虫寄生、線虫寄生と地上部被害との関連
57	岩木満朗・小室康雄	1973	スイセンから分離された <i>Arabis mosaic virus</i> の <i>Xiphinema bakeri</i> による伝搬.	日植病報(日本植物病理学会報)	39(3)215	講要
58	岩瀬 恵・小阪和彦・小野 洋	1973	殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ駆除試験(予報).	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	24:181-183	HLB 0.1%油剤.
59	神納 浄・坂本信一・後藤 宣・山根伸夫・西田典	1973	ハウス内キュウリの線虫発生と防除(第2報).	関東病虫研報(関東西病虫研究会報)	15:92-96	殺線虫剤が間接的に発病を助長.
60	神永翔六・岸 洋一	1973	水戸周辺のマツのマツノタマバエとマツノザイセンチュウによる集団枯損.	森林防疫	22(2)61-63	材線虫は茨城県内では水戸市周辺のみで検出.
61	金子晃三・大林延夫・戸塚 武・近岡一郎	1973	ダイコンのキタネグサセンチュウに対するマリゴールドの効果、とくにスイカ間作としての導入法.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	20:153	マリゴールドの栽培間隔、品種と線虫密度低下効果
62	柏尾具俊・石橋信義・横尾多美男	1973	ピンセンチュウ(<i>Gracilacus aciculus</i> (Brown, 1959) Raski, 1962)における口針の退化と再形成 1. 解剖学的観察.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:150	講要
63	勝野留雄	1973	大型ハウスでの土壌消毒:その消毒方法をさぐってみよう.	農業技術研究	27巻8:52-54	線虫記述なし、薬剤・蒸気消毒の方法.
64	川端源一郎・今村和夫	1973	水田線虫の検診方法に関する特殊調査(44~46年総括).	農作物有害動物発生予察特別報告	25:46-56	福井県におけるイネネモグリセンチュウ2種の発生消長、寄生と被害、寄主植物、県内の発生分布.
65	川島嘉内	1973	イネネモグリセンチュウの検診法の確立に関する試験.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:27-36	福島県、幼虫期の令期、発生消長、被害解析.
66	気賀沢和男・稲垣春郎・堤 正明	1973	ジャガイモシストセンチュウに関する研究:シストの密度分布と被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:134	講要

67	岸 洋一・海老根 翔六	1973	マツノザイセンチュウの県内分布調査.	茨城県試業報(茨城県 林業試験場業務報告)	昭47:46-48.	昭和47年4月から48年3月の調査
68	北沢右三	1973	土壌動物生態学(生態学講座 14).	共立出版、東京	5+154+12 pp.	土壌動物の生態全般を扱う。IBPの成果の引用中等に 線虫関連記事
69	北沢右三	1973	米国北西部の針葉樹林の土壌動物調査.	Edaphologia	8:49-51.	講要。線虫を含む。
70	清原友也	1973	マツノザイセンチュウを接種したクロマツ苗の発病におよぼす温度の影響.	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	84回:111	30、25℃では発病、枯死20、15℃では線虫の増殖・枯 死は少.
70	清原友也	1973	マツノザイセンチュウを接種したクロマツ苗の発病におよぼす温度の影響.	日林論(日本林学会大 会論文集)	84回:334- 335.	30、25℃では発病、枯死20、15℃では線虫の増殖・枯 死は少.
71	清原友也	1973	マツノザイセンチュウを接種クロマツ苗の樹 脂量および蒸散量の変化.	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	26:195- 196.	両方とも低下.
72	清原友也・堂園 安生・橋本平一・ 小野 肇	1973	マツノザイセンチュウの接種密度と加害力.	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	26:191- 192.	低密度でも加害能力を持つ
73	清原友也・橋本 平一・堂園安生・ 小野 肇	1973	マツノザイセンチュウの垂直分布:雲仙岳と 阿蘇・九重山系での調査.	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	26:193- 194.	前者では標高720m以下、後者では280m以下で検出. Cryptaphelenchus属も検出.
74	小林亨夫・佐々 木克彦・真宮靖 治	1973	マツノザイセンチュウの生活環と関連する糸 状菌とその培養上での線虫の増殖.	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	84回:111.	講要
75	小林義明	1973	水田におけるHirschmaniella属線虫の生態 ならびにイネの被害に関する研究(第1報) 発育令期の判別ならびに季節的発生消長.	静岡農試研報(静岡県 農業試験場研究報告)	18:10-18.	2種の令期判別法と令期別の発生消長.
76	小林義明	1973	水田地帯ハウス土壌の灌水処理と土壌セン チュウ防除効果.	今日の農業	17巻12: 38-39.	ネグサレ、ネコブセンチュウに対する効果。温度、日数 との関係.
77	小林義明	1973	キクの連染障害に関するネグサレセン チュウに関する研究 I. 静岡県内のキク 産地における、連作に伴う生育障害および ネグサレセンチュウの発生実態.	日線虫誌(日本線虫 研究会誌)	3:19-24.	線虫密度とキクの生育、症状、灌水と線虫密度変化.
78	小林義明	1973	高温下の灌水によるネコブセンチュウ Meloidogy sp.の防除.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	17回:149.	講要
79	小林義明	1973	ハガレセンチュウによるキクの縮症状と対 策.	植物防疫	27(4):135- 138.	病徴、発生状況、線虫の形態、発生原因、病原性、寄 生部位、防除法(サリチオン、メソミル散布)
80	小林義明	1973	苗床における線虫の防除.	農業技術研究	27巻12: 116.	薬剤防除.
81	小林義明・杉野 多司	1973	水田線虫に関する特殊調査成績.	農作動有害動物発生 予察特別報告	25:57-75.	静岡県、イネネモグリセンチュウ2種の種別・令期別 の判別法、発生消長、H. oryzaeに寄生する胞子虫、被 害、調査方法
82	児島司忠	1973	ジャガイモシストセンチュウの発生と防除対 策.	植物防疫	27(2):69- 72.	発生確認の経過、緊急発生調査、今後の防除対策
83	近藤栄造・石橋 信義・横尾多美 男	1973	ダイズシストセンチュウのシスト壁・卵殻およ び幼虫皮膚の構造.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	17回:131.	講要
84	真部辰夫	1973	除草剤の森林生態系におよぼす影響とその 調査方法.	農林水産研究情報	29:27-28.	線虫類の個体数変動は除草剤処理の有無と無関係.
85	真宮靖治	1973	マツを枯らす線虫マツノザイセンチュウ.	林業技術	378:1-4.	第12回藤岡光長賞受賞業績紹介
86	真宮靖治	1973	マツノザイセンチュウの生活史.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	17回:146.	講要
87	真宮靖治・遠田 暢男	1973	マツノザイセンチュウの近似種、ニセマツノ ザイセンチュウ(仮称).	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	84回:109- 110.	講要
87.1	真宮靖治・遠田 暢男	1973	マツノザイセンチュウの近似種、ニセマツノ ザイセンチュウ(仮称).	日林論(日本林学会大 会論文集)	84回:328- 330.	形態・加害性の比較、伝播.
88	真宮靖治・小林 亨夫・陳野好之・ 遠田暢男・佐々 木克彦	1973	マツノザイセンチュウによるアカマツの自然 感染、発病の経過.	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	84回:110- 111.	講要
88.1	真宮靖治・小林 亨夫・陳野好之・ 遠田暢男・佐々 木克彦	1973	マツノザイセンチュウによるアカマツの自然 感染、発病の経過.	日林論(日本林学会大 会論文集)	84回:332- 334.	野外における異常木・枯死木の発生経過、樹体内の線 虫数等
89	真野 豊	1973	昭和48年の発生にかんがみ注意すべき病 害虫.	北農	41巻4:12- 20.	トマト、キュウリ(ハウス栽培)にサツマイモネコブセン チュウが北海道で新発生
90	増田安弘	1973	そまの生理におよぼすネマトダの影響(第 5報) 寄生と有機物(堆肥)との関係におけ る介在的支配要因.	園芸学会研究要旨(園 芸学会大会研究発表 要旨)	昭48春: 246-247.	講要
91	松田 明・下長根 鴻・尾崎克彦・渡 辺文吉郎	1973	煙水稲および陸稲の連作害と対策に関する 研究 第1報 連作害の症状と発生条件に 関する研究.	茨城県試業報(茨城県 農業試験場研究報告)	14:1-19.	シストセンチュウ、Fusarium菌の単独より、同時感染時 に症状が出やすい.
92	松井弘之・中川 昌一	1973	ネコブセンチュウによるゴル形成機構に関 する研究(第1報)サツマイモネコブセンチュ ウの接種によりホセセンカの茎に形成された ゴルの形態学的研究.	園学雑(園芸学雑誌)	42(3):221- 227.	接種後の組織学的変化
93	松本久二	1973	除草剤散布と森林土壌中の線虫.	Edaphologia	7:1-8.	播写。塩素酸ソーダ散布後のベルマン法による分離線 虫数の変化。除草剤の土壌線虫への影響は不明
94	松本益美・吉岡 幸治郎・隅田俊 三・近藤武由・高 橋 晋・南条治 彦・真鍋義夫	1973	愛媛県内主産地におけるサトイモ連作障害 の発生実態.	四国植防(四国植物防 疫研究)	8:57-63.	症状、被害、収量と連・輪作との関係.
95	松浦 誠	1973	知っておきたい果樹の病害虫:線虫.	和歌山の果樹	24巻3:38- 42.	果樹の線虫の種類、被害、連作障害、線虫の寿命、生 活史、天敵、防除
96	御子柴 稔	1973	水田における土壌燻蒸剤処理の土壌肥力 的効果とその注意点.	農及園(農業および園 芸)	48(7):931- 934.	燻蒸剤の種類と処理方法、水稲の生育収量に及ぼす 効果、土壌中の有機態窒素の無機化促進と硝化抑制 に及ぼす影響、土壌の理化学性に及ぼす効果、燻蒸処 理の残効果.
97	皆川 望	1973	土壌中における線虫の微細分布.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	17回:152.	講要
98	峰尾一彦	1973	マツノザイセンチュウに関する研究:マツノ ザイセンチュウの増殖におよぼす温度の影 響.	日林関西支講(日本林 学会関西支部大会講 演集)	24:167- 169.	25、30℃でよく増殖.
99	峰尾一彦・紺谷 修治	1973	マツノザイセンチュウによるフランスカイガ ンシヨウの被害.	森林防疫	22(10): 227-229.	林業試験場関西支場の見本林.
100	峰尾一彦・和田 信也	1973	マツノザイセンチュウに関する研究:マツノ ザイセンチュウ検出と温度との関係.	日林関西支講(日本林 学会関西支部大会講 演集)	24回:170- 172.	20℃で最も多.
101	三井 康	1973	線虫捕食菌の生態:検出方法および分布.	土と微生物	14:26-36.	地理的分布、モモ園土壌とミカン園の比較、菌糸伸長 速度、分離培地、温度と検出頻度、土壌湿度、有機物へ のコロナイゼーション、検出頻度と線虫密度.
102	三井 康・岡本好 一	1973	キタネコブセンチュウに寄生する胞子虫.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	17回:148.	講要
103	三浦宏一郎	1973	Three entomophthoralean parasites of nematodes collected from Japna.	菌莖研報(菌莖研究 所研究報告)	10:517- 522.	ハエカビ目に属する日本産線虫寄生菌3種を記録. Gonimochoeta horridula Drechsler, Meristacrum asterspermum Drechsler, Zygonemonuces echinulatus (新属新種)の図示及び記載
104	百田洋二・大島 康臣	1973	陸稲連作ほ場から検出されたワセンチュ ウ.	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	17回:129.	講要
105	森本 桂	1973	マツノザイセンチュウとまつくい虫をめぐる諸 問題.	植物防疫	27(5):175- 179.	樹皮下を食害するという加害様式、マツの衰弱原因と 材線虫の発見、マツノザイセンチュウの伝搬経路、カミ キリと材線虫の相互作用、カミキリ・材線虫の関係から みたマツ枯損問題
106	森本 桂	1973	マツノザイセンチュウによるマツ類枯損の防 止法.	今日の農業	17巻12: 40-43.	薬剤、その他の方法の考え方.
107	森本 桂・岩崎 厚	1973	マツノマダラカミキリに関する研究 IV. 蛹室 をめぐるカミキリと材線虫の生態.	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	26:199- 200.	蛹室への線虫の集中、耐久型幼虫のカミキリ体への移 行時期
108	森本勇馬	1973	殺線虫剤処理効果と後のスギ苗木の生 長.	森林防疫	22(6):140- 144.	テラクア-P、NCS、ドロクローL処理等。NCS処理苗は完 全に活着

109	森本勇馬	1973	岐阜県下におけるポット苗根ぐされ被害実態調査.	日林中部支講(日本林学会中部支部講演集)要集	21:236-240.	用土の過湿と線虫が原因
110	中村好男	1973	除草剤と土壤動物に関する報告について.	Edaphologia	7:15-21.	騰写. 線虫を含め、従来の研究データをあげる.
111	中西喜徳・上住泰	1973	キク生育期におけるネグサレセンチュウの動態について.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	15:129.	講要. キタネグサレセンチュウの季節的発生消長と堆肥施用
112	中園和年	1973	Studies on post-embryonic development of the reniform nematode, <i>Rotylenchulus reniformis</i> Linford and Oliveira (Nematoda: Rotylenchulida). I. Morphological changes of the molting larvae of a parthenogenetic population.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	8(2):83-96.	生育にともなう形態的变化及び脱皮過程の観察
113	中園和年	1973	ニセフクロセンチュウの2系統間における生態的比較: 温床と発育速度.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:149.	講要
114	中園和年	1973	マリゴールドの栽培とニセフクロセンチュウ(<i>Rotylenchulus reniformis</i>)の個体数変化との関係.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	3:38-41.	マリゴールドの品種による線虫密度の増加又は減少
115	中里肇二	1973	水田線虫特殊調査結果の概要.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:40-45.	群馬県. 被害解析、発生消長、県内分布、田畑換栽培・水田転換田における線虫密度の変動
116	成河智明	1973	大豆. In: 総合野菜・畑作技術事典 I. 畑作物編(農林省農林水産技術会議事務局編).	農業技術協会、東京	p.100-116.	シストセンチュウ対策(輪作)および抵抗性品種育種を含む.
117	成河智明	1973	小豆. In: 総合野菜・畑作技術事典 I. 畑作物編(農林省農林水産技術会議事務局編).	農業技術協会、東京	p.117-123.	輪作による線虫防除にふれる.
118	西沢 務	1973	Pathogenicity of <i>Trichodorus porosus</i> to Chinese yam.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	3:33-37.	ナガイモの黒変症状の原因はユミハリセンチュウと確認
119	西沢 務	1973	接種試験によるナガイモ異変障害要因の解析.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:136.	講要
120	西沢 務	1973	作物の線虫害とその評価.	植物防疫	27(11):451-458, 1 pl.	線虫害とその発現、被害の評価と予測.
121	西沢 務	1973	虫害の経済的レベルをめぐって: 土壤線虫について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:256-257.	シンポジウム講要
122	西沢 務(編)	1973	水田線虫の検診方法の確立に関する特殊調査.	農作物有害動物発生予察特別報告	No. 25, 175 pp.	収録論文又は下記を参照: 73-12, 28, 33, 39, 56, 64, 65, 81, 115, 123, 146, 147, 158, 170, 177; p. 166-175 に総括(西沢)
123	野口義弘	1973	水田線虫検診方法の確立に関する特殊調査成績.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:110-119.	徳島県. 発生消長、生態(令構成の変化)、根からの分離法、被害、県内分布.
124	小芦健良	1973	ミネネグサレセンチュウによるサイモの被害について.	九州農業研究	35:103-104.	種いも消毒(有機水銀剤浸漬、DSP粉末)、土壤消毒(クロルピクリン、EDB剤)
125	小河誠司・中島康輝・萩原幸弘	1973	マツノザイセンチュウの分布と生態.	福岡林試研究資料(福岡県林業試験場研究資料)	2:3-27.	福岡県内分布、線虫の病原性、生態(鑄室付近の線虫の分布、密度、後食後の切枝からの線虫分離、スジマダラモフトカミキリ)の保持線虫数
126	岡本好一・三井康一・戸稔	1973	ハウス内におけるサツマイモネコブセンチュウのマトト抵抗性品種加害事例.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:132.	講要
127	大庭嘉八郎	1973	マツノザイセンチュウ抵抗性育種.	林木の育種	81:10-12.	抵抗性育種の進め方、九州林木育種場におけるマツノザイセンチュウ抵抗性育種の現況
128	大林延夫	1973	線虫害対策としてのマリゴールドの利用.	植物防疫	27(9):367-371, 1 pl.	マリゴールドの殺線虫作用、種類と効果、利用法、防除効果の持続. ビニールと農園芸14巻4(通巻巻73号)30-31, 1973; 園芸通信 23巻17(通巻328号)26-28, 1973に同じ著者による同様記事
129	大林延夫・近岡一郎	1973	マリゴールド利用によるキタネグサレセンチュウの防除法について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:138.	講要
130	大林延夫・近岡一郎	1973	マリゴールド利用によるキタネグサレセンチュウの防除法に関する研究.	神奈川園芸研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	21:91-102.	マリゴールドの品種比較と効果持続期間、栽培日数と線虫密度、粉末の施用効果、栽培方法、スイカとの混植の効果、混植時の栽培距離、スイカ収量への影響、品種と施肥量がスイカの収量におよぼす影響、堆肥の施用効果
131	大本孝之・佐藤紀男・要 司	1973	促成イチゴの"すくみ症"に関する研究(第2報)"すくみ症"と土壤病害虫およびウイルス感染との関係.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭48秋:134-135.	講要
132	大本孝之・佐藤紀男・要 司	1973	促成イチゴの"すくみ症"に関する研究(第3報)土壤消毒の効果.	園芸学会大会要旨(園芸学会大会講演要旨)	48秋:136-137.	講要
133	大島康臣	1973	線虫の分類表.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	3:42-44.	Tylenchida目のほぼ全部、Dorylaimida目の一部の属までのリスト
134	大島康臣・西沢 務	1973	日本産キタネグサレセンチュウグループの形態学的検討.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:137.	講要
135	大山浪雄	1973	マツノザイセンチュウに対するアカマツ、クロマツ、スラツシュマツ、テダマツの抵抗性.	林木育種情報	17:4.	樹種により抵抗性に差
136	大山浪雄・斉藤明	1973	マツノザイセンチュウ接種木の枝曲り病.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	26:197-198.	多頭接種処理の生残木に多く発生
137	三枝敏郎	1973	ついに日本に発生したゴールデンネマトダ: Golden nematode北海道で発生.	農業研究	19巻3:19-23.	生活史、病徴、寄主、検出法、見分け方.
138	三枝敏郎	1973	138. 三枝敏郎: 地球の主を支える線虫.	科学朝日	33巻2:87-92.	植物寄生線虫を中心とした平易な解説.
139	三枝敏郎・安藤幸夫	1973	ジャガイモシストセンチュウ <i>Heterodera rostochiensis</i> Wollenleber の篩別検出にあたっての1, 2の知見.	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	11:48-52.	シストの大きさと篩の目の大きさの関係、分離時の注意事項
140	三枝敏郎・安藤幸夫	1973	ドイツスズランに寄生するスズランネグサレセンチュウの生態と防除に関する1, 2の知見.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:145.	講要
141	三枝敏郎・安藤幸夫・山本洋祐・星野 尹	1973	ドイツスズランのスズランネグサレセンチュウ <i>Pratylenchus convallariae</i> Seinhorst の生態と温湯消毒.	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	11:36-47.	新潟県北魚沼郡生産の米国向け輸出苗. 発生消長、寄生知害、寄主植物、スズランに寄生する他のネグサレセンチュウ(キタ、ノコギリネグサレ)、それ以外の寄生線虫(オオカタハリ、 <i>Heterodera</i> sp.?), 温湯浸漬(47°C30分以上)
142	齊藤正隆・砂田喜与志・酒井真次	1973	北海道におけるダイズシストセンチュウ抵抗性大豆品種の育成.	農及園(農業および園芸)	48(10):1337-1342.	抵抗性育種(黒豆三本木系、下田不知系、PI系から抵抗性導入)、抵抗性検定法.
143	坂井健吉	1973	かんしょ. In: 総合野菜・畑作技術事典 I. 畑作物編(農林省農林水産技術会議事務局編).	農業技術協会、東京	p.75-87.	主要品種の特性(線虫抵抗性を含む)
144	酒井真次・齊藤正隆	1973	大豆におけるダイズシストセンチュウ抵抗性検定方法について: 雑種初期世代の簡易検定方法について.	育種(育種学雑誌)	23(別1):142-143.	講要
145	桜井 清・福垣春郎・湯原 巖・堤正明	1973	リンゴネコブセンチュウ (<i>Meloidogyne mali</i> Itoh, Ohshima and Ichinohe, 1969) によるリンゴの被害と防除.	北海道農試研報(北海道農業試験場研究報告)	105:9-22.	生態(発生消長、土壌中の水平・垂直分布)、防除(苗木のDBCP, 5121粒剤処理、幼木のD-D, EDB, DBCP剤処理)
146	佐藤昭美・阿部 慎	1973	水田線虫の検診法に関する特殊調査.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:16-19.	岩手県における水田線虫の種類と分布、発生消長、分離法の検討、被害
147	清家義明・高山昭夫	1973	水田線虫の発生消長に関する調査.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:120-126.	愛媛県. 発生消長(土壌及び根について)
148	司馬直文・小沢慎吾	1973	ネコブセンチュウ防除と燻蒸施用による桑園能率向上試験(第2報).	東京蚕糸指試験要報	7:8-9.	騰写. DBCP剤の効果は2年目でも高い
149	清水 啓	1973	イネのは種期の違いがイネシストセンチュウの季節的消長におよぼす影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:130.	講要
150	白浜賢一	1973	Cultivation of cruciferous rots and pest control in Japan.	Jap. Pesticide Inform. (Japan Pesticide Information)	15:5-10.	ウリ科作物のネコブ、キタネグサレセンチュウ防除を含む.
151	庄司次男・瀬川幸三	1973	ネコブセンチュウの一種 <i>Meloidogyne mali</i> によるウダイカンパの被害.	森林防疫	22(2):59-61.	林業試験場東北支場構内(岩手県盛岡市).
152	周藤靖雄	1973	鳥根県の林業苗圃における主要病害とその薬剤防除.	林業と薬剤	44:8-11.	土壤線虫病(スギ苗のネグサレセンチュウ)にNCS、クロルピクリン剤.
153	周藤靖雄	1973	苗木の根腐れ被害防除試験.	鳥根林試研報(鳥根県林業試験場研究報告)	23:1-50.	主にスギ苗のネグサレセンチュウ防除. NCS、アイオビクリン、ドロクロールは苗の生育を良好にした.

154	菅原寿一・臼井豊・堤平・杉本利哉	1973	伊達地方のそう根病に対するD-D処理の効果について.	てん研報(てんさい研究所報告)	補13:195-200.	4リットル/10a処理では不完全.
155	忠政 亨	1973	マツノザイセンチュウ(Bursaphelenchus lignicolus Mamiya et Kiyohara)の実態調査	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	13:159-164.	謄写
156	忠政 亨	1973	まつくいむし駆除剤によるマツノザイセンチュウの殺滅効果の検討.	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	13:176-177.	謄写
157	高木一夫	1973	赤外カラー写真による茶樹の健康診断.	植物防疫	27(4)159-162, 1 col. pl.	チャネグサレセンチュウの被害を含む.
158	高倉重義	1973	イネネモグリセンチュウの検診方法の確立に関する特殊調査. 農作物	有害動物発生予察特別報告	25:1-15.	北海道における分布と耐寒性の関係、土壌のグライ化の程度と線虫密度、北海道における主要品種に対する寄生性、発生消長、被害解析
159	高倉重義・手塚浩・山田英一	1973	ジャガイモシストセンチュウの本邦における初発生について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	24:91.	発見の経緯、初発見の状況
160	高杉光雄・小林喜六・姉帯正樹・上野正司・勝井信勝・正宗 直	1973	9, 10, 13-trihydroxyoctadecanoic acid, a new fatty acid in the roots of kidney bean (Phaseolus vulgaris L., "Beni-kintoki").	Chem. Lett. (Chemistry Letters)	1973(5)445-446.	インゲン根から抽出された脂肪族. 1 ppmでダイズシストセンチュウの卵の孵化を促進.
161	武田丈夫・井戸規雄	1973	和歌山県におけるマツノザイセンチュウの分布.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	24回:163-166.	講要
162	田村浩志	1973	森林の土壌動物. In: 土壌動物の生態と観察(渡辺弘之監)	築地書館、東京	P. 74-104.	線虫関係p. 93-94.
163	田村弘志	1973	線虫捕食菌研究の現状.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	3:9-18.	総説. 捕食器官の形態と捕食機能、線虫捕食菌の線虫誘引と致死作用、捕食器官の形成要因、生長と環境要因、捕食効果と環境要因、線虫捕食菌の分布、土壌中の変動と生存、枯抗菌と静菌作用、生物防除への応用、2, 3の研究上の課題.
164	田村弘志・真宮靖治	1973	マツノザイセンチュウ(Bursaphelenchus lignicolus)の無菌化.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	3:30-32.	抗生物質等による表面殺菌は失敗. 抗生物質加用PDA培地で増殖させたBotrytis cinereaによる培養で無菌的線虫を得る.
165	田邊市郎・北山登喜男・草水 崇	1973	主要畑作物の連作障害に関する研究 I. 畑作物の連作障害について.	鹿児島農試鹿屋支研報(鹿児島県農業試験場鹿屋支場研究報告)	10:17-30.	ネコブ、ミナネグサレ、ニセフクロセンチュウを検出. 線虫を含む生物的要因の交互または相乗的作用と結論.
166	田中 勇	1973	病害虫防除の今後の方向. 害虫総合防除を中心として.	葉たばこ研究	62:66-72.	線虫抵抗性品種にふれる.
167	田中 潔	1973	マツノザイセンチュウに対するマツ属植物の種間抵抗性に関する考察: フランスカイガンショウ被害本の発見にもなつて.	森林防疫	22(11)254-258.	マツ類の分類学上の類縁関係と線虫感受性の関係を論じる.
168	樋田幸夫	1973	ネコブセンチュウによるクワの被害解析 II 線虫接種1年後および2年後のクワの生育.	応動見大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:142.	講要
169	樋田幸夫	1973	桑園のネコブセンチュウおよびピンセンチュウの発生消長.	日蚕園東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	24:15.	講要
170	東海林久雄	1973	イネネモグリセンチュウに関する調査.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:20-26.	山形県. 発生消長、線虫の寄生量と水稲の収量、県内の分布
171	富永時任	1973	黒しよく(糞)米の病因について.	植物防疫	27(9)379-383.	アメヒゲホソドリメクラガメとEmterobacter agglomeransの混合感染. イネニンガレセンチュウも同菌と共に原因となる.
172	角田 博	1973	殺線虫剤の現状と使用上の問題点[1].	農及園(農業および園芸)	48(6)837-842.	殺線虫剤による土壌線虫防除の歴史と背景、種類別の消長、地方別の使用状況、特性、適用範囲および使用方法(D-D, EDB, EDB+EDC, DBCP, DCIP剤)
173	角田 博	1973	殺線虫剤の現状と使用上の問題点[2].	農及園(農業および園芸)	48(7)957-962.	殺線虫剤の使用上の基本的注意事項(物理科学的性質、作物への被害)、使用上の問題点(線虫の種類、土壌消毒機、薬剤費、毒性・残留)
174	都築 仁・上林 謙	1973	ベノリ剤のイネ心枯線虫病に対する効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	39(2)169-170.	講要
175	上林 謙・天野隆・中西 勇	1973	黒点米に関する研究 第3報 発生生態.	愛知県農試研報(愛知県農業総合試験場研究報告) A	5:63-69.	黒点米の発生位置(穂内)、穂の大きさや黒点米の発生量、品種間差、発生時期、貯蔵中の発生変動
176	上住 泰	1973	イチゴに対するTylenchorhynchus sp. の寄生性について.	奈良農試研報(奈良県農業試験場研究報告)	5:76-80.	上記種及びキタネグサレセンチュウは寄生、Rotylenchus piniiは非寄生.
177	上住 泰・中西喜徳	1973	水田線虫特殊調査成績.	農作物有害動物発生予察特別報告	25:93-104.	奈良県における分布、水稲根園における分布
178	八木田秀幸	1973	農園におけるLongidorus martiniの産卵時期ならびに時期別令構成について.	応動見大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:143.	講要
179	八木田秀幸	1973	農園におけるLongidorus martiniの生活史とくに産卵の時期について.	日蚕園東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	24:13.	講要
180	山田栄一・周藤靖雄	1973	島根県におけるマツノザイセンチュウの被害(予報).	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	24回:160-162.	講要
181	山本公志・一戸稔・奈須田和彦	1973	クリ立枯病(仮称)の根から検出されるPseudhalenchus sp. について.	応動見大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	17回:141.	講要
182	山中勝次・村田武彦・天野孝之	1973	マツノザイセンチュウのアカマツ樹体内における移動と各部組織の解剖学的考察.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	24回:173-176.	根系・地際部に多く移動
183	山下信一・浅野明文・石橋信義・横尾多美男	1973	イチゴメセンチュウの生態と防除 1. 年間発生消長と伝播様式.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	0.8819444	講要
184	山崎秀一・伊藤弘康・丸山 卓	1973	土壌線虫防除試験 II. 主にネグサレセンチュウPratylenchus sp. に対する薬剤効果.	新潟林試研報(新潟県林業試験場報告)	16:99-117.	NCS, ドロクロール、テラクア-P, EDB, TD-10の効果. 立枯病防除、殺線虫力、施肥との関係(徒長防止)
185	横尾多美男・安水秀樹・横尾武	1973	線虫捕食性線虫Clarrick sp. の生活史について.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	19:131.	講要
186	横尾多美男・近藤崇造・外園博人	1973	九州における桑園土壌の線虫相に関する調査研究 第5報 佐賀市北部桑園における外部寄生性線虫ピンセンチュウならびにラセンセンチュウの発生の季節的消長.	佐賀大農業(佐賀大学農業叢報)	35:7-13.	Paratylenchus aciculatus(=Gracilacs yokoi Toida et al. 1983), Helicotylenchus dihystraの季節的消長、食性別・深さ別線虫相の変動.
187	米倉樹一	1973	スギまき付における殺線虫剤の時期別使用方法について.	林業技術研究集録(青森県報)	1971:110-112.	DBCP剤のネグサレ、ユミハリセンチュウに対する効果.
188	吉田正義・橋本光司	1973	イチゴの萎黄病の発生生態と防除に関する2, 3の知見.	日植病報(日本植物病理学会報)	39(3)199.	講要
189	湯原 巖	1973	土性調査用保存土壌からのジャガイモシストセンチュウの発見.	応動見(日本応用動物昆虫学会誌)	17(3)162-163.	1964-65年には既に我が国へ侵入していたことを、上記土壌サンプルからシストを発見したことにより実証.
190	Anon.	1973	昭和48年農作物新品種.	農林水産研究情報	25:26-27.	雷電(とまと農林交11号): サツマイモネコブセンチュウにきわめて強い.
191	Anon.(北海道農試作物第2部特用作物第2研究室)	1973	はっか「わせなみ」の育成.	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	昭47:46-49.	ピンセンチュウに強い.
192	Anon.(北海道農試畑作物部畑虫害研究室)	1973	ダイズシストセンチュウの寄生繁殖ならびに被害に関する研究: 土壌条件とダイズシストセンチュウの繁殖を中心に.	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	昭47:61-63.	土壌型と線虫密度、分布、繁殖差異、土壌水分と線虫の活動
193	Anon.(北海道農試病理昆虫部虫害第2研究室)	1973	ダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究: 大豆品種の地域差異.	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	昭47:81-83.	寄生性・形態的差異、卵の孵化差異.
194	Anon.(農事試虫害第2研究室)	1973	連作障害に関連する2, 3の線虫問題.	農事試年報(農事試験場年報)	昭46:58-63.	オカボ、ラッカセイ、サトイモ、サツマイモの連作圃場の検出線虫、ナガイモの連作紹介
195	Anon.(香川県林業指導所)	1973	マツ類の枯損防止に関する試験研究報告.	香川県林業指導所 試験研究成果集	4:1-26.	謄写. マツノザイセンチュウの地理的分布に関する調査を含む p. 1-10.
196	Anon.(全国林業改良普及協)	1973	マツノザイセンチュウ: マツの枯損原因をさぐる.	林業技術シリーズ	-60	カラスライド50駒.
0		1974	昭和49年(1974)			
1	安部 浩	1974	施設栽培のイチゴに多発生が予想される害虫とその防除法.	島根植防(島根の植物防疫)	14巻3:8-21.	イチゴセンチュウ、イチゴメセンチュウによる症状・被害、線虫の形態・検診法・生態・防除を含む
2	安部 浩	1974	イネニンガレセンチュウによる黒点米の発生原因とその対策.	島根植防(島根の植物防疫)	15巻1:10-26.	島根県における黒点米発見の経過とその発生実態並びにイネニンガレセンチュウ・黒点米に関する総説

3	秋野浩二・松本幹男	1974	オクラを害するネコブセンチュウ類の防除例。	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	21:146.	EDB、DBCP、ランネート剤処理、マリゴールド混作。前2薬剤のみ効果を認める。
4	馬場徹代・赤井純	1974	海外における寒冷地畑作の病害防除。	植物防疫	28(11)456-458.	ニューヨークのゴールデンメア対策を含む。
5	千原賢次・堀田隆	1974	マツノザイセンチュウの県内分布調査。	大分県試報(大分県農業試験場報告)	16:81-84.	標高600m以下の地域
6	堂園安生	1974	各種糸状菌類におけるマツノザイセンチュウの増殖。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:161.	Botrytis cinereaが最適。
7	堂園安生	1974	マツの各部位における材線虫の有傷、無傷接種と侵入経路。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:163-164.	無傷条件のマツ生立木樹体内への侵入は不可能
8	堂園安生・橋本平一	1974	マツ切枝(試片)の含水率と材線虫の増殖。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:165-166.	60%以下では増殖しない。
9	堂園安生・吉田成章	1974	Botrytis cinerea菌上におけるマツノザイセンチュウの増殖に対するロジステック曲線の適用。	日林誌(日本林学会誌)	56(4)146-148.	15, 20, 25, 30°Cにおける増殖データのモデルへのあてはめ
10	遠田暢男	1974	10. マツノマダラカミキリの生殖器に寄生する線虫。	森林防疫	23(2)21.	写真とその解説。Neotylechoidea上科の線虫と思われる。
11	遠田暢男・山根明臣・野淵 輝	1974	関東地方におけるマツノマダラカミキリの羽化消長および線虫保有数。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	85回:83.	講要
12	福留信明・荒木幹男	1974	ネコブセンチュウがタバコ腰折病におよぼす影響。	日植病報(日本植物病理学会報)	40(3)130.	講要
13	二井一禎	1974	松を枯らす小さな生物・線虫。	Nature Study	20(10)101-104.	生活史を中心に記述。
14	我如古光男	1974	沖縄本島に侵入したマツノザイセンチュウ。	森林防疫	23(3)42-44.	九州本土からの移入材が発生源
15	五味美知男・中里肇二	1974	イネシガラセンチュウとその防除。	農業研究	21巻3:14-19.	形態、生態、伝播経路、被害、防除(温湯、薬液浸漬・散布)、黒点米との関係。
16	後藤 昭	1974	本邦におけるネグサレセンチュウ Pratylenchus spp. の地理的分布。	九州農試報告(九州農業試験場報告)	17(2)139-224.	ネグサレセンチュウの種類(16種)とその形態、検出記録(種類・地域・環境・検出地・植性別のリスト)、種別に応じた分布の分布、寄主からみた種の分布・伝播、種別にみた分布のとりまとめ、分布型、分布要因。
17	後藤 昭・佐野善一	1974	殺線虫剤の効力および線虫の薬剤感受性。	九州農試年報(九州農業試験場年報)	昭47:37-40.	サツマイモネコブセンチュウに対する6薬剤のLD-50。季節・寄主を異にする前記線虫のEDB感受性。ミナネグサレセンチュウのEDB感受性。
18	浜 武人・小沢孝弘・森本勇馬	1974	岐阜県瑞浪市岡田に発生している松くい虫(マツノザイセンチュウ)による被害について。	森林防疫	23(10)188-189.	内陸部における発生状況。
19	針谷信義・松井武彦・大和田敏	1974	ネマホルンによるピロウドコガネ幼虫の防除について。	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	21:98.	効果を認める。
20	橋本平一	1974	マツの成立場所と材線虫接種木の異常枯損経過。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:155-156.	「林分内の優勢樹が強く、劣勢木は弱い。孤立木は強い傾向」
21	橋本平一・清原友也・堂園安生・滝沢幸雄・宮崎徹・川畑克己・勝善綱・谷口 明	1974	マツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリの標高別分布と被害発生との関係。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	85回:90.	講要
21.1	橋本平一・清原友也・堂園安生・滝沢幸雄・宮崎徹・川畑克己・勝善綱・谷口 明	1974	マツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリの標高別分布と被害発生との関係。	日林論(日本林学会大会論文集)	85回:253-256.	標高別のマツ枯損の被害型及び被害度、カミキリの材線虫保持数、産卵痕、後食数。
22	橋本平一・讃井義孝	1974	マツ樹体内における材線虫の行動とマツの異常経過。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	85回:88.	講要
22.1	橋本平一・讃井義孝	1974	マツ樹体内における材線虫の行動とマツの異常経過。	日林論(日本林学会大会論文集)	85回:251-253.	接種密度と樹脂の異常、接種後の線虫の樹体内移動
23	万豆剛一	1974	キクの連作障害の原因と対策。	農業技術研究	28巻6:78.	ネグサレセンチュウ対策を含む。
24	引地直至	1974	マリゴールド利用によるモモの土壌線虫類防除について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:366.	講要
25	引地直至	1974	マリゴールド利用によるモモの土壌線虫防除の試み。	落葉果樹	22巻7:	未見
26	平野和弥	1974	野菜病害の発生とネコブセンチュウ。	今月の農業	18巻2:37-40.	トマト、キュウリ、スイカ、キャベツ、エンドウの病原菌と線虫の関係。
27	平野和弥・飯田滋・飯田 格	1974	トマトにおけるサツマイモネコブセンチュウとTMVとの相互作用。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:351.	講要
28	細田隆治	1974	マツノマダラカミキリ成虫の大きさと材線虫保持数。	日林園西支研(日本林学会園西支部大会講演集)	25回:306-309.	両者は無関係。
29	細田隆治・奥田素男・竹谷昭彦・小林一三	1974	激害終期マツ林の枯損木から羽化したマツノマダラカミキリの材線虫保持数。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	85回:83.	講要
29.1	細田隆治・奥田素男・竹谷昭彦・小林一三	1974	激害終期マツ林の枯損木から羽化したマツノマダラカミキリの材線虫保持数。	日林論(日本林学会大会論文集)	85回:231-233.	カミキリ1頭ごと、羽化脱出時期による保持線虫数の変化。
30	市原伊助・千本木市夫・深沢永光・福生 稔	1974	サビヒョウタンソウムシとトビヒョウタンソウムシの生態と防除。	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	21:183-187.	土壌中の越冬成虫に対するEDB、D-D、ネマホルン施用は効果なし。
31	一戸 稔・岡本好一・賀賀沢和男・稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウの寄生型。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:357.	講要
32	飯田 滋・平野和弥・飯田 格	1974	トマトにおけるタバコザイクウイルスの感染におよぼすネコブセンチュウの影響。	日植病報(日本植物病理学会報)	40(3)203.	講要
33	池上雅春	1974	わが国の植物検疫制度と検疫技術[4]植物検疫の検査技術。	農及園(農業および園芸)	49(8)991-995.	No.74-42の続編。線虫の検診技術、消毒方法を含む。
34	稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウのシスト内卵・幼虫の致死温度。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:360.	講要
35	稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウのジャガイモ塊茎への寄生。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:11-12.	寄生例をカラー写真で図示。
36	稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウの生態(II)。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:9.	日本線虫研究会大会講要
37	稲垣春郎・賀賀沢和男	1974	ジャガイモシストセンチュウの伝播経路。	日植病報(日本植物病理学会報)	40(2)121.	講要
38	稲垣春郎・賀賀沢和男	1974	圃場におけるジャガイモシストセンチュウシストの土壌中垂直分布。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:57-58.	深さ50cmまで分布。大部分は地下25cmまで、最高密度は10-15cmの層。
39	井上 平	1974	ジャガイモネコブセンチュウに対するDCIP剤の効果。	九病虫研会報(九州病虫研究会年報)	20:48-49.	防除効果を発揮することは困難。
40	井上 平	1974	春秋二期作ジャガイモのネコブセンチュウ被害(2)こぶ塊茎の発生。	九州農業研究	36:131.	根こぶ指数とこぶ塊茎発生の関係。前者の50%で発生。
41	井上 巖	1974	A new species of the Chordodes (Gordiacea) from Ethiopia.	Annot. Zool. Japon. (Annotations Zoologie Japonenses)	47(2)107-109.	新種C. aethiopicusを記載。寄主はカマキリ。
42	井上 亨	1974	わが国の植物検疫制度と検疫技術[1]。	農及園(農業および園芸)	49(5)627-632.	輸入が禁止されている植物の明細の中にミカンネモグリセンチュウ、イネネキセンチュウに関する事項を含む。No.74-33も参照。
43	石橋信義・近藤栄造	1974	線虫類の发育ステージと不良環境耐性。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:1-10.	総説。发育ステージと耐性(卵、卵内または孵化後の2期幼虫、3期幼虫、4期幼虫または未成熟成虫)、Infectiveステージ、運動性・生殖器の発達と耐性。用語の定義・分類等を付す。
44	石橋信義・近藤栄造	1974	線虫類のdauerステージについての一考察。	九病虫研会報(九州病虫研究会年報)	20:142.	講要
45	石川元一	1974	水田転換畑の線虫について。	関東病虫研報(関東山病虫研究会年報)	21:145.	地下水位の高低とネコブセンチュウ(キュウリ、ヤマノイモ)の分離虫数と寄生指数。
46	石川元一・熊倉喜八郎	1974	落花生の連作におけるキタネコブセンチュウ被害と防除。	埼玉農試研報(埼玉県農業試験場研究報告)	35:69-81.	騰写、被害、連作落花生に対する施肥効果、防除(殺線虫剤の施用量・方法・効果、輪作、深耕、施肥、ポリマルチ栽培、堆肥施用)

47	伊藤一雄	1974	マツ類の材線虫とその防除: 松くい虫被害の原因解明および枯損防止法の再検討.	資源	188:25-34.	被害量の推移と被害型被害、原因に対する疑義、マツノザイセンチュウの発見、線虫の媒介・伝播者・地理的分布、カミキリとの関係、枯損防止法の再検討.
48	岩木満朗・小室康雄	1974	スイセンから分離されたウイルス 第5報 Arabis mosaic virusについて.	日植病報(日本植物病理学会報)	40(4):344-353.	病徴、接種、ウイルスの特性(形態)、Xiphinema balero による伝播.
49	岩木満朗・小室康雄	1974	Tomato ringspot virusの Xiphinema americanumによる伝播の模態.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:27-31.	風乾処理・冷蔵(4-10°C)処理のウイルス伝播性、線虫の成虫・幼虫のウイルス伝播力、伝播力保持期間、ブドウ・ミカン周辺土壌の上記線虫による伝播.
50	岩崎 厚	1974	まつくいむし試験の樹脂量と枯損: 植木試験他の例.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:157-158.	小径木の夏型枯死は少なく、大径木の枯死は全て夏型(8-9月).
51	岩崎 厚・森本桂	1974	マツノマダラカミキリの後食予防によるマツ類枯損防止試験 III. カミキリの保線虫数からみた後食予防必要期間の推定.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:193.	線虫数は7月に減、7月25日以降は極少.
52	岩瀬 惠・小阪和彦・小野 洋	1974	殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ駆除試験 2報.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	25回:240-242.	H.B.L.O.1%剤.
53	嘉藤省吾	1974	宮山県におけるフキの害虫類について.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	22:96-98.	キタネグサレセンチュウ及びその放射線照射による防除(実用上不可能)を含む.
54	川部 康	1974	野津先生と桑線虫の思い出. In: 米寿と回想.	野津六衛兵先生米寿記念刊行会、松江	P. 153-155.	随想
55	川里 宏	1974	夏きゅうりの急性萎ちよう症状の防止対策. In: 総合野菜・畑作技術事典 II 野菜編(農林省農林水産技術会議事務局編).	農林統計協会、東京	P. 260-261.	ネコブ、ネグサレセンチュウも一因とする.
56	気賀沢和男	1974	ダイズシストセンチュウに対するダイズの耐性品種の利用.	植物防疫	28(10):409-412.	耐性品種の育種、耐性機構の解析、利用と今後の問題点.
57	気賀沢和男・渡原敏夫	1974	土壌型とダイズシストセンチュウの繁殖.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:365.	講要
58	清原友也	1974	除去法によるマツノザイセンチュウの個体数の推定.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:167-168.	ベルマン法による線虫分離条件及び結果の考察.
59	小林富雄・細田隆司	1974	マツノマダラカミキリからマツノザイセンチュウを分離する方法に関する検討.	森林防疫	23(6):100-101.	30°Cでは12時間、25°Cでは最低24時間.
60	小林政明	1974	注目のブラジル大豆作.	農業技術	29(12):542-545.	シストセンチュウを天体返して防除.
61	小林亨夫・佐々木克彦・真宮靖治	1974	マツノザイセンチュウの生活環境に関連する糸状菌(I).	日林誌(日本林学会誌)	56(4):136-145.	マツの樹体内の糸状菌の季節・部位別の種類相、カミキリの成虫体からの検出菌、検出菌による線虫の増殖試験
62	小林亨夫・佐々木克彦・真宮靖治	1974	マツノザイセンチュウの生活環境に関連する糸状菌とその培地上での線虫の増殖.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	85回:89.	講要
63	小林義明	1974	高温・たん水処理によるネコブセンチュウの防除.	静岡農試研報(静岡県農業試験場研究報告)	19:44-51.	湛水条件(温度、Eh、pHの変化、期間)とその効果の検討
64	小林義明	1974	各種マリ・ゴールドの栽培によるネグサレセンチュウおよびネコブセンチュウの密度変化.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	21:147-148.	19品種を供試. Pratylenchus fallaxに対してはキタネグサレセンチュウより効果劣る. ネコブセンチュウへの効果は少.
65	小林義明	1974	ネグサレ、ネコブ各センチュウに対するマリ・ゴールド栽培の影響.	今月の農業	18巻7:25-28.	ネコブセンチュウに対しては実用化無理.
66	小林義明	1974	キクの連作障害について: 特にネグサレセンチュウとの関連.	農業技術研究	28巻9:90.	症状、対策
67	小林義明・佐藤允通	1974	キクの連作障害に関するネグサレセンチュウに関する研究 第2報 線虫寄生によるキクの耐水性の低下.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:346.	講要
68	小林義明・佐藤允通・万豆剛一	1974	キクの連作障害に関するネグサレセンチュウに関する研究 II. キクの生育ならびに耐湿性に及ぼす線虫の影響.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:13-19.	発生経過、土壌菌類接種結果等. 大雨後の萎凋は湿害、線虫は湿害の誘因.
69	小島 暁	1974	テトラベツクス油剤およびD-DIによる紋羽病跡地の土壌消毒.	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	25:4.	講要
70	駒田 旦	1974	最近問題となった野菜の土壌病害.	農及園(農業および園芸)	49(7):900-904.	トマト近縁野生種(L. hirsutum)によるネコブセンチュウ等への抵抗性導入にふれる.
71	駒井功一郎・佐藤庄太郎	1974	殺線虫剤DBCPによるジャガイモrishitun形成および薯塊の誘導.	農化(日本農業化学会誌)	48(11):599-604.	Rishitunの確認、生成とその部位、生成に及ぼす温度の影響、生成の時間的変化.
72	駒井功一郎・佐藤庄太郎	1974	殺線虫剤によるジャガイモ塊茎の褐変に関する研究 第3報 DBCP剤の処理により形成される褐色色素について.	近畿大紀要	7:41-48.	粉末黒色色素と粘稠性褐色色素を分離. 性質を分析.
73	今 友頼・上野賢司・山田英一・高倉重典	1974	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 抵抗性、耐性ジャガイモ品種の検索.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:361.	講要
74	近藤栄造・石橋信義・横尾多美	1974	イチゴメセンチュウNothotylenchus acrisの表皮構造.	Delphax	18:2.	講要
75	紺谷修治	1974	マツノマダラカミキリの材線虫保持状況.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	25回:310-311.	6月12日以降の脱出とその後20日までの脱皮カミキリの線虫保持数は異なる傾向(あとが多い)
76	小阪和彦・岩瀬 惠	1974	モノフタル酢酸アミドによるマツノザイセンチュウ防除.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:355.	講要
77	小菅悦男	1974	とまと品種、あずまの育成. In: 総合野菜・畑作技術事典 II 野菜編(農林省農林水産技術会議事務局編).	農林統計協会、東京	P. 12-13.	サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウに対し強抵抗性、キタネコブセンチュウには抵抗性なし. 抵抗性因子は単因子優性.
78	久保田 勝	1974	畑水稲の連作障害について.	土と微生物	15/16:1-11.	水稲の生育増進、土壌の線虫・微生物(非根圏・根圏土壌、新潟を調査. 新潟は糸状菌、茨城は糸状菌と線虫、鹿児島は線虫が主要因と推定).
79	久保田 勝・鈴木達彦	1974	畑水稲の連作障害に関する研究 第3報 連作障害要因の判定法について.	新潟農試研報(新潟県農業試験場研究報告)	23:37-49.	連作障害要因の簡易な判定法として暗所栽培法についての検討.
80	国安克人	1974	トマに於ける病害抵抗性品種とその利用.	植物防疫	28(10):399-403.	ネコブセンチュウ抵抗性を含む.
81	国吉清保	1974	マツノザイセンチュウによる被害沖縄県に発生.	森林防疫	23(3):40-42.	九州からのクロマツ、アカマツ材と共に侵入. リウキュウマツにも被害.
82	クラール他(編)	1974	(梅村芳樹・稲垣春郎訳) ジャガイモシストセンチュウ防除に関する全ソビエト連邦シンポジウム資料.	北海道農試病昆部資料(北海道農業試験場病理昆虫部資料)	1, 38pp.	1973年に行われたシンポジウムの記録. 26篇の報告を含む.
83	牧野秋雄	1974	目黒米.	今月の農業	18巻2:24-28.	病徴、被害、伝染試験、防除(種子消毒、出穂期薬剤散布)、分離細菌の病原性の検討
84	真宮靖治	1974	マツノザイセンチュウとその被害.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会誌)	18(1):39.	講要
85	真宮靖治	1974	マツノザイセンチュウのアカマツ、クロマツ苗木体内における増殖の経過.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	85回:88.	講要
85.1	真宮靖治	1974	マツノザイセンチュウのアカマツ、クロマツ苗木体内における増殖の経過.	日林論(日本林学会大会論文集)	85回:249-251.	部位別、苗木の幹の含水率との関係.
86	真宮靖治	1974	樹木と線虫. In: 森-そのしくみとはたらき(只木良也・赤井龍男編).	共立出版、東京	P. 115-138.	線虫とは、まつくい虫、その被害、実体、マツノザイセンチュウの発見、加害性、伝播・生活史.
87	真宮靖治・田村弘忠	1974	マツノザイセンチュウを接種したアカマツ苗木の蒸散量の変化.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	85回:89.	講要
88	正宗 直	1974	ダイズシストセンチュウのふ化促進物質.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:7.	日本線虫研究会大会講演要旨. インゲン根からの抽出、構造決定.
89	松原 功	1974	千葉県におけるマツノザイセンチュウの分布.	千葉林試報(千葉県林業試験場報告)	7:49-52.	北東部を除く全域に分布.
90	松田達郎	1974	南極のツンドラ生態系.	Edaphologia	7:22-23.	踏写. 線虫の生息にふれる.
91	松本益美・吉岡孝治郎・隅田俊三・近藤武由・丹原一寛・栗原 肇	1974	サトイモ畑におけるミナネグサレセンチュウの周年消長.	四国植防(四国植物防疫研究)	9:41-47.	症状、被害、発生消長、越冬
92	松本重男	1974	大豆(東北地方における水稲および大豆の生産の現況と育種的対応).	育種(育種学雑誌)	24(2):112-113.	昭和30年からシストセンチュウ抵抗性育種開始.
93	松本重男	1974	Resistance to soybean cyst nematode by soybean variety.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	8(4):189-193.	線虫被害、線虫抵抗性検定法、育種
94	松本重男・飯塚典男・長沢次男	1974	東北地方におけるダイズウイルス病への対応研究: 育種と病理研究の展開.	農業技術	29(5):215-219.	シストセンチュウ抵抗性を含む.

95	松本重男・石川正示・国分喜治郎・宮原萬芳・今野静一郎・小山フミ・村上昭一・小山隆光・長沢次男・松本定夫	1974	ダイズ新品種「オクシロメ」の育成。	東北農試研報(東北農業試験場研究報告)	48:1-30.	育成過程及び特性。ダイズシストセンチュウ抵抗性最強
96	松浦邦昭	1974	マツノザイセンチュウの防除薬剤スクリーニング試験	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	85回:90	講要
96.1	松浦邦昭	1974	マツノザイセンチュウの防除薬剤スクリーニング試験	日林論(日本林学会大会論文集)	85回:256-258.	ポットではテラクラ-P、ダイズシスト、NTN7732、パイジツトが好結果
97	御子柴公人	1974	畑作物の主要品種一覽。大豆。In: 総合野菜・畑作技術事典 III 共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 334-343.	ダイズシストセンチュウ抵抗性程度を記述
98	御子柴公人	1974	大豆育種の17年	農林水産研究情報	34:11-15.	シストセンチュウ抵抗性育種を含む。
99	皆川 望	1974	甘藷畑におけるサツマイモネコブセンチュウ個体群の季節的変動。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:349.	講要
100	峰尾一彦	1974	外国産マトマに対するマツノザイセンチュウ接種試験。	日林論(日本林学会関西支部大会講演集)	25回:312-313.	供試7種とも程度の差はあるが枯損。線虫は増殖。
101	三井 康	1974	カルス培養線虫の無菌分離法。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:58.	方法及び装置
102	三井 康・岡本好一	1974	キタネコブセンチュウに寄生する胞子虫。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:353.	講要
103	宮崎 信	1974	マツノザイセンチュウ防除の研究に参加して:化学成分の立場から思うこと。	山林	1081:12-18.	生化学的見地から見た研究に残された問題点等をあげる。
104	三善重信	1974	さいもの連作障害防止対策。In: 総合野菜・畑作技術事典 II 野菜編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 278-279.	ネコブ、ミナミネグサレセンチュウとRhizoctomia菌の混合感染が原因。
105	百田洋二・大島康臣	1974	Crossonema octozonale n. sp. on Japanese cedar from Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:47-50.	福島県のスギ根辺土壌から採集したトゲワセンチュウの新種を記載。現在はSriespimula octozonale(Momonta & Ohshima, 1974) Khan, Chawala & Mehta, 1976とされている(Kahn et al. (1976) Indian J. Nematol. 5, 70-100)。
106	百田洋二・大島康臣	1974	トゲワセンチュウ3種の検討。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:343.	講要
107	森本 桂・岩崎 厚・真宮靖治	1974	マツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリに関する一連の研究。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	18(3):154.	昭和49年度学会賞受賞者記念講演要旨
108	百足幸一郎	1974	前病虫性育種。In: 総合野菜・畑作技術事典 III 共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 267-268.	選抜法
109	村岡 実・横尾多美男	1974	土壌生息性ダニの線虫捕食について。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:319.	講要
110	村岡 実・横尾多美男	1974	土壌生息性ダニの線虫捕食について(予報)。	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	20:142.	講要
111	長井雄治	1974	長期栽培の実際:病害虫防除。In: ハウストマトの長期栽培(荻原佐太郎)	誠文堂新光社、東京	P. 127-144.	ネコブセンチュウは土壌病害多発の原因。土壌消毒: NCS、D-D、EDB、メチルプロマイド。
112	永沢正敏	1974	畑作物の主要品種一覽。たばこ。In: 総合野菜・畑作技術事典 III 共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 352-355.	線虫抵抗性程度の記述。
113	中西 勇・加藤喜重郎	1974	愛知県におけるイネ・野菜病害虫の発生動向。	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	16:91-97.	黒点米、ネコブセンチュウ(ナス、キュウリ、ニンジン)、ネグサレセンチュウ(イチゴ、ダイコン、ニンジン、フキ)、メセンチュウ(イチゴ)。
114	中西 勇・上林 謙	1974	米の品質と植物防疫。	今月の農業	18巻2:14-17.	イネシソガレセンチュウの発生、被害、防除法(パイジツトの散布時期)
115	中野満夫・塚 武士・三枝敏郎	1974	輸出植物検疫で発見された植物寄生性線虫(1958-1973)。	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	12:69-73.	線虫と植物名のリスト。
116	中國和年	1974	ニセフクロセンチュウの孵化および脱皮に対するpHの影響。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:344.	講要
117	中國和年・山本敏夫・岡本好一・戸 稔	1974	ミカン連作障害園における改植幼木の生育に及ぼすDBCP処理の効果。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:43-46.	チャネグサレ、トゲワ、ミカンネセンチュウに対する効果ミカン樹の生育調査
118	西沢 務	1974	胞子虫利用によるサツマイモネコブセンチュウ防除の試み。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:352.	講要
119	西沢 務	1974	抵抗性サツマイモ品種に寄生増殖するサツマイモネコブセンチュウの一系統と系統識別のための2、3の就み。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:37-42.	形態(perineal patten)、寄生性、系統識別法(赤外線吸収スペクトル、ディスク電気泳動、免疫沈降反応)
120	西沢 務	1974	ナガイモの黒変障害について。	今月の農業	18巻10:54-60.	症状、病原線虫(Tribodorus porosus)とその生態、防除(クロロピクリン、D-D、EDB、DBCP剤等)。
121	西沢 務	1974	連作障害の原因と対策 4. 線虫。In: 総合野菜・畑作技術事典 III 共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 69	概説。同書に他の著者による微生物、毒素、要素欠乏、病害の事例の解説p. 66-69.
122	西沢 務	1974	線虫と防除法。In: 総合野菜・畑作技術事典 III 共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	p. 172-173.	防除技術の簡単な解説。
123	野津六兵衛	1974	自叙伝。In: 米寿と回想。	野津六兵衛先生米寿記念刊行会、松江	P. 1-113.	桑線虫が本省指定試験になる経緯 p. 60-62.
124	小畑琢志	1974	名古屋植物防疫所だより。	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	16:64-65.	ジャガイモシストセンチュウ対応にふれる。
125	荻原佐太郎	1974	ハウストマトの作型と長期栽培の特長。In: ハウストマトの長期栽培(荻原佐太郎)	誠文堂新光社、東京	P. 34-49.	連作問題を含む。
126	岡田利承	1974	ダイズシストセンチュウの卵内孵化刺激因子の作用。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:364.	講要
127	岡田利承	1974	Effects of hatching stimulants obtained from the cyst contents of Heterodera species (Tylenchida: Heteroderidae) on the hatching of other species.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	9(1):49-51.	ダイズシストジャガイモシスト、イネシストセンチュウの卵及びそれら線虫の寄生植物の根の浸透液に由来する孵化促進物質の効果の比較。本来の寄主由来のもの以外では孵化低率
128	岡本好一・三井 康	1974	トマト抵抗性品種に寄生するサツマイモネコブセンチュウ(Meloidogyne incognita)。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:32-36.	千葉県大網町産トマト、タバコ、サツマイモの線虫抵抗性・感受性品種に対する幼虫侵入数と侵入後の発育。抵抗性タバコ、サツマイモには寄生せず。
129	岡本好一・三井 康	1974	トマトの抵抗性を破るサツマイモネコブセンチュウ新個体群のタバコおよびサツマイモ抵抗性品種に対する寄生性。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:350.	講要
130	太羽克明・藤田 祐輔	1974	Di-trapexの土壌中における動向。	応動昆虫大会講演(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:368.	講要
131	大林延夫	1974	だいこんネグサレセンチュウの耕種的防除。In: 総合野菜・畑作技術事典 II 野菜編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 296-297.	殺線虫剤と堆肥の組合せ、マリゴールドの利用
132	大林延夫	1974	野菜のセンチュウ害が堆肥で減らせるか。	現代農業	53巻4:158-161.	殺線虫剤と堆肥の併用は、それぞれの単独処理に比べてダイコンの線虫害の増加割合が著しく減少
133	大畑貴一	1974	非水銀剤による種もみ消毒に関する四国地域連絡試験結果の要約。	四国植防(四国植物防疫研究)	9:127-132.	イネシソガレセンチュウに対し、ベンレート200の200-400倍液の24時間浸漬、0.5%粉衣は高い防除効果。
134	大木孝之・佐藤紀男・要 司	1974	促成イチゴの「すくみ症」に関する研究:症状および発生要因についての調査。	神奈川園試研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	22:85-91.	ネコブ、ネグサレセンチュウを検出
135	大木孝之・佐藤紀男・要 司	1974	促成イチゴの「すくみ症」:発生要因と対策。	農及園(農業および園芸)	49(3):429-433.	症状、発生要因、対策(ウイルス、病害虫:ネグサレセンチュウのDBCP剤処理)、栽培管理と施肥・気象条件。

136	大島康臣	1974	Heterodera elachista n. sp., an upland rice cyst nematode from Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	4:51-56.	陸稲の連作障害の原因となるイネシストセンチュウを新種として記載。模式産地は埼玉県鴻巣市。H. oryzaeの近似種。両種の違いに関するコメントが出されている(Luc, M. & Taylor, D. P., C. I. H. Descr. Pl.-para. Nema., Set 7, No. 91, 3 pp., 1974)
137	大竹四平	1974	ハウストマトの長期栽培事例:千葉県千湯町の連棟ハウスにおけるトマトの長段どり栽培	誠文堂新光社、東京	P. 165-180.	クロロピクリンまたはサンビニウム、D-D等による交互の土壌消毒。1週間毎に2回ガス抜き。
138	大山浪雄・川辻公弘・斉藤 明	1974	マツノザイセンチュウ加害に対する、アカマツ、クロマツ、チヂマツ、スタッシュマツの抵抗性	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:77-78.	チヂマは抵抗性強、スラツシュが次、他は感受性。
139	三枝敏郎	1974	ジャガイモシストセンチュウのほ場検診についての1・2の検討。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:356.	講要
140	三枝敏郎	1974	輸入植物検疫(1958-1973)で発見された線虫	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	12:63-68.	線虫名と検出植物のリスト。
141	三枝敏郎・一丸政雄・池田正幸	1974	ジャガイモシストセンチュウの植物および土壌両検診方法の比較、とくに開花期における調査。	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	12:56-62.	2種検診方法の時期別比較。ジャガイモ開花期の抜き取り観察と土壌中のシスト検診
142	更級孝夫	1974	線虫の波形トラックに関する数量的解析。	北海道立農試報(北海道立農業試験場報告)	23:1-48.	主に動物寄生線虫の運動の解析。
143	佐藤紀男・要司・大木孝之	1974	促成イチゴの「すくみ症」に関する研究(第2報)土壌消毒およびウイルスフリー株の利用による防除効果	神奈川園試研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	22:99-100.	DBCP剤単用またはクロロピクリンとの併用効果を含む。
144	芹沢朝明	1974	とまと複合耐病性品種の育成。 In:総合野菜・畑作技術事典Ⅱ 野菜編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 14-15.	ネコブセンチュウ抵抗性を含む。
145	芹沢朝明・大谷英夫・小林忠和・藤森基弘・牛流	1974	トマト「つかま」「はっほう」たのも」「雷電」の育成過程と特性について。	長野農試報(長野県農業試験場報告)	38:45-56.	萎凋病、TMV、ハカビ病、ネコブセンチュウ複合抵抗性を目標とした。
146	四手井綱英	1974	マツノザイセンチュウに対する五つの疑問。	林業技術	383:1-5.	徳重陽山が回答。No. 74-169を参照
147	青水 啓	1974	畑水稲圃場におけるイネシストセンチュウの密度と水稲の収量。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:363.	講要
148	下長根 鴻	1974	フザリウム菌と線虫との関係の圃場における実態。	土壌伝染病談話会資料	7回:45-50.	未見
149	白浜野一	1974	薬剤不足下における土壌病害虫防除対策。	今月の農業	18巻4:48-50.	D-D、EDB剤の代替薬剤にふれる。
150	菅田重雄・高橋洋二・堀江博道・栗原茂次・新井茂・井田昭典	1974	軟弱野菜の病害虫発生状況(連・輪作)。	関東病害虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	21:51-52.	ネコブセンチュウ(サラダナ、シュギク、コマツナ、ホウレンソウ)を含む。
151	忠政 亨	1974	マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの実態調査	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	14:77-88.	県内分布、気温と分布、ニセマツノザイセンチュウの分布、カミキリ線虫保持数。
152	高田昌稔	1974	第9回東南アジア太平洋地域植物防疫委員会に出席して	植物防疫	28(6):247-248.	ジャガイモシストセンチュウの分布(日本、ニュージーランド、インド)にふれる。
153	高田宗男	1974	大型ビニールハウスの省力管理方式。	農業技術	29(3):127-133.	昭和48年度農業技術功労賞受賞記。土壌の蒸気消毒を含む。
154	高橋正和・斉藤一三	1974	高尾山一水系におけるブユ幼虫、蛹の季節的消長と寄生線虫	衛働(衛生動物)	25(3):273-277.	3種のブユ幼虫の腹腔から線虫を検出。季節的消長を含む。
155	高橋昌隆・西又文善	1974	マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリの実態調査(第1報)。	徳島林試研報(徳島県林業試験場研究報告)	12:41-53.	県内の分布、枯損木からの線虫検出率、数。
156	高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親	1974	ジャガイモシストセンチュウに関する研究:殺線虫剤の春処理による効果と問題点。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:362.	講要
157	高杉光雄・柿正樹・正宗 直	1974	9, 10, 13-trihydroxy-11, 15-octadecadienoic acid and related fatty acids in the roots of kidney bean (Phaseolus vulgaris L., "Beni-kintoki").	Chem. Let. (Chemistry Letters)	1974(8):947-950	インゲン根のダイズシストセンチュウ孵化刺激物質を抽出し、構造を決定。上記と4-hydroxy-1, 12-dodecadienoic acid γ -lactone, 9, 10, 13-trihydroxy-11- and 15-octadecanoic acidsが孵化物質。
158	武田丈夫・井戸規雄	1974	マツノザイセンチュウの分布とマツ枯損の拡散。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	25回:263-266.	和歌山県。
159	竹股和久	1974	畑作物の主要品種一覧・かんしよ。 In:総合野菜・畑作技術事典Ⅲ 共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 328-333.	ネコブ、ネグサレセンチュウ抵抗性程度を記述。
160	竹下敬司	1974	マツ立枯れの分布概況と気候。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:153-154.	気温、降水量との関係を考察
161	竹谷昭彦・奥田素男・細田隆治・井戸規雄・武田滝沢幸男・宮崎徹	1974	マツノマダラカミキリ羽化脱出時期ならびに飼育経過日数による保線虫数。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	25回:267-270.	5、6月の羽化脱出虫は保線虫率・保線虫数とも高い。
162	滝沢幸男・宮崎徹	1974	長崎県におけるマツノザイセンチュウの分布。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	27:159.	離島も含め広く分布。
163	田村弘志・真宮靖治	1974	マツノザイセンチュウの高等植物に対する摂食行動ならびに繁殖。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:354.	講要
164	田中 潔	1974	マツノザイセンチュウの菌糸摂食行動。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	85回:87.	講要
165	田中 潔	1974	マツノザイセンチュウの菌糸摂食行動。	日林論(日本林学会大会論文集)	85回:247-249.	行動を図示。
166	多良間恵栄・松原芳久	1974	沖繩県下における輸出栽培圃場の有害線虫。	那覇植防情報(那覇植物防疫情報)	11:75.	未見
167	照屋林宏	1974	リュウキュウイシクセンチュウの生態と防除に関する研究 I。リュウキュウイシクセンチュウによるサトウキビの被害	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:345.	講要
168	樋田幸夫	1974	ネコブセンチュウによるクワの被害解析 III 線虫接種クワ成木における初期の被害調査	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:347.	講要
169	樋田幸夫	1974	桑株周辺におけるネコブセンチュウおよびヒセンチュウの分布	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	44:101.	講要
170	東海林久雄・三浦春夫	1974	イネネメグリセンチュウに関する研究。	山形農試研報(山形県農業試験場研究報告)	8:118-125.	発生消長、線虫寄生量と水稲の収量、線虫の性比、県内分布。
171	徳重陽山	1974	マツノザイセンチュウ五つの疑問に答えて。	林業技術	385:1-5.	四手井の問(No. 74-146を参照)に対する回答。
172	徳重陽山	1974	狭い虫研究の明暗と感傷。	冬虫夏草	9:12-25.	昭和37-38年以降の研究史。昭和43年11月の材線虫の初めての検出から、44年10月の接種試験による枯損確認、46年5月の媒介者の確定、その後の研究についてドキュメント風に記述
173	角田 博	1974	土壌燻蒸剤の現状と問題点:臭化メチル剤およびクロロピクリン剤を中心に。	農と園(農業および園芸)	49(6):787-792.	需要の推移、適用病害虫、使用方法、施用効果、使用上の注意・問題点。
174	堤 正明	1974	ジャガイモシストセンチュウの孵化におよぼす2・3の要因。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:359.	講要
175	上林 謙・天野隆・中西 勇	1974	黒点米に関する研究(第4報)組織観察。	愛知農産総合試験場研究報告 A	6:77-82.	黒点米・斑点米・針(人工加傷)による障害を比較
176	上林 謙・都築仁・中西 勇	1974	ベノミル及びその類縁化合物の心柱線虫病に対する効果	日植病報(日本植物病理学会報)	40(3):228.	講要
177	上田 進	1974	イネ心柱線虫病に関する研究 第4報 発病と被害(収量)との関係	日植病報(日本植物病理学会報)	40(2):134.	講要
178	上田 進・別宮岩義	1974	新種子消毒剤とMEP剤等の混用によるイネこま葉枯病ならびに心柱線虫に対する効果(予報)。	農と園(農業および園芸)	49(7):925-926.	ベンレートT、ホーマイ、スミチオン、バンドンとの混用。
179	上原 等	1974	非水剤剤、とくにベンレートT水和剤20Iによる種もみ消毒について。	四国植防(四国植物防疫研究)	9:109-117.	心柱線虫病には200-400倍液24時間浸漬、0.5%粉衣。
180	上野賢司・今 友親・山田英一・高倉重義	1974	ジャガイモシストセンチュウに関する研究:高密度ほ場におけるジャガイモの生育。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:358.	講要
181	八木田秀幸	1974	オオガタハリセンチュウ(Xiphinema baeri)の形態計測ならびに桑における発育経過について。	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	44:100.	講要

180	八木田秀幸	1974	Longidorus martimi Merryの胚子発生についての観察	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	25:5.	講要
181	山田栄一・周藤靖雄	1974	鳥根県におけるマツノマダラカミキリの羽化脱出時期および線虫保持状況	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	25回:287-290.	羽化脱出は5.6月に多い。マツノザイセンチュウ以外の線虫も検出。
182	山田栄一・高倉重義	1974	北海道のハウス栽培トマト・キュウリで発見されたサツマイモネコブセンチュウ	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:348.	講要
183	山田栄一・高倉重義・上野賢司・今友親	1974	ジャガイモシストセンチュウの生態(I)	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:8.	日本線虫研究会大会講要。発生消長等。
184	山口久夫	1974	ハウストマトの長期栽培事例:愛知県におけるファーストの長期栽培事例。In:ハウストマトの長期栽培(荻原佐太郎)	誠文堂新光社、東京	P.193-200.	クロルピクリン、D-Dとともに40リットル/10aを灌注
185	山本公志	1974	クリの立枯症(仮株)とその根から検出されるPseuhalenchus anchiliospommus Tarian.	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	4:20-26.	症状、線虫の分布・密度、立枯症と他の病害虫、線虫の種名と形態、線虫の培養、湿熱に対する致死温度
186	山本敏夫・中野直・近藤鶴彦	1974	ランネット水和剤による植物寄生性線虫の防除	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	16:139-140.	講要。キク、イチゴのネグサレセンチュウ、キュウリのネコブセンチュウ
187	山中勝次・柴田敬一	1974	マツノザイセンチュウのアカマツ樹体内における移動と樹体の組織学的考察	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	25回:314-317.	樹体の異常にともなって線虫も移動
188	吉田雅夫・清家金剛・京谷英寿	1974	モモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭49春:116-117.	講要
189	藤原敏夫・気賀沢和男	1974	土壌水分のダイズシストセンチュウの寄生性に及ぼす影響 第2報 十勝乾性型火山灰土壌の表土および下層土におけるダイズの生育と線虫寄生	北海道農試研報(北海道農業試験場研究報告)	109:19-26.	線虫の侵入及び寄主作物の生育は表土、特に多湿条件下で最も旺盛
190	湯原 巖	1974	赤外カラー写真およびマルスペクトル写真によるシストセンチュウの被害判読	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	18回:367.	講要
191	柚木利夫	1974	病害虫抵抗性品種の利用。In:総合野菜・畑作技術事典 III.共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会報事務局編)	農林統計協会、東京	P.175-176.	ダイズシストセンチュウとそのレースにふれる。
192	Anon.(香川県林業指導所)	1974	マツノザイセンチュウの関係するマツ類の枯損防止に関する試験研究報告	香川県林業指導所試験研究報告	6:1-104.	勝写。マツノザイセンチュウの地理的分布 p.1-12;五色台周辺におけるマツノザイセンチュウの地理的分布に関する調査 p.13-18;マツノザイセンチュウの地理的分布に関する調査(昭和47年度調査参考再掲) p.19-30;殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験 p.78-99;マツノザイセンチュウに対する抵抗性品種の選抜試験 p.100-104.
0		1975	昭和50年(1975)			
1	阿久津善作	1975	鱗翅目害虫に寄生する線虫Hexmermis sp.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:137.	種名、寄生性、ヨトウ類への寄生、寄生数
2	Alam, M. M., Khan, A. M. & Saxena, S. K.	1975	Efficacy of "Vydate" oxamyl for the control of root-knot nematode, Meloidogyne incognita (Kofoid & White) Chitwood, 1949, attacking tomato.	防虫科学	40(4):159-161.	1200ppm液に苗根の30分浸漬、移植後毎週1回5週間の茎葉噴霧で有効。
3	天野 隆・上林謙・中西 勇	1975	薬剤の育苗箱処理によるイネシガラセンチュウ防除	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	17:82-83.	講要。ダイアジノン、カルタップ、エチルチオメチン粉剤が効果
4	雨宮若橋・萩屋薫	1975	殺菌剤による球根アユリスのセンチュウ防除	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭50春:296-297.	講要
5	青木宏史	1975	ショウガの品種と栽培	農及園(農業および園芸)	50(1):172-176.	ネコブセンチュウ防除を含む。
6	近岡一郎・竹沢秀夫	1975	キタネグサレセンチュウの雑草における寄生	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:136.	28科69種を供試。全く寄生を認めなかったのはハマスゲのみ。
7	段林弘一・国分義彦	1975	マツノマダラカミキリ体表面の糸状菌と線虫保持数及び死亡率	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	26回:263-266.	MEP(10%)・EDB乳剤およびMPP(50%)・EDB乳剤の0.5~1.0%希釈液を春期に被害木面積1㎡当たり600cc散布すれば駆除効果がある
8	遠田暢男	1975	マツノマダラカミキリ(Momochamus alternatus Hope)の生殖器に寄生する線虫	森林防疫	24(10):188.	Neotylenchidae科線虫の写真。本号は広くい虫特別研究特別号。線虫4種(No. 75-23, 60, 80, 148)、カミキリ関係5篇を収録
9	遠田暢男	1975	マツノマダラカミキリ体表面の糸状菌と線虫保持数及び死亡率	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:96.	カミキリの糸状菌保持量と線虫保持数は正の関係。またカミキリの死亡率も高い。
9.1	遠田暢男	1975	マツノマダラカミキリ体表面の糸状菌と線虫保持数及び死亡率	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:325-326.	カミキリの糸状菌保持量と線虫保持数は正の関係。またカミキリの死亡率も高い。
10	藤原敏夫・長島茂雄	1975	山口県におけるマツノザイセンチュウの地理的分布と環境	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	26回:267-270.	年平均気温14℃以上の地域で検出。
11	藤下章男・鳥居春己	1975	マツ類の急激枯損防止に関する研究(1)マツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリの実態調査	静岡林試研報(静岡県農業試験場研究報告)	7:31-44.	マツクイムシ被害の増大(1955-1974、静岡県)、マツノザイセンチュウの水平分布と蔓延原因、垂直分布とマツノマダラカミキリの寄生、検出と林木の被害、ニセマツノザイセンチュウの分布
12	福留信明	1975	ミナネグサレセンチュウPratylenchus coffeaeのタバコに対する寄生加害と発育	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:436.	講要
13	福留信明	1975	ネコブセンチュウ(Meloidogyne incognita)がタバコ舞病(Pythium aphanidermatum)の発病におよぼす影響	日植病報(日本植物病理学会報)	41(1):112-113.	講要
14	五味美知男・中道善二	1975	イネシガラセンチュウとその防除	農業研究	21巻9:14-19.	1974年の誤
15	後藤 昭	1975	南西諸島の農作物の害虫及び有害動物	九州農試研究資料(九州農業試験場研究資料)	50:47-68.	サトウキビ、ハインアップル、水稲、サツマイモ、野菜、ミカン類の害虫・有害動物(線虫を含む)の種類、分布、被害、生態、防除、問題点
16	後藤 昭	1975	植物寄生性線虫の地理的分布:ネグサレセンチュウ(属)を例として	Edaphologia	12:5-9.	No. 74-16の要約
17	後藤 昭	1975	ネグサレセンチュウの種類別分布と防除上の注意	今月の農業	19巻5:14-17.	分布の特徴、主要種の問題点、抵抗性品種等。
18	萩原幸弘・小河誠司	1975	マツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウに対するダイズシスト剤の施用効果	九病虫研報(九州病虫害研究会報)	21:55-56.	4年生クロマツに対し土壌施用で効果
19	萩原幸弘・小河誠司・中島康博	1975	マツノマダラカミキリ誘引剤への飛来経過と保持線虫数	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	28:147-148.	ホドロン誘引性と時期別の捕捉カミキリの保持線虫数
20	萩原幸弘・小河誠司・竹下晴彦	1975	マツ類材線虫被害の伝播範囲	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	28:153-155.	筑後平野における被害地域の拡大経過
21	萩谷俊一	1975	ネグサレセンチュウによるセンリョウの被害とDBCP剤の防除効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:135.	キタネグサレセンチュウ。連作障害は線虫以外の原因の可能性あり
22	針谷信義・松井武彦	1975	殺線虫剤によるアカビロウドコガネ幼虫の防除	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:100.	EDB、ネマホルン剤の効果、施用時期・回数
23	橋本平一	1975	マツノザイセンチュウその後の研究:感染から発病までの線虫とマツの相互関係をめぐって	森林防疫	24(10):189-192.	防除の増殖と食物源及び加害性、樹体内での線虫の動態とマツの反応、線虫の加害力とマツの抵抗性、加害性発現の条件
24	橋本平一・堂園安生	1975	感受性および抵抗性マツの樹体内での材線虫の移動と増殖	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:89.	講要
24.1	橋本平一・堂園安生	1975	感受性および抵抗性マツの樹体内での材線虫の移動と増殖	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:301-302.	クロ、アカ、テグマツの比較
25	橋本平一・清原友也	1975	マツノザイセンチュウ接種木におけるいわゆる「持ち越し」について	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	28:169-170.	接種線虫の樹体内での越冬は認めず。
26	林 勇	1975	ヨーロッパの切花バラ生産と研究[2]	農及園(農業および園芸)	50(8):983-988.	クルミネグサレセンチュウの薬剤防除を含む。
27	平野和弥	1975	Interrelationships between plant parasitic nematodes and other plant pathogenic organisms	Rev. Plant Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	9:55-68.	線虫と病原菌の関連病害に関する日本の研究を中心にした総説
28	堀田 隆・千原賢次・増田隆哉・河野 登	1975	マツクイムシに関する研究:温度条件の変化とマツノザイセンチュウの動態及び加害性との関係	大分林試研報(大分県林業試験場研究報告)	17:31-36.	28、35℃の時強い加害性。18-28℃変温時の増殖、加害性(枯損)
29	堀田 隆・増田隆哉・橋本平一	1975	温度条件の変化とマツノザイセンチュウの加害性との関係	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:90.	講要
29.1	堀田 隆・増田隆哉・橋本平一	1975	温度条件の変化とマツノザイセンチュウの加害性との関係	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:303-304.	18、28、35℃における線虫の樹体内での移動、増殖と枯損の関係

30	一戸 稔	1975	Infection of blackpepper vines by the root-knot nematode, <i>Meloidogy incognita</i> , at Tome-acu, Para, Brazil.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:36-40.	ブラジル・パラ州トメアスーのコショウ栽培におけるサツマイモネコブセンチュウの寄生。圃場・地域・樹令・土性別の線虫寄生数
31	一戸 稔	1975	線虫とその防除。	農業研究	22巻2:1-9.	運作障害と線虫。線虫とその生活、生物的防除、耕種防除、化学的防除。
32	一戸 稔	1975	線虫実験法。 In: 土壤微生物実験法(土壤微生物研究会編)。	養賢堂、東京	P. 137-173.	試料の採集と線虫の分離、取り扱い・保存、同定、密度の査定、培養、捕食菌の分離と保存。
33	一戸 稔・岡本好一・気賀沢和男・稲垣春郎	1975	ジャガイモシストセンチュウの寄生型(II)。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:439.	講演
34	稲垣春郎・宮谷内留行・気賀沢和男	1975	ブタの摂食によるジャガイモシストセンチュウの生死。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:440.	講演
35	井上 平	1975	ジャガイモの連作に伴うネコブセンチュウの被害と防除、とくに土壌病害発生防止との関連	長崎農試研報(農業部門)(長崎県農業試験場研究報告)	3:48-59.	クロルピクリン剤施用、連作による線虫密度の変化、薬剤施用時期、被害、減収、青枯病、そうか病発生との関連
36	井上忠男	1975	土壌伝染ウイルス病の防除。	農及園(農業および園芸)	50(3):368-372.	線虫伝搬ウイルスの防除を含む。
37	石橋信義・近藤栄造・柏尾具俊	1975	The induced molting of 4th-stage larvae of the pin nematode, <i>Paratylenchus aciculus</i> Brown (Nematoda: Paratylenchidae), by root exudate of host plant.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	10(4):275-283.	土壤中保存第4期幼虫に対するクワの根の浸出液の脱皮促進効果と同幼虫の生存能力の生態学的意味。
38	石橋信義・近藤栄造・吉永憲一・横尾多美男	1975	マツノザイセンチュウの形態的变化と耐久性 1. 培養条件下における分散型幼虫の出現と耐久性。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:432.	講演
39	石橋信義・村岡実・近藤栄造・横尾多美男	1975	ミカン園における除草剤の施用が土壤中動物相におよぼす影響(予報)。	九病虫研報(九州病虫研究会報)	21:152-153.	講演
40	石川元一	1975	水田転換畑におけるダイズシストセンチュウの発生。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:131.	3年目から発生
41	石川元一・藤田耕郎	1975	イネシソグレンセンチュウと黒点米の防除。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:129.	発生分布、線虫と黒点米との関係、出穂期における防除
42	伊藤一雄	1975	Forest disease and insect conditions in Japan. In: Second FAO IUFRO Symp. Forest Dis. Ins. New Delhi, India, 7-12 Apr., 1975.	FAO, Rome	3pp.	マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリの生態、防除。
43	伊藤一雄	1975	松くい虫の謎を解く。材線虫と土水母。	農林出版、東京	13+162pp.	松枯損に関する研究の歴史的進展、マツノザイセンチュウの研究の現状、枯損防止技術の変遷を扱った一般向読み物。
44	岩崎 厚・森本 桂	1975	マツノマダラカミキリに関する研究 XII. 誘引剤による捕虫効果と保線虫数。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	28:195-196.	ホトロンDによる誘引。
45	弥富喜三・大野秀樹	1975	マツノザイセンチュウ病の化学療法。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:431.	講演
46	兼掘富次郎・安井公一・小野清六	1975	いわゆる"まつくい虫"の生態および防除に関する研究(第1報)材線虫およびまつくい虫幼虫の材中における時期別消長。	岡山大学農学部学術報告	46:72-78.	カミキリ、ゾウムシ、キクイムシ、マツノザイセンチュウの検出例
47	柏尾具俊・石橋信義・横尾多美男	1975	Morphology of larval molting in the pin nematode, <i>Paratylenchus aciculus</i> Brown (Nematoda: Paratylenchidae) with the emphasis on stylete regeneration.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	10(2):96-102.	ピンセンチュウの幼虫期の脱皮と口針の形成を令期を過って観察。
48	川田悠平・福生 稔	1975	イネシソグレンセンチュウの出穂期防除。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:130.	有機燐剤の散布で黒点米の発生減少。
49	川辻公弘	1975	マツノザイセンチュウに対するエチルチオメトン粒剤施用の効果。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	28:173-174.	線虫の侵入1月以前の施用で効果。
50	羽見隆一・広尾順三	1975	昭和49年三重県に発生した黒しよく粒。	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	17:87.	講演。出穂期・品種・カメムシの発生・イネシソグレンセンチュウとの関係
51	岸 国平	1975	ブラジルの畑作物害虫。	今月の農業	19巻7:82-85.	コショウのネコブセンチュウとPhytophthora palmivoraとの混合感染を含む。
52	岸 洋一	1975	マツノマダラカミキリに対する有機リン単剤と有機リン剤・EDB混合剤の殺虫力の比較(1)成虫に対する経口毒性と接触毒性。	日林誌(日本林学会誌)	75(10):334-338.	両者の効果に顕著な差は認められず。
53	岸 洋一	1975	高周波によるマツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウの殺虫。	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	19(4):290-291.	カミキリは3分30秒以上、材線虫は5分以上の照射で100%死亡
54	北沢石三	1975	殺菌剤を散布した土壌中の土壌動物の数の変化。	Edaphologia	11:3-5.	講演。γ-BHC散布時の線虫個体数の変化にふれる。
55	鬼頭研二	1975	Preliminary report on the phytal animals in the Sarugassum confusum retion in Oshoro Bay, Hokkaido.	J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VI. Zool. (Journal of Faculty of Science, Hokkaido University)	20(1):141-158.	北海道の忍路湾のコンブ生息地の底生生物(線虫を含む)の季節的消長の調査。
56	清原友也・鈴木和夫	1975	マツ樹体内におけるマツノザイセンチュウの季節的消長。	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	86回:88.	講演
57	清原友也・鈴木和夫	1975	マツ樹体内におけるマツノザイセンチュウの季節的消長。	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:296-298.	個体数及び令構成の変化。
58	清原友也・鈴木和夫	1975	マツノザイセンチュウの樹体内分散。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	28:171-172.	樹脂の異常発現に先だって、線虫は樹幹全体に分散
59	清原友也・鈴木和夫・橋本平一	1975	接種初期のマツノザイセンチュウの動態。	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	86回:89.	講演
58.1	清原友也・鈴木和夫・橋本平一	1975	接種初期のマツノザイセンチュウの動態。	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:299-300.	発病の早晚と線虫増殖過程の関係
59	小林十三・竹谷昭彦・奥田素男・細田隆治・武田丈夫・井戸規雄	1975	マツノマダラカミキリ成虫の材線虫保持数:和歌山県潮岬における1974年の結果。	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	86回:98.	講演
59.1	小林十三・竹谷昭彦・奥田素男・細田隆治・武田丈夫・井戸規雄	1975	マツノマダラカミキリ成虫の材線虫保持数:和歌山県潮岬における1974年の結果。	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:333-334.	脱出直線・定着後食期・産卵期の保持線虫数の変化。
60	小林亨夫	1975	線虫とカビとカミキリと。	森林防疫	24(10):199-202.	マツ樹体内における三者の関係を解説
61	小林亨夫・佐々木克彦・真富靖	1975	マツノザイセンチュウの生活環に関連する糸状菌(2)。	日林誌(日本林学会誌)	57(6):184-193.	健全木・枯損木の菌相の変化。それら菌類による材線虫の増殖
62	小林義明	1975	マリーゴールドで線虫防除。	農業技術研究	29巻1:19-21.	原理、対象線虫、効果の解説
63	小林義明・美濃部 進	1975	ネコブセンチュウに対するマリーゴールドの密度抑制機能について。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:444.	講演
64	小林義明・三井康	1975	施設栽培土壌における線虫捕食菌の分布と線虫密度。	静岡農試研報(静岡県農業試験場研究報告)	20:41-47.	捕食菌の種類と分布、線虫数と捕食菌密度、分離培地上での捕食菌の消長
65	小林義明・菅沼正光・金指平二・石塚 健	1975	マリーゴールドによる秋ギクスのネグサレセンチュウの防除。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:133-134.	混作・前作の効果。クロルピクリン剤処理と同程度の効果
66	古賀成司	1975	水利用による土壌線虫防除に関する研究(1)ネコブセンチュウに対するたん水および有機物の施用効果。	Delphax	19:3.	講演
67	小泉三千代・井上 巖	1975	ハリガネムシ(Gordiacea)のクチクラ内感覚器と思われる構造について。	動雑(動物学雑誌)	84(4):474.	講演
68	小久保 静	1975	第9回森林動物シンポジウム:マツノザイセンチュウをめぐる諸問題。	日林誌(日本林学会誌)	57(10):361-364.	以下の講演の要旨を紹介。マツノマダラカミキリの生態(森本 桂)、マツノザイセンチュウに関する研究の現状(橋本平一)、抵抗性育種の可能性(大山浪雄)、マツ木の被害と森林立地(竹下敬司)、鹿児島における防除を中心として(川畑克巳)、討論。
69	近藤栄造・石橋信義	1975	Ultrastructural changes associated with the tanning process in the cyst wall of the soybean cyst nematode, <i>Heterodera glycines</i> Ichinohe.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	10(4):247-253.	ダイズシストセンチュウのシスト壁のtanningに伴う形態の変化を電子顕微鏡で観察
70	近藤栄造・石橋信義・横尾多美男	1975	センチュウ表皮に及ぼす温度処理の影響。	九病虫研報(九州病虫研究会報)	21:153.	講演
71	近藤栄造・石橋信義・横尾多美男	1975	マツノザイセンチュウの形態変化と耐久性 2. 発育ならびに耐久性発現にもなう微細構造の変化。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:433.	講演

72	近藤秀明・齊藤勝清・岸 洋一・海老根翔六	1975	茨城県における松くい虫(マツノザイセンチュウ)の被害実態と空中散布.	森林防疫	24(7)139-143.	県内分布、枯損の時期別経過とマツノマダラカミキリの羽化時期、防除事業(防除の経過、効果、昆虫相・野鳥への影響、残効)
73	紺谷修治・峰尾一彦	1975	マツノザイセンチュウによるマツ類枯損の被害発生状況について.	日植病報(日本植物病理学会会報)	41(4)92.	講要
74	紺谷修治・峰尾一彦・田中 潔	1975	マツの材線虫病の薬剤防除 I. 樹幹注入による枯損防止.	日林園西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	26回:285-288.	キルゾール注入の効果.
75	小山良之助	1975	マツノザイセンチュウから検出されたクラミディア類似の微生物.	日林誌(日本林学会誌)	57(2)61-63.	食道腺周辺部の細胞質中
76	真宮靖治	1975	マツノザイセンチュウの発育と生活史.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:16-25.	卵の発育、幼虫の発育(令期別の計測値)、生活史(30、33°Cでは生育障害、発育限界温度は 9.5°C)
77	真宮靖治	1975	マツノザイセンチュウの生態に関する2・3の知見.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:85-86.	講要
78	真宮靖治	1975	感染初期におけるマツ類樹体内でのマツノザイセンチュウの動態.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:86.	講要
78.1	真宮靖治	1975	感染初期におけるマツ類樹体内でのマツノザイセンチュウの動態.	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:285-286.	マツ樹体の組織解剖学的変化と線虫の動態
79	真宮靖治	1975	マツノザイセンチュウのベルマン法による抽出効率.	森林防疫	24(6)115-119.	経過時間と累積游出虫数の関係. モデルによる総個体数の推定値は過小評価となった
80	真宮靖治	1975	マツ樹体内におけるマツノザイセンチュウ個体群の消長.	森林防疫	24(10)192-196.	マツノザイセンチュウの発育と生活史、線虫個体群のマツ樹体内での消長、線虫と媒介者とのかかわりあり.
81	真宮靖治	1975	マツノザイセンチュウをめぐる.	化学と生物	13(4)235-238.	一般向けの平易な解説
82	真宮靖治	1975	Pine lethal wilting disease caused by the pine wood nematode, <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> . Second World Technical Consultation of Forest Diseases and Insects, New Delhi, India, 7-12 Apr., 1975	Special Paper (FAO)	No. 15, 7 pp.	症状、分布、伝播、寄生、防除の解説
83	正宗 直・谷内田洋一・姉帯正樹・高杉光雄・気賀沢和男	1975	アスパラガス(<i>Asparagus officinalis</i> L.)の根の殺線虫成分.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:445.	講要
84	松原 功	1975	(続)千葉県におけるマツノザイセンチュウの分布について.	千葉県誌報(千葉県林業試験場報告)	8:15-23.	市原市北部と茂原市北部を結ぶ線以南に集中
85	松田 明・下長根鴻・尾崎克己	1975	ネコブセンチュウの寄生がキョウリつる割病発生に及ぼす影響.	茨城県誌報(茨城県農業試験場研究報告)	16:83-94.	圃場における根腐病病原菌と微生物相の変動、根の活性及び根の表面細胞の浸透圧の変化、体内成分の変化および根の分泌物の変化、つる割病菌分生子発芽に及ぼす影響
86	松田正治	1975	マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリの実態調査.	愛媛県誌報(愛媛県林業試験場研究報告)	1:35-62.	藤字 民有林まつい虫被害(1946-1974)、マツノザイセンチュウの分布調査、マツノマダラカミキリの羽化消長と保持線虫数、被害材内穿入・脱出調査
87	松枝 章	1975	石川県におけるマツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの実態と動向.	石川林誌報(石川県林業試験場研究報告)	6:43-62.	マツ類の枯損原因、マツノマダラカミキリの地理的分布、発生消長、生態、マツノザイセンチュウの地理的分布、マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保有と天敵
88	松本 庵・松尾綾男	1975	水田土壌に対するクロルピクリンの処理効果.	兵庫農誌報(兵庫県農業試験場研究報告)	24:17-19.	イネネモグリセンチュウ密度の変化、稲の生育等
89	松本益美・吉岡幸治郎・近藤武由・隅田俊三・栗原 肇・丹原一寛	1975	サトイモの連作障害の発生と連作年限および土壌処理との関係.	愛媛県誌報(愛媛県農業試験場研究報告)	17:25-26.	クロルピクリン、D-D、DBCP剤の施用効果
90	松浦邦昭	1975	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(II)樹幹注入したdisulfoton, fensulfotionのマツ樹体内における行動.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:92.	講要
90.1	松浦邦昭	1975	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(II)樹幹注入したdisulfoton, fensulfotionのマツ樹体内における行動.	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:311-314.	移動、分布、存在形態.
91	松浦邦昭	1975	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(III)数種薬剤のポット植栽苗木に対する土壌施用効果.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:92.	ダイシストン、テラクア-Pに明らかな効果.
91.1	松浦邦昭	1975	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(III)数種薬剤のポット植栽苗木に対する土壌施用効果.	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:315-316.	ダイシストン、テラクア-Pに明らかな効果.
92	松浦邦昭・藤下章男・岸 洋一	1975	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(IV)数種薬剤の生立木に対する樹幹注入施用効果.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:91-92.	講要
92.1	松浦邦昭・藤下章男・岸 洋一	1975	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(IV)数種薬剤の生立木に対する樹幹注入施用効果.	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:309-310.	fensulfotion, disulfoton, thionazinは効果あり
93	三原一俊・江藤守聡	1975	殺虫性サリゲニン環状りん酸エステルの研究(13)フェニルチオノホスホン酸エステル類の殺線虫活性.	九州農学誌(九州大学農学部学芸誌)	30(3)105-108.	イネシガラセンチュウに対する効果. 2-p-トリル-4H-1,3,2-フェニルチオキサホスホリン-2-スルフィドが最も強い作用.
94	皆川 望	1975	甘藷畑におけるサツマイモネコブセンチュウの個体群の季節的変動 II. 第2期幼虫の圃場内分布.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:446.	講要
95	皆川 望・後藤昭・佐野善一	1975	サツマイモネコブセンチュウの発生時期の予察および季節的消長.	九州農誌年報(九州農業試験場年報)	49:42-44.	一代代所要有効積算温度およびカンショ圃場における個体群の季節的消長.
96	峰尾一彦	1975	マツノマダラカミキリからマツノザイセンチュウの雌雄と樹体侵入.	日林園西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	26回:275-278.	羽化後7-15日の間.
97	峰尾一彦・紺谷修治	1975	マツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリから雌雄して伝播する時期.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:91.	講要
97.1	峰尾一彦・紺谷修治	1975	マツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリから雌雄して伝播する時期.	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:307-308.	カミキリの羽化後約1週間以降
98	峰尾一彦・紺谷修治	1975	接種したマツノザイセンチュウの樹体内の垂直移動について.	日植病報(日本植物病理学会会報)	41(1)92.	講要
99	三井 康	1975	線虫捕食菌と線虫.	化学と生物	13(9)571-577.	総説. 捕獲器官の形態・機能・形成要因、生育と捕食活性、分布、土壌中の活性、生物的防除
100	三井 康・岡本好一・一戸 稔・小林義明	1975	カルスで増殖した数種のネグサレセンチュウの寄生範囲と加害性.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:437.	講要
101	三井 康・横沢菱三・一戸 稔	1975	Effect of temperature and pH on the propagation of <i>Pratylenchus</i> culturing with alfalfa callus tissues.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:48-55.	培地のpH(2.9-8.1)、培養温度(15-34°C、7種22群のネグサレセンチュウのアルファルファファカルスによる増殖
102	宮園輝夫・浅井甲子男・佐々木幹男・福田睦男・林 松雄	1975	土壌燻蒸剤深層注入機の開発.	鹿児島たばこ試報(鹿児島たばこ試験場報告)	19:45-56.	機械の構造及びクロルピクリン剤施用結果
103	宮崎 信	1975	材線虫によるマツ類の枯損と化学成分.	木材学会研究発表要旨集(日本木材学会大会研究発表要旨集)	25回:304-305.	シンポジウム講要. マツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウの行動に關与する物質の解説
104	望月正己	1975	イネシガラセンチュウと黒黴粒について.	北陸病虫研報(北陸病害虫研究会会報)	23:115-116.	実態調査
105	森本 桂	1975	材線虫によるマツ類の枯損.	木材学会研究発表要旨集(日本木材学会大会研究発表要旨集)	25回:302-303.	シンポジウム講要. マツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウの相互関係.
106	村井高伯・山田哲也・大橋雄司・清水佳久	1975	複合病害抵抗性黄色品種F209の育成.	磐田たばこ試報(磐田たばこ試験場報告)	7:1-17, 1 pl.	線虫病抵抗性の分離、検定結果を含む.
107	村井高伯・山田哲也・清水佳久・岡 克・大橋雄司・松井俊夫・大島栄二・山本善忠・北野 溥・谷本仁也・前原 為	1975	複合病害抵抗性黄色品種F209, Cokerr254の検定試験結果.	磐田たばこ試報(磐田たばこ試験場報告)	7:49-70.	前者は線虫病にも抵抗性.
108	長島茂雄・林 洋二・藤原 均	1975	山口県におけるニセマツノザイセンチュウの分布と被害実態.	日林園西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	26回:271-274.	地理的分布、検出木の種類、病徴、マツノマダラカミキリとの関係、マツノザイセンチュウとの混在.

109	中村 隆	1975	兼用トラクタによる土壌消毒・被覆1行程作業方式の考案について	葉たばこ研究	69:125-127	トラクタの改良例
110	中根 勲	1975	2回越冬幼虫の状況とマツノザイセンチュウ保持状況	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	26回:228-231	マツノマダラカミキリ:2回越冬で25%、1回越冬では82%が保持
111	中園和年	1975	産地を異にする単為生殖型ニセマツノザイセンチュウの系統間における発育速度の比較	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:435	講要
112	中里肇二・原 栄一	1975	群馬県における黒点米の発生と2、3の知見	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	22:128	発生分布、イネシシガタマシセンチュウとの関係、品種・栽培法との関係
113	西口親雄	1975	病虫害伝播現象のぞら	林業技術	400:8-12	マツノイモシロシ問題を含む
114	西沢 務	1975	Paratrichodorus (Atlantadorus) porosusの形態および生態に関する知見	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:26-31	雌成虫のventro-medianpore数の個体変異、単為生殖の可能性、土壌温度と線虫の増殖(20>25>30°C)、寄主範囲(43種中35種の植物で増殖)
115	西沢 務	1975	ナガイモコムヒハリセンチュウ(仮称)の形態および生態に関する2、3の知見	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:447	講要
116	西沢 務	1975	天敵(胞子虫)利用による線虫防除法の開発	研究のひろば(農事試験場報)	17:9-12	線虫と線虫害、線虫防除法の点検、天敵、胞子虫利用の可能性
117	小河誠司	1975	マツノザイセンチュウに関する試験(1)ストラツシュマツ樹体内でのマツノザイセンチュウの生存期間	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	28:149	接種75日後でも生存している箇所があった
118	小河誠司	1975	マツノザイセンチュウに関する試験(2)HBL油剤の樹体内拡散と殺線虫力	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	28:151-152	薬剤の浸透範囲(1.5m)からは線虫検出されず
119	小河誠司・萩原幸弘	1975	マツノザイセンチュウによるストラツシュマツの枯損	森林防疫	24(8)161-163	福岡県の事例。ショートリーフマツ、ハクショウ、テーダマツで線虫検出
120	岡田利承	1975	シストセンチュウの孵化促進物質	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:1-9	総説。材料の採取方法と検定方法、天然・合成孵化刺激物質の研究
121	岡田利承	1975	ダイズシストセンチュウの卵内ふ化刺激要因の化学的性質	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:442	講要
122	岡田利承	1975	線虫防除薬剤一覧表(1975年8月1日現在。線虫を対象に登録されている農薬)	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:56-59	薬剤(18種)の種類名、代表的商品名、剤形、有効成分含有量、適用作物名又は場所、適用線虫名、使用時期、使用方法、使用薬量、希釈倍率、使用回数
123	奥田素男	1975	マツノマダラカミキリの羽化脱出部位と材線虫保持数	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	26回:216-219	脱出部位による違いなし
124	小野邦明・大関和彦・中村 裕・三輪 強	1975	東北地方のたばこ産地に発生したネグサレセンチュウについて	葉たばこ研究	68:71-74	被害、分布、防除(耕種的、土壌消毒:クロルピクリン、カーバム、D-D、EDB、DCIP剤)
125	大林延夫	1975	マリゴールドによるキタネグサレセンチュウの防除 In: 農業技術体系:野菜編 9(ダイコン、ニンジン、カブ、ゴボウ)	農山漁村文化協会、東京	p.111-119	品種比較、栽植日数、栽培方法、スイカ収量への影響、防除効果持続期間、普及上の問題点
126	大川 清・三枝敏郎	1975	線虫抵抗性切花用バラ台木の検索	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	園50:294-295	講要
127	大木孝之	1975	イチゴの"すくみ症"対策のあれこれ	農業技術研究	29巻5:20-22	クムシネグサレセンチュウとの関係を含む
128	大山浪雄	1975	マリゴールド汁液のマツノザイセンチュウに対する殺線虫効果	植物防疫	29(4)150-152	線虫浸漬試験では有効、樹体内注入では無効
129	三枝敏郎	1975	ユリ類の球根養分におけるネグサレ線虫の寄生様態	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:438	講要
130	酒井英次	1975	半根法によるダイズシストセンチュウ抵抗性個体の選抜方法について	日育北報(日本育種学会北海道談話会会報)	15:16	未見。講要
131	酒井真次・斉藤正隆・砂田喜与志	1975	大豆のダイズシストセンチュウ抵抗性個体選抜の一方法:半根法	北海道立農試集報(北海道立農業試験場集報)	32:18-24	半根法の調査法・調査時期、採種量への影響、抵抗性判定の一致度、雑種初期世代におけるシスト着生指数個体頻度、半根法による抵抗性検定
132	佐野善一	1975	土壌中の生線虫分離法としてのムルいわけベルマン法の一変法	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:41-47	サツマイモネコブとラセンセンチュウ。改変ベルマン法との比較
133	清水 啓	1975	トレーサー法によるイネシシガタマシセンチュウの発育ステージ別摂食量測定	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:32-35	P、Cの放射性同位元素の植物体投与と線虫への移行
134	清水 啓	1975	イネシシガタマシセンチュウの発育期間における糞吸収量の変化	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:441	講要
135	塩原右治・山口忠義	1975	キンモクセイのネコブセンチュウによる被害	森林防疫	24(5)107-108	群馬県伊勢崎市
136	鈴木和夫・清原友也	1975	マツノザイセンチュウ接種後のクロマツの蒸散量及び樹脂分泌量の変化と材中の線虫	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:88	講要
137	鈴木和夫・清原友也	1975	マツノザイセンチュウ接種後のクロマツの蒸散量及び樹脂分泌量の変化と材中の線虫	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:293-295	両方とも著しく低下
138	忠政 亨	1975	マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの実態調査(II)	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	15:56-66	地域区分と分布の実態、春枯型・秋枯型枯損とマツノザイセンチュウの検出
139	高橋幸吉	1975	Chemical control of millberry diseases in Japan.	Jap. Pesticide Inform.	25:27-31	モザイク病対策としてのDBCP剤によるLongidorus martini防除。白紋羽病に対する同剤施用効果を含む
140	高橋昌隆・吉永忠義	1975	マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリ実態調査(第2報)	徳島林試研報(徳島県林業試験場研究報告)	13:12-22	地理的分布、年平均気温との関係
141	高井隆次	1975	イチゴのウイルス病と耐病性育種:わが国におけるイチゴのウイルス病について	育種学最近の進歩	15:107-115	アブラムシ防除とウイルス病との関係及びメセンチュウ防除との関連を含む
142	高杉光雄・谷内田洋一・姉帯正樹・正宗 直・賀沢和男	1975	Identification of asparagusic acid as nematicide occurring naturally in the roots of asparagus.	Chem. Let. (Chemistry Letters)	1975(1)43-44	アスハラガスのアスハラガス酸を分離、構造を確認。ジャガイモシスト、ダイズシストセンチュウ等6種線虫に対する殺線虫力を試験
143	武田文夫・井戸規雄	1975	県下におけるマツノマダラカミキリ・マツノザイセンチュウの拡散と気温の関係	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	26回:209-212	和歌山県。両者の分布は温度指数35°Cの等温線と一致
144	竹下敬司・萩原幸弘	1975	マツの集団枯損と環境	林業技術	404:6-9	気温(マツノマダラカミキリの行動可能日数)、雨量との関係
145	竹下 努	1975	鳥取県におけるマツノザイセンチュウの分布と被害	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:85	講要
146	竹下 努	1975	鳥取県におけるマツノザイセンチュウの分布と被害	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:283-284	標高、土壌分布と被害
147	滝田泰章・高橋三郎(担当者)	1975	イチゴの高冷地育苗およびユウガオの土壌線虫に対するマリーゴールドの利用	栃木農業試験場年報(栃木県農業試験場年報)	12:109-110	謄写。輪作、混作で利用可能
148	田村弘志	1975	線虫と糸状菌との関連	Edaphologia	11:25-38	謄写。総説。糸状菌食性線虫と任意寄生、糸状菌に対する選択性、繁殖と生活環、生態、分布
149	田村弘志・真宮 達治	1975	マツノザイセンチュウの高等植物組織による繁殖:アルファルファの場合	森林防疫	24(10)196-199	カルス組織によるマツノザイセンチュウの繁殖・培地間移植と酵母エキス添加の効果、実生根による線虫の繁殖、カルス組織によるニセマツノザイセンチュウの繁殖
150	田村弘志・真宮 達治	1975	Reproduction of Bursaphelenchus lignicolus on alfalfa callus tissues.	Nematologica	21(4)449-454	アルファルファカルスによるマツノザイセンチュウの増殖、培地組成の影響
151	田村弘志・真宮 達治	1975	マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウのアルファルファカルスによる増殖	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:90	講要
152	田村弘志・真宮 達治	1975	マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウのアルファルファカルスによる増殖	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:305-308	両種とも増殖可能。培地によって線虫増殖に差
153	田中 潔	1975	ペニシリン剤のマツの材線虫病に対する防除効果(予報)	日植病報(日本植物病理学会報)	41(1)92-93	講要
154	田中 潔	1975	マツの材線虫病の発生に及ぼすSO2の影響	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:86-87	講要
155	田中 潔	1975	マツの材線虫病の発生に及ぼすSO2の影響	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:287-289	亜硫酸ガス燻煙によって症状発現早まる。ニセマツノザイセンチュウ、マツノザイセンチュウで比較

153	田中 潔	1975	病害虫と大気汚染との関係.	農及園(農業および園芸)	50(10)口 絵及び解	クロマトに対するマツノザイセンチュウと亜硫酸ガスの関連を含む.
154	田中行久・三宅三恵子・赤沢淑紀・山中道勇・賛田博躬	1975	土壌病害のたん水による防除.	土と微生物	17:17-28.	タバコの立枯病菌、疫病菌、黒根病菌、白根病菌、TMV、ネコブセンチュウの消長を調査.
155	寺下隆喜代	1975	まつくいむし被害材の含水率、その材中のマツノザイセンチュウ数、およびその材から羽化したマツノマダラカミキリの保持線虫数	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	26回:279-281.	含水率60-100%の被害材に多くの線虫、同40-100%からのカミキリに線虫が多
156	寺下隆喜代・森格良	1975	マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウの交配.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	26回:282-284.	交配可能. 戻し交配では子孫は得られず.
157	照屋林宏	1975	サトウキビ畑におけるリュウキュウイシジクセンチュウの立体的分布.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:448.	講要
158	樋田幸夫	1975	ネコブセンチュウに対する抵抗性クワ品種の検索 I. クワ品種別線虫寄生状況の調査	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:443.	講要
159	樋田幸夫	1975	植物寄生線虫分離法に関する2,3の検討.	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	45:19.	講要
160	土岐知久	1975	アレチウリ(Sicyosa angulatus L.)の台木としての特性.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭50秋:160-161.	講要. ネコブセンチュウのゴール指数は低い.
161	富来 務・藤川隆・佐藤俊次・安藤俊二	1975	イネ心枯線虫病に関する研究 第5報 本病に対する各種殺菌剤の効果について.	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	21:149-151.	ペンレット、同T、ホーマイ、ホルサイジンTの各水和剤の0.5-1%の播種直前の湿粉衣が好成績
162	鳥居酉蔵	1975	Feasibility of using the entomophilic nematode, DD-136, as a biotic insecticide against rice stem-borers. In: Approaches to Biological Control(安松京三・森 樊須編).	東京大学出版会、東京	P. 87-88.	室内実験で昆虫寄生性線虫DD-136のニカメイチュウ幼虫に対する殺虫効果を確認.
163	堤 正明	1975	ジャガイモシストセンチュウ卵ふ化におよぼす根浸出液の採取方法の影響.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	26:93.	ジャガイモ栽培土壌浸出液および根除去土壌浸出液の孵化刺激効果が最高.
164	上林 謙	1975	イネシナガレセンチュウと黒点米.	植物防疫	29(7)268-272.	症状、発生の沿革・分布・原因(線虫・病原菌類との関係)・時期・条件、品種との関係、貯蔵時の変化、起因、対策.
165	上林 謙	1975	イネシナガレセンチュウの防除.	農業研究	21巻4:6-12.	被害、抵抗性品種、線虫防除(種別消毒、育苗期・本田期の防除)
166	上林 謙・都築仁	1975	ベンゾイミダゾール系殺菌剤のイネシナガレセンチュウ、キクハガレセンチュウ、マツノザイセンチュウに対する効果.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:434.	講要
167	上田 進・松本益美	1975	イネ心枯線虫病に関する研究(第4報)発病と減収被害との関係.	農及園(農業および園芸)	50(5)683-684.	収量及びその構成要素への影響、葉別別の葉先白変症状の発生状況.
168	植葉恭友・松本基一・西垣誠二	1975	水稲品種「セトホムリ」の稲心枯線虫抵抗性と類似葉先枯死症状について.	大阪農技研報(大阪府農林技術センター研究報告)	12:1-3.	穂から線虫を検出、症状部位からは無検出.
169	上野賢司・今友親・山田英一・高倉重義	1975	ジャガイモシストセンチュウによるばれいしょの被害について.	日青北談報(日本青種学会北海道談話会会報)	15:15.	未見. 講要.
170	八木田秀幸	1975	クワノナガハリセンチュウ(Longidorus martini)の生活史ならびに生態に関する研究 I. 形態的特徴と発育経過.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	5:10-15.	幼虫の令期(3期)、幼虫・雄・雌成虫の形態的特徴、発育過程(1世代4カ月弱)
171	八木田秀幸	1975	クワ輪紋ウイルスのLongidorus martiniによる伝播の様態(第1報)線虫の生活史と病原性保持期間.	日植病報(日本植物病理学会会報)	41(2)292.	講要
172	山田英一・高倉重義	1975	北海道のハウス栽培トマト、キュウリで発見されたサツマイモネコブセンチュウ.	北海道立農試集報(北海道立農業試験場集報)	31:43-49.	虹田町. 発生の経過及び被害状況、線虫の形態、寄主植物. 本州からの持ち込み.
173	山中昭雄	1975	平地における切花用リンドウの根株養成.	農及園(農業および園芸)	50(11)1395-1398.	線虫類の防除(苗の温湯・薬剤処理、本圃の薬剤処理)を含む.
174	山中昭雄	1975	リンドウの土壌病害虫防除試験 第1報 寄生センチュウに対する温湯処理試験.	栃木農試業績報(栃木県農業試験場業績報)	12:121-124.	ネグサレセンチュウを対象.
175	山根明臣・小田久五	1975	The pine bark and wood-boring beetles are secondary, then what is primary? A brief reviews of the studies of the cause of heavy mortality of pines in Japan. In: Second FAO/IUFRO Symposium on forest diseases and insects. New Delhi, India, 7-12 April, 1975.	FAO, Rome, Italy	6 pp.	マツ枯損の原因及び防止策を解説
176	山根明臣・小林亨夫・真宮靖治・田村弘志・佐々木克彦・吉田幸	1975	マツ枯損本中の昆虫、線虫、菌類に対するマイクロ波照射の効果.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	86回:93.	講要
177	山根明臣・小林亨夫・真宮靖治・田村弘志・佐々木克彦・吉田幸	1975	マツ枯損本中の昆虫、線虫、菌類に対するマイクロ波照射の効果.	日林論(日本林学会大会論文集)	86回:317-318.	マツノマダラカミキリには45秒位で、マツノザイセンチュウには2分位でかなりの効果
178	山根幹世・青藤哲	1975	テッポウユリの連作障害に関する研究.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭50秋:334-335.	講要. 線虫、フェノール物質、フザリウムと他の土壌病害が複合的に関連
179	横川登代司	1975	埼玉県におけるマツノザイセンチュウ被害と分布.	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	27:23-24.	講要
179	吉田雅夫	1975	モモのネコブセンチュウ抵抗性台木.	果実日本	30巻12:48-52.	連作障害とネマトーダ、抵抗性台木の種類、改良、利用、普及、実生苗に対する注意
180	吉田雅夫	1975	180. 吉田雅夫:モモネコブセンチュウ抵抗性台木の育成と選抜.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭50秋:60-61.	講要
181	吉田隆敏・北村平次郎・小林義	1975	静岡県に発生したネグサレセンチュウによるダイコンの被害とその防除.	関東農虫研報(関東農虫研究会年報)	22:132.	マリーゴールド、D-D、NCSIによる防除
182	湯原 巖	1975	赤外カラー写真およびマルチスベクトル方式によるシストセンチュウの被害調査.	北海道農試集報(北海道農業試験場研究報告)	111:91-101.	写真撮影用のフィルター、フィルムを検討
183	湯原 巖	1975	自然草地における線虫の発生動態.	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	19回:449.	講要
184	陳野好之	1975	緑化樹木で被害が多い土壌病害とその防除.	植物防疫	29(8)330-333.	ネグサレ、ネコブセンチュウの被害を含む.
185	Anon. (香川県林業指導所)	1975	マツノザイセンチュウの関係するマツ類の枯損防止に関する試験研究報告.	香川県林業指導所 試験研究成果報	8:1-69.	謄写. マツノザイセンチュウの地理的分布に関する調査p. 1-12、マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保持状況調査p. 25-31、マツノザイセンチュウ防除薬剤試験(殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ駆除試験)p. 39-43、殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ駆除試験p. 44-45、モノフルオール酢酸アミドによるマツノザイセンチュウ防除p. 46-47、エチルチオメトン粒剤によるマツノザイセンチュウ駆除試験 p. 48-50
0		1976	昭和51年 (1976)			
1	安部 浩	1976	鳥根県におけるイチゴ芽寄生線虫の種類と防除.	応動昆虫中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支部会報)	18:58-61.	イチゴメセンチュウが最も多い、他にイチゴセンチュウ及び同属の一種.
2	Bird, A. F.	1976	Nematology in Japan.	Austral. Pl. Path. Soc. Newsletter (Proc. 2nd Nat. Pl. Path. Conf., Brisbane, Australia, 12-14 May, 1976.	5(1, Suppl.) Abs., 99.	未見
3	近岡一郎	1976	ダイコンを加害するネグサレセンチュウに関する研究.	神奈川県農試集報(神奈川県農業総合研究所研究報告)	116:35-43.	ネグサレセンチュウの種類(ミナミ、キタ、クルマミ、ムギネグサレセンチュウ)とダイコンに対する加害、キタネグサレセンチュウによる被害とダイコンの作型、品種間差異、侵入と病徴発現.
4	近岡一郎	1976	ダイコンを加害するネグサレセンチュウの種類と特徴.	農及園(農業および園芸)	51(6)785-789.	4種のネグサレセンチュウの寄主作物、被害、防除.
5	近岡一郎	1976	マリーゴールドによるネグサレ、ネコブ各センチュウの防除効果.	野菜園芸技術	3巻6:6-8.	未見

6	堂園安生・清原友也	1976	培地上におけるマツノサイセンチュウとニセマツノサイセンチュウの競争.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	29: 223-224.	25°C20日間の培養では競争はおきず.
7	堂園安生・清原友也	1976	マツノサイセンチュウおよび近縁種のマツ生立木における動態.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回: 77	講要
7.1	堂園安生・清原友也	1976	マツノサイセンチュウおよび近縁種のマツ生立木における動態.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回: 231-232.	マツノサイセンチュウとニセマツノサイセンチュウの混合接種後の個体数・種類構成の変化.
8	江口恭三・福留信明・前原為矩・山口洋一	1976	沖縄における自在在来種の特性について.	葉たばこ研究	73: 67-74.	12系統のタバコ全部がジャワネコブセンチュウ抵抗性、サツマイモネコブセンチュウ感受性.
9	榎 幹雄・伊藤孝美	1976	大気汚染とマツノサイセンチュウ被害との関連.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	27回: 248-251.	結論は得られず.
10	藤本 清・足立年一・河野 哲	1976	イネシシガレセンチュウの防除について.	応動昆虫中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支部会報)	18: 42-47.	種別のMEP、MPP、カルタップ浸漬、出穂期のMEP、MPP散布と黒点米混入の関係
11	福留信明・山口洋一	1976	ジャワネコブセンチュウMeloidogy javanica (Treb., 1855) Chitwood, 1949に対するタバコの抵抗性に関する研究 第1報 沖縄県下で採取した在来種タバコのネコブセンチュウ抵抗性について.	鹿児島たばこ試験報(鹿児島たばこ試験場報告)	20: 135-144.	抵抗性の検定・操作、サツマイモネコブセンチュウ感受性で、ジャワネコブセンチュウ抵抗性の品種、宇都宮と沖縄のジャワネコブセンチュウ個体群で寄生性に違い.
12	二井一禎	1976	サイセンチュウのマツ類に対する親和性について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回: 78.	講要
13	我如古光男	1976	森林病害虫防除に関する研究: マツノサイセンチュウ被害分布調査.	沖縄林試研報(沖縄県林業試験場研究報告)	19: 7-20.	沖縄における分布の拡大過程
14	後藤 昭	1976	輪作による線虫防除上の参考.	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	22: 123-126.	線虫別の寄主植物、線虫の混在例について述べる.
15	後藤 昭	1976	日本の暖地・亜熱帯の植物寄生性線虫の概要.	九州農試研究資料(九州農業試験場研究資料)	54: 61pp.	線虫の分布と地域性、線虫の解説・寄主・検出地・種生・被害等を概説.
16	萩谷俊一・土岐知久	1976	アレチウリに対するネコブセンチュウの寄生性.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回: 112.	講要
17	羽田三男・下川利之	1976	マツ類のマツノサイセンチュウに対する抵抗性品種選抜試験	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	16: 43-46.	18クローンを選抜、生存率に差.
18	橋本平一	1976	マツノサイセンチュウの寄生性に関する環境条件.	森林防疫	25(11): 175-177.	標高と材線虫の分布、発病に及ぼす温度・土壌水分・亜硫酸ガス・その他の要因の影響
19	橋本平一	1976	灌水条件の異なるクロマツ苗におけるマツノサイセンチュウの動態とマツの病態反応.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回: 78.	講要
19.1	橋本平一	1976	灌水条件の異なるクロマツ苗におけるマツノサイセンチュウの動態とマツの病態反応.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回: 233-235.	無灌水が発現促進.
20	橋本平一	1976	マツノサイセンチュウの防除に関する研究 (I) メソフィルの有効濃度有効期間、葉害などについて.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	29: 205-206.	葉液の樹幹注入は低濃度でも短期間有効、線虫接種前の土壌処理で枯損防止可能.
21	橋本平一	1976	マツノサイセンチュウの防除に関する研究 (II) メソフィルの幼齡木、成木に対する施用効果.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	29: 207-208.	樹幹注入、土壌施用の効果.
22	橋本平一・平原賢次	1976	温度変化をあたえた条件下におけるマツノサイセンチュウ接種苗の加害性について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回: 78.	講要
22.1	橋本平一・平原賢次	1976	温度変化をあたえた条件下におけるマツノサイセンチュウ接種苗の加害性について.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回: 237-238.	温度を18°Cから30°C、又はその逆に変化させた場合の発病.
23	橋本平一・堂園安生・清原友也・鈴木和夫	1976	マツノサイセンチュウの密度別接種および分枝接種後の樹幹内の線虫密度.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	29: 203-204.	接種後一時的に線虫密度低下、枝の接種1日後には幹に移動.
24	橋本平一・田中義行・永峰光郎	1976	マツノサイセンチュウの防除に臨する研究 (III) 各種薬剤の施用効果.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	29: 209-210.	フェンスルフォチオンの樹幹注入が最もすぐれた効果.
25	早坂義雄・小原憲由・斉藤錦也・文屋勝衛・大友林 勇	1976	宮城県におけるマツの材線虫病等の実態調査.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	28回: 208-212.	マツノサイセンチュウ、ニセマツノサイセンチュウ、マツノダガラカミキリの分布及び発生消長.
26	林 勇	1976	温室バラのセンチュウとその防除に関する研究.	神奈川園試研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	23: 54-63.	発生実態(検出線虫の種類)、発生消長、垂直分布、ノイバラ・パツカ自生苗への接種試験、殺線虫剤の立ち中処理(DBCP、DCIP)、線虫寄生木への治療試験(DBCP剤、温湯浸漬)
27	日野稔彦	1976	ブラジルの稲作.	熱研資料(熱帯農業研究センター資料)	36: 43pp.	線虫p. 37. 陸稲: ジャワネコブセンチュウ、Pratylenchus brachyurus、モロコシネグサレセンチュウ、水稲: イネシシガレセンチュウ.
28	平野和哉	1976	キュウリ苗立枯病の発病におよぼすサツマイモネコブセンチュウの影響.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6: 39-46.	汚染土壌に対する殺菌・殺線虫剤処理の影響、発病個体からの菌の分離、病原性再現、線虫接種と発病との関係等.
29	平野和哉	1976	線虫と関連のある植物病害.	植物防疫	30(3): 93-98.	線虫関連病の範囲、研究の動向(菌類病、細菌病、ウイルス病)、線虫とフザリウム菌との関連性.
30	外間数男・照屋林宏	1976	バインアップルの連作障害に関する研究 I. 実態確認とその対策.	熱帯農業	19(3/4): 162-165.	根の褐変・腐敗は土壌のクロロククリン又はEDB剤処理により改善.
31	堀野俊郎・野村 介・後藤 昭・大庭真雄・近藤 信	1976	作付体系による土壌線虫の消長と防除法.	九州農業研究	38: 78-79.	各種の作付体系とサツマイモネコブ、キタネコブ、ミナミネグサレ、ニセフクロ、シストセンチュウの検出数の推移.
32	細田隆治・小林十三	1976	マツノダガラカミキリからの線虫離脱経過.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	27回: 255-258.	後食量と材線虫離脱の関係.
33	市村禎一郎	1976	山口県防府林業事務所管内におけるマツ類の枯損とマツノサイセンチュウの分布実態調査について.	森林防疫	25(5): 73-78.	マツ枯損被害の分布状況、マツノサイセンチュウの検出状況、松い虫の侵入状況.
34	一戸 稔	1976	Nematodes and the in control in Jappan. In: Plant Protection in Japan, 1976.		p. 305-310.	日本の線虫相、線虫害、防除に関するレビュー.
35	一戸 稔	1976	Infection of black peppers by the root-knot nematode in Brazil.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	10(1): 17-20.	ブラジルのコショウのネコブセンチュウ、地域・樹令・土性別の線虫寄生程度調査結果.
36	一戸 稔	1976	南米アマゾン・メアサー地区のびメンタの根腐れについて.	今月の農業	20巻3: 54-58.	研究史、症状、被害実態調査、ネコブセンチュウと根腐れの関連
37	一戸 稔	1976	Nematode problems of black-Peppers in Bangka Island, Indonesia.	国際協力事業団、東京	2pp.	インドネシアのコショウ産地の現状. No. 76-38と同.
38	一戸 稔	1976	Nematode problems of black-Peppers in Bangka Island, Indonesia.	Nematol. Newslet. (Nematology Newsletter)	22(3): 2.	ミカンネモグリは少なく、ネコブセンチュウが多.
39	一戸 稔	1976	インドネシアのコショウ栽培とその病害対策に関する調査報告書.	国際協力事業団(移住部門)業務資料	393: 1-15.	ミカンネモグリセンチュウ、ネコブセンチュウを検出、DBCP、テラクア-P、ペーバム等による防除試験を行う.
40	池末 弥・武川恵子・竹田統哲	1976	大淀川水系下流域における底生動物目録.	宮崎大農報(宮崎大学農学部研究報告)	23(2): 361-370.	未同定の線虫類を記録
41	福垣春郎	1976	線虫の総合防除.	植物防疫	30(3): 119-122.	総説、被害、防除手段とその組合せ.
42	福垣春郎	1976	ジャガイモシストセンチュウのわが国への伝播経路.	今月の農業	20巻3: 22-25.	北海道での発生状況と伝播の時期、経路の推測、ペルー・グアノの調査
43	福垣春郎・気賀沢和男	1976	Viability of encysted larvae and eggs of potato cyst nematode, <i>Heterodera rostochiensis</i> Woiw., after being fed by hen or swine, and at their body temperatures.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6: 7-9.	ニワトリ・ブタに摂食されたジャガイモシストセンチュウのシスト内卵・幼虫の生死、前者によるものは死滅、後者では48時間以内に排出されたものは生存.
44	福垣春郎・Scurrah Maria, M. de	1976	The possibility of contamination of Peruvian guano by potato cyst nematode.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6: 96-97.	ペルーのグアノ産地における調査、Mazorca島産グアノからシストを発見、運んできた鳥の種類を推測
45	福垣春郎・梅村芳樹	1976	ジャガイモシストセンチュウ(<i>Heterodera rostochiensis</i>) 抵抗性品種の育成.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回: 119.	講要
46	福生 稔・上田康郎	1976	種子消毒によるイネシシガレセンチュウと馬鹿苗病の防除法.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	23: 118-119.	ハイジツト乳剤またはバダン水和剤の1000倍液に種籾を24時間浸漬
47	井上 平	1976	連作に伴うジャガイモのネコブセンチュウ被害、とくに生育障害並びに青枯病の多発.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回: 113.	講要
48	井上忠男	1976	土壌伝染性ウイルスの種類と研究の問題点.	植物防疫	30(5): 173-176.	線虫媒介にふれる.
49	石橋信義	1976	線虫によるゴールの形成.	植物防疫	30(3): 88-92.	形状、内部形態、性状、ゴール形成の機構.

50	石橋信義・近藤栄造	1976	Considerations on the role of male adults of root-knot nematodes in the reproduction.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:35-38.	サツマイモネコブ、キタネコブセンチュウ。接種頭数を変えて(1-160頭)増殖を比較。両種とも単幼虫接種で継代飼育が可能。雄の役割は結論せず。
51	石橋信義・近藤栄造・角直紹	1976	Meloidogyne haplaとM. incognitaの低温感受性	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:121.	講演
52	石川元一	1976	イネシガラセンチュウに対する種子消毒の効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	23:120.	ベンレート、パダンの混合液に粉を浸漬。
53	石川元一	1976	黒点米とその防除法。	今月の農業	20巻4:28-31.	イネシガラセンチュウの生態および黒点米の発生、種粉消毒(薬液浸漬)、育苗期・出穂期の防除。
54	伊藤弘康・高野栄一・横溝康志・高久建一	1976	栃木県におけるマツノザイセンチュウ病の実態について。	日林関東支講(日本林学会関東支部大会研究発表集)遺集	28回:34.	講演
55	伊藤一雄	1976	特別研究「マツ類の材線虫病に関する研究」を終えて	森林防疫	25(11)162-166.	研究の目的、内容、担当場所、外部の協力、成果と残された問題。
56	岩橋哲彦	1976	サトイモに寄生するネグサレセンチュウの防除について(1)種いもの浸漬処理	Delphax	20:3.	講演
57	岩木満朗	1976	我が国に存在する線虫伝播性ウイルス。	植物防疫	30(5)194-197.	NEPO群とNETU群ウイルス、我が国における線虫伝播ウイルス(3種)、伝播の様態、伝播する線虫の種類、防除法
58	弥富喜三	1976	Chemical control of pine wilting disease. XIII Internat. Nematol. Symp., Dublin, Sep. 5-10, 1976.			未見。講演。
59	兼福富次郎・安井公一・小野清六	1976	いわゆる「まつくい虫」の生態および防除に関する研究(第2報)マツノマダラカミキリ羽化の消長とマツ枯損に対する薬剤散布効果	岡山大学農学部(岡山大学農学部学術報告)	48:77-86.	カミキリの線虫保持数、枯損本から時期別検出線虫数の調査を含む。
60	笠野秀雄・古山三郎・木村正義・稲垣春郎	1976	はっか新品種「わせなみ」の育成。	北海道農試研報(北海道農業試験場研究報告)	113:45-66.	育成過程及び特性、ヒン、ネコブ、ネグサレセンチュウに対する抵抗性検定結果を含む。
61	川崎俊郎・松浦邦昭	1976	松類のマツノザイセンチュウによる被害とその防除	農業研究	23巻2:30-34, 1 pl.	被害の実態、浸透性薬剤による防除:土壌施用、樹幹注入
62	川島嘉内	1976	福島県におけるイネシガラセンチュウの被害について。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会誌)	27:93.	線虫寄生と収量、黒点米の発生との関係
63	筑賀沢和男・稲垣春郎・堤 正明	1976	ジャガイモシストセンチュウの圃場内分布と年次変動。	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:118.	講演
64	鬼頭研二	1976	Studies on the free-living marine nematodes from Hokkaido, I.	J. Fac. Sci., Hokkaido Univ. Ser. VI. Zool. (Journal of Faculty of Science, Hokkaido University)	20(3)568-578.	北海道の海棲線虫。Enoplus anisospiculus Nelson et al., 1972. Acanthonchus (Seuratiella) tridentatus (新種), Draconema japonicum(新種), Araeolaimus elegans DeMan, 1888の記載、図示。
65	清原友也	1976	マツノザイセンチュウの継代培養による病原性の低下。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:56-59.	Botrytis cinerea菌そう上で継代培養5-6年経過した個体群は病原性は著しく低下。増殖力にも顕著な差。
66	清原友也・鈴木和夫	1976	マツノザイセンチュウの採取時期と接種後の個体数推移	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	87回:76	講演
66.1	清原友也・鈴木和夫	1976	マツノザイセンチュウの採取時期と接種後の個体数推移	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:227-228.	9-3月接種では線虫はほとんど増殖しないと推定
67	小林一三・奥田素男・細田隆治	1976	マツ枯損木の乾燥程度、太さとマツノマダラカミキリの脱出、線虫保持数	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	87回:79	講演
67.1	小林一三・奥田素男・細田隆治	1976	マツ枯損木の乾燥程度、太さとマツノマダラカミキリの脱出、線虫保持数	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:239-240.	乾燥・高温となる場所では羽化脱出が早まり、線虫保持数は減少。
68	小林中和	1976	野菜の耐病性検定法の現状と問題点:国立・公立機関のナス科作物について。	育種学最近の進歩	16:84-88.	トマトのネコブセンチュウ抵抗性を含む。No. 76-178も参照
69	小林亨夫	1976	マツノザイセンチュウの地理的分布。	森林防疫	25(11)167-168.	国内の分布状況のまとめ。太平洋側は宮城県以南、日本海側は石川県以西に分布。
70	小林 尚・奥 俊夫・前田泰生・高橋幸吉・松本 正	1976	殺虫剤の土壌施用に関する研究 第9報ダイズに対する殺虫剤の土壌施用の害虫及びウイルス病防除効果	東北農試研報(東北農業試験場研究報告)	53:15-28.	8種殺虫剤はダイズシストセンチュウには無効
71	小林義明	1976	イチゴにおけるイネシガラセンチュウの発生について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	18:105-106.	講演
72	小林義明	1976	施設栽培イチゴにおけるイネシガラセンチュウの発生と被害	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:80-83.	線虫の形態、発生状況、症状と被害状況
73	小林義明・立林盛明	1976	イネシガラセンチュウの本田伝染に関する2, 3の知見	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	23:121-123.	時期別の稲体中の線虫数の比較、本田における伝染、有機燐剤による防除
74	小玉孝司	1976	夏期のハウス密閉による土壌消毒。	今月の農業	20巻7:80-83.	主にイチゴ萎黄病に対する効果。ネグサレセンチュウへの効果を含む。
75	小玉孝司・宮本重信・宮川逸平・志賀昌博	1976	夏期の温室密閉による土壌消毒法。	農及園(農業および園芸)	51(7)889-894.	主に菌類に対する効果。イチゴ、スイカのネグサレセンチュウを含む。地温の変化、石灰窒素・灌水等の併用例
76	小玉孝司・中西喜徳・福井俊男・芳岡昭夫	1976	イチゴ萎黄病に関する研究 第6報 ハウス密閉による本ほの土壌消毒。	日植病報(日本植物病理学会報)	42(3)347-D94	講演
77	小玉孝司・芳岡昭夫	1976	イチゴ萎黄病に関する研究 第7報 D-D剤の防除効果について。	関西病虫研報(関西病虫研究会誌)	18:107-108.	講演。薬量とフザリウム菌数、発病株率の関係
78	古賀成司	1976	水利用による土壌線虫防除に関する研究 第1報 ネコブセンチュウに対するたん水及び有機物の施用効果について。	九州農業研究	38:112.	脱水土液、緑肥添加と1-2月間の灌水処理が、灌水単独処理にまさる効果。
79	古賀成司	1976	水利用による土壌線虫防除に関する研究 第2報 有機物施用とたん水処理後の線虫密度還元	九病虫研報(九州病虫研究会誌)	22:126-130.	ネコブセンチュウ。有機物施用併用時に高い防除効果。効果は処理後の1作のみ。
80	古賀成司	1976	水利用による土壌線虫防除に関する研究 第3報 有機物投入と灌水処理に伴う微生物相の変動について。	Delphax	20:3-4.	講演
81	小本曾重文・和田弘次郎・宗像桂	1976	Nematicidal polyacetylenes, 3Z, 11E- and 3E, 11E-trideca-1, 3, 11-triene 5, 7, 9-tri-ene from Carthamus tinctorius L.	Tetrahed. Let. (Tetrahedron Letters)	1976(2)109-110.	未見。ベニバナから殺線虫成分の単離と構造決定
82	小本曾重文・和田弘次郎・宗像桂	1976	Isolation of nematicidal polyacetylenes from Carthamus tinctorius L.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	40(10)2085-2089.	ベニバナから殺線虫成分の単離と構造決定。イネシガラセンチュウに対し1ppmで48時間処理により95%の死亡率
83	小本曾重文・和田弘次郎・宗像桂	1976	Odoracin, a nematicidal constituent from Daphne odora.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	40(10)2119-2120.	シシトウゲから殺線虫成分を単離し、構造決定。イネシガラセンチュウに対する殺線虫力を検定。
84	小池 晃・川又靖徳・中村弘男・郷間隆夫	1976	農家に発生した線虫病の観察。	栃木農試要報(栃木県畜産試験場要報)	19:55-64.	上産時に発生。線虫の体長、体幅、体重の測定、クワノメイガ幼虫への寄生率。
85	小島秀治郎・矢野 清・小林正幸・宮崎秀也	1976	種粉の薬剤消毒によるイネシガラセンチュウ防除について 第1報 MEP剤利用法の検討	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	18:92-93.	講演。薬液の種子消毒利用回数、処理方法(浸漬、粉衣)と防除効果。
86	小島秀治郎・渡辺健三	1976	滋賀県における水稲種子消毒の普及と問題点	関西病虫研報(関西病虫研究会誌)	18:73.	イネシガラセンチュウ防除を含む。
87	駒井功一郎・佐藤庄太郎	1976	ハロゲン化アルキル系化合物によるジャガイモ塊茎の褐変現象とrishtin誘導。	農化(日本農業化学会誌)	50(8)357-362.	誘導に及ぼす16種化合物の影響、薬剤濃度の影響、蓄積量の時間的変化、温度の影響、部位と褐変組織との関係、2, 4DNP及びKCNの影響。
88	今 友親・上野賢司・山田英一・高倉垂義	1976	ジャガイモシストセンチュウに関する研究:施肥量と品種反応。	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:120.	講演
89	近藤栄造・石橋信義	1976	Thermal effects on the fine structure of the 2nd stage larvae of Heterodera glycines Ichinohe.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:27-34.	ダイズシストセンチュウ第2期幼虫の-20, +40~60°C処理後の表皮、脂肪顆粒、筋肉の微細構造の変化。
90	近藤栄造・石橋信義	1976	土壌線虫の表皮微細構造の比較。	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:110.	講演
91	下松明雄	1976	Tokuton, a new organophosphorus insecticide with low mammalian toxicity.	Jap. Pesticide Inform. (Japan Pesticide Information)	26:14-17.	土壌施用によるサツマイモネコブセンチュウ防除効果なし。
92	熊本謙己・内田信義・行徳直己・平田保雄・横山 佑太正	1976	イネシガラセンチュウによる黒点米の発生と防除。	九病虫研報(九州病虫研究会誌)	22:29-32.	黒点米混入粒数、収量と線虫寄生数の関係(前者は正の相関、後者は長の相関)
93	栗原 毅	1976	蚊の寄生線虫Reesimermis nielseniiの生態、とくに宿主への接近について。	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	25(1)8-16.	チカイエカに対する寄生効率と、寄生定着にいたる過程
94	真宮靖治	1976	マツノザイセンチュウの侵入個体数とマツ苗木の発病。	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	87回:	講演

94.	真宮靖治	1976	マツノザイセンチュウの侵入個体数とマツ苗木の発病.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:225-226.	小數個体でも発病. 接種24時間後に接種枝を除去しても苗木は発病
95	真宮靖治	1976	マツノザイセンチュウのその後の研究.	植物防疫	30(3)109-113.	マツ枯損の発生経過、線虫の生活環、発病機構.
96	真宮靖治	1976	Pine wilting disease caused by the pine wood nematode, <i>Bursaphelenchus lingicolus</i> , in Japan.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	10(4)206-211.	病気の進展と病徴、材線虫の伝搬、樹体内における個体群変動、防除.
97	真宮靖治	1976	数種脂肪酸のマツノザイセンチュウの増殖におよぼす影響.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:111.	講演
98	真宮靖治	1976	マツノザイセンチュウの生態と防除.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:154.	日本線虫研究会大会講演.
99	真宮靖治	1976	マツノザイセンチュウの生活環.	今日の農業	20巻3:17-20.	伝搬と樹幹への侵入、増殖、分散等.
100	真宮靖治	1976	マツノザイセンチュウの寄生性及び萎凋枯損機構.	森林防疫	25(11)172-175.	自然感染、発病の経過、マツ樹体内での線虫動態.
101	真宮靖治・田村弘忠	1976	マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(III)線虫による薬剤注入効果の生物検定.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	87回:89.	講演
101	真宮靖治・田村弘忠	1976	マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(III)線虫による薬剤注入効果の生物検定.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:271-272.	テラクラP、ダイシストン、トップジンのうち、テラクラPのみ効果. 時期別、部位別の線虫数を調査.
102	真宮靖治・田村弘忠	1976	マツノマダラカミキリ蟻室周辺材から検出された線虫捕食菌の一種.	森林防疫	25(10)147-149.	<i>Dactyliella leptospora</i> . 千葉県君津市. はば100%の頻度で検出.
103	増田隆哉	1976	マツノザイセンチュウがクロマトの同化作用におよぼす影響について.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	29:217-218.	接種8-9日後から低下. 呼吸作用は増大.
104	増田安弘	1976	野菜の生理に及ぼすネマトーダの影響(第5報)野菜のネコブセンチュウ被害に対するたい肥施用の影響とそれに関連する講要因.	園芸雑(園芸学雑誌)	45(1)24-32.	エダマメ、インゲンマメ、キュウリ、カボチャ、ハウサイへの堆肥施用と線虫害の関係
105	増田安弘・三輪晋	1976	ヤマトイモ種芋の殺線虫法に関する研究(第1報)ネコブセンチュウの被害芋におけるエステル処理後の生育におよぼす影響.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭51春:244-245.	講演
106	松井弘之・中川昌一	1976	ネコブセンチュウによるゴール形成に関する研究(第2報)ホウセンカの茎に形成されたゴールの呼吸量、炭水化物量および同化物質の取り込み量の変化.	園芸雑(園芸学雑誌)	45(3)238-244.	正常組織に比べ、呼吸量は増加、各種炭水化物含量も高く、同化産物の取り込みも多.
107	松本重男	1976	大豆の生産振興と技術対策の要点.	農及園(農業および園芸)	51(1)206-210.	ダイシストセンチュウ対策: 抵抗性品種の作付けが最良
108	松本重男・石川正示・国分善治郎・原原芳秀・今野善一郎・小山フミ・村上昭一・小山隆光・長沢次男・松本定男	1976	ダイズ新品種「カルマイ」について.	東北農試研報(東北農業試験場研究報告)	52:31-48.	育成過程及び特性. ダイシストセンチュウ抵抗性強
109	松浦邦昭・川崎敏郎・小林亨夫・陳野好之・真宮靖治・田村弘忠・佐々木克彦	1976	マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(I)クロマト生立木に対する防除薬剤の施用効果.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	87回:88.	講演
109	松浦邦昭・川崎敏郎・小林亨夫・陳野好之・真宮靖治・田村弘忠・佐々木克彦	1976	マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(II)クロマト生立木に対する防除薬剤の施用効果.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:265-266.	Fensufiothion(テラクラP)が有効.
110	松浦邦昭	1976	マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(III)樹幹注入したfensufiothion, thiophanatemethylのマツ樹体内における行動.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	87回:88.	講演
110	松浦邦昭	1976	マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(III)樹幹注入したfensufiothion, thiophanatemethylのマツ樹体内における行動.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:267-269.	移動、分布、存在状態、濃度.
111	松浦邦昭	1976	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(V)十数種薬剤のポット植栽苗木に対する効果.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	87回:90.	講演
111	松浦邦昭	1976	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(V)十数種薬剤のポット植栽苗木に対する効果.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:275-276.	Nemacur, スミチオン, NTN-17569, NTN-17721, テラクラP, ネマホスに効果を認める.
112	松浦邦昭・小林亨夫	1976	マツ生立木に対する薬剤の樹幹注入及び土壌処置.	森林防疫	25(12)207-210.	室内・苗木による薬剤のスクリーニング、処理方法の防除効果、樹体内での薬剤の移動分布と生物効果.
113	皆川 望	1976	サツマイモネコブセンチュウによるカンショ農林1号の被害.	九病虫研報(九州病害虫研究会報)	22:121-123.	株当たりも数も有意に減少、平均いも重は不変.
114	皆川 望	1976	日露畑におけるサツマイモネコブセンチュウ個体群の季節的変動 III. 防除畑における個体群変動.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:112.	講演
115	峰尾一彦	1976	マツの材線虫病の薬剤防除 2. 土壌処理剤の検討.	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	27回:275-277.	テラクラP粒剤が効果
116	峰尾一彦	1976	マツノザイセンチュウ寄生性発現に関与する土壌の乾燥条件.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	87回:80.	講演
116	峰尾一彦	1976	マツノザイセンチュウ寄生性発現に関与する土壌の乾燥条件.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:241-242.	土壌水分が低下すると枯死症状が早く発現
117	三井 康	1976	ネグサレセンチュウのカルス培養における培地の組成と線虫の増殖.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:121.	講演
118	三井 康	1976	線虫を捕食する菌類.	植物防疫	30(3)99-103.	捕食菌の種類とその性質、培養、捕捉器官形成要因、活性、分布、防除への利用.
119	三井 康・古田猛・岡本好一・石井良助	1976	落花生連絡圃場における線虫捕捉菌とキタネコブセンチュウとの関係.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:47-55.	土壌添加物(落花生・稲わら・生おが屑堆肥・製鉄鉱さい・消石灰)の影響、捕捉菌と線虫密度の関係、両者と土壌pH、固相・液相率との関係
120	百田洋二	1976	<i>Xiphinema bakeri</i> のウツ実生に対する病原性.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	23:124.	root-swellng症状を起こす.
121	百田洋二・大島康臣	1976	シストセンチュウ4種の走査電顕観察.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:14-23.	イネ、ムギ、ダイズ、ジャガイモシストセンチュウの第2期幼虫、雄成虫、および前3種の雌成虫、褐色シストの形態を比較.
122	百田洋二・大島康臣	1976	シストセンチュウの走査電顕観察.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:110.	講演
123	森川国康	1976	The effect of the soil-mesofauna by the scattering of the insecticide from the helicopter against the Japanese pine	Rev. Eco. Biol. Sol. (Revue d'Ecologie et de Biologie du Sol)	13(1)43-46.	未見. 松枯損防止のための殺虫剤の空中散布による土壌中動物相(線虫を含む)への影響
124	村井高伯・加藤四郎・山田哲也・藤田茂隆	1976	立枯病、疫病および線虫病抵抗性黄色種F210の育成.	磐田たばこ試報(磐田たばこ試験場報告)	8:11-24, Pl. 7-8.	育成過程及び特性. サツマイモネコブセンチュウ抵抗性.
125	村松安男	1976	トマト品種と耐病性.	農業技術研報	30巻2:47-50.	最近発表されている耐病性品種の表の中に線虫抵抗性品種.
126	村岡 実・石橋信義	1976	Nematode-feeding mites and their feeding behavior.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	11(1)1-7.	41種のダニの線虫捕食を調査. ダニの発育、ヒポブスの出現との関係も見る.
127	村岡 実・石橋信義	1976	土壌ダニトビムシに及ぼす薬剤施用、施肥の影響.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:125.	講演
128	中村哲也	1976	南九州の食用日露の生産集団と技術的課題.	農及園(農業および園芸)	51(1)236-240.	土壌消毒の所要労力を示す.
129	中根 勲	1976	マツノザイセンチュウ耐久型幼虫の虫体からの離脱状況.	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	27回:252-254.	カミキリ脱出1週間目は少、2週間目は最高、3週間目以降は漸減
130	中西喜徳・上住泰	1976	本邦におけるDitylenchus destructor(イモグサレセンチュウ)の発生と2,3の実態について.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:113.	講演
131	中園和年	1976	ニセフクロセンチュウ(<i>Rotylenchulus reniformis</i>)における両性生殖型および単為生殖型間の雌の性誘引の差異.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:109.	講演

132	中園和年・桂直	1976	短波長可視光線によるニセフクロセンチュウの脱皮・発育の阻害及び致死.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:84-88.	波長433-463 nm以下の青色光で8000 erg秒以上の照射が線虫に強い影響.
133	奈須田和彦	1976	着色米・変色米とその種類について.	北陸病虫研報(北陸病虫研究会会報)	24:40-45.	総説. 用語等を論じる.
134	西尾道徳	1976	陸稲の連作障害の原因をめぐって.	化学と生物	14(11)718-721.	連作害の特徴、陸稲における症状、生物的性格、病原性生物の集積、Pyrenochaeta sp.と連作障害、線虫と糸状菌の関係
135	西山喜一	1976	バナナの栽培および品質改善に関する研究.	熱帯農業	19(3/4)166-167.	日本熱帯農業学会賞受賞特別講演. 線虫にふれる.
136	西沢 務	1976	黒点米の発生事例と発生機構.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:73-79.	多発圃場産米の調査、イネシシガレセンチュウの接種試験、線虫・黄色細菌(Enterobacter agglomerans)接種試験.
137	西沢 務	1976	黒くさび米(黒点米)の発生機構について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:152-153.	日本線虫研究会大会講要
138	西沢 務	1976	Bacillus penetrans類似種の利用によるネコブセンチュウ防除効果.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:122.	講要
139	西沢 務	1976	センチュウ類の生態と防除.	施設園芸	18巻7:19-23.	線虫の種類と被害、ネコブセンチュウの種類と生態.
140	西沢 務	1976	センチュウ類の生態と防除.	施設園芸	18巻8:19-24.	ネコブセンチュウの被害と防除、それ以外の線虫についての解説.
141	野淵 輝	1976	マツノマダラカミキリの材線虫伝播様式.	森林防疫	25(12)186-188.	線虫保持率・保持数、脱出時期別・カミキリの大きさと線虫保持数、カミキリの材線虫の侵入離脱経過、カミキリの時期別の後食と枯損発生.
142	小戸健良・高倉求・野口純隆	1976	湛水によるネコブセンチュウの防除について.	Delphax	20:3.	講要
143	小河誠司	1976	マツノザイセンチュウに関する試験(3)標高別材線虫接種試験.	日林九支研誌(日本林学会九州支部研究論文集)	29:211-212.	福岡県では標高400-500mが被害発生の境界.
144	小河誠司・金子周平・大長光純	1976	マツノザイセンチュウに関する試験(4)テーダマツ樹体内での材線虫の生存期間とアカマツ丸木による材線虫増殖試験.	日林九支研誌(日本林学会九州支部研究論文集)	29:213-214.	テーダマツでは増殖できず、アカマツでは少数接種でも増殖可能
145	小川義雄・永野道昭・樋口泰三・戸 稔	1976	長崎県のジャガイモ栽培地帯で検出された本邦未記録のシストセンチュウ.	九病虫研報(九州病虫研究会会報)	22:118-120.	計測値等を既知種と比較. ヨモギに寄生する種類と後に判明(No. 83-119).
146	岡 啓	1976	十勝の畑作と技術の歩み.	農業技術	31(9)400-404.	輪作と線虫害の関係にふれる.
147	岡田利承・高杉光雄	1976	線虫の孵化促進及び抑制物質.	植物防疫	30(3)83-87.	シストセンチュウの孵化に関与する物質(寄主植物内、シスト内、孵化における各種要因の役割)、孵化促進物質の化学的研究
148	岡本好一・戸 稔	1976	ジャガイモシストセンチュウの増殖とシストの接種時期.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:98.	いもの植付けと線虫接種を同時に行うと線虫の増殖を高める.
149	岡本好一・戸 稔・三井 康・中園和年	1976	北海道に発生するジャガイモシストセンチュウの寄生型(Pathotype).	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:120.	講要
150	大羽克明・藤田祐輔	1976	ガス抜き効果とDitraxepの土壌内濃度変化.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:123.	講要
151	大庭喜八郎	1976	マツノザイセンチュウの抵抗性育種.	林木の育種	99:1-6.	育種調査事業の概要、抵抗性育種の推進、育種事業の進め方.
152	大橋雄司	1976	在来種のもつ病青抵抗性について.	葉たばこ研究	73:56-66.	サツマイモネコブセンチュウに関しては検定した全品種が罹病性.
153	大久保隆弘	1976	畑地における地方保全と輪作の考え方.	農と園(農業および園芸)	51(1)187-192.	輪作の土壌微生物調節機能として線虫問題にふれる.
154	大久保隆弘	1976	作物輪作技術論.	農山村文化協会、東京	291 pp.	多面的に輪作を扱った専門書. ヨーロッパ・熱帯・日本における輪作の種類・歴史・輪作の意義・特性・機能と効果、田畑輪換. 線虫との関連 p. 101-102, 125-126, 132-133, 138, 142, 207-216, 280-282.
155	大島康臣	1976	線虫分類学の現状・分類表の試み.	植物防疫	30(3)114-118.	主に植物寄生性線虫の属レベルまでの一覧表.
156	大竹昭郎	1976	Somasundaram, P. M.・Abeykoon, M. B.・Studies on population of Sogatella fumifera Horvath and Nilaparva ta lugen Stal (Hemiptera: Delphacidae) and their parasites in Sri Lanka.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	11(4)284-294.	スリランカのウンカの生態. 天敵に未同定の線虫を含む.
157	大山浪雄	1976	マツノザイセンチュウに対する抵抗性選抜育種.	森林防疫	25(12)212-214.	抵抗性検定法、外国産・日本産マツ類の抵抗性、抵抗性発現に及ぼす土壌の影響.
158	大山浪雄・川辻公弘・鈴木和夫・赤吉幸浩	1976	アカマツとクロマツのマツノザイセンチュウ感受性に及ぼす乾燥の影響.	日林九支研誌(日本林学会九州支部研究論文集)	29:219-220.	アカマツはクロマツが全部枯損するような土壌乾燥条件下でも枯死しにくい.
159	尾崎 薫	1976	わが国畑作の開発方向と技術的課題.	農と園(農業および園芸)	51(1)170-171.	畑作物の線虫抵抗性品種の育種にふれる.
160	三合一 敬	1976	北海道における主要農作物育種の現状 IV. 大豆.	北農	43巻3:5-13.	ダイズシストセンチュウ抵抗性を含む.
161	三枝敏郎	1976	Ditylenchus destructorによる球根アイリスの被害地.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:99.	5県18市町をあげる.
162	三枝敏郎	1976	日本におけるイモグサレセンチュウ Ditylenchus destructorの発生と被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:155.	日本線虫研究会大会講要
163	三枝敏郎	1976	ミカンモグリセンチュウRadopholus similis (Cobb) Thorneの寄主植物.	植防疫報(植物防疫所調査研究報告)	13:71-76.	寄主植物のリスト.
164	三枝敏郎・相原孝雄・中臣康範	1976	ジャガイモイモグサレセンチュウDitylenchus destructorによる球根アイリスの病害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:114.	講要
165	三根敏郎・倉持仁厚	1976	ジャガイモ開花期におけるシストの抜き取り観察と土壌中シストの検出.	植防疫報(植物防疫所調査研究報告)	13:11-18.	植物の抜き取り調査でも土壌検診に匹敵する精度の場合もある.
166	酒井其次・砂田善与志	1976	大豆のダイズシストセンチュウ抵抗性の系統選抜について.	育種(育種学雑誌)	26(別2)211-212.	講要
167	佐野善一	1976	ネコブセンチュウ種幼虫のEDB感受性.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:24-26.	サツマイモ、キタ、ジャワネコブセンチュウ. LC-50は53-60ppmで種間差なし.
168	佐々木克彦・小林亨夫	1976	マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(IV)生立木の糸状菌相に対する注入薬剤の影響.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回:89.	講要
168	佐々木克彦・小林亨夫	1976	マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(IV)生立木の糸状菌相に対する注入薬剤の影響.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:273-274.	テラクアP、トップジンM.
169	清水 啓	1976	イネシストセンチュウ(Heterodera elachista)による畑水稲の被害解析.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:1-6.	接種密度・時期の違いと収量への影響、線虫の発生消長.
170	清水 啓	1976	イネ品種間におけるイネシストセンチュウの増殖ならびに被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:122.	講要
171	清水孝二・井上 瑛	1976	線形虫類(ハリガネムシ類)の寄主特異性に関する研究. 第一報.	動雑(動物学雑誌)	85(4)514.	講要
172	塩川晴寿	1976	四輪トラクタ用土壌消毒機の開発.	農林水産研究情報	63:39-40.	目的、構造、使用法、効果
173	庄司次男・滝沢幸雄・五十嵐正俊・早坂義雄・小度憲由・高橋 勉	1976	宮城県石巻市とその周辺におけるマツ材線虫病の分布実態調査.	森林防疫	25(4)53-56.	マツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの分布.
174	須崎民雄・矢嶋久・佐々木重行	1976	マツノザイセンチュウ接種クロマツの水分通導抵抗.	日林九支研誌(日本林学会九州支部研究論文集)	29:215-216.	抵抗が増大し、水の供給が減少.
175	鈴木和夫・清原友也	1976	クロマツの水分状態と材線虫病発現の機構.	日林九支研誌(日本林学会九州支部研究論文集)	29:221-222.	接種木における線虫密度の増加期には、樹体の水分状態の生理は正常
176	鈴木和夫・清原友也	1976	マツの水分状態と材線虫病の発現.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回:80.	講要
176	鈴木 実	1976	Microscopical marine animals scarcely known from Japan. I. Micro- and meiofauna around Kasado Island in the Seto Inland Sea of Japan.	動物分類誌(動物分類学雑誌)	12:5-12.	未見. 線虫を含む.
177	高橋昌隆・中野了	1976	樹幹注入によるマツノザイセンチュウの防除試験.	徳島林試研報(徳島県林業試験場研究報告)	14:43-49.	騰写、キルゾールP粒剤、ベンレート水和剤500倍液の樹幹注入及び1本当たり1000cc土壌処理で線虫の侵入阻止可能
178	高橋 治	1976	野菜の耐病性検定法の現状と問題点:民間機関での現状と問題点.	育種学最近の進歩	16:89-93.	トマトのネコブセンチュウ抵抗性育種を含む. No. 76-68も参照.

179	高木信一	1976	昆虫に寄生する線虫類.	植物防疫	30(3)104-108.	種類、線虫による昆虫個体群制御の要素.
180	高倉 求・野口純隆・窪田 廣	1976	水利用による畑施設土壌の改善に関する研究 第2報 湛水かんがいによる土壌化学性の変化およびネコブセンチュウの防除効	九州農業研究	38:132.	20-60日間湛水処理によりキュウリの根腐指数が低下、増収
181	高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親	1976	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 線虫密度とジャガイモの被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:118.	講要
182	高島敬一・中園和年・森谷俊一	1976	福井市におけるハウス栽培と土壌線虫によるトマト、キュウリの被害状況	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:99.	アレナリアネコブ、ジャワネコブセンチュウ近似種
183	武田丈夫・井戸規雄	1976	マツノザイセンチュウの土壌注入によるマツの枯損現象(予報).	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	27回:263-266.	枯損が発生. 根の傷から線虫侵入の可能性も.
184	武田丈夫・井戸規雄・小林一三	1976	各地域ごとの羽化脱出したマツノマダラカミキリの材線虫保持数	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回:83	講要
184	武田丈夫・井戸規雄・小林一三	1976	各地域ごとの羽化脱出したマツノマダラカミキリの材線虫保持数	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:251-252.	地域により多少の差、被害程度との関係は不明.
185	竹下晴彦	1976	まつくい虫予防薬剤の残効について.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	29:185-186.	バイエタン乳剤(バイジツト+EDB)の航空防除. 後食面積と材片中線虫の関係を含む.
186	竹下 努	1976	材線虫によるマツ枯損防止の研究(1). 鳥取県材線虫の分布と被害.	鳥取林試研報(鳥取県林業試験場研究報告)	19:37-49.	分布と気温・降水量・海拔・土壌・林種・令級分布の関係. 枯損時期の調査.
187	竹下 努	1976	鳥取県におけるマツノマダラカミキリの線虫保持状況	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回:83	講要
187	竹下 努	1976	鳥取県におけるマツノマダラカミキリの線虫保持状況	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:249-250.	脱出時期別の線虫保持率・保持数.
188	滝下国利	1976	マツノマダラカミキリ・マツノザイセンチュウ等の分布と防除について.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	29:193-194.	地理的分布と年平均気温・年平均降水量の関係(熊本県)他.
189	田村弘忠	1976	枯損木におけるマツノザイセンチュウの分布.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:60-66.	樹幹の線虫の垂直・水平分布を中経木・大経木・小径木・枯損野積木で比較
190	田村弘忠	1976	マツノザイセンチュウの生活史と行動.	森林防疫	25(11)169-172.	分散型幼虫の形態と行動、生活史、食性、増殖
191	田村弘忠	1976	流動パラフィン分注による培養線虫の保存.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:111.	講要
192	田村弘忠・真宮 達治	1976	アカマツとクロマツのカルス組織によるマツノザイセンチュウの繁殖.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	87回:77	講要
192	田村弘忠・真宮 達治	1976	アカマツとクロマツのカルス組織によるマツノザイセンチュウの繁殖.	日林論(日本林学会大会論文集)	87回:229-230.	増殖を確認. 線虫接種されたスギのカルスは褐変死.
193	田中福三郎	1976	精での黒点米および斑点米の簡易識別法.	応動昆虫(日本応用動物昆虫学会誌)	20(4)173-176.	「籾を20-24時間浸漬して吸水させ、灯の上においた白色プラスチック容器に入れて観察する」
194	田中康夫	1976	筑波大学農林技術センター圃場用地の土壌センチュウ相についての一見.	総合農学	24(1/2)27-30.	植物寄生種、自由生活種、捕食種の検出割合等.
195	谷 芳明・松田照・小林 誠	1976	ユウガオ台アスカ萎凋症に対するクロルビクリンの防除効果.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	23:39.	D-D剤処理によっても発病は若干減少.
196	照屋祐宏	1976	ハイナツフルの連作障害について.	今日の農業	20巻2:18-22.	発生の経過と症状、諸要因(ネコブセンチュウ他)、対策
197	樋田幸夫	1976	桑園における植物寄生線虫の種類について.	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨)	46:25.	講要
198	樋田幸夫・守山弘	1976	メキシカンマリーゴールド粗抽出物のクワ寄生線虫に対する殺線虫効果.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:123.	講要
199	都丸敬一	1976	土壌伝染性ウイルスの防除法.	植物防疫	30(5)202-206.	線虫媒介ウイルスを含む.
200	堤 正明	1976	ジャガイモシストセンチュウの孵化、寄生におよぼす対抗植物、殺線虫剤の影響.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	27:103.	孵化抑制はアスパラガス栽培区、D-D処理区、寄生数減少はD-D、バイデート、CG-223粒剤、テミツク処理区で認める.
201	堤 正明	1976	ジャガイモ根浸出液の採取時期がジャガイモシストセンチュウの孵化におよぼす影響.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:10-13.	移植後20-40日に採取した液で高い孵化率. 根除去100日の土壌からの液にも効果残存.
202	都築 仁・上林 謙・浅山 哲・中西 勇	1976	ベノミル剤による種子消毒方法とイネ心枯線虫病防除効果.	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	18:93-94.	講要
203	都築 仁・上林 球・中西 勇	1976	ベノミル及びその類似化合物によるイネ心枯線虫病防除効果.	愛知農試研報(愛知県農業総合試験場研究報告) A	8:69-77.	種籾粉衣、浸漬. ベノミル50%水和剤、サイベンダゾール45%水和剤の0.2%粉衣が優れた効果.
204	上林 球	1976	黒点米とイネシガラセンチュウとの関係およびその発生生態.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:152.	日本線虫研究会大会講要
205	上林 謙・天野 隆・中西 勇	1976	黒点米に関する研究 V. 発生機構.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:67-72.	黒点米の発生時期の推定とイネシガラセンチュウとの関係、発生位置、菌類との関係.
206	上田 進・別宮岩 義	1976	イネばか苗病および心枯線虫病に対する各種殺菌剤の種子消毒効果とホーマイ、ペンレートI水和剤20の使用法について.	四国植防(四国植物防疫研究)	11:87-91.	イネシガラセンチュウに対する後者の400倍24時間浸漬は効果不十分.
207	上野賢司・今 友親・山田英一・高倉重義	1976	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 薄入抵抗性品種の栽培による線虫密度変動.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:119.	講要
208	上住 泰	1976	球根アユリスにおけるイモグサセンチュウの発生.	植物防疫	30(1)31-32.	被害、寄主植物、近似種(Ditylenchus dipsaci)との区別点.
209	上住 泰	1976	球根類のイモグサセンチュウの発生と被害.	今月の農業	20巻5:86-89.	被害と症状、ナミクキセンチュウとの区別点、防除法(球根の温湯浸漬、ランネット水和剤浸漬、臭化メチル燻蒸).
210	宇賀正郎	1976	マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの実態調査.	高知林試研報	昭49:15-61.	線虫の地理的分布、カミキリとの関連等.
211	八木田秀幸	1976	クワノガハリセンチュウ(Longidorus martini)の生活史ならびに生態に関する研究 II. 卵の発育と桑園における生活環.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6:89-95.	卵の発育、卵巣の発育、寄主植物、桑園における密度・令構成の季節的消長、無寄生状態における生存期間.
212	八木田秀幸	1976	クワ輪紋ウイルスの線虫による伝搬.	植物防疫	30(5)198-201.	線虫による伝搬確認試験、病徴と病原、クワノガハリセンチュウの形態・生活史、ウイルス伝搬の様態(ウイルス及び線虫の寄主植物、線虫体内でのウイルスの保有期間)
213	八木田秀幸	1976	クワ輪紋ウイルスのLongidorus martiniiによる伝搬の様態(2)線虫の寄主植物とウイルスの感染.	日植病報(日本植物病理学会報)	42(1)63.	講要
214	八木田秀幸	1976	桑のモザイク病とクワノガハリセンチュウ.	今月の農業	20巻3:12-16.	モザイク病の症状、線虫の形態・生態、防除(クロルビクリンが効果、DBCP剤は効果なし)
215	八木田秀幸	1976	クワ輪紋ウイルスのLongidorus martiniiによる伝搬の様態(第3報)各発育ステージの伝搬の比較.	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨)	46:21.	講要
216	山田栄一・周藤 靖雄	1976	島根県におけるマツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリの実態調査.	島根林試研報(島根県林業試験場研究報告)	26:26-46.	マツノザイセンチュウの検出状態(枯死型の種類別、樹種・樹齢別)、分布(標高・温度との関係)、接種試験地.
217	山田英一・高倉重義・上野賢司・今 友親	1976	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 2,3のジャガイモ品種における線虫の消長と作物の生育.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	20回:117.	講要
218	山口洋一・田中行久・小泉成徳・福留信明・林 松	1976	沖縄県で発生が認められたタバコの病害虫.	鹿児島たばこ試報(鹿児島たばこ試験場報告)	20:149-154.	線虫病を含む.
219	山川邦夫	1976	Breeding for disease resistance of vegetable crops in Japan.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	10(4)187-192.	トマトのネコブセンチュウ抵抗性育種を含む.
220	山本辰夫・小阪 和彦	1976	イネシガラセンチュウの加害による黒点米の出現と香川における実態調査	四国植防(四国植物防疫研究)	11:71-76.	品種比較、寄生数と黒点米率、寄生部位.
221	山中昭雄・本島利男	1976	リンドウの土壌病害防除試験 第2報 補えつけ時の土壌処理が後年の生育に及ぼす影響	栃木農業試験場年報(栃木県農業試験場業績報告)	13:128-131.	D-D剤施用、マリーゴールド植栽等
222	山下俊勝・広瀬 敏晴	1976	兵庫県における着色米の発生実態と要因解析	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	18:88-89.	講要
223	山下俊勝・広瀬 敏晴	1976	兵庫県における着色米の発生実態と要因解析	応動昆虫中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支部会報)	18:54-57.	県内に広く分布、地域による稲品種の違いが発生率に影響.
224	山崎 昭	1976	昭和50年度における植物検疫の動向.	関西病虫研報(関西病害虫研究会報)	18:70-71.	イモグサセンチュウ富山県に発生を確認

225	柳沢昭功	1976	東山地域の野菜作集団(1)長野県山形村上・中大池地区の事例	農及園(農業および園芸)	51(1)217-220	ナガイモの線虫害と対策を含む。
226	横川意代司	1976	埼玉県におけるマツノザイセンチュウ被害の推移	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	28回:33	講要
227	吉田雅夫	1976	北米における核果類の育種及び台木に関する調査:その1	農林水産研究情報	65:16-19	モモの耐線虫台木の育種を含む。
228	吉村彰治	1976	田圃機利用水稲栽培における病害虫の発生と研究課題	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	23:1-5	イネシシガレセンチュウ多発傾向。
229	湯田坂正一・宮下善好・伊藤昭	1976	239. リンドウのネコブセンチュウ類に対するネマモール乳剤の効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	23:123	1000倍液4リットル処理が好成績
230	湯原 巖	1976	病害虫とリモートセンシング:線虫の被害調査を中心として	北海道農試研究資料(北海道農業試験場研究資料)	8:59-67	赤外線カラー写真・マルチスペクトル写真の利用、マルチスペクトル・スキャナー及び熱線の利用によるダイズシストセンチュウの被害判別。
231	湯原 巖	1976	自然シバ草地及び人工草地における土壌線虫の生息動態	北海道農試研報(北海道農業試験場研究報告)	116:55-62	線虫種の比較、捕食性線虫の線虫捕食実験、土壌中での垂直分布
232	陳野好之・真宮靖治	1976	ネコブセンチュウによるナンキンハゼの被害	森林防疫	25:128-131	林試四国支場苗圃・サツマイモネコブセンチュウ、同九州支場・ジャブセンチュウ
233	Anon.(香川県林業指導所)	1976	マツノザイセンチュウに関するマツ類の枯損防止に関する試験研究報告	香川県林業指導所 試験研究成果報	9:1-97	熊野・マツノマダラカミキリなどのマツノザイセンチュウ保持状況調査p.19-22、マツノザイセンチュウ薬剤試験p.81-93
0		1977	昭和52年(1977)			
1	相沢徳尚・高潮巖・川崎敏郎・松浦邦昭・藤下章男・松原 功	1977	マツノザイセンチュウ防除で土壌施用したダイシストンとテラクアPの環境への影響	農業研究	23巻3:14-21, 1 pl.	土壌中での移動、地下水への溶脱、サワガニ・野生植物による吸収・蓄積
2	赤井重泰・河野又四	1977	逸見武雄博士採集市場果実害目録(1932-1937, 1943-1945)	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	19:52-60	線虫病の記録:ジャガイモ(1944)、サトイモ(1943)、サツマイモ(1946)
3	Alam, N. M., Khan, A. M. & Saxena, S. K.	1977	Persistent action of oilcakes and nematocides on the population of nematodes in field.	防虫科学	42(3)119-124	4種の油粕、2種の殺線虫剤のトマト、ジャガイモ、アカカブの線虫に対する密度抑制効果
4	Andrassy, I.	1977	Die Gattungen Amphidelus Thorne, 1939, Paramphidelus n. gen. und Etamphidelus n. gen. (Nematoda: Alaimidae).	Opus. Zool. (Opuscula Zoologica, Budapest)	14(1/2)3-43	未見。新属新種を長野県のYokodake(2,200m)のモミツガノカンバの落葉層からの記録を含む。
5	近岡一郎	1977	キタネグサレセンチュウ(Pratylenchus penetrans)の土壌中における生存	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:45-48	無寄主状態における生存期間、2-5°Cで5年、15°Cで3年5ヵ月、25°Cで1年9ヵ月、野外2年9ヵ月。
6	近岡一郎	1977	イチゴに寄生する線虫類	植物防疫	31(2)64-68	イチゴ栽培における線虫問題の特徴、芽寄生線虫(4種)、根節寄生線虫(ネコブ、ネグサレ、その他の線虫)、関連病害
7	近岡一郎	1977	線虫対策に決め手はあるか	農業富民	49巻8:108-111	薬剤、対抗植物、抵抗性品種、有機質肥料、輪作、圃場衛生、ハウス密閉等の効果と注意点
8	近岡一郎	1977	マリーゴールドでセンチュウの防除ができる?	農業富民	49巻2:78-80	利用方法、効果
9	堂園安生・鈴木和夫	1977	Botrytis cinerea菌そうにおけるマツノザイセンチュウの増殖試験:糖類の影響	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:239-240	1-8%の間では糖の濃度が高い程線虫密度が増大
10	遠田暢男	1977	小笠原諸島におけるマツノザイセンチュウの分布	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	29回:20	講要
11	遠田暢男・田村弘忠	1977	マツノザイセンチュウを捕食するダニ類(1)	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	88回:101	講要
11.1	遠田暢男・田村弘忠	1977	マツノザイセンチュウを捕食するダニ類(1)	日林論(日本林学会大会論文集)	88回:321-322	ダニの種類、線虫保持数とダニ保持数
12	遠田暢男・田村弘忠	1977	マツノマダラカミキリ成虫から検出された線虫捕食性ダニ類	森林防疫	26(12)188-190	ダニの種類、線虫保持数とダニ付着数、ダニの生息
13	藤本 清	1977	イネシシガレセンチュウの防除	今月の農業	24巻3:7-13	バイジットを主とした種子消毒、出穂期散布
14	藤下章男	1977	静岡県におけるまつくいムシの防除試験について	農業研究	23巻3:1-4	被害の現状、薬剤防除等
15	藤田茂隆・村井高伯・加藤四郎・河又一雄・大橋雄司・松田俊夫・津崎和夫・中村	1977	新補充原料品種の育種 第2報 LEC系統群の育成	磐田たばこ試報(磐田たばこ試験場報告)	9:83-109, 2 pls	サツマイモネコブセンチュウ抵抗性
16	福留信明	1977	沖繩の自在在来種のジャワネコブセンチュウ抵抗性について	応動員大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:48	講要
17	福留信明	1977	沖繩のタバコ産地における植物寄生性線虫の種類と分布	九病虫研会報(九州病虫研究会年報)	23:173	講要
18	我如古光男	1977	マツノザイセンチュウ被害分布調査	沖繩林試研報(沖繩県林業試験場研究報告)	19:7-20	沖繩における昭和49-51年の被害の分布状況
19	後藤 昭	1977	わが国における畑主要センチュウの分布と輪作・防除上の注意	今月の農業	21巻2:12-16	ネコブ、ネグサレセンチュウの種類と寄主作物等
20	後藤 昭	1977	リュウキュウイシシグセンチュウ(Paratrophurus sp.)の形態等について	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:80-81	種名未定。計測値、形態の記載
21	萩谷俊一	1977	ラッカセイのマルチ栽培におけるDBCP粒剤の施用方法と薬害およびキタネコブセンチュウに対する防除効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	24:139-140	播種日または10日前にマルチ内に10kg/10a、全面土壌混和。薬害なく、増収
22	萩谷俊一・三井康	1977	3種ネグサレセンチュウの接種頭数とニンジン被害	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:78-79	キタネグサレセンチュウの寄生性(加害性)はクルミネグサレ、ミナミネグサレセンチュウに比べ高い
23	羽田三男・下川利之	1977	マツノザイセンチュウに対する抵抗性品種の選抜試験(II)	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	17:57-61	野外で生存したクローンも人工気象室中で枯損、他に薬剤防除試験結果
24	長谷川 仁	1977	自然の文化史:昆虫編(19):「質問応答録」と巡回教師	自然	32巻7:18-19	明治20年代の害虫研究史、コムギツブセンチュウにふれる。No. 1884-2, 87-1を参照
25	長谷川 仁	1977	自然の文化史:昆虫編(22):マラットとワシントン	自然	32巻10:18-19	明治42年(1909)東京市長から米国ワシントン市へ最初に贈った桜苗木の廃棄の経緯にふれる。ネコブセンチュウが発見された。No. 60-229を参照
26	橋本平一・鈴木和夫	1977	材線虫病異常木に対する亜鉛注入による樹液流動の追跡	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:245-246	樹脂の滲出が低下した状態でも樹液は流動していた
27	万豆剛一	1977	キクの切花生産をめぐる諸問題(7):連作障害対策(1)	農及園(農業および園芸)	52(1)85-88	ネグサレセンチュウ(Pratylenchus fallax)の関与にふれる
28	万豆剛一	1977	キクの切花生産をめぐる諸問題(8):連作障害対策(2)	農及園(農業および園芸)	52(2)341-344	ネグサレセンチュウ対策(土壌薬剤処理、マリーゴールド利用、高温灌水、有機物施用)を含む
29	平野 暁	1977	作物の連作障害:原因・機構・対策の研究	農山漁村文化協会、東京	282pp.	毒害原因説の視点から書かれた教科書。線虫の扱いは小さい
30	細野隆次	1977	Nematoda Caenorhabditis elegansの行動分析	動雑(動物学雑誌)	86(4)509	講要
31	堀田 隆・高橋和博	1977	薬剤の樹幹注入法による材線虫病防除試験(II)生物検定による治療効果の判定	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:233-234	樹脂分泌量が多少異常でもテラクアP油剤の注入効果あり
31.1	一戸 裕・Hadamda, M.・Yoshida, T.	1977	Nonhost plants of Meloidiogy incognita on black peppers in the Amazonian region.	J. Nematol. (Journal of Nematology)	9(4)271-272	講要
32	井戸規雄・武田文夫	1977	和歌山県における松くい虫防除試験:マツノザイセンチュウの防除試験	農業研究	23巻3:5-9	ダイシスト剤の土壌施用
33	池田 弘・吉村大三郎・吉田桂輔	1977	イネ心枯線虫病の育苗箱における感染及び発病について	九病虫研会報(九州病虫研究会年報)	23:28-30	感染・発病ともに多い
34	今村昭二・萩原保身・浦野敏美・林 守男	1977	ヘリコプター散布による液剤のイネカメムシ類防除効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	24:96-97	スミチオン、スミバツサ剤散布。イネシシガレセンチュウ被害も減少
35	稲垣春郎	1977	Seasonal occurrence of the potato cyst nematode, Globodera rostochiensis (Woll.) Mulvey & Stone, in Hokkaido, Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:33-38	現地圃場におけるジャガイモシストセンチュウ第2期幼虫、雌成虫、シストの年間発生消長
36	稲垣春郎	1977	Soybean nematodes.	Tech. Bull. ASPAC (Technical Bulletin, ASPAC (FFTV))	31:1-17	研究史、生活史、寄生・症状、他の病原との関係、被害、防除(薬剤、輪作、抵抗性品種、総合防除)

37	稲生 稔	1977	イネシシガレセンチュウの防除.	今月の農業	21巻2:18-21.	感染経路、種子消毒法(バイジツ、バダン、ベンレート剤処理)
38	稲生 稔・上田康郎	1977	イネシシガレセンチュウに対する冬期種子消毒の効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	24:133.	バダン、バイジツ及びそれらとベンレート剤の混同の比較
39	井上 平	1977	連作によるネコブセンチュウ汚染圃場でみられたジャガイモの障害.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:66-69.	ジャガイモの不萌芽率・莖長・根こぶ指数・青枯病発生率・収量を連作とEDB処理圃間で比較.
40	井上 平	1977	ネコブセンチュウの発生圃場で栽培した春作産ジャガイモの腐敗.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:46.	講要
41	石橋信義	1977	土壤無脊椎動物相に及ぼす農業の影響. In: "人間の生存にかかわる自然環境に関する基礎的研究"研究報告集録.			トビムシ、ダニに対する殺線虫剤(DICP、D-D、EDB剤)の影響、土壤線虫に対する除草剤の影響等を解説.
42	石橋信義・近藤栄造	1977	Occurrence and survival of the dispersal forms of pine wood nematode, <i>Bursaphelenchus lingicolus</i> Mamiya and Kiyohara.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	12(4):293-302.	マツノザイセンチュウの分散型幼虫の出現と生存を各種条件下で試験
43	石橋信義・近藤栄造	1977	水田線虫相調査方法に関する2、3の問題点.	九病虫研会報(九州病虫研究会年報)	23:173-174.	講要
44	石橋信義・近藤栄造	1977	線虫を使った老化の研究.	動雑(動物学雑誌)	86(4):548.	シンポジウム「老化の機構:実験材料をめぐって」講要
45	石橋信義・近藤栄造・佐本和男	1977	数種培養線虫の乾燥・低温・凍結に対する反応.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:45.	講要
46	石川元一	1977	イネシシガレセンチュウの野外越冬.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	24:134.	野外の初・初穀中での越冬は見られず.
47	伊藤一雄	1977	マツの材線虫病防除と自然保護.	林業技術	422:12-15.	殺虫剤空中散布の使用薬剤・量・残留・他生物への影響等
48	岩橋哲彦	1977	サトイモに寄生するミナミネグサレセンチュウの防除について 第1報 種いもへの浸漬処理.	九州農業研究	39:81.	カルタップ水溶液、CG-233乳剤の200~500倍、30分~1時間処理が好成績
49	岩橋哲彦	1977	サトイモに寄生するネグサレセンチュウの防除.	今月の農業	21巻8:106-109.	被害発生の実態、種いも薬液浸漬処理、粒剤の土壤混和
50	岩橋哲彦・川越仁	1977	サトイモに寄生するネグサレセンチュウの防除について 第2報 粒剤による土壤混和処理.	九病虫研会報(九州病虫研究会年報)	23:148-149.	CG-223、エチルチオアト、ダイアジノン、カルタップ、バイデート、アセフエート、DCIP粒剤ともに効果不十分
51	岩切 徹・中原美智男・甲斐和昭・小野 忠・石橋信義・近藤栄造	1977	除草剤連用シュウミカン園土壌の生物相について.	土肥誌(日本土壌肥料学雑誌)	48(7/8):329-331.	線虫については総個体数は顕著な差がないが、種の多様性は低下。ミカンネセンチュウ、Aphelenchoididae科、Cephalobidae科等が多くなる。
52	角谷直人・外口允孝・福留信明	1977	タバコのジャワネコブ線虫抵抗性に関する遺伝的研究. I. 自在在来沖縄12の抵抗性の遺伝について.	育種(育種学雑誌)	27(別2):234-235.	講要
53	梶本 明・楠本茂樹・中原浩二	1977	甘しよ「ミナミユタカ」の地域適応性と施肥反応について.	九州農業研究	39:41-42.	ネグサレセンチュウによると思われる著しい減収例があった
54	要 司	1977	イチゴのすくみ症の発生原因に関する知見.	植物防疫	31(4):151-154.	症状と発生消長、原因について(土壤病原菌、線虫、ウイルス、育苗方法及び施肥の影響). 原因は単一でないとする
55	加藤龍一・本多巳紀夫	1977	激害型マツの枯損とその防除体制. 愛知県豊橋市の場合.	林業技術	422:16-20.	被害の経緯、環境、激害型枯損への移行、防除事業の実施と効果等
56	加藤龍一・奥平虎雄	1977	愛知県におけるマツノザイセンチュウの被害経緯に関する調査.	日林中支論(日本林学会中部支部講演集)要集	25回:159-164.	昭和45~50年度の被害林の拡大.
57	加藤龍一・奥平虎雄	1977	愛知県におけるマツノザイセンチュウの被害経緯に関する調査.	愛知林試報(愛知県林業試験場報告)	13:128-133.	昭和45年頃から顕著になる。被害は年約4kmくらいで拡大、枯損と環境の関係を含む。
58	川井一之	1977	連作障害と合理的輪作技術の再評価:地域農業システム論[5].	農及園(農業および園芸)	52(7):843-846.	忌地問題・連作障害対策としての線虫防除を含む。産地移動の原因として線虫をあげる(ダイコン、カブ、カンラン、サントウナ、スイカ、ニンジン、ゴボウ、イチゴ、トロアオイ)
59	川崎 勉	1977	世界の珍草寄木:植物にみる生命の神秘.	内田老鶴園新社、東京	1+4+4+199+3+13pp. . 1pl.	対抗植物、捕食性糸状菌と土壤線虫p. 106-112.
60	萱野博久	1977	昭和52年度松くい虫防除事業について.	林業技術	422:7-10.	実施準備、実施状況、影響調査等.
61	萱野博久	1977	松くい虫防除の新体制:松くい虫防除特別処置法の制定.	林業技術	422:8-11.	法の目的、基本方針、実施計画等
62	萱野博久	1977	松くい虫の新しい防除体制.	森林計画研会報(森林計画研究会報)	226:1-5.	松くい虫防除特別処置法の概要。林業と薬剤 61:1-5にも同じ著者による同様記事。
63	氮賀沢和男	1977	ジャガイモシストセンチュウの生態・被害・防除.		21巻12:17-20.	発生消長、分布の広がり、被害、防除
64	氮賀沢和男・堤正明・福垣春郎・山田英一・高倉重義・坪井和男・黒沢 強・井上	1977	北海道斜網東部地区におけるジャガイモシストセンチュウの発生.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:82-83.	網走支庁清里町、斜里町、小清水町に新たに発生した状況
65	岸 洋一	1977	マツノザイセンチュウ分布北限地域におけるマツ枯損時期とマツノマダラカミキリ発生.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	88回:89.	講要
66	岸 洋一	1977	マツノザイセンチュウ分布北限地域におけるマツ枯損時期とマツノマダラカミキリ発生.	日林論(日本林学会大会論文集)	88回:291-292.	茨城県。月別のマツ枯損とマツノマダラカミキリ発生数
67	鬼頭研二	1977	日本産Chromadora属(海産自由生活性線虫)、特に、 <i>Ch. nudicapitata</i> の形態的変異について.	動雑(動物学雑誌)	86(4):531.	講要
68	鬼頭研二	1977	Studies on the free-living nematodes from Hokkaido. II.	動物分類誌(動物分類学会誌)	13:17-23.	未見
69	清原友也	1977	マツノザイセンチュウ系統間の増殖および病原性の比較.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:241-242.	9個体群を比較。地域間で差がありそう。
70	清原友也・橋本平一・大庭喜八郎・西村慶二	1977	アカマツおよびクロマツ精英樹母樹別系統に対するマツノザイセンチュウ4系統の病原性.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	88回:104.	講要
71	清原友也・橋本平一・大庭喜八郎・西村慶二	1977	アカマツおよびクロマツ精英樹母樹別系統に対するマツノザイセンチュウ4系統の病原性.	日林論(日本林学会大会論文集)	88回:329-330.	線虫系統間にアカマツ精英樹の系統に対する病原性に顕著な差異
72	清原友也・鈴木和夫	1977	クロマツ樹体内におけるマツノザイセンチュウの季節的消長(II).	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:243-244.	線虫密度・令構成・マツノマダラカミキリ保持線虫数を調査.
73	小林義明	1977	ネグサレセンチュウによるイチゴの急性的被害.	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	19:140.	講要。定植前の線虫数と収穫末期の被害度。生育中灌水の防除効果
74	小林義明	1977	キクウの切花生産をめぐる諸問題(11)キクウの主要害虫と防除対策.	農及園(農業および園芸)	52(5):698-702.	線虫(ネグサレ、ハガレセンチュウ)の生態、被害、防除を含む。
75	小林義明	1977	園芸作物施設栽培における高温を利用したネコブセンチュウの防除.	今月の農業	21巻12:21-26.	灌水処理および密閉ハウスの灌水処理、密閉ハウス・マルチによる防除、地温の上昇に与する要因、殺線虫のメカニズム、高温・灌水処理の可能性と問題点。
76	小林義明・深沢永光	1977	園芸作物施設栽培における高温処理によるネコブセンチュウの防除.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	24:137-138.	深さ30cmでは線虫減少はみられず(処理34日)
77	小林義明・杉山朝一	1977	田植機栽培におけるイネシシガレセンチュウの増殖と伝播.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:74-77.	育苗期における線虫の浸入・増殖(箱育苗で両方とも高率)、本田期における線虫の伝播(稚苗機械移植は成苗手植に比べて多).
78	小林義明・杉山朝一	1977	田植機栽培におけるイネシシガレセンチュウの伝播.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:38.	講要
79	小玉孝司・福井俊男・芳岡昭夫	1977	イチゴ萎黄病の薬剤防除について.	奈良農試研報(奈良県農業試験場研究報告)	8:57-65.	線虫が存在しなくてもD-Dが効果。病原菌(Fusarium)に対する効果ではなく、副次的影響。
80	古賀成司	1977	水利用による土壤線虫防除に関する試験 第3報 有機物投入とたん水処理に伴う微生物相の変動について.	九州農業研究	39:84-85.	細菌・放線菌・糸状菌数を調査.
81	古賀成司	1977	土壤線虫の耕種防除法に関する研究 第4報 有機物施用、土壌水分および地温が線虫密度に及ぼす影響.	九病虫研会報(九州病虫研究会年報)	23:145-148.	ネコブセンチュウ。灌水状態で乾燥誘発施用時に25℃以上の地温があると定した防除効果。本報から第1報に比べてシシガレ名が変わった(当資料中では元のままとした)
82	古賀成司	1977	灌水処理と有機物投入によるネコブセンチュウの防除. In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編(農林省農林水産技術会議事務局).	農林統計協会、東京	p.326-327.	処理後2日からは防除効果低下.

81	鯉淵 登	1977	野菜との組合せによる落花生栽培。 In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術 編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	p. 232- 233.	輪作によるキタネコブセンチュウ防除を含む。
82	近藤栄造・石橋 信義	1977	Seasonal occurrence, dissemination, and survival of the strawberry bud nematode, <i>Nothotylenchus acris</i> .	日線虫研誌(日本線虫 研究会誌)	7:39-44.	イチゴメセンチュウの発生消長、伝播様式、ステージ別 生存比較
83	近藤栄造・石橋 信義	1977	ピンセンチュウ第4期幼虫の不良環境耐性。	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	21回:40.	講要
84	河野 哲・藤本 清・山口福男	1977	イネシシガレセンチュウの種子消毒に伴う薬 剤成分の消失と防除効果、とくにMPP剤と MPP剤について。	近畿中国農業研究	54:19-22.	反復使用による有効成分の減少と防除効果減退の関 係。
85	小菅鋭男・飯島 勉・井田昭典	1977	トマロ半量萎ちよう病抵抗性育種に関する試 験: "NFVR" 固定系および"VR"固定系の 育成過程。	東京農試研報(東京都 農業試験場研究報告)	10:3-29.	サツマイモネコブセンチュウに抵抗性
86	小菅喜久弥	1977	モモの花落ちおよび枝枯れ障害の発生につ いて。	関東病虫研報(関東東 山病虫研究会年報)	24:75.	ザイセンチュウを検出。
87	湖山利篤・桐井 照夫	1977	稲苗箱におけるイネシシガレセンチュウの発 生消長とダイアジン類剤施用の効果。	関東病虫研報(関東東 山病虫研究会年報)	24:135- 138.	箱中で羽外に多数の線虫が游出。
88	窪 吉永	1977	野菜の輪作栽培・実際家の野菜づくり。	農山漁村文化協会、東 京	231 PP.	実用書。所々で線虫にふれる。
89	黒島 忠	1977	幅広い虫被害激害地域の更新技術につい て。	森林防疫	26(2)21- 24.	背景と問題点、考え方、検討事項等
90	真宮靖治	1977	フィリピンにおける森林病害虫問題の現状。	森林防疫	26(12) 191-195.	キクイムシからParasitohabditis sp., Cryptaphelinchus sp.を発見。
91	真宮靖治・古川 誠	1977	Fecundity and reproductive rate of <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> .	日線虫研誌(日本線虫 研究会誌)	7:6-9.	マツノザイセンチュウの産卵活動と増殖、産卵数及びそ の関数、それから求めた個体数増加の理論的曲線
92	真宮靖治・田村 弘忠	1977	マツノザイセンチュウの接種をうけたアカマ ツ苗の蒸散量の変化。	日林誌(日本林学会 誌)	59(2)59- 63.	線虫接種後20-35日日から減少、その5-10日後に停 止。
93	真下洋二・久保 田篤男	1977	コガネムシ類に対するDBCP剤の防除効果 マツ。	関東病虫研報(関東東 山病虫研究会年報)	24:109.	サツマイモの生育期処理、幼虫に対し高い防除効果。
94	松原 功	1977	マツノザイセンチュウの分布域の拡大と温 度条件(1)MB指数と平均気温。	千葉県試報(千葉県林 業試験場報告)	11:47-49.	両者の関係と千葉県における分布を論ず。
95	松原 功	1977	マツノザイセンチュウ抵抗性の探索(1)基 礎試験。	千葉県試報(千葉県林 業試験場報告)	11:53-54.	Botrytis cinereaによる線虫の培養
96	松井弘之・中川 昌一	1977	ネコブセンチュウによるゴール形成に関する 研究(第3報)ゴール肥大に伴う内生植物ホ ルモンの活性変化と生長調節物質によるホ ウセンカマのゴール肥大について。	園学雑(園芸学雑誌)	45(4)342- 348.	オーキシン、サイトカイニン、エチレンの活性が正常組 織より高い、各種の植物生長調節物質のゴール処理と その効果。
97	松浦邦昭・藤下 章男	1977	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究 (VI)アカマツ大径木樹幹中における合成色 素の上向移動パターンについて。	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	88回:90	講要
98	松浦邦昭・藤下 章男	1977	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究 (VII)ポット植栽クロマツ苗木試験におけ る薬剤の化学構造と生物効果の関係につ いての2,3の知見。	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	88回:90	講要
98.1	松浦邦昭・藤下 章男	1977	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究 (VII)ポット植栽クロマツ苗木試験におけ る薬剤の化学構造と生物効果の関係につ いての2,3の知見。	日林論(日本林学会大 会論文集)	88回:297- 298.	樹幹注入ではスルフィニルフェニル基を有するチオリン 酸エステルが効果
99	御子柴公人	1977	畑作物の立地:大豆。 In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術 編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 18-21.	生産阻害要因のーとしてダイズシストセンチュウ(関東 以北)、ネコブセンチュウ(九州と関東の一部)をあげ る。
100	皆川 望	1977	ベルマン法および二層遠沈浮遊法による線 虫分離効率。	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	21回:44.	講要
101	峰尾一彦	1977	マツの材線虫病の薬剤土壌処理による予 備的防除試験。	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	88回:91	講要
101	峰尾一彦	1977	マツの材線虫病の薬剤土壌処理による予 備的防除試験。	日林論(日本林学会大 会論文集)	88回:299- 300.	テラクAP、ダイズシスト剤の施用量を検討
102	三井 康	1977	ネグサレセンチュウの増殖に及ぼすカルス 培地組成の比較。	日線虫研誌(日本線虫 研究会誌)	7:28-32.	3種の培地のアルファルファカルス上で8種のネグサ レセンチュウ、ニセネグサレ、イモグサレセンチュウの増 殖、培地間の比較及び添加物の影響。
103	三井 康	1977	作物別による線虫被害。 In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術 編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 327- 325.	作物別の有害線虫とその被害、防除法。
104	宮崎 信・尾田勝 夫・山口 彰	1977	マツノザイセンチュウの不飽和脂肪酸に対 する行動。	木材誌(木材学会誌)	23(5)255- 261.	palmitoleic acid, oleic acid, linoleic acidは線虫の行動を 刺激
105	宮崎 信・尾田勝 夫・山口 彰	1977	マツノマダラカミキリ蟻室における脂肪酸の 蓄積。	木材誌(木材学会誌)	23(6)307- 311.	蟻室とそれ以外の材の比較。Palmitoleic acidは蟻室の み、oleic acid, linoleic acidは蟻室に多。これらはカミキ リ幼虫の排泄物に存在。
106	百田洋二・大島 康臣・清水 啓	1977	ムギシストセンチュウの形態について。	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	21回:42.	講要
107	森本 桂・真宮靖 治	1977	マツ属の材線虫病とその防除。	わかりやすい林業研究 解説シリーズ	58. 65pp.	技術者向け解説書。まつくい虫の被害、マツノザイセ ンチュウの発見、マツノザイセンチュウによるマツの自然 感染と発病の経過、マツノザイセンチュウの生活環・分 布・発病と環境条件。マツノマダラカミキリとは、生活 史、個体数変動要因、防除法。
108	森下徳衛	1977	ネコブセンチュウ退治はハブソウで。	農業富民	49巻12: 75-77.	後にキタネコブセンチュウのみに有効と判明(No. 79- 98を参照)。
109	村本正博	1977	鹿児島県におけるマツクイムシの防除試験 について。	農業研究	23巻3:10- 13.	ダイズシストの土壌処理、同剤、テラクAP剤の樹幹注 入
110	中込輝雄・加藤 喜重郎	1977	キク品種とハガレセンチュウの被害につ いて。	愛知農試研報(愛知 県農業総合試験場研 究報告) B	9:86-91.	発生消長、品種間差異(63品種中14が被害少)。
111	中込輝雄・加藤 喜重郎	1977	キク品種とハガレセンチュウの被害につ いて。	関西病虫研報(関西病 虫研究会報)	19:139.	講要
112	中園和年	1977	両性生殖系統ニセフクロセンチュウ雌成虫 の土壌中における雄成虫誘引数。	応動昆虫(日本応用動物 昆虫学会誌)	21(1)49- 50.	1雌当たり最高15頭の雄を誘引。
113	中園和年	1977	Sexual attraction of <i>Rotylenchulus</i> <i>reniformis</i> females and some differences in the attractiveness between amphimictic and parthenogenetic populations (Nematoda: Nacobidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	12(2)154- 161.	ニセフクロセンチュウの性誘引を両性生殖、単為生殖 それぞれ3個体群間で比較。
114	中里肇二	1977	福心結核虫類似症の発生について。	今月の農業	21巻7:64- 66.	症状、発生実態、発生原因、防除。
115	中里肇二・須永 文雄・西沢 務	1977	イネシシガレセンチュウ病類似症状の発生。	関東病虫研報(関東東 山病虫研究会年報)	24:131- 132.	white tipと外見上区別できないが、線虫は検出されず。
116	西村慶二・大庭 善八郎・立仙雄 彦・松永健一郎・ 今村政秀	1977	マツノザイセンチュウ抵抗性育種のための 人工接種方法の開発。	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	30:61-62.	7種の比較。ドリル接種法、筆塗布法、先端割り注入法 (2年生主幹)が良い。
117	西沢 務	1977	野菜のセンチュウと対策。	今月の農業	21巻4: 132-135.	未見
118	西沢 務・岡本好 一・福田春郎・氣 賀沢和男	1977	ジャガイモシストセンチュウのパンタイプ判 別国際方式の検討。	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	21回:43.	講要
119	小芦健良	1977	鹿児島県におけるイネ心結核虫の発生につ いて。第1報 品種ならびに育苗との関係。	九州病虫研報(九州病 害虫研究会報)	23:28-30.	農林18号、センダイ、ヒヨクモチ等5品種は抵抗性。箱 育苗は水苗代より高い発病率。
120	小芦健良・高倉 求・野口純隆	1977	湛水によるネコブセンチュウの防除につ いて。	九州農業研究	39:82-83.	60日以上の湛水で実効果。ビニル被覆・有機物添 加等の併用の効果を検討。
121	小河誠司	1977	マツノザイセンチュウに関する研究(5)高標 高地生育のマツ樹体内における材線虫の 生存期間と材線虫病治療試験。	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	30:235- 236.	高標高地の天然アカマツは枯死の可能性は低い。テラ クAPが防除に効果。
122	小川 勉・塚本敏 嗣	1977	イチゴ根腐萎ちよう病防止に関する研究 第 1報 土壌消毒効果。	九州農業研究	39:248- 249.	クワロピクリン処理。クルマネグサレセンチュウへの効 果を含む。
123	岡部 融	1977	新しい薬用作業機。 In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術 編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 170- 171.	四輪トラクタ用土壌消毒機を含む。

124	岡田利承	1977	ダイズシストセンチュウ(Heterodera glycines Ichinohe)の孵化要因に関する研究.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	6(特別号)1-52.	著者の1966年以降の研究のまとめ. シストの貯蔵と孵化能力の消長、諸環境要因の影響、寄主植物由来の孵化促進物質とその作用、合成化合物とその作用、線虫由来の孵化促進物質とその作用、シスト内の孵化抑制物質とその作用、孵化幼虫の行動と活性物質の影響.
125	岡田利承	1977	ダイズシストセンチュウのふ化行動.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:40.	講要
126	岡本好一・三井康	1977	サツマイモネコブセンチュウの寄生性に対する温度の影響.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:10-14.	トマト、サツマイモ、タバコの感受性及び抵抗性品種に対する線虫寄生を、異なる温度条件で試験. 高温条件下では抵抗性品種にも寄生.
127	岡本好一・三井康	1977	サツマイモネコブセンチュウの抵抗性品種における増殖と温度の関係.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:47.	講要
128	小椋金一	1977	千葉県生都市における松くい虫防除事業について.	森林防疫	26(1)13-15.	被害の現況、防除方法、効果、問題点、防除体制.
129	小野敏志・丸峯正吉・山川理・広嶋昭太・坂本敏・井手義人	1977	かんしょ新品種"ミナミユタカ"について.	九州農試報告(九州農業試験場報告)	19(2)133-150.	育成過程及び特性. ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ抵抗性強
130	大羽克明・藤田祐輔	1977	各種殺線虫剤に対する数種ネグサレセンチュウの感受性について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:39.	講要
131	大羽克明・藤田祐輔・妹背醇・難波健吉	1977	デイトラベツクスの土壌内動向 I. 圃場における処理後の残留薬物の経時変化.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:21-27.	メチルイソチオシアネートは1-3週間の間に急速に減少. 1, 3-Dは処理1週間後までに大半が消失、その後の減少は緩やか. ガス抜き効果も調査.
132	大庭喜八郎・戸田忠雄・西村慶二・岩下礼治・松永健一郎	1977	マツノザイセンチュウの人工接種による系統別マツ苗の生存率.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:67-68.	系統により接種後の生存率に大きな差.
133	大庭喜八郎・西村慶二・戸田忠雄・立仙雄彦	1977	マツノザイセンチュウの人工接種による母樹別マツの生存率.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:69-70.	樹種間、アカマツの産地別集団間の平均生存率に1%水準の有意差.
134	大庭喜八郎・西村慶二・戸田忠雄・山手広太・大山浪雄	1977	川内署まつくい虫抵抗性候補木(クロマツ)のつぎ木苗の人工接種検定.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:71-72.	若干の抵抗性候補個体を選抜.
135	大庭真雄	1977	作付体系による土壌線虫の防除法. In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 328-329.	作物の組合せと有害線虫個体数の変化を略述
136	大林延夫	1977	マリーゴールドを利用した線虫の防除: その殺線虫成分と総合防除への利用.	化学と生物	15(5)297-299.	一般向け解説
137	大橋雄司	1977	タバコ属植物のジャワネコブセンチュウ抵抗性.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:1-5.	44種58系統を供試. 高度抵抗性、中程度抵抗性、罹病性の3群に分類.
138	大橋雄司	1977	タバコ属植物のサツマイモネコブセンチュウ抵抗性.	青雑(青雑学雑誌)	27(3)193-200.	63種85系統を供試. 27, 35°Cで実験. 高度抵抗性(NG95, YB4号)の抵抗性は高温下で低下、中程度抵抗性群は安定していた.
139	大川 清	1977	バラのネマトーダとその防除(1).	農と園(農業および園芸)	52(1)66-70.	線虫相、被害、防除対策(抵抗性台木)
140	大川 清	1977	バラのネマトーダとその防除(2).	農と園(農業および園芸)	52(2)323-326.	防除対策(植付け前の苗木の処理: 温湯浸漬・薬液浸漬、土壌処理、生育中の処理: 土壌灌注・茎葉散布)
141	大久保隆弘	1977	畑地かんがい施設導入に伴う作付体系の改善. In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	p. 98-99.	畑水稲は連作3-4年目からイネシストセンチュウによる被害が顕著.
142	大崎憲生・飯田定彦・永吉昭雄	1977	植物の根の傷口物質のサツマイモネコブセンチュウに対する忌避作用.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:70-73.	トマト、ニンジン、マリーゴールド、ダイコン、ラッカセイ、チョウセンアサガオ、ピーマン、タバコの切り取った根の先端部に対して最初の0-3時間は線虫の幼虫は忌避.
143	大崎憲生・飯田定彦・永吉昭雄	1977	植物の根の傷口物質のサツマイモネコブセンチュウに対する忌避作用.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:47.	講要
144	佐保春芳・滝沢幸雄・庄司次男・五十嵐正俊	1977	東北地方における松の材線虫病.	青森林友	346:29-33.	マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの分布拡大、東北地方の病徴の特徴
145	佐保春芳・滝沢幸雄・庄司次男・五十嵐正俊	1977	東北地方における松の材線虫病.	林業技術研究集録(青森県林業局)	1976:55-57.	生態、分布、症状、接種試験、今後の見通し.
146	三枝敏郎・相原孝雄	1977	ユリ球根養成圃場におけるネグサレセンチュウの生態と被害回避法.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:58-65.	関東地方及び新潟県の調査. キタ、クルミネグサレセンチュウが主. 栽培様式と線虫寄生、季節的発生消長、令構成の変化、輪作による線虫密度変化、温湯浸漬試験(47°C5分がよい)
147	三枝敏郎・相原孝雄	1977	アカカノコリ球根養成ほ場でネグサレ線虫とその1, 2の被害回避策	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:39.	講要
148	三枝敏郎・相原孝雄・中臣康範	1977	アイリスセンチュウDitylenchus destructor Thorneの形態及び生態と球根アイリスの温湯浸漬による防除.	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	14:1-16.	発生の現状、線虫の形態、病徴、線虫の増殖と被害、寄生性ならびに寄主植物、圃場における季節的消長、温湯浸漬による防除.
149	齊藤一三・栗原毅・大島智夫・林滋生	1977	ブユ幼虫寄生線虫の生態.	衛動(衛生動物)	28(1)14.	講要
150	佐野善一	1977	サツマイモネコブセンチュウの卵および幼虫に対するDBCPCとEDBの効力.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	23:150-152.	幼虫に対するLC-50は前者は25ppm、後者は39ppm. 殺卵力はEDBがDBCPCに大きくまさる.
151	佐野善一	1977	サツマイモネコブセンチュウの個体数・活性の季節的変動 I. 生幼虫数、生幼虫率、活動力の季節的変動.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:46.	講要
152	佐藤桃子・杉山浩・江森 京	1977	カイコに対するEDBの毒性について.	日蚕開東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	28:40.	講要
153	清水 啓	1977	イネシストセンチュウ(Heterodera elachista)の畑水稲圃場における発生消長と分布.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:49-57.	1作期に4回の幼虫発生時の山. 発育零点は10.6°C、一世代講要有効温度は445日度. 他に根圏内の幼虫とシストの分布.
154	清水 啓・大島康臣・百田洋二	1977	ムギシストセンチュウの寄生型について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:41.	講要
155	下川利之	1977	林業苗畑の根ぐされ病、被害解析に関する研究.	岡山林試研報(岡山県林業試験場報告)	3:1-20.	謄写. キタネグサレセンチュウの寄生程度別被害(スギ、ヒノキ)、リゾクニア、フザリウム菌との複合被害解析.
156	新須利則・小川義雄・植口泰三	1977	イチゴ根腐れ萎ちよう症に関する研究: 予報: 現地調査から得られた発生要因に関する2, 3の知見.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	23:43-47.	土壌病菌、ネグサレセンチュウが関与している可能性大
157	穴田幸男・立花親二・大島康臣	1977	明治神宮における樹木の寄生線虫相.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:44.	講要
158	周藤靖雄	1977	島根県の林業苗畑における土壌線虫の被害実態調査(II).	島根林試研報(島根県林業試験場研究報告)	27:1-10.	スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツの線虫相、地域的分布、生息密度、被害.
159	周藤靖雄・原 幾雄・山田栄一	1977	苗木枯病および土壌線虫防除のための土壌消毒試験: カーム剤およびクロロピクリン剤の防除効果の再確認. カーム剤の灌注法による防除効果の検討.	森林防疫	26(8)118-124.	スギ、ヒノキのネグサレセンチュウ防除. 苗木の生育にある程度影響.
160	推名清治	1977	高度輪作露地野菜畑における土壌改良効果について.	神奈川園試研報(神奈川県園芸試験場研究報告)	24:50-56.	ダイコンのキタネグサレセンチュウに対する効果を含む.
161	砂田善与志	1977	ダイズシストセンチュウ抵抗性大豆品種. In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 332-333.	育成された抵抗性品種、適用条件と留意事項
162	鈴木和夫・伊藤進一郎	1977	マツノザイセンチュウ接種後のマツの材成分変化.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:237-238.	sucrose, fructose, glucose, inositolの比率の変化.
163	高橋和博・堀田隆	1977	薬剤の樹幹注入法による材線虫病防除試験(I) 生立木に対する治療効果.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:231-232.	テラクアP、スミチオンが有効.

164	高橋昌隆	1977	樹幹注入によるマツノザイセンチュウの防除試験.	徳島林総技研報(徳島県林業総合技術センター報告)	15:35-46.	「最も防除効果の高いのはキルゾールP10とダイズトン粒剤」
165	高井康雄・北沢右三・梁昌述・和田秀徳	1977	合成農薬の土壌生物相に与える影響について(第1報)現地調査.	土肥誌(日本土壌肥科学雑誌)	48(3):74-78.	塩素系殺虫剤(アルドリ、BHC、DDT)、殺菌剤、線虫には影響を認めず.
166	高瀬 巖・相沢徳尚・川崎俊郎・松浦邦昭・藤下章男・松原 功	1977	薬剤によるマツノザイセンチュウ防除の環境におよぼす影響.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	88回:93	講演
166	高瀬 巖・相沢徳尚・川崎俊郎・松浦邦昭・藤下章男・松原 功	1977	薬剤によるマツノザイセンチュウ防除の環境におよぼす影響.	日林論(日本林学会大会論文集)	88回:305-306.	ダイズトン、テラクアPの土壌・農業用水・サワガニ・クリ・フキ・ワラビへの残留.
167	高杉光雄・戸田久之・高杉百合子・正宗 直・氣賀沢和男	1977	アスパラガス酸還元化合物における構造と殺線虫活性の関連性.	北海道農試研報(北海道農業試験場研究報告)	118:105-111.	33種の化合物を用い、ダイズトンセンチュウ幼虫に対する効果を試験.
168	田中 清	1977	野菜の施設栽培における害虫の生態と防除.	農及園(農業および園芸)	52(1):211-216.	線虫類の発生、分布、防除を含む.
169	戸田忠雄・立仙雄彦・山本 久	1977	つぎ木苗によるマツノザイセンチュウ抵抗性の検定ならびに切枝の水ざしによる検定.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:65-66.	接木苗の検定は接木穂部分に接種. 切枝は検定に不適当.
170	樋田幸夫・伊藤喜隆	1977	桑園のネコブセンチュウの種類について.	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	47:16.	講演
171	樋田幸夫・守山弘	1977	マリゴールドによる桑寄生線虫の防除 1. マリゴールド抽出物の殺線虫効果.	蚕糸研究	101:113-119.	メキシカン、フレンチ種からの抽出物のネコブ、オオガタハリセンチュウに対する効果.
172	富来 務	1977	イネ心枯線虫病の防除法.	農業研究	24巻2:14-19.	各種薬剤の種子粉衣、浸漬、播種床散布効果.
173	堤 正明	1977	ジャガイモシストセンチュウのふ化におよぼす堆肥培のジャガイモ根浸出液の影響.	応動昆虫大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:42.	講演
174	上野吉雄・彌富喜三・岡留恒丸	1977	植物の根から浸出する殺線虫成分の検察.	応動昆虫大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:45.	講演
175	八重樫隆志	1977	Hemicriconemoides属のセンチュウ、H. brachyurusについて.	明大農研報(明治大学農学部研究報告)	38:43-53.	シバから検出. 形態、計測値、産卵、卵の発育.
176	八木田秀幸	1977	クワナガハリセンチュウ(Longidorus martine)の生活史ならびに生態に関する影響 III. クワ輪紋ウイルスの伝染源植物ならびに線虫による伝染の機能.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	7:15-20.	MRSVおよび線虫の寄主植物、線虫によるMRSV伝播性の保持、線虫の接種頭数並びに年齢別の伝染試験.
177	山田英一	1977	ジャガイモシストセンチュウの技術対策 In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編(農林省農林水産技術会議事務局編)	農林統計協会、東京	P. 330-331.	レース、発生消長、防除(輪作、殺線虫剤処理)
178	山田英一・高桑亮・高倉重義	1977	ジャガイモシストセンチュウに対する極超短波照射の効果.	応動昆虫大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:43.	講演
179	山口福男・藤本清	1977	スミチオンによるイネシナガレセンチュウの防除.	農業春秋	34:20-21.	反復使用による有効成分の消失過程.
180	山口喜徳郎	1977	キクの花生産における諸問題(15)暖地における露地生産.	農及園(農業および園芸)	52(6):827-831.	特に重要な病害虫として葉枯線虫をあげる.
181	山本敬夫・近藤鶴彦	1977	山野の植物寄生線虫 第1報 線虫の種類と寄主植物.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	19:141.	講演. 風レベルの同定. ネコブ、ラセンセンチュウが多.
182	山本義忠・佐藤昌良	1977	ジャガイモYウイルス抵抗性黄色種F108およびF109の育成.	磐田たばこ試験場報告	9:31-42.	育成過程及び特性検定結果(サツマイモネコブセンチュウ抵抗性)
183	山手広太・大久保哲也	1977	苗木あたりのマツノザイセンチュウの接種点数と枯損の関係.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	30:63-64.	接種点数を多くした方が枯損率高い. クロマツ、リギテータマツで比較.
184	吉村大郎・池田 弘・古田桂輔	1977	福岡県における主要水稲品種のイネ心枯線虫病に対する発病の差異について.	九州病虫研報(九州病虫害研究会報)	23:25-27.	供試17品種は全部感受性
185	吉武貞敏・大場文征	1977	イチゴの根腐れ萎ちよう病発生防止に関する研究 第1報. クルミネグサレセンチュウの防除効果について.	九州農業研究	39:250.	DBCP処理剤. 発病防止に一応の効果があった.
186	湯原 巖	1977	クローバーシストセンチュウHeteroda trifoliiの寄生によるクローバーの被害並びに品種間差違.	応動昆虫大会講演要旨(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	21回:41.	講演
187	Anon.	1977	線虫剤DBCPと不妊症.	自然	32巻12:25.	アメリカにおける製造中止の経緯(New Scientist誌77年9月1日号の記事の要約)
188	線虫学用語委員会(縮)	1977	線虫学関連学術用語集.	日本線虫研究会、東京	178 PP.	用語(英一和、和一英)、日本産植物寄生性線虫およびその他の線虫の学名・和名、線虫による植物の症状・病名、殺線虫剤、線虫の形態図.
189	林業試験場(編)	1977	マツ類材線虫の防除に関する研究.	研究成果(農林水産技術会議事務局編)	96:1-156.	「まつくい虫によるマツ類の枯損防止に関する研究」(昭和43-46年度実施農林省特別研究)のまとめ. p. 1-61に研究の集約. p. 6-14に研究発表された文献目録(272件). 内容は以下の通り(かっこ内は分担執筆者名). 第1章 マツノザイセンチュウの生態及び寄生性: 地理的分布(庄司次男・真宮靖治・紺谷修治・寺下隆喜代・橋本平一・小林亨夫); 生活史と行動(真宮靖治・小林亨夫・佐々木克彦・田村弘忠・橋本平一・峰尾一彦・堂園安生・田中 潔・宮崎 信・寺下隆喜代); マツノザイセンチュウの寄生性及び萎凋枯損機構(真宮靖治・寺下隆喜代・橋本平一); マツノザイセンチュウの寄生性発現に関する環境条件(橋本平一・川畑克己・寺下隆喜代・清原友也・大山浪雄・峰尾一彦・田中 潔). 第2章 媒介昆虫マツノマダラカミキリの生理・生態: マツノマダラカミキリの生活史、マツノマダラカミキリの材線虫伝播様式(遠田暢男・細田隆治・越智鬼志夫・井戸規雄・五十嵐 豊・峰尾一彦・森本 桂・野淵 輝); マツノマダラカミキリの行動、マツノマダラカミキリの密度推定法、マツノマダラカミキリ個体数変動の要因の解析. 第3章 マツノザイセンチュウによるマツ類の枯損防止: マツ立木に対する予防散布(大久保良治・川畑克己); マツ被害木に対する駆除散布(井戸規雄・川畑克己・田畑勝洋・松浦邦昭・田中 潔・大山浪雄・川崎俊郎・紺谷修治・橋本平一); 防除薬剤の残留及び毒性. 防除薬剤の野生鳥獣におよぼす影響(鈴木一生・北原英治・阿部 学); 抵抗性選抜育種及び抵抗性要因の解析(大庭喜八郎・戸田忠雄・大山浪雄・峰尾一彦)
190	農業技術研究所(編)	1977	連作障害要因に関する研究.	研究成果(農林水産技術会議事務局編)	98:1-204.	上記標題の農林省特別研究(昭和44-48年)のまとめ. 作物別に土壌微生物・線虫・土壌の理化学的等を調査. 内容は以下の通り(かっこ内はとりまとめ研究員名). 研究の集約 p.1-9. 第1章 連作障害の実態調査: 畑作物(野菜を含む)の連作障害、果樹の連作障害(果樹試験津支場栽培研究室、同試栽培部第1研究室)、林木の連作障害. 第2章 普通作物の連作障害とその要因解析: イネの連作障害(農事試畑土壌肥料研究室、同試虫害第2研究室、同試作付体系第2研究室、同試同第1研究室、農技研土壌微生物研究室)、その他の作物の連作障害(農事試虫害第2研究室、農技研土壌微生物研究室). 第3章 果樹の連作障害とその要因分析: ミカンの連作障害、モモの連作障害(果樹試験栽培第1研究室)、果樹の連作障害とその要因分析. 第4章 林木の連作障害とその要因分析: 林木苗の連作障害(林試土壌肥料研究室、同試樹病研究室、同試関西支場樹病研究室、同試抽出成分研究室、同試土壌第1研究室)
191	Anon.(北海道農試畑作物作付体系第1研)	1977	大豆の連作障害回避に関する試験.	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	昭51:49-52.	ネコブセンチュウが原因.
192	Anon.(北海道農試病理昆虫分虫害第2研)	1977	ジャガイモシストセンチュウに関する研究.	北海道農試年報(北海道農業試験場年報)	昭51:72-74.	発生消長、発育・繁殖と温度、圃場内分布

193	Anon. (香川県農業指導所)	1977	マツノザイセンチュウの關係するマツ類の枯損防止に関する試験研究報告.	香川県林試研成果報(香川県農業指導所研究報告)	12: 1-74.	マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保持状況調査 p. 8-14. マツノザイセンチュウ防除薬剤試験P. 71-74.
971	松浦邦昭・藤下章男	1977	薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(VI)アカマツ大径木樹幹中における合成色素の上向移動パターンについて	日林論(日本林学会大会論文集)	88回: 293-295.	木部移動パターンを調査.
0		1978	昭和53年(1978)			
1	安部 浩・田中重義・板垣紀夫・石井卓爾	1978	島根県におけるくさび状着色米の発生事例について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 112.	講要
2	相原孝雄・湯原巖	1978	果樹ほ場の線虫相についての知見.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 111.	講要
3	Allen, M. W. & Noffsinger, E. M.	1978	A revision of the marine nematodes of the superfamily Draconematidae Filipjev, 1918 (Nematoda: Draconematida).	Univ. Calif. Publ. Zool. (University of California, Publications in Zoology)	109: 8 + 133 pp.	Draconema cephalatum Cobb, 1913及び次の3新種を日本から記録. Paradracnema floridense, Dracograllus filipjevi, D. gerlachi.
4	浅田幸男・上住泰・杉浦哲也	1978	ダイコンにおけるキスジミハムシの発生経過とその予防法について.	奈良農試研報(奈良県農業試験場研究報告)	9: 65-73.	D-D油剤処理によりハムシの害が増加. 同剤にハムシ誘引作用.
5	浅見 宏・内藤忠・小沢保治・露木敏雄・近岡一	1978	イネシガラセンチュウの水田における水線虫の発生事例.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25: 121-122.	灌漑水による伝播の顕著な例を示す.
6	浅野勝司・田中浩一・佐藤元昭・西沢 秀	1978	DCP(1,3-dichloropropene)の殺線虫作用に関する研究 第1報 土壌中における拡散型.	農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	3回:	未見. 講要.
7	近岡一郎・竹沢秀夫	1978	有機物・特に鶏ふんのキタネグサレセンチュウに対する効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25: 127.	鶏糞、牛糞、化成肥料施用時のインゲン、キャベツ、トマトの線虫密度. ポット試験.
8	千代西尾伊彦	1978	水に浮遊するイネシガラセンチュウの斜管内沈降傾向について.	応動昆中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支部会報)	20: 49-52.	80度以上の勾配でよく沈降する.
9	遠田暢男	1978	小笠原諸島におけるマツ枯損の実態調査.	森林防疫	27(5)79-81.	リュウキュウマツの被害の概況、線虫の分布、マツノマダラカミキリの線虫保持数
10	藤本 清・足立年一	1978	球根アイリスを加害するイモグサレセンチュウについて: 球根の温湯および薬剤浸漬、菌類による人工増殖.	応動昆中国支報(日本応用動物昆虫学会中国支部会報)	20: 18-27.	MEP、メソミル、CG223、ペノミル浸漬. 温湯処理では47°C20分、50°C15分で死滅. 灌水1ヵ月後には線虫検出されず. 23種の菌のうち18種で線虫増殖.
11	藤下章男	1978	静岡県におけるマツノザイセンチュウ病の被害.	日林中部支講(日本林学会中部支部講演集)	26回: 193-198.	1947-76年の被害状況. マツノマダラカミキリの脱出消長. 航空散布の効果
12	福留信明	1978	沖縄のタバコ産地で見出された植物寄生性線虫の種類.	鹿児島たばこ試報(鹿児島たばこ試験場報告)	21: 43-62.	ネコブ、ネグサレ、ラセンセンチュウ等14種を記録. タバコ品種のネコブセンチュウ寄生調査を含む.
13	二井一禎	1978	2種のザイセンチュウの個体数増加能力の比較.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 114.	講要
14	二井一禎・古野東洲	1978	マツ属のマツノザイセンチュウに対する抵抗力.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回: 83.	講要
14.1	二井一禎・古野東洲	1978	マツ属のマツノザイセンチュウに対する抵抗力.	日林論(日本林学会大会論文集)	89回: 297-299.	24種のマツを供試. 五葉松類も高い感受性.
15	我如光吉男	1978	リュウキュウマツ材木による2系統マツノザイセンチュウを用いた頭数別接種試験.	沖縄林試研報(沖縄県農業試験場研究報告)	20: 75-87.	沖縄産の線虫では枯死木は少ないが、生存木に針葉黄化・枝枯れ等の症状.
16	五味美知男	1978	イネシガラセンチュウの防除を徹底しよう.	今日の農業	22巻6: 102-106.	被害、黒点米との関係、防除、黒点米からの分離菌の検討.
17	後藤 昭	1978	九州の草地における植物寄生性線虫の分布 第1報.	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	8: 59-64.	ネコブ、ネグサレ、サヤフセンチュウ等の検出記録をまとめる.
18	後藤 昭	1978	運作障害克服への取り組み: 土壌線虫の場から.	研究のひろば(農事試験場報)	27: 7-9.	線虫の分布、連輪作と線虫密度等
19	後藤 昭	1978	野菜の運作障害と土壌センチュウ対策.	今日の農業	22巻4: 98-101.	線虫が原因の運作障害の事例、対策をまとめる.
20	萩原幸弘・後藤泰敬・河野克也・織田泰昌	1978	マツノザイセンチュウ病の発生環境: 大分県におけるMB指標からの解析.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31: 245-246.	温度との関係
21	萩谷俊一	1978	ニンジンの作型とキタネグサレセンチュウ(P. penetrans)の発生消長.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 113.	講要
22	萩谷俊一	1978	ニンジンのすづまり症: その原因と対策.	野菜園芸技術	5: 13.	キタネグサレセンチュウ、D-D、デイトラップクス、ネマホルンの施用効果
23	萩谷俊一・土岐知久	1978	アレチウリ(Sicyos angulatus L.)の台木利用に関する研究 第2報 サツマイモネコブセンチュウに対する抵抗力.	千葉農試研報(千葉県農業試験場研究報告)	19: 25-30.	線虫寄生は非常に少. 線虫密度は低下.
24	萩谷俊一・渡辺政夫・鶴沢 博	1978	ニンジンのキタネグサレセンチュウに対するデイトラップクス油剤の防除効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25: 128-129.	D-D、EDB・EDCとの比較
25	羽田三男・下川利之	1978	アカマツ精製樹のマツノザイセンチュウに対する抵抗力に関する試験.	岡山林試研報(岡山県農業試験場報告)	18: 8-11.	接種試験(不成功)、薬剤防除試験結果.
26	橋本平一・堂園安生	1978	マツノザイセンチュウの樹体内移動に伴う樹脂異常の変化.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回: 82.	講要
27	橋本網二	1978	中国の大豆作と大豆研究.	農業技術	33(10)433-437.	シストセンチュウは西部の砂質・アルカリ土地帯で発生. 線虫研究・抵抗力育種は今後の問題.
28	橋爪文次	1978	アメリカ見聞メモ.	農業春秋	36: 55-60.	殺線虫剤のスクリーニング試験の写真を含む.
29	畑田清隆・齊藤功夫・伊藤祥太・浅野 隆・加藤忠弘・角田 茂	1978	マリーゴールドに含まれる殺マツノザイセンチュウの成分検索.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 116.	講要
30	林 勇	1978	施設園芸における温湯土壌消毒法の開発試験(第1報) 温室バラ改植時における温湯土壌消毒法の実用化調査.	農及園(農業および園芸)	53(8)1051-1052.	ネコブ、ネグサレセンチュウに対する効果.
31	林 勇	1978	施設園芸における温湯土壌消毒法の開発試験(第2報) 消毒用送体の太さ埋没方法ならびに被覆資材.	農及園(農業および園芸)	53(9)1167-1168.	地温の変化からパイプの太さ、埋没間隔等を検討.
32	細田隆治・小林一三	1978	マツノマダラカミキリからの材線虫離脱経過(その2).	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	29回: 131-133.	離脱経過及び離脱率を調査.
33	細野隆次	1978	線虫Caenorhabditis elegansの形態異常突然変異体.	動雑(動物学雑誌)	87(4)344.	講要
34	細野隆次	1978	Simusoidal omovement of Caenorhabditis elegans in liquid phase.	動雑(動物学雑誌)	87(3)191-195.	野生型と突然変異型(N2)の液中での動きを発生ステージの違い、温度・化学物質の影響を調査.
35	茨木親義・大庭善八郎・西村慶二	1978	外国マツ類のつぎ木苗によるマツノザイセンチュウ抵抗力検定.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31: 63-64.	16種のマツを比較.
36	茨木親義・大庭善八郎・立仙雄彦・西村慶二・戸田忠雄・大山浪雄・高木哲夫・川	1978	マツノザイセンチュウ抵抗力候補木のみしょう苗検定.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31: 61-62.	アカマツ、クロマツの中にも生存率の高いクローンが存在.
37	茨木親義・大庭善八郎・立仙雄彦・西村慶二・戸田忠雄	1978	マツノザイセンチュウ病原性の予備検定.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31: 65-66.	育種用接種源の効力検定試験.
38	茨木親義・大庭善八郎・戸田忠雄・橋本平一・清原友也	1978	マツノザイセンチュウ23系統のクロマツ苗木に対する病原性のちがひ.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31: 211-212.	系統によるクロマツ枯損率に差を認める.
39	茨木親義・大庭善八郎・山手広次・立仙雄彦・戸田忠雄・西村慶二・松永健一郎	1978	マツノザイセンチュウ抵抗力候補木のつぎ木苗検定.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31: 59-60.	タイワンアカマツ、フクシュウマツがテーマツ相当の抵抗力. アカマツ、クロマツの中に抵抗力の強いクローンがある.
40	市村紀郎	1978	露地野菜の運作障害と地力維持: 総合助成試験の課題から.	農業技術	33(12)537-542.	研究レビュー. 線虫関係は熊本農試の成績を引用.
41	一戸 稔	1978	コショウ根腐病防除のために.	業務資料(国際協力事業団)	464, 55pp.	ブラジルのネコブセンチュウによるコショウの被害と防除. インドネシアのコショウ栽培の現状を含む.
42	井出基一郎・小宮山政人・南沢栄・有賀 武・山崎利典・伊藤昭	1978	キクノ運作障害に対するランネット水和材の土壌灌注効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25: 130.	ネグサレセンチュウ. 臭化メチルと比較.

43	移住第1業務部長(国際協力事業団)	1978	試験研究について一戸 専門家の農業技術者会議報告書。	移住研究	15(国際協力事業団業務資料No.477):117-121.	報告書の要約。ポリビアのワタ(ラッカセイまたはムクナブレタとの輪転)、セラード地帯・ブラジルのネコブセンチュウ対策(鶏糞が有効、ニンジン、レタス、コショウ)。
44	稲垣春郎	1978	Decrease of Globodera rostochiensis population by resistant potato varieties and non-host crops in green hous trials.	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	8:11-15.	抵抗性ジャガイモ品種、非寄主作物、D-D剤処理によるジャガイモセンチュウ密度の低下とそれらの組合せによる防除効果
45	稲垣春郎	1978	Research on the ecology and control of the potato cyst nematode, Globodera rostochiensis (Woll.) mulvey and Stone, occurring in Hokkaido, Japan.	Rev. Plant Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	11:119-131.	研究のまとめ。分布、侵入経路、パソタイプ、生態、生理、被害、防除。
46	稲垣春郎	1978	Apple root-knot nematode, Meloidogyne mali, its taxonomy, ecology, damage and control.	Kasetsart J. (Kasetsart Journal)	12(1)25-30.	リンゴネコブセンチュウの形態、発育、土壤中重直・水平分布、被害
47	稲生 稔・金沢京	1978	ナガイモの黒炭障害防除について。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25:131.	D-D、クロルピクリン剤施用。Trichoderma porosusに対して後者が有効
48	井上 平	1978	野菜の病害:ジャガイモ(一般)。	今日の農業	22巻4:207-209.	青枯病はネコブセンチュウ防除を充分に行えば発生を防げる。
49	石橋信義	1978	線虫の生活 (UPバイオロジー・シリーズ)。	東京大学出版会、東京	7+129 pp.	植物寄生性線虫を中心に、自活性、昆虫寄生性、脊椎動物寄生性を含む、生活史を軸とする線虫の形態、生態、生理等に関する読み物
50	石橋信義	1978	線虫類。	遺伝	32巻11:36-44.	森林の土壌動物特異の。土壌生態系の中での役割、森林土壌の線虫相の特徴、線虫採集法の問題点。
51	石橋信義・青柳美智子・近藤栄造	1978	Comparison of the gonad development between the propagative and dispersal forms of pine wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	8:28-31.	マツノザイセンチュウの分散型4期幼虫では生殖線の発育は増殖型の約半分に抑制されている。
52	石橋信義・近藤栄造	1978	家畜糞尿の土壌施用が土壌線虫相に及ぼす影響。文部省科学研究費特別研究「環境科学」研究報告集 B15-R10-203046.		p.28-33.	未見
53	石橋信義・近藤栄造	1978	果樹園および水田の土壌無脊椎動物相に及ぼす除草剤連用の影響。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回:96.	講要
54	石橋信義・村岡実・近藤栄造・山崎浩・甲斐秀昭・岩切徹・中原美智男	1978	温州みかん園における除草剤の連用が線虫・ダニ・ピムシ等に及ぼす影響。	佐賀大農業(佐賀大学農学叢報)	44:43-55.	線虫は自活種が減少、植物寄生性・捕食性線虫が増加。草生、敷きわら対照区は種多様性が高い。
55	石川元一	1978	畦畔生息土壌センチュウの水田転換畑への侵入対策。	今日の農業	22巻8:76-80.	水田跡の線虫、畦畔に生息する線虫、水田転換畑への侵入と増殖、対策
56	伊戸泰博	1978	ヤドリダニ類の害虫捕食能に関する研究。	農技研報(農業技術研究所報告)	51:1-93.	ダニによる線虫の捕食、餌としての選択性、ダニの増殖との関係を含む。
57	岩瀬 恵・片岡稔・横井 宏	1978	殺虫剤と誘引剤併用によるマツノザイセンチュウ関与のマツの枯損防止試験。	香川林指試験成果報(香川県林業指導所研究発表報告)	14:50-67.	誘引されたマツノマダラカミキリの保持線虫数調査結果を含む。]
58	岩瀬 恵・横井宏・小阪和彦	1978	マツノザイセンチュウ防除薬剤試験。	香川林指試験成果報(香川県林業指導所研究発表報告)	14:68-78.	クロマツに4種薬剤を樹幹注入、エチルチオメトンの土壌施用。
59	岩下禮治	1978	マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業。	林木の育種	107:5-8.	着手までの経緯、事業の実施方法、抵抗性品種の一般造林への適用
60	城野 晋	1978	イネシガラセンチュウとツマグロヨコバイとの同時防除。	和歌山農試研報(和歌山県農業試験場研究報告)	6:39-42.	テラクアP粒剤の育苗箱施用により可能。
61	角谷直人・外口允孝・福留信明	1978	タバコのジャワネコブ線虫抵抗性に関する遺伝学的研究 II. 沖繩とその他の沖繩を自生する系統の抵抗性遺伝子の異同について。	育種(育種学雑誌)	28(別2)74-75.	議要
62	垣江竜雄	1978	土壌消毒と減肥について。	葉たばこ研究	79:94-95.	D-D、EDB、クロルピクリン剤施用時の施肥についての注意。
63	片岡義雄・藤井嘉門・森本光次・田原 登・河村宗一郎	1978	黒点米の発生原因に関する調査。	山口農試研報(山口県農業試験場研究報告)	30:21-24.	黒点米とイネシガラセンチュウは山陽側地帯に広く分布、黒点米粒数と検出線虫数に高い相関
64	加藤喜重郎	1978	特産特殊野菜の病害虫と対策:フキ。	農業	25巻4:20-23.	キタネグサレセンチュウ防除を含む。
65	加藤龍一	1978	狭い虫防除試験:生立木に対する薬剤の樹幹注入効果。	愛知林試研報(愛知県林業試験場報告)	14:141-150.	テラキユアPの効果
66	加藤保博・佐藤清・牧 伸一・俣野修身・後藤真	1978	1, 2-Dibromo-3-Chloropropane (DBCP)の雄ラットにおける動態。	農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	3回:	未見。講要。
67	勝又広太郎	1978	野菜の連作障害。	農と園(農業および園芸)	53(10)1203-1209.	要因(線虫を含む)と対策をまとめる。
68	気賀沢和男	1978	シストセンチュウに対する薬剤の一検定法。	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	8:55-56.	シスト、幼虫に対する効果検定法
69	気賀沢和男	1978	シストセンチュウに対する薬剤の簡易検定法。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回:118.	講要
70	気賀沢和男	1978	アズキ栽培における線虫対作。	北農	45巻10:13-17.	D-D剤のダイズシストセンチュウ、キタネコブセンチュウに対する効果、施肥量の削減
71	岸 洋一	1978	茨城県下のザイセンチュウ類によるマツ枯損、特にニセマツノザイセンチュウとの関係。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回:78.	講要
71.1	岸 洋一	1978	茨城県下のザイセンチュウ類によるマツ枯損、特にニセマツノザイセンチュウとの関係。	日林論(日本林学会大会論文集)	89回:281-282.	ニセマツノザイセンチュウによる大量枯損例及び2種ザイセンチュウの県内分布。
72	岸 洋一	1978	マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリからマツ樹体内への侵入経過。	日林誌(日本林学会誌)	60(5)179-182.	野外とガラス器具内で日を追ってのカミキリからマツへの線虫の侵入を比較、高い相関関係を認める。
73	岸 洋一	1978	マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリからマツ樹体内への侵入経過。	林業と薬剤	64:5-8.	薬剤散布適期の把握のための線虫のマツ樹体内への侵入経過
74	岸 洋一	1978	マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保持数の年次変動。	森林防疫	27(5)81-82.	保持率・保持数ともに減少の傾向。
75	鬼頭研二	1978	葉場の線虫類:ホンダワラ葉上の線虫類の群集構造について。	動雑(動物学雑誌)	87(4)529.	講要
76	清原友也・鈴木和夫	1978	Nematode population growth and disease development in the wilting disease.	Eur. J. For. Path. (European Journal of Forest Pathology)	8(5/6)285-292.	マツノザイセンチュウ個体群の移動、分散、増殖と病徴の関係。個体数の樹木、季節、年による違い。
77	小林富士雄	1978	Pine bark beetle problem in Japan, referring to the discovery of the pine wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus (Mamiya & Kiyohara).	Anz. Schdigskde. Pflanzenschutz, Umweltschutz (Anzeiger für Schadlingskunde Pflanzenschutz).	51(5)76-79.	研究史、材線虫の発見、生態、防除。
78	小林一三・細田隆治	1978	マツノマダラカミキリの保持線虫数調査法に関する検討。	日林誌(日本林学会誌)	60(5)191-192.	ベルマン法を用いる場合の前処理の比較。乳鉢によるすりつぶし法が最も抽出率が低い。
79	小林一三・細田隆治	1978	マツノマダラカミキリを生かしたまま保持線虫数を推定する方法。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回:83.	講要
79.1	小林一三・細田隆治	1978	マツノマダラカミキリを生かしたまま保持線虫数を推定する方法。	日林論(日本林学会大会論文集)	89回:301-302.	体表の付着線虫数からの推定法を検討。
80	小玉孝司	1978	太陽熱利用による土壌消毒。	今日の農業	22巻4:103-107.	夏季のハウス密閉処理によるイチゴの病氣・線虫防除。
81	古賀成司	1978	土壌線虫の耕種防除法に関する研究 第5報 ネコブセンチュウの生存に及ぼす酸素と温度の影響。	九病虫研報(九州病害虫研究会報)	24:148-150.	卵・第2期幼虫を供試
82	駒田 旦	1978	野菜の連作障害と土壌伝染性病害対策。	今日の農業	22巻4:94-97.	線虫を含む。
83	小室康雄	1978	線虫による植物ウイルスの伝搬。	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	8:1-10.	総説。線虫によるウイルス伝搬の確認。ウイルスと媒介線虫の種類との間の特異性。線虫によるウイルス伝搬の特異性の説明とその伝搬機構。線虫によるウイルス伝搬の様態。線虫媒介ウイルスの種子伝染、我が国における研究状況
84	近藤栄造・石橋信義	1978	Ultrastructural differences between the propagative and dispersal forms in pine wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus with reference to the survival.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	13(1)1-11.	マツノザイセンチュウの増殖型・分散型の表皮と消化器を比較。生存能力との関わりを論じる。

85	近藤栄造・石橋信義	1978	85. 近藤栄造・石橋信義: 汽水産線虫の表皮微細構造: 浸透圧調節機能と関連して.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 116.	講要
86	紺谷修治・峰尾一彦・田中 潔	1978	薬剤の樹幹注入および土壌施用による松の材線虫病防除試験.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	29回: 143-144.	テラキュアP、ネマホス、ランネット粒剤が効果
87	小坂和彦	1978	福心枯線虫病と黒点米.	農業研究	24巻3: 40-44.	最近の発生動向、品種・栽培様式と発病との関係、防除法(育苗箱処理)
88	小菅喜久弥	1978	ももの枝枯症の発生と被害について.	農業研究	24巻4: 8-12.	ザイセンチュウを検出.
89	栗原 毅	1978	蚊幼虫の寄生線虫Romanomermis culicivorax感染幼虫の生態.	衛動(衛生動物)	29(1): 8.	講要
90	真宮靖治	1978	土壌線虫病 In: 森林防疫制度史: 森林病虫獣害防除事業28年の歩み.	全国森林病虫獣害防除協会、東京	P. 208-214.	線虫とその防除の研究史並びに苗畑における線虫の種類と被害・防除
91	真宮靖治	1978	アカマツ稚苗に対するマツノザイセンチュウの接種と発病経過.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回: 81.	講要
92	松田 明	1978	土壌病害からみた有機物のほ場施用法.	植物防疫	32(6): 231-237.	有機物連用とキュウリのネコフセンチュウ寄生度を含め.
93	松田 明	1978	特産特殊野菜の病害虫と対策: トウガラシ.	農業	25巻4: 16-20.	サツマイモネコフセンチュウ・ミナミネグサレセンチュウが発生.
94	松浦邦昭	1978	薬剤によるマツノザイセンチュウの防除に関する研究(Ⅷ)ポット植栽苗木試験および2・3のその補助試験.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回: 76.	講要
95	松浦邦昭・川崎俊郎・小林亨夫・真宮靖治・田村	1978	薬剤によるマツ大径木のマツノザイセンチュウ病防除.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回: 76.	講要
95.1	松浦邦昭・川崎俊郎・小林亨夫・真宮靖治・田村	1978	薬剤によるマツ大径木のマツノザイセンチュウ病防除.	日林論(日本林学会大会論文集)	89回: 277-279.	フェンスルフォオチオンの樹幹注入
96	皆川 望	1978	サツマイモネコフセンチュウのほ場における発生経過と密度推定法.	植物防疫	32(6): 247-252.	圃場密度推定法、線虫分離法、発生経過、カンショの被害
97	皆川 望	1978	土壌中の線虫密度と寄主侵入虫数の関係.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 114.	講要
98	峰尾一彦・津田知明・小林慎一・片山重俊・伊田	1978	異なる温度条件におけるマツノザイセンチュウの接種試験.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	29回: 137-139.	「30℃以上の時間が短く、25℃以下の時間が長い温度条件の場合、樹脂の異常、あるいは枯損に至らないことがある」
99	三井 康	1978	数種ネグサレセンチュウの生存に及ぼす温度と溶液の影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 117.	講要
100	清田 実・清田洋次	1978	除草剤連用かんきつ園における土壌動物相に関する研究 第3報 土壌線虫相に与える影響.	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	24: 168-171.	線虫相の変化は除草剤の殺線虫効果でなく、土壌環境の変化の結果.
101	三浦宏一郎	1978	線虫寄生菌類 In: 菌類図鑑(上)(宇田川俊一 外7名共)	講談社、東京	P. 74-79.	内部寄生菌、捕食菌の解説
102	三浦宏一郎	1978	動物植物寄生菌類の採集・分離・観察: 動物寄生菌類 In: 菌類図鑑(上)(宇田川俊一 外7名共)	講談社、東京	P. 1213-1215.	線虫・昆虫寄生菌(捕食菌、内部寄生菌)を扱う.
103	宮崎 信・山口彰・尾田勝夫	1978	マツノザイセンチュウの炭酸ガスに対する行動.	日林誌(日本林学会誌)	60(6): 203-208.	線虫は炭酸ガスに反応し、発生源に向かって誘引される.
104	宮崎 信・山口彰・尾田勝夫	1978	マツノザイセンチュウの呼吸気に含まれる炭酸ガスとマツノザイセンチュウの行動.	日林誌(日本林学会誌)	60(7): 249-254.	マツノザイセンチュウ耐久型幼虫はカミキリの蛹の呼吸気誘引され、その誘引刺激要因の一つは炭酸ガス. 蛹期間の炭酸ガス生成の変化を調査.
105	望月英雄・山川邦夫	1978	"Solanum torvum" の台木利用に関する研究(第1報)病害抵抗性とナス接木試験.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭53春: 188-189.	講要. ネコフセンチュウゴール着生なし.
106	百田洋二	1978	ネグサレセンチュウ4種正面線の種間差異.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25: 126.	Pratylenchus coffeae, P. fallaxm P. vulnus, P. penetras の走査電顕像.
107	村本正博	1978	マツ樹体内における浸透移行性殺虫剤の残留について.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31: 223.	ダイシントンについて.
108	村山大記	1978	オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(1).	農及園(農業および園芸)	53(11): 1349-1353.	本種の一般的性質・伝搬・被害・防除.
109	村山大記	1978	オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(2).	農及園(農業および園芸)	53(12): 1463-1469.	同線虫の発生とその防除の規制に対する歴史的経過、防除法(土壌消毒、抵抗性品種の栽培、輪作).
110	中西喜徳・上住泰	1978	球根アイリスに寄生するイモグサレセンチュウの防除.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	20: 124.	講要. 通風乾燥器を用いた試験.
111	中野昭信	1978	特産特殊野菜の病害虫と対策: エンドウ.	農業	25巻3: 3-7.	ネコフ・ネグサレセンチュウの薬剤及びハウスの夏期密閉処理を含む.
112	中園和年	1978	ニセフクロセンチュウ(Rotylenchus reniformis)の発育、繁殖率および性比に及ぼす土壌温度の影響: 両性生殖系統と単性生殖系統の差異.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	8: 32-42.	発育・繁殖率は温度の影響を受けるが、性比は影響なし.
113	中園和年	1978	Pequebi historico da pesquisa e alguns problemas nematologicos no Japon.	III Reuniao de Nematologia,	p. 19-35.	ポルトガル語による日本の線虫研究史、線虫相・線虫問題の特徴および防除についてのレビュー
114	中里肇二	1978	福心枯線虫病類似症の発生原因について.	今日の農業	22巻10: 40-43.	線虫が検出されない事例の報告. イネカラバエ第2世代の加害と推定
115	奈須田和彦	1978	着色米・変色米の種類とその防止対策.	農業研究	25巻2: 1-5.	名称、症状の概要、原因の一覧表を含む.
116	賛田裕行	1978	特産特殊野菜の病害虫と対策: ニラ.	農業	25巻4: 3-5.	ネダニのD-D、EDB剤による防除を含む.
117	西尾道徳	1978	連作障害と地力.	今日の農業	22巻4: 60-63.	原因とその対策.
118	西尾道徳	1978	陸稲の連作障害の原因をめぐって.	化学と生物	14(11): 718-721.	主に菌類の研究の紹介. 線虫との関わりにもふれる.
119	西沢 務	1978	Annual population changes of soil nematodes in the field of continuous cropping or rotation.	Kasetsart J. (Kasetsart Journal)	12(1): 3-13.	連輪作によるネコフ、シスト、ネグサレセンチュウ密度の変動.
120	西沢 務	1978	線虫問題と試験研究 1. 線虫研究発展の方向を求めて.	応動昆虫大会: 自由シンポジウム	22回: 22.	講要
121	西沢 務・松田幹男・佐藤尚雄	1978	畑作物の連・輪作試験圃場ならびに施肥試験圃場における線虫相.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 111.	講要
122	新田 肇	1978	神奈川県におけるマツノザイセンチュウの分布.	神奈川県試研報(神奈川県林業試験場研究報告)	4: 27-31.	1946-75年の被害量の推移、県内の線虫検出地.
123	野平照雄・真柄隆・粟野益卓	1978	岐阜県におけるマツ類の枯損分布について(第1報).	岐阜林研報(岐阜県林業センター研究報)	6: 43-51.	分布状況、環境要因解析(気温、補正気温、降水量、海拔高)
124	小戸健良	1978	鹿児島県の主要植物寄生性線虫について.	Delphax	22: 4.	講要
125	小河誠司・中島康博	1978	マツ枯損防止に関する研究資料(続). マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの生態ならびにマツ類の材線虫病防除とその防除薬剤の残効に関する研究.	福岡林試研究資料(福岡県林業試験場研究資料)	4: 1-37.	線虫接種試験結果と気象要因の関係、薬剤の樹体注入・土壌施用、スミチオンの空中散布効果(残効等)
126	岡本好一	1978	抵抗性を破るサツマイモネコフセンチュウ個体群の淘汰と形態比較.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 115.	講要
127	岡本好一	1978	サツマイモネコフセンチュウにおける抵抗性打破系統の分化.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25: 123.	トマト、サツマイモ、タバコの抵抗性品種寄生個体群.
128	小野勇一	1978	Notes on animal biomass and secondary production in the Mimamata Forest. Soil invertebrates. In: JIBP Synthesis, Vol. 18. Biological Production in a Warm-Temperature Evergreen Forest of Japan(吉良竜夫・小野勇一・細川隆彦編)	東京大学出版会、東京	P. 222-223.	熊本県水俣市の常緑樹林の動物相の現存量、二次生産量の研究. 土壌線虫密度及び現存量の堆定値を含む.
129	大羽克明・藤田祐輔	1978	デイトラベックスのネコフセンチュウに対する有効防除範囲.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	8: 53-54.	D-Dより広い.
130	大羽克明・藤田祐輔	1978	カルスで培養した数種ネグサレセンチュウの寄主植物による増殖性について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回: 115.	講要

131	大羽克明・藤田祐輔	1978	土壤燻蒸剤デイトラベックスの土壤硝化作用におよぼす影響.	土肥誌(日本土壌肥料学雑誌)	49(5)426-428.	クロルピクリンと比較. 硝化作用には抑制的に、アンモニア化には促進的に働く.
132	大橋雄司・古田土良夫	1978	我が国在来種タバコのジャワネコブセンチュウ抵抗性の品種間差異.	宇都宮たばこ試験報(宇都宮たばこ試験場報)	16:1-7.	120品種を検定. 平江たばこ、沖縄品種が抵抗性.
133	大久保隆弘	1978	野菜栽培と輪作.	今日の農業	22巻4:64-70.	輪作の機能について多方面から説く.
134	大島康臣・百田洋二	1978	ダイズシストセンチュウの形態学的検討.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回:110.	講要
135	太田 明	1978	マツの材線虫病防除薬剤の樹幹内移動.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	29回:148-150.	ネマフォス剤の動き.
136	大山浪雄・川辻公弘	1978	乾燥条件下におけるマツノザイセンチュウ接種に対するクロマト、アカマツ、テーダマツの抵抗性要因の違い.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31:53-54.	アカマツが他の2種より生存率が高い.
137	三枝敏郎・相原孝雄	1978	花木および庭木の苗木から検出された線虫.	植物防疫(植物防疫所調査研究報告)	15:51-54.	26樹種から検出された線虫を表に示す. 属または一部は種まで同定.
138	斎藤 正	1978	特産特殊野菜の病害虫と対策:オクラ.	農業	25巻3:16-19.	ハウスの夏期密閉・灌水による線虫防除にふれる.
139	佐野善一	1978	サツマイモネコブセンチュウ幼虫の活動性に及ぼす低温の影響.	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	24:144-147.	2月と8月に卵嚢・土壌から分離した第2期幼虫のフィルター透過率の比較. 低温時には幼虫の活動力が低下している.
140	佐野善一	1978	サツマイモネコブセンチュウの低温に対する耐性と順応.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	8:43-47.	生存率は水中・土壌中保存の間で、同じ温度であれば差なし. 予冷処理によって低温耐性強化.
141	佐野善一	1978	サツマイモネコブセンチュウの活性・個体数の季節的变化 II. ステージ及び季節による耐低温性の違いと低温への順応.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回:113.	講要
142	佐野善一・後藤昭	1978	サツマイモネコブセンチュウ第2期幼虫のEDB感受性に関する研究.	九州農試年報(九州農業試験場年報)	昭51:39-43.	水中・土壌中に保存した孵化幼虫の感受性の変化、感受性の季節的変動、寄主植物・施肥条件の影響.
143	佐々木 研・古越隆信・佐々木常	1978	マツ属10種のマツノザイセンチュウ抵抗性.	林木の育種	特3:35-38.	種により生存率に大きな差. 種間雑種の和合性も調査.
144	千本末市夫・猿田正晴・石原喜三男・小松友次	1978	ヤマノイモのネコブセンチュウに対するデイトラベックス油剤の効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25:124-125.	D-Dと比較. 根圏微生物相(細菌、放線菌、糸状菌)も調査.
145	清水寛二・沖嶋秀史・高土祥助	1978	クリ立枯病に関する試験 第1報 クリ立枯樹から検出される線虫と糸状菌.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	20:104.	講要. Pseudhalenchus anchilispomusを検出.
146	清水 啓	1978	傾瀉ふるい分け法と遠心浮遊法の併用によるイネシストセンチュウのシストの分離.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	8:20-23.	フェンウィック法より高い回収率.
147	清水 啓・百田洋二・西沢 務	1978	アミノ酸代謝抗物質がイネシガレセンチュウのアミノ酸代謝に及ぼす影響.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回:117.	講要
148	下田美智子	1978	チャ品種別みた土壤消毒と各種線虫の密度変化.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	25:132.	ネグサレ、ピン、ラセンセンチュウ. EDB, DBCP(立毛中)剤処理. 4品種の比較.
149	白浜賢一	1978	中華人民共和国の植保員手冊の紹介(6): 粮食: 食用作物篇.	今日の農業	22巻12:78-95.	小麦線虫病: 発生状況(吉林省ではかつて被害多、近年は激減)、発生条件.
150	白石 進・川辻公弘	1978	クロマトとリュウキュウマツおよびタイワンアカマツ雑種のマツノザイセンチュウ抵抗性.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31:55-56.	クロマト×タイワンアカマツの組み合わせの雑種の中に強い抵抗性.
151	白石 進・大山浪雄・高木哲夫・川辻公弘	1978	マツ母樹別実生苗に対するマツノザイセンチュウ接種結果.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31:57-58.	7種17個体を供試. リギダマツ、テーダマツ、ブンゲスマツの生存率が高い. 苗木を増やすにつれ抵抗性を増す.
152	穴田幸男	1978	明治神宮より見出されたTrichodoridae5種の分類学的検討.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回:110.	講要
153	須川豊伸	1978	マツノザイセンチュウ接種木に認められた傷害樹脂.	日林誌(日本林学会誌)	60(12)460-463.	組織学的観察. 積結との関連を論じる.
154	須川豊伸・須藤彰司	1978	マツノザイセンチュウ接種木にみられる傷害樹脂の発生について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回:82.	講要
155	菅原祐幸	1978	野菜品種の動向と品種の選定.	今日の農業	22巻4:36-42.	線虫抵抗性品種にふれる.
156	杉山 栞・平野和弥・飯田 格	1978	根こぶ線虫感染マトにおける萎ちよう病の発病と根圏微生物相について.	日植病報(日本植物病理学会報)	44(1)105.	講要
157	砂田善与志・酒井真次	1978	大豆シスト線虫抵抗性育種研究の現状と問題点.	日育北誌報(日本育種学会北海道談話会報)	18:55-57.	未見
158	砂田善与志・酒井真次	1978	ダイズシストセンチュウ抵抗性育種研究の現状と問題点.	農及園(農業および園芸)	53(9)1099-1105.	被害状況、育種素材(抵抗性品種)、育種の過程と現状、問題点.
159	鈴木和夫	1978	材線虫病の進展に伴うクロロフィル含有量の変化.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回:89.	講要
159	鈴木和夫	1978	材線虫病の進展に伴うクロロフィル含有量の変化.	日林誌(日本林学会大会論文集)	89回:319-320.	2-3年生針葉の変色はクロロフィルa、b比の変化.
160	鈴木和夫・清原友也	1978	Influence of water stress on development of pine wilting disease caused by Bursaphelenchus lignicolus.	Eur. J. For. Path. (European Journal of Forest Pathology)	8(2)97-107.	水分と樹脂滲出. 線虫増殖の関係
161	鈴木擘之・Hyodo, M.・石井直明・Moriyama.	1978	Properties of a strain of free-living nematode, Rhabditidae sp.: life cycle and age related mortality.	Exper. Geront. (Experimental Gerontology)	13(5)323-333.	未見
162	高橋和彦	1978	野菜における連作障害の現況.	野菜試研究資料(野菜試験場研究資料)	5, 89pp.	全国にわたるアンケート調査. 結果は地域別に次の項目に整理する. 1) 連作障害の程度; 2) 過去に連作障害により産地が移動したり消滅した例; 3) 連作障害の実態と対策; 4) 連作障害の遠因; 5) 10年近く連作をしていて障害の発生しない例; 6) 連作障害対策のネックとなっているもの; 7) 連作障害について日ごろ考えていること; 8) 作物別連作障害の原因一覧. 線虫に関するデータも多い.
163	高瀬 巖・相沢徳尚	1978	マツノザイセンチュウ防除に施用した有機リン剤の環境への影響.	農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	3回:	未見. 講要.
164	竹下 努	1978	マツノザイセンチュウ病の薬剤防除試験(1) テラキアP液樹幹注入によるクロマト小径木の防除効果.	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	29:145-147.	効果あり. 枯損木樹体内のマツノザイセンチュウ分布を調査.
165	竹内寛興・岡村政則・大黒 正・園沢豊純	1978	マツノザイセンチュウの人工接種試験方法について.	林木の育種	特3:33-35.	接種方法、頭数、濃度、時期の検討.
166	竹内昭士郎・萩原 広	1978	ダイズ根部に発生する異常症状の類別: 病害の立場より.	植物防疫	32(7)289-293.	ネグサレセンチュウの害を含む.
167	竹沢秀夫	1978	特産特殊野菜の病害虫と対策: ヤマノイモ.	農業	25巻3:22-25.	ネコブセンチュウ防除を含む.
168	滝沢幸雄・宮崎徹	1978	浸透性薬剤の土壌処理によるマツノザイセンチュウ防除試験.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31:209-210.	エチルチオメトンが最も効果的.
169	田村弘志	1978	Maintaining of Bursaphelenchus lignicolus culture under sterile paraffin.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	8:24-27.	殺菌流動パラフィン分注によって1年間保存した線虫の繁殖力とマツに対する病原性は不変.
170	田村弘志・遠田暢男	1978	線虫捕食性ダニの飼育法.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回:84.	講要
171	田中 潔	1978	カラマツに対するマツノザイセンチュウ接種試験.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回:81.	講要
171	田中 潔	1978	カラマツに対するマツノザイセンチュウ接種試験.	日林誌(日本林学会大会論文集)	89回:293-295.	20-30°Cの温度下の接種により高い枯損率.
172	田中 潔・峰尾一彦	1978	摘葉されたマツに対するマツノザイセンチュウ接種試験.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	89回:80.	講要
172	田中 潔・峰尾一彦	1978	摘葉されたマツに対するマツノザイセンチュウ接種試験.	日林誌(日本林学会大会論文集)	89回:289-291.	内樹皮の褐変は急速に進展. 材の含水率低下以前に樹脂停止の要因がはたらく.
173	田中 潔・峰尾一彦	1978	摘葉されたマツに対するマツノザイセンチュウ接種試験 II. 持ち越し枯れについて.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	29回:140-142.	真の健全木における線虫の越冬の可能性は低い.
174	田中雅生・杉 泰昭・田中慎悟・三嶋吉彦・浜田竜一	1978	Animal population, and production: Soil Invertebrates. In: JIBP Synthesis, Vol. 18. Biological Production in a Warm-Temperature Evergreen Oak Forest of Japan. (吉良竜夫・小野勇一・細川隆英編).	東京大学出版会、東京	P. 147-163.	熊本県水俣市の重力カン林の土壌線虫調査結果を含む. 食性別の線虫の季節的密度変化、重直分布、現存量、呼吸量を示す.

175	田中行久	1978	タバコ立枯病の品種抵抗性.	植物防疫	32(5)217-221.	同病及びサツマイモネコブセンチュウ抵抗性品種.
176	樋田幸夫	1978	桑園土壌の線虫に関する2,3分離法の検討.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	8:57-58.	ベルマン法、クリステイ・ベリー法、遠心浮遊法、ザインホルスト法を4種線虫に用いて、それぞれの法の特徴を検討.
177	樋田幸夫・守山弘	1978	マリゴールドによる桑寄生線虫の防除.	蚕糸研究	105:129-133.	エーテル抽出物、生葉・根の細片の土壌混入、乾燥葉の土壌混入によって線虫密度が減少.
178	樋田幸夫・大島康臣・平田明由	1978	桑園における植物寄生性線虫の種類とその形態的および生態的特徴.	蚕糸報(蚕糸試験場彙報)	27(3)369-396.	以下の11種を扱う. <i>Helicotylenchus dhysteræ</i> , <i>H. erythrinae</i> , <i>Longidorus martini</i> , <i>Meloidogyne mali</i> , <i>Paratrichodorus porosus</i> , <i>Paratylenchus elachistus</i> , <i>Variasquamata glaucile</i> , <i>Xiphinema americanum</i> , <i>X. arcum</i> , <i>X. bakeri</i> , <i>X. insigne</i> .
179	樋田幸夫・大島康臣・平田明由	1978	桑園の植物寄生性線虫相について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回:112.	講要
180	徳重陽山・藤崎正博・橋本平一	1978	マツ生立木における材線虫の急激増殖を抑制する一要因.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	31:213-214.	マツ材中の水分、空気中の酸素の多少が線虫の増殖に影響.
181	遠山 明	1978	特産特殊野菜の病害虫と対策:ラッキョウ.	農業	25巻3:10-11.	ネコブセンチュウのD-D剤による防除を含む.
182	堤 正明	1978	圃場栽培ジャガイモ浸出液のジャガイモシストセンチュウ孵化促進効果.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	8:16-19.	浸出液の採取時期、ジャガイモ品種の比較.
183	上野吉雄・弥富善三	1978	根から殺線虫物質を浸出する植物の探索(予報).	名城大農学報(名城大学農学部学術報告)	14:7-18.	77科239種の植物を供試. マツノザイセンチュウ、 <i>Panagrellus redivivus</i> に対し10科32種が根の磨砕液に、5種が根浸出液に殺線虫効果を示した.
184	上住 泰	1978	果樹を害するセンチュウ類.	今月の農業	22巻1:92-96.	線虫の種類、被害の実態、防除.
185	八木田秀幸	1978	クワにおける <i>Xiphinema bakeri</i> の形態計測ならびに发育過程.	埼玉蚕試報(埼玉蚕蚕業試験場報告)	50:9-13.	发育ステージと形態、发育経過
186	山田昌人	1978	黒点米症状の斑点形成に及ぼす二・三の条件.	日植病報(日本植物病理学会報)	44(1)83.	講要
187	山川邦夫	1978	トマト・ナス青枯病の品種抵抗性.	植物防疫	32(5)197-200.	ネコブセンチュウ抵抗性ナス科として <i>Solanum torvum</i> , <i>S. toxicarium</i> を挙げる.
188	山川邦夫	1978	野菜:抵抗性品種とその利用.	全国農村教育協会、東京	136pp.	概論として抵抗性の種類(操作)、遺伝、病原菌の変異性、品種の問題点、作物別の各論の中でトマト、ナス、キュウリのネコブセンチュウ抵抗性に言及.
189	山川邦夫	1978	野菜の耐病性品種の育成とその利用について.	今月の農業	22巻4:43-47.	耐病性に関する総説. 線虫抵抗性品種を含む.
190	山中昭雄	1978	低播高地におけるリンドウ根株養成と促成栽培に関する研究.	栃木農試研報(栃木県農業試験場研究報告)	24:13-32.	生育障害の大きな原因はネコブセンチュウ. 48°C20~90分の温湯処理で防除可能. 土壌消毒、マリゴールド栽培は持続効果なし.
191	山崎秀一・佐藤和彦	1978	新潟県に発生したマツノザイセンチュウの被害実態調査.	森林防疫	27(5)84-86.	県内分布、被害
192	安江安宣	1978	松喰虫被害地の生気象学的考察.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	22回:92.	講要
193	吉田雅夫・山口正己・京谷英寿	1978	モモ台木品種のネコブセンチュウ抵抗性の検定.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭53春:82-83.	講要
194	藤原敏夫	1978	野菜の害虫:センチュウ類.	今月の農業	22巻4:291-295.	被害と防除、殺線虫剤の使用法の一覧表を示す.
195	吉水忠義・高橋昌隆	1978	樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験(第2報).	徳島林総技研報(徳島県農業総合技術センター報告)	16:27-31.	キルゾールN40、テラクAP、ネマホス剤の樹幹注入、ランネットによる土壌処理.
196	吉野正義	1978	特産特殊野菜の病害虫と対策:セルリー.	農業	25巻4:12-14.	サツマイモネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの被害あり.
197	吉岡昭夫	1978	野菜の病害:イチゴ.	今月の農業	22巻4:186-190.	萎黄病は線虫等が発生の誘因となる.
198	湯原 藤・相原孝雄・天野洋司	1978	神奈川県下の果樹2圃場の土壌の理化特性と線虫相.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	8:48-52.	ミザクラ及びクワ圃場. 土壌の三相分布と線虫検出数の関係を調査.
199	柚木利之・長沢次男	1978	ダイズのウイルス病と抵抗性品種.	植物防疫	32(4)163-168.	ダイズモザイクウイルス・ダイズ萎縮ウイルス抵抗性品種のダイズシストセンチュウ抵抗性にふれる.
200	Anon. (農業技術研究所線虫研究室)	1978	わが国に侵入したジャガイモシストセンチュウ.	農技研年報(農業技術研究所年報)	昭52:25-29.	重要性と伝播の経過、侵入したパノタイプ.
201	Anon. (林野庁造林課育林班)	1978	マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業.	山林	1129:20-24.	着手までの経緯、実施方法、一般造林への適用
0		1979	昭和54年(1979)			
1	足立年一・藤本清	1979	アイリス球根に寄生するイモグサレセンチュウについて.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	21:60.	球根の温湯処理(47°C30分以上または49°C30分以上)で死滅. 菌類による増殖を比較.
2	相原孝雄・湯原 藤	1979	外部寄生性線虫を対象としたカエデ及びツツジ苗木の温湯浸漬効果.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:138.	講要
3	秋野浩二・外口久男・大倉作治	1979	殺線虫剤(D-Dおよびネマホルン)の低温期処理効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	26:144.	2月中旬から3月上旬施用も実効的効果あり.
4	坪 存・秋山 実・谷 芳明・小松 徹・下長根 鴻・尾崎克己・島田裕之・梶田真義・本田宏一	1979	果実葉連作畑における連作障害回避技術としての普通作物の導入.	茨城農試研報(茨城県農業試験場研究報告)	20:147-175.	ネコブ、ネグサレセンチュウ密度変化にふれる.
5	Andrassy, I.	1979	Revision of the subfamily Cricenematidae Taylor, 1936 (Nematoda).	Opusc. Zool., Budapest (Opuscula Zoologica, Budapest)	16(1/2)11-57.	トゲワセンチュウ亜科の再検討. 長野県Yokodake (2400m) 垂高山帯の針葉樹林からの新種 <i>Crossonema abies</i> および <i>Nothocriconema orientale</i> の記載を含む.
6	在原登志男	1979	東北地方におけるマツノマダラカミキリ有効産卵期間とマツの材線虫病.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	31:158-161.	カミキリ羽化脱出と積算温度、その後のカミキリ幼虫の生育
7	在原登志男	1979	東北地方におけるマツの材線虫病の発生予測:有効発病期間内の発病指数に基づいて.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	31:162-164.	温度に基づく東北各県における発病の可能性の検討
8	浅香四郎・瀬戸口宏一郎	1979	A method for analysis of ethyl bromide residue in crops.	農業誌(日本農学会誌)	4(4)453-455.	メチルプロマイドの残留分析法の手順および回収率、検出限界
9	近岡一郎	1979	キタネグサレセンチュウ (<i>Pratylenchus penetrans</i>) の寄生植物.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:49-53.	48科172種の作物・雑草のうち非寄生は4種. マメ科、キク科、ウリ科には好適寄生が多い.
10	近岡一郎	1979	有機物(鶏ふん)施用によるキタネグサレセンチュウの防除効果.	今月の農業	23巻9:58-61.	線虫密度低下効果は牛糞・化成肥料より大きい.
11	近岡一郎・大林延夫・椎名清治	1979	緑肥作物等の夏作への導入と土壌線虫の発生動向.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:139.	講要
12	Drenth, W. A.	1979	オランダの原料馬鈴薯と澱粉工業について.	澱粉会報	14巻1:7-14.	北海道の研修会で講演. 生産阻害要因としてのジャガイモシストセンチュウ対策を含む. オランダにおける行政的対応、抵抗性品種育種体制等
13	江口恭三	1979	黄色たばこRK70および2, 3の在来種のジャコブセンチュウ抵抗性の比較.	磐田たばこ試報(磐田たばこ試験場報告)	11:91-100.	前者は感受性品種に比べ線虫の侵入数わずかに少ない. 沖繩・平江たばこは侵入数少ない. どちらも侵入後の線虫の生育に遅れ.
14	福田利雄・岩川 盈夫	1979	リギターマツの特徴とマツノザイセンチュウに対する抵抗性.	林木の育種	111:43-46.	リギターマツとテーデーマツの雑種. アカマツ、クロマツより強い.
15	福留信明・上釜耕二	1979	各地より分離したジャコブセンチュウの形態的サイト寄生性.	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	25:170.	講要
16	二井一禎	1979	植物寄生線虫の寄生選択モデル.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:9-15.	線虫の寄生主体への集合過程を表わす数理モデルの提出と実証.
17	二井一禎	1979	Responses of <i>Bursaphelenchus</i> to the extracts from pine segments and to the segments immersed in different solvents.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:54-59.	寄生由来の化学成分がマツノザイセンチュウ・ニセマツノザイセンチュウのマツ枝切片への集合、侵入に関与することを示唆.
18	二井一禎	1979	マツノザイセンチュウ類の行動を制御する寄生成分.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:137.	講要
19	二井一禎	1979	2種のザイセンチュウの寄生主体内での動態.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:106.	講要

20	二井一禎・古野東洲	1979	マツノザイセンチュウに対するマツ属の抵抗性.	京大農演習林報(京都大学農学部演習林報告)	51:23-36.	30種のマツに線虫接種. <i>Pinus taiwanensis</i> , <i>P. elliptica</i> , <i>P. rigida</i> , <i>P. taeda</i> が高度抵抗性.
21	我如古光男・具志堅允一	1979	マツノザイセンチュウ被害分布調査(II).	沖縄林試研報(沖縄県林業試験場研究報告)	21:1-3.	昭和53年の分布域.
22	Golden, A. M.	1979	Descriptions of <i>Meloidogyne camelliae</i> n. sp. and <i>M. querciana</i> n. sp. (Nematoda: Meloidogyndae), with SEM and host-range observations.	J. Nematol. (Journal of Nematology)	11(2):175-189.	2種のネコブセンチュウの新種の記載. 前者は日本からアメリカに輸出されたツバキから検出.
23	五味美知男	1979	イネシシゴセンチュウ.	農業研究	25巻4:82-84.	昭和25年から最近までの防除薬剤の変遷等.
24	後藤 昭	1979	畑作物線虫の現状と問題点.	植物防疫	33(3):134-139.	わが国の畑作で重要な線虫と地理的分布、作物別の線虫被害を概説.
25	後藤 昭	1979	乾換畑の土壌センチュウ.	今月の農業	23巻4:14-17.	実態、増殖、被害(ダイズシストセンチュウ).
26	後藤 昭	1979	畑作物等における連作障害対策:センチュウを中心として.	畑地農業	242:28-32.	線虫の分布、関連病害、線虫に強い作物・品種、薬剤防除.
27	後藤 昭	1979	畑作物等における連作障害対策:センチュウを中心として(2).	畑地農業	243:30-35.	各種作物の線虫害とその対策を解説.
28	萩谷俊一	1979	ダイズ栽培におけるポリマルチの有無とダイズシストセンチュウの発生量.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	26:137-138.	マルチにより栽培初期の線虫遊出が少ないが、後期ではマルチの有無と線虫発生量関係なし.
29	萩谷俊一	1979	ニンジン畑におけるキタネグサレセンチュウ(<i>P. penetrans</i>)の雌雄変動.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:131.	講要
30	萩谷俊一	1979	大豆のポリマルチ栽培と土壌害虫.	今月の農業	23巻11:21-24.	ダイズシストセンチュウの発生消長への影響を含む.
31	浜 武人・小沢孝弘・小島耕一郎	1979	マツの材線虫病原県への投入を警戒す:長野県周辺における本病の動き.	森林防疫	28(10):185-187.	隣接県の発生状況、県内のマツノマダラカミキリ採集事例.
32	橋本平一	1979	材線虫接種後のクロマツの呼吸量の変化.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:261-262.	針葉の呼吸は線虫接種後増加、葉の年齢によって差.
33	橋本平一	1979	材線虫接種後のクロマツの解剖学的所見.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:263-264.	線虫接種5日後から差. 線虫増殖時には末期症状.
34	橋本平一・堂園安生	1979	材線虫接種後のクロマツ苗の含水率の変化.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:259-260.	樹脂浸出の異常とほぼ同時に、蒸散量低下へと進む.
35	平野和弥・杉山悟・飯田 格	1979	サツマイモネコブセンチュウ感染トマトの萎ちよう病の発病と根圏微生物相.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:60-68.	トマトのFusarium抵抗性は線虫汚染園でも弱ならず、感受性品種の病勢は汚染園で激しく、根圏微生物相の動態は線虫汚染園で増大が大、滅菌土での病勢進展が非滅菌土より顕著.
36	細田隆治・竹谷昭彦・柴田敏一	1979	マツ枯損と侵入マツノザイセンチュウ数および温度との関係(1).	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:253-254.	15℃では樹脂停止せず、20℃以上で接種数が多いと枯損率高.
37	一戸 稔	1979	馬鈴しょの大敵、北海道のジャガイモシストセンチュウについて.	澱粉会報	14巻1:3-7.	北海道における発見、生態、被害、検診法、防除.
38	稲垣春郎	1979	Race status of five Japanese populations of <i>Heterodera glycines</i> .	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:1-4.	秋田・長野の供試個体群はレース3、北海道の2個体群はレース2、北海道の他の1群は未記録の新レース5と同一.
39	稲垣春郎	1979	日本産ダイズシストセンチュウのレースについて.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:135.	講要
40	稲垣春郎	1979	ダイズ病害虫類別解説:ダイズシストセンチュウ、ネコブセンチュウ類、ネグサレセンチュウ類. In:ダイズ病害虫の手引.	日本植物防疫協会、東京	P. 122-131.	形態、発生、加害の様式、生活史、発生消長、寄主範囲、耐虫性品種、防除法、指導上の注意.
41	稲垣春郎	1979	北海道イチゴの線虫問題.	北農	46巻3:15-21.	露地イチゴの退化株発生状況、検出線虫、病原菌の検出、品種比較、接種および防除試験.
42	井上 巖	1979	Tow new species of <i>Gordius</i> (Gordioidea) from Japan.	Annot. Zool. Japon. (Annotationes Zoologie Japonenses)	52(4):235-239.	ハリガネムシの2新種の記載. <i>Gordius luteopunctatus</i> (栃木県・神奈川県から. 寄主不明); <i>G. ogatai</i> (長野・栃木・岩手・高知県から. 寄主不明).
43	井上 巖	1979	On the speciality of the geographical distribution of African Gordioidea, with a list of localities of the whole gordioidean species in Africa.	東京学芸大学紀要 Ser. VI(数学・自然科学)	31:171-176.	アフリカ産上記上科ハリガネムシの既知種のリスト(66種). 産地と参考文献を示す.
44	石井直明・鈴木馨之	1979	The killing effect of ultraviolet light and X-ray on <i>Rhabditidae</i> tokai.	J. Radia. Res. (Journal of Radiation Research)	21:137-147.	未見
45	石川元一	1979	水田転換畑における線虫の発生.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	26:136.	畦畔・畑中におけるネグサレ、ネコブ、ダイズシストセンチュウの検出例.
46	伊藤弘康・横溝康志・高久健一	1979	栃木県におけるマツノザイセンチュウの分布とその被害状況.	森林防疫	28(6):103-107.	年次別の材線虫検出件数、1978年までの県内分布(ニセマツノザイセンチュウを含む).
47	伊藤一雄	1979	松くい虫から材線虫へ:松枯れの原因を探る.	全国森林病虫獣防除協会、東京	69pp.	一般向きの読み物. 材線虫の発見、媒介者、生活史、防除等を解説.
48	岩切 徹・小野忠・中原美智男・甲斐秀昭・石橋信義・近藤栄造	1979	ミカン園における除草剤連用園土壌の変化について.	九州農業研究	41:9-10.	ミカンネセンチュウが優占、自活性線虫が減少、ダニ、トビムシ、菌類に対する影響も調査.
49	岩瀬 恵・小阪和彦・小谷哲也・山崎洋一郎	1979	マツノザイセンチュウ防除薬剤試験.	香川林指研成果報(香川県林業指導所研究成果報告)	15:59-82.	クロマツにMTS-20、ネマホス、テラキアP(以上樹幹注入)、ランネットF粒剤(土壌施用).
50	加々美好信・脇屋春良・藤田育	1979	イチゴセンチュウによるシャクヤクの被害と線虫の侵入・増殖の時期.	四国植防(四国植物防疫誌)	14:94-97.	症状、被害、侵入開始時期、寄生率の時間的変化.
51	金川 侃	1979	マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の概要(茨城県).	林木の育種	112:49-51.	被害状況、事業の開始、目標、進行状況、問題点.
52	糟谷重夫・岸 洋一・佐倉詔夫・石原 猛・成瀬善高	1979	東大演習林におけるマツノザイセンチュウ抵抗性母樹に対する接種試験.	日林関東支講(日本林学会関東支部大会研究発表集)演集	31回:31.	講要
53	加藤保博・佐藤清・俣野修身・後藤真康	1979	Metabolic fate of l, 2-dibromo-3-chloropropane (DBCP) in rats.	農業誌(日本農業学会誌)	4(2):195-203.	経口投与時の尿・胆汁・呼吸への排泄、分解物の体内分布.
54	加藤保博・佐藤清・俣野修身・後藤真康	1979	in vivo, in vitro系でのDBCPによるラット蛋白、DNAのアルキル化.	日農業学会講演(日本農業学会大会講演要旨)	4回:236.	未見. 講要.
55	川津一徳・西井良樹・多田幹郎	1979	マツノザイセンチュウに対する殺線虫性植物成分の探索.	日農化学会講演集(日本農芸化学学会大会講演要旨集)	昭54:462.	未見. 講要.
56	岸 洋一	1979	薬剤散布されたマツ枝へのマツノザイセンチュウの樹体侵入.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	90回:106.	講要
56.1	岸 洋一	1979	薬剤散布されたマツ枝へのマツノザイセンチュウの樹体侵入.	日林論(日本林学会大会論文集)	90回:367-368.	高濃度の薬剤(スミチオン)が付着していてもカミキリが侵入すれば線虫は樹体に侵入.
57	鬼頭研二	1979	Notes on the postembryonic development of <i>Draconema japonicum</i> Kito, 1976 (Nematoda, Draconematidae).	J. Fac. Sci., Hokkaido Univ. Ser. VI, Zool. (Journal of Faculty of Science, Hokkaido University)	22(1):88-99.	各令期の幼虫及び雄成虫を記載.
58	清原也也	1979	マツノザイセンチュウの走査型電子顕微鏡による観察.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:257-258.	雌雄成虫の外部形態.
59	小林一三・奥田素男	1979	材線虫によるマツ集団枯損の拡がり方の一例(三上山の場合).	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	30回:32-34.	77年は長径65mの楕円形、78年は同140m.
60	小玉孝司	1979	太陽熱利用によるハウス土壌消毒(1).	農及園(農業および園芸)	54(1):193-196.	マルチ併用の病原菌への効果. 40℃が有効温度、有機物添加は酸化還元電位を下げる.
61	小玉孝司	1979	太陽熱利用によるハウス土壌消毒(2).	農及園(農業および園芸)	54(2):277-281.	イチゴの土壌伝染性病害の防除. ネコブ、ネグサレセンチュウ、雑草への効果大.
62	古賀成司	1979	土壌線虫の耕種防除法.	九州農業研究	41:7-8.	ネコブ、ネグサレセンチュウの被害防除の輪作と有機物添加の湛水処理が好結果. トウモロコシは前者の好適寄主作物.
63	小泉成徳・福留信明・林 松雄・田中行久・山口	1979	沖縄におけるタバコの病害虫.	葉たばこ研究	81:77-83.	検出線虫のリスト、タバコへの寄生性、薬剤防除試験結果を含む.

64	近藤栄造・石橋信義	1979	Ultrastructural changes associated with development of pin nematode, <i>Gracilacus</i> sp., with special reference to its survival.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	14(1)1-11.	ピンセンチュウの1種の発育にともなう不良環境耐性の変化を表皮・脂質顆粒の微細構造と対応させて検討
65	近藤栄造・石橋信義	1979	ネコブセンチュウの卵の生産性に及ぼす寄生密度の影響.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:134.	講要
66	Kort, J.	1979	オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除に関する政府の対策.	澱粉会報	14巻1:37-46.	北海道における研修会の記録. 1941年の初発見以後の法規制、線虫抵抗性品種育種、線虫のレースの問題、化学的防除、植物防疫所による検査.
67	工藤 馨	1979	立枯発病樹根辺土壌からのネグサレセンチュウ.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:132.	講要
68	栗原 毅	1979	Numerical relationships between a nematode parasite, <i>Romanomermis culicivora</i> , and its host population, <i>Culex pipiens molestus</i> larvae.	寄生虫誌(寄生虫学雑誌)	28(3)99-105.	チカイエカへの線虫寄生を高める両者の個体数の関係. 線虫増殖、宿主発見・侵入に最適密度がある.
69	栗原 毅・秦 和寿	1979	蚊幼虫の寄生線虫 <i>Romanomermis culicivora</i> 寄生率に及ぼす2つの要因.	衛動(衛生動物)	30(2)200-202.	水面に放した線虫(シヘンチュウ)幼虫のチカイエカ幼虫への寄生率. 5種の蚊の線虫寄生率の比較.
70	Lamberti, F. & Blevé-Zacheo, T.	1979	Studs in <i>Xiphinema americanum</i> sensu lato with descriptions of fourteen new species (Nematoda, Longidoridae).	Nematol. medit. (Nematologia Mediterranea)	7(1)51-106.	オオハリセンチュウの <i>X. americanum</i> とされていたグループの研究. 日本産を上記種とは別種とし、日本から英国へ輸出された盆栽より検出された標本を基に、 <i>X. incognitum</i> (新種)として記載.
71	Lutgers, H. G.	1979	オランダ北東部におけるジャガイモシストセンチュウ(ジャガイモシストセンチュウ(<i>Globodera rostochiensis</i>)およびジャガイモシストセンチュウ(<i>G. pallida</i>))の検出、シストの分離および防除法.	澱粉会報	14巻1:15-36.	北海道における研修会の記録. 生活史、土壌上層におけるシストの分布、シストの検出(圃場サンプリング法、用具)、判定のための実験室内における貯蔵と方法、シスト分離法、防除方法、線虫の分散の型、圃場管理のほかに他のどんな方法がとられるか、灌注機(プラウ搭載型・ライン型・ウイング型)、防除薬剤(燻蒸剤、浸透性殺線虫剤)、野生生え馬鈴薯問題
72	真宮靖治	1979	マツノザイセンチュウの接種をうけたマツ稚苗の病態解剖.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:107.	講要
73	真宮靖治	1979	マツの材組織にみられるマツノザイセンチュウ耐久型幼虫脱皮促進効果.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:137.	講要
74	真宮靖治・遠田暢男	1979	<i>Bursaphelenchus mucronatus</i> n. sp. (Nematoda: Aphelenchoidea) from pine wood and its biology and pathogenicity to pine trees.	Nematologica	25(3)353-361.	ニセマツノザイセンチュウを新種として記載. マツに対する接種試験結果を含む. Bajarad, P. (1980)は本種をマツノザイセンチュウのシノニムとしている(<i>Revue Nematol.</i> 3(2)167-177).
75	丸峯正吉・坂本敏	1979	かんしよのネコブセンチュウ抵抗性品種の選抜について.	九州農業研究	41:47.	苗床で可能. 抵抗性強個体は極多収の型質を示した.
76	丸峯正吉・坂本敏	1979	かんしよのネグサレセンチュウ抵抗性品種の選抜について.	九州農業研究	41:48.	F1のミナミネグサレセンチュウ抵抗性個体出現率は親品種の形質から推定可能. ネコブセンチュウ抵抗性とは無関係. 苗床でネコブ検定. 本圃でネグサレ検定が効果的.
77	増井正夫・糟谷明	1979	Bromine uptake of some vegetable following soil fumigation with methyl bromide.	園学雑(園芸学雑誌)	48(1)55-60.	トマト、ピーマン、ナス、イチゴの生育・収量への影響、植物体・土壌への残留.
78	松原 功	1979	千葉県におけるマツノザイセンチュウの分布とMB指数.	森林防疫	28(11)200-202.	分布と温度の関係.
79	松原 功	1979	山武町沖渡のマツノザイセンチュウ病被害林の経緯について.	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	31回:27.	講要
80	松崎征美・小川宏・久保田増栄・北村明久・山本肇	1979	イグサに発生した根腐病とその原因について.	高知農研報(高知県農林技術研究所研究報告)	11:7-20.	イネネモグリセンチュウの集中寄生が原因. 土壌病害、土壌還元による直接の関係なし.
81	皆川 望	1979	Efficiencies of two methods for extracting nematodes from soil.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	14(4)469-477.	改良ベルマン法と二層遠沈浮遊法の線虫分離効率を線虫の種類または種類群別に比較. 前者は後者より線虫の種類・分離時の条件等の影響を受ける.
82	皆川 望	1979	Description of <i>Crossonema dryum</i> n. sp. (Oricronematidae: Tylenchida) from Kumamoto, Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:25-27.	熊本県のクヌギ根圏から検出したトゲワセンチュウを新種として命名. 記載. 体環上の特記数や形、尾長と形、排泄口の位置に特徴.
83	皆川 望	1979	サツマイモネコブセンチュウの寄生侵入数とトマト苗の生育.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:133.	講要
84	峰尾一彦・紺谷修治・田中 潔	1979	薬剤の樹幹注入および土壌施用によるマツの材線虫病防除試験.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:108.	講要
84.1	峰尾一彦・紺谷修治・田中 潔	1979	薬剤の樹幹注入および土壌施用によるマツの材線虫病防除試験.	日林論(日本林学会大会論文集)	90回:369-370.	テラキュアP、ネマホスの樹幹注入は施用翌年も有効.
85	三井 康	1979	4種シストセンチュウの組織培養根での発育.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:136.	講要
86	宮路龍典・白沢未雄	1979	サトイモの連作障害の発現と対策に関する研究.	鹿児島農試研報(鹿児島県農業試験場研究報告)	7:5-15.	連作につれミナミネグサレセンチュウ増加. D-D、EDB剤は効果不十分、マリールゴールドは効果なし. 輪作、クロービクリンが高い効果.
87	百田洋二	1979	本邦未記録の <i>Heterodera latipons</i> について.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:73-74.	千葉県のライムギ根圏から検出. ムギシストセンチュウ類似のシストの形態を報告.
88	百田洋二	1979	千葉県で検出された球形シストセンチュウについて.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:135.	講要
89	村山大記	1979	オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(3).	農及園(農業および園芸)	54(1)23-24.	総合防除法を紹介.
90	村山大記	1979	オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(4).	農及園(農業および園芸)	54(2)269-272.	土壌検診システム、サンプリング法、シスト分離法および検査法
91	村山大記	1979	オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(5).	農及園(農業および園芸)	54(3)381-384.	工業用馬鈴薯品種の特性、現地栽培農家の視察、フランスにおける対策の紹介. わが国の同問題対応策に言及
92	中込輝雄・加藤遼重郎	1979	モモの台木用品種に対するネコブセンチュウの寄生性.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	21:34.	剪定木、オキナフ、R-7-7、R-27-1、ネマガードが根腐指数0.
93	中西善徳	1979	球根アイリス寄生イモグサレセンチュウの寄生性と防除.	関西病虫研報(関西病虫害研究会報)	21:12-20.	分布、被害度と生育、寄主範囲、防除(薬剤、温湯浸漬、乾熱、却殺燻蒸処理)
94	中里肇二・原 栄一・高山隆夫	1979	イネシソグサレセンチュウによる黒点米の発生と防除.	群馬農試報(群馬県農業試験場報告)	19:21-28.	黒点米の発生と線虫の関係. 実態調査(種子の汚染度と翌年の発生、品種と発生、収穫時期と発生)、防除(薬剤、種子浸漬、出穂散布)
95	西村慶二・栗延晋・金光隆義	1979	マツノザイセンチュウ人工接種の用土別、灌水法別試験.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:205-206.	抵抗性検定に当たっては鉢用土の選択、灌水量に充分注意を払う必要.
96	西沢 務	1979	線虫類. In: 農林水産研究文獻解題: 野菜害虫編(農林水産技術会議編).	農林統計協会、東京	P. 354-423, 508-533.	前半はネコブセンチュウ(文献数320)、ネグサレセンチュウ(同149)、その他の主な野菜加害線虫(同57)の種類、分布、生理、生態、被害、防除のまとめ. 後半は線虫に関する一般的な解説、参考書、実験方法等のまとめと文献表
97	西沢 務	1979	線虫: その生態、検診、被害と防除の方向.	農水技研ジャーナル(農林水産技術研究ジャーナル)	2巻9:35-39.	内外の研究の紹介.
98	西沢 務	1979	線虫対策のための輪作作物および対抗植物の評価.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:139.	講要
99	西沢 務	1979	有害線虫による被害と効果的な防除法.	農業富民	51巻8:90-93.	一般向解説記事.
100	西沢 務	1979	ハブソウはネコブセンチュウ退治に有効か.	農業グラフ	71:10.	キタネコブ、キタネグサレ、ミナミネグサレセンチュウ密度は低下. サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウは増加.]
101	小声健良	1979	鹿児島島の主要植物寄生性線虫について.	Delphax	41:81.	講要
102	小声健良	1979	ネコブセンチュウによるジャガイモの被害事例.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:75-76.	サツマイモネコブセンチュウ. 抵抗性の品種間差を認める.
103	小声健良	1979	畑水稲ならびにサツマイモ(農林2号)でのネコブセンチュウの増殖事例について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:132.	講要
104	小河誠司・中島康博	1979	マツノザイセンチュウに関する研究(6) マツノマダラカミキリの生存日数・後食量と材線虫の落下侵入増殖との関係.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:251-252.	薬剤散布との関係も論ずる.

105	岡田利承	1979	Hatching of the soybean cyst nematode, <i>Heterodera glycines</i> Ichinohe.	Rev. Plant Protect. Res. (Review of Plant Protection Research)	12:11-23.	著者の研究のまとめを中心とした総説
106	岡本好一	1979	サツマイモネコブセンチュウの抵抗性打破系統の寄生性と2期幼虫の形態的差異	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:16-19.	トマト、タバコ、サツマイモ抵抗性打破系統は、いずれも寄主特異的で、他作物の抵抗性は破らず。形態測定値の差異は僅少。
107	岡本好一・西沢務・千本木市夫・高橋兼一	1979	エンドウの初期生育に及ぼすネコブセンチュウおよびネグサレセンチュウの影響	関東農虫研報(関東農山病害虫研究会年報)	26:141-143.	サツマイモネコブセンチュウはキタネグサレセンチュウより被害大。キタネグサレ、クルミネグサレセンチュウの被害は小。
108	奥 八郎	1979	激害型マツの枯損とマツノザイセンチュウの代謝毒素	山林	1144:34-37.	接種方法、線虫により実験室内での毒素の生産、毒素の性質
109	奥 八郎	1979	マツノザイセンチュウの代謝毒素	遺伝	33巻10:46-47.	No.79-111, 80-89を参照。
110	奥 八郎・白石友紀・黒住繁久	1979	マツの枯損とマツノザイセンチュウの代謝毒素	日植病報(日本植物病理学会報)	45(4):537.	講要
111	奥 八郎・白石友紀・黒住繁久	1979	Participation of toxin in wilting of Japanese pines caused by a nematode.	Naturwissenschaften	66(4):210.	マツノザイセンチュウの接種したマツ実生苗から毒素を抽出。後にこれは線虫に随伴する細菌の生産物であることが判明(No.80-89)。
112	大羽克明・石橋信義	1979	Caenorhabditis elegansの生存と老化。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:138.	講要
113	大庭喜八郎	1979	マツノザイセンチュウ抵抗性育種の概要(九州・関西地区)	林木の育種	112:45-48.	育種のパイロットテスト、抵抗性候補木の本数、事業の概要
114	大島俊市・小野邦明・赤沢淑紀	1979	センチュウ捕食菌によるタバコセンチュウ病防除に関する研究 第1報 センチュウ捕食菌の性質とそのセンチュウ病防除作用	岡山たばこ試報(岡山たばこ試験場報告)	40:47-66.	Arthrobritys conoides, Dactylaria thaumasia, D. ellipsozona. 菌の分離と捕殺作用、菌の培養的性質(温度、pH、炭素源、窒素源、生理的特性(湿度と生存期間、捕虫器の形成)、菌の土壌施用)
115	太田 明・有田勝彦	1979	土壌施用されたマツの材線虫病防除薬剤の動き	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	30回:35-37.	土壌中・樹体内の温度変化。
116	大山浪雄	1979	マツの材線虫抵抗性育種の現状と成果	山林	1143:36-41.	抵抗性の要因(回避性、狭義の抵抗性、耐性、その他)、抵抗性育種の進め方(導入、交雑、選抜)。
117	大山浪雄・白石進・丹原哲夫	1979	マツ実生苗の年齢によるマツノザイセンチュウ抵抗性の違い	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:211-212.	3年生と4年生で差なし。
118	Poiner, G. O., Jr.・小野 決	1979	Parasitic nematode from Simulium tobetsuense Ono and S. aokii Takahashi.	衛動(衛生動物)	30(2):195.	北海道音更町のエゾヒメアシマダラブユとアオキツメゲブユ幼虫からシヘンチュウを抽出。
119	Poiner, G. O., Jr.・斉藤一三	1979	Mesomerimis japonicus n. sp. (Mermithidae: Nematoda), a parasite of Simulium japonicum (Simuliidae: Diptera).	衛動(衛生動物)	31(2):147-149.	神奈川県相模川水系の谷太郎川のアシマダラブユ幼虫から得た線虫(シヘンチュウ)を新種として記載
120	Poiner, G. O., Jr.・斎岡宏行	1979	Parasitic nematode from Simulium japonicum and S. bidentatum.	衛動(衛生動物)	30(2):193.	鹿児島市のアシマダラブユとキアシツメゲブユ幼虫から未同定のシヘンチュウを発見
121	立仙雄彦・藤本吉幸・戸田忠雄・栗延 晋・西村慶	1979	マツノザイセンチュウ抵抗性候補木の人工接種検定の結果	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:209-210.	アカマツ、クロマツのクローン中に生存率の高いものがあつた。
122	立仙雄彦・戸田忠雄・丸喜八郎・栗延 晋	1979	ガラス室におけるマツノザイセンチュウ接種時期別試験	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:207-208.	1回目は6月上旬、2回目は7月中・下旬がよい。
123	坂本 敏	1979	かんしよ近縁野生種の線虫抵抗性と育種利用について	九州農業研究	41:52.	ネコブ、ネグサレセンチュウ抵抗性強個体多く、品種育成に利用可能。
124	作山 健・佐藤平典	1979	岩手県におけるマツの材線虫病の発生(1)マツノザイセンチュウ	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	31:169-171.	マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの検出状況、被害。
125	作山 健・佐藤平典	1979	岩手県におけるマツの材線虫病の発生	森林防疫	28(12):226-227.	1978年秋から79年10月までの発生状況
126	佐野善一	1979	サツマイモネコブセンチュウ低温季卵の孵化傾向と孵化に及ぼす低温の影響	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:133.	講要
127	佐々木 研・古越隆信・糸屋吉家	1979	Sylvestres垂節内の種間雑種に関する研究(V)マツノザイセンチュウに対する抵抗性	日林論(日本林学会大会論文集)	90回:239-240.	18組合わせて3回試験。結果にばらつき。
128	佐藤平典・作山 健	1979	岩手県におけるマツの材線虫病の発生(2)マツノマダラカミキリ	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	31:172-173.	生息確認状況
129	清水 啓・後藤昭	1979	サツマイモネコブセンチュウおよびキタネグサレセンチュウの各種作物における寄生性	関東農虫研報(関東農山病害虫研究会年報)	26:139-140.	増殖少なかったのは前者ではサトイモ、ラッカセイ、ブロッコリ、ダイコン、ミソバ、後者では陸稲、馬鈴薯、ナガイモ、スイカ、サトイモ
130	清水 啓・百田洋二	1979	イネシガラセンチュウのアミノ酸組成	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:45-48.	カルスで無菌培養した成幼虫からアミノ酸25種、アミノ4種、未同定のニンヒドリン陽性物質5種、およびアミノ酸と尿素を抽出。
131	新須利剛・小河誠司・坂口荘一	1979	イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第1報 数種薬剤により定植前土壌処理の発症防除効果	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	25:42-45.	クロルピクリンの効果がすぐれ、数種殺線虫剤も効果あり。発症にはCylindrocarpon菌とクルミネグサレセンチュウが関与。
132	穴田幸男	1979	Studies on nematodes parasitic on woody plant. I. Family Trichodoridae (Thorne, 1935) Clark, 1961.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:28-44.	明治神宮境内林を主とする樹木の根圏から抽出した次のユミハリセンチュウ5種の形態、計測値、種内変異。Trichodorus tricaulatus(新種)、T. cedarus, T. aequalis, Paratrichodorus (Atlantadorus) porosus, P. (Nanidorus) minor, T. longistylus Yokoo, 1964とT. kurumeensis Yokoo, 1966をT. cedarus Yokoo, 1964のシノニムとする。
133	穴田幸男	1979	Xiphinema5種の形態と分布に関する知見	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:131.	講要
134	庄司次男	1979	マツノザイセンチュウ(Bursaphelenchus lignicolus)の低温耐性	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:5-8.	耐性の最も高い发育ステージは分散型第3期幼虫。
135	須川豊伸	1979	マツノザイセンチュウ被害による傷害樹脂道の派生と形成層細胞の挙動について	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:107.	講要
136	鈴木和夫	1979	マツの材線虫病の発現機構	森林防疫	28(5):90-94.	線虫の増殖と樹体の変化、環境の影響のレビュー
137	鈴木享之・Moriyama, Y.・石井直明	1979	Effects of 5-fluorodeoxyuridine on reproduction and aging in a strain of free-living nematode, Rhabditidae tokai.	Tokai J. exper. Clinic. Med. (Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine)	4:149-157, 4:159-164.	未見
138	高橋和博・堀田隆	1979	マツノザイセンチュウ病防除試験(1)灌水による治療効果	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:265-266.	蒸散量低下が回復。
139	高橋和博・堀田隆	1979	マツノザイセンチュウに関する研究。かん水による治療効果	大分林試報(大分県林業試験場報告)	21:71-73.	処理により枯損をまめがれる事例もある。
140	高倉 求・小戸健良・野口純隆	1979	水利用による畑施設土壌の改善に関する研究	鹿児島農試研報(鹿児島県農業試験場研究報告)	7:17-57.	灌水20-60日ではネコブセンチュウに効果不十分、80日以上必要。
141	高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親	1979	ジャガイモシラセンチュウに対する殺線虫剤効果	北海道立農試集報(北海道立農業試験場集報)	42:67-79.	D-D、EDB油剤は非寄主との組合せ時に効果大。Vydate 1%粒剤30kg/10a全面施用の効果も最も高く、同剤作業施用、ダイアジン全面施用がこれに次ぐ。
142	竹下 努	1979	クロマツ小径木に注入した薬剤の材線虫病予防の有効年数	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	30回:27-29.	テラクラドは施用翌年有効。
143	竹谷昭彦・細田隆治・柴田敏一	1979	マツ枯損と侵入マツノザイセンチュウ数および温床との関係(2)	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:255-256.	前報(No.79-34)のまとめ。
144	滝沢幸雄	1979	東北地方におけるマツ類材線虫病の現状と防除上の問題点	青森県林業技術研究集録	昭54:45-49.	発生経過と被害の現状、東北地方における特異点、防除上の問題点。
145	滝沢幸雄	1979	東北地方におけるマツノマダラカミキリの生態(7)宮城県産成虫のマツノザイセンチュウ保持数とアカマツ苗木への摂食試験	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	31:153-155.	年次・地域・雌雄・羽化時期・体重の違いによる線虫保持数の違い。
146	玉川重雄・入交毅・小山田正美・立花 肇・遠山輝彦	1979	クロルピクリンの土壌中での挙動	日農薬学会講要(日本農薬学会大会講演要旨)	4回:341.	未見。講要。
147	田村弘忠	1979	マツノザイセンチュウを捕える菌	林業技術	450:7-10.	線虫捕食菌の解説。
148	田村弘忠・遠田暢男	1979	マツノマダラカミキリの蛹室中と成虫体表上における線虫捕食性ダニ類の数と分布	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:136.	講要
149	田村弘忠・遠田暢男	1979	飼育ビンにおける線虫捕食性ダニの生活史と繁殖	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:108.	講要

150	照屋林宏	1979	リュウキュウイシクセンチュウ (Paratrophus sp.)の寄生範囲について.	沖縄農試研報(沖縄県農業試験場研究報告)	4:56-64.	サトウキビ、スーダングラス、ネビアグラス、ソルガム、バラグラス、トモロコシ、サツマイモ、アフリカタヌキマメ等が好適寄生。
151	戸田忠雄	1979	台木樹種を異にしたつぎ木11年生個体のマツノザイセンチュウ接種試験.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:201-202.	台木はつぎ木の抵抗性を逆転されるほど大きな影響なし。
152	戸田忠雄・坂本和子・丸喜八郎	1979	アカマツ、クロマツ精英樹家系に対するマツノザイセンチュウ20系統の加害性.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	32:203-204.	線虫の加害性は系統により異なつた。
153	樋田幸夫	1979	数種のクワ寄生線虫の発生消長.	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨集)	49:11.	講要
154	樋田幸夫	1979	クワに寄生するリンゴネコブセンチュウ (Meloiodgyne maii)の寄生植物および2期幼虫の形態的特徴.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:20-24.	多くの草本類にも寄生。第2期幼虫の尾長、排泄口の位置に他種と異なる特徴をもつ。この個体群は後に別種とされた。No. 84-148を参照。
155	樋田幸夫	1979	クワに寄生する数種ネコブセンチュウの計測値の比較.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	23回:134.	講要
156	上村道雄	1979	野菜作における対抗植物導入による土壤線虫対策.	農及園(農業および園芸)	54(12)1503-1508.	スイカのネコブセンチュウ対策としてマリーゴールドを導入、好成绩を得た。品種はアフリカーントールが有望。
157	渡辺恒雄	1979	ネマトーダに内部寄生性を有する <i>Verticillium</i> sp.の抗菌性(1)形態と <i>in vitro</i> で	日植病報(日本植物病理学会報)	45(1)125.	講要
158	渡瀬 彰	1979	山梨県におけるマツノザイセンチュウの分布とその被害状況.	森林防疫	28(8)167-168.	1978年初発見以来、1979年までの状況。
159	山口忠義・阿久沢恒雄	1979	群馬県におけるマツの材線虫病の発生.	森林防疫	28(7)124-127.	1978年現在のマツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの分布。
160	山川邦夫	1979	野生種を利用したトマトの耐病虫性品種の育成について.	今日の農業	23巻9:60-65.	ネコブセンチュウ抵抗性を含む。
161	山本公志・奈須田和彦・高島敬一	1979	クリ実生苗に対する <i>Pseudhelenchus anchiliposomus</i> の関連性.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	9:69-72.	健全根より衰弱根から多く検出。根の皮層に侵入し、産卵。線虫接種株では樹根が少ない傾向。
162	山崎正枝	1979	水田の転換利用の考え方:田畑輪換の技術と展望.	農林水産技術情報協会、東京	70 pp.	線虫防除効果(渡辺文吉郎氏の講演のまとめ)を含む p.62-66.
163	Anon.(九州林木育種場)	1979	マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の手引.	九州林木育種場、西合志(熊本)	50 pp.	未見
164	Anon.(林野庁造林課育種班)	1979	マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業.	山林	1129:20-24.	着手までの経緯、実施方法。
0	1980	昭和55年(1980)				
1	相原孝雄・三枝敏郎・湯原 巖	1980	輸入木材材部から検出された <i>Bursaphelenchus</i> 属を中心とした線虫.	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	16:103-107.	インドネシア、マレーシア、北朝鮮、フィリピン、台湾、アメリカ、ソ連からの輸入材で検出された線虫のリスト。
2	相原孝雄・湯原巖・山崎和雄	1980	神奈川県下の花木類実圃場で発見した <i>Meloiodgyne camelliae</i> について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:106.	講要
3	青木宏史	1980	褐色根腐病抵抗性新台木の特性.	今日の農業	24巻12:22-26.	トマト、ネコブセンチュウに感受性または弱い抵抗性。
4	青柳美智子・石橋信義	1980	マツノザイセンチュウの配偶子形成.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:102.	講要
5	有田勝彦・太田明	1980	薬剤の土壤施用によるマツの材線虫病防除試験:"メソミル剤の場合".	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	31回:244-246.	材中密度と防除効果。
6	近岡一郎	1980	鶏糞のネグサレセンチュウ抑圧効果について.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:109.	講要
7	海老根翔六	1980	ヒマラヤスギにおけるマツノザイセンチュウの被害とマツノマダラカミキリの行動.	森林防疫	29(11)201-205.	枯損木からの線虫検出、カミキリの生息状況。
8	江森 京・杉山浩	1980	キボシカミキリ幼虫に対するEDBの毒性.	日蚕関東講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	31:7.	講要
9	遠田頼男・田村弘忠	1980	マツノマダラカミキリ成虫から検出された線虫捕食性ダニ類(続).	森林防疫	29(2)36-39.	ダニの線虫捕食量にふれる。
10	福留信明・上釜耕二	1980	土壤中のネコブセンチュウ密度におよぼすゾルゴー栽培の影響.	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	26:182-183.	講要
11	福留信明・上釜耕二	1980	ジャワネコブセンチュウに対するタバコの抵抗性 第2報 抵抗性の発現におよぼす土壌温度の影響.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:110.	講要
12	古野東洲	1980	マツノザイセンチュウに加害された外国産マツ属.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	31回:241-243.	高密度接種で強抵抗性のマツも枯れた。
13	二井一禎	1980	マツ属各種のshoot cylinderに対するマツノザイセンチュウの集合・侵入率.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:104.	講要
14	二井一禎	1980	Developmental rate and population growth of <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> (Nematoda: Aphelenchoididae) and <i>B. mucronatus</i> .	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	15(2)115-122.	マツノザイセンチュウはニセマツノザイセンチュウに比べ胚子・後距子発生とも早く、発育零点は高い、糸状菌叢上の個体群増殖は高く、飽和密度は低い。
15	二井一禎	1980	Host preference of <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> (Nematoda: Aphelenchoididae) and <i>B. mucronatus</i> shown by their aggregation to pine saps.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	15(3)193-197.	マツノザイセンチュウ・ニセマツノザイセンチュウの9種のマツ樹液に対する集合。両種の嗜好性は似るが、寄生の抵抗性と関係なさそう。
16	二井一禎	1980	16. 二井一禎: Population dynamics of <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> (Nematoda: Aphelenchoididae) and <i>B. mucronatus</i> in pine seedlings.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	15(4)458-464.	マツノザイセンチュウ・ニセマツノザイセンチュウのクロマツ・アカマツ接種試験。前者の増殖はクロマツでは可能、アカマツ個体では差異。後者線虫は例外を除き増殖できず。
17	二井一禎	1980	二井一禎: Studies on the affinity between pine wood nematode and their hosts.	京都大学農学部	130 pp.	Thesis
18	後藤 昭	1980	作物を診断する 2. 害虫診断.	化学と生物	18(9)648-652.	線虫を含む害虫の被害、診断法の解説
19	後藤 昭	1980	稲作主要病害の発生生態・診断・対策:センチュウ類	今日の農業	24巻4:253-254.	イネシシガレセンチュウ・乾田直播栽培におけるイネシシトセンチュウを扱う
20	萩谷俊一	1980	ダイズシストセンチュウとキタネグサレセンチュウの混合接種とダイズの生育及び両種の土壌中における密度の変化	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	27:167-168.	前者の増殖によって後者の存在は正の作用、後者にとっては前者は負の作用。
21	橋本平一	1980	マツノザイセンチュウを接種したクロマツの形成層活動の変化.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:123.	講要
21.1	橋本平一	1980	マツノザイセンチュウを接種したクロマツの形成層活動の変化.	日林論(日本林学会大会論文集)	91回:367-370.	樹体の水分ストレス発現以前に形成層活動低下。
22	橋本平一	1980	材線虫病罹病マツの木部に見られる呈色反応について.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	33:163-164.	放射線細胞にみられる澱粉・脂質・細胞の壊死およびファストデリンによる染色性。
23	橋本鋼二	1980	大豆の耐病虫性育種の現状と問題点:ウイルス病およびダイズシストセンチュウ抵抗性育種を中心として.	育種学最近の進歩	21:104-112.	背景、抵抗性品種の検索、寄生性の地域差、下田不知系の限界等。
24	平野和弥	1980	線虫 In: 日本植物病理学史.	日本植物病理学会、東京	p. 59-65.	線虫の発見と研究の流れ。主要な植物寄生性線虫のグループ別に研究の歴史を述べる。
25	Holdeman, Q. L.	1980	The pine wood nematode (<i>Bursaphelenchus lignicolus</i> Mamiya & Kiyohara, 1972) and the associated pine wilt disease of Japan. (Prepared for Department of Food and Agriculture and Agriculture Commission of California)	Sacramento, CA	45 pp.	未見
26	細田隆治・小林一三	1980	マツノザイセンチュウの材線虫保持数の年次・季節変化.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	31回:227-229.	1975年頃より増加傾向。
27	細野隆次	1980	A study of morphology of <i>Caenorhabditis elegans</i> : a mutant of <i>C. elegans</i> with dumpty and temperature-sensitive roller	J. exper. Zool. (Journal of Experimental Zoology)	213(1)61-67.	未見。突然変異体と野生型の交配により、該当遺伝子の染色体上での位置を決定。
28	細野隆次・Sato, Y.・Aizawa, S.・Mitsui, Y.	1980	Age-dependent changes in mobility and separation of the nematode <i>Caenorhabditis elegans</i> .	Exper. Geront. (Experimental Gerontology)	15(4)285-289.	未見。老化に伴う運動性の変化を検討。

29	一戸 稔	1980	コショウ病害とネコブセンチュウ:ブラジル国アマゾン3年の記録.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	31:1-8.	アマゾンのコショウの線虫対策としての対抗植物の利用、イネ科草本の敷草、薬剤(フラダン、テミック)処理の比較。次の論文も参照。一戸 稔(1985) Integrated control of the root-knot nematode, <i>Meloidogyne incognita</i> , on black-pepper plantations in the Amazon region. <i>Agr. Ecosyst. Env.</i> 12(1984/1985)271-283.
30	一戸 稔	1980	Nematodes and their control in Japan.	Agriculture Asia, Spec. Issue	11: 328-333.	日本の線虫相、被害、防除を解説。
31	池田武文・須崎民雄	1980	樹木の通導抵抗に関する研究(II) マツノザイセンチュウ接種クロマツの水分通導の変化について。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:122.	講要
32	池田俊弥・尾田謙夫	1980	アゼトン注入木および線虫接種木のマツノマダラカミキリに対する誘引性発現について。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:116.	講要
33	今村和夫	1980	黒点米の発生原因究明に関する研究 第1報 イネシシガレセンチュウとの関係。	北陸病虫研報(北陸病虫研究会報)	28:40-42.	両者の関係は不明瞭。
34	今村和夫	1980	黒点米の発生原因究明に関する研究 II ヒルガタムシとの関係。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:107.	講要
35	稲垣春郎	1980	ジャガイモシストセンチュウの新発生と対策研究。In: 植物防疫三十年のあゆみ。	日本植物防疫協会、東京	p. 358-361.	発生・分布、伝播経路、パソタイプ、症状、被害、生理・生態、防除。
36	稲垣春郎	1980	Utilization of resistant variety under IPM scheme in controlling soil-borne pests.	Abst. XVth Internat. Congr. Entomol., Kyoto, Japan, 3-9, Aug.		講要
37	稲垣春郎・梅村芳樹・西部幸男・氣賀沢和男・島山国土	1980	ベア塊茎検定法:ジャガイモシストセンチュウ抵抗性個体選抜の1方法。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:100.	講要
38	石川昌哉・金子章・首藤技博・波辺博泰	1980	マツの精油成分のマツノザイセンチュウに対する誘引作用について。	農化(日本農業化学会誌)	54(11):1130.	講要
39	石川元一	1980	水田転換畑における線虫の発生変動とその被害。	埼玉農試研報(埼玉県農業試験場研究報告)	36:11-19.	地下水位とダイズシストセンチュウ、キュウリ・ヤマノイモのネコブセンチュウ密度、転換畑の線虫の種類と発生消長、畦畔に生息する線虫と水田転換畑の線虫密度。
40	伊藤整志・石橋信義	1980	水田の線虫相ならびに田面水動物に及ぼす除草剤施用の影響。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:110.	講要
41	樽谷重夫・岸洋一・佐倉詔夫・石原猛・成瀬善高	1980	マツノザイセンチュウ抵抗性母樹に対する接種試験(II)。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:122.	講要
41.1	樽谷重夫・岸洋一・佐倉詔夫・石原猛・成瀬善高	1980	マツノザイセンチュウ抵抗性母樹に対する接種試験(II)。	日林論(日本林学会大会論文集)	91回:365-366.	若い樹齢ほど抵抗性強い。枯損皆無の産地もあった。
42	片山 順・丹羽弘道・植村則大・水音次郎・鈴木久弥・片岡光信・高橋克征・片山亮司・中川卓郎	1980	ナスの新材木による長期栽培体系の確立に関する研究 第2報 材木の耐病虫性及び生産性の検討。	京都農試研報(京都府農業試験場研究報告)	9:9-18.	ネコブセンチュウに対しキシカリウは強い抵抗性、トルバムは比較的抵抗性。
43	加藤保博・佐藤清・俣野修身・後藤真康	1980	Alkylation of cellular macromolecules by reactive metabolic intermediate of DBCP.	農業誌(日本農業学会誌)	5(1)45-53.	DBCPの代謝生理、作用機構
44	加藤保博・佐藤清・原田孝則・牧伸一・俣野修身・後藤真康	1980	Correlation between macromolecular binding of DBCP-metabolite and pathogenicity of necrosis.	農業誌(日本農業学会誌)	5(1)81-88.	DBCPによる生体高分子物質のアルキル化と細胞との関係をラットで試験。
45	河津一儀・西井良樹・石井清美・多田幹郎	1980	A convenient screening method for nematocidal activity.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	44(3)631-635.	殺線虫剤のスクリーニング法として線虫の餌となる菌の被摂食度による方法を提案。この方法で植物のメタノール抽出物質の活性を試験。ノアザミに強い殺線虫活性。
46	河津一儀・西井良樹・中島修平	1980	Two nematocidal substances from roots of <i>Cirsium japonicum</i> .	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	44(4)903-906.	ノアザミの根から抽出した殺線虫成分をtridec-1-ene, 3, 5, 7, 9, 11-pentayneと9-10-epoxy-xeptdea-16-ene-4, 6-diyne-8 olと同定。他に別の有機物からの線虫増殖阻害物質。
47	岸 洋一	1980	茨城県におけるマツノザイセンチュウによるマツ枯損と防除に関する研究。	茨城県林試研報(茨城県林業試験場研究報告)	11:1-83.	線虫の関与しない枯損、マツノザイセンチュウ・ニセマツノザイセンチュウの関与する枯損、カミキリの生態、枯損木の伐倒駆除、生立木に対する予防散布、樹幹注入、抵抗性選抜育種。
48	北沢矩良	1980	マツノザイセンチュウ被害経過と防除効果(老齢林と壮齢林比較)。	茨城県病虫研報(茨城県病虫研究会報)	19:5-8.	関東林木育種場周辺の枯損の経過
49	小林義明	1980	芝草を害する線虫。	芝草研究	9(1)43-51.	種類・生態、米国における主要線虫とその被害、わが国における芝草の線虫(九州、静岡県)、防除効果。
50	古賀成司	1980	施設野菜畑の連作とネコブセンチュウの発生消長。	今日の農業	24巻8:20-23.	スイカを主とした連作と線虫密度、トウモロコシで増加、落花生・休閑で低下。
51	古賀成司・古閑孝彦	1980	施設スイカ畑の連作におけるサツマイモネコブセンチュウの発生消長。	九病虫研報(九州病害虫研究会報)	26:153-155.	キュウリ、レタス、トウモロコシは線虫密度を高め、急性萎凋病を誘発。ラッカセイと休閑は線虫密度・病害発生を抑制。
52	近藤栄造	1980	ネマトーダ。In: 昆虫実験法:材料・実習編(吉武成美・松本善明ほか 編)	学会出版センター、東京	p. 84-90.	線虫分離法、培養手順、細菌・糸状菌・カルスによる線虫の増殖。
53	栗原 毅・前田龍一	1980	Observations on the development of the nematode parasite <i>Romanomeris curcivorax</i> in pupal and adult <i>Culex molestus</i> mosquitoes.	Mosquito News	40(4)643-645.	未見
54	真宮靖治	1980	マツノザイセンチュウの接種による当年生アカマツ苗の発病とその病態解剖	日林誌(日本林学会誌)	62(5)176-183.	線虫接種後の樹体組織変化を時間を追って観察
55	真宮靖治	1980	マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリ蟻室周辺への集中とその時期	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:114.	講要
56	真宮靖治	1980	アメリカ合衆国におけるマツノザイセンチュウの発見。	森林防疫	29(3)54-58.	発見の経過と対応、日本への渡来経にふれる。フランスにおけるニセマツノザイセンチュウの分布を含む。
57	真宮靖治	1980	57. 真宮靖治:アメリカ合衆国におけるマツノザイセンチュウの発見(補遺)。	森林防疫	29(4)75-76.	アメリカ国内の分布の最新情報。
58	真宮靖治	1980	Pine wilt involving a nematode, <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> , and a cerambycid beetle, <i>Monochamus alternatus</i> .	Proc. XVth Internat. Congr. Entomol., Kyoto, Japan, 3-9 Aug.		講要
59	真宮靖治	1980	Pine wilt and pine wood nematode: histopathological aspects of disease development.	Workshop Genet. Hosp. Para. Interact., in Forestry, Wageningen, The Netherlands, 11-21 Sept., 1980.	13 pp. + 4pls.	講要。No. 82-81を参照。
60	真宮靖治	1980	マツノザイセンチュウの渡来説について。	現代林業	171:76-77.	アメリカでの材線虫の発見、分布、被害状況。
61	松田幹男・堀江正樹・本田勝雄・志村英二	1980	畑輪作に関する研究 第11報 42年間にわたる連・輪作方式における畑作物収量の推移について。	日作紀(日本作物学会記事)	49(4)548-558.	ダイズの線虫害にふれる。
62	松浦邦昭	1980	薬剤樹幹注入によるマツ枯損防止。	森林防疫	29(9)165-168.	テラクアP、ネマホスの効果。
63	松浦邦昭	1980	浸透性薬剤の単木埋理によるマツノザイセンチュウ防除。	今日の農業	24巻10:82-86.	フェンスルフォチオン、チオナジンの樹幹注入技術、効果、ダイズシストの土壌処理効果。
64	松浦邦昭・柏司・真宮靖治	1980	浸透性薬剤処理木の枝部における薬剤検出量とマツノザイセンチュウに対する効果。	農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	5回:244.	未見。講要。
65	皆川 望	1980	九州産 <i>Coniconema</i> 属線虫の分類学的検討。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:106.	講要
66	百田洋二	1980	線虫の素顔:シストセンチュウ。	農業	27巻2:32-35.	ダイズシスト、ムギシスト、イネシスト、ジャガイモシストセンチュウの走査電子顕微鏡観察および生態、防除に関する解説
67	百田洋二	1980	線虫の素顔:ネコブセンチュウ。	農業	27巻4:34-37.	走査電子顕微鏡による形態観察および生態、防除に関する解説。

68	百田洋二・後藤昭	1980	ジャワネコブセンチュウの各種作物に対する寄生性.	関東病虫研報(関東山病害虫研究会年報)	27:165-166.	ミツバ、ラッカセイ、トウモロコシ、ダイコン、サトイモは密度抑制。
69	百田洋二・稲垣春郎	1980	ダイズシストセンチュウ3レースの形態比較.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:107.	講要
70	中島康博・小河誠司	1980	亜硫酸ガスによるマツの急性害と材線虫病.	森林防疫	29(4)68-72.	症状の進行過程の比較.
71	中島康博・小河誠司	1980	SO ₂ 急性被害木と材線虫接種木のヤニの出方について.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	33:161-162.	症状にかなりの差.
72	中園和年	1980	ブラジルにおける線虫問題. 研究の環状と問題点.	熱研集報(熱帯農業研究集報)	36:25-34.	コーヒーネコブセンチュウの研究史、主要作物の検地線虫. 線虫研究の重要性.
73	中園和年	1980	Studies on postembryonic development of the reniform nematode, <i>Rotylenchulus reniformis</i> Linford and Oliveira (Nematoda: Rotylenchulidae). II. Development of the reproductive system in larvae of the parthenogenetic population.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	15(4)425-432.	ニセフクロセンチュウの生殖原基の発達過程を観察.
74	中園和年・Lordello, R. R.・Monteiro, A. R.・Lordello, L. G. E.	1980	Desenvolvimento das raízes de cafeeiros novos transplantados e penetracao por <i>Meloidogyne exigua</i> . In: Trabalhos apresentados a IV Reuniao Brasileira de Nematologia, 16-20 de julho de 1979, Sao Paulo. Publ. No. 4 (Ed. L. G. E. Lordello).	Piracicaba, SP, Brazil; Soc. Braz. Nematol.	p. 33-46.	ネコブセンチュウ接種によるコーヒー樹根系の変化.
75	中園和年・Monteiro, A. R. & Lordello, L. G. E.	1980	ブラジル・サンパウロ州のサトウキビ圃場における線虫類の重直分布.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:105.	講要
76	中里肇二	1980	夏期ハウス密閉による土壌センチュウ防除.	今日の農業	24巻8:16-20.	ネコブセンチュウ密度、キュウリの生育・収量に対する効果.
77	中里肇二・湯本勇・木暮幹夫	1980	夏期ハウス密閉による土壌線虫の防除.	関東病虫研報(関東山病害虫研究会年報)	27:169-170.	群馬県においてもネコブセンチュウに実用化可能.
78	西 泰道	1980	野菜における連作障害対策.	農林水産研究ジャーナル(農林水産技術研究ジャーナル)	3巻3:22-25.	線虫を含む原因の分析と対策
79	西沢 務	1980	対抗植物・天敵利用による土壌線虫防除.	農及園(農業および園芸)	55(1)125-130.	線虫の総合防除法確立の素材として、対抗植物及び天敵類について解説.
80	西沢 務	1980	多発が予想される土壌線虫と防除法.	農業富民	52巻7:63-65.	ネコフ、シスト、ネグサレセンチュウの被害と防除.
81	西沢 務	1980	天敵胎子虫接種に伴うサツマイモネコブセンチュウの年次密度変化.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:104.	講要
82	野川富雄・推名清治	1980	野菜畑地力維持のためのソルゴーの利用.	今日の農業	24巻7:100-104.	青刈りソルゴーの栽培・すき込みでネグサレセンチュウは増加、ネコブセンチュウは減少.
83	小芦健良	1980	サトイモのネグサレセンチュウに関する研究第1報. 種いも消毒と水田土壌での栽培を組み合わせた健全種いもの確保.	九病虫研報(九州病害虫研究会年報)	26:149-152.	薬剤消毒種いもの水田栽培が良質の種いも生産に有効. 種いもの吸収根は早期切除が肝要.
84	小河誠司・萩原幸弘	1980	材線虫病によるマツ枯損被害拡大の様相について.	森林防疫	29(6)115-117.	福岡県筑後平野における被害の拡大経過.
85	岡田利承	1980	茶園における線虫類の垂直分布.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:105.	講要
86	岡本好一	1980	HCN-781粒剤のサツマイモネコブセンチュウ防除効果.	関東病虫研報(関東山病害虫研究会年報)	27:174-175.	効果あり.
87	岡本好一・八重樫隆志	1980	サツマイモネコブセンチュウ数系統の走査型電子顕微鏡観察.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:108.	講要
88	奥 八郎・白石友妃・黒住繁久・太田 宏	1980	マツの枯損とマツノザイセンチュウの代謝毒素.	森林防疫	29(1)3-6.	No. 79-108, 80-90を参照.
89	奥 八郎・白石友妃・黒住繁久・太田 宏	1980	Pine wilt toxin, the metabolite of a bacterium as associated with a nematode.	Naturwissenschaften	67(4)198-199.	No. 79-111でマツノザイセンチュウにより生産されるとした毒素を線虫に随伴するPseudomonas菌によるものと訂正.
90	大羽克明	1980	Caenorhabditis elegansの生存と老化. Axenic cultureにおけるdauer larvaeとその2, 3の性質.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:101.	講要
91	大庭喜八郎	1980	Breeding of pines for resistance to the wood nematode, <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> Mamiya et Kiyohara.	Workshop on Genetics of Hot-Parasite Interactions in Forestry, Wageningen, The Netherlands, 11-12 Sept., 1980.	p. 159-161.	講要. No. 82-116を参照.
92	大西●■(●:戸の下に主)(■:個の古の代わりに音)	1980	ジャガイモシストセンチュウの発生と防除対策. In: 植物防疫三十年のあゆみ	日本植物防疫協会、東京	p. 159-161.	線虫の発見、発生状況、防除対策.
93	大島康臣・八尋健・岩田岩保	1980	サトイモ連・輪作圃場におけるミナネグサレセンチュウの動態.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:103.	講要
94	太田 明	1980	マツ樹体表面に施用された薬剤の樹体内移動.	日林園西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	31回:258-260.	ネマフォス、スミチオン、7751、チオナジン施用
95	大山浪雄・白石進	1980	マツノザイセンチュウ病抵抗性マツの特性.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	33:205-206.	強抵抗性マツでは線虫が増殖しにくい.
96	佐保春芳	1980	被害丸太からザイセンチュウを駆除する試案.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	90回:118.	講要
96.1	佐保春芳	1980	被害丸太からザイセンチュウを駆除する試案.	日林論(日本林学会大会論文集)	91回:355-356.	スルファミン酸アンモニウムと食塩を施用し、Dimethyl Sulfoxideを加えることにより防除効果を高める.
97	作山 健・佐藤平典	1980	マツの材線虫病によって翌年に枯れた事例.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	32:206-207.	部分枯れにおけるマツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウの検出部位.
98	佐野善一	1980	低温期土壌の加温がMeloidogyne incognitaとHelicotylenchus dihystraの分離に及ぼす影響.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:101.	講要
99	佐野善一・皆川望・大島康臣	1980	1, 3-dichloropropene含有率を異にする2種製剤のサツマイモネコブセンチュウとミナネグサレセンチュウに対する効果.	九病虫研報(九州病害虫研究会年報)	26:156-158.	有効成分を多く含むテロンIIの効果はD-Dに勝る. 防除型は注入点を囲む球形
100	佐々木 浩	1980	樹幹注入等によるマツノザイセンチュウ防除試験.	徳島林総技研報(徳島県林業総合技術センター報告)	18:67-72.	バイジット、サイアノックス、テラキュアPの樹幹注入. ダイソン、ランネットの土壌施用
101	佐藤平典・作山健	1980	マツの材線虫病の被害木以外による伝播の可能性.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	32:210-211.	マツカレハ被害と異常乾燥の影響が加わる.
102	関 節郎・中里肇二	1980	群馬県におけるネコブセンチュウとネグサレセンチュウの分布種.	関東病虫研報(関東山病害虫研究会年報)	27:163-164.	ジャワネコブ、サツマイモネコブ、キタネコブ、アレナリアネコブ、リンゴネコブセンチュウ、キタネグサレ、クルミネグサレセンチュウ、Pratylenchus sp. (クワ)を検出.
103	柴本 精	1980	マリールドによるレタスのキタネグサレセンチュウ防除.	今日の農業	24巻8:24-26.	栽培跡地ではD-D剤施用より線虫密度低下・増収効果が持続.
104	柴本 精・萩原博司・藤沢恒夫	1980	マリールドによるレタスのミナネグサレセンチュウ防除効果.	関東病虫研報(関東山病害虫研究会年報)	27:172-173.	D-D剤より効果持続.
105	清水 啓	1980	イネシストセンチュウの増殖と温度の関係.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:102.	講要
106	新須利剛・坂口莊一・小川義雄	1980	イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第2報 太陽熱による定植前土壌消毒の発症防止.	九病虫研報(九州病害虫研究会年報)	26:48-51.	効果はクロロピクリン処理に匹敵.
107	新須利剛・小川義雄・堀口莊一	1980	イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第3報 数種薬剤による生育期土壌処理の発症防止効果.	九病虫研報(九州病害虫研究会年報)	26:51-54.	定植活着後の殺線虫剤と殺菌剤の併用処理は防除に著効.
108	庄司次男・早坂義雄・石原登志	1980	宮城・福島両県のマツ類材線虫病の分布と東北地方におけるそのまん延の可能性.	森林防疫	29(7)122-126.	昭和54年までの線虫の地理的分布、東北地方全域で蔓延する可能性.
109	首藤義博・碓井あや・渡辺博泰	1980	松葉汁中でのcatecholの生成と松に対する毒性について.	農化(日本農業化学会誌)	54(12)1130.	講要

110	杉山 浩	1980	Effects of EDB (1, 2-dibromoethane) on silkworm (<i>Bombyx mori</i> L.).	農業誌 (日本農業学会誌)	5(4):599-602.	局所塗布、EDB処理桑葉の添食では死亡しないが、気密容器中での蒸気暴露によって死亡.
111	杉山長美・山下 恭平	1980	Synthesis and absolute configuration of nematocidal constituent of <i>Cirsium japonicum</i> .	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	44(8):1983-1984.	ノアザミ根中の殺線虫成分の合成と絶対立体構造の決定
112	鈴木和夫	1980	軟又線による材線虫の病徴観察.	日林西支講 (日本林学会関西支部大会講演集)	31回:239-240.	樹皮を含む主軸の幅と木質部の幅の比を指標とする. 線虫増殖期には値は低下
113	高橋兼一・橋本 光司・浅川三郎	1980	ビニールハウスでの太陽熱利用によるマツマイモネコブセンチュウの防除(1).	関東病虫研報 (関東東山病虫研究会年報)	27:171.	クロルピクリンより高い効果. 稲葉・石灰窒素添加の効果も同様.
114	竹下敬司・小河 誠司	1980	マツ林の枯損分布 (マツノザイセンチュウ病による) の地理的パターンと風向との関係.	日林大会講演集 (日本林学会大会講演集)	90回:127.	講要
114	竹下敬司・小河 誠司	1980	マツ林の枯損分布 (マツノザイセンチュウ病による) の地理的パターンと風向との関係.	日林論 (日本林学会大会論文集)	91回:381-382.	風向は伝播に大きな役割を有していると推定
115	竹下 努	1980	クロマツ小径木の伐採時期とマツノマダラカミキリ・材線虫の寄生状況.	日林西支講 (日本林学会関西支部大会講演集)	31回:233-235.	防伐適期は10月から翌年2月まで.
116	竹下 努	1980	クロマツ小径木の伐採時期とマツノマダラカミキリ・材線虫の寄生状況.	鳥取林試研報 (鳥取県林業試験場研究報告)	23:34-38.	材線虫の病原増殖源とならない防伐時期は10月から翌年2月.
117	田村弘志	1980	材線虫捕獲菌その後の検出.	森林防疫	29(2):39-42.	Arthrotrichy 2種と、 <i>Dactylaria polycephala</i> を検出.
118	田村弘志・遠田 暢男	1980	マツノマダラカミキリから検出された線虫捕食性ダニの生活史.	日林誌 (日本林学会誌)	62(8):301-307.	マツノザイセンチュウ、 <i>Panagrellus</i> sp. を餌とした4種のダニの発育・産卵と温度の関係
119	田村弘志・遠田 暢男	1980	マツノマダラカミキリの蛹室および成虫から検出される中気門類ダニ.	応動昆 (日本応用動物昆虫学会誌)	24(2):54-61.	線虫捕食性を含む3種のダニを検出. カミキリ体内のマツノザイセンチュウ数とダニの数の間には高い相関なし.
120	田中恵子・東條 純夫	1980	ポリアクリルアミドゲル電気泳動法によるマツマイモネコブセンチュウ可溶性蛋白質の分離.	応動昆大会講要 (日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:103.	講要
121	戸田忠雄	1980	精英樹家系のマツノザイセンチュウ抵抗性.	林木の育種	115:21-22.	アカマツ、クロマツ家系中にも強い抵抗性のあるものがある.
122	戸田忠雄・藤本 吉幸・西村慶二・丸慶八郎	1980	苗齡のちがいで線虫系統の加害性について.	日林九支研論 (日本林学会九州支部研究論文集)	33:199-200.	マツノザイセンチュウ19系統のアカマツ、クロマツ、テマツへの加害性の差異.
123	戸田忠雄・西村 慶二・藤本吉幸	1980	アカマツ・クロマツ精英樹家系等のマツノザイセンチュウ抵抗性.	日林九支研論 (日本林学会九州支部研究論文集)	33:207-208.	家系により抵抗性に明らかな差.
124	土屋大二	1980	東京都におけるマツノザイセンチュウの分布とその被害状況.	東京農試研報 (東京都農業試験場研究報告)	13:130-135.	島嶼部 (伊豆諸島) を含んだ分布
125	上野吉雄・尾崎 純一・弥富幸三	1980	フェニル酢酸および桂皮酸誘導体の殺線虫効果.	応動昆大会講要 (日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:109.	講要
126	渡辺恒男	1980	A new variety of <i>Verticillium sphaerosporum</i> , an endoparasite of nematodes and its antagonism to soil-	日植病報 (日本植物病理学会誌)	46(5):598-606.	新変種 <i>V. sphaerosporum</i> var. <i>bispora</i> の記載と線虫に対する寄生性. 土壌菌類91菌株に対する拮抗作用の検討.
127	八重樫隆志・岡本 好一	1980	ネコブセンチュウ5種の真正面像の分類学的検討.	応動昆大会講要 (日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:108.	講要
128	矢木 勉・林 和彦	1980	神戸市須磨浦公園における薬剤土壌施用によるマツ枯損防止の試み.	森林防疫	29(9):159-165.	ダイシストン、ランネット施用
129	山田英一	1980	ジャガイモシストセンチュウの生態と防除.	植物防疫	34(2):49-59.	1972年に発見された北海道のジャガイモシストセンチュウの分布拡大、種とレース、発生生態と被害、防除法に関する試験結果の紹介. 輸作、抵抗性品種および薬剤処理等による総合防除の重要性を指摘.
130	山川邦夫	1980	野菜の病害抵抗性育種の現状と今後の方向.	農林水産研究ジャーナル (農林水産技術研究ジャーナル)	3巻3:16-21.	ネコブ、ネグサレセンチュウ抵抗性にふれる.
131	山川邦夫	1980	わが国におけるトマト耐病性品種育成の現状.	今日の農業	24巻13:68-71.	ネコブセンチュウ抵抗性を含む.
132	山内政臣	1980	湯湯液浸漬による苗木・球根の消毒方法の確立に関する試験.	植防疫報 (植物防疫所調査研究報告)	16:109-119.	カエデ、ツツジ苗木の湯湯液浸漬処理の効果を含む.
133	山崎和雄・高橋 栄治・相原孝雄・湯原 巖	1980	連作畑のツツジの生育及び線虫に対するクロルピクリン、パーク堆肥の影響.	関東病虫研報 (関東東山病虫研究会年報)	27:176-177.	ユミハリ、イシユクセンチュウ等を検出. 上記の処理により生育良好となる.
134	山崎秀一	1980	新潟県におけるマツ材線虫の現状とその対策.	森林防疫	29(2):226-229.	被害の特徴、線虫の県内分布、生息環境 (標高)、防除対策.
135	米田公生・勝又 淳・齊木 博・橋 啓介・辰見修三	1980	A nematode-trapping fungus detected in pine sap.	日林誌 (日本林学会誌)	62(6):227-229.	線虫捕食菌 <i>Dactylella leptospora</i> をマツの樹液から検出.
136	吉田光二・小川 典子・熊田泰一	1980	ある施設栽培土壌におけるミズズミ、センチュウおよび有機物含量の経時的変化.	土肥誌 (日本土壌肥料学雑誌)	51(4):348-350.	線虫 (未同定) は厩肥施用1月後に増加.
137	吉井太門・鈴木 栄太郎	1980	クワおよびキボシカミキリ成虫から分離される線虫.	日蚕講要 (日本蚕糸学会大会講演要旨集)	50:19.	講要
138	吉井太門・鈴木 栄太郎	1980	クワから分離した線虫の培養とクワへの接種.	日蚕講要 (日本蚕糸学会大会講演要旨集)	50:20.	講要
139	吉村克生	1980	Free-living marine nematodes from Kii Peninsula. I.	Publ. Seto Mar. Biol. Lab. (Publications of Seto Marine Biological Laboratory)	25(1/4):39-49.	<i>Thalassironus britannicus</i> , <i>Anticomma trichura</i> , <i>A. elegans</i> (新種), <i>Enoplus michaelsoni</i> を和歌山県から記載.
140	吉村克生	1980	Five species of the genus <i>Eurystomina</i> Filipjev, 1921.	Publ. Seto Mar. Biol. Lab. (Publications of Seto Marine Biological Laboratory)	25(5/6):373-387.	和歌山県白浜、沖繩からの海棲線虫. <i>E. parva</i> , <i>E. pareurylaima</i> , <i>E. setosa</i> (以上3種は新種), <i>E. indica</i> , <i>E. ophthalmomorpha</i> を記録.
141	湯浅 茂	1980	線虫のシタケ害菌防除機能に関する実態調査.	徳島林総技セ研報 (徳島県林業総合技術センター報告)	18:28-37.	未同定の線虫の検出数等.
142	湯原 巖・相原孝雄	1980	小型サイクロンの利用によるシストセンチュウ類のシスト検出法について.	応動昆大会講要 (日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	24回:100.	講要
143	結田康一・渋谷 政夫・福川利玄・鈴木喜代志	1980	ハウス栽培野菜の臭化メチル農薬に起因する臭素残留の実態:宮崎県下の農家ハウスの事例.	土肥誌 (日本土壌肥料学雑誌)	51(1):43-47.	国際残留基準を越えるものが少なかった.
0		1981	昭和56年(1981)			
1	阿部恭洋・百武 一真	1981	佐賀県におけるイチゴのクムネグサレセンチュウによる被害実態と防除.	九病虫研報 (九州病虫研究会報)	27:102-103.	線虫の密度消長と根腐萎凋症との関係. 水稲栽培で線虫防除および発症防止が可能.
2	相原孝雄・湯原 巖・山崎和雄	1981	ツバキ科3種種物から発見された本邦産 <i>Meloidogyne camelliae</i> Goldenf. について.	日線虫研誌 (日本線虫研究会誌)	10:8-15.	神奈川県下のツバキ、サザンカから検出. 本種を日本から初記録、形態計測値と特徴をせしめず. 関東他方を中心に分布
3	相原孝雄・湯原 巖・山崎和雄	1981	<i>Meloidogyne camelliae</i> の年間発生消長及び数種草本植物への寄生性.	応動昆大会講要 (日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:140.	講要
4	青田彦彦・谷井 昭夫・赤井 純	1981	アズキ落葉病と線虫の関連について.	日植病報 (日本植物病理学会誌)	47(1):99-100.	講要
5	青柳実智子・石 橋信義	1981	マツノザイセンチュウ雌成虫の産卵ならびに寿命と交尾との関係.	応動昆大会講要 (日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:137.	講要
6	在原登志男	1981	材線虫被害丸太を製材したとき厚さがマツノマダラカミキリ幼虫とマツノザイセンチュウの密度低下におよぼす影響.	日林東北支誌 (日本林学会東北支部会誌)	33:192-194.	厚さ3cm以下に製材して乾燥させれば線虫は完全に死滅
7	近岡一郎・藤原 俊六郎・竹沢 秀	1981	家畜糞のセンチュウ抑制効果.	関東病虫研報 (関東東山病虫研究会年報)	28:140-141.	鶏糞は豚糞・牛糞よりネグサレ、ネコブセンチュウ抑制効果大
8	De Guiran, G.・Boulbria, A.	1981	Imports and characters of <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> attacked on <i>Pinus pinaster</i> in France.	Proc. XVII IUFRO Congr.,	Dev. 2:273.	講要
9	Dropkin, V. H.・Foundin, A.・近藤 栄造・Linit, M.・Smith, K.・Robbins, K.	1981	Pinewood nematode: a threat to U.S. forest.	Plant Dis. (Plant Disease)	65(12):1022-1027.	アメリカにおけるマツノザイセンチュウ研究のまとめ及び日本との比較
10	Dropkin, V. H.・Foundin, A.・近藤 栄造・Linit, M.・Smith, K.	1981	Pine wilt associated with <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> .	Proc. XVII IUFRO Congr.,	Dev. 2:265-268.	アメリカでの防除、接種試験結果.

11	Dropkin, V. H.・ Foundin, A.・近藤 栄造・Linit, M.・ Smith, K.	1981	アメリカ合衆国におけるBursaphelenchus xylophilus(Steiner & Buhner, 1934) Nickle, 1970によるマツの材線虫病。 In: 第17回国際林業研究機関連合(IUFRO) 世界大会論文集	IUFRO組織委員会、京 都	p. 246- 248.	前報の日本語訳
12	海老根翔六	1981	マツノザイセンチュウによるオウシュウトウヒ の被害	森林防疫	30(7)117- 119.	茨城県銚田町で枯損木を確認
13	海老根翔六	1981	マツノザイセンチュウによるテーダマツ林の 枯損動態(1)3年間の経時変化	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	92回:133	講要
13.1	海老根翔六	1981	マツノザイセンチュウによるテーダマツ林の 枯損動態(1)3年間の経時変化	日林論(日本林学会大 会論文集)	92回:379- 380.	90%以上の枯損のあった林分の原因は不明
14	藤本吉幸・大庭 喜八郎	1981	The first year result of the breeding of Japanese pines for resistance to the wood nematode.	Proc. XVII IUFRO Congr.,	Dev. 2: 287-290.	材線虫抵抗性マツ育種事業の概要等
15	藤本吉幸・大庭 喜八郎	1981	マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の1年 目の結果 In: 第17回国際林業研究機関連合(IUFRO) 世界大会論文集	IUFRO組織委員会、京 都	p. 258- 260.	前報の日本語訳
16	藤本吉幸・戸田 忠雄・西村慶二・ 田島正啓	1981	産地別テーダマツのマツノザイセンチュウ抵 抗性のちがい	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	34:75-76.	8州11産地の実生で抵抗性に差
17	藤本吉幸・戸田 忠雄・西村慶二・ 田島正啓	1981	抵抗性候補木みしう家系等のマツノザイセ ンチュウ抵抗性	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	34:77-78.	アカマツ精英樹には抵抗性を示すものがあつたが、クロ マツの精英樹はおおむね線虫感受性
18	藤本吉幸・戸田 忠雄・西村慶二・ 田島正啓	1981	タイワンアカマツにおけるマツノザイセンチュ ウ抵抗性のクローン間差	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	34:81-82.	明瞭な差
19	藤本吉幸・戸田 忠雄・田島正啓・ 大山浪雄・白石	1981	抵抗性育種からみたマツノザイセンチュウ の加害性の変異	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	92回:94	講要
19.1	藤本吉幸・戸田 忠雄・田島正啓・ 大山浪雄・白石	1981	抵抗性育種からみたマツノザイセンチュウ の加害性の変異	日林論(日本林学会大 会論文集)	92回:293- 294.	15系統の加害性。エステラーゼパターンに差
20	福井俊男・小玉 孝司・中西喜徳	1981	太陽熱とハウス密閉処理による土壌消毒法 について IV. 露地型被覆処理による土壌 伝染性病害虫に対する適用拡大	奈良農試研報(奈良県 農業試験場研究報告)	12:109- 119.	ビニルまたはポリエチレンマルチによりカタネグサレ、 サツマイモネコブセンチュウへの時間短縮処理の効 果
21	二井一禎	1981	マツノザイセンチュウ及びニセマツノザイセ ンチュウの侵入率に及ぼす密度の影響	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	25回:138.	講要
22	後藤 昭	1981	連作障害と土壌線虫及び線虫関連病害 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 34-38.	線虫が連作障害発生の主因、部分要因及び誘因とな る事例を概説
23	後藤 昭	1981	土壌線虫の耕種的・生物的防除 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 172- 177.	事例を示して講義を解説。線虫の増殖度の高い作物、 および低い作物について主要線虫別に表示
24	後藤 昭	1981	各種作物の連作障害と土壌線虫 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 327- 328.	線虫による連作障害症状、その発生条件、現在の対策 技術・問題点の総説
25	後藤 昭	1981	根菜類の連作障害と土壌線虫 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 373- 377.	ダイコン、ニンジン、ゴボウ、ショウガのネコブセンチュ ウ類、およびカタネグサレセンチュウによる被害、症 状、発生条件、対策技術、今後の研究問題
26	後藤 昭	1981	牧草・飼料作物の連作障害と土壌線虫 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 381- 384.	マメ科とイネ科の作物で、ネコブセンチュウ、ネグサレ ンチュウ、クローバシセンチュウが問題。障害、症 状、被害、対策、今後の研究問題に言及
27	後藤 昭	1981	サトウキビの連作障害と土壌線虫 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 384- 386.	南西諸島で18属以上の寄生性線虫の記録。サツマイモ ネコブ、ジャワネコブセンチュウ、リュウキュウイシク、 ナミラセンチュウによる被害、症状がよく知られる。 対策、今後の研究問題に言及
28	後藤 昭	1981	研究成果の概要:研究室の歩み:環境部虫 害第2研究室 In: 農事試験場研究史	農事試験場、鴻巣	p. 172- 178.	研究テーマ等の移り変わり
29	後藤 昭	1981	南の線虫、北の線虫	農業	28巻1:44- 47.	ネコブ、ネグサレセンチュウの地理的分布
30	橋本平一	1981	マツの材線虫病に罹病したクロマツ苗の生 理反応の変化、とくに根系の機能について	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	34:187- 188.	生きた根系を保っている内は水ストレスは起こりにく い
31	橋本平一	1981	マツの材線虫の病の治療効果について	日林九支研論(日本林 学会九州支部研究論 文集)	34:189- 190.	メソミル剤施用効果
32	橋本平一・高木 治・佐々木重	1981	マツの材線虫の病の治療効果について	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	92回:132	講要
32.1	橋本平一・高木 治・佐々木重	1981	マツの材線虫の病の治療効果について	日林論(日本林学会大 会論文集)	92回:373- 375.	メソミル水剤の土壌灌注、微粒剤の土壌混入で効果
33	早坂義雄・尾花 健吾・勝又敏 彦・志水勝彦	1981	宮城県におけるマツ類材線虫の分布につ いて(第2報)	日林東北支誌(日本林 学会東北支部会誌)	33:146- 150.	1975-80年の分布の拡大
34	早坂義雄・尾花 健吾・滝沢幸 雄・庄司次男	1981	宮城県石巻におけるマツ材線虫の枯損 動態(1)自然感染木の病徴発現時期と穿 孔虫の寄生状況	日林東北支誌(日本林 学会東北支部会誌)	33:166- 168.	6-11月に全枯損木の60%、残りの39%は翌年に枯れ た。マツノマダラカミキリ、クロキボンノウムシを検出
35	林 雅俊・和田弘 次郎・宗像 桂	1981	New nematocidal metabolites from a fungus, Irpex lacteus.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	45(6) 1527- 1529.	カビの生産する殺線虫物質の3成分を分離し、構造を 決定
36	細野隆次	1981	線虫C. elegansを用いた生物学の展開	科学	51(9)570- 576.	基礎生物学の実験材料としての上記線虫の紹介。生活 史、遺伝子地図、初期発生、後胚発生、神経系の研究 等を解説
37	細野隆次・久野 滋・水上 稔	1981	線虫C. elegansの運動性に影響するunc-52 遺伝子	分子生物学会	4:79.	未見。講要
38	池田俊弥・宮崎 信・尾田勝夫・山 根明臣・遠田暢 男	1981	The chemical biology of Monochamus altenuatus on the relationship with pine wood nematodes and host trees.	Proc. XVII IUFRO Congr.,	Dev.2: 297-303.	線虫のカミキリとの関係、カミキリの摂食刺激、寄主誘 引
39	池田俊弥・宮崎 信・尾田勝夫・山 根明臣・遠田暢 男	1981	マツノザイセンチュウおよび寄生木との関係 におけるマツノマダラカミキリの化学生態 学 In: 第17回国際林業研究機関連合(IUFRO)	IUFRO組織委員会、京 都	p. 264- 267.	前報の日本語訳
40	池上雅春	1981	侵入害虫:その経緯と阻止の方策	農林水産研究ジャー ナル(農林水産技術研 究ジャーナル)	4巻9:6- 10.	線虫を含む線入害虫の事例と対策
41	今井 暹・渡辺健 衛	1981	殺線虫剤による蚕の中毒被害について	日蚕関東講要(日本蚕 糸学会関東支部学術 講演会講演要旨)	32:30.	講要
42	今井 暹・渡辺健 衛	1981	殺線虫剤による中毒蚕の組織学的証明	日蚕関東講要(日本蚕 糸学会関東支部学術 講演会講演要旨)	32:31.	講要
43	稲垣春郎	1981	ダイズ・アズキの連作障害と土壌線虫 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 332- 336.	北海道・東北地方で障害要因として問題の大きいダイ ズシストセンチュウによる障害、症状、密度と被害、線 虫の発生生態、抵抗性品種、およびネコブセンチュウ・ ネグサレセンチュウ類による被害の事例。今後の研究 問題を論じた
44	稲垣春郎	1981	ラッカセイの連作障害と土壌線虫 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 336- 338.	キタネコブセンチュウが障害の主要因。土壌病原菌と の複合とみられる根系の褐変・腐敗症状を伴う。被害、 防除効果、線虫の生態、障害発生条件、対策、今後の 問題点に言及
45	稲垣春郎	1981	イチゴの連作障害と土壌線虫 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 366- 369.	地上部寄生種ではイチゴ、イチゴメ、イネシガラレ、ハガ レセンチュウ、地下部ではカタネグサレ、クルマネグサ レセンチュウが重要。障害、症状、線虫の生態、対策、 今後の研究問題等
46	稲垣春郎	1981	46. 稲垣春郎:ハッカの連作障害と土壌線 虫 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 392- 394.	北海道でピンセンチュウ、カタネグサレセンチュウが寄 生。前者の被害が重要。障害、症状、線虫の生態、障 害の発生条件、対策、今後の研究問題を解説。関連病 害も等関視できない

47	稲垣春郎	1981	植物寄生性線虫のレースをめぐる諸問題: 日本産ダイズシストセンチュウのレース	植物防疫	35(2)53-56.	日米におけるレースの研究、日本産のレース調査結果(1,3,5(新))、今後の問題点
48	稲垣春郎	1981	ジャガイモシストセンチュウ: 侵入経過と今後の問題点	農林水産研究ジャーナル(農林水産技術研究ジャーナル)	4巻9:11-14.	クアノからのシストの発見、ベルー現地での調査
49	稲垣春郎	1981	Introductory reports of studies on Meloidogyne spp. in Japan.	Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-knot Nema Meloidogyne spp., Region VI.	p. 40-50.	サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウのカンヨ3品種に対する被害、26作物に対する寄生性
50	稲垣春郎・百田洋二	1981	サツマイモ3品種におけるサツマイモネコブセンチュウの被害	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:134.	講演
51	稲垣春郎・百田洋二	1981	マリネゴールド(ゴールデン・ボーイ)根圏土壌におけるキタネグサセンチュウ密度の	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	28:137-138.	捕獲作用だけでなく、根圏土壌の線虫密度低下作用も認める
52	稲垣春郎・百田洋二・清水 啓	1981	埼玉、茨城、群馬、千葉のダイズシストセンチュウのレース	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	28:130.	すべてレース3と判定
53	石橋信義	1981	植物寄生性線虫 In: 応用動物学(草野忠治、芳賀良一・森雅彦・石橋信義 共著)	朝倉書店、東京	p. 171-223.	学生向け教科書。線虫の生物学(形態、種類と分布、孵化、発育、生存)、寄主・寄生物関係、被害、防除、各種
54	石橋信義・伊藤整志	1981	除草剤ベンチオカーブの水田動物相に及ぼす影響	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	27:90-93.	線虫全種類数の減少、捕食性種の激減、植物寄生種と食菌性種の増加を認める。田面水中動物への影響も大
55	石橋信義・迫間肇・東條純夫	1981	ハスモトウに対する昆虫寄生性線虫 Neoplectana carcopapsae (DD-136) の施用効果	九病虫研報(九州病虫研究会年報)	27:124-126.	室内試験では幼虫の総てが死亡、圃場試験ではやや劣ったが、総合防除の一環として有望
56	石橋信義・東條純夫・迫間 肇・阿比留千代彦	1981	昆虫寄生性線虫 Neoplectana carcopapsae, Heterorhabditis bacteriophora の導入と今後の問題	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:122.	講演
57	石井克明・栗延晋・大庭喜八郎・古越隆信	1981	マツ属 Sylvestres 垂節節内種間雑種のマツノザイセンチュウに対する抵抗性	日林大会要集(日本林学会大会講演集)	92回:94.	講演
57.1	石井克明・栗延晋・大庭喜八郎・古越隆信	1981	マツ属 Sylvestres 垂節節内種間雑種のマツノザイセンチュウに対する抵抗性	日林論(日本林学会大会論文集)	92回:291-292.	雌親に用いるアカマツ、クロマツのクローン差も重要
58	石川元一	1981	イネシガラセンチュウによる黒点米の発生と防除	埼玉農試研報(埼玉県農業試験場研究報告)	37:27-37.	多発地域における線虫調査、線虫と黒点米の関係、野外越冬調査、環境条件と初内の線虫、防除(薬剤種子浸漬、出穂期の散布)
59	石川元一	1981	圃場におけるダイズシストセンチュウの分布	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	28:131.	連作による密度、圃場内分布の変化
60	城野 晋	1981	輪作体系を異にするハウスメロンでのサツマイモネコブセンチュウの被害動態	関西病虫研報(関西病虫研究会年報)	23:72.	レタスとの輪作が有利
61	加藤保博	1981	DBOPの毒性に関する代謝的研究	農薬誌(日本農薬学会誌)	6(3)387-395.	雄ラットにおける一般動態、組織残留物と高分子結合、高分子アルキル化と急性肝細胞壊死
62	木村仲人・青木松男・中込輝雄・河瀬明夫・岡田昭男・田中宏一	1981	モモのネコブセンチュウ抵抗性台木に関する試験(1)モモ台木の導入と抵抗性の検定	愛知農試研報(愛知県農業総合試験場研究報告)	13:243-250.	抵抗性台木の4系統を選抜
63	木村靖夫・森 正明・玄 丞培(Hyeon, S.)・鈴木昭憲・三井 康	1981	A rapid and simple method for assay of nematocidal activity and its application to measuring activities of dicarboxylic esters.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	45(1)249-251.	和紙の透過を利用した殺線虫活性試験法を提案、ジカルボン酸のジブチルエステルに顕著な殺線虫活性
64	木村靖夫・森 正明・鈴木昭憲・小林彰夫	1981	Isolation and identification of two nematocidal substances from roots of Erigeron philadelphicus L. and nematocidal activities of their related compounds.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	45(12)2915-2917.	ハルジオンの根のメタノール抽出物の殺線虫成分、2-trans, 8-cis-matricaria ester と同定。関連化合物の活性も試験
65	岸 洋一	1981	茨城県におけるマツノザイセンチュウによるマツ枯損と防除に関する研究	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会年報)	20:1-5.	線虫の確認、実態調査、侵入地域の拡大、集団枯損、異常発生の原因、緊急防除事業
66	木曾 皓	1981	野菜の連作障害と土壌病害対策	技術と普及	18巻:70-78.	トマトの萎凋病に対するEDB剤の効果を含む
67	鬼頭研二	1981	Studies on the free-living marine nematodes from Hokkaido, VI.	J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., IV Zool. (Journal of Faculty of Science, Hokkaido University)	22(3)250-278.	北海道から次の海棲線虫を記載。Rhabditis marima, Onchium mimutum(新種)、Pseudoaerolaimus ocellatus(新種)、Monhystera disjuncta, M. refringens, Paramonhystera (Leptogostrella) pellucida, Theristus (T.) acer, Monoposthia costata, Graphonema metuliferum(新種)、Dichromadora amphidiscoides(新種)、Neochromadora oshoroana(新種)、Paracanthonchus kamuri(新種)、P. perspicuus(新種)
68	鬼頭研二	1981	深海のヤシの実と産生動物	サイエンス	11巻9:46-47.	フィリピン沖の深さ5,000mの海底から引き揚げたココヤシの実から検出された線虫にふれる
69	清原友也	1981	マツノザイセンチュウの性フェロモン: 雌による雄の誘引と配偶行動	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	34:185-186.	セロハン膜を透過できる物質の存在を確認
70	清原友也	1981	マツノザイセンチュウの性フェロモンに関する研究: 雌雄の相互誘引	日林大会要集(日本林学会大会講演集)	92回:131.	講演
71	清原友也	1981	マツノザイセンチュウ弱病原性線虫の前接種による強病原性線虫の加害性の抑制(予)	日林論(日本林学会大会論文集)	92回:371-372.	誘導抵抗性に相当する現象を確認
71.1	清原友也	1981	マツノザイセンチュウ弱病原性線虫の前接種による強病原性線虫の加害性の抑制(予)	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	34:183-184.	アイソザイムに違い、くわしくは今後の課題
72	清原友也・白石進・上中久子・鈴木和夫	1981	マツノザイセンチュウの酵素多型	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	34:183-184.	アイソザイムに違い、くわしくは今後の課題
73	小林富士雄	1981	松枯れ対策の展望: マツノザイセンチュウの外來説をめぐって	森林文化研究	2(1)49-53.	外來説、侵入病害虫の対応等、松枯れ制御の展望
74	小林富士雄	1981	Review on the pine mortality and its research in Japan.	Proc. XVII IUFRO World Cong.	Dev. 2, 261-263.	歴史、防除の概説
75	小林富士雄	1981	日本におけるマツ枯れとその研究: 現状と展望 In: 第17回国際林業研究機関連合(IUFRO)世界大会論文集	IUFRO組織委員会、京都	p. 244-245.	前報の日本語訳
76	小林富士雄・片桐一正・山根明臣・真宮靖治・宮崎 信・藤森隆郎	1981	松が枯れてゆくこの異常事態への提言(松枯れ問題研究会編)	第一プランニングセンター(山と溪谷社)、東京	251 pp.	松枯損に関する知見を研究史、研究の現状、防除技術を含め、詳しく解説。線虫関係はNo. 81-96を参照
77	小玉孝司	1981	太陽熱利用による土壌病害の防除: 温室内の土壌消毒法として種々の利点	化学と生物	19(7)436-437.	特徴と効果
78	小玉孝司	1981	太陽熱処理による土壌消毒	実用化技術レポート(農林水産技術会議事務局)	93:1-32.	サツマイモネコブ、キタネグサセンチュウに対する効果を含む
79	古賀成司・古閑孝彦	1981	ネコブセンチュウの耕種防除法に関する研究	熊本農試研報(熊本県農業試験場研究報告)	7:51-90.	湛水の時期・期間・方法(流水・滞水)、有機物施用との併用の効果、土壌酸化還元電位・微生物相・酸濃度・病原菌等に及ぼす影響、対抗植物・イネ科作物(トウモロコシ・ソルゴー・スーダングラス・ローズグラス他)・ラッカセイ等による線虫密度抑制効果
80	古賀成司・古閑孝彦	1981	トウモロコシに対するサツマイモネコブセンチュウの寄生性	九州農業研究	43:103.	供試した39品種すべてが線虫を増殖させる好適寄主
81	小久保 醇	1981	第15回森林動物シンポジウム“掛枯れに関する最近の話題”	日林誌(日本林学会誌)	63(9)339-341.	次の講演要旨と討論結果を含む。真宮靖治: マツノザイセンチュウの寄生に対するマツの反応(付 アメリカにおけるマツノザイセンチュウの分布と被害の実態)、柏司: マツノザイセンチュウの寄生によりマツ体内に生ずる毒性物質の生物検定法、奥 八郎: マツノザイセンチュウおよびこれに伴うバクテリアの代謝物とマツの枯損
82	真宮靖治	1981	アメリカとフランスにおけるマツノザイセンチュウ問題	森林防疫	30(4)65-70.	アメリカにおけるマツの材線虫が検出されたマツの種類とその分布、フランスの現状、マツノザイセンチュウの学名をBursaphelenchus xylophilus とする可能性を示唆(No. 81-108を参照)
83	真宮靖治	1981	第17回フクロ大会から: マツノザイセンチュウとその媒介者	森林防疫	30(12)214-216.	発表論文の内容の紹介
84	真宮靖治	1981	マツノザイセンチュウの起源をめぐって: アメリカ・フランスでの見聞から	林業技術	468:7-10.	渡来説の紹介、アメリカ、フランスでの線虫分布と被害

85	真宮靖治	1981	松枯れの謎を解く。 In: 松が枯れてゆく:この異常事態への提言.	第一プランニングセンター(山と溪谷社)、東京	p. 43-78.	マツノザイセンチュウの発見、病原性、伝播、松の発病と枯損の経過、線虫の生活環、マツノマダラカミキリとのかわりあい、線虫の地理的分布、起源
86	真宮靖治	1981	Population increase of the pine wood nematode, <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> , in relation to development of pine wilt.	Proc. XVII IUFRO World Cong.,	Dev. 2, p. 275-280.	人工接種、自然感染の調査結果.
87	真宮靖治	1981	マツ樹体内におけるマツノザイセンチュウ個体群の動態と発病の経過。 In: 第17回国際林業研究機関連合(IUFRO)世界大会論文集	IUFRO組織委員会、京都	p.252-254.	前報の日本語訳
88	松原 功	1981	マツノザイセンチュウ被害木の放置と除去によるマツ林の崩壊過程調査(1)。	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	33回:167-168.	講要
89	松田 明	1981	ゴボウ根部の異常障害(ヤケ)の対策。	今日の農業	25巻13:60-63.	主因(病原菌)、対策、線虫に言及。
90	松下慶三郎・佐伯 駿・石川勝興	1981	イモグサレセンチュウ <i>Ditylenchus destructor</i> Thorneによるジャガイモ・球根類	植物防疫(植物防疫所調査研究報告)	17:97-99.	パレイシヨ、チューリップにおける被害。
91	松浦邦昭	1981	Detectable amount of trunk injected nematocides and protective effects against pine wilt disease.	Proc. XVII IUFRO World Cong.,	Dev. 2, p. 593-596.	フェンスルフォチオン、シアナホス、モランテル、フェンスフォキンドの樹幹からの検出と施用効果。
92	松浦邦昭	1981	単木処理した浸透移行性殺線虫剤の樹体内検出量とマツノザイセンチュウ病に対する防除効果。 In: 第17回国際林業研究機関連合(IUFRO)世界大会論文集	IUFRO組織委員会、京都	p. 328-331.	前報の日本語訳
93	松浦邦昭・深見 伸一・室井克孝・牧 甫	1981	動物用駆虫剤モランテルの有機酸塩類の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験。	農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	6回:149.	講要
94	皆川 望	1981	サツマイモの連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 342-347.	関東地方ではサツマイモネコブセンチュウ、南九州では本種の他にミナネグサレセンチュウが重要。障害、症状、線虫の生態、障害発生条件、対策、今後の問題点にふれる。
95	皆川 望	1981	九州産ネグサレセンチュウ2種について。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:135.	講要
96	皆川 望	1981	<i>Nothocriconema</i> from Mt. Aso, with descriptions of two new species (<i>Tylenchida: Criconematidae</i>).	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	10:16-26.	熊本県阿蘇山の木本植物から分離した2新種を含む次の4種の雌雄成虫、各齢幼虫の形態を記載。 <i>N. palliatum</i> , <i>N. bellatulum</i> (以上新種)、 <i>N. longlum</i> , <i>N. aejunense</i> 。現在は <i>Criconema</i> 属の再定義により(<i>Nothocriconema</i> 属が <i>Criconema</i> 属のシノニムとなった)、この属に移されている(Raski, D. J. & Luc, M., <i>Revue Nematol.</i> 7(4)323-334, 1984)。
97	峰尾一彦	1981	各種マツ類に対するマツノザイセンチュウの接種試験。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演要旨)	32回:228-230.	10種のマツを供試。テーダ、ハンクス、ストローマツは抵抗性
98	三井 康	1981	ジャガイモの連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 339-342.	重要種はジャガイモシス(北海道)、キタネコブ、サツマイモネコブ(九州)、ミナネグサレセンチュウ(同)。障害、症状、線虫の生態、障害の発生条件、対策、今後の問題点に言及。
99	三井 康・佐藤倫造	1981	ネグサレセンチュウおよび糸状菌 <i>C. cassiicola</i> のダイズの生育に及ぼす影響。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:134.	講要
100	三浦猛夫・川越 仁	1981	太陽熱利用によるハウス野菜の連作障害防止対策試験。	九病虫研報(九州病虫研究会報)	27:32-34.	15日間の密閉でネコブセンチュウ、キュウリ萎凋病に効果
101	百田洋二	1981	葉菜類の連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 369-373.	研究蓄積に乏しい。ハクサイ、キャベツ、レタス、ホウレンソウ、フキ等のネコブ、ネグサレセンチュウ類の事例があるのみ。寄生、被害、症状、対策、今後の研究問題にふれる。
102	百田洋二・稲垣春郎	1981	ジャワネコブセンチュウに対するサツマイモの感受性。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	28:132-133.	高系14号9系統はすべて感受性。
103	Monteiro, A. R.・Lordello, L. G. E.・中園和年	1981	<i>Xiphidorus parthemus</i> n. sp. (Nemata: Longidoridae) from Brazil.	Rev. Agr. Piracicaba, Brazil. (Revista de Agricultura)	56(1/2):93-97.	サンパウロ州のサトウキビから上記新種を記載
104	中園和年	1981	ニセフクロセンチュウ(<i>Rotylenchulus reniformis</i>) 幼虫の発育に及ぼす保護液の pH および温度の影響:両性生殖系統と単為生殖系統間の比較。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	10:1-7.	生殖型の異なる2系統6集団の幼虫期の発育速度のプロット変換による比較。弱酸性~弱アルカリ性の影響はなく、高温の発育抑制に系統間差
105	中里肇二・八木克祐・青柳直二	1981	キタネグサレセンチュウによるゴボウの被害と妻作導入による線虫密度の変動。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	28:136.	導入により線虫密度増加
106	Nickle, W. R.	1981	Research on the pine wood nematode in the United States.	Proc. XVII IUFRO World Cong.,	Dev. 2, p. 269-271.	分類、被害、媒介者。
107	Nickle, W. R.	1981	アメリカにおけるマツノザイセンチュウ研究。 In: 第17回国際林業研究機関連合(IUFRO)世界大会論文集	IUFRO組織委員会、京都	p. 249-252.	前報の日本語訳。
108	Nickle, W. R.・Golden, A. M.・真宮靖治・Wergin, W. P.	1981	On the taxonomy and morphology of the pine wood nematode, <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> Steiner & Buhner, 1934) Nickle, 1970.	J. Nematol. (Journal of Nematology)	13(3):385-392.	後模式標本をもとに再記載。 <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> (マツノザイセンチュウ)を上記種のシノニムとする。
109	西沢 務	1981	連・輪作及び対抗植物導入等と有害線虫の発生変動。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 71-78.	シスト、ネコブ、ネグサレセンチュウに関する既往の事例、問題点の解説。
110	西沢 務	1981	花き類の連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 377-381.	クキ、ネコブ、ネグサレセンチュウ類が重要。他にウィルス媒介のユミハリ、オオハリセンチュウ等も等閑に付せられない。症状、対策、今後の研究問題を解説。
111	西沢 務	1981	西沢 務、タバコの連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 394-396.	サツマイモネコブ、ジャワネコブ、キタネコブセンチュウの発生・被害が大きい。東北地方ではキタネグサレセンチュウの被害が問題化。障害、症状、対策、今後の研究問題に言及。
112	西沢 務	1981	植物寄生性線虫のレースをめぐる諸問題:特にネコブセンチュウ類及びジャガイモシストセンチュウについて。	植物防疫	35(5):176-181.	ネコブセンチュウ類のレース、ジャガイモシストセンチュウのバソタイプについての研究の歴史、日本の現状、問題点等を解説。
113	西沢 務	1981	野菜作りとセンチュウ対策。	農業技術研究	35(12):30-33.	線虫の種類、被害、防除
114	西沢 務	1981	114. 西沢 務、昆虫飼育法:線虫。 In: 農業実験法 I. 殺虫剤編(深見順一・石塚晴造・高沢長治郎 編)	ソフトサイエンス社、東京	p. 51-53.	腐食性線虫、植物寄生性線虫の飼育、培養法。
115	西沢 務	1981	殺虫剤効力検定法:線虫。 In: 農業実験法 I. 殺虫剤編(深見順一・石塚晴造・高沢長治郎 編)	ソフトサイエンス社、東京	p. 119-126.	供試線虫、供試薬剤、薬剤浸漬法、線虫土壌処理法、浸根・治療・浸漬効果試験法、無菌培養による検定法、圃場試験法、効力判定。
116	西沢 務	1981	輪作作物としてのトウモロコシの線虫学的評価。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:136.	講要
117	西沢 務	1981	Parasitism of three species of <i>Meloidogyne</i> to lettuce varieties.	Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-Knot Nema, Meloidogyne spp., Region VI.	p. 51-54.	キタ、サツマイモ、ジャワネコブセンチュウのレタス40品種に対する寄生性(総て感受性)
118	西沢 務	1981	Preliminary experiment on varietal reaction of corn to three <i>Meloidogyne</i> species.	Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-Knot Nema, Meloidogyne spp., Region VI.	p. 55-63.	供試した71品種のトウモロコシに対しキタネコブセンチュウは寄生なし、ジャワネコブ、サツマイモネコブセンチュウは全品種に寄生。
119	小河誠司・竹下 敬司	1981	マツの材線虫病によるマツ林の枯損分布の地理的パターンと気象因子との関係。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	92回:134.	講要
119	小河誠司・竹下 敬司	1981	マツの材線虫病によるマツ林の枯損分布の地理的パターンと気象因子との関係。	日林論(日本林学会大会論文集)	92回:383-384.	年変化大。
120	小河誠司・高木潤治・佐々木重行	1981	マツノザイセンチュウに関する研究(7)メソリ剤の樹体内濃度と材線虫の増殖。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	34:181-182.	水の通導がみとめられる期間内に3ppm程度の薬剤を樹体全体に移動させれば治療可能
121	小川義雄・大島康臣	1981	長崎産 <i>Glabodera</i> 属の新種線虫。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:139.	講要
122	岡田利承・金子 武・大森司 誠	1981	茶園の土壌断面における植物寄生性センチュウ類の分布。	茶業技術研究	60:17-26.	カナヤサヤウ・ピン・チャラセン・チャネグサレセンチュウ・その他水平・垂直分布

123	岡本好一	1981	コンニャクの連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針。	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 388- 392.	ミナミネグサレ、ジャワネコブセンチュウの被害が大。そ の他のネコブ、ネグサレも寄生。障害、症状、線虫の生 態、発生条件、対策、今後の研究問題を解説
124	岡本好一・八重 隆隆志	1981	ネコブセンチュウ8種の走査電子顕微鏡観 察 I. 第2期幼虫の正面像。	日線虫研誌(日本線虫 研究会誌)	10: 35-42.	サツマイモネコブ、キタネコブ、ジャワネコブ、アレナリア ネコブ、リンゴネコブ、ツバキネコブセンチュウの第2期 幼虫正面像を観察。明瞭な種間差を認める。続報(雄 成虫)はNo. 81-186.
125	岡本好一・八重 隆隆志	1981	リンゴネコブセンチュウの形態について。	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	25回: 135.	講要
126	岡本好一・前田 正孝	1981	感受性及び抵抗性トマト品種に対する2種の ネコブセンチュウの侵入と発育に及ぼす温 度の影響。	関東病虫研報(関東東 山病虫研究会年報)	28: 134- 135.	サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウともに高温時 に抵抗性トマトでよく発育。
127	奥 八郎・大内成 志・白石友紀・黒 住繁久・大田 宏・上田隆之	1981	落葉型枯損マツに見出される萎凋毒素の生成 機構。	日植病報(日本植物病 理学会報)	47(3) 382- 383.	講要
128	奥 八郎・白石友 紀・大内成志	1981	Possible participation of toxins in pine wiltling disease.	Proc. XVII IUFRO World Cong.	Dev. 2, p. 281-285.	マツノザイセンチュウに随伴するバクテリアの産生毒素 について。
129	奥 八郎・白石友 紀・大内成志・上 田隆之・富田和 夫	1981	マツ類材線虫病に関与することが予想され る毒素。 In: 第17回国際林業研究機関連合(IUFRO) 世界大会論文集	IUFRO組織委員会、京 都	p. 255- 257.	前報の日本語訳
130	大羽克明	1981	線虫の生物学。 In: 農業実験法 I. 殺虫剤編(深見順一・石 塚陸造・富沢長治郎 編)	ソフトサイエンス社、東 京	p. 412- 420.	線虫の大量培養法、無菌化、同調培養、ステージ別採 集法、カルス培養線虫の無菌的分離法
131	大羽克明	1981	Caenorhabditis elegans におけるdauer larvae への移行要因。	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	25回: 140.	講要
132	大羽克明・石橋 信義	1981	Effects of procaine on the development, longevity and fecundity of Caenorhabditis elegans.	Nematologica	27(3) 274- 284.	procaine-HCl 20 mg/ml を含む培養液中では線虫は 発育停止し、耐久型幼虫に移行。上記物質を含まない 液に移すと発育再開するが、増殖は顕著に低下、乾燥 に弱くなる。
133	大林延夫・小林 紀彦・駒田 且	1981	マリナーゴールドの殺線虫成分 α -terthienyl がフザリウム菌の胞子発芽および菌糸の生 育におよぼす影響。	日植病報(日本植物病 理学会報)	47(3) 369.	講要
134	大川 清・三枝敏 郎	1981	Resistance of rose rootstocks to Meloidogyne hapla, Pratylenchus penetrans, and Pratylenchus vulnus.	Hort Science	16(4) 559- 560.	8種の台木の接種試験。線虫に対する反応はバラ・線 虫の種類で大きく異なる。
135	大西保行・大木 有志雄・藤田清 吉	1981	有機燐酸が培養土壌線虫(Rhabditis sp.) ならびにそのエステラーゼ活性に及ぼす影 響。	日獣畜大研報(日本 獣医畜産大学研究報 告)	30: 49-55.	IBP剤。線虫の継代株により感受性に差。IBPの選抜淘 汰によってエステラーゼ(Ali-ES)活性値上昇。
136	大島康臣	1981	サトイモの連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針。	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 347- 350.	忌地は17世紀から知られる。主因はミナミネグサレセン チュウ。障害、症状、線虫の生態、発生条件、対策、今 後の問題点を言及。
137	大島康臣・百田 洋二・清水 啓	1981	Heterodera glycines Ichinohe, 1952の記載 補遺。	日線虫研誌(日本線虫 研究会誌)	10: 52-53.	模式産地からの材料により、特に第2期幼虫、雄の交 接刺、シストの陰門の形態を記載。
138	太田 明	1981	マツの材線虫病によるマツの部分枯れの人 為形成。	日林関西支議(日本林 学会関西支部大会講 演集)	32回: 235- 237.	線虫接種後のチオナジンの樹皮面施用、樹幹注入によ る。
139	大山浪雄・白石 進	1981	マツノザイセンチュウに対するアイノコマツ の抵抗性。	日林誌(日本林学会 誌)	63(4) 137- 140.	アカマツ、クロマツの自然雑種に線虫接種。
140	大山浪雄・白石 進・藤本吉幸・戸 田忠雄・森本 桂・近藤栄造	1981	茨城県産マツノザイセンチュウの加害性と 基肥別養成苗木の感受性。	日林九支研誌(日本林 学会九州支部研究論 文集)	34: 83-84.	茨城県産は九州産より強い加害性の傾向。
141	小沢孝弘	1981	長野県南部地域の松の材線虫病に関する 調査結果について。	日林中部支議(日本林 学会中部支部講演集)	29回: 157- 158.	アカマツ枯損木から検出した線虫はマツノザイセンチュ ウでなかった。
142	佐保春芳	1981	被害丸太のザイセンチュウを駆除する試案 (I) 処理後の丸太から脱出するマダラカミキ リの保線虫数。	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	92回: 132	講要
142	佐保春芳	1981	被害丸太のザイセンチュウを駆除する試案 (II) 処理後の丸太から脱出するマダラカミキ リの保線虫数。	日林論(日本林学会大 会論文集)	92回: 377- 378	イクリンテックスを処理すると材・カミキリからの線虫検 出皆無となる。
143	堀口 進	1981	病虫害抵抗性育種と国際研究協力。	ポテトサイエンス	1: 8-12.	未見
144	佐野善一	1981	ヤマトイモ等の連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針。	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 350- 355.	ナガイモミハリセンチュウ、ネコブセンチュウ類をとり あげる。特に前者による黒変障害が特異的。症状、線 虫の生態、発生条件、今後の問題点を解説
145	佐野善一	1981	サツマイモネコブセンチュウ幼虫の活動力 低下と地温の関係。	応動昆虫大会講要(日本 応用動物昆虫学会大 会講演要旨)	25回: 133.	講要
146	佐々木 浩	1981	樹幹注入等によるマツノザイセンチュウ防 除試験(第2報)。	徳島林総技研報(徳 島県林業総合技術セ ンター報告)	19: 73-78.	7751液剤、サイアノックス、ネマホス、テラキュアPの樹 幹注入。ダイシントン、ランネットの土壌施用。
147	佐々木重行・小 河誠司	1981	マツ苗における材線虫の密度と水分状態。	日林九支研誌(日本林 学会九州支部研究論 文集)	34: 179- 180.	接種23日後の分離線虫数が100頭/g(苗木生重)以上 では通導抵抗は増大傾向。
148	佐藤平典・作山 健	1981	マツ材線虫病の新発生地域における集団 枯損の特徴。	日林大会講要集(日本 林学会大会講演集)	92回: 133	講要
148	佐藤平典・作山 健	1981	マツ材線虫病の新発生地域における集団 枯損の特徴。	日林論(日本林学会大 会論文集)	92回: 381- 382.	マツカレハ被害による衰弱との相乗効果と推定
149	志賀敏夫・竹股 知久	1981	Distribution of sweet potato clones with resistance to root-knot nematodes in the Pacific islands.	Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-knot Nema. Meloidogyne spp., Region VI.	p. 64-68.	アジア、南太平洋諸島、南北アメリカ、カリブ諸島から 集めた408クローンの内67がサツマイモネコブセンチュ ウに対し高度抵抗性。66が抵抗性。
150	志賀敏夫・竹股 知久	1981	Breeding for resistance to root-knot nematode of sweet potatoes in Japan.	Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-knot Nema. Meloidogyne spp., Region VI.	p. 201- 213.	育種体制、育種目標、スクリーニング法・同結果。
151	清水 啓	1981	陸稲・畑水稲の連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地 管理技術指針。	農林水産技術会議事 務局、東京	p. 329- 332.	イネシストセンチュウの発生加害が主因。症状、発生条 件、線虫の生活史、垂直分布、密度と被害、対策技 術、今後の研究問題について総説。特に堆肥による線 虫害の軽減は困難。
152	清水 啓	1981	十勝地方におけるダイズシストセンチュウ レースの分布。	今日の農業	25巻12: 39-42.	レース1が多く、レース3が次。
153	清水 啓・井上 壽・砂田喜与志 ・本間健平・三井 康	1981	十勝地方におけるダイズシストセンチュウの レース。	北日本病虫研報(北日 本病虫研究会報)	32: 67-68.	レース1、3が分布。レース3の中に特異な反応を示す個 体群がある。
154	新須利剛・堀口 莊一・小川義雄・ 境木敬嗣	1981	イチゴの根腐萎ちよう症に関する研究。	長崎総農試研報(長崎 県総合農林試験場研 究報告)(農業部門)	9: 69-94.	Cylindrocarpon菌とクルミネグサレセンチュウが原因。 輪作、客土、灌水、ハウス密閉、薬剤(コロルビクリン、 ネマクローベン、EDB剤)によって発病減少。
155	庄司次男	1981	材線虫病被害丸太の殺線虫剤による駆除。	日林東北支誌(日本林 学会東北支部会誌)	33: 184- 188.	NCSが最適、コロルビクリンが次。
156	庄司次男	1981	薬剤の樹幹注入および土壌処理によるマツ 材線虫病防除試験。	島根林試研報(島根県 林業試験場研究報告)	31: 55-62.	ベノミル、チオファネートメチル、メゾミル、エテルナオメ トンの土壌処理。フェンソルホチオン、チオナジンの樹 幹注入。
157	杉浦哲也・上住 泰	1981	作物害虫の物理的防除法。	今日の農業	25巻7: 68- 71.	イモグサレ、イネシストセンチュウの高周波処理にふ れる。前者では不成功。
158	砂田喜与志・酒 井真次・後藤寛 治・三分一 敬・ 土屋武彦・紙谷	1981	だいに新品種「スズヒメ」の育成について。	北海道立農試集報(北 海道立農業試験場集 報)	45: 89- 100.	育種目標と育成の経過、特性。ダイズシストセンチュウ に強度抵抗性
159	鈴木和夫	1981	材線虫接種後のマツ主幹の成長量と仮導 管増加数。	日林関西支議(日本林 学会関西支部大会講 演集)	32回: 231- 324.	成長量は線虫以外の要因による影響が大きい。
160	多田幹郎・大水 直正・白石正英	1981	マツノザイセンチュウから単離したバクテリア の生育と毒素生産に及ぼすリン酸塩の影 響。	岡山大農学報(岡山大 学農学部学術報告)	57: 35-40.	高濃度のリン酸塩培地でマツ水抽出物を添加すると毒 素生産
161	高木哲夫・大山 浪雄	1981	マツノザイセンチュウ接種木の蒸散流速度 の変化について。	日林九支研誌(日本林 学会九州支部研究論 文集)	34: 117- 118.	抵抗性の木は速度の低下が遅い傾向。
162	高橋兼一・橋本 光司	1981	太陽熱利用の土壌消毒・土壌センチュウ対 策。	今日の農業	25巻8: 28- 31.	ネコブセンチュウの死滅温度、稲葉・石灰窒素添加効 果。効果は安定。

163	高橋一・橋本光司・浅川三郎	1981	ビニルハウスでの太陽熱利用によるサツマイモネコブセンチュウの防除。	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	28:139.	やや低温条件下でも実用的効果
164	高倉重義・山田英一	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 土壌深度別の線虫密度変動。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	32:54-56.	感受性品種栽培区では地表から20cmの層に多く、抵抗性品種区では地表から30cmの内で植付け時の30%に減少。
165	高倉重義・山田英一・上野賢司・高宮泰宏・今友	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 各種防除手段組合せ効果の検討。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:133.	講演
166	高宮泰宏・上野賢司・山田英一・高倉重義・今友	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 輸付年と線虫密度及びバレイシヨの収量について。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:132.	講演
167	高野勲・宮崎信・香山 彊	1981	マツノザイセンチュウによるアカマツ枯損材のハルブ化試験。	林試研報(林業試験場研究報告)	315:113-124.	小径材では枯死6月経過した材と健全木でハルブ収率・ハルブの強度特性に有意差なし。1年経過材では低下。大径材は1年でも劣化少ない。
168	高野利達・萩原潤・湯原 巖	1981	ベントグラスセンチュウ <i>Anguina agrostis</i> の温度処理による殺線虫効果。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:139.	講演
169	高瀬 巖・小山寛史・下松明雄・藤下章男	1981	浸透性薬剤によるマツノザイセンチュウ防除に関する研究: マツ樹体内での薬剤の吸収。	農業学会大会(日本農業学会大会講演要旨)	6回:311.	講演
170	武田文夫	1981	和歌山県におけるマツの枯損とマツノザイセンチュウの分布。	森林防疫	30(2):26-30.	薬剤散布地と無散布地のマツ枯損率、線虫の県内分布、年次別・地域別・標榜別の線虫検出状況
171	滝沢幸雄・庄司次男	1981	マツ材線虫病被害木の製材によるマツノダカラミキリの死亡数およびその乾燥条件とマツノザイセンチュウの消長。	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	33:169-171.	ガラス室内に放置することにより線虫密度低下。
172	田村弘志	1981	マツノザイセンチュウの付随菌の毒素。	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	92回:130.	講演
173	田村弘志	1981	マツノザイセンチュウの芽出し苗に対する侵入。	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	92回:130.	講演
174	田中 潔	1981	マツの材線虫病の英語名。	森林防疫	30(10):177-180.	Pine wiltが最良とする(diseaseは不要)
175	単木処理担当班(まとめ:真柄 稔)	1981	大型プロジェクト研究「松の枯損防止新技術に関する総合研究」: 薬剤に関する単木処理試験中間報告。	森林防疫	30(8):135-140.	バイジツ、サイアノックス、テラキュアP、7751、ネマホスの樹幹注入試験結果
176	寺下隆喜代	1981	Experimental crossing between <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> and <i>Bursaphelenchus mucronatus</i> .	Mem. Fac. Agr., Kagoshima Univ. (Memoirs of the Faculty of Agriculture, Kagoshima University)	17(26):106-116.	マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウの交雑実験。前者の雌と後者の雄の組合せでF1がよくできた。形態は前者に似る。逆の組合わせ及び戻し交配はかなり困難。
177	戸田忠雄	1981	交雑マツにおけるマツノザイセンチュウ抵抗性。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	34:79-80.	雄親にタイワンアカマツ、フクシュウマツ、精実樹のグループで平均生存率が高い。
178	樋田孝夫	1981	数種線虫の桑園土壌中における分布。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:136.	講演
179	樋田孝夫・百田洋二	1981	Cricometatidae from mulberry fields in Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	10:27-34.	桑園から次の7種のワセンチュウを記載。 <i>Macroposthonia sphaerocephala</i> , <i>M. xenoplax</i> , <i>Neolobocriconema serratum</i> , <i>Nothocriconema mutabile</i> , <i>Crossonema multisquamatum</i> , <i>Variasquata gracile</i> , <i>V. queci</i> .
180	富永康平・須賀原亮三・長瀬淳・桑原保正	1981	マツノザイセンチュウに対するオレイン基化合物の誘引定着活性。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:70.	講演
181	戸崎正弘	1981	温室・ハウスの土壌改良と土壌センチュウの防除。	農業富民	53巻1:97-99.	夏季ハウス密閉の効果。
182	土屋大二	1981	東京都におけるマツ材線虫病の分布と防除について。	森林防疫	30(6):98-101.	鳥嶺部を含む分布、被害状況、防除。
183	堤 正明	1981	テンサイの連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 386-388.	北海道ではキタネコブセンチュウが重要。障害、症状、線虫の生態、障害の発生条件、対策、今後の研究問題。
184	上野賢司・山田英一・高倉重義・高宮泰宏・今友	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 抵抗性品種「ツツナカ」の栽培法と線虫密度。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:132.	講演
185	Ventura, W.・渡辺 巖・Castillo, B. M.・De la Cruz, A.	1981	Involvement of nematodes in the soil sickness of a dryland rice-based cropping system.	Soil Sci. Plant Nutr. (Soil Science and Plant Nutrition)	27(3):305-315.	陸稲を主体とした熱帯の作付体系と線虫。シカマメを入れることによりニセフクロセンチュウが増加。殺線虫剤処理で生育良好となる。
186	八重樫隆志・岡本好一	1981	ネコブセンチュウ6種の走査電子顕微鏡観察 2. 雄成虫の正面像。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	10:43-51.	サツマイモネコブ、キタネコブ、ジャワネコブ、アレナリアネコブ、リンゴネコブ、ツバキネコブセンチュウの雄成虫の正面像は種間差明確で、同定に有用。第1報(第2期幼虫)はNo. 81-124.
187	山田英一	1981	花ユリに寄生するイチゴセンチュウの生態と防除。	今月の農業	25巻10:22-24. 口絵	葉枯れの発生、線虫の形態、分布、被害、寄生方法、症状、発生消長、防除(メソミル、DEP浸漬)。
188	山田英一	1981	花ユリに寄生するイチゴセンチュウの生態と防除。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:137.	講演
189	山田英一・高倉重義	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 捕獲植物の利用の試み。	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	32:57-66.	抵抗性ジャガイモ、イヌホウズキによって線虫密度低下
190	山口省吾	1981	田畑輪換によるツツジ苗の生産安定。	今月の農業	25巻10:36-40.	イシユク、ユミハリセンチュウ等を高頻度で検出。田畑輪換によるナミイシユクセンチュウへの影響、サツキの生育等
191	山崎和雄・岡部誠・相原孝雄・湯原 巖	1981	ツツジ類の連作障害対策試験(第1報) 県内ツツジ園におけるナミイシユクセンチュウの寄生状況およびその防除について。	神奈川県試研報(神奈川県農芸試験場研究報告)	28:73-83.	県内に広く分布。クロルピクリンは効果あり。DCIP剤は効果なし。鶏糞施用は殺線虫効果あり。
192	吉田雅夫	1981	モモのネコブセンチュウ抵抗性台木の育成第1報 モモ及びスモモ類のネコブセンチュウ抵抗性。	果樹試報(果樹試験場報告) A	8:13-30, 1pl.	サツマイモネコブセンチュウ抵抗性はモモの「おはつもの」、「Nemaguard」、ニホンスモモは感受性、アンズは抵抗性、ウメは免疫性。
193	吉田雅夫	1981	モモのネコブセンチュウ抵抗性台木の育成第3報 モモ在来種の系統選抜。	果樹試報(果樹試験場報告) A	8:45-55.	長野県大鹿村のものを元に4系統を選ぶ。
194	吉田雅夫・清家金銀	1981	モモのネコブセンチュウ抵抗性台木の育成第2報 交雑による抵抗性台木の育成。	果樹試報(果樹試験場報告) A	8:31-41, 1pl.	抵抗性は優性遺伝。抵抗性台木の数系統を得る。
195	藤原敬夫	1981	ウリ科野菜の連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 355-360.	ネコブセンチュウ類の加害が障害の要因。関連病害も重要。障害、症状、線虫の生態、対策、問題点等。
196	藤原敬夫	1981	ナス科野菜の連作障害と土壌線虫。 In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。	農林水産技術会議事務局、東京	p. 360-366.	ウリ科野菜に準ずる(No. 81-195)。サツマイモネコブセンチュウ抵抗性品種の一覧表を掲げる。
197	藤原敬夫	1981	ジャワネコブセンチュウのキュウリの数品種に対する寄生性。	九病虫研報(九州病虫研究会報)	27:96-98.	13品種のうち、2品種に若干の抵抗性。
198	吉井太門・鈴木栄太郎	1981	クワおよびキボシカミキリ成虫から分離される線虫の培養とクワへの接種。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	25回:138.	講演
199	吉武貞敏	1981	イチゴ根腐萎凋病に対する陽熱消毒法。	今月の農業	25巻8:23-27. 口絵	クルミネグサレセンチュウ密度も低下。
200	結田康一・渋谷政夫・福川利玄・鈴木喜代志	1981	露地栽培畑作物および土壌の二臭化エチレン農業による臭素残留。	土肥誌(日本土肥肥料学雑誌)	52(3):260-262.	2~3年土壌中に残留。
201	結田康一・渋谷政夫・福川利玄・鈴木喜代志	1981	臭化メチルくん蒸ハウス跡の水稲および土壌の臭素残留。	土肥誌(日本土肥肥料学雑誌)	52(4):362-364.	水稲茎実にも相当濃度吸収される。
0		1982	昭和57年(1982)			
1	阿部崇洋・松崎正文・石橋信義	1982	佐賀県におけるイチゴ根腐萎ちょう症の発生実態と防除に関する調査研究。	佐賀農試研報(佐賀県農業試験場研究報告)	22:4-37.	クルミネグサレセンチュウが主な発生原因。D-D、EDB、クロルピクリン、テロンII、デイトラベックスで防除可能。
2	相原孝雄	1982	ツバキから検出した <i>Sphaeronema</i> 属線虫の1種について。	応動昆虫大会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:155.	講演
3	环 存	1982	普通作導入による連作障害回避技術: すいか、はくさい体系を中心として。	実用化技術レポート(農林水産技術会議事務局)	98:23pp.	ネコブ・ネグサレセンチュウに対する効果を含む。
4	青木松信・榊原正義・上林 謙・山口久夫・長縄	1982	転換畑におけるイチジク樹の生育・果実品質と地下水位及び土壌環境の関係。	愛知農試研報(愛知県農業総合試験場研究報告)	14:239-248.	ほとんどの園でネコブ、ラセン、ネグサレセンチュウを検出。ネコブセンチュウが多いと枝の伸長がにぶり、果実糖度は上昇。

5	荒城雅昭・中園和生・佐野善一	1982	ネコブセンチュウ汚染圃場におけるサツマイモ塊根異常症の発生経過	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	28:223-224.	講要
6	有沢道雄・加藤俊博	1982	土壌消毒後の土壌養分の動態に関する研究(第1報)土壌消毒方法が土壌養分並びにトマトの生育収量に及ぼす影響	愛知農試研報(愛知農業総合試験場研究報告)	14:154-161.	クロルピクリン、臭化メチル、D-D、蒸気消毒の比較。小果が多く商品果減収。窒素、リン酸、カリ、マンガン、亜鉛の吸収増加、マグネシウムは減少。
7	近岡一郎・大林延夫・推名清治	1982	緑肥作物等の夏作への導入とキタネグサレセンチュウおよびサツマイモネコブセンチュウの発生動向	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	11:19-23.	アスバラガス、マリーゴールド、ラッカセイの栽培でキタネグサレ、サツマイモネコブセンチュウの密度は低下、ソルゴーは両線虫に対し抑制効果なし。後作での密度復元に作物間差。
8	近岡一郎・竹澤秀夫	1982	ネコブセンチュウ薬剤感受性の低下事例	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29:168.	神奈川県藤沢市産。D-D、EDB剤の感受性半分程度に低下。
9	近岡一郎・宇田川一見・藤原俊六郎・竹沢秀夫・村越重雄・相原次	1982	夏季ハウス密閉によるイチゴ萎黄病、ネグサレセンチュウの防除。In:太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究	関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業研究センター、谷田部	p.75-78.	稲葉、石灰窒素との併用効果。クルマズサレセンチュウは処理後検出なし。
10	遠田暢男・横原寛	1982	マツノマダラカミキリの触角から保線虫数を推定する方法	日林農支論(日本林学会関東支部発表論文集)	34回:145-146.	講要
11	藤下章男・高瀬藤	1982	マツクイムシ単木処理法による現地適用試験	日林論(日本林学会大会論文集)	93回:405-406.	ダイシストン、テラキュアPの効果が高い。7751剤より高い。
12	深見佛一	1982	林業薬剤の現状と研究動向	今日の農業	26巻6:28-35.	土壌線虫及びマツ枯れに対する薬剤の適用と試験状況
13	福留信明	1982	土壌中の有害線虫の生息密度におよぼす飼料作物の影響	葉たばこ研究	88:8-12.	ソルゴー、スタングラスの栽培の効果。品種を比較。
14	福留信明・上釜耕二	1982	ジャフネコブセンチュウに対するタバコの抵抗性 II. 抵抗性の発現に及ぼす土壌温度の影響	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	11:13-18.	抵抗性品種は侵入抑制と過敏感反応による発育抑制作用をもち、これは土壌温度が30°Cで弱まり、35°Cで失活。
15	古野東洲	1982	外国産マツ属の虫害に関する研究 第7報 マツノザイセンチュウにより枯損したマツ属について	京大演習林報(京都大学農学部演習林報告)	54:16-30.	30種のマツを供試。高度抵抗性はPinus taiwanensis, P. elliotii, P. rigida, P. taeda, P. palustris
16	古野東洲・二井一禎	1982	マツノザイセンチュウ接種クロマツの生育、特に生存木の生育について	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	93回:131	講要
16.1	古野東洲・二井一禎	1982	マツノザイセンチュウ接種クロマツの生育、特に生存木の生育について	日林論(日本林学会大会論文集)	93回:409-410.	翌年の伸長に影響。
17	古野東洲・二井一禎	1982	クロマツほか数種マツ属のマツノザイセンチュウ接種後の生育・接種翌年の生存木の樹高生長について	日林農支論(日本林学会関西支部大会講演集)	33回:247-250.	7種のマツを比較。
18	二井一禎	1982	マツノザイセンチュウ接種に対する寄主反応物質	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:156.	講要
19	後藤 昭	1982	牧草・飼料作物の連作障害とその対策	畜産コンサルタント	206:60-62.	ネコブ、ネグサレセンチュウ害を含む。
20	後藤 昭	1982	ハウス土壌の線虫防除の決め手	農業富民	54巻7:58-60.	夏季ハウス密閉、湛水、輪作、薬剤等の効果
21	後藤 昭	1982	作付体系と線虫 In: 農林水産研究論文献題 No. 9作付方式・作付体系編	農林水産技術会議事務局、東京	p. 203-219.	文献のまとめ及びリスト(文献数137)。他の項にも線虫関連文献収録
22	後藤 昭・大林延夫・平石権之・福垣春郎・百田洋	1982	神奈川県三浦市におけるダイコンの線虫害等品質障害の発生実態	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29:178-179.	土壌30g当たり3頭以上の検出の場合被害指数が高い。
23	萩谷俊一・岡本好一・石井良助	1982	ラッカセイ畑でのキタネコブセンチュウにおけるBaicillus sp.の寄生推移および2,3土壌くん蒸剤の影響	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	11:44-45.	クロルピクリン、D-D、EDB剤処理で寄生率に影響なし。寄生率は処理区で33~61%、無処理区は45~75%で推移。
24	萩谷俊一・篠原茂彦・白崎隆夫	1982	ニンジン栽培畑におけるキタネグサレセンチュウの発生消長とマリーゴールドの導入効果	千葉農試研報(千葉県農業試験場研究報告)	23:21-29.	ニンジンの生育経過、線虫の増殖と性比、接種時と収穫時の密度の関係、マリーゴールド導入効果(EDB剤30 L/10aと同程度の効果)。
25	原 忠彦・草刈真一・阿部一博・山田真義・百田洋	1982	ハウナスの連作障害に関する研究(第1報)連作障害の発生状況と発生要因について	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭57春:190-191.	講要
26	原田敏男	1982	臭化メチルによる土壌消毒被覆資材の使い方と効果への影響	今日の農業	26巻11:44-48.	殺線虫効果大きい。
27	原田敏男・中沢青・斉藤栄成	1982	臭化メチル剤の土壌消毒における被覆材の使い方と効果	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29:185-187.	耕起、トンネル被覆、缶を覆ってから開缶施用は、それらを行わない場合に比べ、地表から深い部分まで高い効果。
28	橋本平一	1982	マツの材線虫病の治療木についての考察	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	35:159-160.	メソミル剤処理木の組織の変化。
29	早柳義純・尾花健喜智・志水勝彦	1982	宮城県石巻市におけるマツ材線虫病によるマツ枯損動態 II. 大門崎における枯損経過	日林東北支誌(日本林学会東北支部支部会誌)	34:128-130.	年次別の異常発生時期。
30	細野隆次・Hirahara, K.・久野滋・Kurihara, T.	1982	Mutants of Caenorhabditis elegans with dumpty and rounded head phenotype.	J. expr. Zool. (Journal of Experimental Zoology)	22(2)135-144	未見
31	細野隆次・久野滋	1982	線虫C. elegansの温度感受性マヒ突然変異体	分子生物学会	5:103.	未見。講要
32	細野隆次・Mitsum Y.・Sato, Y.・Aizawa, T.・三輪錠司	1982	Life span of the wild and mutant nematode, Caenorhabditis elegans: Effects of sex, sterilization, and temperature.	Exper. Geront. (Experimental Gerontology)	17(2)163-172.	未見
33	一戸 稔	1982	十勝地方とシストセンチュウ	石灰窒素だより	116:6-7.	線虫被害のカラー写真および解説。
34	井手義人・田淵尚一・坂本 敏	1982	サツマイモネコブセンチュウに対するカンショ及び野生種の抵抗性	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	18:181-182.	接種10日後、幼虫の侵入数は抵抗性中・弱で強よりも多い傾向。21日後、侵入虫の発育に差異。51日時の卵濃産生数に品種間差を認める。
35	福垣春郎	1982	センチュウの被害を減らすには:考え方と対策	現代農業	61巻1:236-239.	一般向け読み物
36	福垣春郎・清水啓・百田洋二	1982	北海道、青森、新潟、栃木、島根のダイズシストセンチュウのレース	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29:170.	島根と北海道の1個体群はレース1、他はレース3。
37	井上忠彦・林 栄一	1982	フェニールアゾフルオロ系化合物の殺線虫および殺ミズ作用	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	11:38-42.	ベンゼン核のp位にメチル基、ニトロ基、ハロゲンなどを導入。動物寄生線虫、Panagrellus redivivus、ミズ類に対する殺虫効果を試験。いくつかの化合物に特異的効果を確認。
38	石橋信義	1982	殺線虫剤処理土壌の侵入害虫ならびに線虫に対する抵抗性	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	28:183-186.	燻蒸による防除は土壌中の生物相を単純化し、害虫や線虫の密度回復を早める。昆虫寄生性線虫によるカブラヤガの防除効果大。
39	石橋信義・横尾潔	1982	昆虫寄生性線虫Neoalectana carpocapsae (DD-136)とHeterorhabditis bacteriophoraの土壌中生存力と感染力	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:161.	講要
40	石井直明・鈴木肇之	1982	環境因子検定系としての線虫(ネマトーダ)	生態化学	5(3)11-19.	Caenorhabditis elegans, Rhabditis tokaiを材料にした形態、生活環、飼育法、研究対象としての線虫(老化、放射線、環境毒性)。
41	石川昌哉・首藤義博・渡辺博恭	1982	マツ属の皮部成分のザイセンチュウ誘引性と抵抗性との関係	日農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	7回:	未見。講要。
42	石川元一	1982	耕うんによるトラクタ付着土壌とダイズシストセンチュウ密度	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29:171.	圃場よりやや低い程度の密度。
43	伊藤一雄	1982	マツの枯損原因材線虫の発見。 In: 森林病虫獣害防除技術	森林病虫獣害防除協会、東京	p. 175-182.	松くい虫の加害性に対する疑義、ツチクラゲ、材線虫の発見。
44	伊藤一雄	1982	マツ枯損の現状と防除対策	農業研究	28巻4:43-48.	被害状況、枯損防止法(駆除剤散布、予防薬剤散布、ガン・ノズル・スプレー・システム、薬剤樹幹注入、薬剤土壌施用)、総合被害対策。
45	岩下嘉光・福田真司	1982	蚕に寄生したスキムシノシセンチュウ Hexameris microramphidis Steiner.	宇都宮大学農学部(宇都宮大学農学部学術報告)	11(3)83-116.	形態、生態(土壌中分布、生活史)、蚕への寄生。
46	柿村徳英・鎌田信一・内田和夫・今井社一	1982	Studies on livestock excreta disposal by aerated lagoon: Comparison of protozoa and metazoa in extended aeration.	日獣医畜大研報(日本獣医畜産大学研究報告)	31:127-135.	ばっ気式ラグーンによる家畜糞処理により線虫(未同定)が出現。
47	鎌田嘉孝・今村昭二・中沢 青・斉藤栄成	1982	夏季ハウス密閉によるトマト青枯病、ネコブセンチュウの防除。 In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究	関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 61-64.	石灰窒素・稲葉・湛水・ポリマルチとの組み合わせ効果。線虫に対し顕著な効果。ハウス密閉のみでは地表下25cmで多数の生存虫。

48	金川 侃・岸 洋一	1982	リグデーデマツF ₁ ・F ₂ のマツノザイセンチュウ病抵抗性.	林木の育種	特別号 1982:44-46.	リグダマツとテータマツの雑種. 抵抗性検定結果にF ₁ ・F ₂ で差異.
49	金川 侃・岸 洋一	1982	選抜木とその自然交配産のマツノザイセンチュウ病抵抗性.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	93回:193-195.	アカマツの中にも強い抵抗性の木.
50	柏尾具俊	1982	ゴマダラカミキリに対するNeoplectana carpocapsaeの寄生性.	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	28:194-197.	ベトリ皿中のカミキリ幼虫およびカンキツの枝内食入幼虫に対する昆虫寄生性線虫の防除効果はきわめて高かった.
51	柏 司	1982	マツノザイセンチュウによる松枯損と樹幹注入剤ネマノンによる防除.	農業研究	29巻2:41-52.	マツ類の抵抗性、被害の分布・推移、線虫・カミキリの生活史、防除法、樹幹注入.
52	糟谷重未・金光桂二・佐倉詔夫・石原 猛・岸 洋一	1982	ザイセンチュウに対して抵抗性を持つアカマツ、クロマツの選抜・天然性マツへの3年間接種と生育状況.	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	34回:149-150.	講要
53	加藤喜重郎・宮川寿之・天野隆・小出仁士・廣田耕作・中込輝雄・深谷雅博・浅野幸男・高橋忠安・清水治夫	1982	夏季ハウス密閉によるトマド萎ちょう病(J3)、青枯病、軟腐病及びネコブセンチュウの防除. In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究.	関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 1-7.	線虫に対しきわめて高い効果. 稲葉、石灰窒素、ソルガムすき込み処理との併用による温度、pH、Eh、ECの変化、菌類・ネコブ・ネグサレセンチュウ被害度の推移.
54	加藤喜重郎・宮川寿之・天野隆・廣田耕作・中込輝雄・浅野幸男・宮田 勲・西垣喜久雄・各務昭二・中野義信	1982	夏季ハウス密閉によるイチゴ萎黄病の防除. In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究.	関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 95-100.	稲葉・石灰窒素の併用、灌水処理との比較. 自由生活線虫に対する影響にふれる.
55	川崎俊郎	1982	マツ枯損防止法 第3節 薬剤樹幹注入・土壌施用による枯損防止. In: 森林病虫獣害防除技術.	森林病虫獣害防除協会、東京	p. 297-312.	1980年以前の文献を元に試験結果をまとめる. 引用文献総数158. 農林試の業務報告・薬剤委託試験の成績書等で、本日録に収録していない内部資料等の引用も多い.
56	岸 洋一・海老根翔六	1982	マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保持状況.	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会報)	21:37-39.	羽化時期・年次別・外国樹種からのカミキリの線虫保持数. 樹種の違いの影響が大.
57	岸 洋一・海老根翔六・横堀 誠	1982	マツノザイセンチュウ加害による針葉の変色時期と樹脂流出量の異常.	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会報)	21:40-43.	その年次に枯れるマツの90~100%が9月末には樹脂流出は停止するか、異常に少なくなる.
58	北岡茂男	1982	Rhadinis属線虫を餌とした8種のCulicoidesヌカカ幼虫の飼育.	家畜試験研報(家畜衛生試験場研究報告)	83:9-14.	R. elegansを餌とした場合の幼虫の生育等.
59	鬼頭研二	1982	Phytoplankton nematode assemblage on Sargassum confusum Agardh, with reference to structure and seasonal fluctuations.	J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VI, Zool. (Journal of Faculty of Science, Hokkaido University)	23(1)143-161.	北海道忍路湾のホンダラワ科海藻表面の線虫. 49種を同定. 季節別の種類・密度の消長を調査.
60	清原友也	1982	Sexual attraction in Bursaphelenchus xylophilus.	日線虫誌(日本線虫研究会誌)	11:7-12.	マツノザイセンチュウの雄は処女雌および雌の放出物に誘引され、交尾雌と抱卵雌には誘引されず. 雌も雄に誘引され、両性誘引物質は水溶性かつ揮発性.
61	清原友也	1982	マツ材線虫病に対する抵抗性の誘導.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	93回:131.	講要
62	清原友也	1982	マツ材線虫病に対する誘導抵抗性.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	35:161-162.	前接種する線虫の種類、接種間隔について検討
63	小林富士雄	1982	マツノザイセンチュウの発見と松枯れ防止技術.	農林水産研究ジャーナル(農林水産技術研究ジャーナル)	5巻7:15-18, 22.	発見に至るまで、材線虫の発見、その後の展開、最近の研究の進展.
64	小林富士雄・中原二郎	1982	松枯れを防ぐ: 恐ろしい流行病からあなたの松を守るための一問一答と防除の実践例.	第一プランニングセンター(山と溪谷社)、東京	158pp.	68の質問に答える形でマツ枯損の原因、症状、マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリの生態、防除技術について解説. 「防除の現場より」として防除の実例.
65	古賀成司・古関孝彦・中山武則	1982	施設スイカ田におけるネコブセンチュウ、ユウガオつづの割病の耕種防除法.	九病虫研究会報(九州病虫研究会報)	28:55-58.	乾燥剤施用が両者の防除に著効. キャベツまたは青刈麦との交互栽培体系が線虫密度の復元を抑制.
66	小久保 醇	1982	林木の虫害抵抗性育種: 第16回森林動物シンポジウムから.	林木の育種	125:1-5.	次の講演要旨を含む. 大庭喜八郎: 林木の抵抗性育種. 藤本吉幸: 集団選抜によるマツノザイセンチュウ抵抗性育種. 佐々木 研: 古越隆信: 種間交雑によるマツノザイセンチュウ抵抗性育種.
67	駒田 旦・後藤昭・加藤喜重郎・吉野正義・戸崎正弘・米山伸吾・木暮幹夫	1982	太陽熱利用等による土壌病害虫防除、特に関東東山東海地域連絡試験を中心として. In: 太陽熱による土壌消毒に関する実証的研究.	関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 135-146.	線虫(No. 82-9, 47, 53, 54, 95, 132, 152, 167)、及び土壌病害(当資料には収録していない)に対する試験結果のまとめ.
68	今 友親・上野賢司・高宮泰宏・山田英一・高倉重	1982	ジャガイモストレンチュウとその防除対策第2報 被害解析.	北農	49巻9:1-15.	線虫密度と被害、栽培法による被害回避、ツニカの多収栽培法.
69	近藤栄造・Dropkin, V. H.	1982	ヨーロッパアカマツに対するマツノザイセンチュウの加害性.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:157.	講要
70	近藤栄造・Foudin, A.・Linit, M.・Smith, M.・Bolla, R.・Winter, R.・Dropkin, V. H.	1982	Pine wilt disease: Nematological, entomological, and biochemical investigations.	Agr. Exper. Stn., Missouri Univ., Columbia	56 pp.	アメリカ、日本のマツノザイセンチュウの形態、生態の比較. アメリカにおけるベクター、病原性、生化学的研究(毒素).
71	近藤芳五郎・長井 稔	1982	砂地クロマツ林におけるマツクイムシ被害に関する知見.	砂丘研究	29(2)67-73.	線虫の分布と移動. 二次害虫の同定と発生量.
72	下松明雄	1982	樹幹注入薬剤®ネマノンについて.	農業研究	28巻4:49-54.	開発、特性(吸収、移行性と拡散分布、残留・薬害)、施用技術(施用時期、部位、圧力注入、注入孔の処理)
73	下松明雄・原 昇	1982	マツノザイセンチュウ防除のための樹幹注入法の研究: 松の樹幹内に注入された水溶性色素の移行について.	農業研究	29巻2:53-56.	色素の移行を注入2月後に調査.
74	Kumazaki, T.・Hori, H.・Osawa, S.・石井直明・鈴木學	1982	The nucleotide sequences of 5S rRNAs from a rotifer, Brachionus plicatilis, and two nematodes Rhadinis tokai and Caenorhabditis elegans.	Nucl. Acids Res. (Nucleic Acids Research)	10(21)7001-7004.	未見
75	真宮靖治	1982	マツノザイセンチュウのマツ樹体内での定着と樹体組織の反応.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:157.	講要
76	真宮靖治	1982	マツノザイセンチュウの生態および病原性. In: 森林病虫獣害防除技術.	森林病虫獣害協会、東京	p. 183-225.	伝播昆虫、線虫の生活史(食性、発育と生活史、増殖、樹体内での生活、伝播者とのかかわりあい)、病原性および萎凋枯死機構(マツ属の抵抗性と感受性、病徴、マツ樹体内での動態、発病機構と毒素)、発病と環境条件(温度、土壌水分、標高、雨量等)、分布(日本、アメリカ、ニセマツノザイセンチュウ)、文献(493篇. 1980年以前を網羅).
77	真宮靖治	1982	マツノザイセンチュウとその媒介者. In: 国際林業研究機関連合第17回世界大会における技術情報収集報告書		p. 60-62.	発表論文の抄録
78	真宮靖治	1982	マツ枯れの現状と防除: マツ枯れの現状をあきらかにしその対策をさぐる.	採集と飼育	44(3)139-143.	マツ枯れ、マツノザイセンチュウ、線虫とカミキリの関係、マツノザイセンチュウ外来説、防除の解説
79	真宮靖治	1982	マツノザイセンチュウの学名変更とそのいきさつ.	森林防疫	31(6)104-107.	Bursaphelenchus xylophilusを使用することになった経緯.
80	真宮靖治	1982	クロマツおよびテータマツの材組織におけるマツノザイセンチュウの増殖経過比較.	日林関東支講要集(日本林学会関東支部大会研究発表集)	34回:147-148.	講要
81	真宮靖治	1982	Pine wilt and Pine wood nematode: Histopathological aspects of disease development. In: Resistance to diseases and pests in forest trees.	PUDOC, Wageningen	p. 153-160.	歴史、線虫寄生とマツ組織の反応の経時変化.
82	真宮靖治・林 良典	1982	マツノザイセンチュウと代謝産物の性質.	日植病報(日本植物病理学会報)	48(1)138.	講要

83	正木伸之・吉田正義	1982	マツノザイセンチュウの根部への移動による根と地上部の被害。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:156.	講要
84	正宗直・姉帯正樹・高杉光雄・勝井信勝	1982	Isolation of a natural hatching stimulant, glycinolein A, for the soybean cyst nematode.	Nature	297(5866)495-496.	菜豆からダイズシストセンチュウの孵化物質(glycinoleinA)を単離
85	松浦邦昭	1982	浸透性殺線虫剤によるマツノザイセンチュウ接種罹病木の治療。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	93回:129.	講要
86	皆川望	1982	日本産Troponema属線虫の分類学的研究。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:154.	講要
87	皆川望	1982	An additional new species of genus Nothocriconema from Mt. Aso (Tylenchida: Criconematidae).	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	11:24-27.	熊本県阿蘇山のススキ根辺から検出したワセンチュウをN. miscanthiと命名し、記載。現在はCriconema属の再定義により(Nothocriconema属がCriconema属のシノニムとなった)、この属に移されている(Raski, D. J. & Luc, H., Revue Nematol. 7(4)323-334, 1984)
88	皆川望	1982	Descriptions of Pratylenchus gibbicaudatus n. sp. and P. macrostylus Wu, 1971 (Tylenchida: Pratylenchidae) from Kyushu.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	17(3)418-423.	前者は熊本県阿蘇山のアラガヤから検出された新種。後者は熊本県下のヤマザクラ、クスギ、コナラ、カンワからの記録。形態を記載。
89	峰尾一彦	1982	マツノザイセンチュウ耐久型幼虫の頭数別接種試験。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	33回:255-258.	耐久型幼虫は培養線虫に比べて病原力が強い。500頭接種で枯死。
90	三浦猛夫	1982	太陽熱利用による病害虫対策:宮崎県における連作障害防止。	今日の農業	26巻7:16-20.	キュウリツル割病、ネコブセンチュウに対する効果。
91	三輪旋司・田伏洋・Furusawa, M.・Yamasaki, H.	1982	Tumor promoters specifically and reversibly disturb development and behavior of Canorhabditis elegans.	J. Cancer Res. Clinic. Oncol. (Journal of Cancer Research and Clinical Oncology)	104(1/2)81-87.	未見
92	宮崎信	1982	松くい虫被害材のバルブ化試験	森林防疫	31(5)78-81.	クラフト用バルブ原木には利用可、チップ収率は低下。
93	水野隆	1982	マツノザイセンチュウ防除薬剤「ネマノーン注入剤」。	林業と薬剤	81:11-15.	有効成分の理化学的性質、特徴、使用時期、効果等。
94	森正明・玄丞培(Hyeon, S. B.)・木村靖夫・鈴木昭憲	1982	The nematocidal activity of acetylene compounds.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	46(1)309-311.	合成アセチレン化合物の殺線虫活性。活性の発現にはアリール基、エステル基、ケトン基に隣接した三重結合の存在が必要。
95	長瀬雄治・村田明夫・竹内妙子・萩谷俊一・白崎隆夫	1982	夏季ハウス密閉によるトマト褐色根腐病ほか数種の土壌病害。土壌線虫の防除。In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究	関東東山東海地域技術連絡会誌・農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 35-40.	稲葉・石灰窒素・密閉・マルチ・灌水・断熱処理との組み合わせの効果。ネコブセンチュウにすぐれた効果。
96	長瀬淳・桑原保正・富永康平・須賀原亮三	1982	Nematocidal activity of alkylamine against the pine wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	46(1)167-172.	マツノザイセンチュウに対するアルキルアミンの殺線虫活性。n-オクタデシルアミンが最強(LD50 2.08 ppm.)
97	長瀬淳・桑原保正・富永康平・須賀原亮三	1982	Aggregation of Bursaphelenchus lignicolus (Nematoda: Aphelenchoididae) to several compounds containing oleyl group.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	17(1)46-51.	オレイル基の種類によりマツノザイセンチュウに対する集合の強弱に差。オレイルアミン類は殺線虫活性。
98	内藤孝道	1982	鹿児島たばこ試験場における技術連絡チームの活動状況について。	葉たばこ研究	90:102-103.	大隅地区線虫病対策にふれる。
99	中島靖之・松井正徳・吉武貞敏・田中澄人・中村利章・大場支征	1982	イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第2報 発生と培地条件との関連。	福岡農総誌研報(福岡県農業総合試験場研究報告) B	11:28-32.	発病はネグサレセンチュウ接種、高pH、遮光処理で多くなる。
100	中村茂樹・佐野善一・大庭真雄・荒城雅昭・中園	1982	九州(中部地域)平野部におけるダイズシストセンチュウの発生と被害。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	11:46.	熊本県西合志地区のダイズ4年連作圃場で、典型的坪枯症状が発生。
101	中園和年・荒城雅昭・佐野善一	1982	土壌型および初期密度が線虫の発生、産卵、ふ化虫数に及ぼす影響。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:159.	講要
102	中園和年・佐野善一・荒城雅昭	1982	土壌型の違いが線虫による作物の被害発現に及ぼす影響。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:160.	講要
103	中園和年・佐野善一・荒城雅昭・大庭真雄・中村	1982	九州平野部のダイズ畑に発生したダイズシストセンチュウの圃場内分布と被害。	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	28:178-180.	分布は集中的、黄化症の発生地点で高密度。草丈と着莢数も劣った。
104	中沢 齊	1982	夏季ハウス密閉短期処理によるネコブセンチュウ防除効果。	今日の農業	26巻7:23-25. 口絵.	根指指数からみた防除効果はEDB、D-D、ガスタード、ハウス密閉の順
105	中沢 齊・原田敏男・斎藤栄茂	1982	夏季ハウス密閉による土壌消毒効果。短期処理によるキュウリのネコブセンチュウ防除	関東害虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	29:169.	10日程度でも殺線虫剤と同程度の効果。
106	西沢 務	1982	Bacillus penetrans類似物の寄生特異性および線虫密度抑制効果。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:158.	講要
107	西沢 務	1982	果樹種苗に寄生する重要害虫:センチュウ。	果樹種苗	8:6-11.	未見
108	小原健良	1982	ガス抜きを省いたサツマイモの線虫防除。	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	28:187-190.	大隅半島の黒ボコ土ではD-DまたはEDB剤を半匁平均気温15℃以上の時、いものうね中央に30cm間隔15cm深さに注入し、マルチすれば、前者は10日、後者は20日後、ガス抜きなしで挿苗可能。
109	小原健良	1982	ガス抜きを省いたサツマイモのセンチュウ防除。	今日の農業	26巻7:73-76.	D-D、EDB剤。カンショの生育阻害は少ない。
110	小河誠司	1982	マツノザイセンチュウに関する研究(8)マツノマダラカミキリの食量と材線虫侵入増殖率。	日林九支研誌(日本林学会九州支部研究論文集)	35:157-158.	両者に密接な関係。
111	奥 八郎・上田隆之・富田和男・白石友紀・大内成志・山元広海	1982	激害型枯損マツに見出される異常代謝産物	日植病報(日本植物病理学会報)	48(3)360-361.	講要
112	大羽克明	1982	Canorhabditis elegansの水浸漬液におけるdauerlarvaの誘起性。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:158.	講要
113	大羽克明・藤田祐輔・広岡 薫	1982	Effects of the storage temperature of soil on number of Meloidogyne incognita larvae extracted by Baermann funnel method.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	11:1-6.	季節(2, 5, 7, 9, 12月)と保存温度(5, 15, 25, 35℃)とベルマン法分離虫数との関係を調査。冬期保温は5℃、夏期は25℃で好成績。
114	大羽克明・石橋信義	1982	A factor inducing dauer juvenile formation in Canorhabditis elegans.	Nematologica	28(3)318-325.	線虫培養液中に耐久型幼虫に移行させる物質が存在。培養条件・線虫の令期による違いを試験。
115	大庭喜八郎	1982	材線虫抵抗性。In: 森林害虫被害防除技術。	森林害虫被害防除協会、東京	p. 320-327.	マツ属の抵抗性(種間差、雑種)、要因、抵抗性育種。
116	大庭喜八郎	1982	Breeding of Pines for resistance to the wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus. In: Resistance to disease and pests in forest	PUDDC, Wageningen	p. 387-395.	接種方法の確立、抵抗性樹の検索。
117	大庭真雄・野村 介・八尋 健・山本泰由・後藤 昭	1982	畑地かんがい条件下での堆きゅう肥及び作付体系が作物生産力の推移に及ぼす影響 第2報 作付体系の差がカンショ、サトイモの生育収量に及ぼす影響。	日作九支報(日本作物学会九州支部会報)	49:56-59.	ネコブ、ネグサレセンチュウの密度変化を含む。
118	大山浪雄・福島勉	1982	マツノザイセンチュウ抵抗性マツの内樹皮pH。	日林九支研誌(日本林学会九州支部研究論文集)	35:109-110.	線虫接種後生き残るクロマト個体ではpHが低いものが多い。
118	大山佳邦	1982	陸上動物。In: 南極の科学:7. 生物。	国立極地研究所、東京	p. 246-273.	南極における線虫研究史及び検出種のリスト、季節的密度変動等の記録(外国人による研究の紹介)を含む。
119	佐野善一	1982	低温期土壌の加温保存が3分離法の線虫分離虫数に及ぼす影響。	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	11:33-37.	冬・春圃場土の25℃加温とベルマン法、ふるい分けベルマン法、および二層遠沈浮遊法の分離虫数の違いから主にサツマイモネコブセンチュウの越冬態、活性状態などとの関連を考察。
120	佐野善一・中園和年	1982	各種植物のMeloidogyne incognitaの密度抑制効果:栽培期間の影響。	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:159.	講要
121	佐野善一・中園和年	1982	サツマイモネコブセンチュウ対抗植物の他種線虫に対する有効性。	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	28:224.	講要
122	佐々木 浩	1982	樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験 第3報。	徳島林総誌七研報(徳島県林業総合技術センター報告)	20:126-132.	7751、ネマホス、テラキュアP、ダイズシスト剤の効果持続

123	佐藤平典・作山健	1982	岩手県におけるマツ材線虫病(松くい虫の被害)の現状と防除.	岩手林試成果報(岩手県林業試験場成果報告)	15: 29-64.	名称、伝搬のしくみ、被害状況、誘因、感染・増殖源、被害の特徴、防除.
124	Schaefer, P. W. Ikebe, K.	1982	Recovery of Hexameris sp. (Nematoda: Mermithidae), parasitizing gypsy moth, <i>Lymantria dispar</i> (L.), in Hokkaido.	Env. Ent. (Environmental Entomology)	11(3): 675-680.	北海道のマヤマカからシヘンチュウを発見. 野外での寄生率および放飼実験(最高84%寄生)、生活史.
125	千本末市夫・那須恵二朗・高橋哲夫	1982	飼料トウモロコシダイオキシ体系におけるキタネグサセンチュウの耕種防除 1. 抑制作物の導入効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29: 172-173.	サトイモ、サツマイモ、ラッカセイ、マリーゴールドは利用可能.
126	千本末市夫・那須恵二朗・高橋哲夫	1982	飼料トウモロコシダイオキシ体系におけるキタネグサセンチュウの耕種防除 2. マリーゴールドの導入効果.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29: 174-175.	3作に1作は必要.
127	新須利剛	1982	イチゴ根腐萎ちよう症の原因と対策	植物防疫	36(12): 541-544.	長崎農試の研究成績を中心に、症状、発症と栽培条件、発生の原因(Cylindrocarpus菌とクルミグサセンチュウの混合感染の可能性)、防除法を概説
128	周藤靖雄	1982	鳥根県における松くい虫被害の推移とその防除.	森林防疫	31(12): 224-227.	被害量の推移、被害分布の推移、気象条件との関係、防除.
129	須川豊伸	1982	マツノザイセンチュウ被害による傷害樹脂道の発生と糸細胞の発生.	日林誌(日本林学会誌)	64(3): 112-116.	線虫接種4日後から変化、その後の変化を観察.
130	鈴木和夫	1982	材線虫の時期別接種とアカマツ仮道管数増加の経時的変化.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	93回: 130.	講要
130	鈴木和夫	1982	材線虫の時期別接種とアカマツ仮道管数増加の経時的変化.	日林論(日本林学会大会論文集)	93回: 407-408.	8月以降の形成層活動に顕著な影響.
131	鈴木和夫・山田利博	1982	マツノザイセンチュウの個体数定量化の試み.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	33回: 251-254.	DNA阻害剤(アクテジオン、アクテノマイシンD、ヒドロキシシウレア)により増殖を止めた状態で調査する方法.
132	高久恒夫・大兼善三郎・羽生悦・野尻光一・大竹勝次・手塚徳也・大村裕顕・木村栄・渡辺正	1982	夏季ハウス密閉によるトマト褐色根腐病の防除. In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究.	関東東山東海地域技術連絡会議・農水産省農業研究センター、谷田部	p. 31-34.	ソルゴー、石灰窒素、デントコーン、稲藁との組み合わせ. ネコブセンチュウにも高い効果.
133	高倉重義・山田英一・高宮泰宏・今友親・上野賢司	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除対策第5報 防除対策.	北農	49巻11: 1-25.	殺線虫剤(D-D, EDB, デイトラベックス、テロンII、オキザミル粒剤、エソプロホス粒剤、ダイアジノン粒剤)、総合的な防除対策、伝搬防止.
134	高宮泰宏・上野賢司・今友親・山田英一・高倉重義	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除対策第3報 線虫に対する品種の特性.	北農	49巻9: 16-38.	野生種、感受性品種、抵抗性品種.
135	高野利達・萩原潤・湯原 巖	1982	ベントグラスセンチュウ <i>Anguina agrostis</i> の温度処理による殺線虫効果.	植防疫報(植物防疫所調査研究報告)	18: 34-46.	効果のあった温湯処理は50°C180分、53°C60分以上、乾熱は100°C9時間以上、15時間水浸後40°C乾燥100°C6時間の乾熱が最も好成績.
136	高岡宏行	1982	Mermithid, microsporidan and fungal parasitism of larval balck flies from Oita in	衛動(衛生動物)	33(2): 149-154.	5種のプユの幼虫から3種のMermithidae科線虫(シヘンチュウ)を発見.
137	高瀬 淑・小川寛史・藤下章男	1982	浸透性薬剤によるマツノザイセンチュウの防除効果と薬剤の吸収・移行および分布.	農業誌(日本農業学会誌)	7(4): 473-480.	メスルフェンホス、ダイシストンの動態.
138	滝沢幸雄・庄司次男	1982	岩手県におけるカラフトヒゲナガカミキリの分布と材線虫病媒介の可能性.	森林防疫	31(1): 4-6.	カミキリは平均4,200頭、最高45,600頭の線虫を保持.
139	田村弘志	1982	ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(1).	森林防疫	31(3): 53-54.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告. 続報は9報まで(No. 82-140~145, 83-166, 167.)
140	田村弘志	1982	ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(2).	森林防疫	31(4): 74-75.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告.
141	田村弘志	1982	ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(3).	森林防疫	31(7): 131-133.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告.
142	田村弘志	1982	ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(4).	森林防疫	31(8): 155-157.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告.
143	田村弘志	1982	ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(5).	森林防疫	31(9): 174-176.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告.
144	田村弘志	1982	ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(6).	森林防疫	31(10): 196-198.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告.
145	田村弘志	1982	ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(7).	森林防疫	31(11): 215-218.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告.
146	田中恵子・石橋信義・藤藤純夫	1982	サツマイモネコブセンチュウ雌成虫におけるaging.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回: 155.	講要
147	田中澄人・中村利直	1982	イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第3報 薬剤防除効果.	福岡農試研報(福岡県農業総合試験場研究報告) B	1: 33-34.	メチルプロマイド、EDB剤の効果が高い.
148	樋田幸夫	1982	リンゴネコブセンチュウ (<i>Meloidogyne mali</i>) のふ化に及ぼす温度の影響.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	11: 47-48.	適温は25~30°C、33°Cでは孵化幼虫の死亡増大
149	樋田幸夫	1982	クワに寄生する数種線虫の桑園土壌における分布の季節的変動.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回: 160.	講要
150	樋田幸夫	1982	線虫とクワの生育: ネコブセンチュウを中心に.	蚕糸技術	118: 34-38.	線虫相、ネコブセンチュウの寄生とクワのリン酸代謝、生育.
151	富樫一巳・関塚弘志	1982	Influence of the pine wood nematode, <i>Bursaphelenchus lignicolus</i> (Nematoda: Aphelenchoididae), on longevity of its vector, <i>Monochamus alternatus</i> (Coleoptera: Cerambycidae).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	17(2): 160-165.	多くのマツノザイセンチュウを保持するマツノマダラカミキリほど寿命が短い.
152	戸崎正弘・武藤正義・安田弘之・桑原紀之・和田友成	1982	夏季ハウス密閉によるキュウリネコブセンチュウ等の防除. In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究.	関東東山東海地域技術連絡会議・農水産省農業研究センター、谷田部	p. 101-110.	石灰窒素、有機物添加の併用、灌水処理との比較. 処理後は検定植物でのネコブセンチュウ被害株皆無となる.
153	坪井真一・佐々木昭孝・佐藤朋子・下松明雄	1982	樹幹注入法によるメスルフェンホス(®ネマノーン)のマツノザイセンチュウ (<i>Bursaphelenchus lignicolus</i>) 防除試験.	農業研究	28巻4: 70-73.	野外試験結果.
154	上林 讓	1982	黒点米の発生動向と対策.	植物防疫	36(3): 131-134.	症状、発生動向およびイネシシガサセンチュウ発生加害との関連性、線虫の防除(種もみ、育苗期での防除の重要性を指摘)
155	樋松清次・松本幹男・杉田恒雄・小野水静夫	1982	クルミグサセンチュウの発生とイチゴの連作年数および土壌消毒との関係.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29: 176-177.	連作により線虫増加、根も褐変.
156	上野賢司・山田英一・高倉重義・今友親・高宮泰宏	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除 第4報 輪作の効果と輪作作物の栽培法.	北農	49巻10: 1-20.	連輪作と線虫密度変動、輪作作物の栽培法
157	和田健夫・矢ノ口幸夫・高沼重義・清井敏博	1982	土壌くん蒸剤の大気中への拡散および土壌消毒帯における大気中クロルピクリン濃度について.	長野農試研報(長野県農業総合試験場報告)	2: 26-34.	クロルピクリン、D-D、MITO剤. D-D剤は施用25時間後までにホリマルチで施用量の3.3%、無被覆で18.0%が空中に散逸.
158	和田健夫・矢ノ口幸夫・清井敏博	1982	土壌消毒帯中における大気中クロルピクリン濃度.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	29: 181-182.	施用1月後を最高に、徐々に減少.
159	八木田秀幸	1982	線虫と桑病: ナガハリセンチュウとオオガタハリセンチュウを中心に.	蚕糸技術	118: 39-44.	クワモザイク病の伝搬、被害.
160	山田英一	1982	線虫類. In: 北海道農業技術研究会: 1966~1980 北海道農業試験場・北海道立農業試験場編.	北海道農業試験場研究機関創立80周年記念行事協賛会、札幌	p. 304-312.	ダイズシスト、ネコブ、ジャガイモシスト、ネグサレ、イネネモグリセンチュウ、転換畑・果樹の線虫、試験方法等のまとめ. 参考文献数80.
161	山田英一・高倉重義	1982	葉枯症状の花ユリから分離されたイチゴセンチュウ、 <i>Aphelenchoides fragariae</i> 、について.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	11: 28-32.	北海道産ユズカサノコ交配種の葉枯症の病原は本線虫と判明. 葉の裏面組織に内部寄生し、実は黄変、褐色化、枯死する.
162	山田英一・高倉重義・上野賢司・今友親・高宮泰宏	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除 第1報 北海道の発生分布と生態.	北農	49巻8: 1-28.	発生分布(初発年の経過、線虫の形態、現在までの分布状況)、生態(発生消長、抵抗性品種と感受性品種の比較、殺線虫剤施用と消長、非寄生栽培と消長、深度別分布、低温・高温耐性)
163	山口泰典・三輪鏡司	1982	線虫 <i>Caenorhabditis elegans</i> に対するモノクローナル抗体.	動雑(動物学雑誌)	91(4): 348.	講要
164	山川邦夫	1982	ナスの土壌病害抵抗性新台木「トムバム・ピガー」の利用.	今月の農業	26巻2: 88-91.	ネコブセンチュウにかなりの効果.
165	山中啓・齊藤徹・齊木博・椿啓介	1982	森林土壌糸状菌によるマツノザイセンチュウの増殖.	森林防疫	31(4): 59-61.	<i>Mortierella</i> , <i>Trichoderma</i> , <i>Pestalotia</i> 菌が良い結果.

166	山中 啓・若林健司・齊藤 徹・榎啓介	1982	森林土壌糸状菌によるマツノザイセンチュウの生育の促進と抑制.	農化(日本農業化学会誌)	56(6):427-434.	99菌株の寄主の好適度を線虫の増殖をもとに分類. Phomopsis菌の2株は強力な殺線虫作用.
167	米山伸吾・小松鋭太郎・松沢義郎	1982	夏季ハウス密閉によるキュウリつる割病およびネコブセンチュウの防除. In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究.	関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 111-115.	稲藁、石灰窒素、パーク堆肥添加、湛水処理との比較. 線虫への効果は高い. 有機物の土壌施用はとくに必要なし.
168	吉原照彦・山口勝義・坂村貞雄	1982	A lignan type stress compound in potato Infected with nematode (Globodera rostochiensis).	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry).	46(3):883-854.	ジャガイモシストセンチュウに寄生されたジャガイモ根等からリグナン型ストレス化合物を単離. 9-hydroxyguaiaunoneoxyligna-9-O- β -D-glucosideと同一.
169	吉井多聞・鈴木栄太郎	1982	クワおよびキボシカミキリ成虫から分離される線虫について.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	33:129-130.	Rhadinidae科の1種とBursaphelenchus sp.
170	吉井多聞・鈴木栄太郎	1982	クワおよびキボシカミキリ成虫から分離される線虫のクワに対する接種.	北日本病虫研報(北日本病虫研究会報)	33:131-132.	Diplogasteridae, Bursaphelenchus sp. はクワに対する加害性は無い.
171	吉村克生	1982	Free-living marine nematodes from Kii Peninsula. II.	Publ. Seto Mar. Biol. Lab. (Publications of Seto Marine Biological Laboratory)	27(1/3):133-142.	Metancholaimus filispiculum, Meyersia japonicaの2新種を記載. 前者の属の種の検索表を示す.
172	吉武貞敏・大場文征・田中澄人・中村利直・中島靖之・松井正徳	1982	イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第4報 イチゴ根腐萎ちよう症に対する陽熱消毒効果.	福岡農総試研報(福岡県農業総合試験場研究報告) B	1:35-40.	十分な防除効果あり.
173	湯原 巖	1982	侵入が警戒される重要線虫類.	植物防疫	37(7):22-27.	わが国未発生の植物検疫上重要な5種(ミカンネモグリ、ジャガイモシロシスト、イネネキ、ブドウオオハリ、テンサイシストセンチュウ)の生態、被害、形態、寄主植物、防除法について解説.
174	湯原 巖・相原孝雄	1982	サイクロンの利用によるシストセンチュウ類のシストの分離・検出法.	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	18:1-5.	乾燥土壌および種子中に混在するシストセンチュウ類シストの機械による風選の分離条件と効率
175	湯原 巖・平田賢司	1982	改良型サイクロンによるシストセンチュウのシストとベントグラスセンチュウのゴール検出法.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	26回:161.	講要
0		1983	昭和58年(1983)			
1	相原孝雄・湯原巖・山崎和雄	1983	ツバキネコブセンチュウ(Meloidogy camelliae)の季節的発生消長及び数種寄主植物.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	12:33-40.	神奈川県下ツバキ、サザンカ根圏の密度は春・秋に増大、夏・冬に減少. 増殖適温は13~14°C、新寄主としてヒサカキ、ハマヒサカキ、チャ、シロツメクサ(やや不適).
2	青柳美智子・石橋信義	1983	Gametogenesis of the pine wood nematode, Bursaphelenchus xylophilus.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	13:20-25.	卵子・精子は他の両性生殖型線虫と同じ減数分裂で形成. 染色体は雌雄ともn=6、性染色体は識別できず. 未受精卵は崩壊.
3	荒城雅昭・中國和年・佐野善一	1983	九州地域のネコブセンチュウ(Meloidogyne spp.)分類・同定に関する問題点.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:162.	講要
4	荒城雅昭・佐野善一・中國和年	1983	サツマイモの連作障害とサツマイモネコブセンチュウの関連性.	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	29:129-132.	農林1号連作圃の塊根異常症の発生は、線虫の寄生・加害とは直接関係はなく、他の病原菌等の関与が示唆された.
5	在原登志男	1983	アカマツ雪害木から羽化脱出したカミキリ3種のマツノザイセンチュウ保持数.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:151	講要
5	在原登志男	1983	アカマツ雪害木から羽化脱出したカミキリ3種のマツノザイセンチュウ保持数.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:473-474.	カラフトヒゲナガ、スジマダラモモト、マツノマダラカミキリ. 前二者の保持数は少ない.
6	在原登志男・齊藤勝男	1983	アカマツの雪害木に対するマツノマダラカミキリの寄生とマツノザイセンチュウの生息状況について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:151	講要
6	在原登志男・齊藤勝男	1983	アカマツの雪害木に対するマツノマダラカミキリの寄生とマツノザイセンチュウの生息状況について.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:471-472.	被害木の50~75%に材線虫生息.
7	在原登志男・齊藤勝男	1983	アカマツ雪害木における被害形態及び部位ごとのマツノマダラカミキリの寄生とマツノザイセンチュウの生息状況.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	35:139-141.	折損部が短いほど寄生しにくい.
8	浅野孝男・加藤俊博・木下忠孝・有沢道雄	1983	土壌消毒後の土壌養分の動態に関する研究(第2報)消毒剤が土壌微生物相の変化及び果菜類の生育・収量に及ぼす影響.	愛知総農試研報(愛知県農業総合試験場研究報告)	15:216-222.	D-D剤は放線菌に対してはほとんど影響なし.
9	浅利 覚	1983	ネコブセンチュウ寄生リンドウ苗の温湯消毒.	今月の農業	27巻8:29-32.	49~51°C15分が良い.
10	浅利 覚・声沢俊行・内田 勉・清水賢年	1983	リンドウネコブセンチュウの苗温湯浸漬による防除.	山梨農試研報(山梨県農業試験場研究報告)	23:117-128.	50°C10分処理が適当.
11	千葉恒夫・下長根 鴻・祝迫親志・松田 明	1983	サツマイモ根腐れかという症状(仮称)の発生と防除法. とくにクロルピクリン剤による効果的消毒法について.	茨城農試研報(茨城県農業試験場研究報告)	23:149-166.	D-D、EDB剤注入効果はクロルピクリンより劣る.
12	近岡 一郎	1983	キタネグサレセンチュウによる作物被害と防除に関する研究、特に対抗植物の利用について.	神奈川農総研報(神奈川県農業総合研究所研究報告)	125:1-72, 6 pls.	発生消長、被害の特徴、その査定(ダイコン、ニンジン、ジャガイモ、サツマイモ、キャベツ、レタス、トマト、インゲンマメ)、生態(増殖、水中・土中での生存、寄主植物、寄生と土壌条件)、薬剤感受性(D-D、EDB、DBCP、NCS、ペーバム、テロン、ドローン)、薬剤防除(ニンジン、三浦ダイコン、二年子ダイコン)、対抗植物利用(マリーゴールドの品種別、栽植日数、トマト混栽、 α -terthienylおよびマリーゴールド粉末施用の線虫密度低減効果、線虫密度を下げる栽植方法).
13	近岡 一郎	1983	キタネグサレセンチュウの被害、生態および防除.	今月の農業	27巻8:21-26.	症状、病斑型、発生消長、寄主、薬剤感受性、対抗植物による防除.
14	遠田暢男	1983	関東他方におけるマツノマダラカミキリ成虫のマツノザイセンチュウ保持数.	日林関東支論(日本林学会関東支部発表論文集)	34回:155-158.	地域、年度、カミキリの成熟期、脱出時期、雌雄別等のカミキリの材線虫保持数の違い.
15	遠田暢男・池田俊弥	1983	マツノザイセンチュウの離脱に関与するアカマツの揮発成分.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:153	講要
15	遠田暢男・池田俊弥	1983	マツノザイセンチュウの離脱に関与するアカマツの揮発成分.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:479-480.	モノテルペン、 β -ミルセン処理によりカミキリからの線虫離脱高率となる.
16	藤本吉幸	1983	マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業のその後.	林木の育種	128:20-21.	事業の経過
17	藤下章男	1983	EDB油剤及びクロルピクリン液剤によるマツ枯損材のくん蒸処理.	日林中部支論(日本林学会中部支部講演集)要集	31回:183-184.	ビニル被覆との組合わせでEDB剤は大きな効果.
18	福留信明・青木昌三	1983	土壌中の線虫密度とタバコの被害との関係.	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	29:181.	講要
19	古越隆信・佐々木 研	1983	二葉松類の種間雑種とマツノザイセンチュウ抵抗性.	林木の育種	129:1-6.	クロマツ、タイワンクロマツの雑種の交配および特性検定.
20	古野東洲・二井一禎	1983	マツノザイセンチュウ接種マツ属の生育、とくに接種後3年間における生育について.	京大農演習林報(京都大学農学部演習林報告)	55:1-19.	生存個体も接種翌年の生育が低下. P. bonkasia, P. rigidaでは線虫接種の影響なし.
21	古野東洲・二井一禎	1983	マツノザイセンチュウ接種クロマツの生育: とくに生存木の生育について(予報).	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:149.	講要
22	古野東洲・二井一禎	1983	マツノザイセンチュウに抵抗性を示した霧上松の生育について.	日林関西支論(日本林学会関西支部大会講演集)	34回:273-275.	線虫接種後生存木のその後の生育.
23	古富英明	1983	幅広い虫被害は防げるか: 森林の保全対策をめぐって.	農業富民	55巻2:90-93.	被害の現状、防除対策.
24	二井一禎・古野東洲	1983	同一マツ樹体内への異種あるいは同種線虫の時差接種.	日林関西支論(日本林学会関西支部大会講演集)	34回:276-279.	クロマツ、アカマツへの接種. 病徴進展抑制に若干の効果
25	後藤 昭	1983	浅間山麓・八ヶ岳山麓の高冷地における線虫調査より: ネコブセンチュウ・ネグサレセンチュウについて.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:159.	講要
26	萩谷俊一	1983	線虫捕食菌(Monacrosporium ellipsosporum)培養土の施用がキュウリの収量及び土壌中のネコブセンチュウ密度に与える影響.	関東病虫研報(関東東山病虫研究会年報)	30:180-182.	定着はしたが、効果は不明瞭.
27	萩谷俊一	1983	センチュウ捕食菌のキュウリに対する施用効果と実用性.	今月の農業	27巻5:94-99.	増収は捕食菌の直接の作用より、パーミキュライトによる土壌物理性改良の効果もあるとする.
28	半田孝俊	1983	水戸・笠間営林管内の国有林でのマツノザイセンチュウ抵抗性候補木の選択.	茨城病虫研報(茨城県病虫研究会報)	22:39-41.	テーダマツ以上の抵抗性のあったのはアカマツでは25候補木のうち2本、クロマツでは33本中5本.

29	原 国弦	1983	薬剤の単木処理技術に関する研究.	愛媛林試研報(愛媛県林業試験場研究報告)	8:25-45.	サイアノックス、ハイジツト、7751、テラキアP、ネマホス、PC-3203の樹幹注入、ダイシストン、ランネットの土壌施用、施肥と薬剤の効果との関係
30	原 国弦	1983	マツ枯損動態の解明に関する研究.	愛媛林試研報(愛媛県林業試験場研究報告)	8:47-57.	被害の推移、分布
31	原 彦彦・百田洋二・草刈真一・阿部一博・山田貴	1983	ハウスマスの連作障害に関する研究.	大阪農林技研報(大阪府農林技術センター研究報告)	20:1-9.	サツマイモネコブセンチュウ密度は連作により増加。抵抗性台木は有望.
32	橋本昭彦・古賀成司・中山武則・小川芳久・古閑孝彦・川辺益美・小代寛正	1983	スイカの連作障害の原因と対策.	熊本農試研報(熊本県農業試験場研究報告)	8:85-119.	サツマイモネコブセンチュウは萎凋病発生の原因となる。菌類との関係、有機物施用、土壌水分とハウス密閉効果、輪作の効果を含む。
33	橋本平一	1983	マツ材線虫病罹病木における通水機能について.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	36:187-188.	接種後の通水性の変化を調査.
34	橋本平一・堂園安生・河辺祐嗣	1983	マツ材線虫病の萎凋生理に関する研究(Ⅰ)樹体内における線虫の増殖について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:150	講要
34	橋本平一・堂園安生・河辺祐嗣	1983	マツ材線虫病の萎凋生理に関する研究(Ⅰ)樹体内における線虫の増殖について.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:469-470.	症状と部位別の線虫増殖.
35	橋本平一・堂園安生	1983	マツ材線虫病の萎凋生理に関する研究(Ⅱ).	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:150.	講要
36	日野出裕二・大野浩・首藤義博・渡辺博恭	1983	マツノザイセンチュウ抵抗性及び感受性機構の解明.	日農薬学会大会講要(日本農薬学会大会講演要旨)	p.211.	未見. 講要.
37	日野出裕二・首藤義博・渡辺博恭	1983	増殖型マツノザイセンチュウに対するβ-myroneの増殖促進作用.	日農薬学会大会講要(日本農薬学会大会講演要旨)	p.125.	未見. 講要.
38	平野 潤・三河義雄・南館 昌	1983	シタケほだ木に寄生する線虫と害菌(トリコデルマ属菌)の生態.	若手林試成果報(若手県林業試験場成果報告)	16:49-56.	Aphelenchus, Paraphelenchus属線虫は、害菌の多いほだ木から多数検出
39	平野和弥	1983	トマトにおけるネコブセンチュウと萎ちよう症との複合病因による疾病論的考察.	千葉大園学報(千葉大学園芸学部学術報告)	32:129-206.	トマト連作圃場における発病、品種による発病差異、線虫と菌の接種密度・時期(時差)と発病、接種方法・形態の違いと発病、混合感染の経過と複合病の発現、Fusarium菌の分化型と発病、根圏微生物の変化、感染組織浸出水の病原菌発育への影響.
40	平野和野・雨宮良幹・飯田 格・山本権子	1983	トマトの根に対するサツマイモネコブセンチュウの加害と2種病原菌の定着、侵入についての走査電子顕微鏡観察	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:161.	講要
41	平田賢司・湯原 康	1983	関東他地方のケヤキから混入されたLongidorus martiniiについて.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:157.	講要
42	広瀬敏晴・山下俊勝	1983	兵庫県における黒点米の発生実態.	兵庫農試研報(兵庫県農業総合センター研究報告)	31:45-48.	県北部に多、品種間差不明、県南部では線虫の生息数と黒点米混入率に正の相関
43	細野隆次	1983	線虫Caenorhabditis elegansの生物学:移動運動にかかわる遺伝子.	遺伝	37巻6:13-18.	VNC形成にどのように細胞は参加するのか、マヒ性突然変異
44	井口慶三・百田洋二・稲垣春郎	1983	筑波におけるダイズシストセンチュウの発生消長.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	30:187-188.	年3-4世代
45	井口慶三・百田洋二・稲垣春郎	1983	抵抗性品種、非寄主作物によるダイズシストセンチュウ密度抑制効果.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	30:190-191.	両者の効果は同程度
46	飯島 勉	1983	トマト半身萎ちよう病に関する研究.	東京農試研報(東京都農業試験場研究報告)	16:63-128.	サツマイモネコブセンチュウ、カタネグサレセンチュウとVerticillium, Fusarium菌との関係p.94-103. 抵抗性品種は線虫存在下でも安定した抵抗性を発揮
47	稲垣春郎	1983	ダイズシストセンチュウのレースと抵抗性品種.	今日の農業	27巻8:16-20.	国内のレースと分布、抵抗性の機作・発生機構、抵抗性品種の重要性.
48	稲垣春郎	1983	線虫におけるレースの諸問題:ダイズシストセンチュウを中心として.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	30:10-13.	反応の機作、用語、ダイズシストセンチュウのレース、レース発生機構、抵抗性品種.
49	稲垣春郎・百田洋二	1983	線虫抵抗性サツマイモ品種によるサツマイモネコブセンチュウの防除とその効果の持続.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	30:183-184.	1作することにより翌年の感受性品種の線虫害軽減
50	稲垣春郎・百田洋二	1983	サツマイモの境相異常症と線虫との関連.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	30:185-186.	褐色さび病、褐色ひび割れは線虫と直接の関係なし.
51	石橋信義	1983	線虫による害虫防除.	遺伝	37巻6:31-35.	シヘンチュウの真性寄生、Deladenusによる偽産卵、線虫(Neoplectana, Heterorhabditis)の共生細菌による昆虫の死、害虫防除への問題点.
52	石橋信義	1983	ネコブセンチュウにおける種族維持方式の一考察.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:161.	講要
53	石橋信義・近藤栄造	1983	Biotic and abiotic factors affecting nematodes and other soil fauna.	IVth ICPP, Abstracts of papers:	p.49.	講要
54	石橋信義・近藤栄造・伊藤登志	1983	Effects of application of certain herbicides on soil nematodes and aquatic invertebrates in rice paddy fields in Japan.	Crop Protect. (Crop Protection)	2(3)289-304.	4種除草剤の水田施用と土壌線虫・水棲無脊椎動物に対する影響。イネネモグリセンチュウは増加、捕食性線虫は激減.
55	石井克明・古越隆信・近藤植二	1983	クロマツメタイワシアカマツ雑種の枝条に含まれるモノテルペン.	林木の育種	(特別号):29-32.	含有量による抵抗性木決定は困難.
56	石井克明・栗延晋・古越隆信	1983	クロマツメタイワシアカマツ雑種F1, F2及びBI等のマツノザイセンチュウ抵抗性.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:81	講要
56	石井克明・栗延晋・古越隆信	1983	クロマツメタイワシアカマツ雑種F1, F2及びBI等のマツノザイセンチュウ抵抗性.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:245-247.	樹種間に著しい有意差。遺伝についても論ずる.
57	石川元一・渡辺耕造	1983	輪作とダイズシストセンチュウ密度.	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	30:189.	野菜2作または2年休閑により被害軽減
58	伊丹 清・坂口進	1983	ツツジの連作障害に関する研究(第1報)ポット育苗による障害の再現及び対策技術の探察.	園芸学会発表要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭58春:332-333.	講要。少数のネグサレセンチュウを検出したが、原因ではない。
59	柏 司・石川昌哉・首藤義博・金子章・渡辺博恭	1983	マツノザイセンチュウ抵抗性とβ-ミルセン含量の相関について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:154.	講要
60	川村 満・気賀沢和男	1983	イネシガラセンチュウ(Aphelenchoides besseyi Christie)による傷害米の発生経路.	四国植防(四国植物防疫研究)	18:45-52.	経過の記載およびカラー写真による図示.
61	岸 洋一	1983	茨城県内の市街地、工場敷地面積率とマツ枯損状況.	茨城県病虫研報(茨城県病害虫研究会年報)	22:35-38.	マツ枯損は大気汚染と無関係に進行する.
62	鬼頭研二	1983	Deep-Sea nematodes of Mindanao Islands, the Philippines. I. Draconematida.	Annot. Zool. Japon. (Annotations Zoologie Japonenses)	56(1)27-41.	フィリピン沖の深海から新属新種Cephalochaetosoma pacificum, C. ucchidaiを発見、記載.
63	清原友也	1983	マツ材線虫病に対する抵抗性の誘導:抵抗性誘導におよぼす前接種密度の影響.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	36:191-192.	300頭以上接種時に生存率有意に高い
64	清原友也・橋本平一・藤本吉幸	1983	マツノザイセンチュウの病原力の変異.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	36:189-190.	線虫の系統により違いがある.
65	清原友也・河辺祐嗣・紺谷修治	1983	種内交配によるマツノザイセンチュウの病原力の変化.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:147.	講要
66	小林亨夫・佐々木克彦	1983	マツ材線虫病の周辺:根系糸状菌・材中糸状菌(I).	森林防疫	32(9)162-168.	松枯れの研究の中で調査された菌類の種類とその接種試験結果に関する未発表データのまとめ.
67	小林亨夫・佐々木克彦	1983	マツ材線虫病の周辺:根系糸状菌・材中糸状菌(II).	森林防疫	32(10)182-187.	特に青変菌についての試験結果
68	小林義明	1983	ジャコウケの病害虫ととの防除.	農業技術研究	37巻8:50-52.	ディブテレックス、ランネットによるユリセンチュウ、ハガレセンチュウ防除を含む。
69	寛貞成司・小代寛正	1983	秋ダイズに対するサツマイモネコブセンチュウ及びジャコウネコブセンチュウの寄生性.	九病虫研報(九州病害虫研究会年報)	29:136-137.	ダイズ(フクユタカ、アキヨシ)に対する寄生と増殖は前者線虫が後者より明らかに少なかった.
70	小久保 醇・松井均	1983	第17回森林動物シンポジウム"東北地方におけるマツ材線虫病の特徴と問題点".	日林誌(日本林学会誌)	65(10)392-396.	次の講演要旨と討論のあらまし。庄司次男:マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリ分布と特徴;志水勝彦:マツの枯損動態の特徴;滝沢幸雄:マツノマダラカミキリの生態上の特徴;在原登志雄:防除の実態と問題点;佐藤平典:感染源としての諸要因.

71	近藤栄造・石橋信義	1983	昆虫寄生性線虫Neoaplectana carpocapsae (DD-136)のハスモントウ幼虫への侵入と発育	九病虫研究会報(九州病害虫研究会報)	29:111-114.	線虫はヨトウ幼虫に経口的に侵入、血腔において発育。線虫接種24時間で幼虫は運動性を停止した。
72	近藤栄造	1983	マツノザイセンチュウの生態と構造的特徴	遺伝	37巻6:24-29.	生育ステージ別の表皮・内部形態の変化とその意味。
73	近藤栄造・石橋信義	1983	マツノザイセンチュウ耐久型4期幼虫の発育と脱皮	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:165.	講要
74	近藤栄明	1983	数種の針葉樹に対するマツノザイセンチュウの病原性	森林防疫	32(12)221-225.	カラマツ、ヒメコマツ、ヒマラヤスギでは枯損、モミ、アカトマツ、オウシュウトウヒでは部分枯れ発生。
75	草葉敏郎・作山健	1983	堆肥の連年施用試験:ネグサレセンチュウの生息密度について	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	35:85-86.	施用により線虫密度低下。
76	桑原保正	1983	マツノザイセンチュウ捕捉菌の生産する生態活性物質の単離と同定。 In: マツノザイセンチュウ捕捉菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭和57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p.70-78.	抽出条件、ガスクロマトグラフィ分析結果。大量培養・抽出同定は困難。
77	桑原保正	1983	殺線虫性森林土壌糸状菌Phomopsis sp. No. 30に含まれる殺線虫物質の検索。 In: マツノザイセンチュウ捕捉菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭和57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p.79-83.	抽出・分析結果
78	Linit, M. J.・近藤栄造・Smith, M. T.	1983	Insects associated with the Pine wood nematode, Bursaphelenchus xylophilus (Nematoda: Aphelenchoididae) in Missouri.	Env. Ent. (Environmental Entomology)	12(2)467-470.	アメリカではマツノザイセンチュウを7種の鞘翅目昆虫が進ぶ。Monochamus carolinensis では1頭当たり平均19.152頭の線虫を検出。
79	前田敏機	1983	マツノザイセンチュウ抵抗性松供給特別対策事業	林木の育種	129:7-8.	趣旨、概要。
80	牧野孝宏	1983	施設野菜の土壌消毒法	農業技術研究	37巻7:33-35.	クロルピクリン、夏季ハウス密閉の効果。
81	真宮靖治	1983	Pathology of the pine wilt disease caused by Bursaphelenchus xylophilus.	Ann. Rev. Phytopathol. (Annual Review of Phytopathology)	21:201-220.	材線虫の病原性、線虫の行動と病気の進展、病気の発現と環境、分布。
82	真宮靖治	1983	The effect of wood tissues on the molting rate of the dauerlarvae of Bursaphelenchus xylophilus.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	13:6-13.	針葉樹・広葉樹17種の枝組織抽出物質およびアセトン抽出液によるマツノザイセンチュウ耐久型幼虫の脱皮促進効果はマツ属とカラマツで最高、広葉樹でも効果。マツ属の種間に有意差なし。
83	真宮靖治	1983	ニセマツノザイセンチュウのクロマツ当年苗に対する病原性	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:148.	講要
84	真宮靖治	1983	マツノザイセンチュウのaxenic culture(予報)	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:164.	講要
85	真宮靖治	1983	Pathological aspects of pine wilt diseases caused by the pine wood nematode (Bursaphelenchus xylophilus).	IVth ICPP, Abstracts of Papers.	p.84.	講要
86	真宮靖治・林良興	1983	マツノザイセンチュウの大量培養と代謝産物の性質 第2報	日植病報(日本植物病理学会報)	49(3)399-400.	講要
87	真宮靖治・田村弘忠	1983	昆虫寄生性線虫Steinernema feltiaeのマツノマダラカミキリに対する寄生性と致死効果	日林関東支論(日本林学会関東支部発表論文集)	35回:163-164.	48時間以内に高い死亡率。蛹室内のカミキリもほとんどが死亡。
88	松浦邦昭	1983	マツノザイセンチュウ防除単剤処理剤の作用機作(1) 酒石酸モランテル剤がしめすクロマツ苗樹体内への線虫の侵入阻止効果	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:165.	講要
89	松浦邦昭	1983	浸透性殺虫剤の立木注入によるマツ材線虫病罹病木の治療(II)	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:153.	講要
90	松浦邦昭	1983	樹幹注入剤:マツノザイセンチュウ防除新技術	山林	1185:54-55.	有効成分、作用。
91	松浦邦昭・深見佛一・柏司	1983	動物用駆虫剤モランテルの有機塩類の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験(III)	日農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	8回:112.	講要
92	皆川望	1983	Descriptions of two new species of nematode genus Trophonema Raski, 1957 (Tylenchida: Tylenchulidae)	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	18(1)90-97.	本属の再定義およびT. okamotoi(茨城県のコマツナギから)、T. asoense(熊本県阿蘇山のアラガヤから)の2新種の記載
93	皆川望	1983	日本産トゲワセンチュウ亜科の新属について	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:158.	講要
94	峰尾一彦	1983	マツノマダラカミキリからマツノザイセンチュウの離脱と樹体内侵入(第2報)	日林関西支論(日本林学会関西支部大会講演集)	34回:259-261.	離脱はカミキリ羽化後10-20日後。後食部以外からも侵入。
95	三井康	1983	わが国における線虫捕食菌の種類と防除および生理・生態に関する研究	農技研報(農業技術研究所報告) C	37:127-211.	研究史、菌の種類(31種の記載・図)、畑地・林地での分布、畑・施設栽培・果樹園の菌の種類と密度、捕捉活性、菌を利用した線虫防除。
96	三井康	1983	Corynespora(ダイズ根腐病菌):病原と発生生態。 In:北海道畑作物の土壌病害	北海道畑作物の土壌病害刊行会、札幌	p.277-282.	病徴、菌の形態と培養性質、病原性・発病条件、線虫との関連(キタネグサレセンチュウと菌との複合病害)。
97	三井康・清水啓・本間健平	1983	ダイズシストセンチュウ抵抗性品種「スズヒメ」における線虫相の変動	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:160.	講要
98	百田洋二	1983	Meloidogyne maliの寄生および形態に関する2,3の知見	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:162.	講要
99	百田洋二・稲垣春郎	1983	岩手、宮城、栃木、山梨、兵庫、熊本のダイズシストセンチュウのレーズ	関東東病研報(関東東山病畜研究会年報)	30:192.	岩手、山梨はレーズ1、他はレーズ3。
100	百田洋二・稲垣春郎・井口慶三・遠山操	1983	ダイズシストセンチュウ密度に及ぼす抵抗性品種および非寄主作物の影響	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:166.	講要
101	森格良・宇都宮直吾	1983	線虫のシタケ菌防除機能の解明	愛媛県林試研報(愛媛県林業試験場研究報告)	8:123-130.	Aphelenchoides属線虫の検出結果。
102	森徳典・井上敏雄	1983	マツノザイセンチュウ接種苗の幹の呼吸	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:104.	講要
102	森徳典・井上敏雄	1983	マツノザイセンチュウ接種苗の幹の呼吸	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:307-308.	時には接種24時間以内に異常発生。
103	諸岡信久	1983	「松枯れ」はセンチュウではなくカビの害	現代農業	62巻6:46-47.	青変菌説の紹介。
104	諸岡信久・角田廣・辰野高司	1983	マツの立ち枯れ病に關する糸状菌類の研究	防菌防疫	11(7)423-431.	Phoma sp. 菌。立枯木のミクロフローラ、アカマツ苗木に対する菌の侵入・増殖、菌の代謝産物の検討、Phomopsis sp. の生産するcellulaseの検討。
105	長瀬淳・桑原保正・富永康平・須賀原亮三	1983	Nematicidal activity of N-substituted and N,N-disubstituted alkylamines against the pine wood nematode, Bursaphelenchus	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	47(1)53-58.	N-置換、N,N-ジ置換アルキルアミン類33化合物中9化合物が2ppm以下で殺線虫活性を示した。
106	内藤豊	1983	マツノザイセンチュウの行動。 In: マツノザイセンチュウ捕捉菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭和57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p.84-95.	基本的行動と反応パターン、ガラス細管内の行動、急性反応(オレイルアミン、1モノオレイン、捕捉菌抽出物)、選択性と分布。
107	中川茂子	1983	マツノザイセンチュウの死亡個体と生存個体の分離方法等の検討	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:148.	講要
107	中川茂子	1983	マツノザイセンチュウの死亡個体と生存個体の分離方法等の検討	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:465-466.	濾紙を用いた生存線虫の分離と薬剤浸漬試験。
108	中園和年	1983	日本産Rotylenchulus reniformis Linford and Oliveira, 1940の形態および生理・生態の変異に関する研究:両性生殖型と単為生殖型個体群の地理的分布との関連性	農技研報(農業技術研究所報告) C	38:1-67.	地理的分布、圃場内分布、形態の比較、雄の出現率、雄の役割、雄の性的誘引および個体群間の誘引度の差異、環境要因と発育、個体群間の寄生嗜好性の差異。
109	中園和年	1983	トマに寄生した単為生殖系統Rotylenchulus reniformisの成長と産卵	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	12:21-25.	雌の体長と体幅は階梯型の成長曲線、平面画像面積はS字型曲線、産卵数は68個以上。
110	中園和年	1983	九州地域における線虫の被害と防除上の問題点	九州農業研究	45:10-11.	畑作および野菜作でネコフ、ネグサレセンチュウが生産阻害要因として重要。薬剤・耕種的防除上、留意すべきこと、解決すべき問題点を概説

111	中園和年	1983	九州地域におけるセンチュウ問題:過去と現在.	今月の農業	27巻12: 68-73.	戦前、昭和20・30年代、最近の話題. 線虫密度と被害発現.
112	中園和年・大島康臣・皆川 望	1983	線虫害の特徴と薬剤にたよらない防除法.	九州農試年報(九州農業試験場年報)	昭57:35-38.	輪作の効果、線虫の密度・土性と線虫害の出方、被害回避のための要防除密度水準.
113	中園和年・佐野善一・荒城雅昭	1983	南九州の主要土壌性と線虫による作物の被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:160.	講要
114	中里広幸・内藤豊	1983	マツノザイセンチュウに対する誘引活性の測定.	動雑(動物学雑誌)	92(4):651.	講要
115	西沢 務	1983	線虫による農作物の被害.	遺伝	37巻10: 73-82.	研究史、種類と主な特徴、寄生・加害の様態と作物の被害.
116	西沢 務	1983	天敵による土壌線虫防除の可能性.	農林水産研究ジャーナル(農林水産技術研究ジャーナル)	6巻7:22-28.	寄生性天敵(ウイルス、リケッチア、細菌、糸状菌、胞子虫類)、捕食性天敵の最近の情報
117	西沢 務・Herman, M.	1983	ジャワ島におけるダイズ圃場の有害線虫相:特にシストセンチュウの一種について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:158.	講要
118	小芦健良	1983	サトイモのネグサレセンチュウに関する研究第2報 2,3の輪作作物について.	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	29:124-126.	ラッカセイ、マリーゴールドに加え、ステビアのネグサレセンチュウ防除効果を確認.
119	小川義雄・大島康臣・一戸 稔	1983	Globodera hypolisi n. sp., a mugwort cyst nematode from Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	12:41-46.	ヨモギに寄生するシストセンチュウを新種として記載. <i>G. artemisiae</i> , <i>G. achilleae</i> に近似. 模式産地は長崎県吾妻町
120	小倉健夫・岸 洋一・近藤秀明・海老根翔六	1983	数種のマツ科樹木に対するマツノザイセンチュウの病原性.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:149.	講要
120	小倉健夫・岸 洋一・近藤秀明・海老根翔六	1983	数種のマツ科樹木に対するマツノザイセンチュウの病原性.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:467-468.	カラマツ、ヒメコマツ、ヒマラヤスギで枯損発生.
121	岡本好一・八重樫隆志・樋田幸夫	1983	リンゴネコブセンチュウ(Meloidogyne mali)の個体群間の形態的差異.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	12:26-32.	長野県のリンゴ、その他産地のクワのリンゴネコブセンチュウ8個体群の陰紋、第2期幼虫体長、尾長、幼虫と雄成虫の正面像を比較. 東京都杉並個体群が特異な形態を示した.
122	岡本 将・山中啓	1983	Arthrobotrys sp.の生産するレクチンの精製とその性質.	日農化学会講要集(日本農芸化学会大会講演要旨集)	昭58:63.	未見
123	奥 八郎・田村弘忠・Dropkin, V. H.・Bolla, R.	1983	マツノザイセンチュウに対するマツの抵抗性機構について.	日植病報(日本植物病理学会報)	39(3):400.	講要.
124	大羽克明	1983	非揮発性線虫防除剤に対するCaenorhabditis elegansの反応.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:166.	講要
125	大羽克明	1983	線虫Caenorhabditis elegansの生物学:耐久型幼虫の発現機構.	遺伝	37巻6:19-23.	発現条件、誘起要因、農学的ならびに生態学的意義.
126	大庭喜八郎・藤本吉幸・古越隆信・岡田 滋・小笠原健二	1983	マツノザイセンチュウ抵抗性育種.	育種学最近の進歩	24:90-101.	育種の進め方、種類・系統による抵抗性の違い、雑種、抵抗性の要因、育種の技術開発、育種事業、品種の育成及び供給.
127	大林延夫	1983	D-D油剤とダゾメット粒剤の組み合わせによるダイコンキタネグサレセンチュウの防除.	神奈川園試研報(神奈川県芸芸試験場研究報告)	30:81-84.	前者15 L/10a、後者同10kgで安定した高い効果
128	大山浪雄・白石進・福島 勉・知念正義	1983	材線虫病抵抗性マツつぎネクロンにおける抵抗性要因の解析.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	36:105-106.	線虫の増殖が抑制される.
129	佐保春芳	1983	近畿・中国・四国地区のマツ枯れ防除実験:樹幹注入剤7751とPC-3203について.	林業と薬剤	85:16-20.	各県の試験結果を表として示す.
130	齊藤 諦	1983	松の枯損防止新技術に関する結合研究(第I報).	山形林試研報(山形県林業試験場研究報告)	13:69-76.	侵入、定着、被害、線虫の検出状況
131	齊藤 諦	1983	山形県におけるマツの材線虫病について.	森林防疫	32(2):32-34.	県内分布、標高と分布、樹体内の分布状況.
132	作山 健・千田寿光	1983	岩手県における材線虫病によるマツの枯損時期:枯損木材片の線虫分離結果から.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	35:137-138.	当年枯44%、年越し枯れ56%.
133	佐野善一・中園和年・荒城雅昭	1983	数種対抗植物における線虫密度抑制機構:サツマイモネコブセンチュウの侵入及び発育反応.	九病虫研会報(九州病虫研究会報)	29:132-136.	8種の植物根への線虫の侵入数と侵入後の発育は異なった. 殺線虫機作は植物により違った.
134	佐野善一・中園和年・荒城雅昭	1983	上層と下層土壌に棲息するMeloidogyne incognita幼虫の生理的活力のちがひ.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:167.	講要
135	佐々木 浩	1983	樹幹注入等によるマツノザイセンチュウ防除試験 第4報	徳島林総技セ研報(徳島県林業総合技術センター報告)	21:103-111.	ネマホス、テラキュアP、ダイシストン、サイアノックス等の効果の比較. 新化合物のスクリーニング.
136	佐々木 浩	1983	樹幹注入等によるマツノザイセンチュウ防除試験(治療効果試験).	徳島林総技セ研報(徳島県林業総合技術センター報告)	21:112-114.	7751液剤(ネマノーン)の効果.
137	佐々木 研・古越隆信・河村嘉一郎・田島正啓・岡田 滋・津田知明	1983	クロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性に関する2,3の遺伝的情報.	日林関西支誌(日本林学会関西支部大会講演集)	34回:179-183.	抵抗性遺伝子は少なくとも2対. ダイアレルクロスでは抵抗性と感受性の組み合わせで抵抗性が強化された.
138	佐々木 研・河村嘉一郎・田島正啓・古越隆信・岡田 滋・津田知明・小林玲爾・赤松 暉一	1983	二葉松類の戻し交雑と三種間交雑:マツノザイセンチュウに対する抵抗性.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:82.	講要
138	佐々木 研・河村嘉一郎・田島正啓・古越隆信・岡田 滋・津田知明・小林玲爾・赤松 暉一	1983	二葉松類の戻し交雑と三種間交雑:マツノザイセンチュウに対する抵抗性.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:251-252.	抵抗性の遺伝子は優性で複数.
139	佐々木 研・田島正啓・河村嘉一郎・岡田 滋・古越隆信・津田知明・小林慎十・片山重俊	1983	クロマツとタイワンアカマツとのF1雑種の交雑(II)マツノザイセンチュウに対する抵抗性.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回:82.	講要
139	佐々木 研・田島正啓・河村嘉一郎・岡田 滋・古越隆信・津田知明・小林慎十・片山重俊	1983	クロマツとタイワンアカマツとのF1雑種の交雑(II)マツノザイセンチュウに対する抵抗性.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:249-250.	タイワンアカマツの抵抗性遺伝子は優性.
140	佐藤平典	1983	カラフトヒゲナガカミキリの羽化・脱出時期及び寄生部位.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回:487-488.	5月下旬から6月中旬に羽化・脱出. 枝の付け根部分に多.
141	佐藤仁彦	1983	土壌中におけるEDB(二臭化エチレン)の拡散.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回:159.	講要
142	佐藤邦彦	1983	林業苗畑の病害防除.	今月の農業	27巻6:16-21.	根腐線虫病. 根腐線虫の解説を含む.
143	佐藤俊次	1983	イチゴ根腐萎凋症の発生と薬剤による防除.	今月の農業	27巻7:90-97.	クルミネグサレセンチュウ防除. ネマイト、アドバンテージ灌注が効果.
144	佐藤俊次・富来務・狭間 渉・衛藤靖之	1983	イチゴ根腐萎凋症に対する薬剤の防除効果.	九州農業研究	45:104-105.	親床、仮植床および本圃におけるクルミネグサレセンチュウのアドバンテージ乳剤およびネマイト乳剤による防除効果は高く、本圃での萎凋症発生をよく抑制.
145	佐藤俊次・富来務・狭間 渉・衛藤靖之	1983	イチゴ根腐萎凋症に対する薬剤の防除効果.	日植病報(日本植物病理学会報)	49(1):88.	講要
146	白山義久	1983	Size structure of deep-sea meio- and macrobenthos in the western Pacific.	Internat. Rev. Gesamt. Hydrobiol. (Internationale Revue der Gesamten Hydrobiologie und Hydrographie)	68(6):799-810.	未見. 西部太平洋における深度と度種中型・大型動物相の変化の関係を調査. 線虫を含む.

147	穴田幸男	1983	Studies on nematodes parasitic on woody plants. 2. Xiphinema Cobb, 1913.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	12: 1-14.	明治神宮境内林の樹木から検出した次のオオハリセンチュウ5種の形態を記載。X. incognitum(従来わが国でX. americanumと見なされていた種類)、X. chambersi, X. simillimum, X. bakeri, X. insigne.
148	小代寛正	1983	作物結合による畑地の高度利用技術.	実用化技術レポート(農林水産技術会議事務局)	昭57: 223-242.	施設スイカの連・輪作とネコブセンチュウの発生消長を含む。
149	庄司次男	1983	觀賞用樹木の病害[29]カンパ類根こぶ線虫病.	農及園(農業および園芸)	58(11)口絵	サツマイモネコブセンチュウ。その寄主植物、防除法の解説
150	庄司次男・陳野好之・早場義雄・尾花健喜智	1983	クロマツに対するマツノザイセンチュウ時期別接種試験.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回: 152	講要
150	庄司次男・陳野好之・早場義雄・尾花健喜智	1983	クロマツに対するマツノザイセンチュウ時期別接種試験.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回: 475-476.	8月下旬以降接種では年内に枯損せず。
151	周藤靖雄	1983	鳥根県におけるクロマツ庭園木の病害: その被害、樹折、病原菌、および防除法.	農業研究	30巻2: 16-21.	材線虫病を含む。
152	周藤靖雄・井上二郎・原 義雄	1983	鳥根県の林業苗畑における土壌線虫の被害実態調査(Ⅱ).	鳥根病虫研報(鳥根県病害虫研究会会報)	9: 7-11.	スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ苗畑からの検出線虫(4属5種)、分布、被害。
153	首藤義博・渡辺博泰	1983	マツノザイセンチュウ分散型4期幼虫に対する松成分の誘引・脱皮促進作用.	日農化学会講要集(日本農芸化学会大会講演要旨集)	昭58: 126.	未見。講要。
154	鈴木和夫・峰尾一彦・山田利博	1983	材線虫病におけるマツの水ストレスと樹体中での線虫の動態.	日植病報(日本植物病理学会会報)	39(4)400.	講要
155	鈴木幹男	1983	松枯れの真因に関する新発見.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回: 163.	講要。サビカミキリ原因説。
156	田畑勝洋	1983	マツの枯損防止のために使用される農薬と諸問題.	今日の農業	27巻6: 22-30.	地上散布・空中散布・被害木の駆除薬剤・誘引剤の主成分、毒性、使用法、散布量、作用特性、商品名。
157	田畑勝洋・西村鳩子・椎葉豊之	1983	合成ピレスロイド系化合物のマツノザイセンチュウに対する追い出し(フラツシング)効果の検討.	日林関東支論(日本林学会関東支部発表論文集)	35回: 179-181.	Fenvalerateのマツノザイセンチュウに対する追い出し効果の可能性を示唆。
158	田淵剛一・坂本敏	1983	カンショ品種のマツノザイセンチュウ抵抗性と線虫密度との関係.	九病虫研会報(九州病害虫研究会会報)	29: 126-129.	抵抗性品種の根への線虫侵入数は感受性・抵抗性中位の品種より少ない傾向。土壌中の線虫密度は抵抗性品種の栽培で抑制可能。
159	田伏 洋・三輪錠司	1983	A gene involved in action of tumor is identified and mapped in Caenorhabditis elegans.	Carcinogenesis	4(6)783-786.	未見
160	田伏 洋・三輪錠司	1983	線虫Caenorhabditis elegansの生物学・発生遺伝学.	遺伝	37巻6: 4-12.	遺伝解析に対する適性、線虫の構造、胚発生(細胞分化のパターン、細胞の再配列、細胞死、細胞分化、胚発生における調節能、形態形成)、胚発生異常突然変異
161	竹下 努	1983	鳥取県のマツ林枯損状況.	鳥取林試研報(鳥取県林業試験場研究報告)	26: 63-80.	年推移、時期別枯損発生と原因、県下の枯損動態、薬剤防除と枯損
162	滝沢幸雄・庄司次男	1983	寒冷地帯におけるマツ枯損およびマツノマダラカミキリの生態とその特徴.	森林防疫	32(6)96-102.	枯損の特徴(発生時期、枝枯れ、感染源)カミキリの生態の特徴
163	滝沢幸雄・山家敏雄・早坂義雄・尾花健喜智	1983	クロマツに対するマツノザイセンチュウ時期別接種試験: 枯損木内の穿孔虫相.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回: 152	講要
163	滝沢幸雄・山家敏雄・早坂義雄・尾花健喜智	1983	クロマツに対するマツノザイセンチュウ時期別接種試験: 枯損木内の穿孔虫相.	日林論(日本林学会大会論文集)	94回: 477-478.	線虫接種の翌年枯れではマツノマダラカミキリの寄生率減少。
164	田村弘忠	1983	融合した根によるマツノザイセンチュウの感染.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回: 163.	講要
165	田村弘忠	1983	Pathogenicity of Bursaphelenchus xylophilus and associated bacteria to pine seedlings.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	13: 1-5.	無菌線虫はマツの幼木だけでなく、3年生苗木も枯らし、関連細菌の濾液はマツ幼苗だけに毒性。
166	田村弘忠	1983	ミズーリ(便り): マツノザイセンチュウを追って(8).	森林防疫	32(2)35-36.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告。
167	田村弘忠	1983	ミズーリ(便り): マツノザイセンチュウを追って(9).	森林防疫	32(3)54-56.	著者のアメリカにおける研究生活等に関する報告。
168	田村弘忠・Dropkin, V. H.	1983	Jeffrey Pineの苗におけるマツノザイセンチュウの動きと寄生反応.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回: 147.	講要
169	田中秀夫	1983	マツノザイセンチュウ捕獲菌の液内培養法による殺線虫活性物質の生産。In: マツノザイセンチュウ捕獲菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭和57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p. 35-51	Arthrobotrys sp. 接種胞子量、増殖温度、初発pH、振盪条件、栄養要求性、大量培養、殺線虫物質の生産、菌糸の育生、マツノザイセンチュウの無菌化。
170	田中秀夫・柘植信昭・川口光正・山中 啓	1983	マツノザイセンチュウ捕獲菌の液内培養法について.	日農化学会講要集(日本農芸化学会大会講演要旨集)	昭58: 398.	未見。講要。
171	田中寛康	1983	ヨーロッパおよびアメリカで見たブドウの病害.	今日の農業	27巻8: 34-42. 口絵.	ファンリーフを含む。カラー写真で症状を示す。
172	田中 勇	1983	土壌消毒を中心としたタバコ線虫病の防除について.	今日の農業	27巻5: 52-57.	クロルピクリン施用効果、種付時ネコブセンチュウ密度と収穫時ネコブ指数の関係。
173	戸田忠雄・藤本吉幸・前田武彦・西村慶二	1983	外国産マツ類等みしう家系のマツノザイセンチュウ抵抗性.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	36: 103-104.	マツの抵抗性の種内および種間変異。
174	種田幸夫	1983	Criconeematidae(Nematoda: Tylenchida) from soil around roots of mulberry in warm climate regions of Japan, with descriptions of two new species.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	13: 14-19.	クワ園土壌から2新種(Nothocriconeema yakushimensis: 鹿児島県屋久島から; Ogma brevistylum: 神奈川県南部から)とHemicriconeemoides chitwoodi, Crossoneema dryumを記載
175	種田幸夫・大島康臣・平田明由	1983	Description of Gracliacus yokooi n. sp. (Tylenchida: Paratylenchidae) from mulberry roots in Japan with some Observation on its ecology.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	12: 15-20.	九州からParatylenchus aciculusとして報告されていた種類(No. 70-169)を未記載の新種として記載。土壌中の垂直分布、生態を記述
176	種田幸夫・山下忠明	1983	ネコブセンチュウ加害桑樹における32P-リン酸の吸収・移行.	日蚕関係支講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	p. 34-5	講要
177	富永康平・長瀬淳・桑原保正・須賀原亮三	1983	Behaviour responses of Bursaphelenchus lignicolus (Nematoda: Aphelenchoididae) to bitter and pungent substances.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	18(1)106-110.	マツノザイセンチュウに対し19化合物のうちアリルイソチオシアナート、ナリンジエン、レチロシン、レトリプファン、塩化カルシウムが誘引性。カブサイジン、塩化マグネシウムが忌避性。他の4種物質は中程度の致死効果
178	富永康平・長瀬淳・桑原保正・須賀原亮三	1983	苦味および辛辣物質に対するマツノザイセンチュウの行動的応答.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回: 164	講要
179	富永康平・山本雅之・桑原保正・須賀原亮三	1983	テルペンに対するマツノザイセンチュウの応答.	日農化学会講要集(日本農芸化学会大会講演要旨集)	昭58: 125	未見。講要
180	種 啓介	1983	捕獲菌の検索と生態。In: マツノザイセンチュウ捕獲菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭和57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p. 1-16	Arthrobotrys sp.(未記載種)。形態、生体(松樹幹からの再分離、線虫捕獲能の安定性)「松枯れ」松葉菜上の菌類遷移。
181	渡辺博泰・石川昌哉・首藤義博	1983	マツ類に含まれるマツノザイセンチュウ誘引物質について.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回: 154.	講要
182	渡辺博泰・首藤義博・日野出裕	1983	マツノザイセンチュウ抵抗性へのβ-ミルセンの生物活性の関与.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	94回: 155.	講要
183	渡辺文夫・種田幸夫	1983	香川県の桑園線虫相.	香川農試研報(香川県農業試験場研究報告)	35: 61-65.	ピンセンチュウ(P. elachistus, G. yokooi)が高い検出率。他にラセンセンチュウ類
184	Wingfield, M. J.・Blanchette, A.・近藤栄造	1983	Comparison of the pine wood nematode, Bursaphelenchus xylophilus from pine and balsam fir.	Eur. J. For. Path. (European Journal of Forest Pathology)	13(5/6)360-373.	形態、接種試験結果、菌による増殖を比較
185	八尋 健・大島康臣・中國和年・岩田岩保	1983	畑作物の連・輪作特性 1. サトイモの連作障害と薬剤および輪作作物の効果.	日記作(日本作物学会記事)	52(別2)50-51.	講要
186	八尋 健・大島康臣・中國和年・岩田岩保	1983	畑作物の連・輪作特性 2. サトイモの連作障害とミネグサレセンチュウ密度.	日記作(日本作物学会記事)	52(別2)52-53.	講要

187	八尋 健・中園和年・岩田岩保	1983	畑作物の連・輪作特性 3. サトイモの貯蔵性とトミネグサレセンチュウ密度	日作紀(日本作物学会紀事)	52(別2) 54-55	講要
188	山田利博・鈴木和夫・峰尾一彦	1983	針葉樹4種におけるマツノザイセンチュウ個体数の推移	日植病報(日本植物病理学会報)	49(3) 400	講要
189	山口正巳・吉田雅夫	1983	モモのネグサレセンチュウ抵抗性台木の探索(第1報) 根腐侵入抵抗性の検定について	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭58春: 54-55	講要
190	山口泰典・Murakami, M.・Furusawa, M.・三輪錠司	1983	Germline-specific antigens identified by monoclonal antibodies in nematode, <i>Caenorhabditis elegans</i> .	Devel. Grow. Differ. (Development, Growth and Differentiation)	25(2) 121-131	未見
191	山中 啓(研究者代表)	1983	マツノザイセンチュウ捕提菌による線虫の捕提機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		103 pp	内容は次の論文を参照 No. 83-76, 77, 106, 169, 180, 192, 193, 194, 195.
192	山中 啓	1983	マツノザイセンチュウ捕提菌の線虫捕提機能。In: マツノザイセンチュウ捕提菌による線虫の捕提機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p. 17-34.	Arthrobotrys sp. の走査電子顕微鏡による捕提機能の解明、捕提菌の生産する認識物質の発見とレクチン活性、レクチンの生産条件・精製、精製レクチンの性質・種類に対する特異性、レクチンによる捕提
193	山中 啓	1983	新殺線虫活性物質生産能を有する糸状菌の検索。In: マツノザイセンチュウ捕提菌による線虫の捕提機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p. 52-69.	森林土壌糸状菌によるマツノザイセンチュウの培養、殺線虫活性物質を生産する糸状菌の検索、生産のための培養条件の検討
194	山中 啓	1983	線虫捕提菌による松枯れの防除。In: マツノザイセンチュウ捕提菌による線虫の捕提機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p. 96-98.	菌散布法は幼木には効果を示した。
195	山中 啓	1983	沖縄県沖繩本島におけるマツノザイセンチュウ調査。In: マツノザイセンチュウ捕提菌による線虫の捕提機構とその有効物質に関する基礎的研究(昭57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書)		p. 99-103.	マツからマツノザイセンチュウを検出。
196	吉田雅夫	1983	モモのネコフセンチュウ抵抗性台木の育種	育種学最近の進歩	24: 80-89.	連作障害、抵抗性台木の必要性、モモ・スモモの抵抗性台木の育種(遺伝、育成経過、特性)、在来種の系統選抜
197	藤原敏夫	1983	ネコフセンチュウの寄生能力持続期間と温度との関係。	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	29: 121-123.	シヤワネコフ、サツマイモネコフセンチュウではほぼ同じ期間寄生能力が持続し、20℃では少数ながら413日、30℃では278日、キタネコフセンチュウでは25℃以上で前2種より短かった。
198	藤原敏夫	1983	キュウリにおける灌水量とネコフセンチュウの被害。	九州農業研究	45: 122.	土壌のpH値を1.3程度に調節すると、線虫被害を軽減可能
199	藤原敏夫	1983	土壌温度とネコフセンチュウ3種の寄生。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	27回: 167.	講要
200	湯原 巖	1983	日本への侵入を恐れている病害虫: ミカンモグリセンチュウ	農業研究	30巻1: 49-54.	発見の由来、形態、生態、被害、寄主植物、分布、防除法、線虫の検疫
201	湯原 巖・平田賢司	1983	改良型サイクロンによるシストセンチュウのシスト及びベントガラスセンチュウのゴールの分離・検出。	植防研報(植物防疫所調査研究報告)	19: 135-138.	分離法と効率
202	陳野好之	1983	鑑賞緑化樹木の病害[23]ナンキンハゼの根こぶ線虫病。	農及園(農業および園芸)	58(5) 口録。	サツマイモネコフセンチュウ、その加害観賞樹木類、薬剤防除法の解説。
0		1984	昭和59年(1984)			
1	安藤茂信・川野洋一郎・麻生賢一	1984	マツノマダラカミキリ体内のセンチュウを駆除する一方法について(1)	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	37: 209-210.	豚の駆虫剤(バスミンS)浸透効果。線虫は死滅せず一時的に麻痺、糞中からNeotylenchoidea上科の線虫。
2	青木尊重・小河誠司・中島康博	1984	薬剤の単木処理によるマツノザイセンチュウ病防除試験。	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	37: 165-166.	酒石酸モランテル、メスルフェンホスの効果。
3	荒城雅昭・中園和年・佐野善一	1984	九州地域のネコフセンチュウの分類・同定に関する問題点(続報)。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回: 157.	講要
4	在原登志男・斉藤勝男	1984	福島県におけるマツの枯損動態に関する研究(I) マツの枯損とマツノザイセンチュウ検出率。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回: 100	講要
4.1	在原登志男・斉藤勝男	1984	福島県におけるマツの枯損動態に関する研究(I) マツの枯損とマツノザイセンチュウ検出率。	日林論(日本林学会大会論文集)	95回: 463-464.	月別の調査、年内枯れ34%、年越し枯れ66%。
5	在原登志男・斉藤勝男	1984	福島県におけるマツの枯損動態に関する研究(II) マツの枯損時期とマツノマダラカミキリの寄生数。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回: 100	講要
5.1	在原登志男・斉藤勝男	1984	福島県におけるマツの枯損動態に関する研究(II) マツの枯損時期とマツノマダラカミキリの寄生数。	日林論(日本林学会大会論文集)	95回: 465-466.	枯損時期により寄生カミキリ数に差。
6	浅利 覚・内田 勉	1984	リンドウネコフセンチュウ苗温湯処理による防除。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	31: 186-187.	50℃10分が適当。
7	遠田暢男	1984	Studies on transmission of Bursaphelenchus xylophilus by its vector Monochamus alternatus.	Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10.	p. 28	講要
7.1	遠田暢男	1984	Studies on transmission of Bursaphelenchus xylophilus by its vector Monochamus alternatus.	First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. Proceedings	p. 24-25.	講要
8	藤下章男	1984	D-D剤によるマツイムシ枯損木の冬期くん蒸処理。	日林中部支講(日本林学会中部支部講演集)	32: 277-278.	D-D、EDB剤のビニル被覆燻蒸によりマツノマダラカミキリは死亡、マツノザイセンチュウは生存。
9	深見博一	1984	植物カルス組織によるマツノザイセンチュウの培養。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回: 104.	講要
10	深見博一	1984	林業薬剤: その利用実態と研究動向。	今月の農業	28巻13: 63-70.	松枯損対策としての予防散布、枯損伐倒木処理、樹幹注入剤、誘引剤、その他の方法。
11	福沢兎夫・姉帯正樹・正宗 直	1984	ダイズシストセンチュウのふ化物質。	植物防疫	38(3) 116-120.	活性検定法の確立、物質単離の経過、多量分離と活性確認、構造解析、類似化合物の単利、著者等の研究成果を解説。
12	古野東洲・二井 禎	1984	マツノザイセンチュウを接種したクロマツ×タイワンアカマツ(F)の生育について。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回: 103	講要
12.1	古野東洲・二井 禎	1984	マツノザイセンチュウを接種したクロマツ×タイワンアカマツ(F)の生育について。	日林論(日本林学会大会論文集)	95回: 477-478.	F1雑種は線虫接種の影響が長く残る。
13	古野東洲・二井 禎・中井 勇	1984	クロマツとタイワンアカマツの雑種F2、マンシュウクロマツ、カーシャマツとの雑種F1およびP. yunnanensisのマツノザイセンチュウに対する抵抗性。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	35: 154-157.	3雑種はすべてに線虫抵抗性。
14	古野東洲・大畠誠一・上中孝治	1984	マツ枯れ被害地: 白浜試験地における天然生アカマツ、クロマツの枯損と生存木について。	京大農演習林報(京都大学農学部演習林報告)	56: 32-47.	1966-1984年の枯損推移、残存木の樹種、直径等の調査結果。
15	二井 禎	1984	マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの樹体内動態とタンニン量の変化。	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回: 102	講要
15.1	二井 禎	1984	マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの樹体内動態とタンニン量の変化。	日林論(日本林学会大会論文集)	95回: 473-474.	線虫接種クロマツのタンニン成分の変化とその酸化酵素活性の変化量の差を調査。
16	二井 禎	1984	数株線虫の接種に対するクロマツ樹体内のタンニン量の変化。	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回: 161.	講要
17	二井 禎・吹春 俊光	1984	萎凋病で枯死したPinus bungeanaの根際円板中に於ける線虫と微生物の分布。	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	35: 158-161.	マツノザイセンチュウは辺材部にいる。菌類との関連性は不明瞭。
18	後藤 昭	1984	遠閑山麓・ハケ岳山麓等の高冷地におけるネコフセンチュウ、ネグサレセンチュウの検出。	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	31: 178-179.	キタネコフ、キタネグサレセンチュウを検出。
19	後藤 昭	1984	高冷地におけるセンチュウの発生実態。	今月の農業	28巻12: 18-21.	長野・山梨・大分・熊本の山地の検出線虫、輪作のキタネコフセンチュウへの影響

20	後藤 昭	1984	ダイズを基幹とする畑作の新技術:有害土壌線虫の防除. In: 地力維持・連作障害対策新技術(総合農業研究叢書 第2号)	農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 120-122.	種類、生態、防除.
21	後藤 昭	1984	野菜を基幹とする新技術: 神奈川県三浦半島野菜作地帯. In: 地力維持・連作障害対策新技術(総合農業研究叢書 第2号)	農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 153-155.	ダイコン、スイカ栽培地帯、ネコブ、ネグサレセンチュウの被害と防除.
22	後藤 昭	1984	野菜を基幹とする新技術:d. ダイコンの線虫害の防除. In: 地力維持・連作障害対策新技術(総合農業研究叢書 第2号)	農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 209-213.	種類、生態、各種の防除技術の効果の紹介.
23	萩谷俊一・宇田川雄二	1984	ネコブセンチュウ汚染土壌における各種台木スイカ苗の被害差異と実用性	関東病虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	31: 180-182.	共台の快復、鬼台がスイカ台木に勝る効果.
24	平野和弥	1984	ハーミューダグラスから検出されるネコブセンチュウについて.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回: 158.	講演
25	平野和弥	1984	種々の土壌病害の見分けかた: 5. 線虫病. In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 58-61.	ネコブ、シスト、ネグサレセンチュウの被害の特徴を解説.
26	平野和弥	1984	種々の病原の分離と同定: 4. 線虫. In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 116-118.	土壌、植物体からの線虫の分離法と植物寄生性線虫の形態の特徴の簡単な解説.
27	平野和弥	1984	病原の生活環: 3. 線虫. In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 148-151.	定着性内部寄生の例としてネコブセンチュウ、移動性内部寄生の例としてネグサレセンチュウ、外部寄生線虫各種の生活史.
28	平野和弥	1984	病原の生態と発病のしくみ: V. 線虫病. In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 168-171.	生存能力、分散、感染源の密度(被害の発現との関係等)を解説.
29	平野和弥	1984	病原の検出と定量: 5. 線虫. In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 245-246.	植物組織内の線虫の検出法、指標植物による線虫の検出法、線虫の定量(計数)法の解説.
30	平田賢司・湯原 敏	1984	クロマツから検出したCryphodera属線虫の1種について.	応動昆虫学会(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回: 157.	講演
31	本間善久・気賀沢和男	1984	Predation on larvae of plant parasitic nematodes by soil vampyrellid amoebae.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14: 1-7.	全国183箇所の土壌標本にもとずく200以上のバンピレラ科アモeba株を、代表的5群に分類し、Arachnula impatiens及びVampyrella voraxと同定した株による植物寄生線虫捕食法を観察し記載.
32	一戸 稔	1984	北海道における線虫防除技術の進展. In: 北国における病害虫との闘い.	北海道植物防疫協会、札幌	p. 57-64.	ダイズシスト、ジャガイモシスト、ネコブ、ネグサレセンチュウの防除技術と研究史.
33	一戸 稔	1984	生物モデルとしてのセノラブチス線虫.	植物防疫	38(3) 121-124.	複雑な生命現象解明の生物モデルとして本線虫が使われている現状の解説. 分類、形態、生活史、研究の成果と動向.
34	池田武文・須崎 民雄	1984	Influence of pine-wood nematodes on hydraulic conductivity and water status in Pinus thunbergii.	日林誌(日本林学会誌)	66(10) 412-420.	症状の進行過程をマツの水分状態と木部の水分通導抵抗性の変化から明らかにし、この変化を解剖学的に裏付けた.
35	稲垣春郎	1984	Studies on the ecology and control of the potato cyst nematode, Globodera rostochiensis.	北海道農試研報(北海道農業試験場研究報告)	139: 73-144.	北海道のジャガイモシストセンチュウに関する研究のまとめ. 侵入経路(日本・ベルギーのグアノ調査)、動物(ニワトリ、ブタ)の摂食後のシストの生存、寄生性(Solanum属他)、季節的密度変動、圃場内分布、シスト外卵・幼虫の生存、土壌温度と生存期間・増殖、雄の出現・雌の発育、増殖率、施肥とバレイショの生育・線虫の増殖、症状、被害と線虫密度、防除(抵抗性品種のスクリーニング、利用、輪作、D-D剤処理、それらの組み合わせ、寄生バレイショ処理)
36	稲垣春郎	1984	Nematodes harmful to crop production in Japan. In: Soilborne Crop Diseases in Asia(FFTC Book Series No. 26)	FFTC Book Series No. 26	p. 18-30.	重要線虫の種類、各論、複合病害、防除.
37	井上悦甫	1984	松くい虫被害発生地域におけるアカマツの枯損について.	日林関西支講(日本林学会関西支部大会講演集)	35: 150-153.	時期別の枯損原因の調査.
38	石橋信義	1984	線虫による害虫の防除.	植物防疫	38(3) 142-147.	殺昆虫性線虫、生活史、培養と保存、施用法、施用試験例、線虫による害虫防除への期待、農業的利用の方向が主流.
39	石橋信義・近藤 栄造	1984	土壌害虫に対する殺虫性線虫施用の可能性と問題点.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	30: 180.	講演
40	石橋信義・田中恵子・近藤栄造	1984	The oviposition, gelatinous matrix production, and larval hatch of egg in connection with the aging of Meloidogyne incognita adult females.	Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10.	p.45	講演
40.1	石橋信義・田中恵子・近藤栄造	1984	The oviposition, gelatinous matrix production, and larval hatch of egg in connection with the aging of Meloidogyne incognita adult females.	First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. Proceedings.	p. 39.	講演
41	石井直明・Yanagisawa, N.・Shibata, F.・鈴木 木望之	1984	Effect of ultraviolet- and X-irradiation on embryo genesis of the free-living nematode, Rhabditis tokai: hatchability, morphogenesis and life span.	Mech. Age. Devel. (Mechanisms of Aging and Development)	25(1/2) 117-127.	未見
42	石川昌哉・柏司・金光桂二・渡辺博彦	1984	マツノザイセンチュウ抵抗性のアカマツおよびクロマツの化学的識別と選抜および育種への応用.	日農業学会大会講演(日本農業学会大会講演要旨)	9回:	未見. 講演
43	伊藤立則	1984	石狩浜の隙間動物の研究(予報).	ベントス研究会誌	26: 1-4.	未見. 線虫を含む.
44	岩木満朗	1984	種々の土壌病害の見分けかた: 4. 土壌伝染性ウイルス病. In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 52-58.	線虫、菌によって伝播されるウイルス(日本)の一覧表および解説.
45	岩木満朗	1984	土壌伝染性ウイルス病. In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 165-168.	線虫によって伝播されるウイルスの解説を含む.
46	片桐一正・真宮靖治・島津光明・田村弘志・串田	1984	昆虫寄生線虫Steinernema feltiaeのマツ被害丸太への施用とマツノマダラカミキリ幼虫に対する致死効果.	日林大会講演集(日本林学会大会講演集)	95回: 104	講演
46.1	片桐一正・真宮靖治・島津光明・田村弘志・串田	1984	昆虫寄生線虫Steinernema feltiaeのマツ被害丸太への施用とマツノマダラカミキリ幼虫に対する致死効果.	日林論(日本林学会大会論文集)	95回: 479-480.	樹皮表面への散布で、樹皮下・材内の幼虫も死亡.
47	加藤喜重郎	1984	物理的防除. In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 184-189.	蒸気消毒、温湯土壌消毒、夏季ハウス密閉による土壌消毒の対象病害、効果を解説.
48	加藤俊博・浅野 峯男・有沢道雄・武井昭夫	1984	土壌消毒後の土壌養分の動態に関する研究(第3報)施用窒素の形態及び有機物の施用効果.	愛知農試研報(愛知県農業総合試験場研究報告)	16: 219-227.	蒸気消毒、コロロピクリン、D-D、臭化メチル施用、亜硝酸、硝酸菌の回復および堆肥牛糞堆肥、微生物活性堆肥の施用との関係.
49	菊池 実・阿部芳彦	1984	昆虫寄生性線虫によるキボシカミキリ防除の可能性.	日蚕関係支講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	35回: 9.	講演
50	岸 洋一	1984	乾燥性土壌におけるマツ枯損.	茨城病虫研報(茨城県病害虫研究会報)	23: 11-12.	マツのマツノザイセンチュウ抵抗性低下.
51	清原友也	1984	マツ材線虫に対する誘導抵抗性、抵抗性誘導性の樹種間比較.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	37: 171-172.	アカマツ、テーダマツ等でも実証. 線虫が検出される例は少なくなかった.
52	清原友也	1984	Cross-protection in pine wilt diseases.	Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10.	p.45	講演. 講演取消となった.
52.1	清原友也	1984	Cross-protection in pine wilt diseases.	First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. p.45.	p.52.	講演. 講演取消となった.

53	清原友也	1984	線虫の配偶行動.	植物防疫	38(3)111-115.	研究手法、配偶行動、性誘引とその配偶行動における役割について内外の知見を紹介し、マツノザイセンチュウによる著者の研究を示す。
54	清原友也・河辺祐嗣	1984	マツノザイセンチュウの病原力の変異:クロマツおよびアカマツ母樹系統の接種試験.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	37:169-170.	病原力の弱い系統の線虫によって枯損するマツの系統があった。
55	小波本直志・泉保男	1984	The nematodic effect of metal ions on the pine wood nematode, <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> .	農業誌(日本農業学会誌)	9(3)527-529.	塩化第二銅、塩化コバルト、塩化亜鉛、塩化ニッケル、塩化第二鉄にマツノザイセンチュウを浸漬すると死亡。LD50は0.034~3.6mM
56	小林富士雄	1984	マツ枯損防止技術の現状と問題点.	今月の農業	28巻2:72-77.	抵抗性育種、枯損木の処理と利用、予防散布、カミキリ誘引剤、天敵の調査と利用、殺線虫剤の施用
57	小林富士雄・山根明臣・池田俊視	1984	The Japanese pine sawyer beetle as the vector of pine wilt disease.	Annu. Rev. Ent. (Annual Review of Entomology)	29:115-135.	マツノマダラカミキリに関する総説。研究史、病気のサイクル、ベクターと線虫の関係、カミキリの分布と生態。引用文献217論文
58	古賀成司	1984	転換ダイズの生育・収量に及ぼすネコブセンチュウの影響.	今月の農業	28巻12:28-33.	連輪作と発生消長、生育・収量(25-80%減)、線虫の種類(ほとんどのがジャワネコブセンチュウ)と寄生性の差。
59	古賀成司	1984	ネコブセンチュウの耕種的防除.	植物防疫	38(3)132-137.	著者の研究成果を中心に解説。畑地における輪作体系の確立、線虫対抗植物およびネ科作物、水利対策、総合防除とその考え方。
60	近藤栄造	1984	線虫角皮の構造と働き.	植物防疫	38(3)101-110.	電顕像による角皮の存在部位、表面構造及び内部構造、並びにその生理生化学的働きについて、薬剤処理効果や環境条件との関連で解説。
61	近藤栄造・石橋信義	1984	昆虫寄生性線虫 <i>Steinernema</i> spp. のドッグフード培地上での発育と増殖に及ぼす共生細菌の影響.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	30:120-123.	添加の有無により線虫の増殖に大差なし。
62	近藤栄造・石橋信義	1984	サツマイモネコブセンチュウ第2期幼虫の形態・運動性および寄生性に及ぼす Aldoxycarb の影響.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14:8-14.	薬剤濃度10, 100, 1000 ppmへの24時間浸漬で、本線虫は波状を呈し体が短縮、100ppmへの5日間浸漬後水洗すると運動性を回復、1000ppmでは回復なし。薬剤処理虫の寄生能力試験法を考察。
63	近藤栄造・石橋信義	1984	素寒天培地、肉エキス培地および数種ドッグフード培地上での昆虫寄生性線虫 <i>Steinernema feltiae</i> (= <i>Neoalectana carpocapsae</i> DD-136) の発育と増殖.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14:40-48.	ドライ型ドッグフードが最良で、これにソフト型を混ぜると線虫の増殖数は減少、原因は共生菌の増殖阻害物質の存在。
64	近藤栄造・石橋信義	1984	昆虫寄生性線虫 <i>Steinernema feltiae</i> (str. Mexican) のハスモンヨウに対する感染性と増殖.	応動昆(日本応用動物昆虫学会誌)	28(4)229-235.	ハスモンヨウの各発育段階における線虫の感染の難易、感染後の症状と線虫の増殖。
65	近藤栄造・石橋信義	1984	ハスモンヨウに対する <i>Steinernema feltiae</i> (= <i>Neoalectana carpocapsae</i>) の病原性.	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:161.	講要
66	小谷圭司・田村弘志・山本直樹・西山嘉彦・佐々木恵彦	1984	マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウの樹体内分布からみた病原性の相違.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回:103.	講要
67	小谷圭司・山本直樹・佐々木恵彦・西山嘉彦	1984	マツノザイセンチュウ病における細胞壁分解酵素の病原性物質としての可能性.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回:102.	講要
68	下松明雄・千葉雅子・小山寛史・丸山宗之・高瀬	1984	浸透性薬剤によるマツノザイセンチュウの防除に関する研究(第2報)樹幹注入剤 mesulfenfos のマツ樹幹内および針葉における	日農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	9回:	講要
69	国安克人	1984	抵抗性品種(台木)の利用. In: 新版土壤病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 199-211.	ネコブ、シストセンチュウ抵抗性品種の一覧表等。
70	国安克人	1984	品種抵抗性検定法. In: 新版土壤病害の手引き(同編集委員会編)	日本植物防疫協会、東京	p. 258-268.	ネコブ、シストセンチュウ抵抗性検定法を含む
71	黒田慶子・鈴木和夫・山田利博	1984	マツノザイセンチュウ接種後のクロマツの組織解剖学的観察.	日林論(日本林学会大会論文集)	95回:471-472.	樹齢により病徴の進展に差。
72	真宮靖治	1984	各種マツ苗木のマツノザイセンチュウおよびニセマツノザイセンチュウに対する抵抗性:とくに齢に関連するものとして.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回:103.	講要
72.1	真宮靖治	1984	各種マツ苗木のマツノザイセンチュウおよびニセマツノザイセンチュウに対する抵抗性:とくに齢に関連するものとして.	日林論(日本林学会大会論文集)	95回:475-476.	各種マツの抵抗性は生育段階に応じてかわる。
73	真宮靖治	1984	The pine wood nematode. In: Plant and Insect Nematode (W. R. Nickle, ed.).	Marcel Dekker, New York & Basel	p. 589-626.	マツノザイセンチュウに関する総説。マツ枯損の歴史、材線虫の発見、病原線虫、媒介者、病徴、生態・生活史、分布(日本、アメリカ、フランス)、防除(ベクター・線虫の薬剤防除、その他の方法、抑制性育種)
74	真宮靖治・林良典	1984	マツノザイセンチュウの大量培養と代謝産物の性質 第3報 セルラーゼの生産.	日植病報(日本植物病理学会報)	50(3)414.	講要
75	真宮靖治・林良典	1984	Cellulase production on barley grain substrate of monocenic cultures of <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> and host fungus.	Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984., Proceedings	p. 59.	講要
75.1	真宮靖治・林良典	1984	Cellulase production on barley grain substrate of monocenic cultures of <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> and host fungus.	First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984., Proceedings	p. 51.	講要
76	松下利定	1984	野菜連作障害回避のためのムギ作導入について.	今月の農業	28巻13:50-56.	レタス連作に比べてネコブセンチュウ被害減少。
77	松浦邦昭	1984	単木処理剤によるマツノザイセンチュウ防除.	今月の農業	28巻1:34-41.	講要
78	松浦邦昭	1984	浸透性殺線虫剤の立木注入によるマツ材線虫病罹病木の治療(III)色素および数種薬剤のマツノザイセンチュウ接種木での移	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回:105.	講要
79	松浦邦昭	1984	浸透性薬剤の立木注入によるマツ材線虫病罹病木の治療(I)6種の浸透性殺線虫剤の治療効果.	日林誌(日本林学会誌)	66(1)1-9.	フェンスルフォチオン、チオナジン、メスルフェンホス、ダイスルフォチオン・スルフォキシド、モランテル、メソミルの効果
80	松浦邦昭	1984	樹幹注入法によるマツ材線虫病の防除.	植物防疫	38(1)27-31.	物質およびその施用効果
81	松浦邦昭・深見梯一・柏司	1984	マツノザイセンチュウ防除単木処理剤の樹体内分布濃度と防除効果.	日農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	9回:	講要
82	皆川望	1984	Description of <i>Radopholoides triversus</i> n. sp. from Japan, with a reference to the classification of the family Pratylenchidae (Nematoda: Tylenchida).	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	19(1)21-26.	熊本県西合志町のマルバハギギから上記新種を記載。本属を <i>Radopholinae</i> 亜科に含め、この亜科をネグサレセンチュウ科に移した。 <i>Hoplotylinae</i> 亜科と <i>Acontylinae</i> 亜科を前期亜科の、 <i>Hirschmannellinae</i> 亜科を <i>Pratylenchinae</i> 亜科のシノニムとする。ネグサレセンチュウ科の亜科と属の検索表を示す。
83	皆川望	1984	A new criconematid nematode, <i>Pseudocriconema japonicum</i> n. gen. et n. sp. (Tylenchida: Criconematidae) from Japan.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	19(3)374-381.	熊本県阿蘇山、三重県美杉村の本木からトゲウセンチュウの新属新種を記載。 <i>Seriespinula</i> 属に近縁。
84	皆川望	1984	日本産トゲウセンチュウ亜科の新属について(II).	応動昆大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:156.	講要
85	皆川望	1984	線虫分類学の現状.	植物防疫	38(3)99-104.	線虫の分類体系は流動的で細分化の方向。Andrassy (1976)の分類体系と問題点の紹介、ネコブ・シストセンチュウの分類と考え方・問題点等を解説。 <i>Tylenchida</i> 目の科ないし族までの分類表。
86	皆川望	1984	New species of <i>Hoplotylinus</i> and <i>Pratylenchoides</i> (Tylenchida: Pratylenchidae) from Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14:15-19.	志賀高原のモミ類根圏土壌から <i>Hoplotylinus montanus</i> 、栃木県塩原のクサギ根辺から <i>Pratylenchoides magnicaudoides</i> の2新種を検出し、記載
87	三井康	1984	主要畑作物の線虫害の防除. In: 地力維持・連作障害対策新技術(総合農業研究叢書 第2号)	農林水産省農業研究センター、谷田部	p. 41-44.	ダイズシスト、ジャガイモシスト、キタネコブ、キタネグサレセンチュウの主に被害。
88	味山正人・田中成	1984	ガス状農薬に対する防毒マスクの防毒特性.	日農業学会大会講要(日本農業学会大会講演要旨)	9回:	講要

89	水久保隆之・皆川 望	1984	日本産Coslenchus属4種の記録.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:156.	講要
90	水久保隆之・皆川 望	1984	The genus Coslenchus Siddiqi, 1978 (Tylenchida: Nematoda) from Japan. I. Record of <i>C. costatus</i> and description of a new species.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14:28-39.	国内4産地の本属線虫は形態的変異は認められるが、いずれも <i>C. costatus</i> と同意。栃木県塩原のコクサギ根辺から検出された種は <i>C. japonicus</i> (新種)と命名、記載。本属と近縁属の分類学的再検討の必要を認む。
91	百田洋二	1984	関東におけるダイズシストセンチュウの発生消長.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:159.	講要
92	森 徳典	1984	マツノザイセンチュウの感染初期にみられるマツ樹の2,3の生理反応.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回:101.	講要
93	村本正博・松浦 邦昭	1984	酒石酸モランテル剤のマツ大径木に対する枯損予防効果とマツ樹体内残留濃度.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	37:167-168.	基準薬量では不足の事例もあった。施用12月後でも幹と枝に高濃度の残留。
94	室田 昇・牧元義明・富山一男・尾崎正美・真鍋雅晴・岩橋哲彦・福川利玄	1984	宮崎県サトイモ主産地における作付の実態と連作障害対策.	宮崎総農試研報(宮崎県総合農業試験場研究報告)	18:39-53.	3年連作により収量半減。ラッカセイとの輪作が高い防除効果。有機物施用は土壌消毒(クロルピクリン)との併用で効果。
95	中國和年	1984	沖縄における野菜のセンチュウ害.	今日の農業	28巻12:22-27.	検出線虫、被害。
96	中國和年	1984	サトイモの連作障害、とくに線虫害の防除。In: 地力維持・連作障害対策新技術(総合農業研究叢書 第2号)。	農林水産省農業研究センター、谷田部	p.287-293.	被害、薬剤・耕種的防除方法。
97	中國和年・佐野善一・荒城雅昭・宮沢数雄・伊東祐二郎	1984	堆肥の施用量とネコブセンチュウによる作物の被害.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:160.	講要
98	中國和年・鶴町昌市・照屋林宏	1984	沖縄の野菜栽培における線虫調査.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	30:126-129.	ネコブ、ネグサレ、ラセン、イシユク、ニセマツノザイセンチュウ類の分布・発生が多い。輪作作りのサトウキビの関連で、ネコブ、ネグサレセンチュウが重要。
99	根岸秀明・小林喜六	1984	アズキ落葉病の発病に及ぼすダイズシストセンチュウの影響.	日植病報(日本植物病理学会会報)	50(4)500-506.	混合接種により菌単独より導管の被害症状は増大。接種菌数、線虫数、接種間隔、温度・土壌の影響を試験。
100	西沢 務	1984	線虫の防除と天敵利用.	植物防疫	38(3)125-131.	寄生性天敵、捕食性天敵の研究の現状を紹介。特に胞子虫類の有効性について著者の成果にふれる。
101	西沢 務	1984	Effects of two isolates of <i>Baoluc penetrans</i> for control of root-knot nematodes and cyst nematodes.	Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. Proceedings	p. 69	講要
101	西沢 務	1984	Effects of two isolates of <i>Baoluc penetrans</i> for control of root-knot nematodes and cyst nematodes.	First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. Proceedings	p. 60-61.	講要
102	西沢 務・細辻豊二・吉田正義	1984	本邦で新たに発生が確認されたシバネコブセンチュウ(仮称) <i>Meloidogyne graminis</i> について.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:158.	講要
103	野瀬 正・富永晃行・二井一禎・原田 浩	1984	Cytological study of pathological changes in Japanese black pine (<i>Pinus thunbergii</i>) seedlings after inoculation with pine-wood nematode (<i>Bursaphelenchus xylophilus</i>).	京大農学部演習林報(京大農学部演習林報告)	56:224-233.	マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの接種によるクロマツの組織変化。枯損との関係を論ずる。
104	能勢和夫	1984	オキザミルの土壤中縦移動.	農業誌(日本農業学会誌)	9(1)7-12.	溶脱の微分方程式に降水量、蒸散量、微生物等による指数的減衰率を代入して積分した値と実測値の比較
105	小戸健良	1984	南九州におけるサトイモのミナメグサレセンチュウの駆除.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14:61-62.	サトイモ畑での発生消長、サトイモへの寄生部位、症状、健全種いもの育成法、輪作による被害回避法等に関する試験結果のまとめ。
106	小川 奎	1984	サツマイモの土壌病害と塊根異常症.	農及園(農業および園芸)	59(1)67-72.	各種原因(主に病害)とその症状、対策を解説。ネコブセンチュウによる障害は全体の17.2%。帯状粗皮症状に類似の根型黒褐ひび症状の発生にネコブセンチュウの寄生が関係
107	生越 明	1984	病原の培養と保存。In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会)	日本植物防疫協会、東京	p.247-251.	線虫の無菌培養法、保存法にふれる。
108	奥 八郎・山元広海・白石友紀・大内成志・谷川賢	1984	マツ激害型枯損に関する研究: 実生苗を用いたモデル実験系.	日植病報(日本植物病理学会会報)	50(3)414.	講要
109	奥平虎雄	1984	マツノザイセンチュウのマツノダダラカミキリからの離脱.	愛知県林試(愛知県林業試験場報告)	20:119-124.	羽化脱出翌日から始まり30日間で80%。
110	大羽克明	1984	土壌内に残留した燻蒸剤ガスの迅速検知法.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:162.	講要
111	大羽克明・石橋信義	1984	A nematode <i>Caenorhabditis elegans</i> , as test organism for nematocidal evaluation.	農業誌(日本農業学会誌)	9(1)91-96.	メソミル、aldoxycarb浸漬でdauer larvaとなる。MITCでは正常。それらの寿命は長い。
112	大庭喜八郎・古越隆信・栗延晋・石井克明	1984	Susceptibility of subtropical pine species and provenances to the pine wood nematode.	日林誌(日本林学会誌)	66(11)465-468.	<i>P. caribaea</i> , <i>P. oocarpa</i> , <i>P. pseudostrobus</i> , <i>P. densiflora</i> のマツノザイセンチュウ感受性をクロマツ等と比較。
113	大崎憲生・君波恒久・青木征男・梅津憲治	1984	OK-174(オンコルR)のサツマイモネコブセンチュウに対する作用.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:162.	講要
114	太田 明	1984	樹幹注入薬剤の施用位置とマツ材線虫病の防除効果(Ⅰ)薬剤の浸透しない部分に接種したときの生存例.	日林園西支講(日本林学会園西支部大会講演集)	35:177-180.	線虫は生存するがマツは枯損しない。
115	大山浪雄・高木哲夫・堂園安生・知念正義	1984	千歳山産マツ実生木における材線虫病抵抗性要因の解析.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	37:71-72.	熊本県天草。内樹液pH、人工培地のpHと線虫増殖の関連を検討。
116	齊木 博・齊藤徹・米田公生・海上道雄・内田雄二・山中 啓	1984	Biological control of the Pine-wood nematode by spraying a nematode trapping fungus.	日林誌(日本林学会誌)	66(1)30-32.	<i>Arthrobotrys</i> sp. をアカマツ、クロマツ等に散布。生存率を調査
117	齊藤雅典	1984	ダイズを基幹とする畑作の新技术: 土壌改良による連作障害の軽減。In: 地力維持・連作障害対策新技術(総合農業研究叢書 第2号)。	農林水産省農業研究センター、谷田部	p.114-118.	ネグサレセンチュウ発生圃場での試験例を含む。
118	佐野善一・中國和年・荒城雅昭	1984	キノアガラス及びラッカセイを組み入れた輪作におけるサツマイモネコブセンチュウの消長.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:160.	講要
119	佐野善一・中國和年・荒城雅昭	1984	サツマイモネコブセンチュウの越冬態における越冬および秋作圃場間の差異.	九病虫研会報(九州病害虫研究会報)	30:115-119.	ふるい分け一遠心分離法および生物検定法により、夏作と秋作圃場での越冬態を調査。夏作区では幼虫態で、秋作区では卵と幼虫態で越冬することを解明。
120	佐々木 浩	1984	マツノザイセンチュウ防除試験: PC-3203の予防効果.	徳島林総技七研報(徳島県林業総合技術センター報告)	22:98-100.	グリーンガードの効果。
121	佐々木 浩	1984	マツノザイセンチュウ防除試験(治療効果試験 第2報)。	徳島林総技七研報(徳島県林業総合技術センター報告)	22:101-103.	ネマノーンの効果。
122	佐々木恵彦・小谷圭司・西山嘉彦・林 良典	1984	Development and recovery of pine wilt disease studied by tracing ascending sap flow marked with water soluble stains.	日林誌(日本林学会誌)	66(4)141-148.	水溶性色素の追跡によって初期症状の回復過程観察可能
123	佐々木重行・小河誠司・宮原文彦・橋本平一	1984	ザイセンチュウ接種アカマツの水分動態の変化.	日林九支研論(日本林学会九州支部研究論文集)	37:173-174.	線虫接種点に近い所から水の移動に関する抵抗増大していく。
123	佐藤平典	1984	東北地方におけるマツ材線虫病とマツノダダラカミキリの分布.	森林防疫	33(2)26-30.	1981年までの分布の拡大経過
124	佐藤平典・作山 健	1984	岩手県におけるマツノダダラカミキリの2年1世代の出現及び線虫保持数.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回:99.	講要
124	佐藤平典・作山 健	1984	岩手県におけるマツノダダラカミキリの2年1世代の出現及び線虫保持数.	日林誌(日本林学会大会論文集)	95回:461-462.	10例中8例が2年1世代。この世代の線虫保持数は1年1世代より少ない。
125	佐藤平典・作山 健・熊谷勇光	1984	寒冷地方におけるマツ材線虫病激害林の様相(Ⅰ)枯損木の発生過程.	日林東北支誌(日本林学会東北支部会誌)	36:209-211.	一部分における侵入後の枯損経過。侵入4年間で激害化。

126	佐藤仁彦・安藤哲・河合正計	1984	高濃度D-D(DCP, D-D92)土壌処理に伴う作業環境濃度.	日農薬学会大会講要(日本農薬学会大会講演要旨)	9回:	講要
127	千本木市夫	1984	飼料トウモロコシダイコン体系におけるキタネグサレセンチュウの耕種防除.	今月の農薬	28巻6:31-36.	マリーゴールドの全面栽培または殺線虫剤処理は不可欠. それらと併せて線虫抑制作物,有機資材を利用.
128	千本木市夫・千吉良律治・高橋哲夫	1984	飼料トウモロコシダイコン体系におけるキタネグサレセンチュウの耕種防除 3. 有機物及び土壌改良剤の施用効果.	関東農虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	31:183-185.	D-D, EDB, デイトラベックス, 苦土石灰, 鶏糞, HSCI号, サナーG, マノン有機堆肥, 石灰窒素, 蚕糞の施用効果.
129	清水寛二	1984	露地の太陽熱利用による土壌消毒法.	農業技術研究	38巻3:27-29.	方法, 効果, サツマイモネコブ, キタネグサレセンチュウに対する効果を含む.]
130	清水 啓	1984	ジャガイモシストセンチュウ:発生十二年目の現状と対策.	今月の農薬	28巻12:34-37.	年次別発生面積, 防除対策, 抵抗性育種の現状.
131	清水 啓・三井康一・戸 稔	1984	Races of the soybean cyst nematode in Tokachi Province, Hokkaido, Japan.	Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10.	p. 93-94.	講要
131	清水 啓・三井康一・戸 稔	1984	Races of the soybean cyst nematode in Tokachi Province, Hokkaido, Japan.	First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. Proceedings	p. 84.	講要
132	白山義久	1984	The abundance of deep-sea meiobenthos in the Western Pacific in relation to environmental factors.	Ocean. Acta (Oceanologica Acta)	7(1)113-121.	未見. 線虫を含む.
133	白山義久	1984	Vertical distribution of meiobenthos in the sediment profile in bathyal, a byssal and hadal deep-sea system of the Western Pacific.	Ocean. Acta (Oceanologica Acta)	7(1)123-129.	未見. 線虫を含む.
134	庄司次男	1984	カーバム剤(NCS)の樹幹散布によるマツノザイセンチュウの防除.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14:58-60.	枯死木の表面処理し, ビニル膜で被覆することによりマツノザイセンチュウを効果的に防除, 伝播防止可能.
135	鈴木和夫	1984	マツの水分生理状態と材線虫病の進展.	林試研報(林業試験場研究報告)	325:97-126.	接種線虫の初期移動, 樹体内の分散・密度分布, 樹体内における線虫の動態, 樹脂滲出量・蒸散量の関係, マツの水分生理と材線虫病の発現・進展, 水ストレスの緩和と材線虫病の発現.
136	鈴木幹男	1984	松枯れの真因をめぐめる問題.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:124.	講要. サビカミキリ説.
137	田畑勝洋・西村鳩子	1984	合成ピレスロイド系化合物のマツノザイセンチュウに対するフラッシング効果(II) 枝条におけるフラッシング効果.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回:104.	講要
137	田畑勝洋・西村鳩子	1984	合成ピレスロイド系化合物のマツノザイセンチュウに対するフラッシング効果(II) 枝条におけるフラッシング効果.	日林論(日本林学会大会論文集)	95回:481-482.	線虫の孔道・蛹室への集中度低下.
138	田淵尚一・坂本敏	1984	抵抗性の異なるカンショ品種のマルチ栽培がサツマイモネコブセンチュウ密度に及ぼす影響.	九病虫研報(九州病害虫研究会報)	30:179.	講要
139	高橋兼一	1984	クルミネグサレセンチュウに対するソルガム類の密度抑制効果.	関東農虫研報(関東東山病害虫研究会年報)	31:91.	利用可能.
140	高倉重義	1984	キタネコブセンチュウの寄生に対するクローバ類の品種間差異.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	35:180-181.	ハミドリにおいて根腐指数が低い傾向.
141	高倉重義	1984	水田転換畑における線虫の伝播と増殖.	北日本病虫研報(北日本病害虫研究会報)	35:176-179.	キタネコブ, クローバシスト, ネグサレセンチュウの検出頻度, 寄生状況, 作歴とダイズシストセンチュウ密度, 圃場内分布, キタネコブセンチュウの増殖と被害
142	高瀬 巖・千葉雅子・下松明雄	1984	浸透性薬剤によるマツノダガラカミキリの防除に関する研究(第3報) マツ樹におけるmesulfenfosの還元.	日農薬学会大会講要(日本農薬学会大会講演要旨)	9回:	講要
143	田村弘忠	1984	Distribution of Bursaphelenchus xylophilus and B. mucronatus and tissue reaction in the inoculated branches of pine trees.	Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10.	p. 101.	講要
143	田村弘忠	1984	Distribution of Bursaphelenchus xylophilus and B. mucronatus and tissue reaction in the inoculated branches of pine trees.	First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. Proceedings	p. 89.	講要
144	田村弘忠	1984	Early development of Bursaphelenchus xylophilus (Nematoda: Aphelenchoididae) population in the inoculated branches of pine seedlings.	Appl. Ent. Zool. (Applied Entomology and Zoology)	19(1)125-129.	マツノザイセンチュウ接種部位における線虫の接種直後の発育を調査.
145	田村弘忠	1984	マツ枯れの真因をめぐって.	植物防疫	38(3)138-141.	マツ枯損に関する材線虫以外を原因とした説を含めて紹介. 線虫に関連のない微生物原因説, サビカミキリ説, 線虫に関連する細菌, 北アメリカにおける線虫の発生と被害状況, マツ枯損の発病機構解明の現状に言及.
146	田村弘忠・Dropkin, V. H.	1984	Resistance of pine trees to pine wilt caused by the nematode, Bursaphelenchus xylophilus.	日林誌(日本林学会誌)	66(8)306-312.	抵抗性および感受性マツの線虫接種後の線虫の増殖, 木部の組織変化.
147	照屋林宏・阿部二郎・長嶺将昭・中村 浩	1984	Nematological survey on winged bean field in Okinawa with special reference to vertical difference in susceptibility to root-knot nematodes.	JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly)	18(2)142-157.	シカクマの線虫相・密度, 土壌内垂直分布, ネコブセンチュウに対する品種抵抗性.
148	樋田幸夫	1984	本邦桑園における植物寄生性線虫の地理的分布.	応動昆虫大会講要(日本応用動物昆虫学会大会講演要旨)	28回:152.	講要
149	樋田幸夫	1984	本邦桑園における植物寄生性線虫の種類とその地理的分布.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14:20-27.	全国200箇所以上の桑園から20属32種以上を検出, うち11属20種のクワへの寄生を確認. ネコブ, ラセン, オオガタハリ, ニセシスト, ビントゲワセンチュウ, その他の線虫に分けて分布の特徴等を論ずる.
150	樋田幸夫・八重樫隆志	1984	Description of Meloidogyne suginamiensis n. sp. (Nematoda: Meloidogyndae) from mulberry in Japan.	日線虫研誌(日本線虫研究会誌)	14:49-57.	東京都杉並の旧蚕糸試験場跡地のクワからのネコブセンチュウを上記新種として命名, 記載. リンゴネコブセンチュウにきわめて似るが, 雌の会陰紋, 雄の半月体の位置, 第2期幼虫の尾および雄成虫と幼虫の正面像により区別され, 多種の草本に寄生.
151	樋田幸夫・吉野治男・国見裕久	1984	桑園の肥培管理形態と線虫相.	日蚕講要(日本蚕糸学会大会講演要旨)	54:20.	講要
152	富永康平・須賀原亮三・中里広幸・内藤 豊	1984	フイトール類化合物に対するマツノザイセンチュウの行動的応答.	日農薬学会大会講要(日本農薬学会大会講演要旨)	9回:	講要
153	富永康平・山本雅之・桑原保正・須賀原亮三	1984	Behavioral response of the pine wood nematode to terpenes.	Agr. Biol. Chem. (Agricultural and Biological Chemistry)	48(2)519-520.	26種のテルペン類のうち時にabietic acidとphytolがマツノダガラカミキリに高い誘引性を示した.
154	塚田章二郎・野口正樹・高橋和彦・國重正昭	1984	最近における野菜・花きの連作障害の実態.	野菜試研資料(野菜試験場研究資料)	18:195pp.	全国を対象としたアンケート調査. 作目・地域別にまとめる. 線虫が原因としてあげられているのは次の作物(都道府県名省略). キュウリ, スイカ, メロン, ニガウリ, トマト, ナス, イチゴ, オクラ, フキ, ショクヨウギク, サトイモ, サツマイモ, ヤマイモ, ダイコン, カブ, ニンジン, ゴボウ, キク, リンドウ, シャクヤク, キキョウ, スズラン, アイリス, バラ, ツツジ類, センリョウ. 前回の調査結果はNo. 78-162を参照.
155	上田隆之・奥 八郎・富田和夫・佐藤一雄・白石友紀	1984	Isolation, identification, and bioassay of toxic compounds from pine tree naturally infected by pine wood nematode.	日植病報(日本植物病理学会報)	50(2)166-175.	マツノザイセンチュウ天然感染マツの葉から安息香酸とカテコールを, 枝の材部分から安息香酸と8-hydroxy-carvarvotanac etoneとdihydroconiferylalcoholを分離・同定. 後から2番目の物質を茎から吸収させると線虫接種と似た症状.
156	八木田秀幸	1984	L. martiniの土壌の種類と増殖ならびにクワおよびケヤキ寄生性の生態的関係.	日蚕関東支講要(日本蚕糸学会関東支部学術講演会講演要旨)	35回:11.	講要
157	八木田秀幸・岩木満朗	1984	クワモザイク病(輪紋, ひだ葉, 糸葉, 黄葉状)の埼玉県における分布およびクワナガハリセンチュウによる伝播.	日植病報(日本植物病理学会報)	50(1)88.	講要

158	山田英一	1984	北海道の農耕地におけるネグサレセンチュウの種類とその分布 I. 種類と形態.	北海道立農試集報(北海道立農業試験場集報)	51: 23-31.	キタ、クルミ、チャ、ノコギリ、ムギネグサレセンチュウの形態の記載
159	山田利博・峰尾一彦・鈴木和夫	1984	材線虫接種後のクロマツのパーオキシダーゼおよびポリフェノールモノオキシダーゼサイモグラムの変化.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回: 101	講要
159	山田利博・峰尾一彦・鈴木和夫	1984	材線虫接種後のクロマツのパーオキシダーゼおよびポリフェノールモノオキシダーゼサイモグラムの変化.	日林論(日本林学会大会論文集)	95回: 469-470.	木部、主幹、皮層部の順にアイソザイムの特定の酵素の活性が高まった.
160	山口正巳・吉田雅夫	1984	モモのネグサレセンチュウ抵抗性台木の検索(第2報)キタネグサレセンチュウによるモモ根の病徴発現について.	園芸学会研究要旨(園芸学会大会研究発表要旨)	昭59春: 152-153.	講要
161	山本直樹・小谷圭司・林良興・西山嘉彦・佐々木直彦	1984	マツノサイセンチュウの細胞壁分解酵素: セルラーゼ.	日林大会講要集(日本林学会大会講演集)	95回: 102.	講要
162	山本敏夫・安田典夫・山部十三	1984	ツバキを加害するナミイシクセンチュウの対抗植物の検索.	関西病虫研報(関西病虫研究会報)	26: 51.	クロタラリア2種とハブソウが有効. マリーゴールド、シラトロは効果なし.
163	山中 啓	1984	松枯れの謎に挑む.	化学と生物	22(5): 309-318.	「松枯れをめぐる研究の現状」研究会の記録. 山根、岡本、眞宮、河津、奥、諸岡、山中等の研究の紹介. 青菱園、毒素の研究も含む.
164	山下 泉・堀内崇裕・井上 孝	1984	露地オクラにおける病害虫の発生消長およびサツマイモネコブセンチュウによる被害の解析.	四国植防(四国植物防疫研究)	19: 67-76.	害虫・ダニ類の発生消長と、線虫密度と被害の関係.
165	山崎和雄・相原孝雄	1984	ツバキ類苗木の生育に対するツバキネコブセンチュウの影響.	関東病虫研報(関東山病害虫研究会年報)	31: 188-189.	ツバキでは上記線虫とネグサレセンチュウ、サザンカでは上記線虫の影響大.
166	吉田俊秀・Sadaie, T.・定家義人	1984	Somatic and meiotic chromosomes of the small free-living nematode, <i>Caenorhabditis elegans</i> .	Proc. Jap. Acad. (Proceedings of Japan Academy) B	60B(3): 54-57.	12対の染色体を観察.
167	藤原敬夫	1984	キュウリ栽培におけるかん水量とネコブセンチュウの寄生・繁殖.	九州農業研究	46: 129.	キタ、サツマイモ、ジャワネコブセンチュウで異なる傾向.
168	吉水忠義・島村潤・佐々木 浩	1984	松の枯損防止新技術に関する研究.	徳島林総技セ研報(徳島県林業総合技術センター報告)	22: 66-97.	カミキリに対して天敵、誘引剤、薬剤による単木処理試験(バイジット、サイアノックス、テラキュアPの樹幹処理、ダイシントン、ランネットの土壌処理)、被害予測システムの確立.
169	結田康一	1984	土壌くん蒸・消毒剤による農作物、土壌および地下水の臭素残留・汚染.	生態化学	7巻2: 3-12.	臭化メチル、EDB剤の残留量の調査結果.
170	Anon.	1984	松枯れ防除に樹幹注入剤: 脚光浴びるグリナード.	今月の農業	28巻: 42-44.	酒石酸モランテル. 施用方法、効果.